

2023年度
キャリアデザイン学部
講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

〔発行日：2023/5/1〕最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

基幹科目_必修【C7001】キャリア研究調査法入門(A-H組)【2017年度以降入学者のみ】[池田 めぐみ] 秋学期授業/Fall	1
基幹科目_必修【C7002】キャリア研究調査法入門(I-P組)【2017年度以降入学者のみ】[大倉 韻] 秋学期授業/Fall	2
基幹科目_選択必修(調査法)【C7003】キャリア研究調査法(質的調査)[佐藤 厚] 春学期授業/Spring	3
基幹科目_選択必修(調査法)【C7004】キャリア研究調査法(質的調査)[濱中 義隆] 春学期授業/Spring	4
基幹科目_選択必修(調査法)【C7005】キャリア研究調査法(質的調査)[中澤 香世] 春学期授業/Spring	5
基幹科目_選択必修(調査法)【C7006】キャリア研究調査法(質的調査)[田中 研之輔] 春学期授業/Spring	6
基幹科目_選択必修(調査法)【C7007】キャリア研究調査法(質的調査)[西村 純] 春学期授業/Spring	7
基幹科目_選択必修(調査法)【C7008】キャリア研究調査法(質的調査)[前浦 穂高] 春学期授業/Spring	8
基幹科目_選択必修(調査法)【C7009】キャリア研究調査法(質的調査)[山邊 聖士] 春学期授業/Spring	9
基幹科目_選択必修(調査法)【C7010】キャリア研究調査法(質的調査)[井上 公人] 春学期授業/Spring	10
基幹科目_選択必修(調査法)【C7011】キャリア研究調査法(質的調査)[山崎 正枝] 春学期授業/Spring	11
基幹科目_選択必修(調査法)【C7012】キャリア研究調査法(量的調査)[安田 節之] 春学期授業/Spring	12
基幹科目_選択必修(調査法)【C7013】キャリア研究調査法(量的調査)[濱中 義隆] 春学期授業/Spring	13
基幹科目_選択必修(調査法)【C7014】キャリア研究調査法(量的調査)[井上 公人] 春学期授業/Spring	14
基幹科目_選択必修(調査法)【C7015】キャリア研究調査法(量的調査)[熊谷 智博] 春学期授業/Spring	15
基幹科目_選択必修(調査法)【C7016】キャリア研究調査法(量的調査)[伊藤 慎悟] 春学期授業/Spring	16
基幹科目_選択必修(調査法)【C7017】キャリア研究調査法(量的調査)[齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	17
基幹科目_選択必修(調査法)【C7018】キャリア研究調査法(量的調査)[長瀬 毅] 春学期授業/Spring	18
基幹科目_選択必修(調査法)【C7019】キャリア研究調査法(量的調査)[坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	19
基幹科目_選択必修(調査法)【C7020】キャリア研究調査法(量的調査)[田中 友理] 春学期授業/Spring	20
基幹科目_必修【C7040】キャリアデザイン学入門[梅崎 修、廣川 進、荒川 裕子] 春学期授業/Spring	21
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7050】発達・教育キャリア入門A [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	22
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7051】発達・教育キャリア入門B [田澤 実] 秋学期授業/Fall	23
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7052】発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門I) [久井 英輔] 春学期授業/Spring	24
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7053】発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門I) [朝岡 幸彦] 春学期授業/Spring	26
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7055】発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門II)【2021年度以前入学者用】 [久井 英輔] 秋学期授業/Fall	27
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7056】発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門II)【2021年度以前入学者用】 [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	29
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7057】発達・教育キャリア入門D【2022年度以降入学者のみ】 [藤村 朝子] 秋学期授業/Fall	30
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7058】ビジネスキャリア入門A [妹尾 渉] 秋学期授業/Fall	31
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7059】ビジネスキャリア入門B [武石 恵美子] 春学期授業/Spring ..	32
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7060】ビジネスキャリア入門C [中村 裕一郎] 春学期授業/Spring ..	33
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7061】ビジネスキャリア入門D [酒井 理] 秋学期授業/Fall	34
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7062】ライフキャリア入門A [田中 研之輔] 春学期授業/Spring	36
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7063】ライフキャリア入門B [齋藤 嘉孝] 秋学期授業/Fall	37
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7064】ライフキャリア入門C [安田 節之] 春学期授業/Spring	38
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7065】ライフキャリア入門D [金山 喜昭] 秋学期授業/Fall	39
基幹科目_選択【C7080】労働法 [砂押 以久子] 秋学期授業/Fall	40
基幹科目_選択【C7081】ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	41
基幹科目_選択【C7082】若者の自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	43

基幹科目_選択【C7083】職業選択論Ⅰ [上西 充子] 春学期授業/Spring	44
基幹科目_選択【C7084】ライフコース論 [武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	45
基幹科目_選択【C7085】生活設計論Ⅰ (社会保障) [上田 将史] 春学期授業/Spring	46
基幹科目_選択【C7086】生活設計論Ⅱ (生活設計) [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	47
基幹科目_選択【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ [梅崎 修] 春学期授業/Spring	49
展開科目_選択必修 (体験型)【C7100】キャリアサポート事前指導 [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	50
展開科目_選択必修 (体験型)【C7102】キャリアサポート事前指導 [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	51
展開科目_選択必修 (体験型)【C7103】キャリアサポート事前指導 [荒川 裕子] 春学期授業/Spring	52
展開科目_選択必修 (体験型)【C7104】キャリアサポート事前指導 [田澤 実] 春学期授業/Spring	53
展開科目_選択必修 (体験型)【C7106】キャリアサポート実習 [児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	54
展開科目_選択必修 (体験型)【C7107】キャリアサポート実習 [田澤 実] 秋学期授業/Fall	55
展開科目_選択必修 (体験型)【C7108】キャリアサポート実習 [荒川 裕子] 秋学期授業/Fall	56
展開科目_選択必修 (体験型)【C7109】キャリアサポート実習 [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	57
展開科目_選択必修 (体験型)【C7114】キャリア体験事前指導 (インターン) [水谷 敏也] 春学期授業/Spring	58
展開科目_選択必修 (体験型)【C7115】キャリア体験事前指導 (インターン) [酒井 理] 春学期授業/Spring	59
展開科目_選択必修 (体験型)【C7116】キャリア体験事前指導 (インターン) [田中 研之輔] 春学期授業/Spring	61
展開科目_選択必修 (体験型)【C7117】キャリア体験事前指導 (インターン) [松浦 民恵] 春学期授業/Spring	62
展開科目_選択必修 (体験型)【C7118】キャリア体験事前指導 (プロジェクト) [山岡 義卓] 春学期授業/Spring	63
展開科目_選択必修 (体験型)【C7119】キャリア体験学習 (インターン) [水谷 敏也] 秋学期授業/Fall	64
展開科目_選択必修 (体験型)【C7120】キャリア体験学習 (インターン) [酒井 理] 秋学期授業/Fall	65
展開科目_選択必修 (体験型)【C7121】キャリア体験学習 (インターン) [田中 研之輔] 秋学期授業/Fall	66
展開科目_選択必修 (体験型)【C7122】キャリア体験学習 (インターン) [松浦 民恵] 秋学期授業/Fall	67
展開科目_選択必修 (体験型)【C7123】キャリア体験学習 (プロジェクト) [山岡 義卓] 秋学期授業/Fall	68
展開科目_選択必修 (体験型)【C7124】キャリア体験事前指導 (国際) [御園生 純] 春学期授業/Spring	69
展開科目_選択必修 (体験型)【C7125】キャリア体験学習 (国際) [御園生 純] 秋学期授業/Fall	71
展開科目_選択必修 (体験型)【C7126】キャリア体験事前指導 (国際) [松尾 知明、郭 艶娜] 春学期授業/Spring	72
展開科目_選択必修 (体験型)【C7127】キャリア体験学習 (国際) [松尾 知明、郭 艶娜] 秋学期授業/Fall	73
展開科目_選択必修 (体験型)【C7128】メディアリテラシー実習Ⅰ [坂本 旬] 春学期授業/Spring	74
展開科目_選択必修 (体験型)【C7129】メディアリテラシー実習Ⅱ [坂本 旬] 秋学期授業/Fall	75
展開科目_選択必修 (体験型)【C7130】地域学習支援Ⅰ [久井 英輔] 春学期授業/Spring	76
展開科目_選択必修 (体験型)【C7131】地域学習支援Ⅱ [久井 英輔、金山 喜昭、児美川 孝一郎、坂本 旬、熊谷 智博、田澤 実] 秋学期授業/Fall	78
展開科目_選択必修 (体験型)【C7134】多文化教育Ⅰ [村田 晶子] 春学期授業/Spring	79
展開科目_選択必修 (体験型)【C7135】多文化教育Ⅱ [村田 晶子] 秋学期授業/Fall	80
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7150】キャリア研究調査実習 A (行動と意識の測定) [蟹江 教子] 秋学期授業/Fall	81
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7151】キャリア研究調査実習 B (恋愛の質的研究) [大森 美佐] 秋学期授業/Fall	82
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7152】外書講読 A (発達・教育) [福田 紀子] 春学期授業/Spring	83
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7153】外書講読 B (発達・教育) [長岡 智寿子] 春学期授業/Spring	85
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7154】生涯発達心理学Ⅰ [松浦 千春] 春学期授業/Spring	86
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7155】生涯発達心理学Ⅱ [廣川 進] 秋学期授業/Fall	87
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7156】臨床教育相談論Ⅰ [土屋 弥生] 春学期授業/Spring	88
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7157】臨床教育相談論Ⅱ [土屋 弥生] 秋学期授業/Fall	89
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7158】キャリアカウンセリングⅠ [廣川 進] 春学期授業/Spring	90
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7159】キャリアカウンセリングⅡ [高橋 浩] 秋学期授業/Fall	91
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7160】キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ) [宮脇 優子] 秋学期授業/Fall	92
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7161】教育相談 [田澤 実] 春学期授業/Spring	93
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7162】教育相談 [児玉 茉奈美] 秋学期授業/Fall	94
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7163】教育相談 [土屋 弥生] 秋学期授業/Fall	95
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7164】教育相談 [山上 真貴子] 秋学期授業/Fall	97
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7165】教育相談 [遠藤 裕子] 秋学期授業/Fall	98
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7166】教育相談 [土屋 弥生] 春学期授業/Spring	99
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7167】教育心理学 [遠藤 裕子] 秋学期授業/Fall	101
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7168】教育心理学 [輕部 雄輝] 春学期授業/Spring	102
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育【C7169】教育心理学 [児玉 茉奈美] 秋学期授業/Fall	103

展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7170】 教育心理学 [山上 真貴子] 春学期授業/Spring	104
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7171】 教育心理学 [遠藤 裕子] 春学期授業/Spring.....	105
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7172】 教育心理学 [児玉 茉奈美] 秋学期授業/Fall.....	106
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7173】 学校論Ⅰ (キャリア形成) [松尾 知明] 春学期授業/Spring .	107
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7174】 学校論Ⅱ (キャリア形成) [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall ..	108
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7175】 学校論Ⅲ (キャリア教育) [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	109
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7176】 学校論Ⅳ (キャリア教育) [池田 佳代] 秋学期授業/Fall	110
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7177】 生涯学習論Ⅰ (生涯学習支援論Ⅰ) [久井 英輔] 春学期授業/Spring	111
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7178】 生涯学習論Ⅰ (生涯学習支援論Ⅰ) [朝岡 幸彦] 春学期授業/Spring	113
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7179】 生涯学習論Ⅱ (生涯学習支援論Ⅱ) [久井 英輔] 秋学期授業/Fall	114
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7180】 生涯学習論Ⅱ (生涯学習支援論Ⅱ) [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	116
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7181】 図書館情報学概論Ⅰ [村上 郷子] 春学期授業/Spring	117
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7182】 図書館情報学概論Ⅰ [原田 隆史] 春学期授業/Spring	118
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7183】 図書館情報学概論Ⅱ [竹之内 明子] 秋学期授業/Fall	119
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7184】 図書館情報学概論Ⅱ [原田 隆史] 秋学期授業/Fall.....	120
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7185】 図書館情報学概論Ⅱ [菅原 真悟] 秋学期授業/Fall.....	121
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7186】 図書館情報学概論Ⅱ [竹之内 明子] 春学期授業/Spring	122
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7187】 メディア教育論Ⅰ [村上 郷子] 春学期授業/Spring.....	123
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7188】 メディア教育論Ⅱ [村上 郷子] 秋学期授業/Fall	124
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7189】 教育マネジメントⅠ [仲田 康一] 春学期授業/Spring	125
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7190】 教育マネジメントⅡ [櫻井 直輝] 秋学期授業/Fall.....	127
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7191】 教育政策 [村上 純一] 秋学期授業/Fall	129
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7192】 現代教育思想 [岩本 俊一] 秋学期授業/Fall.....	130
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7193】 生涯学習論Ⅲ (成人教育論Ⅰ) [森本 扶] 春学期授業/Spring	131
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7194】 生涯学習論Ⅳ (成人教育論Ⅱ) [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	132
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7195】 学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	133
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7196】 学習の社会史B [原 葉子] 春学期授業/Spring	134
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7197】 教育社会学Ⅰ [筒井 美紀] 春学期授業/Spring.....	135
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7198】 教育社会学Ⅱ [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall.....	136
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7199】 教育経済学 [荒木 宏子] 秋学期授業/Fall	137
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7250】 キャリア研究調査実習 C(データで語るキャリア) [久保田 貴文]	
秋学期授業/Fall.....	138
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7251】 キャリア研究調査実習 D (仕事とビジネスの質的研究) [園田	
薫] 秋学期授業/Fall	139
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7252】 外書講読A (ビジネス) [相澤 鈴之助] 秋学期授業/Fall.....	140
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7253】 外書講読B (ビジネス) [杉原 弘恭] 春学期授業/Spring.....	141
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7254】 職業選択論Ⅱ [上西 充子] 秋学期授業/Fall	142
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7255】 人材育成論Ⅰ [佐藤 厚] 春学期授業/Spring	143
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7256】 人材育成論Ⅱ [佐藤 厚] 秋学期授業/Fall.....	145
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7257】 産業・組織心理学Ⅰ [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring.....	147
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7258】 産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	148
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7259】 キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期授業/Spring.....	149
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7260】 リーダーシップ論 [佐野 達] 秋学期授業/Fall.....	150
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7261】 経営統計論A (心理データ) [片岡 亜紀子] 春学期授業/Spring	151
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7262】 企業会計論 [松本 徹] 春学期授業/Spring	152
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7263】 経営統計論B (企業データ) [長瀬 毅] 秋学期授業/Fall.....	153
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7264】 経営組織論Ⅰ [梅木 眞] 春学期授業/Spring	154
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7265】 経営組織論Ⅱ [梅木 眞] 秋学期授業/Fall.....	155
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7266】 戦略経営論Ⅰ [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	156
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7267】 戦略経営論Ⅱ [木村 琢磨] 秋学期授業/Fall	157
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7268】 経営分析論Ⅰ [平井 裕久] 春学期授業/Spring	158
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7269】 経営分析論Ⅱ [平井 裕久] 秋学期授業/Fall	159
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7270】アントレプレナーシップ論Ⅰ [松本 真尚] 春学期授業/Spring	160
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7271】アントレプレナーシップ論Ⅱ [松本 真尚] 秋学期授業/Fall ..	162
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7272】 職業キャリア論 [松浦 民恵] 春学期授業/Spring	164
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7273】 労働経済学 [梅崎 修] 春学期授業/Spring	165
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7274】 シティズンシップ論 [榎並 利博] 春学期授業/Spring	166

展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7275】 生産システム論 [北原 成憲] 秋学期授業/Fall.....	168
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7276】 国際経営論 [森 直子] 春学期授業/Spring	170
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7277】 日本経済論 [長谷部 弘道] 秋学期授業/Fall	171
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7278】 産業論 [青木 成樹] 春学期授業/Spring	173
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7279】 広告ビジネス論 [石原 篤] 秋学期授業/Fall	175
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7280】 マーケティング論 [小川 浩孝] 春学期授業/Spring	177
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7281】 流通・マーケティング戦略論 [小川 浩孝] 秋学期授業/Fall ...	179
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7282】 流通・サービスビジネス論 [村田 茂] 春学期授業/Spring.....	181
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7283】 就業機会発見実務 [今井 道子] 春学期授業/Spring	183
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7300】 キャリア研究調査実習 E (幸福論) [小塩 靖崇] 秋学期授業/Fall	185
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7301】 キャリア研究調査実習 F (まちづくり論) [大西 未希] 春学期授 業/Spring	186
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7302】 外書講読 A (ライフ) [門脇 仁] 春学期授業/Spring	187
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7303】 外書講読 B (ライフ) [門脇 仁] 秋学期授業/Fall	188
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7304】 コミュニティ社会論 I [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	189
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7305】 コミュニティ社会論 II [佐藤 恵] 秋学期授業/Fall	190
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7306】 家族論 [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	191
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7307】 若者文化論 [玉川 博章] 春学期授業/Spring	192
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7308】 世代間交流論 [安田 節之] 秋学期授業/Fall	193
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7309】 身体表現論 [叶 雄大] 春学期授業/Spring	194
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7310】 地域文化論 [古屋 星斗] 秋学期授業/Fall.....	195
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7311】 アイデンティティ論 [熊谷 智博] 春学期授業/Spring	197
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7312】 余暇集団論 [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall.....	198
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7313】 NPO論 [山口 佳子] 秋学期授業/Fall	199
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7314】 公共サービス論 [前浦 穂高] 秋学期授業/Fall	200
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7315】 アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期授業/Spring	201
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7316】 文化経営論 [武田 知也] 春学期授業/Spring	202
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7317】 メディア文化論 [堤 信子] 秋学期授業/Fall	203
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7318】 文化マーケティング論 [横石 崇] 春学期授業/Spring	205
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7319】 ブランド創造論 [石原 篤] 春学期授業/Spring	206
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7320】 産業文化論 [上原 義子] 秋学期授業/Fall.....	208
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7321】 ミュージアム概論 [金山 喜昭] 春学期授業/Spring	209
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7322】 ミュージアム経営論 [杉長 敬治] 秋学期授業/Fall	210
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7323】 ミュージアム経営論 [金山 喜昭] 春学期授業/Spring	212
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7324】 多文化社会論 I [小田 昌教] 春学期授業/Spring	213
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7325】 多文化社会論 II [金 泰植] 春学期授業/Spring	216
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7326】 多文化社会論 III [挽地 康彦] 春学期授業/Spring	217
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7327】 アジア社会論 I [日下部 尚徳] 春学期授業/Spring.....	218
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7328】 アジア社会論 II [日下部 尚徳] 秋学期授業/Fall	219
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7329】 国際関係論 I [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall.....	220
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7330】 国際関係論 II [塩田 潤] 秋学期授業/Fall	221
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7331】 国際地域研究 I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	222
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7332】 国際地域研究 II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	223
展開科目_総合 【C7351】 職業能力ベーシックスキル I 【2021 年度以前入学者用】 [島村 泰子] 春学期授業/Spring	224
展開科目_選択必修 (体験型) 【C7351】 職業能力ベーシックスキル I 【2022 年度以降入学者用】 [島村 泰子] 春学 期授業/Spring	225
展開科目_総合 【C7352】 職業能力ベーシックスキル II 【2021 年度以前入学者用】 [島村 泰子] 秋学期授業/Fall..	226
展開科目_選択必修 (体験型) 【C7352】 職業能力ベーシックスキル II 【2022 年度以降入学者用】 [島村 泰子] 秋学 期授業/Fall.....	228
演習科目 【C7400】 演習 (発達・教育) [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	230
演習科目 【C7401】 演習 (発達・教育) [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	231
演習科目 【C7402】 演習 (発達・教育) [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	232
演習科目 【C7403】 演習 (発達・教育) [松尾 知明] 秋学期授業/Fall	233
演習科目 【C7405】 演習 (発達・教育) [児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	234
演習科目 【C7406】 演習 (発達・教育) [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring.....	235
演習科目 【C7407】 演習 (発達・教育) [児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall	236
演習科目 【C7408】 演習 (発達・教育) [坂本 旬] 秋学期授業/Fall	237

演習科目	【C7409】	演習 (発達・教育)	[坂本 旬]	春学期授業/Spring	238
演習科目	【C7410】	演習 (発達・教育)	[坂本 旬]	秋学期授業/Fall	239
演習科目	【C7411】	演習 (発達・教育)	[久井 英輔]	秋学期授業/Fall	240
演習科目	【C7412】	演習 (発達・教育)	[久井 英輔]	春学期授業/Spring	241
演習科目	【C7413】	演習 (発達・教育)	[久井 英輔]	秋学期授業/Fall	243
演習科目	【C7414】	演習 (発達・教育)	[松尾 知明]	春学期授業/Spring	244
演習科目	【C7415】	演習 (発達・教育)	[松尾 知明]	秋学期授業/Fall	245
演習科目	【C7416】	演習 (発達・教育)	[仲田 康一]	秋学期授業/Fall	246
演習科目	【C7417】	演習 (発達・教育)	[仲田 康一]	春学期授業/Spring	247
演習科目	【C7418】	演習 (発達・教育)	[仲田 康一]	秋学期授業/Fall	248
演習科目	【C7419】	演習 (発達・教育)	[田澤 実]	秋学期授業/Fall	249
演習科目	【C7420】	演習 (発達・教育)	[田澤 実]	春学期授業/Spring	250
演習科目	【C7421】	演習 (発達・教育)	[田澤 実]	秋学期授業/Fall	251
演習科目	【C7422】	演習 (発達・教育)	[筒井 美紀]	秋学期授業/Fall	252
演習科目	【C7423】	演習 (発達・教育)	[筒井 美紀]	春学期授業/Spring	253
演習科目	【C7424】	演習 (発達・教育)	[筒井 美紀]	秋学期授業/Fall	254
演習科目	【C7425】	演習 (発達・教育)	[樋田 有一郎]	秋学期授業/Fall	255
演習科目	【C7426】	演習 (発達・教育)	[樋田 有一郎]	春学期授業/Spring	256
演習科目	【C7427】	演習 (発達・教育)	[樋田 有一郎]	秋学期授業/Fall	257
演習科目	【C7428】	演習 (発達・教育)	[廣川 進]	秋学期授業/Fall	258
演習科目	【C7429】	演習 (発達・教育)	[廣川 進]	春学期授業/Spring	259
演習科目	【C7430】	演習 (発達・教育)	[廣川 進]	秋学期授業/Fall	260
演習科目	【C7450】	演習 (ビジネス)	[佐藤 厚]	春学期授業/Spring	261
演習科目	【C7451】	演習 (ビジネス)	[佐藤 厚]	秋学期授業/Fall	262
演習科目	【C7452】	演習 (ビジネス)	[上西 充子]	秋学期授業/Fall	263
演習科目	【C7453】	演習 (ビジネス)	[梅崎 修]	秋学期授業/Fall	264
演習科目	【C7454】	演習 (ビジネス)	[梅崎 修]	春学期授業/Spring	265
演習科目	【C7455】	演習 (ビジネス)	[梅崎 修]	秋学期授業/Fall	266
演習科目	【C7456】	演習 (ビジネス)	[木村 琢磨]	秋学期授業/Fall	267
演習科目	【C7457】	演習 (ビジネス)	[木村 琢磨]	春学期授業/Spring	268
演習科目	【C7458】	演習 (ビジネス)	[木村 琢磨]	秋学期授業/Fall	269
演習科目	【C7462】	演習 (ビジネス)	[酒井 理]	秋学期授業/Fall	270
演習科目	【C7463】	演習 (ビジネス)	[酒井 理]	春学期授業/Spring	271
演習科目	【C7464】	演習 (ビジネス)	[酒井 理]	秋学期授業/Fall	272
演習科目	【C7465】	演習 (ビジネス)	[坂爪 洋美]	秋学期授業/Fall	273
演習科目	【C7466】	演習 (ビジネス)	[坂爪 洋美]	春学期授業/Spring	274
演習科目	【C7467】	演習 (ビジネス)	[坂爪 洋美]	秋学期授業/Fall	275
演習科目	【C7468】	演習 (ビジネス)	[武石 恵美子]	秋学期授業/Fall	276
演習科目	【C7469】	演習 (ビジネス)	[武石 恵美子]	春学期授業/Spring	277
演習科目	【C7470】	演習 (ビジネス)	[武石 恵美子]	秋学期授業/Fall	278
演習科目	【C7471】	演習 (ビジネス)	[平井 裕久]	秋学期授業/Fall	279
演習科目	【C7472】	演習 (ビジネス)	[平井 裕久]	春学期授業/Spring	280
演習科目	【C7474】	演習 (ビジネス)	[佐藤 厚]	秋学期授業/Fall	281
演習科目	【C7475】	演習 (ビジネス)	[上西 充子]	春学期授業/Spring	282
演習科目	【C7476】	演習 (ビジネス)	[上西 充子]	秋学期授業/Fall	283
演習科目	【C7477】	演習 (ビジネス)	[松浦 民恵]	秋学期授業/Fall	284
演習科目	【C7478】	演習 (ビジネス)	[松浦 民恵]	春学期授業/Spring	285
演習科目	【C7479】	演習 (ビジネス)	[松浦 民恵]	秋学期授業/Fall	286
演習科目	【C7500】	演習 (ライフ)	[荒川 裕子]	秋学期授業/Fall	287
演習科目	【C7501】	演習 (ライフ)	[荒川 裕子]	春学期授業/Spring	288
演習科目	【C7502】	演習 (ライフ)	[荒川 裕子]	秋学期授業/Fall	289
演習科目	【C7503】	演習 (ライフ)	[福井 令恵]	秋学期授業/Fall	290
演習科目	【C7504】	演習 (ライフ)	[福井 令恵]	春学期授業/Spring	291
演習科目	【C7505】	演習 (ライフ)	[福井 令恵]	秋学期授業/Fall	292
演習科目	【C7506】	演習 (ライフ)	[金山 喜昭]	秋学期授業/Fall	293
演習科目	【C7507】	演習 (ライフ)	[金山 喜昭]	春学期授業/Spring	294
演習科目	【C7508】	演習 (ライフ)	[金山 喜昭]	秋学期授業/Fall	295

演習科目	【C7509】	演習 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	秋学期授業/Fall	296
演習科目	【C7510】	演習 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	春学期授業/Spring	297
演習科目	【C7511】	演習 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	秋学期授業/Fall	298
演習科目	【C7512】	演習 (ライフ)	[佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	299
演習科目	【C7513】	演習 (ライフ)	[佐藤 恵]	春学期授業/Spring	300
演習科目	【C7514】	演習 (ライフ)	[佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	301
演習科目	【C7515】	演習 (ライフ)	[田中 研之輔]	秋学期授業/Fall	302
演習科目	【C7516】	演習 (ライフ)	[田中 研之輔]	春学期授業/Spring	303
演習科目	【C7517】	演習 (ライフ)	[田中 研之輔]	秋学期授業/Fall	304
演習科目	【C7521】	演習 (ライフ)	[安田 節之]	秋学期授業/Fall	305
演習科目	【C7522】	演習 (ライフ)	[安田 節之]	春学期授業/Spring	306
演習科目	【C7523】	演習 (ライフ)	[安田 節之]	秋学期授業/Fall	307
演習科目	【C7524】	演習 (ライフ)	[熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	308
演習科目	【C7525】	演習 (ライフ)	[熊谷 智博]	春学期授業/Spring	309
演習科目	【C7526】	演習 (ライフ)	[熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	310
演習科目	【C7600】	卒業論文 (発達・教育)	[遠藤 野ゆり]	年間授業/Yearly	311
演習科目	【C7602】	卒業論文 (発達・教育)	[児美川 孝一郎]	年間授業/Yearly	312
演習科目	【C7603】	卒業論文 (発達・教育)	[坂本 旬]	年間授業/Yearly	313
演習科目	【C7606】	卒業論文 (発達・教育)	[田澤 実]	年間授業/Yearly	314
演習科目	【C7607】	卒業論文 (発達・教育)	[筒井 美紀]	年間授業/Yearly	315
演習科目	【C7608】	卒業論文 (発達・教育)	[樋田 有一郎]	年間授業/Yearly	316
演習科目	【C7609】	卒業論文 (発達・教育)	[廣川 進]	年間授業/Yearly	317
演習科目	【C7610】	卒業論文 (発達・教育)	[松尾 知明]	年間授業/Yearly	318
演習科目	【C7620】	卒業論文 (ビジネス)	[上西 充子]	年間授業/Yearly	319
演習科目	【C7622】	卒業論文 (ビジネス)	[梅崎 修]	年間授業/Yearly	320
演習科目	【C7624】	卒業論文 (ビジネス)	[木村 琢磨]	年間授業/Yearly	321
演習科目	【C7626】	卒業論文 (ビジネス)	[酒井 理]	年間授業/Yearly	322
演習科目	【C7627】	卒業論文 (ビジネス)	[坂爪 洋美]	年間授業/Yearly	323
演習科目	【C7628】	卒業論文 (ビジネス)	[佐藤 厚]	年間授業/Yearly	324
演習科目	【C7629】	卒業論文 (ビジネス)	[武石 恵美子]	年間授業/Yearly	326
演習科目	【C7630】	卒業論文 (ビジネス)	[中野 貴之]	年間授業/Yearly	327
演習科目	【C7631】	卒業論文 (ビジネス)	[松浦 民恵]	年間授業/Yearly	328
演習科目	【C7640】	卒業論文 (ライフ)	[荒川 裕子]	年間授業/Yearly	329
演習科目	【C7641】	卒業論文 (ライフ)	[金山 喜昭]	年間授業/Yearly	330
演習科目	【C7642】	卒業論文 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	年間授業/Yearly	331
演習科目	【C7644】	卒業論文 (ライフ)	[佐藤 恵]	年間授業/Yearly	332
演習科目	【C7645】	卒業論文 (ライフ)	[田中 研之輔]	年間授業/Yearly	333
演習科目	【C7648】	卒業論文 (ライフ)	[安田 節之]	年間授業/Yearly	334
演習科目	【C7650】	卒業論文 (ライフ)	[福井 令恵]	年間授業/Yearly	335
演習科目	【C7651】	卒業論文 (ライフ)	[熊谷 智博]	年間授業/Yearly	336
演習科目	【C7660】	キャリアデザイン学総合演習	[坂本 旬]	秋学期授業/Fall	338
関連科目	【C7700】	国際コミュニケーション語学 (英語Ⅰ)	[Robert Durham]	春学期授業/Spring	339
関連科目	【C7701】	国際コミュニケーション語学 (英語Ⅱ)	[Robert Durham]	秋学期授業/Fall	340
関連科目	【C7702】	国際コミュニケーション語学 (英語Ⅲ)	[Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	342
関連科目	【C7703】	国際コミュニケーション語学 (英語Ⅳ)	[Kregg Johnston]	秋学期授業/Fall	343
関連科目	【C7704】	国際コミュニケーション語学 (英語Ⅴ)	[Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	344
関連科目	【C7710】	就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-	[佐藤 厚、武石 恵美子]	秋学期授業/Fall	345
関連科目	【C7711】	就業応用力養成Ⅰ	[鈴木 美伸]	春学期授業/Spring	347
関連科目	【C7712】	就業応用力養成Ⅱ	[鈴木 美伸]	秋学期授業/Fall	349
関連科目	【C7750】	異文化適応論	[浅川 希洋志]	秋学期授業/Fall	351
関連科目	【C7751】	市民社会と政治	[長島 美紀]	秋学期授業/Fall	352
関連科目	【C7752】	労働環境法	[藤木 貴史]	秋学期授業/Fall	354
関連科目	【C7753】	財務会計論Ⅰ	[川島 健司]	春学期授業/Spring	356
関連科目	【C7754】	財務会計論Ⅱ	[川島 健司]	秋学期授業/Fall	358
関連科目	【C7755】	監査論Ⅰ	[坂上 学]	春学期授業/Spring	360
関連科目	【C7756】	監査論Ⅱ	[坂上 学]	秋学期授業/Fall	361
関連科目	【C7757】	税務会計論Ⅰ	[大下 勇二]	春学期授業/Spring	362

関連科目	[C7758]	税務会計論Ⅱ [大下 勇二]	秋学期授業/Fall	363
関連科目	[C7759]	管理会計論Ⅰ [北田 皓嗣]	春学期授業/Spring	364
関連科目	[C7760]	管理会計論Ⅱ [北田 皓嗣]	秋学期授業/Fall	365
関連科目	[C7761]	原価計算論Ⅰ [福田 淳児]	春学期授業/Spring	366
関連科目	[C7762]	原価計算論Ⅱ [福田 淳児]	秋学期授業/Fall	367
関連科目	[C7763]	経営分析Ⅰ [高橋 美穂子]	春学期授業/Spring	368
関連科目	[C7764]	経営分析Ⅱ [高橋 美穂子]	秋学期授業/Fall	369
関連科目	[C7800]	教職入門 [吉田 直子]	秋学期授業/Fall	370
関連科目	[C7801]	教職入門 [天野 一哉]	春学期授業/Spring	371
関連科目	[C7802]	教職入門 [渡邊 真之]	秋学期授業/Fall	372
関連科目	[C7803]	教職入門 [渡邊 真之]	春学期授業/Spring	373
関連科目	[C7804]	教育原理 [筒井 美紀]	秋学期授業/Fall	374
関連科目	[C7805]	教育原理 [天野 一哉]	秋学期授業/Fall	375
関連科目	[C7807]	教育原理 [飯窪 真也]	秋学期授業/Fall	376
関連科目	[C7808]	教育原理 [澤里 翼]	春学期授業/Spring	377
関連科目	[C7809]	教育の制度・経営 [植竹 丘]	秋学期授業/Fall	378
関連科目	[C7811]	教育の制度・経営 [植竹 丘]	春学期授業/Spring	379
関連科目	[C7812]	教育の制度・経営 [仲田 康一]	春学期授業/Spring	380
関連科目	[C7813]	教育の制度・経営 [小池 由美子]	秋学期授業/Fall	381
関連科目	[C7814]	教育課程論 [飯窪 真也]	春学期授業/Spring	382
関連科目	[C7815]	教育課程論 [黄 郁倫]	秋学期授業/Fall	383
関連科目	[C7816]	教育課程論 [飯窪 真也]	春学期授業/Spring	384
関連科目	[C7817]	教育課程論 [飯窪 真也]	秋学期授業/Fall	385
関連科目	[C7818]	教育課程論 [川津 貴司]	春学期授業/Spring	386
関連科目	[C7819]	教育方法論 (ICT 活用を含む) [岩本 俊一]	春学期授業/Spring	387
関連科目	[C7820]	教育方法論 (ICT 活用を含む) [松尾 知明]	春学期授業/Spring	388
関連科目	[C7821]	教育方法論 (ICT 活用を含む) [黄 郁倫]	春学期授業/Spring	389
関連科目	[C7822]	教育方法論 (ICT 活用を含む) [黄 郁倫]	秋学期授業/Fall	390
関連科目	[C7823]	教育方法論 (ICT 活用を含む) [川津 貴司]	秋学期授業/Fall	391
関連科目	[C7900]	図書館演習 [坂本 旬]	年間授業/Yearly	392
関連科目	[C7901]	図書館演習 [村上 郷子]	年間授業/Yearly	393
関連科目	[C7903]	図書館演習 [竹之内 禎]	年間授業/Yearly	394
関連科目	[C7905]	図書館サービス概論 [栗原 智久]	秋学期授業/Fall	396
関連科目	[C7908]	情報サービス演習 [田中 順子]	年間授業/Yearly	397
関連科目	[C7909]	情報サービス演習 [田中 順子]	年間授業/Yearly	398
関連科目	[C7910]	情報サービス演習 [菅原 真悟]	年間授業/Yearly	399
関連科目	[C7911]	図書館情報資源概論 [小黒 浩司]	春学期授業/Spring	400
関連科目	[C7912]	図書館情報資源概論 [村上 郷子]	春学期授業/Spring	401
関連科目	[C7913]	図書館情報資源概論 [村上 郷子]	春学期授業/Spring	402
関連科目	[C7914]	図書館情報資源特論 [小黒 浩司]	秋学期授業/Fall	403
関連科目	[C7915]	図書館情報資源特論 [村上 郷子]	秋学期授業/Fall	404
関連科目	[C7916]	図書館情報資源特論 [村上 郷子]	秋学期授業/Fall	405
関連科目	[C7924]	読書と豊かな人間性 [田中 順子]	秋学期授業/Fall	406
関連科目	[C7925]	情報メディアの活用 [坂本 旬]	秋学期授業/Fall	407
関連科目	[C7926]	情報メディアの活用 [村上 郷子]	秋学期授業/Fall	408
関連科目	[C7928]	ミュージアム資料論 [田中 裕二]	秋学期授業/Fall	409
関連科目	[C7929]	ミュージアム教育論 [渡邊 祐子]	秋学期授業/Fall	410
関連科目	[C7930]	ミュージアム教育論 [山下 治子]	秋学期授業/Fall	411
関連科目	[C7943]	社会教育演習 [久井 英輔]	年間授業/Yearly	412
関連科目	[C7948]	現代生活・文化と社会教育Ⅰ [鈴木 悌遍]	春学期授業/Spring	414
関連科目	[C7949]	現代生活・文化と社会教育Ⅱ [佐々木 美貴]	秋学期授業/Fall	415
	[C7992]	Foreign Language Exercise (English Ⅲ) 【GO 科目】 [Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	416
	[C7993]	Foreign Language Exercise (English Ⅳ) 【GO 科目】 [Kregg Johnston]	秋学期授業/Fall	417
	[C7994]	Foreign Language Exercise (English Ⅴ) 【GO 科目】 [Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	418
関連科目	[C4034]	道德教育指導論 【2016 年度以前入学者用】 [土屋 創]	春学期授業/Spring	419
関連科目	[C4035]	道德教育指導論 【2016 年度以前入学者用】 [田口 賢太郎]	春学期授業/Spring	421
関連科目	[C4036]	道德教育指導論 【2016 年度以前入学者用】 [高原 史朗]	秋学期授業/Fall	423

関連科目	【C4037】	道德教育指導論【2016年度以前入学者用】	[田口 賢太郎]	秋学期授業/Fall	425
関連科目	【C4038】	特別活動論【2016年度以前入学者用】	[中村 岳夫]	春学期授業/Spring	427
関連科目	【C4039】	特別活動論【2016年度以前入学者用】	[中村 岳夫]	春学期授業/Spring	428
関連科目	【C4040】	特別活動論【2016年度以前入学者用】	[吉田 直子]	春学期授業/Spring	429
関連科目	【C4041】	特別活動論【2016年度以前入学者用】	[中村 岳夫]	秋学期授業/Fall	430
関連科目	【C4042】	特別活動論【2016年度以前入学者用】	[森本 扶]	秋学期授業/Fall	431
関連科目	【C4043】	生徒・進路指導論【2016年度以前入学者用】	[岩本 俊一]	春学期授業/Spring	432
関連科目	【C4044】	生徒・進路指導論【2016年度以前入学者用】	[渡部 忠治]	春学期授業/Spring	433
関連科目	【C4045】	生徒・進路指導論【2016年度以前入学者用】	[渡部 忠治]	秋学期授業/Fall	434
関連科目	【C4046】	生徒・進路指導論【2016年度以前入学者用】	[児美川 孝一郎]	秋学期授業/Fall	435
関連科目	【C4056】	社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】	[宮嶋 祐一]	年間授業/Yearly	436
関連科目	【C4062】	社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】	[本山 明]	年間授業/Yearly	438
関連科目	【C4068】	社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】	[宮嶋 祐一]	年間授業/Yearly	440
関連科目	【C4074】	社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】	[吉田 俊弘]	年間授業/Yearly	442
関連科目	【C4080】	社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】	[松尾 知明]	年間授業/Yearly	444
関連科目	【C4086】	社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】	[梶谷 陽子]	年間授業/Yearly	445
関連科目	【C4092】	商業科教育法【2016年度以前入学者用】	[木村 良成]	年間授業/Yearly	447
関連科目	【C4740】	図書館制度・経営論【2016年度以前入学者用】	[森 智彦]	秋学期授業/Fall	449
関連科目	【C4741】	児童サービス論【2016年度以前入学者用】	[田中 順子]	秋学期授業/Fall	450
関連科目	【C4742】	情報サービス論【2016年度以前入学者用】	[田中 順子]	春学期授業/Spring	451
関連科目	【C4743】	情報資源組織論【2016年度以前入学者用】	[竹之内 明子]	春学期授業/Spring	452
関連科目	【C4744】	情報資源組織演習【2016年度以前入学者用】	[竹之内 明子]	年間授業/Yearly	453
関連科目	【C4745】	情報資源組織演習【2016年度以前入学者用】	[村上 郷子]	年間授業/Yearly	455
関連科目	【C4746】	情報資源組織演習【2016年度以前入学者用】	[竹之内 明子]	年間授業/Yearly	456
関連科目	【C4747】	情報資源組織演習【2016年度以前入学者用】	[竹之内 明子]	年間授業/Yearly	458
関連科目	【C4748】	学校図書館メディアの構成【2016年度以前入学者用】	[村上 郷子]	秋学期授業/Fall	460
関連科目	【C4749】	学校経営と学校図書館【2016年度以前入学者用】	[松田 ユリ子]	秋学期授業/Fall	461
関連科目	【C4750】	学習指導と学校図書館【2016年度以前入学者用】	[松田 ユリ子]	秋学期授業/Fall	462
関連科目	【C4751】	社会教育経営論【2016年度以前入学者用】	[御園生 純]	年間授業/Yearly	463
関連科目	【C4752】	社会教育経営論【2016年度以前入学者用】	[御園生 純]	年間授業/Yearly	465
関連科目	【C4753】	社会教育活動Ⅰ【2016年度以前入学者用】	[桔川 純子]	春学期授業/Spring	467
関連科目	【C4754】	社会教育活動Ⅱ【2016年度以前入学者用】	[佛木 完]	秋学期授業/Fall	469
関連科目	【C4756】	ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】	[今野 農]	春学期授業/Spring	471
関連科目	【C4757】	ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】	[清水 玲子]	秋学期授業/Fall	472
関連科目	【C4758】	職業指導（仕事の場と学び）【2016年度以前入学者用】	[高橋 浩]	年間授業/Yearly	473
関連科目	【C4759】	ミュージアム展示論【2016年度以前入学者用】	[大山 裕]	秋学期授業/Fall	475
関連科目	【C4760】	ミュージアム展示論【2016年度以前入学者用】	[松丸 裕之]	春学期授業/Spring	476
関連科目	【C4761】	ミュージアム情報・メディア論【2016年度以前入学者用】	[柏女 弘道]	春学期授業/Spring	477
関連科目	【C4762】	ミュージアム情報・メディア論【2016年度以前入学者用】	[石川 貴敏]	秋学期授業/Fall	478
関連科目	【C4763】	博物館実習Ⅰ【2016年度以前入学者用】	[田中 裕二]	年間授業/Yearly	480
関連科目	【C4764】	博物館実習Ⅰ【2016年度以前入学者用】	[金山 喜昭]	年間授業/Yearly	481
関連科目	【C4765】	博物館実習Ⅱ【2016年度以前入学者用】	[小西 雅徳]	年間授業/Yearly	482
関連科目	【C4766】	博物館実習Ⅱ【2016年度以前入学者用】	[杉山 享司]	年間授業/Yearly	484

BSP100MA

キャリア研究調査法入門 (A-H 組)【2017年度以降入学者のみ】 基幹科目

池田 めぐみ

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：1～2 年
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部 A～H 組
 2017 年度以降に入学した学生のみ受講可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】

本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方や技能とをマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます（毎回の授業で練習問題等を出します）。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・各講義の最初で、前回学んだ内容を復習する問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する	カット&ペーストではなく、自分の視点で官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第 8 回	中間試験	授業にて、中間試験を実施する。
第 9 回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3～4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1——目に見え聞こえることを書き取ってみる	全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第 13 回	観察法：その 2——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業にて、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示

【参考書】

授業中に指示

【成績評価の方法と基準】

中間試験（30 %）、期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を増やす予定です。

【Outline (in English)】

Outline and objectives : Social research is the process and method of recognizing and understanding social phenomena through collecting data from real society and the analysis of the obtained data. This lecture will lay the foundation for the "Career Research Survey Methods (Qualitative and Quantitative Research)" in the spring semester of the second year and for the study in seminars and graduation thesis research that will begin in the fall semester of the second year.

Goal: To master the skills necessary for social research

Work to be done outside of class: Homework and preparatory assignments may be given. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria: Mid-term exam (30%), final exam (70%)

BSP100MA

キャリア研究調査法入門 (I-P 基幹科目)
組)【2017年度以降入学者のみ】

大倉 韻

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～2 年
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部 I～P 組
2017 年度以降に入学した学生のみ受講可能

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2 年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2 年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

【到達目標】

本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方や技能をマスターします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

各講義の最後に、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組んでもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	どうして「調査法」を学ぶの？——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第 2 回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第 3 回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第 4 回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第 5 回	政府統計を加工する——カット&ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第 6 回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30 程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第 7 回	その質問文、答えやすい？——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第 8 回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第 9 回	中間テスト インタビュー調査の準備	依頼状・アポ取り、下調べ、質問項目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第 10 回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を 3～4 人で行なう。得られたデータを整理する。
第 11 回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データを KJ 法などで検討する。400 字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第 12 回	観察法：その 1——目に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。

第 13 回 観察法：その 2 ——立ち位置が変わると発見も変わる

観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。
2 年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

第 14 回 質的調査のまとめ
学期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

マシュー・J. サルガニック,2019,『ビット・バイ・ビット—デジタル社会調査入門』有斐閣。

原純輔,2016,『社会調査—しくみと考えかた』左右社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (30%)、期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは人数・組み合わせを調整し、議論がしやすい環境づくりを心がけた。

パソコンや表計算ソフトの操作に不安を持つ生徒が多かったため、それらに習熟するための時間を設けた。

通学が困難な学生に配慮して、ハイフレックス授業を積極的に採用した。

【学生が準備すべき機器他】

計算問題を課すことがあるので、パソコン・電卓・スマホの電卓アプリを用意しておくこと。電卓や電卓アプリの場合は、平方根の計算ができるものを用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses. **【Learning Objectives】**

In this course, students will master the basic concepts and skills of social research by developing their knowledge and skills in basic mathematics, Japanese and social studies that they have learned up to high school. **【Learning activities outside of classroom】**

You may be given homework and prep assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. **【Grading Criteria /Policy】**

Mid-term exam (30%), final exam (70%)

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにする事ができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

濱中 義隆

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

中澤 香世

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにする事ができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践していただくことを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法（質的調査） 基幹科目

西村 純

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにする事ができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。
14	発表会（2）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

前浦 穂高

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

山邊 聖士

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにする事ができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

井上 公人

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目

山崎 正枝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにする事ができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

【到達目標】

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通して、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査/質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。
14	発表会 (2)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。
 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。
 提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
 平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。3 月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお 2011 年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

【Goal】

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア研究調査法(量的調査) 基幹科目

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年
 備考(履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値(平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する(1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する(2)	散布図
8	変数の関係を分析する(3)	相関
9	変数の関係を分析する(4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報(世論調査、ランキング、経済統計など)に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題(例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集)については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※2007～2011年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011年度入学者向け】

2007～2011年度入学者は事前抽選の参加不要です。第1回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

濱中 義隆

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007~2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】

2007~2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

井上 公人

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施)】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

伊藤 慎悟

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

長瀬 毅

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施)】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施)】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007~2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】

2007~2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007～2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007～2011 年度入学者向け】

2007～2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の演中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA

キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目

田中 友理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2~4 年
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化 (グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定
13	統計的検定の考え方	帰無仮説と対立仮説 有意水準
14	量的調査の論文例	上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011 年 技術評論社

【参考書】

必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%
 「レポートや課題の提出」：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルや SPSS を用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。※ 2007~2011 年度入学者は参加不要です。本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

【2007~2011 年度入学者向け】

2007~2011 年度入学者は事前抽選の参加不要です。第 1 回の授業に必ず出席のこと。なお「社会調査論 I」として開講されるのは「春学期金・1」の濱中義隆先生のコマのみであり、それ以外のコマは該当しません。

【Outline (in English)】

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

Learning Objectives:

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP100MA

キャリアデザイン学入門

基幹科目

梅崎 修、廣川 進、荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：1～2 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインとは何かを本学部の三領域（発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア）の視点から提示し、キャリアデザイン学の基礎概念を講義します。併せて、これらによりキャリアデザイン学の確立を目指す一員として学生の自覚を高め、キャリアデザインを考える能力を養成します。

【到達目標】

キャリアデザイン学部の専門科目やゼミナールでの学習のための準備としてキャリアデザイン学の基礎的な概念を理解すること、また激動する現代社会を生きるためのキャリアデザイン学を学び、研究することの意義を見付けることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学部の三領域（発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア）の教員3名によるオムニバス授業です。毎回授業では、それぞれの分野の基礎概念を学んだ後に、それぞれの分野における具体的なテーマを学生たちと議論します。1回100分の授業を以下の三つに分けて講義します。オンデマンド型オンライン授業で、毎回の授業を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	キャリアデザイン学とは何かを学び、講義内容の構成を理解する。(梅崎)
第2回	自立と自律	ビジネスキャリアの選択行動を学ぶ。合理的期待形成、限定合理性、リスクと不確実性 (uncertainty)、デザインとドリフト、トランジションなどの基礎概念を理解する。(梅崎)
第3回	経営戦略とリーダーシップ	企業組織の経営戦略を学び、組織内における活性化する優れたリーダーの役割とそのようなリーダーの育成を考察する。(梅崎)
第4回	経済構造と職業構成	工業化、ポスト工業化という経済成長に伴う経済構造の変化を学び、その変化の中で求められる雇用される能力の変化を考察する。(梅崎)
第5回	雇用政策と企業内キャリア支援	仕事を生み出す雇用政策と、企業が従業員に対して行う企業内キャリア支援を学ぶ。(梅崎)
第6回	雇われない生き方、働き方と自律型キャリア	コロナ禍で働き方の変化が加速している。働く時間と場所の制約が少なくなっていく中でどのような生き方働き方が可能なのか、について考える(廣川)
第7回	キャリアと心理学	キャリア発達と生涯発達心理学、パーソナリティやメンタルヘルスとの関係などについて考える(廣川)
第8回	キャリア教育、学校とキャリア	職業指導からキャリア教育への変遷、学校現場での取り組み、就労支援、コミュニティなどキャリア教育の現状と課題について学ぶ(廣川)
第9回	キャリアとカウンセリング	自分のキャリアを切り拓くときにキャリアカウンセリングという支援が有効であることを事例を通して紹介する(廣川)
第10回	ライフキャリアとは何か	ライフ・キャリア・レインボーやライフ・ロールといった考え方を手掛かりに、人の生(ライフ)を主体的にデザインすることの意味を考える。(荒川)
第11回	個人のウェルビーイング	個人の多様なアイデンティティや主観的幸福度の視点から、キャリアデザインの目的としてのウェルビーイングについて考える。(荒川)

第12回 文化と人間形成

個人や地域のアイデンティティをかたちづくるものとしての文化に注目し、その多様性や多文化共生の意義について考える。(荒川)

第13回 地域社会と文化創造

マクロな視点から社会やコミュニティと個人のかかわりを考え、まちづくりや地域創生をめぐる政策や文化産業の推進などについて学ぶ。(荒川)

第14回 キャリアデザイン学の展望

これまでの授業を振り返りつつ、ビジネスキャリア・ライフキャリア・発達教育キャリアが相互に関連する領域について議論する。(荒川)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

定期的に授業の振り返りのための課題を出しますので、課題文書、講義内容、参加した議論を振り返り、課題レポートを作成します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

金山善昭、児美川孝一郎、武石恵美子編著 2013『キャリアデザイン学への招待』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（出席と課題の提出等）50%，期末試験50%。

【学生の意見等からの気づき】

三分野の繋がりを意識して事例紹介をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

In this class, we will present something about career design from the viewpoints of the three areas of our faculty - development and education career, business career, life career - and give lectures on basic concepts of career design studies.

Through these activities, we will raise students' awareness as a member who aims to establish career design studies and foster their abilities to think career design.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

BSP100MA

発達・教育キャリア入門A 基幹科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】

発達・教育に関する 10 のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則を対面としてつつ、対面での授業に参加できない学生には、半分まで、オンラインでの参加を認めます。

本授業では 10 の教育問題（トピック）を取り上げます。各自教科書の第 1 節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える視点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、課題の設定、テキスト、オンライン受講の方法等について説明する。
2	枠組みとしてのあたりまえ テキスト序章	「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
3	家族の形 テキスト第 1 章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
4	家庭教育 テキスト第 2 章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
5	児童虐待 テキスト第 3 章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。 虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識手見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。
6	つながり孤独 テキスト第 4 章	若者の SNS の問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
7	いじめ テキスト第 5 章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。
8	恋愛 テキスト第 6 章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
9	カウンセリング テキスト第 7 章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
10	不登校 テキスト第 8 章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
11	発達障害 テキスト第 9 章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
12	キャリア教育 テキスト第 10 章	おとなになることとは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
13	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ

14 授業全体のふりかえり・評価 本講義を通して何を考えてきたのかを再検討し、学んだ内容の確認、今後の課題の設定を行う。また習得状況の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストはすべて 1 章が 3 節構成になっています。各章の第 1 節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠藤野ゆり・大塚類 (2020) 『さらにあたりまえを疑え！ 臨床教育学 2』新曜社

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストと課題 50 %、期末レポート 50 %（受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援システムを通じて受講生にお知らせします。）

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで参加した場合に音声聞き取りにくいとのことでしたので、マイクの使用など、音声システムを工夫するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で授業支援システムにログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンや PC などの機器を持参してください（事前に連絡します）

原則対面の授業ですが、半数まで、オンラインでも受講可能とします。その場合にオンライン環境は学生さん自身で整えてください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて内容の調整をすることがあります。

【Outline (in English)】

Outline and objectives : We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.

Goal: The goal is to acquire basic knowledge about 10 topics related to development and education and, also, to understand how they usually think within the "natural framework" and explore their roots.

Methods: This class will cover 10 educational issues (topics). Students are required to prepare for the basic knowledge in Section 1 of each textbook before attending the class. Every class a quiz to measure the acquisition rate of basic knowledge is held. In the class, a viewpoint that overcomes the natural framework and reconsider the knowledge that we have prepared is showed.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) :all textbook chapters are composed of three chapters. Section 1 of each chapter contains all the basic knowledge for learning that unit. Due to class time, basic knowledge is a preparatory task and a weekly test is conducted. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria: 50%=quiz in each class, 50 %=term-end exam. (The grading criteria way may be changed according to the student's request)

BSP100MA

発達・教育キャリア入門B 基幹科目

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個人の学びや発達に視点を置く事柄について基礎的な内容を学ぶ。個人の生き方や社会の在り方について考察する。

【到達目標】

・キャリアデザインに関わる社会現象についてデータに基づいて説明できる。
・発達および教育が関連するキャリアデザインにかかわる各トピックについての基礎的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の初めに、前回の講義で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また授業内ではグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の枠組や評価方法等を説明する。
第2回	大学へ進学する	日本の高校卒業者の進路の内訳や学生生活で重視する事柄の時系列的な変化を概観し、現代社会における青年期の諸問題との関連を説明する。
第3回	企業に就職する	日本の大学卒業者の進路の内訳や時系列的な変化を概観する。民間企業への就職を例に取り上げ、大学での学びが与える影響について説明する。
第4回	選択肢を拓ける／絞る	「複数の選択肢があればそこから何を選ぶのか」は個人が生き方を選ぶことと関連する。心理学の観点からキャリア発達、意思決定モデルについて説明する。
第5回	地域を移動する	日本では、高校卒業後および大学卒業後に都道府県間移動をする若者が多いことが知られている。このような地理的な移動を題材に、個人の生き方と社会の在り方の関連を考える。
第6回	家族を形成する	近年では、個人が仕事役割と家族役割のバランスをどのように取るのかが注目されることがある。このことと成人期の発達課題との関連を説明する。
第7回	地域で支える	学校という空間の外側には家庭や地域社会がある。地域の支えを得ながら社会へ移行する若者の事例を紹介し、包括的な若者支援について説明する。
第8回	コミュニケーションする	個人の生き方を考える際に、他者とのコミュニケーションは不可欠である。情報の発信と受信、メリットとデメリットの比較から、その多様性を説明する。
第9回	自信を持つ	個人の行動の原動力を考える。自己効力、学習性無力感、自尊感情について説明する。
第10回	将来を見通す	個人の生き方や社会の在り方を考える際に、将来を見通すことは不可欠である。個人および組織の見通しに関連した概念について説明する。
第11回	体験から学ぶ	経験学習について説明する。自らの経験から学びを得るプロセスだけでなく、社会人講話などから学びを得るプロセスについて考える。
第12回	知識を紡ぐ	ワークショップによる学びに注目する。共に参加したメンバー間で知識はいかにして紡がれていくのか、ワークショップに関連した学習理論を説明する。

第13回 次世代に伝える

「発達」の概念は、個人の人生の始まりから終わりまでを指し示すこともあるが、世代を超えたサイクルも含むことがある。住民による防災情報の伝達を事例にして、「次世代に伝える」ことの効果について考える。

第14回 2つ以上のものをつなげる

上記までに扱ったトピックの関連について考えるための補足を加える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。レジュメを配布する。

【参考書】

e-Stat（日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト）

<https://www.e-stat.go.jp>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% レポート課題 70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度より、定期試験ではなくレポートによる評価とした。知識の定着につながると判断できたため今年度も継続することにした。

【Outline (in English)】

This class will teach students the basics of individual learning and development. By the end of the course, students should be able to: ・Explain social phenomena related to lifelong learning and career studies using data, ・Gain a basic understanding of topics related to lifelong learning and career studies, including development and education. After each class meeting, students must complete assignments. Students are expected to dedicate over four hours per class. Grading will be based on 70% reports and 30% of in-class contributions.

BSP100MA

**発達・教育キャリア入門C (生 基幹科目
涯学習入門 I)**

久井 英輔

単位数：2 単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(授業の概要)

生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。

(授業の目的・意義)

授業内容とおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

【到達目標】

生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動(多様なノンフォーマル教育)の展開などについての基本的な理解を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「社会教育」「生涯学習」とは何か？	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第 2 回	市町村は社会教育にどう関わっているか？	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第 3 回	社会教育の学習テーマはどうあるべきか？	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第 4 回	学校以外にどのような場で学べるか？	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設(社会教育施設)の基本的役割と実態について解説する。
第 5 回	「成人式」はなぜ行われているのか？	社会教育施設以外で展開される社会教育行政事業について解説する。
第 6 回	学校以外で職業能力をいかに身につけるか？	職業能力開発校などで行われる職業訓練について概観するとともに、社会教育行政との関連について解説する。
第 7 回	民間企業はおとなの学びにどう関わっているか？	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間の社会教育事業の歴史的展開と現状について解説する。
第 8 回	子どもや若者は学校以外にどこで学んでいるか？	「子ども、若者対象」という観点から、行政、民間の社会教育事業の現在における動向を整理して解説する。

第 9 回	学校教育と社会教育はどう連携すべきか？	学校教育と社会教育の連携、および、学校と地域社会の連携に関する現在の動向について解説する。
第 10 回	社会教育という概念はどのように成立したか？	日本における近代以降(第二次世界大戦まで)の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 11 回	戦後、社会教育はどのように変化してきたか？	日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。
第 12 回	社会教育は国によってどのように違うのか？	社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。
第 13 回	「成人の学力」がなぜ今論じられているのか？	PIAAC(国際成人力調査)の調査概要とデータをふまえて、「成人の学力」について論じることの意味を解説する。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・準備学習は特に必要ない。
- ・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
- ・本授業の復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

香川正弘他編『よくわかる生涯学習(改訂版)』ミネルヴァ書房、2016 年
松岡広路、松橋義樹、鈴木真理編『社会教育の基礎』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメントシート 50 %
期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

入門的科目なので、生涯学習、社会教育について、「学問的定義」「法律」「制度」から入ることが多いのだが、どうしても堅い話が多くなってしまいう問題がある。自分の身近な事例が実は社会教育と関わっている、という点からも話を展開したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士(養成課程)の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもある。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (50%), final report (50%).

BSP100MA

**発達・教育キャリア入門C (生 基幹科目
涯学習入門 I)**

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門 I) では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第 3 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設 (図書館・公民館など) の無償制原則について理解する。
第 4 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と制度の特徴を理解する。
第 5 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について、公民館を中心に理解する。
第 7 回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO 図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。
第 8 回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第 9 回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第 10 回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第 11 回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第 12 回	社会教育・生涯学習の政策と制度④	長野県飯田市及び伊那地方を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の特徴と課題を学ぶ。
第 13 回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs 及び ESD の時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第 14 回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時ごとの簡単なレポート (ワークシートを含む) を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』 人言洞、2023 年 (ISBN978-4-910917-03-0)

【参考書】

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート (ワークシートを含む) 80 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline (in English)】

Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding of basics in home education, school education and social education.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

BSP100MA
発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門Ⅱ)【2021年度以前入学者用】 基幹科目

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：2021年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2022年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

生涯学習、社会教育に関する事項について、基本的な文献の講読、学生による発表と討論をふまえて検討する。

【授業の目的】

学生が生涯学習、社会教育の実践に関わり、提言できるよう、その基礎的な事項について深く理解できるようにする。

【到達目標】

生涯学習の理念、社会教育に関する制度、実際に行われている各種の事業・実践について、それらを論じる際に不可欠な視点、また現実に課題となっている点を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、生涯学習、社会教育に関する基本的知識・視点を講義形式で復習する。その後、受講生の各グループが、授業1回分の講読文献の発表を担当し、各回とも、その発表をふまえたディスカッションを中心に進める。授業終了時に、各回の文献で示された論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会教育・生涯学習における基本事項①	授業全体の進め方について説明した上で、教育・受講者間で社会教育・生涯学習に関する問題関心を共有する。
第2回	社会教育・生涯学習における基本事項②	文献講読の前提となる基本知識、特に社会教育の実践・制度に関わる基本的事項を概観する。
第3回	社会教育・生涯学習における基本事項③	文献講読の前提となる基礎知識、特に社会教育の歴史、生涯学習の理念、学習者支援や学習関心・行動の理論に関わる基本的事項を概観する。
第4回	高齢者と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、高齢者が対象となる社会教育事業を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第5回	高齢者と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、高齢者が対象となる社会教育事業において現実に課題となっている点について理解を深める。
第6回	子ども・若者と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、子ども・若者が対象となる社会教育事業を論じる上で重要な観点について理解を深める。

第7回	子ども・若者と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、子ども・若者対象の社会教育で現実に課題となっている点について理解を深める。
第8回	家庭教育支援と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、家庭教育支援事業を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第9回	家庭教育支援と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、家庭教育支援事業において現実に課題となっている点について理解を深める。
第10回	職業・労働と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、職業・労働と社会教育の関連を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第11回	職業・労働と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、職業・労働と社会教育の関連において現実に課題となっている点について理解を深める。
第12回	学校教育と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、学校教育と社会教育の関連を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第13回	学校教育と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、学校教育と社会教育の関連において現実に課題となっている点について理解を深める。
第14回	授業の振り返り	前回までの発表とディスカッションについて、各グループでの議論をふまえて論点を提示してもらい、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の文献講読、（発表担当の場合）文献の要約とコメントが、予習として必要である。
 ・各回の授業後、文献および発表レジュメを読み直すこと。また、前回の授業のコメントシートに書かれた内容については、教員が適宜授業内で抜粋して配布し、リプライするので、そこで配布された自分以外のコメントについても目を通しておくこと
 ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講読文献は多岐にわたるため、授業内で紹介する。なお講読文献は基本的にPDFファイル化して、受講者に配布する。

【参考書】

香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016年
 松岡広路、松橋義樹、鈴木真理編『社会教育の基礎（シリーズ 転形期の社会教育 1）』学文社、2015年

【成績評価の方法と基準】

グループでの文献発表 20%
 各回のコメントシート 50%
 各回のディスカッションへの貢献度 30%

【学生の意見等からの気づき】

一部の講読文献は難易度の点でややハードルが高かったのではないかとと思われるが、今年度は文献の分量をそれまでの半分に減らし、各文献をじっくり読んで議論してもらうようになった。そのため、発表とディスカッションの質はこれまでよりもあがったと考える。講読文献の具体的な選定については、受講生の反応を考慮して、改めて検討したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書課程、博物館学芸員課程の必修科目でもある。

【Outline (in English)】
(Course Outline)

The aim of this course is to examine major issues on lifelong learning and social education by text reading, presentation, and discussion.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Group presentation (20%), Comment for every class (50%), contribution to discussion (30%).

BSP100MA
発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門Ⅱ)【2021年度以前入学者用】 基幹科目

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：2021年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2022年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門Ⅱ)では、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

【到達目標】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。
 毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第2回	社会教育・生涯学習の現代的課題	社会教育と生涯学習とESDの関係を通して、現代的な課題について考える。
第3回	戦後日本社会教育の流れ①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開、公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第4回	戦後日本社会教育の流れ②	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第5回	戦後日本社会教育の流れ③	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第6回	戦後日本社会教育の流れ④	21世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990年代の新たな社会教育運動について学ぶ。
第7回	戦後日本社会教育の流れ⑤	近年の教育政策の動向を踏まえて、社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える。

第8回	社会教育・生涯学習の実践①	日本の農業と近代化という視点から農業・農民・食に関わる学習運動について学ぶ。
第9回	社会教育・生涯学習の実践②	公害教育を手がかりに環境問題に関わる学習運動について学ぶ。
第10回	社会教育・生涯学習の実践③	巻原発住民投票における住民の学習を事例に地域づくり学習のあり方を考える。
第11回	社会教育・生涯学習の実践④	公民館における「地域づくり学習」の事例をもとに、公民館と地域課題との関係を考える。
第12回	社会教育・生涯学習の実践⑤	公民館における講座やサークルの活動を事例に、公民館の特徴と役割を学ぶ。
第13回	社会教育・生涯学習の過去から未来へ	戦後社会教育・生涯学習における学習運動の地下水脈として、自由民権運動や憲法起草運動の意味について考える。
第14回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの購読。
 授業時ごとの簡単なレポート（ワークシートを含む）を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』人言洞、2023年（ISBN978-4-910917-03-0）

【参考書】

千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育増補版』エイデル研究所 2015年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート（ワークシートを含む）80%
 平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

授業で紹介した資料はWeb上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

テキストと授業の教材を読むこと。

【Outline (in English)】

Based on the historical development of Japanese social education and lifelong learning, this class will focus specifically on the transition of learning methodology and form.

By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding of basics in home education, school education and social education.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

BSP100MA

発達・教育キャリア入門 D 基幹科目
【2022年度以降入学者のみ】

藤村 朝子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：2022年度以降に入学者した学生のみ履修可能
 その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学校と社会構造の関係に着目して格差や不平等をとらえるための基礎的な知識を学ぶ。日本は学歴社会なのか、学校歴社会なのか。社会階層とはなにか、どうやって把握できるのか。社会階層間の格差が拡大しているというのは本当か。教育機会や労働市場の地域間格差をどうやって捉えるのか。そもそも「不平等」は社会政策的にどのように把握され、「問題」とされてきたのか。上記のような事柄をアカデミックに考えるための入門科目である。教育社会学の知識をベースとし、適宜、社会学や教育学の知見を紹介する。

【到達目標】

①社会事象に対してどのように「問い」が立てられているのか、その立場の違いを理解できる。②他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。③適切な官公庁統計データを探し、利用することができる。④よかれと思っしていることが、意図せざる結果をうむ可能性があることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による講義を行う。リアクションペーパーやミニ課題を通じて、理解度の把握に努める。必要に応じてグループワークを用いる。フィードバックを授業内で丁寧に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：授業の進め方、受講上の注意、評価方法、教育社会学の視点	授業の進め方、受講上の注意、評価方法について説明する。本授業で扱われるテーマを把握する。教育社会学的に学校や社会を見るときの特徴について学ぶ。
第2回	教育と選抜1：近代学校、業績主義	業績主義にもとづく社会がどのように成立し、その成立に近代学校がどのように関係していたのかについて学ぶ。
第3回	教育と選抜2：立身出世主義、文化的再生産論	学歴社会について学び、どのような問題があるかについて学ぶ。
第4回	教育と選抜3：大衆教育社会、学歴主義	大衆教育社会について学ぶ。2000年以降の「能力」に関する言説について検討する。
第5回	教育とジェンダー：ジェンダー、かくれたカリキュラム	ジェンダーとかくれたカリキュラムについて学ぶ。
第6回	学校の社会学1：学校の社会的機能	学校の社会的機能について学び、現代の学校空間を教育社会学的に考察する。
第7回	学校の社会学2：教育の国際化	エスニック・マイノリティを中心に、マイノリティの視点から学校空間がどのように見えるのかについて学ぶ。
第8回	教育格差：学力、階層、地域	社会階層と学力、力のある学校について学ぶ。
第9回	教育病理1：いじめ	子どもの問題の増減と語られ方、子どもの問題を読み解くための社会学の理論や概念について学ぶ。
第10回	教育病理2：不登校	子どもの問題の増減と語られ方、子どもの問題を読み解くための社会学の理論や概念について学ぶ。
第11回	教育病理3：逸脱・非行	子どもの問題の増減と語られ方、子どもの問題を読み解くための社会学の理論や概念について学ぶ。
第12回	教育と社会の接続：大学と社会連携、地域連携、	大学と社会連携、地域連携について学ぶ。
第13回	研究事例：地域魅力化	「地域魅力化プログラム」、「高校魅力化」について学ぶ。
第14回	試験・まとめと解説	期末試験を実施するとともに、全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目なので、知識の定着と活用を求める。課題によっては、授業時間外の予習を求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。フィードバックについて、次の授業の初めにリアクションペーパーやミニ課題のいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出物及び授業への参加姿勢 50%、期末試験（授業内）50%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの実施により、本授業に対する学生の要望を随時把握できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

授業終了時にリアクションメールを送信してもらうため、ノートパソコンや携帯電話などの通信機器が必要。

【Outline (in English)】

Students will learn basic knowledge to grasp disparities and inequalities by focusing on the relationship between education, schools, and social structures. The goals of this course are to understand how "questions" are made about social phenomena, to understand the differences in their positions, to be able to use group work in collaboration with others as learning opportunities, to be able to search for and use appropriate government statistical data, and to understand that what you think is good can have unintended consequences. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting. The grading of this course will be based on some submissions and contribution in class (50%), and term-end examination in the classroom (50%).

BSP100MA

ビジネスキャリア入門A

基幹科目

妹尾 涉

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

The goals of this course are to understand the economic activities of a country based on macroeconomic theory.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

[Under COVID-19 pandemic]

Short reports : 50%、in class contribution: 50%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「一国の経済活動」について、マクロ経済学の理論に基づいて理解する。まず最初に、一国の経済活動を測るための指標（GDP、物価、失業率）について学ぶ。次に、それらが、消費・投資活動、財・サービス市場、労働市場、金融（資金）市場、貿易、政府の介入、などを通じて決定される仕組みについて学ぶ。最後に、最近の世界経済、日本経済が直面している課題について考える。

【到達目標】

①一国の経済活動について、マクロ経済学の理論に基づいて理解できること。②①で学んだ理論を通して、日本経済の現状についての解説ができること。③①②の作業を通して、社会科学の思考法（仮説の立案 → データ・実例による仮説検証 → 仮説の再考）を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

指定するテキストに沿って授業を行い、課題を掲示する。

提出課題については解説および講評を行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学で何を学ぶのか
2	経済活動の尺度①： GDP とは	GDP は何を測ろうとしているか
3	経済活動の尺度②：労働、物価水準とは	労働に関係する用語、物価水準に関する指標
4	GDP はどのように決まるのか①	短期と長期：総需要の4項目
5	GDP はどのように決まるのか②	総生産の決まり方
6	景気がよくなる時、悪くなる時①	財政政策とは
7	景気がよくなる時、悪くなる時②	総生産に対する効果
8	日銀が行う景気対策①	金融政策とは
9	日銀が行う景気対策②	金融要因と総生産の変動
10	円安・円高と景気の波①	為替レートとは
11	円安・円高と景気の波②	為替レートの決まり方
12	景気の波を越えて-行きつく先の経済の姿①	企業の価格決定
13	景気の波を越えて-行きつく先の経済の姿②	金融政策・財政政策の失敗
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日本経済新聞出版社

【参考書】

講義を通して適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

【通常授業を実施できた場合】

期末テストで評価（100 %）

【コロナ禍においてオンライン授業の場合】

最終レポート評価（50 %）、課題提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーの導入

【Outline (in English)】

Understand "economic activities of one country" based on the theory of macroeconomics. First of all, we learn about indices (GDP, price, unemployment rate) to measure the economic activity of a country. Next, we learn about the mechanisms that are determined through consumption and investment activities, goods and services markets, labor markets, financial markets, trade, government intervention, Finally, we think about the recent world economy.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門B 基幹科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスキャリアデザインと関連付けてミクロ経済学の基礎について学びます。キャリアは個人の選択により形成されますが、その選択のメカニズムを「経済学」の視点でとらえます。経済学は、完全に競争的な市場の中で、個人や企業が合理的に行動するという前提を議論がなされ、基本的なメカニズムを理解することは重要です。しかし、理論通りの完全競争的な市場になることは稀です。また人間の行動は不合理と思えることの方が多く、なぜ合理的でない行動をとってしまうのか、に関しても最近注目されている「行動経済学」で解釈することができます。経済学という「お金」の側面を思い浮かべがちですが、恋愛や家族形成、職場での男女差別など身近なトピックも取り上げながら議論を進めます。

【到達目標】

キャリアデザインについて、ミクロ経済学と関連付けながら総合的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントのスライドを用いた授業を行います。学習支援システムで資料を配布するので、この資料を必ずプリントアウトして出席してください。資料がないと授業の理解が難しくなります。また、欠席した場合には、内容を確認しておいてください。

授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡するので、随時学習支援システムでの確認をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明、ミクロ経済とは何か。
第 2 回	市場のメカニズム①分業と市場	経済学的に考える基礎である「競争的な市場」とは何か。市場の前提としての分業の構造について。
第 3 回	市場のメカニズム②消費者の行動を考える	経済学では、市場の中で、個人は合理的に行動すると考えます。つまり個人は損得を判断して行動するわけですが、そこには個人の好み（選好）も関わります。個人が商品やサービスを求める行動について考えます。
第 4 回	市場のメカニズム③企業の行動を考える	利潤を追求するのが企業の目的です。企業は資本設備をそろえ、労働者を雇用して生産活動を行う経済主体ですが、どのようなメカニズムで企業の行動が決まっているのかを考えます。
第 5 回	市場のメカニズム④価格について考える	需要曲線と供給曲線を用いて、商品の価格や取引量がどのように決定するかについて解説します。オークション、価格弾力性、「タダ」の意味など、価格について掘り下げます。
第 6 回	市場のメカニズム⑤コストと余剰について考える	「損をした」「得をした」と考えますが、それはどのようなメカニズムによるのでしょうか。「恋人と別れた方がいいのか？」というテーマにも「損得」という視点からアプローチします。
第 7 回	市場のメカニズム⑥不完全な市場	経済学では、完全に競争的な市場で合理的な行動がとられる、ということを前提にモデルが考えられますが、実際には市場は不完全なことの方が多くです。不完全な市場について、独占・寡占、情報の非対称性といった点から考えます。
第 8 回	人間の行動を読み解く①「プロスペクト」	成功確率が 70 % の手術を受けますか？。不確実な状況においてどのような意思決定が行われるのかについて、行動経済学による解釈を紹介しします。

第 9 回	人間の行動を読み解く②「ヒューリスティック」	「10 万円のバッグが安い！」と思って購入してしまう。損得を考えずに直感で意思決定（ヒューリスティック）をする場面は多いですが、なぜそのような行動をとってしまうのかについて考えます。
第 10 回	人間の行動を読み解く③「ナッジ」	行動経済学では、「肘をつつく」という意味の「ナッジ」が重視されます。ある行動をとってもらう、あるいはある行動をしないようにしてもらうための仕掛けとして「ナッジ理論」について例を挙げて説明します。
第 11 回	意思決定の実際①結婚、離婚の経済学	結婚、離婚という意思決定について経済学の視点で考えます。
第 12 回	意思決定の実際②出産、子育ての経済学	出産、子育てという意思決定について経済学の視点で考えます。少子化の原因にも触れます。
第 13 回	授業内試験	授業内容の理解度を確認するため、授業内試験を実施する。
第 14 回	試験の解説、授業のまとめ	試験の解説を行い、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小島寛之『世界一わかりやすいミクロ経済学入門』講談社

【参考書】

ディモシー・テイラー [著]、高橋瑞子 [訳]『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』かんき出版。

吉本 佳生 [著]『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業への出席内容で行います。
試験 50 %、授業出席内容（ミニレポート、その内容も重視）50 %。

【学生の意見等からの気づき】

授業の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ビジネスキャリアを理解するという観点で、ミクロ経済の入門をベースにした授業を展開します。人間の行動や意思決定のメカニズムを、経済学的な観点で解釈するとどのようにとらえることができるのか、について考えます。結婚や出産などのライフキャリアも具体例として取り上げて議論を進めていきますので、積極的に授業に参加してください。わからないことはいつでも質問して下さい。

なお、受講者の状況のみで、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn the basics of microeconomics in relation to business career design. Careers are formed by individual choices, and the mechanism of those choices is understood from the perspective of "economics."

【Learning Objectives】 The goal of this course is to gain a comprehensive understanding of career design in relation to microeconomics.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process.

Term-end examination (50%) and in-class contribution(50%).

BSP100MA

ビジネスキャリア入門C

基幹科目

中村 裕一郎

単位数：2 単位 | 開講semester：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：1~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ビジネスキャリア入門として、キャリアデザインと関連付けながら経営学の基礎知識を広く修得することを目的とする。経営学を初めて学ぶことを前提として、企業とはどのようなもので、どのように運営されているかについて平易に講義する。社会人となって企業の一員となる時、あるいは、自ら起業して会社を設立する時に有用な企業経営とはどのようなものであるかを知り、継続して自ら学ぶため、また、ビジネスキャリア領域の科目群を受講するための基礎的な土台をつくることを目標とする。

【到達目標】

経営学に関して基本的な知識を学び身につけること、また、社会や企業について、できる限り経営学的な視点から捉えられるようにすることを学習目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の形態は講義を主とする。講義終了後にリアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーについては翌週の授業でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像と目標、経営学とは何か
第 2 回	コーポレート・ガバナンス	企業は誰がどのように動かしているのか
第 3 回	経営理念と戦略	企業はどんな方針で動くのか
第 4 回	企業の組織	企業はどのような仕組みで動くのか
第 5 回	組織間関係	企業は他社とどのように協力しているのか
第 6 回	モチベーション	社員はなぜ働くのか
第 7 回	リーダーシップ	どのように職場をまとめ、導くのか
第 8 回	研究開発	企業はどのようにモノを開発するのか
第 9 回	人材資源管理	人材（ヒト）の採用、育成、給与の支払い管理
第 10 回	財務と会計	資金（カネ）の管理と業績の管理
第 11 回	日本的経営	日本の企業にはどんな特徴があるのか
第 12 回	国際経営	企業は海外でどのように経営しているのか
第 13 回	中小企業とベンチャー企業	中小企業とベンチャー企業の意義
第 14 回	まとめとキャリアの考え方	これまでの授業のまとめと社会人としてのキャリアの考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の事前準備は 2 時間（シラバスと初回の授業で示される授業計画に応じた参考書の予習）、復習は 2 時間（毎回、配布される資料の復習）を標準とする

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点 30%
- ②期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料の配布、リアクションペーパーの提出は、Google Classroom、あるいは学修支援システムを通じて行うので、パソコンもしくはスマートフォン等の機器を持参すること

【その他の重要事項】

担当教員は、IT 企業において海外駐在やベンチャー企業の育成を含め 30 年以上の実務経験がある。授業ではそうした経験を踏まえた講義を行う

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to broadly acquire the basic knowledge of business administration in relation to career design as an introduction to business careers. On the premise of learning business administration for the first time, an intelligible lecture on what a company is and how it is operated will be given.

(Learning Objectives)

The goal of this lecture is to know what kind of corporate management is useful when you become a member of society and join a company, or when you start a business and establish a company, and to continue learning on your own, and also to create a basic foundation for taking courses in the field.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the reference books according to the class plan for about 2 hours, and also be expected to review distributed materials each time for about 2 hours.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the followings.

Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

BSP100MA

ビジネスキャリア入門D 基幹科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】

本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。
①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点を持つこと
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解すること
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができること以上、3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

14 回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく3つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート（1-1～1-4）、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート（2-1～2-4）、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート（3-1～3-4）、です。受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムーズに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をきいてアドバイスや相談を行って、講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのについて話します。学びに先行して、まず体験からはじめる意義について説明します。
2	(1-1) キャリアデザインを考えるセッション	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをテーマにディスカッションします。
3	(1-2) ビジネスアイデアの創出	やりたいことをビジネスにすることを考えます。課題の提示：学生生活をもっと楽しく、エキサイティングなものにするサービスを考えます。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
4	(1-3) ビジネスアイデアのブラッシュアップ	課題の途中経過をみながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをおこないます。学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。

5	(1-4) ビジネスアイデアに関するアドバイス	ビジネスアイデアの課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。提出されたビジネスアイデア課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
6	(2-1)アントレプレナーシップを考えるセッション	日本におけるスタートアップ企業、アントレプレナーシップをテーマに、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。起業の実際、経営の実際を知る機会を提供します。
7	(2-2) ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート1で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略について解説します。いくつかの課題を取り上げてアドバイスをしておこないます。
8	(2-3) ビジネスモデルと戦略に関するブラッシュアップ	学生がお互いに協力して自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
9	(2-4) ビジネスモデルと戦略に関するアドバイス	ビジネスモデルと戦略の課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。相談された課題の改善点などの解説を行います。
10	(3-1) ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。ビジネスプランをどのようにつくっていくかを解説します。
11	(3-2) ビジネスプランを作る	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをおこないます。
12	(3-3) ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
13	(3-4) ビジネスプランの講評	パート1のアイデア創出、パート2のビジネスモデルに進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
14	web 試験・まとめと解説	ここまでの総括として web 試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。

【参考書】

特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらいたいと思います。
フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。（『Principles of Marketing 14th edition』）
和田充夫他『マーケティング戦略 第4版（有斐閣アルマ）』2012、有斐閣。
石井淳蔵他『1からのマーケティング（第4版）』2019、碩学舎。
スタンフォード大学ハツ・プラトナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の38の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。
デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済、沼上裕『新版わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣、2000年。
伊丹敬之『経営戦略の論理 3版』日本経済新聞社、2003年。
エーベル『事業の定義』千倉書房、1992年。
H. ミンツバーグ『戦略計画 創造的破壊の時代』産業能率大学出版部、1997年。
梶井厚志『戦略的思考の技術 ゲーム理論を実践する』中公新書、2002年。
森岡毅、今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA、2016年。

【成績評価の方法と基準】

①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点が備わったか
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解できたか
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができたか
以上3点について、Web 試験とビジネスプラン課題によって評価します。web 定期試験 40%、ビジネスプラン課題 60%の割合で評価します。成績評価は合計で100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppii、googleclassroom などを使用します。
クリッカー、web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.

In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

[Learning Objectives]

The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued

(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company

(2) Understanding business systems

(3) To be able to apply original ideas to business

Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.

(1) Idea generation part

(2) Strategy building part

(3) Business plan preparation part

[Learning activities outside of classroom]

Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.

(1) Understanding of frameworks related to business strategy

(2) Understanding of business systems

(3) To turn your idea into a business.

The evaluation ratio is 40% for the web-based periodic exam and 60% for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

BSP100MA

ライフキャリア入門A

基幹科目

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。*理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】

- ①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる。
- ②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる。
- ③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。
*コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
2	人生 100 年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生 100 年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
3	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
4	人生 100 年時代のライフキャリア：大学の〈外〉の学び	人生 100 年時代のライフキャリアについて、特に大学の〈外〉の学びについて考える
5	人生 100 年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生 100 年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
6	人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生 100 年時代のコミュニティの多様性を確認する
7	人生 100 年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生 100 年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する
8	人生 100 年時代のライフキャリア：野宿生活とコミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、野宿者コミュニティを学ぶ
9	人生 100 年時代のライフキャリア：福祉・介護コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、福祉・介護コミュニティについて考える
10	人生 100 年時代のライフキャリア：災害とコミュニティ ボランティアの可能性	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、災害とコミュニティ・ボランティアについて学ぶ
11	人生 100 年時代のライフキャリア：若年層のストリート・コミュニティ	人生 100 年時代のライフキャリアの視点から、若者のストリートコミュニティについて学ぶ
12	人生 100 年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生 100 年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
13	人生 100 年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生 100 年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ

- 14 人生 100 年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義のポイントを復習しておく本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔『プロティアン』（2020 日経 BP）

【参考書】

田中研之輔『先生は教えてくれない就活のトリセツ』（2018 ちくまプリマー新書）

【成績評価の方法と基準】

- ① 授業時の感想メモと平常点 50 %
- ② 期末レポート、もしくは、期末試験を実施します。50 %

【学生の意見等からの気づき】

双方型教育にむけて、積極的にソーシャルメディアを授業支援に活用していく。

【その他の重要事項】

例年、大人数での受講となりますが、受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Life Career (community) is a course designed to assist students with the lifelong process of career development. Students will participate in a variety of experiences as a group and individually. This coursework is designed to help students identify and examine their interests, personality, values, self-esteem, critical thinking skills and to use this increased self-awareness to make decisions about majors and careers. This course will emphasize that making an occupational career choice and life planning is a never-ending process subject to and affected by one's personal maturity and environmental changes.

【Work to be done outside of class】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of life career research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP100MA

ライフキャリア入門B

基幹科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【Outline (in English)】

This course deals with people's careers in everyday life, especially, family life and marital relationship and parent-children relationship. Relationship between men and women before marriage is also discussed. Students think of how these relationships are related with individuals' careers in historical contexts and social and cultural backgrounds. Learning objective of this course is to consider career design about family life. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 4 hours per class). Grading criteria are composed of class participation and reports 50% and final exam 50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活におけるキャリアについて。とりわけ家族生活と関係した夫婦や親子の関係性に関するキャリアを扱う。夫婦になる前の男女の関係性や経験も視野に入れる。それらが、時代背景や社会文化背景のなかからいかに個人のキャリアの形成と関係しているかを学ぶ。

【到達目標】

履修前までに意識したことのなかった側面を含めて、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。職業や業績達成だけでなく部分において、家族やパートナーとの関係においても、自己の将来について考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に、10 代後半から 20～30 代ぐらいの年齢段階を、授業で扱う対象とする。履修者にとっての現在のステージや近未来的なライフキャリアに注目することで、より現実的・実践的・当事者的な内容になると考えられる。各回においては、PPTを用いた講義や事例紹介と、それに対する履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料等も利用する。くわえて、私自身の実施した学生調査の結果なども含め、具体的なデータも示し、そうすることで同時代に生活する人たちが実際にどう考え、行動しているか（してきたか）をより実感してほしい。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。なお社会情勢等によりオンライン形式もありえるが、その際は追ってアナウンスするので、初回から学習支援システムを確認すること（リモートの場合はオンデマンドとリアルタイムの併用）。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	交際と結婚①	交際の現状、時代の変遷
3	交際と結婚②	交際と結婚の違いに関する意識、国際比較、男女差等
4	結婚生活①	意識や現状に関する統計・事例
5	結婚生活②	かつてと現在、近代家族
6	結婚生活③	夫婦の生活、働くということ、国際比較等
7	実家との関係①	量的・質的側面、同居・隣居・近居・遠居
8	実家との関係②	嫁姑、自立、親離れ/子離れ、昨今の親役割
9	妊娠・出産①	妊娠生活、その現状
10	妊娠・出産②	里帰り出産、立ち会い出産
11	妊娠・出産③	男性の役割
12	浮気	現状、意識、別居、影響等
13	婚前の男女関係	でき婚、その影響等
14	まとめ	キャリアと家族生活について考えること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること（例：読書課題によるレポート、等）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（齋藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】

必要に応じて適宜解説する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度と小レポート（50%）、期末試験（50%）などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

BSP100MA

ライフキャリア入門C

基幹科目

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリアは、集合的には、職業キャリア以外のすべてであるため、学びや研究の幅が広がる。一方、多様なライフキャリアの学びの最終ゴールは、より良く生きる、つまりウェルビーイング（well-being）を高めるという点で一致している。この授業では、コミュニティ心理学（community psychology）における教育研究の視座に基づきライフキャリアの考え方や質向上の方法について考える。

【到達目標】

- ・現代社会を生きるうえでのライフキャリアについて、幅広い視点から捉えることが出来る。
- ・コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの理論や方法について知り、ウェルビーイング向上のために必要な行動や支援について理解する。
- ・ライフキャリア支援のためのプログラムを計画・評価することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代社会で「よく生きる」、即ちウェルビーイング（well-being）を高めることの意義やそのような生き方を下支えする社会のあり方についてコミュニティ心理学の理論と方法に基づいて考える。生活観やライフスタイルは人それぞれ違い、今後その違いはより一層強まると予想される。そこで、自分自身にフィットする人間・社会環境（コミュニティ）や価値観、アイデンティティの多様性を踏まえたライフキャリアのあり方を学ぶ。この授業では特にコミュニティ心理学（community psychology）の理論と方法をライフキャリアの学びの柱とする。

まずウェルビーイングの考え方を確認し、よく生きるとは何か、どう定義・測定されるのか、さらにウェルビーイングの規定要因は何かなどについて理論や実証研究の知見をもとに考える。そのうえで、コミュニティ心理学における鍵概念とされるエンパワメント（empowerment）や心理的コミュニティ感覚（psychological sense of community）の役割や効果をライフキャリアの質向上の観点から掘り下げていく。さらに予防科学（prevention science）の考え方をもち、様々な生活場面や社会的環境におけるストレスやリスクを予防・回避することの重要性について学ぶ。

またグループ演習として、ライフキャリア支援のあり方について考え、組織やコミュニティといったメゾ・マクロレベルでの実施を想定した介入プログラムを設計する。授業全体を通して、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活かすことにする。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要、成績評価等に関する説明を行う。
第2回	ウェルビーイング①	よく生きる、在る（being well）とはどのようなことを指しているのか。理論的背景を確認する。
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングの測定方法や規定要因について学ぶ。
第4回	ウェルビーイング③	ウェルビーイングの効果について研究結果・事例をもとに学ぶ。
第5回	コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの学びとは何か	コミュニティ心理学の理論と方法に基づき、現代社会でよく生きることを考える。
第6回	コミュニティ心理学の価値観	ライフキャリアの質向上に関連するコミュニティ心理学の概念や価値観について学ぶ。
第7回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚の定義や理論的背景を確認し、コミュニティを心理学的に掘り下げるとはどのようなことを学ぶ。
第8回	エンパワメント	エンパワメントの定義および役割を考える。事例として高齢者の社会参加を挙げる。
第9回	多様性・ダイバーシティ	大学における組織における多様性・ダイバーシティについて考える。
第10回	予防科学①	予防とは何かについて、構造および効果の側面から考える。

第11回	予防科学②	コミュニティ心理学における予防研究について知り、予防的介入の実践方法について考える。
第12回	ライフキャリアの質向上①	ライフキャリア支援の考え方や方法について学ぶ。
第13回	ライフキャリアの質向上②	ライフキャリア支援プログラムのあり方を事例を通して考える。
第14回	まとめ	授業での学びの総括および課題の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※授業内のディスカッションのため、配布資料の指定箇所を必ず読んで授業に参加してください。本授業の準備学習（3時間）・復習時間（1時間）を標準とします。特に事前学習（配布資料の通読）に時間を費やしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、配布プリント、関連資料、演習用ワークシートを使用する。

【参考書】

授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）（30%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（20%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

継続的に分かり易い授業を行う。大教室内でのグループワークにおけるより効率的な運営方法を検討する。

【Outline (in English)】

Life-designing processes and outcomes are involved with many aspects of one's lives, and as such there is a whole spectrum of relevant research and training relating to the fields. Nevertheless, the goal of the fields is one thing in common – maximizing one's well-being. In this class, students will learn how to manage issues about their life-designing processes, so that their well-being can be maximized. We accomplish this goal by learning about theories and methods of community psychology.

Goal

- ・ Obtain broader perspectives concerning how to live a good life in modern society
- ・ Gain Knowledge about a series of life-designing programs that are based on the theories and methods of community psychology
- ・ Know how to evaluate those life-designing programs

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria/Policy:

50 points (%) for finals (paper-and-pencil test and/or a reflection paper)

30 points (%) for group assignments and activities

20 points (%) for class participation and presentations

BSP100MA

ライフキャリア入門D

基幹科目

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、マスコミなどでも「地域の衰退化」「都市の空洞化」などが話題になる。地域や都市を活性化するためには、そこで生活や仕事をする人たちが、生きがいを持ち、その土地の一員としての役割を果たすことが大切である。人の生き方（ライフキャリア）は、地域と密接に関係している。そのことを理解し考えるために、地域において個人が市民としてキャリア形成をはかるとをテーマにする。

【到達目標】

具体的には、「まちづくり」や「市民のキャリアデザイン」の考え方や、各々の実情を理解するとともに、そのあり方について具体的にみる。将来、文化、教育、福祉、ビジネス方面から「まちづくり」に関心のある人たちにとって基礎的知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「まちづくり」に関する基礎的な知識を習得することをはじめ、各地の「まちづくり」の実例をみることや、さらに文化をもちいた取り組みについても紹介する。授業は、講義・ワークショップなどからなる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する
2	民主主義と市民のキャリアデザイン	地域コミュニティや市民のキャリアデザインの考え方を説明する
3	市民活動とまちづくり	NPO について取り上げる
4	市町村合併とまちづくり	平成大合併について取り上げる
5	都市の経営とまちづくり	急速な少子高齢現象が進む地方の現状と取り組みをみる
6	行政改革とまちづくり	現職市長の講演（映像）
7	エコミュージアムとまちづくり	山形県朝日町、長野県大鹿村を事例に説明する
8	観光とまちづくり	住民と行政の協働による地域の活性化（大分県湯布院町を事例にする）を説明する
9	世界遺産とまちづくり	特に石見銀山を事例に取り上げる
10	市民による公立博物館の運営とまちづくり	指定管理者制度の考え方や仕組みとともに、市民が公共施設を運営する特性について説明する
11	「まちづくりとキャリアデザイン」	外部講師講演
12	市民のキャリアデザイン I	文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する
13	市民のキャリアデザイン II	文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する
14	試験（総括を含む）	試験（総括を含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各地のまちづくりの事例や文化施設を見学する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『公立博物館を NPO に任せたら-市民、自治体、地域の連携』（同成社、2012 年）

【参考書】

適宜授業内にて資料を配布。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)

課題レポート (20%)

試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

テーマにもとづき系統的に授業を展開する。

【Outline (in English)】

(Outline)

A person's way of life (life career) is closely related to the region. The aim of this course is to help students acquire the theme of career development for individuals as citizens in the community.

(Learning Objectives)

The goals of this course are designed to provide basic knowledge and skills for those who are interested in "urban development" from the cultural, educational, welfare, and business perspectives.

(Learning activities outside of classroom)

The students will visit examples of community development and cultural facilities in various regions. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following

Normal score (20%), Assignment reports (20%), Examination (60)

CAR100MA

労働法

基幹科目

砂押 以久子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

現在、就労をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において「働き方改革」が推し進められています。

また、正社員と非正規社員の労働条件の格差が問題とされてきました。しかし、非正規雇用に関しては、さまざまな法規制がなされ、現在、改善が図られてつつあるといえます。これに対し、近似、問題とされているのが、非雇用型の就労形態です。非雇用型の就労形態では、労働者とされないで、置かれている立場が弱いものであるにもかかわらず、労働法の保護を受けることができません。このような人々をいかに保護するか、議論がなされ始められています。

このほか、雇用におけるジェンダーギャップの問題も完全に解決されたわけではありません。

また、わが国の生産性が国際的にどんどん低下する中、雇用の流動性なども図られるべきではないか等の議論もなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学び、上記のような雇用をめぐる現代的問題をも検討しつつ、実施の就労の現場で、働く者として不利益を被らないために必要となる知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。

テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次回の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス及び労働法の概要	授業をどのように行うかについての詳細を示します。雇用に関するルールの概要を学びます。
2	労働法の新たな基本理念	労働環境の変化、そして現状への対処について検討します。
3	労働契約の成立	採用内定取消などの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
4	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。
5	労働時間規制	労働時間規制がどのようになされているにもかかわらず、長時間労働が生じてしまう現状について検討します。
6	長時間労働への対策	長時間労働を防ぐために国はどのような制度を用意したか、その内容と問題点を指摘します。
7	残業代不払をめぐる問題	労基法の労働時間規制を免れるための脱法行為をいかに防ぐかについて、検討します。
8	ワーキングライフとプライベートライフ	仕事と生活の調和を図るため、どのような制度が設計されているのかについて学びます。
9	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
10	懲戒制度	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、検討します。
11	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について考えます。
12	正規雇用と非正規雇用	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について検討します。
13	雇用差別	男女差別のない職場とはどのようにしたら構築できるかについて考えます。

14 試験・まとめと解説

授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第6版〕』有斐閣アルマ

【参考書】

菅野和夫『労働法〔第12版〕』弘文堂
別冊ジュリスト『労働判例百選〔第9版〕』有斐閣
『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を実施します。
平常点（リアクション・ペーパーなど）（10％）と試験の点数（90％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を用いるとともに、内容をより理解しやすいようにプリント等の資料を配布するなどして、授業を進めていきます。あまりテーマが多岐にわたりにすぎないよう、中心的テーマに絞って授業を展開したいと考えています。取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じ DVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があることを予め承ていただきました上で、受講するようお願いします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related mattes.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 90%, Short reports : 10%

BSP100MA

ファシリテーション論

基幹科目

鈴木 まり子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、話し合いなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができる対話や議論のスキルを身につけることができます。また、話し合いのファシリテーションにとどまらず、社会的課題の解決に向けた事業や組織の支援・促進において、どのような知恵と技術が必要となるのか事例を通して理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面での授業となる。指定した教科書に従って、講義と演習を組み合わせる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。リアクションペーパー等における気づきや問いかけは授業内で共有し、お互いから学べるプロセスをつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】 オンラインで参加型の場が求められる背景。ファシリテーションとは。 【演習】 チェックイン
2	「ともに社会をつくる関係」を育むソーシャル・ファシリテーションとは	【講義】 ソーシャル・ファシリテーションについて。 【演習】
3	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」空間のデザイン：「しつらえ」を意識し、工夫する	ファシリテートされた体験を振り返る 【講義】 空間のデザイン：フォーメーション、グループサイズ 【演習】
4	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」オリエンテーション、チェックイン	多様な場づくりから学ぶ 【講義】 オリエンテーション：話し合いを方向づける 【演習】
5	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」発問	事例をもとに、オリエンテーションを考える 【講義】 発問：「答え」ではなく「問い」を考える 【演習】
6	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」可視化	考えを深める/広める「問いかけ」をし合う 【講義】 可視化：書きながら、見ながら話し合う 【演習】
7	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」意見の吟味を促す	何をどう可視化するのか 【講義】 議論を可視化する 【演習】
8	話し合いのファシリテーション：オンライン・ファシリテーター体験	議論を可視化する 【講義】 意見の吟味：合意形成に向けての基本的な働きかけ 【演習】
9	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	グループでの合意形成を体験 【講義】 オンラインならではの特徴を理解したうえでスキルとは 【演習】 オンライン・ファシリテーター体験 【講義】 プログラムデザインとは【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①

10	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン③ ワークショップを開催する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク③ グループで考えたワークショップを実践する
12	ソーシャル・ファシリテーションに必要な働きかけ	【講義】 ソーシャル・ファシリテーションに必要な「話し合いのファシリテーション」以外の働きかけとは
13	キャリア・デザインとファシリテーション：実践事例から学ぶ	【講演と質疑応答】 ソーシャル・ファシリテーターからリアルに実践事例を学ぶ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど） また、授業で学んだファシリテーションのスキルと考え方を実践し、その気づきや疑問を次の授業に持ってきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ソーシャル・ファシリテーション「ともに社会をつくる関係」を育む技法 共著：徳田太郎、鈴木まり子
北樹出版
2021 年
1600 円（消費税別）

【参考書】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他 岩波書店
「深い学びを促進する：ファシリテーションを学校に！」青木将幸 ほんの森出版、2018 年
「はじめてのファシリテーション」鈴木康久他、昭和堂、2019 年
「オンライン会議の教科書：意思決定のスピードをあげるファシリテーション・スキル」朝日新聞出版、2020 年

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。
演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

実際にゼミやサークル活動、就職活動などでのファシリテーションの実践から生まれた疑問にもテキストと照らし合わせながら解決策を探る時間も確保する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムのオンライン事業を予定しているため、通信環境が良いことが望ましい。また、グループでの話し合いが多いため、講義以外はカメラ on、マイク on を求めるため、PC の場合もカメラ（外付けウェブカメラなど）機能が必要である。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。オンラインでリアルタイムに開催します。
◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

Learning Objectives

The purpose of this class is to acquire knowledge and techniques for facilitation in meetings, discussions, and other participatory settings. Students will become to understand the definition and effects of facilitation, and acquire skills in dialogue and discussion that will enable meetings, workshops, and discussions to proceed in a meaningful way. In addition, students are expected to understand, through case studies, what kind of wisdom and skills are necessary not only in facilitating discussions, but also in supporting and promoting projects and organizations to solve social issues.

The class will be conducted face to face. The class will proceed through a combination of lectures and exercises according to the designated textbook. Assignments will be submitted and feedback will be provided through the "Learning Support System". The students will share their findings and questions in reaction papers and other materials in the class to create a process where they can learn from each other. Learning activities outside of classroom

Please be aware of how the kinds of discussions (in club activities, seminars, etc.) and workshops you are currently involved in (fun, meaningful, boring, etc.) are conducted. Also, practice the facilitation skills and ideas you learned in class, and bring your insights and questions to the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy

The evaluation will be based on the overall evaluation of participation in the exercises, review sheets, reports, and final examinations. In the former case, students will be asked to write their opinions and impressions on the review sheet as well as their attitude, which will also be evaluated.

Participation in the exercise: 30%, review sheet: 10%, report: 20%, final exam: 40%

BSP100MA

若者の自立支援

基幹科目

大山 宏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのかを検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性がある。また、授業の最後に毎回アクションペーパーの課題を出すこととする。提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。その他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認しておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第 2 回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第 3 回	若者の生きづらさ	若者の生きづらさの諸相
第 4 回	生きづらさの構造	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第 5 回	生きづらさの根幹	生きづらさについての具体的検討
第 6 回	支援対象の設定	支援の対象をどのように設定するか
第 7 回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第 8 回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第 9 回	若者による支援	若者自身による取り組みの位置づけ
第 10 回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第 11 回	若者と社会をつなぐ取り組み	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第 12 回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第 13 回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第 14 回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
 『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
 『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
 『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
 『若者と社会変容』アンディ・ファーロン/フレッド・カートメル・大月書店など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：40%

レポート：60%

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。

また、前年度は毎回の授業で提出してもらいアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

reports : 60%、in class contribution: 40%

CAR100MA

職業選択論 I

基幹科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は今回の授業でフィードバックし、多面的なものを見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

初回の授業はオンラインで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況と早期離職状況
3	各自の問題意識の共有	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
4	新規学卒採用における評価	中途採用と異なる新規学卒採用における評価基準
5	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型雇用・メンバーシップ型雇用の特徴と日本の現状
6	インターンシップを考える	インターンシップの目的・現状・課題
7	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
8	アルバイトから働き方を考える	アルバイトと労働法
9	アルバイトの働き方を改善するには	アルバイト就労の現状と問題
10	職場の問題への向き合い方	職場のトラブルと労働組合の役割
11	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
12	就職活動における客観情報の活用の重要性	「就職四季報」など各種データベースの活用
13	就職・内定をめぐるトラブル	労働契約としての就職・内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
14	初期キャリアとリアリティ・ショック／セーフティネットと転職	初期キャリアの課題／社会保障／転職状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/

・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職

トラブル Q & A』旬報社

・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～2 回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。

オンラインの授業は zoom で行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。zoom の URL は学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 40%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 40%

CAR100MA

ライフコース論

基幹科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアをデザインしようとする上で、個人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、それに対して社会にはどのようなリソースがあるのかについて、基礎的な知識を獲得します。特に、従来「ライフサイクル＝人生の周期」という言葉で人生がとらえられてきましたが、人生は一人ひとりユニークなものであり、あるパターンが繰り返されるわけではないことから、「ライフコース」が注目されるようになってきた背景を踏まえ、「ライフコース」の意味や概念についての基礎を理解しましょう。その上で、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めるとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチの方法についても理解し活用できるようにします。

【到達目標】

この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とします。ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須となります。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
2	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法
4	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
5	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
6	成人期	家族の形成（結婚）、結婚をめぐる変化、国際比較
7	出産をめぐる変化、少子化の背景	出産行動の変化とその背景、課題
8	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
9	雇用システムと働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
10	女性の就業	女性の就業選択とその背景、課題
11	男性の働き方	男性の働き方の現状、課題
12	就業形態とライフコース	正規・非正規といった就業形態の違いによるライフコースの特徴
13	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
14	まとめ	授業の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして、全体を読んでから授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業で適宜紹介します。

【参考書】

武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（改訂版）』中央経済社。

その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容（ミニレポート形式、内容も重視する）を加味して評価します。期末試験 60 %、平常点 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

様々なデータを紹介して、データの見方、解釈の仕方も学ぶようにします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of "life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the diversity of career patterns that arise in the interaction between individuals and society, and to examine individual lifestyles and social systems.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination (60%) and in-class contribution(40%)

CAR100MA

生活設計論 I (社会保障) 基幹科目

上田 将史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人生には“想定外”がつきものであり、これがスバイスとなり、人生がより豊かなものとなることも珍しくありません。しかしながら、病気や怪我・ハイリスク妊娠・障害・老化・失業・死別などの生活上のリスクについては、一定の知識や備えが必要となります。

我が国の社会保障は、生活の安心や安定のために、各種制度等でリスクを相互に分散し(共助)、さらに対応困難な困窮などの状況に対して受給要件を定め生活保障を行う(公助)ことで、個人の努力(自助)を補完する仕組みを持っています。

昨今の災害や新型コロナの感染拡大等により、日常がリスクと隣り合わせであることをあらためて感じている方も多いのではないでしょうか。本講義では、代表的な社会保障についての基本的な知識を身に着けるとともに、事例等を踏まえながら、困難な問題を抱える方々への支援を行うソーシャルワークやコミュニティ心理学の価値や方法論について学びます。

とりわけ心の問題については、社会的認知こそ広がってきたものの、偏見や差別等も背景にあり、他の障害等と比べ福祉施策が遅れていると言われます。この精神保健の課題についても理解を深めるとともに、少子高齢化による社会保障費の増大を抑制し、複雑化・多様化する福祉ニーズに対応するために国が進める地域包括ケアシステムの構築についてもふれ、誰もが暮らしやすい社会について考えます。

【到達目標】

- ・リスクに耐え得る生活設計を立てるための手がかりを得る。
- ・社会保障制度の目的や機能を理解し、人に説明できるようになる。
- ・ソーシャルワークやコミュニティ心理学の基本的な価値や方法を学び、困難な問題への対処方法の幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は講義形式と演習形式を組み合わせて実施する。
- ・講義形式での情報提供と問題提起などを行い、これを踏まえ、グループディスカッション等を行う。講義内容の理解を深め、実際の生活に関連付けて考えられるよう、適宜ワークや動画視聴の時間なども設ける予定である。
- ・リアクションペーパー等における示唆に富んだコメントや質問については、授業の冒頭等で、適宜、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等に関する説明を行う。
第 2 回	社会構造とライフスタイルの変化	少子高齢化、情報化等を背景にした社会構造とライフスタイルの変化について考察する。
第 3 回	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要、民間保険との違い等を確認し、本講義のテーマを概観する。
第 4 回	生活保護	最低限度の生活を維持できなくなった場合の扶助について理解する。
第 5 回	生活困窮者自立支援制度	生活保護に至る前段階の自立支援策の意義と課題を考察する。
第 6 回	障害者福祉①	障害者総合支援法、障害福祉サービスの概要を理解する。
第 7 回	障害者福祉②	自立支援医療、障害年金、障害者手帳など、心身の不調により障害を抱えた場合の制度を理解する。
第 8 回	介護保険制度①	介護保険制度の概要と、介護保険サービスの概要を理解する。
第 9 回	介護保険制度②	育児・介護休業法で定められた仕事と介護の両立のための制度等を理解する。
第 10 回	医療保険制度	医療保険制度の概要、高額療養費制度、保険外併用療養費制度など、医療費の負担軽減に関する制度を理解する。
第 11 回	年金制度	「高齢」、あるいは「死亡」「障害」など万が一に備える年金制度の概要を理解する。
第 12 回	雇用保険制度、労働者災害補償保険	失業・雇用継続等に関する保険制度について理解する。

第 13 回 権利擁護

高齢者・障害者虐待、悪徳商法・特殊詐欺等にかかる制度、成年後見制度など、主に社会的弱者の権利を擁護するための制度を理解する。

第 14 回 地域包括ケア、地域共生社会

「4つの助(自助・互助・共助・公助)」の基本的な考え方とそれぞれの関係性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考察する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

事前学習：シラバスで次のテーマを確認し、そのテーマに関する最近の話題を調べる。

事後学習：講義で学んだことが、社会の中でどのように位置づけられ、どのような課題を持っているかについて考察する。また、提示された参考文献等に目を通す。

【テキスト(教科書)】

パワーポイント等で作成した資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(30%)、期末レポート(30%)、各回の課題への取り組み(40%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の感想・要望、社会情勢を見ながら講義内容を調整していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義形式については、新型コロナ感染予防対策等を踏まえ、調整していきます(ディスカッションは行わない、ソーシャルディスタンスを保ち、最低限のやり取りにする等)。

【Outline (in English)】

This course introduces representative social security systems, welfare measures for mental disorders and comprehensive community care systems to students taking this course.

The goals of this course are to understand the purpose and function of social security, learn about the values and methodologies of social work and community psychology to support people with problems, and make life plan that can deal with risks.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Mid-term report: 30%, in class contribution: 40%

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計） 基幹科目

林 奈生子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道のりで重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の想像する未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大です。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのようにライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのかを考えます。

【到達目標】

本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために、①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義 ②それらと「お金」の関係性 ③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識 ④仕事を選ぶ際の留意事項 ⑤未来社会の予測 などについて考え学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。

*授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。教材は各自で授業に持参してください。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】でも回答します。

*オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報と zoom の URL・ID・パスワードを学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業での資料の閲覧、プレゼンテーションには zoom の共有画面を使用します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～未来の自身を想像してみよう～	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、将来のなりたい自身の姿を考えてみる。
2	生活設計の考え方と必要性 ～自分らしく、納得できる人生を歩む～	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
3	ライフプランとファイナンシャルプランの関係 ～人生にも計画が必要な理由～	人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯について、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
4	ライフイベントとお金 ～人生設計図を作る～	自身のライフプランから実際にどのくらいのお金が必要になるのかを算出する。
5	お金の使い方と価値観の関係性 ～今の自分を映す家計簿～	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にしているのか、価値観がどのようにお金の使い方に関与しているのかを知る。
6	予算の立て方とお金の基本知識 ～何もしなければお金は奔放（ほんぼう）に動く～	予算を立てることの重要性について学ぶ。お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際の留意事項を知る。
7	貯蓄型金融商品 ～お金管理のスタートライン～	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。
8	リスクとリターン ～損得の分かれ道～	具体的な金融商品を使って自身で計算し考えることを通してリスクとリターンの基礎知識を学ぶ。

9	自身を守る金融知識 ～後悔しないためのポイント～	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法、トラブルに合わないために知っておきたいことなど、自身を守るための金融知識を学ぶ。
10	仕事選びと幸福感 ～自身と仕事のマッチングはどこで見えるのか～	仕事と幸福感の関係性やどのように仕事を選べば自身の幸福感が増すのかを「組織と組織目標」の観点から考える。
11	企業活動と消費者 ～わたしたちはなぜ衝動買いをするのか～	企業目的とわたしたちの消費の関係を消費者購買行動の観点から学ぶ。
12	研究課題「未来予測 2040」	過去、どのように私たちは未来社会を予測してきたのか。いくつかの事例を紹介した後、自身で未来予測を考える。
13	研究課題のプレゼンテーション	第 12 回の研究結果を発表し意見交換をする。
14	「未来予測 2040」と自身のライフプラン、まとめとレポート提出の説明	「未来予測 2040」のプレゼンテーションを通して自身が目指すべきライフプランとは何かを再考し本授業全体のまとめとする。また、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。なお、大学より『大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上』とのことですので、準備学習・復習各 2 時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要場合は授業で紹介いたします。

【参考書】

必要場合は授業内で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出：70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）：30%とします。

レポート提出の詳細は次の通りです。

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5
4. 提出期間：第 14 回授業日の 14 時 50 分から翌週木曜日の 14 時 50 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出。
6. 留意事項
 - (1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
 - (2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
 - (3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
 - (4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
 - (5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の本授業への率直な意見をまとめた結果が以下です。

<講義や演習について>

* ゴザ・キャリアデザイン学部の講義"という感じだった。

* 本当に必要なものが何かを考えるようになった。

* お金の知識はリスクや問題から自分を守ることにつながり大切だと感じた。

* 自分の価値観と企業目的の関係を考えたことは就職に対し新しい観点を得られた。

* 就職活動で自分の 5 年後、10 年後のキャリアを考える機会が増えたので、未来予測の課題がとても身近に感じた。

<授業運営について>

* ストレスのない授業だった。

* オンライン授業でも前のめりで受講できた。

* 他人の意見を聴くことで自分だけでは気づかないような発見があった。

本結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそような授業内容、運営にしたいと考えています。加えて引き続き受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

zoom の共有画面を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの実務経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture focuses on the significance of modern life design, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. It covers issues of job selection, teamwork and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

In addition, since the Hosei university says, "In view of the university establishment standards, the preparation / review time is 4 hours or more for each lecture and practice (2 credits)", so the preparation / review time is 2 hours each.

【Learning Objectives】

In this class, the goal is to formulate your own life plan after understanding the relationship between "money," "work," and "values."

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

70% for report submission, 30% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々に教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。課題等の配布は「学習支援システム」、提出は授業内で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。現在、対面での授業を予定していますが、コロナの感染状況やゲスト講師の方の基礎疾患などを踏まえてオンラインで講義することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第 3 回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第 4 回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第 5 回	ゲスト講師①	NPO 分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第 8 回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）
阿川佐和子『聞く力 心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50 %）と最終講義日に提出するレポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

振り返りなど、業界や職業知識の解説を適宜行い、理解を深められるようにする。ゲスト間の仕事観の違いなどを説明する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PC の持ち込みは可能です。

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション (信頼関係) づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (前半)。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (後半)。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
14	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではウェブシステムを利用しながら進めていくため、原則としてパソコン、タブレットなど、ICT 機器を持参すること。

【その他の重要事項】

半期で欠席は 2 回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course is designed to equip students with the communication skills necessary for supporting the professional growth of others. Upon completion, students should have the ability to:

- ・ Effectively apply listening and questioning techniques,
- ・ Communicate with assertiveness,
- ・ Facilitate group discussions through effective facilitation,
- ・ Develop and present workshop-style programs.

Students should plan to allocate more than four hours of study time per class. Grades will be determined based on reports (50%) and in-class contributions (47%).

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション（信頼関係）づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（前半）。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する（後半）。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
14	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 0 時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

半期で欠席は2回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以上の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course is designed to equip students with the communication skills necessary for supporting the professional growth of others. Upon completion, students should have the ability to:

- ・ Effectively apply listening and questioning techniques,
- ・ Communicate with assertiveness,
- ・ Facilitate group discussions through effective facilitation,
- ・ Develop and present workshop-style programs.

Students should plan to allocate more than four hours of study time per class. Grades will be determined based on reports (50%) and in-class contributions (48%).

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション (信頼関係) づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (前半)。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (後半)。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
14	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

半期で欠席は2回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course is designed to equip students with the communication skills necessary for supporting the professional growth of others. Upon completion, students should have the ability to:

- ・ Effectively apply listening and questioning techniques,
- ・ Communicate with assertiveness,
- ・ Facilitate group discussions through effective facilitation,
- ・ Develop and present workshop-style programs.

Students should plan to allocate more than four hours of study time per class. Grades will be determined based on reports (50%) and in-class contributions (49%).

BSP200MA

キャリアサポート事前指導 展開科目

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション (信頼関係) づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (前半)。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (後半)。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。
14	まとめと振り返り	春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート課題 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

半期で欠席は 2 回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以上の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course is designed to equip students with the communication skills necessary for supporting the professional growth of others. Upon completion, students should have the ability to:

- ・ Effectively apply listening and questioning techniques,
- ・ Communicate with assertiveness,
- ・ Facilitate group discussions through effective facilitation,
- ・ Develop and present workshop-style programs.

Students should plan to allocate more than four hours of study time per class. Grades will be determined based on reports (50%) and in-class contributions (50%).

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
- ・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習（1）	1つ目の校外実習
5	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習（2）	2つ目の校外実習
13	実習報告（2）	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

- ・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
- ・半期で欠席は 2 回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course aims to help junior high and high school students acquire communication skills related to career education.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- To understand the needs, perspectives, and behaviors of others and to be able to relate to others through facilitation,
- To design and demonstrate a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be based on reports (50%) and in-class contributions (50%).

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【Outline (in English)】

This course aims to help junior high and high school students acquire communication skills related to career education.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- To understand the needs, perspectives, and behaviors of others and to be able to relate to others through facilitation,
- To design and demonstrate a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be based on reports (50%) and in-class contributions (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
- ・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習（1）	1つ目の校外実習
5	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習（2）	2つ目の校外実習
13	実習報告（2）	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。

・半期で欠席は 2 回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
- ・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習（1）	1つ目の校外実習
5	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習（2）	2つ目の校外実習
13	実習報告（2）	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

- ・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
- ・半期で欠席は 2 回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course aims to help junior high and high school students acquire communication skills related to career education.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- To understand the needs, perspectives, and behaviors of others and to be able to relate to others through facilitation,
- To design and demonstrate a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be based on reports (50%) and in-class contributions (50%).

BSP200MA

キャリアサポート実習

展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【Outline (in English)】

This course aims to help junior high and high school students acquire communication skills related to career education.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- To understand the needs, perspectives, and behaviors of others and to be able to relate to others through facilitation,
- To design and demonstrate a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be based on reports (50%) and in-class contributions (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
- ・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習（1）	1つ目の校外実習
5	実習報告（1）	1つ目の校外実習の報告をする。全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成（1）	2つ目の実習先の高校の下調べをする。実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成（2）	実習で関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表（1）	完成したプログラムを発表と講評をする（前半の班）。
9	キャリア教育プログラムの発表（2）	完成したプログラムを発表と講評をする（後半の班）。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル（1）	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル（2）	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習（2）	2つ目の校外実習
13	実習報告（2）	2つ目の校外実習の報告をする。全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

【テキスト（教科書）】

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。

・半期で欠席は 2 回まで許容する。3 回欠席したら単位を認めない。15 分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。16 分以上の遅刻は欠席とする。

BSP200MA

キャリア体験事前指導（イン ターン） 展開科目

水谷 敏也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、キャリア体験（インターンシップ）に先立って、働くことに対する意識と理解を高めることを目的とします。グループワークを重ねることにより、自己理解、他者理解、社会経済事象に対する分析力や表現力を養い、社会人基礎力を身につけていきます。

【到達目標】

次の項目を達成することが目標です。

＜実習準備期間＞

(1) 他者との協働により成果を獲得するチームプレーの経験を積むとともに、他者の前で自分の考えを、口頭、文章により適切に表現できる能力を身に着ける。

(2) 実習先の概要を理解し、働く場に対して自分なりの考えをもつ。

(3) 学部の授業で得た理論・知見と、働くという実践とをつないで考える習慣を身に着ける。

＜実習中＞

(1) 自分の関心の強い業界・仕事に対する理解を深める。

(2) 実習先（企業、NPO、および、公共機関等）に対する理解を深める。

(3) 自分の適性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

＜授業形態＞

1. 本講義は、夏休みを行う体験実習の事前準備を行うためのものである。選択必修科目である体験型科目の履修は、本科目、および、秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもっては終了する。

2. 実習先は基本的に夏休みまでに自分で開拓する。ただし、数は多くはないが、大学で用意した実習先もあり、当該派遣者は本人の適性および希望を勘案して決める。

3. 希望者の数が多い場合には選抜を行う。

4. 実習先、実習期間は多様である。6、7月に実習先にコンタクトし、原則として実習は夏休みに行うが、例外もある。

5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談により行う。

＜授業の進め方＞

グループディスカッションを行っていく。4～5名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返し行うとともに、適宜、グループの変更を行う。合わせて、社会で起きているテーマ（ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用、ダイバーシティ、副業と兼業など）に関して、適宜講義を行う。また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス: 授業の概要、評価方法等について説明
第 2 回	グループワーク I（ディスカッション）	「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマに討議
第 3 回	グループワーク I（プレゼンテーション）	①「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマについて発表する。 ②希望先聴取と実習先調整
第 4 回	グループワーク II（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマに討議
第 5 回	グループワーク II（プレゼンテーション）	①「あなたは何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整
第 6 回	企業研究・業界研究の進め方	①業界、企業の見方をレクチャー ②基礎的な知識 ③企業業績、業界の特徴 ④経済・金融に関する基礎知識の習得
第 7 回	グループワーク III（ディスカッション）	「5年後、10年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」についてディスカッション。ダイバーシティに関する理解。

第 8 回	グループワーク III（プレゼンテーション）	「5年後、10年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」について発表。ハラスメントに関する理解。
第 9 回	ゲスト講師との対話①	ゲスト講師との対話①
第 10 回	ゲスト講師との対話②	ゲスト講師との対話②
第 11 回	グループワーク IV（ディスカッション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてディスカッション。講義：賃金とインフレについて。
第 12 回	グループワーク IV（プレゼンテーション）	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてプレゼンテーション。講義：副業・兼業時代について。
第 13 回	インターンシップに向けたグループワーク①前半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆
第 14 回	インターンシップに向けたグループワーク②後半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各自、実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをとる。
・プレゼンテーションの準備には、授業外の時間を割く必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『キャリア体験学習の手引き』

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①授業におけるグループワーク等への取組み姿勢（60%）

②インターンシップ先に対する適切な対応姿勢（10%）

③各種レポートの提出状況、内容（30%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

・問題意識をもって積極的、主体的に取り組むことが要求される。

【キャリアデザイン学部より】

ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要がある。掲示で詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

*Course outline

The purpose of this course is to raise awareness and understanding of work careers prior to the actual internship. Through repeated group work, students will develop self-understanding, understanding of others, and analytical and expressive skills for socioeconomic events.

*Learning Objectives

The goal of this class is to gain experience in collaborative work, develop expressive skills, understand the outline of the company, etc., and apply the theories and knowledge learned at the university.

*Learning activities outside of classroom

You need to devote time outside of class to prepare your presentation. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following. in class contribution: 60%, Attitude toward practice: 10%, Reports: 30%.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（イン 展開科目
ターン）

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア体験事前指導は、キャリア体験（インターンシップ）の学習効果を高めるためにを行います。授業は、働くことに対する意識や考え方を深めることを目的としています。

具体的には、他の学生の考え方を知る、自分を知ること狙いにディスカッション、グループワークをおこないます。また、職業、働くことを深く考えることにより、働くことに対する意識を高めます。また、普段あまり考えたことがない「働く」ということについて、様々な意見のなかで、今の自分の考えをまとめます。

さらに、就業体験に臨み、必要となる基礎知識や考え方を提供します。

【到達目標】

(実習準備期間) 以下3つの項目を目標とします。

1. キャリアをデザインするという意味を学習しキャリア体験学習の意義を自覚すること。

2. 実習先の概要を理解し、働く場である組織について自分なりの考え方を持つこと。

3. 学生モードから社会人モードへの切り替えを図ること。

(実習中) 以下3つの項目を目標とします。

1. 自ら動くことの重要性を実感し実践すること。

2. 実習先の人たちとの人間関係を構築すること。

3. 新しい事象に対する感性を磨き、現場の状況の把握力を高め、同時に現場での問題発見能力とそれを解決する能力の重要性を実感すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

(授業の形態)

1. この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了とします。

2. インターン先は、教員がアドバイスをしつつ自ら開拓します。

3. 希望者の数が多い場合には選抜します。

4. 実習先は多様です。実習期間についても開始・終了時期が異なります。通常6、7月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行いますが、例外も多々ありますのであらかじめ了解しておいてください。

5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談などでおこなっていきます。

(授業の進め方)

グループディスカッションを複数テーマで行います。テーマは授業計画に示してあります。クラスの数により異なりますが、3-4名あるいは5-6名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返しおこなっていきます。グループは頻繁に組み替えます。

グループディスカッションを効果的に実施するために事前の準備としての課題、ディスカッション後の感想コメントを求めることがあります。書き方や内容に関するアドバイスについては、授業ははじめあるいは終わりに全体に対してフィードバックを行います。

面談前の課題については、課題内容に基づいて個別の面談をおこなうことでフィードバックします。

内容によりオンライン、オンデマンドによる授業を適宜実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、実習先の概要	目的、キャリアデザインと体験学習、受講の心構え、社会人モード、実習先の概要、評価の仕方などの説明
第2回	グループワーク I（ディスカッション）	「インターンシップに取り組む問題意識（どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか）」をテーマにグループ討議
第3回	グループワーク II-0（課題）	グループワーク前の準備として「あなたは何のために働くのか？」について各自の考え方を整理してレポートとしてまとめる。
第4回	グループワーク II-1（ディスカッション）	「あなたは何のために働くのか？」をテーマにディスカッション
第5回	グループワーク II-2（プレゼンテーション）	「何のために働くのか？」をテーマについてプレゼンテーション

第6回	グループワーク III-0（課題）	グループワーク前の準備として「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？」について各自の考え方を整理してレポートとしてまとめる。個別面談でインターン開拓状況の把握と開拓方法のアドバイス
第7回	グループワーク III-1（ディスカッション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？」についてグループワーク
第8回	グループワーク III-2（ディスカッション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？」についてグループワーク
第9回	グループワーク III-3（プレゼンテーション）	「組織とは何のためにあるのか？ 組織で働くとき働く人に求められるものは何か？」についてプレゼンテーション
第10回	社会人からみたキャリアデザイン	社会人ゲストを招いて、インターンの意味を中心に、キャリアデザイン、就職活動など幅広く話をお聞きします（リクルートキャリアあるいはマイナビからゲストに来ていただく予定）
第11回	業界・企業研究課題（事前調査）	関心のある業界を定めて情報を集めます
第12回	業界・企業研究課題シェア	調査研究した業界と企業研究をグループでシェアします。
第13回	インターン開拓状況のシェアとアドバイス	先行してインターンを開拓できている人からのアドバイスを全体でシェアします。全体でシェアしてインターン開拓へのマインドセットを形成します
第14回	まとめ（全体シェア）	春学期事前指導の授業とおして学んだこと考えたことについて、各自振り返り全体でシェアします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをおこなってもらいます。先方に向かい面接を受ける場合もあります。「組織とは何か」あるいは「実習先の業界」について調査研究を行ってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。

『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。

『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。

『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。

『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。

『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業課題 60%、業界・研究課題 40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、体験、後期の授業の一貫性を持たせる流れを意識して授業を構成しています。

【その他の重要事項】

この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とはコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。まわりのできごとに気がつき、気をくばり、気がきく人材をめざして欲しいと思います。実習でセンスを磨いてください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜で履修を許可される必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

< Outline and objectives >

This is a lecture to enhance the learning effect of employment experience. The purpose is to deepen your awareness and thinking about work by discussing with others. Group work is done with the aim of knowing the way of thinking and values of others and getting used to collaborative work.

Through this lesson, you will increase your awareness of working by deeply thinking about your occupation and working. By knowing various opinions, you will be able to put together your ideas.

< Goal >

(Preparation period for practical training)

1. To learn the meaning of designing one's career and to be aware of the significance of career experience learning.

2. To understand the outline of the training site and to have one's own ideas about the organization where one will work.

3. To switch from student mode to working mode.

(During the practical training)

1. To realize and practice the importance of self-motivation.

2. To build human relations with the people at the training site.

3. To hone one's sensitivity to new phenomena, to improve one's grasp of the situation in the field, to realize the importance of the ability to identify and solve problems in the field.

< Work to be done outside of class >

The intern will be responsible for gathering information and contacting the client for practical training. In some cases, you may be asked to go to the client for an interview. Students will conduct research on "what is an organization" or "the industry in which the internship takes place. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading criteria >

Each class report 60%

Company research report 40%

BSP200MA

キャリア体験事前指導（イン 展開科目
ターン）

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、働き方をインタラクティブなグループワークと、学外でのインターンシップ経験（短期、中期、長期）を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。就職活動の内定を狙いとしたものではなく、卒業後社会人として生きていくための基礎力を身につけていきます。

【到達目標】

- ① 毎回のグループワークとプレゼンテーションにより、考える力、伝える力、まとめる力を養います。
- ② 企業分析、市場分析、自己分析、などの多角的な分析手法を身につけ、社会洞察力と適応力を磨いていきます。
- ③ インターンシップを通じて、働き方の基礎を学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はインターン実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了する。

○A、B コースの二種類がある。A コースは大学が実習先を準備するもの、B コースは教員の指導のもと自ら期間内に希望する実習先を開拓するものである。*本講義は B コースで実施する。実習先が面接試験を必須としているところも多い。体験することに価値がある。

○実習先は多様である。実習期間も、開始・終了時期も異なる。通常 6、7 月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行く。

授業の密度を高め効率化を図り授業成果を高めるために共同授業の形式も多用する。クラス分けは実習先により決定する。実習先の決定及び実習後の報告は個別に時間をとり面談を実施する。

（授業の概要）

○実習先は教員との面談により決定するが、実習先へのコンタクトや事務手続きは学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。

○実習先を事前に調べ社会人マナーについても基礎的な知識を身につける。

○体験学習を履修した先輩からの話を聞く機会を設ける。

○また君たちが働くことになる日本社会について考える場も提供したいと考えている。

（手続き）

○在学生向け履修ガイダンス後速やかに事前申込書・志望理由書・自己 PR など（予定）の書類の提出が必要である。煩瑣となるが、就活の予行だと考えてほしい。

○なお、キャリア体験学習（C コース）及びキャリア体験学習（国際）との並行履修はできない。

フィードバックは、リアクションペーパーや課題の全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学から社会への移行の基礎理解	大学から社会への移行の基礎理解を深める
2	自己分析とインターンシップ先選定	自己理解ワークを実施するとともに、インターンシップ先を選定する。
3	前半メンバーの面談と実習先の仮決定、インターンシップ先と関連業界の調査、グループワーク	①前半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
4	後半メンバーの面談と実習先の仮決定、実習先と関連業界の調査、グループワーク	①後半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
5	グループワーク発表会①	自己理解での気づきを発表し、議論する。
6	グループワーク発表会②	業界研究での気づきを発表し、議論する。
7	異業種の業界分析①	異業種の業界研究を行う。
8	インターンシップ先外部講師招聘	体験学習を履修した先輩からの話を聞いて質疑応答

9	事前調査のグループ内発表・教員との前半メンバーの個別打合せ I	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との前半メンバーの打合せ
10	事前調査のグループ内発表・教員との後半メンバーの個別打合せ II	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との後半メンバーの打合せ
11	社会人基礎力を培う①	「社会で働くということ」（外部講師の予定）
12	社会人基礎力を培う②	心構え、マナー、電話のかけ方など
13	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワーク	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワークを行う
14	IT・通信関連の業界分析のグループワーク	IT・通信関連の業界分析のグループワークを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の情報収集や実習先へのコンタクト。実習先に関連して民間企業、NPO、公共団体などについて情報の収集と整理。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔 「先生は教えてくれない就活のトリセツ」（2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】

必要資料は適宜、講義内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、報告書（講義内発表+実習に係わる書類作成能力など）20 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は働き方に特化したきわめて実践的な学びの場です。インターンに採用されない経験、インターン先での失敗、上手く行かずに悩む学生もいます。失敗は成長のエンジンです。他の受講者と失敗経験も共有しながら、そこの打開策も練り上げていきますので、働き方を学びたい学生はぜひ、受講してください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct internship of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア体験事前指導（イン 展開科目
ターン）

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験（インターンシップ）に向けた受講生の皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

【到達目標】

（インターンシップ準備期間）

- ①インターンシップの意義や目的の理解
- ②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
- ③インターンシップのための事前準備（インターンシップ中）

- ①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
- ②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること（働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等）
- ③経験を振り返り、教訓にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の指導のもとで、インターンシップ先を原則として自分自身で開拓する「Bコース」（国内）のみを募集します。インターンシップは5日以上、原則として夏休み期間中に体験して頂きます。開拓に向けた支援（ヒントとなる情報の提供や選考に向けたアドバイス等）は惜しみませんので、この機会に是非、自分自身で未知の世界に踏み込み、新しい出会いや経験を獲得する醍醐味を味わってください。なお、応募人数等によっては選考する場合がありますので、予めご了承ください。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング等を織り交ぜた実践的な参加型授業です。主体的、積極的に参加が必須条件だとお考え下さい。受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の目的と概要、インターンシップとは ②自己紹介
第 2 回	インターンシップ先開拓経路に関する情報共有とグループワーク	①インターンサイト等に関する情報の共有と交換 ②インターンシップサイトのグループワーク発表
第 3 回	先輩の事例発表	先輩のインターンシップ開拓事例の紹介
第 4 回	自己分析ワーク	①自己分析の実践 ②インターンシップ先開拓に向けたESの書き方
第 5 回	開拓に向けたグループワーク①意見交換と資料作成	①インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換 ②自身の方針の決定 ③プレゼン資料の作成
第 6 回	開拓に向けたグループワーク②発表	①グループメンバーそれぞれの方針と、グループワークでの気付きや考察に関する発表 ②意見交換
第 7 回	新卒求人広告の提案グループワーク①説明とグループ分け	①グループワークの目的の共有とグループ分け ②開拓の進捗確認
第 8 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク②企業招聘	新卒求人広告コンテンツ提案に向けた、企業の方との情報交換
第 9 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク③提案資料の作成	①提案資料の作成と中間報告準備 ②開拓の進捗確認
第 10 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク④中間報告	①提案の中間プレゼンと意見交換 ②開拓に進捗確認

第 11 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク⑤提案資料の改訂	①中間プレゼンのフィードバックを踏まえた提案資料の改訂 ②最終報告の準備
第 12 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク⑥最終報告と企業による講評	提案の最終プレゼンと企業による講評
第 13 回	最終報告の振り返りとインターンシップに向けた留意点の共有	①最終報告の振り返り ②インターンシップに向けた留意点
第 14 回	インターンシップに向けた進捗確認と所信表明	①開拓の進捗確認 ②インターンシップに向けた所信表明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターンシップの候補となる企業・団体等の情報収集や、企業・団体等へのコンタクト・やりとりが必要になります。インターンシップは、基本的には申込みだけではなく選考を伴いますので、企業・団体等に向向いて面接等を受けることになります。

加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。特に新卒求人広告のコンテンツ提案に関するグループワークは、進捗先の企業訪問や企業とのやりとり、コンテンツや資料の作成など、授業時間外でも準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は当日投影しますが、基本的には紙での配布は行いません（手元でご覧になりたい方はノートパソコンなどで見られるようにご準備をお願いいたします）。資料ファイルは必要に応じて、学習支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出、インターンシップ先の開拓の進め方等）、グループワークの発表（発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度や内容を含む）により評価します。平常点が 50 %、グループワークの発表が 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。

原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。発表等に必要の準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】

この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）を受講条件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したことになります。

この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓することを前提に指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初のコンタクトからインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただけます。

相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにはいかないケースもあり得ますので、予めご了承ください。企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course will support students'active preparation for their career experience (internship) and aid them to obtain better learning outcomes from the internship.

< Learning Objectives >

- 1.Learn the significance and purpose of internship
- 2.Gain practical knowledge about choosing companies to apply for internship
- 3.Preparation for internship

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contribution(50%), and the group work presentation(50%).

BSP200MA

キャリア体験事前指導（プロジェクト） 展開科目

山岡 義卓

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 4/Fri.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、本科目および秋学期に開講される「キャリア体験学習（プロジェクト）」の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

【到達目標】

本授業の目標は次のとおり。

- ①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
- ②グループワークの進め方を身につける。
- ③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
- ④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。

なお、「キャリア体験学習（プロジェクト）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。

- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
- ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
- ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
- ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目および「キャリア体験学習（プロジェクト）」を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点本科目を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第 2 回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法等を説明する。
第 3 回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第 4 回	演習①（課題抽出、整理）	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第 5 回	演習②（課題解決提案、発表）	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第 6 回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第 7 回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第 8 回	協力企業および業界に関する事前調査	企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。
第 9 回	活動計画の作成①	企業担当者や情報交換のうえ実施テーマに合わせて全体の活動計画を作成する。
第 10 回	活動計画の作成②	全体の活動計画を踏まえて必要な作業を確認し、それぞれの実施計画を作成する。
第 11 回	テーマに関する調査①	テーマに関して、企業における現状（商品ラインナップや技術、販路等）を調査する。
第 12 回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第 13 回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第 14 回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

14 回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、中間発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められるということに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせ等は遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】

「キャリア体験学習（プロジェクト）」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

(Learning Objectives)

The goals of this class are as follows:

- Collect information on business activities of cooperating companies and project themes.

- Learn how to proceed with group work.

- Set project goals and create an implementation plan.

- Start the project and get it on track.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Implementation status of assignments in class and attitude toward projects : 50%

Presentation in the 14th class : 50%

BSP200MA

キャリア体験学習（インターン） 展開科目

水谷 敏也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、インターンの経験を振り返り、共有するとともに、さらに働くことに対する意識や理解を深めていくことも目的とします。また、広くキャリアをデザインする力を養います。

【到達目標】

「理論と経験」といわれるように、大学の授業で学んだことは実際の経験を積むことにより一層深まっていきます。実際に働いて得た経験値を軸に、働く場、さらには広く社会に対する理解を深め、人間形成の基礎を築くことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①グループで実践経験を振り返る。
- ②職場体験を振り返り、新たな実践課題に取り組む。
- ③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する
- ④社会で起こっている変化を理解するために、適宜講義を行うことがある。また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り ②秋学期授業の進め方の説明
第 2 回	グループワーク I（インターンシップ振り返り）	①グループでのキャリア体験の共有（各自から報告、他人の体験をノート） ②（10 分間面談）教員に実習先での経験を整理して話す
第 3 回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第 4 回	社会人との対話①	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論①
第 5 回	社会人との対話②	これからの社会、生き方、働き方についてゲストと議論②
第 6 回	業界、企業分析の基礎	業界、企業分析について春学期よりも詳しく説明。講義：コロナ禍でのパラダイムシフト
第 7 回	グループワーク II①	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション①、講義：単独世帯の動向
第 8 回	グループワーク II②	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション②、講義：人手不足問題
第 9 回	グループワーク II③	特定の業界にフォーカスして、過去、現在を分析し、将来についてディスカッション③、講義：ESG と SDGs に関する理解
第 10 回	グループワーク II④	発表資料の作成、最終調整
第 11 回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム 1、2）
第 12 回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム 3、4）
第 13 回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション（チーム 5、6）
第 14 回	1 年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備のため授業時間外に時間をとられることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業におけるグループワーク等への取組み姿勢（70%）
- ②各種レポートの提出状況、内容（30%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C）した場合のみ履修可能

【Outline (in English)】

***Course outline**

The purpose of this course is to share the experience of the internship and also to deepen the awareness and understanding of work career.

***Learning Objectives**

The goal of this class is to deepen our understanding of the workplace and society, and to build a foundation for human development based on the experience gained through actual work.

***Learning activities outside of classroom**

You need to devote time outside of class to prepare your presentation.

Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

***Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 70%, Reports: 30%.

BSP200MA

キャリア体験学習(インターン) 展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、「学び」と「働く場での実践」を PDCA のサイクルを実践することで、自分だけの学びの方法の構築、自分だけの学びの体系を獲得することを目的とします。

授業の中では、就業体験を振り返ることで、自分自身を深く分析し、自らの仕事に対する考え方を身につけます。未来志向の考えを学び、キャリアをデザインする力を身につけます。

【到達目標】

インターン経験 Do を振り返り、その経験を整理しながら改めて、Check:仕事とは何なのか、働くとはどういうことかについて、自分なりに整理することを目的として、授業を進めます。Check および Act を一通り経験することで、実践を通した学びの方法をラフではありますが獲得してもらいたいと思います。また PDCA サイクルのうちに「学び」を取り入れていくことも重要です。経験を軸にした「学び」を行っていくことで、自分という人間を豊かにしていく方法論を身につけていくことが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①グループで実践経験の振り返りを行います(レポートを書くための準備を行います)

②職場体験の振り返りを生かして、新たな実践課題に取り組みます

③レポートの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する。エッセイ課題に関しては、第一次提出されたものに書き直しや修正を指示しますので、何回かのやりとりのあと最終提出となります。

グループ課題に関しては、プレゼンテーション時にそれぞれの課題に対する講評を授業時に行います。

授業の感想コメントについては、次の授業の冒頭で全体に対するフィードバックを行います。また、必要に応じて授業時に個別でフィードバックをします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り(ショートスピーチ) ②秋学期授業の進め方の説明
第 2 回	グループワーク I-1 (インターンシップ振り返り)	グループでのキャリア体験の共有(各自から報告、他人の体験をノート)
第 3 回	グループワーク I-2 (インターンシップ振り返り)	I-1 のグループとは異なるメンバーでもう一度グループワークを行います。できるだけ多くの経験をきくことで多面的な視点を身につけます。
第 4 回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第 5 回	社会人とのトーク①	10 年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト①(20 代の社会人)
第 6 回	社会人とのトーク②	10 年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト②(30 代の社会人)
第 7 回	グループワーク II①	10 年後の自分達が関わる社会における働き方、生き方を自分たちの考えで描き、そこで自分たちはどう働き、どう生きていくのか、どのように生きていくのかを考える。 あるいは、特定の業界にフォーカスして、その業界が 10 年後どのようになっているかを考えて、そこでの働き方がどのようになるのかを考える、というテーマでディスカッション
第 8 回	グループワーク II②	資料収集、調査を実施してテーマ研究を進める。
第 9 回	グループワーク II③	チーム内でディスカッションをして、テーマに関する考え方を深める。
第 10 回	グループワーク II④	発表資料の作成、最終調整を行う。

第 11 回	グループワーク発表①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。(チーム 1、2)
第 12 回	グループワーク発表②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。(チーム 3、4)
第 13 回	グループワーク発表③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。(チーム 5、6)
第 14 回	1 年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返りを行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①授業時間外にインタビューや課題に時間をとられることがあります

②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってください

③働く場として関心ある業界、企業についての情報を種々のメディアによりフォローしてください

④実習先とのコンタクトが継続される場合があります

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。

『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。

『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。

『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP 文庫。

『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。

『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房

【成績評価の方法と基準】

実習実績、実習関連書類の整備、平常点、報告書(レポート)により評価します。

実習実績(インターンの経験)は成績評価の前提条件です。実習関連書類の提出をもって実習をおこなったものと認めます。

そのうえで平常点、毎回の授業課題、報告書(レポート)により評価します。平常点 60%、授業の課題 30%、報告書(エッセイ) 10%です。

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップ経験をしっかりと振り返ることのできる授業構成にしました。

【その他の重要事項】

この授業は自主性・主体性を実社会で試すためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とは連絡をします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得(S~C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This lesson is aimed at building your own way of learning and acquiring your own learning system by practicing the PDCA cycle by "learning" and "practicing in the workplace".

In class, by reviewing the employment experience, you deeply analyze yourselves and learn how to think about your future work.

And you will learn future-oriented ideas and acquire the ability to design careers.

[Learning Objectives]

Reflecting on the internship experience, students will consider the meaning of work and the meaning of work. The goal of the class is to learn how to learn through practice by going through a series of experiences and reflections. The goal is for students to be able to control their own PDCA cycle of experiencing, reflecting, and improving their actions.

[Learning activities outside of classroom]

This class is likely to take up a lot of time outside of class time. You will need time to work on interviews and assignments. In addition to this, please allow time to think carefully about what career design is. Be sure to gather information about industries and companies on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluation will be based on practical training results, submission of practical training-related documents, level of class participation, and written reports. Practical experience is a prerequisite for evaluation. Submission of practical training-related documents is considered to be the completion of the practical training. 60% for class participation, 30% for class assignments, and 10% for written reports. Grading is based on a 100-point scale, with a score of 60 or higher being considered passing.

BSP200MA

キャリア体験学習(インターン) 展開科目

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義では働き方を実践的に学びながら、そこでの失敗経験を共有し、打開策を見つけ出していきます。本講義は大学内/外の相互補完的な学びに特徴があり、卒業後の生き方をデザインしていく力と方向性を学んでいきます。

【到達目標】

- ①働く場・働き方・働く人の多様性を認識する。
- ②実習を言語化する。
- ③働くとは何かを改めて考え、キャリアデザインする意識を明確化する。
- ④伝えるためのインタビューの仕方を学ぶ。
- ⑤キャリアデザインのドライバー(駆動力)を探索する。
- ⑥インターンシップの総括を行い、社会人としての基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

① 実習体験をグループワークにより共有し働く現場の多様性を認識し②体験を教員に対する報告(面接形式)・グループワークでの発言・スピーチ(個人発表)・エッセイ執筆(編集により文集の作成)により言語化し③働くことを講義やグループワークで改めて考察する。グループワークのテーマとしては「エッセイで何を伝えたいか」、「キャリアドライバーを探す」などを予定。④インタビューの仕方をプロから学んだ上で⑤実際にインタビューを行いチームで映像作品などを制作し⑥発表する。グループワークが中心のプログラムである。外部講師の講義も予定するが、あくまでも君たちでつくりあげる授業にしたい。リーダーシップやフォローシップを学び、また聴き方、アサーションやファシリテーションなどのスキルを試す良い機会を提供する。フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	実習の進捗と振り返り	秋学期授業概要の説明と実習の振り返り。実習日誌などの書類作成・提出、グループワークの準備
2	○教員との個別面談(面接形式) I ○グループワーク(実習先での体験共有) I	○3分間スピーチ(教員に実習先の話をもとめる) ○グループワーク「エッセイで何を伝えたいか」を予定
3	○教員との個別面談(面接形式) II ○グループワーク(実習先での体験共有) II	同上 但し、エッセイのテーマを決める。
4	○教員との個別面談 III ○グループワーク制作に向けて I	同上 ○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
5	実習発表会	エッセイを踏まえて実習報告(スピーチ)を行う。
6	グループワーク制作に向けて II	○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
7	講義「働くとは?」	現場で指導されている外部講師をお迎えする(予定)
8	キャリアモデルに学ぶ	現場でインタビューを行い映像を制作されているプロをお迎えする(予定)。
9	新規事業の体験①	新規事業の開発手順・注意点を学ぶ。
10	新規事業開発の体験②	新規事業開発のモデルをつくる
11	新規事業開発の体験③	新規事業開発案を相互に検討し、練り上げる
12	新規事業発表会①	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施する
13	新規事業発表会②	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施し、フィードバックから再検討していく
14	インターンシップ報告会	インターンシップでの学びを報告し、総括していく

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①授業時間外にインタビューやインターンシップに時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

田中研之輔 「先生は教えてくれない就活のトリセツ」(ちくまプリマー新書)

【参考書】

授業内で適宜、伝える

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、報告書(講義内発表+実習に係わる書類作成能力など) 20 % により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前期での実践的な学び、夏期休業期間中のインターンシップ経験を通じて、毎年、後期の本講座では飛躍的な成長をみせてくれます。少人数でインタラクティブに学ぶことの強みを最大限にいかしていきましょう。

【その他の重要事項】

○大変な時代になっている。まずは自分のことを考える。それから他人のことを考えよ。自分のことは自分で決める。生きる覚悟と社会で役に立つという高い志を持たないといけない。
○先が見えにくい時代だといわれている。
経済のグローバル化に加え、格差の拡大、地球環境の悪化など問題は数多い。けれど、いつの時代も変わらないことがある。
それは、社会は人で成り立っているという事実だ。
キャリアデザイン学部では、人のエクスポートを育てている。自分自身を磨き、人の活かし方を学び、人とともにある未来を考える。人の専門家の視点から、さまざまなフィールドを見渡している。ダイヤはダイヤでしか磨けないように、人は人でしか磨けない。だから授業は座学にとどまらない。フィールドワークや体験学習、インターンシップなど、学ぶ分野も幅広い。物事を多角的に観る眼を鍛えるためだ。人について深く学ぶことで、自分自身を客観視する力を身につける。自分と向き合いながら「やれること」と「やれないこと」を見極める。キャリアデザイン学部での学びは、生涯学習の第一歩であり、その積み重ねが、社会で通用する力となる(キャリアデザイン学部のパンフレットを引用)。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得(S~C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey internship outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA

キャリア体験学習(インターン) 展開科目

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業の目的は、夏休み中のキャリア体験(インターンシップ)を振り返って教訓を整理し、これからのキャリアにつなげることです。授業の中で、振り返りのための個人発表やグループワーク、具体的な業界研究を通じて、これからのキャリアについて考えていただきます。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①キャリア体験を通じた気付きの分析
- ②キャリア体験から得られた教訓の整理
- ③キャリア体験を踏まえてこれからのキャリアについて考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、春学期の「キャリア体験事前指導」の修得と所定のインターンシップ体験が受講の条件となります。前半はキャリア体験の振り返りを共有します。後半には、業界研究の一環として、ゲストの招聘(業界は仮のものです)を予定しています。ゲストのスケジュールや受講の状況に応じて、授業計画の一部(対面からオンラインへの変更等)を変更することがありますので、予めご了承ください。課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明 ②社会人基礎力調査 ③グループワークにおけるコンテンツの決定とグループ分け
第 2 回	グループワーク①~コンテンツのフレームワーク決定	①グループワーク(フレームワークの決定と協力依頼事項の決定) ②協力依頼
第 3 回	キャリア体験の報告(IT業界等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑~IT業界等を中心に
第 4 回	キャリア体験の報告(金融・製造業等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑~金融・製造業等を中心に
第 5 回	キャリア体験の報告(サービス業等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑~サービス業等を中心に
第 6 回	キャリア体験の報告(社会貢献・福祉等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑~社会貢献・福祉業界等を中心に
第 7 回	グループワーク②~コンテンツの作成	調査結果の分析と発表資料の作成
第 8 回	グループワーク③~コンテンツの発表	各グループのコンテンツ発表と意見交換
第 9 回	業界研究のイントロダクション	①グループワークの振り返り ②業界研究の目的、方法、スケジュール等に関する解説 ③社会人基礎力のフィードバック
第 10 回	業界研究~ショッピングセンター	企業の実務家の講話と質疑~ショッピングセンターに関わるさまざまな業界
第 11 回	業界研究~コンテンツ業界	企業の実務家の講話と質疑~映像制作業界の現状と、自分自身のキャリア
第 12 回	業界研究~メーカー等	業界研究トライアルの発表~メーカー等
第 13 回	課題発表~情報通信・サービス業等	業界研究トライアルの発表~情報通信・サービス業等
第 14 回	エッセイと社会人基礎力のフィードバック	①エッセイのフィードバック ②インターンシップ前後の社会人基礎力の変化に関するフィードバック

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

インターンシップに関する個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表、エッセイの執筆等、複数の課題への対応が必要になります。

インターンシップ終了後も、インターンシップ先とのやりとりが継続する場合があります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは指定しません。授業の資料は必要に応じて学習支援システムにアップします。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出等)、発表(個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表)、エッセイにより評価します。

発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。

平常点が20%、発表が50%、エッセイが30%です。

【学生の意見等からの気づき】

課題は大変だったけれど有益だったというご意見が多かったので、続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。

原則として対面を実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要な場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】

春学期のキャリア体験事前指導を修得し、所定のインターンシップを完了したことが本授業の受講条件となります(やむを得ない事情により完了の時期が若干ずれ込む場合は個別にご相談ください)。

授業におけるグループワークや発表には、主体的、積極的に参加してください。キャリア体験中にトラブルや先方への迷惑行為等があった場合は、極力早く個別に報告してください。相談のうえ、必要な対応を行って頂きます。

インターンシップ関連の書類(先方の確認印が必要なものを含む)の提出をもってインターンシップの実施を確認しますので、必ず提出してください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S~C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In the class, students are asked to think about their future careers through individual presentations, group work, and specific industry research.

< Learning Objectives >

The purpose of this class is to review the career experiences (internships) during the summer vacation, organize the lessons, and lead to future careers.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions (20%), short reports (30%), and the group work presentations (50%).

BSP200MA

キャリア体験学習（プロジェクト） 展開科目

山岡 義卓

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 4/Fri.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、春学期開講の「キャリア体験事前指導（プロジェクト）」と本科目の両方を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

【到達目標】

本科目の目標は次のとおり。

- ①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
- ②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
- ③これまでの活動を取りまとめ発表する。
- ④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。

なお、「キャリア体験事前指導（プロジェクト）」も含めて以下の 4 点が得られることを到達目標とする。

- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
- ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
- ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
- ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「キャリア体験事前指導（プロジェクト）」および本科目を通じて、約 8 か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第 2 回	企画書の作成	テーマに沿って企画書を作成する。
第 3 回	追加調査	企画書の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第 4 回	企画書のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画書をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第 5 回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第 6 回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第 7 回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。
第 8 回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第 9 回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションの作り方について説明する。
第 10 回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第 11 回	成果報告会リハーサル	成果報告会のリハーサルを行う。
第 12 回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第 13 回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第 14 回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外にも情報収集や営業活動等を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢（50 点）、成果報告書および成果発表（50 点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは「頭を使う」「マネジメントの難しさを感じる」「考える力がつく」等のコメントが見られた。本授業は実践的な授業なので、常に自ら考えて行動することが求められるということに留意すること。

【学生が準備すべき機器他】

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせにおいては遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】

この科目を履修するには、「キャリア体験事前指導（プロジェクト）」を履修していることが条件になります。

企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。

協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will conduct the project and present the results.

(Learning Objectives)

The goals of this class are as follows:

- Continue toward the goal of the project that started in the spring semester.

- End the project so that results can be obtained within the period.

- Summarize the activities and give a presentation.

- Look back on the project and confirm what you have learned.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude toward projects : 50%

Achievement report and final presentation : 50%

BSP200MA

キャリア体験事前指導（国際） 展開科目

御園生 純

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリア体験事前指導（国際）は、キャリア体験事前指導科目の 1 授業であり、海外で日本人を含む各国の人々のキャリアデザインを学び、その現場を実体験することによって、各国のキャリアデザインの歴史と現状、キャリアデザインの国際性・国際化を理解することを授業の目的とする。

ベトナム・ホーチミン市での滞在を通じて、旅行者ではなく生活者としての海外での日々増生活を通じた異文化理解を深める。

【到達目標】

・異文化理解・国際理解とは何か、について、自分なりの回答を見つけること。

・自分と異なるものを理解することについて文化・文化を中核に考察体験する。

・日本・ベトナム両国の間の様々な問題や市民レベルでの交流のあり方について理解を深める。

・ホーチミンでの滞在を通じて生活者レベルでの異文化理解を体得する。

・本研修ではベトナム・ホーチミン市の「ホーチミン市工科大学」(Ho Chi Minh City University of Technology) の日本語学科の学生との共同テーマを設定し、双方で意識調査・聞き取り調査などを行うことで、これからの両国の市民レベルでの国際交流のあり方を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①ベトナムと日本を取り巻く国際環境や国際交流の「光と影」に焦点を当て、それらを両国双方からの視点で分析するため、ベトナムの学生との合同調査を研修の主眼とする。

②応募書類の選考と面接により選抜を行う。

③プログラム経費、往復旅費、滞在費の約半額は、学部が補助する。

④大学が規定する海外渡航保険に入ることを義務とし、大学が規定する自己責任を明記した書類を署名・捺印したうえ提出する。

④学部による補助金の給付は、在籍中 1 回限りとする。

受講対象者について

① 2 年、3 年、4 年生を対象とする。

②指定された体験学習期間フルに参加でき、異文化へ理解への積極性を持った学生であり、相応の社会性があることが前提となる。とりわけフィールドワークなどでは個人的な活動となるため、集団行動よりも個人での活動が主となることを前提に自律的な資質が求められる。

③ IT 機器の活用やコミュニケーションスキルの向上に対して積極的な意思のある学生であること

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	各自自己紹介と本授業履修の動機について履修者同士のディスカッション
2	授業の説明	研修の狙いと目的について ①エクスポージャー理論を踏まえたフィールドワーク ②現地でのヒアリング

3	ベトナムの概要	ベトナムという国のイメージ ジ・・・メディアをつうじて
4	ベトナム理解 (1)	①ベトナムの歴史とベトナム戦争 ②ベトナムと日本の関係
5	ベトナム理解 (2) ことばと文化・ベトナム語を知る、理解する。ベトナム語基礎①	①ベトナムの固有文化 ②ベトナム語の特徴について
6	ベトナム理解 (3)~現代ベトナムを形作る歴史的経緯と社会・経済体制	メディアに描かれるベトナム〜ベトナム戦争/ベトナムの食
7	現地協力校とのディスカッション ベトナム語基礎②	共同研究を行う現地の学生との顔合わせと討議
8	ベトナム語会話①	現地での生活に必要なベトナム語とは
9	共同研究テーマ設定 (1) ベトナム語会話②	研究テーマについての決定と現地での訪問/ヒアリング先の選定
10	共同研究テーマ設定 (2) ベトナム語会話③	研究テーマについての決定と現地での訪問/ヒアリング先の選定
11	ベトナム戦争理解	ベトナム戦争とは？ 映像資料を通じての理解
12	日越双方での意識調査の実施 (1)	意識調査の設問の作成と実施
13	日越双方での意識調査の実施 (2)	意識調査の集計
14	春学期授業総括	意識調査の調査フィールドワークテーマの最終確認/ヒアリング対象の確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ベトナム語学習については毎回の授業で実施した内容を次回授業までに復習しておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

他は授業中に指示します。

【参考書】

授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

遅刻と欠席は 1 回でもあってはならない授業である。

著しく欠席が目立つ場合は海外研修への参加を許可しない。その場合は当然ながら本授業は未履修となる。

●テーマ別プレゼンテーション：50 %

●提出課題：50 %

【学生の意見等からの気づき】

自主性と主体性を重視します。

【その他の重要事項】

【重要】履修にあたっての留意事項

・団体行動ではなく、個人を主体とした研修活動に耐えうること。

・最終目的は現地での研修後秋学期に着手する報告書の策定にある。

・IT 機器・モバイルコンピューティング・ネットワーク技術に対する習得意欲があること

・最新のプレゼンテーション技術の習得に対する意欲があること。

・欠席しないこと

・この研修はベトナムの学生グループとの共同研究活動に主眼が置かれるため、ベトナム滞在中に自律的で主体的な行動と生活を営むことができること

【授業中に求められる学習活動】

C,E,G,H

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

● Course outline

The aims of this lecture is understand the history and current situation of career design and Intercultural understanding in Vietnam,(with students of Hochiminh Technology University),internationalization / internationalization of career design.

● Learning Objectives

- ・ Find your own answer about what is cross-cultural understanding and international understanding.
- ・ Consider and experience culture and culture at the core of understanding something different from yourself.
- ・ Understanding Vietnam's historical and international relations and political and social situations and learning basic Vietnamese
- ・ Deepen understanding of various issues between Japan and Vietnam and how to interact at the citizen level.

● Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare for individual surveys and information gathering instructed during class before class. For learning Vietnamese, review what you did in each class by the next time. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

● Grading Criteria /Policy

Reports:50 %

Submission / presentation of each assignment 50%

BSP200MA

キャリア体験学習（国際） 展開科目

御園生 純

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①前期の国内調査で学んだことを各個人が整理しまとめ、発表する。
- ②12月に予定されている学内発表（ポスターセッション）に向けての準備
- ③研修報告書の作成

【到達目標】

- ・前期での調査活動を踏まえ、研究テーマについての報告書を作成する。
- ・異文化理解について、ベトナムでの体験を踏まえた総括。
- ・異文化理解教育についての先例と理論的土壌についての学習。
- ・年度末の報告会に向けての準備。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前期での学びと現地での体験を振り返り、その成果について各自が発表する。

報告書と学内報告会にむけて、自らの体験を言語化する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	後期授業の概要と各自の作業分担について
2	前期に学んだベトナムの状況の総括（1）	前期に収集した情報の整理と分類について
3	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（1）	日本とベトナムの間における様々な社会問題の整理
4	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（2）	各グループが現地での調査やヒアリングを通じて収集した情報を整理する。
5	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（3）	異文化体験についての整理と日越双方での比較検証を行う①
6	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（4）	異文化体験についての整理と日越双方での比較検証を行う②
7	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題（5）	報告書の章立てと全体構成の骨子を検討する
8	レポート作成（1）	各ワークグループ毎に考えた全体構成案について発表～意見交換をする
9	レポート作成（2）	各グループ毎のレポート概要のプレゼンテーション
10	レポート作成（3）	各グループの執筆原稿をまとめ、最終報告書を完成させる
11	学内発表の準備（1）	発表の骨子と構成の検討
12	学内発表の準備（2）	期末の最終発表会で利用するポスターセッション用の掲示物の内容について検討～決定する

- 13 学内発表の準備（3） 発表の練習とポスターセッションに向けての準備
- 14 学内発表の準備（4） 聴衆に何を訴えるのか、またベトナムと日本・両国の交流の「光と影」についてのように紹介するのか、の検討と精査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終報告書の作成
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 50%
ポスターセッション 25%
報告書作成 25%

【学生の意見等からの気づき】

学生の自主性を求める

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC プレゼンテーションソフト、デジタルカメラ、情報端末

【その他の重要事項】

この科目は海外でのキャリアデザインの現状を学ぶことにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

【履修条件】

本科目は「キャリア体験事前指導（国際）」を習得（S+～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

● Course outline

- ① Each individual organizes, summarizes, and presents what learned in Vietnam.
- ② Preparation for the on-campus poster session.
- ③ Preparation of training report

● Learning Objectives

- ・ Prepare a report on the research theme based on the research activities in the previous term.
- ・ A summary of understanding of different cultures based on the experience in Vietnam.
- ・ Learning about precedents and theoretical soils about cross-cultural understanding education.
- ・ Preparation for the year-end debriefing session.

● Learning activities outside of classroom

Preparation of final report

● Grading Criteria /Policy

participation in class 50%
Poster session 25%
Report preparation 25%

BSP200MA

キャリア体験事前指導 (国際) 展開科目

松尾 知明、郭 艶娜

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインから検討することを目的としている。春学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④グローバルなキャリア (人生) のデザインについて考える。

【到達目標】

①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。② 交流に必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④台湾を事例に、グローバルなキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書や調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾の学生と交流をする。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション 中国語学習①	自己紹介、概要説明 中国語を学ぶ
2 回	台湾事情①台湾の地理 中国語学習②	台湾を旅行するとしたら 中国語を学ぶ
3 回	台湾事情②台湾の歴史 中国語学習③	台湾の歴史を知ろう 中国語を学ぶ
4 回	台湾事情③台湾の政治 中国語学習④	台湾の政治を知ろう 中国語を学ぶ
5 回	台湾事情④台湾の社会 中国語学習⑤	台湾の社会を知ろう 中国語を学ぶ
6 回	台湾事情⑤台湾の経済 中国語学習⑥	台湾の経済を知ろう 中国語を学ぶ
7 回	台湾事情⑥ 歴史や文化の 探訪 中国語学習⑦	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
8 回	台湾事情⑦ 企業訪問 中国語学習⑧	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
9 回	台湾事情⑧ インターン シップ 中国語学習⑨	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
10 回	台湾事情⑨ 台湾の大学生	元智大学学生との交流
11 回	現地体験学習に向けて しおり作成① 中国語学習⑩	しおりの計画 中国語を学ぶ
12 回	現地体験学習に向けて しおり作成② 中国語学習⑪	しおりの編集 中国語を学ぶ
13 回	現地体験学習に向けて しおり作成③ 中国語学習⑫	しおりの完成 中国語を学ぶ
14 回	前期のまとめ 中国語学習⑬	現地体験学習への準備 中国語を学ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・テキストの精読 ・必要な資料収集 ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための 72 章 (第二版)』明石書店

【参考書】

野島 剛 『台湾とは何か』(ちくま新書)

【成績評価の方法と基準】

主体的な参加の姿勢 (30%)、課題の遂行 (70%) などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

台湾との連絡を密にし、元智大学の大学生との交流を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

- ・対象者は、2～4 年生。
- ・この授業の受講希望者は、3 月末のガイダンスに参加し、学部窓口に参加希望を申請するものとする。
- ・受講にあたっては、キャリア体験学習 (国際) の参加条件や現地実習の中止時の対応について十分理解した上で申し込むこと。
- ・参加者は、定員を超えた場合、面接を実施して決定する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Spring semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language, 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, and 4) considering meaning of career design in a global and multicultural society.

【Learning Objectives】

Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) use simple Chinese language as a communication tool, 3) interact effectively with Taiwanese people and college students, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study and prepare presentations. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

BSP200MA

キャリア体験学習（国際） 展開科目

松尾 知明、郭 艶娜

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインについて検討することを目的としている。秋学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④現地体験学習を振り返り、ポスターと報告書を作成する、⑤グローバルなキャリア（人生）のデザインについて考える。

【到達目標】

①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。②交流に必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④キャリア体験学習（国際・台湾）プログラムのポスターと報告書を効果的に作成することができる。⑤台湾を事例に、国際的なキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書やインターネットでの調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤春学期と秋学期で学習した成果物をもとにポスター・報告書づくりを行う。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション ポスター・報告書づくり の計画①	秋学期の授業の見直し ポスター・報告書制作に向けて
2 回	現地体験学習の振り返り ポスター・報告書づくり の計画②	発表と討論 ポスター・報告書制作の計画、役割分 担
3 回	現地体験学習の振り返り ポスター・報告書づくり の計画③	発表と討論 ポスター・報告書制作のテーマの決定
4 回	現地体験学習の振り返り ポスター・報告書づくり の計画④	発表と討論 ポスター・報告書制作の工程表の作成
5 回	ポスター・報告書づくり ①	ポスター・報告書の構成、レイアウト 等の決定
6 回	ポスター・報告書づくり ②	ポスター・報告書の骨格の決定
7 回	テーマ研究発表	現地体験学習からの問い
8 回	ポスター・報告書づくり ③	原稿の整理
9 回	ポスター・報告書づくり ④	原稿のチェック
10 回	ポスター・報告書づくり ⑤	印刷しての校正
11 回	ポスター・報告書づくり ⑥	ポスターの完成
12 回	ポスター・報告書づくり ⑦	報告書の完成
13 回	ポスター・報告書の合評 会	完成したポスター・報告書をもとに学 習の振り返り
14 回	プログラム全体の振り返 り	春学期、現地体験学習、秋学期のま とめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の整理と読み込み。参考文献の読み込み。ポスター・報告書の原稿執筆、編集作業。ポスター発表会への参加。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための 72 章（第二版）』明石書店

【参考書】

野嶋 剛『台湾とは何か』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

主体的な参加の姿勢（30%）、課題、ポスター・報告書づくり（70%）などをともに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ポスターと報告書の作成について、役割分担を徹底する。完成度を高めるために、プロセスや指導を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

・春学期に引き続き、授業は、松尾知明と郭艶娜が分担して担当する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Fall semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language, 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, 4) making a poster and a report and 5) considering meaning of career design in a global and multicultural society.

【Learning Objectives】

Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) interact effectively with Taiwanese people and college students, 3) design and write a poster or a report as a team, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study, reflect on their learning and prepare presentations. They also will be expected to plan, write, edit a poster or a report and prepare for the presentation. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

BSP200MA

メディアリテラシー実習Ⅰ 展開科目

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアリテラシーのコア・コンセプトと映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディアリテラシーの基本原則を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディアリテラシーの基礎を実践的に身につける。

【到達目標】

- ・受講生はメディアリテラシーの概念を理解し、メディアリテラシーの概念を説明できる。
- ・メディアリテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
- ・基本的な映像制作能力を身につけ、メディアリテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

メディアリテラシーの歴史を学び、基礎概念（コア・コンセプト）を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディアリテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは Hoppii を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

この授業は、基本は対面とし、必要に応じて、オンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および必要機器の説明 (Zoom によるオンライン授業)
2	メディアリテラシーの基本	メディアリテラシーの基礎概念を学ぶ
3	メディアリテラシーの原理	メディアリテラシーの基本原則を学ぶ
4	メディアリテラシーの歴史	メディアリテラシーの歴史を学ぶ
5	メディアの読み解きを学ぶ	メディアのジャンルと分析の方法を学ぶ
6	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
7	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ
8	デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
9	現代社会のメディア	広告や PV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ
10	広告メディアとメディア・メッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
11	広告メディアと表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
12	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
13	映像編集の方法	映像編集の基本的な方法を学ぶ
14	公共広告の構想	公共報告絵コンテの発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022 年

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014 年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社、2021 年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』法政大学出版局、2021 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %

授業評価基準（ルーブリック）

・基本

積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する

・発展

メディアリテラシーの 5 つのキークエスションを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人で行える
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

メディアリテラシーの基本を理解することが良い作品制作につながることを理解できた。

【学生が準備すべき機器他】

映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ (DavinciResolve) をインストールしておくこと。 <https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

本授業では動画アップロード用の専用サーバー (OATube) もしくは YouTube を利用する。

【他の授業との関連】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、3 年次以上では「キャリアデザイン学総合演習」を履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

To study the core concepts of media literacy

To explore how the media construct their messages

To learn how to make a Public Service Announcement

The goal of the course is for students to understand the concept of media literacy and the language of video, to acquire video production skills, and to be able to produce short videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.

Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA

メディアリテラシー実習Ⅱ 展開科目

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、メディアリテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、キャリアヒストリーをテーマにしたショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】

- ・メディアリテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
- ・メディアリテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
- ・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像制作を行い、基本的な映像制作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディアリテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
 - ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
 - ・課題等の提出・フィードバックは Hoppii を通じて行う予定。
 - ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
 - ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
- この授業は、基本は対面とし、必要に応じてオンラインとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・公共広告作品上映会	メディアリテラシー実習Ⅰの受講生が作った公共広告映像作品の上映を行う
2	メディアリテラシーとドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
3	メディアリテラシーとドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
4	メディアリテラシーとドキュメンタリーの構造	ドキュメンタリーのシーンやカットの構造を学ぶ
5	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
6	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
7	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
8	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
9	編集の仕方 (1) キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
10	編集の仕方 (2) 編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
11	編集の仕方 (3) 音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
12	編集の仕方 (4) 仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
13	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
14	発表会	制作映像のオンライン発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022 年

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014 年
 坂本・山脇編著『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社、2021 年
 寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』法政大学出版局、2021 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出物 50 %、平常点 20 %

授業評価基準（ルーブリック）

・基本

積極的に授業に参加し、発言する

静止画・動画による映像作品を制作する

締め切りに間に合うように作品を提出する

振り返りレポートを書いて提出する

・発展

メディア・リテラシーの 5 つのキークエスションを理解している

映像の表現技法を説明することができる

絵コンテを作ることができる

映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる

・応用

映像の企画・取材・制作が一人のできる

他者に適切なアドバイスや支援ができる

授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

新型コロナウイルス感染症の影響のため、セルフドキュメンタリーが多かった。今後はより多様な作品が作られることを期待している。

【学生が準備すべき機器他】

映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ (DavinciResolve) をインストールしておくこと。<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】

本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（S～C）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary

To study how to make and evaluate the documentary

The goal of the course is for students to understand the history and concepts of documentary video and to be able to produce short documentary videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.

Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA

地域学習支援 I

展開科目

久井 英輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は体験型選択必修科目として「地域学習支援Ⅱ」とあわせて履修する。「地域学習支援Ⅰ」ではグローバル化、少子・高齢社会化のもとで、住民が自主的な問題解決能力を高め、地域づくりに参加するうえで求められる学習支援のあり方、コーディネーターの役割、ネットワークの形成について学び、実習の準備をおこなうことをねらいとする。

【到達目標】

地域において学習支援が求められる事情、具体的な支援の方法、支援者に求められる専門性について理解する。また、実習にむけて実習先の現状、活動内容など具体的な事情を理解し、個々人の課題意識を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

地域社会において学習支援の専門性が求められる活動分野は、コミュニティビジネス、NPO・ボランティア団体の発展とともに広がりをみせている。地域課題の解決にむけた地域づくり学習、若者自立支援、外国人との多文化共生教育、文化施設が核となったまちづくり、コミュニティ・メディアの活用などについて学び、コーディネーターの役割や専門性について認識を深める。

対面で授業を行う。前半は、各自で文献の講読を中心に、地域社会の現状について理解を深め、後半は、授業内掲示板などを活用し、グループディスカッションを取り入れながら、地域学習支援Ⅱに向けて学習課題を明確にする。

課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体験型選択必修科目としての「地域学習支援Ⅰ」の内容と履修方法、評価についての説明
2	地域学習支援が求められる背景①コミュニティと学習	公共機関、NPO などに加え、地場産業、国際機関などにおいてもコミュニティづくりと学習の必要性が高まっていることを理解する。
3	地域学習支援が求められる背景②支援	日本の政策などを踏まえながら、地域における学習を支援するニーズが高まっていることを理解する。
4	地域学習支援とはどのような仕事か	地域学習を支援するコーディネーターの役割、専門性について理解する。
5	実習指導教員との懇談	実習先の選定・プログラムについて実習指導教員と面談し、実習課題を導出する。
6	生涯学習コーディネーターの役割・地域文化の振興と文化施設	コミュニティの活性化にむけたネットワークづくりとコーディネーターの役割、地域の振興における文化施設の役割について考える。

- | | | |
|----|---------------------------------------|---|
| 7 | 共生のまちづくりと多文化教育、若者の自立支援、コミュニティ・メディアの活用 | 多文化理解、多文化教育の実態と課題を考える。また、学校から仕事への移行の支援や自立支援の活動の実態と課題を考える。さらに、自治体や自治会の広報、コミュニティメディアの多彩な方法と活用について考える。 |
| 8 | グループの形成と課題の設定 | 学習してきたことについてレポートを提出し、自らの課題意識を深める。 |
| 9 | 質問する・観察する・記録する・まとめる技術 | 大学での学びと体験とを結びつける方法について学ぶ。質問したり観察したりしたことを利用可能な資源・データとして記録し、まとめる技術を学ぶ。 |
| 10 | グループ別事例研究① | 実習先に関連する社会的背景、政策、組織の概要など、基礎的な知識について調べる。 |
| 11 | グループ別事例研究② | 実習先に関連する基礎的な知識をもとに、自分たちの実習課題を明確にする。 |
| 12 | グループ発表① | 研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（地域おこし、コミュニティメディア） |
| 13 | グループ発表② | 研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。（若者自立支援、異文化交流、地域文化） |
| 14 | まとめと振り返り | 全体の振り返りとまとめを行い、地域学習支援Ⅱへの意識を高める。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域生涯学習支援のテーマに基づいてデータを収集し、グループでの発表準備をおこなう。分野を選択し、文献やデータを収集し、レポートにまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

- 佐藤一子、2015、「序章 地域学習の思想と方法」佐藤一子編『地域学習の創造』東京大学出版会、pp.1-23
- 寺崎里水・坂本旬、2021、『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』法政大学出版局
- 藤田由美子・谷田川ルミ編著（2018）『外国につながる子ども』『ダイバーシティ時代の教育の原理—多様性と新たなつながりの地平へ』学文社、
- 江口晋太郎（2019）「当事者意識が薄い人々を変えられるか—持続可能な経済圏を生み出すには」保井美樹編著『孤立する都市、つながる街』日本経済新聞出版社
- 山浦晴男（2015）「第一章 分析」『地域再生入門』ちくま新書
- 筒井美紀（2017）「『金網と銅板塀のまち』を再生する」法政大学キャリアデザイン学会『生涯学習とキャリアデザイン』15

【成績評価の方法と基準】

個人レポート 50 %、授業内での発言・提出物の内容 20 %、最終グループレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生はコミュニティとの接点をもつことが少ないので、ボランティア活動の体験や出身地・母校での子どもたちの支援など、意識的に関わる必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットが利用できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット（スマホは画面が小さいため、推奨しません）。

【その他の重要事項】

学部認定資格「地域学習支援士」の必修科目に位置付けられています。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, students learn how to support learning-groups, the way of networking, and the role of coordinator.

Learning Objectives: (1) Understand the background to the need for learning support, specific support methods, and the expertise of supporters. (2) To understand the current situation and activities at the training site, and to form an individual awareness of the issues.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review time should be 2 hours each.

Grading Criteria: Individual reports 50%, class comments and submitted work 20%, final group report 30%.

BSP200MA

地域学習支援Ⅱ

展開科目

久井 英輔、金山 喜昭、児美川 孝一郎、坂本 旬、熊谷 智博、田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地域学習支援Ⅰ」で学んだことを土台としつつ、分野の選択に応じて地域づくり、多文化教育、若者自立支援、地域文化振興、コミュニティとメディアに関する実践的展開の場で実習をおこない、地域学習支援の意義・方法、コーディネーターに求められる能力、専門性について実践的に学ぶ。

【到達目標】

計画した実習プログラムに沿って実習をおこない、現場における学習支援の体験を通じて求められる専門性、プログラム作成やコーディネート能力について習熟する。また実習の終了後、実践を振り返り、自分の役割やコミュニケーション能力の適切性、足りない点などを確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実習は地域の文化施設や学習組織、NPOなどへの訪問、行事・イベント等のサポート、遠隔地における滞在型実習、個々の学習者の支援、フィールド調査など、実習指導教員と現場職員・スタッフの協力によってプログラム作成がなされる。実習参加を通じて地域学習の現場で求められる支援のあり方を体験し、振り返りを通じて専門性について考察をおこなう。担当教員全員が等分に分担して授業を進める。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	実習オリエンテーション	実習先や実習期間、実習の目的等について理解・確認する。(寺崎・金山)
2	実習先に関する事前学習 ①計画をたてる	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(久井・児美川)
3	実習先に関する事前学習 ②実習課題を明確にする	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(田澤・熊谷)
4	実習先に関する事前学習 ③情報収集を行う	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(坂本)
5	実習：地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(久井・寺崎)
6	実習：青年自立支援	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(児美川・田澤)
7	実習：多文化理解、コミュニティ・メディア	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する(熊谷、坂本)。
8	実習：地域文化	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する(金山)。
9	実習のまとめと報告①地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(寺崎、久井)
10	実習のまとめと報告②青年自立支援	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(児美川、田澤)
11	実習のまとめと報告③地域文化	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(金山)
12	実習のまとめと報告④多文化理解、コミュニティ・メディア	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(熊谷、坂本)
13	成果報告レポートの執筆	実習の成果について各自で課題を決定し、レポートを作成する。(寺崎、久井、児美川、田澤)
14	全体の振り返り	地域学習支援の意義や課題、今後の学習課題などについてディスカッションを行う。(金山、熊谷、坂本)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習プログラムの作成、実習期間中の体験記録の作成、実習後の報告書作成など、授業時間外に多くの作業を行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

実習先の領域に即して適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実習中の体験記録作成 30 %
実習報告会における発表・レポート作成 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや授業のレポート内容などの情報を総合的に集約し、担当教員間で進行などを話し合う予定である。

【その他の重要事項】

本科目は「地域学習支援Ⅰ（日本文化と人の生き方Ⅰ）」の単位を習得した場合のみ履修可能です。

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students go to practical training based on the studies in the spring semester. In the class, students are going to review their practical trainings and to prepare for the reports of the achievement.

Learning Objectives: Through practical training in community learning support, students will become familiar with the required expertise, program creation, and coordinating skills.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: Record keeping during the training 30%. Presentation at the debriefing session and report writing 70%.

BSP200MA

多文化教育 I

展開科目

村田 晶子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、受講者の多文化理解力、多文化協働力を高めることを目的とします。受講者は、本科目を通じて、自己の異文化体験を振り返って分析することができるようになります。また、言語文化的に多様な背景をもつ人々と協働し、学び合うことがなぜ大切なのか理解し、自らイニシアティブをとって、文化紹介、国際交流、学習支援を実践することができるようになります。

【到達目標】

本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。
 ・自分の異文化体験を批判的に省察し、言語化することができるようになる
 ・在日外国人が抱える問題を理解し、どのような解決方法があるのかアイデアを出せるようになる。
 ・多文化協働力を高められる
 ・交流活動を企画し、実践することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に対して発表します。
 【課題等に対するフィードバック方法】
 ・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。
 ・課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (4/13)	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第 2 回 (4/20)	留学・英語神話	大学のグローバル化の光と影、留学、英語学習について考える。
第 3 回 (4/27)	日本で学ぶ留学生の視点	留学生の来日動機、来日して抱える問題点について学ぶ。
第 4 回 (5/11)	異文化適応	様々な異文化適応の理論を学ぶ 学内の留学生交流を始める。
第 5 回 (5/18)	「やさしい日本語」は必要か	「やさしい日本語」が提唱されるようになった背景、社会的な意義、具体的な使い方を学ぶ。
第 6 回 (5/25)	外国人労働者をめぐる問題	外国人労働者の在留資格、受け入れの実態、受け入れ制度の問題点について学ぶ。
第 7 回 (6/1)	ステレオタイプについて考える	ステレオタイプのメカニズムを学ぶ
第 8 回 (6/8)	「ハーフ」	「ハーフ」という呼び方について考える。当事者の多様な経験を理解する。
第 9 回 (6/15)	「日本人論」と日本人のステレオタイプ	・「日本人論」を批判的に捉えなおす。 ・プロジェクトのトピックをグループで選ぶ。
第 10 回 (6/22)	ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッション	・ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッションについて考える。 ・プロジェクトの企画書を作成する。
第 11 回 (6/29)	文化紹介プロジェクトの準備	グループに分かれてプロジェクトの準備
第 12 回 (7/6)	プロジェクトの発表 1	発表とディスカッション (グループ 1～3)
第 13 回 (7/13)	プロジェクトの発表 2	発表とディスカッション (グループ 4～6)
第 14 回 (7/20)	教場試験	最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は 2 単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合 1 回につき 4 時間以上上の授業時間外の学習が必要となります。
 学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んできてください。また、課外活動として、留学生との国際交流を行ないます（毎週 1 時間程度）。

【テキスト（教科書）】

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）（2019）『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版（2200 円＋税）

【参考書】

参加者の理解状況に応じて参考書の情報を知らせます。

【成績評価の方法と基準】

・積極的な授業の参加度 25%
 ・課題 35%
 ・最終発表 20%
 ・最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

後半の文化紹介プロジェクトの準備の時間が足りなかったというコメントがあったので、次回はプロジェクトの予告と準備時間をもう少し取りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用の Google Classroom を用いるため、履修者は必ず Google Classroom に第 2 週目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。
 ・授業の出席のチェックに Google Classroom を用いるため、授業には毎回携帯端末か PC を持参すること。

【その他の重要事項】

・第 1 回のオリエンテーション、第 2 回のグループ分けに必ず参加すること。
 1 回目、2 回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならぬ場合には必ず事前に教員に連絡してください。
 ・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育 II」をペアで履修することが単位取得の条件となります。
 ・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】

毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

The course seeks to enhance students' multicultural awareness and understanding of linguistically and culturally diverse groups of people living in Japan. It also aims to develop students' multicultural collaboration skills.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to 1) critically reflect upon their own multicultural experiences; 2) understand the social issues impacting foreign residents; 3) enhance multicultural communication skills; and 4) conduct cultural exchanges.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 20%

Final Paper: 20%

・Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

BSP200MA

多文化教育Ⅱ

展開科目

村田 晶子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は春学期に学んだことを踏まえて、学内や学外の国際交流や支援活動にボランティアとして参加し、その実践を振り返ります。そして文化の多様性を社会の豊かさにつなげる「多文化共生」の在り方を考えます。

【到達目標】

本科目を通じて学生は多文化共生社会に貢献するために何が必要なのか考えを深め、今後の生活、勉学、将来に向けて、自分のボランティア経験をどのように生かすことができるのか、体験的な学びを言語化し、発信、共有することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

* 授業は以下の流れで進めます。

1. 課題の説明

2. グループディスカッションを行なう。

3. Google Classroom から課題を提出する。

* 体験学習期間は参加者の活動 → 振り返り → ディスカッション → 次の応用というサイクルが中心になります。

【課題等に対するフィードバック方法】

・よい振り返りのコメントは全員に紹介し、ボランティア活動に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断、ボランティアプロジェクトの説明
第 2 回	交流活動計画を立てる	国際交流ボランティアの活動計画の作成
第 3 回	海外大学とのオンライン交流の開始	海外大学との交流班は、オンライン合同オリエンテーションに参加
第 4 回	チュートリアル 1	小グループに分かれてボランティア活動の初回の振り返りを行う
第 5 回	チュートリアル 2	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりと、計画の調整を行う。
第 6 回	チュートリアル 3	小グループに分かれてボランティア活動の課題を検討し、改善のための目標を設定する。
第 7 回	チュートリアル 4	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりのサイクルが機能しているかチェックする
第 8 回	チュートリアル 5	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物のテーマを決める。
第 9 回	チュートリアル 6	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション①
第 10 回	チュートリアル 7	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション②
第 11 回	チュートリアル 8	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション③
第 12 回	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて成果発表会の準備を行う
第 13 回	成果発表 1	グループの活動報告（グループ 1～3）
第 14 回	成果発表 2	グループの活動報告（グループ 4～6）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は 2 単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合 1 回につき 4 時間以上の授業時間外の学習が必要となります。授業時間外で、学内の留学生との国際交流、そして各自が選んだボランティア活動をします。

【テキスト（教科書）】

オンラインで自主作成教材を配布

【参考書】

村田晶子（編）（2022）『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）（2019）『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な授業の参加度 25%
- ・課題 35%
- ・最終発表 20%
- ・最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

海外大学との交流プロジェクトを選んだ学生から、時差が生じるため相手と都合を合わせるため大変だったというコメントが挙げられた。オリエンテーションでプロジェクトを選ぶ際に確認をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用の Google Classroom を用いるため、履修者は必ず Google Classroom に第 1 週目の授業までに登録してください。
- ・ハンドアウトが見られるように教室に PC か通信端末を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、2023 年度の春学期「多文化教育Ⅰ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。それ以外で履修できる学生は 2023 年 4 月の段階で秋学期の履修を許可している学生のみです。
- ・第 1 回のオリエンテーション、第 2 回のグループ分けに必ず参加すること。第 1 回目、第 2 回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならぬ場合には必ず事前に教員に連絡してください。

【その他】

ボランティア活動は相手あつての活動です。遅刻やキャンセルは相手にとって大変失礼です。きちんと活動に取り組む時間が取れない学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「多文化教育Ⅰ」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

The course aims to enhance students' multicultural collaboration skills and their awareness of social contributions through international exchange and volunteer activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to apply their collaborative skills to promote social diversity and inclusion.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 20%

Final Papers: 20%

・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

EDU200MA

キャリア研究調査実習 A (行動と意識の測定) 展開科目

蟹江 教子

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

量的調査によって人間の行動と意識を測定するための方法を理解する。具体的には教育や家族、地域に関連したデータを題材として、アンケート調査を行う際の手順や分析方法、効果的な結果のまとめ方について学ぶ。

【到達目標】

- (1) 問題意識を明確化し、仮説やリサーチ・クエッションをたてることができる。
- (2) 先行研究の探し方、既存データの利用方法などを学ぶ。
- (3) 簡単なアンケート調査の作成、実施、分析の手順を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習形式で進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
第 2 回	2 次データ	官庁統計や 2 次分析等で使用することができるデータアーカイブについて紹介する。
第 3 回	尺度	名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度など、尺度の特徴を確認する。
第 4 回	度数分布	都道府県別の大学数などを求め、度数分布表および度数分布図を作成する。
第 5 回	代表値	学力テストデータを用いて、平均値、中央値、最頻値、偏差値などを求める。
第 6 回	散布図と相関	学力や大学進学に影響を与えると考える要因を検討し、2 変数の関係を検討する。
第 7 回	結果の可視化	第 4 回～第 6 回で得られた結果を効果的な図や表にする。
第 8 回	結果報告会	これまでの結果について報告する。
第 9 回	心理尺度	満足度、幸福度など見えないものを測定するための方法について理解する。
第 10 回	心理尺度の作成 (1)	作成したい心理尺度に類似した尺度を調べる。
第 11 回	心理尺度の作成 (2)	簡単な心理尺度を作成する。
第 12 回	調査の実施	作成した心理尺度を用いて調査を実施する。
第 13 回	アンケート分析	仮説に基づいてアンケート分析を行う。
第 14 回	結果報告会	分析結果を報告する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間とする。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

小宮あすか、布井雅人,2018,『Excel で今すぐはじめる心理統計』講談社

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%) とそのプレゼンテーション (20%)、授業への積極的な取り組み (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will understand how to use quantitative surveys to measure human behavior and attitudes. Specifically, the course will focus on data related to education, family, and community, and will cover the procedures and analysis methods used to conduct surveys and how to effectively summarize the results.

【Learning Objectives】

- (1) Clarify the awareness of a problem and formulate a hypothesis.
- (2) Learn how to search for previous research and use existing data.
- (3) Learn how to create, conduct, and analyze a simple questionnaire survey.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process report (50%), presentation of results (20%), and in-class contribution (30%).

EDU200MA

キャリア研究調査実習 B (恋愛の質的研究) 展開科目

大森 美佐

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義は、「恋愛」についての各文献の講読を通じて、問いと調査方法（アプローチ）の関係や先行研究の用い方、調査をする上での倫理的配慮など、社会調査に必要な知識やマナーを学ぶこととする。

【到達目標】

- ・研究テーマと調査方法（アプローチ）の関係を理解する。
- ・調査にあたっての配慮事項を知る。
- ・メディアなどを対象にした調査をデザインし、運用してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するプリントをもとに講義と演習形式を進めていく。テキストは特に使用しない。第 4 回目からは、先行研究の講読を行う。方法については授業内で説明する。なお、毎回、授業の最後に意見や感想を書いて提出してもらい、終盤にはグループ・ワーク、グループ・プレゼンテーションを行ってもらう。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テーマとしての恋愛：授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	質的研究のフレームワーク	なぜ、いかに行うか。質的研究の意義、質的研究と量的研究の違い、質的研究の倫理と手続きなど
第 3 回	研究の視座と分析視覚	質的研究における文献の利用、理論的立場など
第 4 回	歴史から現在を考える①	『婦人公論』などの雑誌の言説分析
第 5 回	歴史から現在を考える②	民族史：当時のインタビュー（口頭データ）を読む
第 6 回	現代の恋愛を捉える①	漫画・雑誌分析
第 7 回	現代の恋愛を捉える②	ビジュアルデータ分析：写真、映画、ビデオ、ドラマなどの分析
第 8 回	現代の恋愛を捉える③	口頭データ分析 半構造化インタビュー、グループディスカッション、縦断調査など
第 9 回	現代の恋愛を捉える③ 恋愛・結婚の国際比較	社会・文化的差異の視点をを用いた研究
第 10 回	研究デザイン①	グループワーク：先行研究を踏まえて研究計画を立てる
第 11 回	研究デザイン②	グループワーク：メディア分析の実践
第 12 回	研究デザイン③	グループワーク：プレゼンテーション資料の作成
第 13 回	学生グループプレゼンテーション①	グループワークの結果報告
第 14 回	学生グループプレゼンテーション②	グループワークの結果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した文献資料は事前に読んで講義に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】

Uwe Flick, 2005, *Qualitative Sozialforschung*, Rowohlt Taschenbuch Verla (= 2011, 小田博志ほか訳『質的研究入門－人間の科学のための方法論 新版』春秋社)

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告・授業への感想文）(50%)、グループ・プレゼンテーション(50%)

【学生の意見等からの気づき】

調査・分析に当てる時間をもっと確保してほしいという過去の受講生の意見を参考に、履修生の人数や進捗状況に合わせてグループワークの時間を調整します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、録音機器（IC レコーダーやスマートフォンなど）

【キャリアデザイン学部より】

この授業は、受講者数 20 名程度を想定した授業です。想定より大幅に受講者が多い場合、抽選を行うことがあります。

【Outline (in English)】

< Course outline and Learning Objectives >

This course provides an introductory overview of qualitative methods with reading previous studies on “romantic love”(=ren-ai). Through this course, students will be expected to learn methodological skills necessary to conduct their sociological research such as a relation of a question and method (approach), usage of the previous research, and ethical considerations.

< Learning activities outside of classroom >

< Learning activities outside of classroom >

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 1 hours for each class meeting. Besides, students need to spend time for researching, analyzing data, and preparing for presentation.

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution 50%, Group Presentation 50%

EDU200MA

外書講読A（発達・教育） 展開科目

福田 紀子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）のテキストから人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重を理解します。

また欧州協議会の人権教材 *Compasito* を通して、人権に関わる市民社会の基本的な概念をどう伝えようとしているのかについてテキストとアクティビティから理解し、自分たちの社会にある人権問題への理解につなげていきます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワーメントなど市民社会と人権に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワーメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中のディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Sphere Handbook as Humanitarian Standards and background	〈この授業の進め方〉この授業の進め方、評価について。人道支援の国際基準から「人権」に基づく考え方、その背景を概説します。
2	Humanitarian Response with Rights Base Approach ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から人権に基づく課題と対応を考えます
3	Compasito- Manual on Human Rights Education for Children Intorduction	欧州協議会の人権教育テキストとアクティビティを紹介し、翻訳を分担します

4	Compasito- Manual on Human Rights Education for Children Preparation for the group presentation	欧州協議会の人権教育テキストとアクティビティを紹介し、分担箇所の打ち合わせを行います
5	1) Citizenship 2) Democracy 3) Discrimination * Activity1	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
6	* Activity1	参加型アクティビティを経験しながらテーマを深めていきます。
7	4)Family and Alternative Care 5)Gender Equality 6)Health & Welfare *Activity2	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
8	*Gender & Sexuality 7)Media & Internet *Activity 3	テーマに沿った概説と問いかけ、参加型アクティビティを経験しながらテーマを深めていきます。
9	*Activitey 4	参加型アクティビティを経験しながらテーマを深めていきます。
10	7)Education & Leisure 8)Environment 9)Participation	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
11	8)Peace 9)Poverty & Social Exclusion 10)Violence	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
12	Intersectionality, Microaggressions, Unconscious Bias, Tone Policing, Outing,etc	現在の人権問題を理解するための必要な概念の整理を身近に描きながら行います。
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について考えます
14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Compasito - Manual on Human Rights Education for Children
<http://www.eycb.coe.int/compasito/>
Microaggressions in Everyday Life /
Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える 1 2 のもの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 5 0 %
翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など）2 5 %
最終レポート 2 5 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと思います。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日を変更することもあります。

なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Students are expected to read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Main text would be the Sphere Standards- Chapter of WHAT'S SPHERE & CORE HUMANITARIAN STANDARD, COMPASITO - A MANUAL ON HUMAN RIGHTS EDUCATION FOR CHILDREN. Students are required to read the distribution documents in the classroom, and prepare the group presentation.

Grading Criteria:

Participation in class, the feedback sheet for each class 50%

Assigned Translation & Group Presentation 25%

Final Report 25%

EDU200MA

外書講読 B (発達・教育) 展開科目

長岡 智寿子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会的な視点から検討するものである。具体的には、本授業の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】

本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日的課題を問直すことを目的とする。とりわけ、成人期の学習の必要性について、開発途上諸国の事例をもとにジェンダーの視点から事例検討を行う。

授業の到達目標としては、下記のとおり。

- ・生涯学習の理念について、国際的な観点から説明することができるようになること。
- ・成人期の学びの必要性を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
- ・授業内で求めた課題に対する講評や解説も行います。
- * 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施]
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施]
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義全体の概要説明をオンラインにて行います。
第 2 回	Background : data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第 3 回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第 4 回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会的視点から理解
第 5 回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第 6 回	Stories of imagination (2) Life skill	Literacy and Life s kills
第 7 回	Stories of imagination (3) human rights	About employment rights with literacy for poor women
第 8 回	Stories of imagination (4) Minority	Women and Literacy in post-conflict
第 9 回	Stories of imagination (5) Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning

第 10 回	Stories of imagination (6) Learning for life	Literacy and learning for young women
第 11 回	Stories of imagination (7) Learning for health	Learning reading, writing and health
第 12 回	Stories of imagination (8) Social empowerment	Community Empowerment
第 13 回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第 14 回	まとめ (試験、解説)	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業で使用する英文資料について、事前に準備学習として必要な箇所目を通しておくことを求めます。また、授業後は、内容の整理、把握を行うことを求めます。各 2 時間を標準としますが、詳細は各回にて説明いたします。

【テキスト (教科書)】

指定テキストは無し。

【参考書】

- 本授業で使用する英文資料は、下記のとおりです。
- ・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』, UNESCO Institute for Lifelong Learning, 2013
 - ・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』, Commonwealth of Learning, 2012
- いずれも Web サイトから入手可能な資料です。(未販売)
詳細については、初回のオリエンテーションの際に説明します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は、授業態度や平常点 (40 %)、期末レポート (60 %) により、総合的に評価します。
積極的に授業に参画されることを求めます。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process report (60%) and in-class contribution(40%).

PSY200MA

生涯発達心理学 I

展開科目

松浦 千春

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、人は生まれてから死ぬまで生涯発達していくことを踏まえて、乳児期、幼児期、児童期、思春期、それぞれの発達特性について学ぶ。また、これまでの知見を、子育てや教育を含めた生活の中で、どのように活用していくことができるのか、事例を通して考える。

【到達目標】

- (1) 乳児期から思春期までの発達特性について、心理学的な視点から述べるができる。
- (2) 乳児期から思春期までの発達特性をもとに、子育てや教育上の事例への対応を考えることができる。
- (3) 自己理解、他者理解を含め、日常生活にどのように活用することができるかを意識しながら学び続ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業形態は原則対面です。変更がある場合は事前に連絡をします。
- ・資料は学習支援システムを通して配布します。
- ・課題へのフィードバックは、提出された回答の中から複数取り上げ、全体へ行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発達とは	心理学よりみた人間の発達を概観する
第 2 回	新生児期・乳児期の発達①	新生児期・乳児期の発達特性について学ぶ。
第 3 回	新生児期・乳児期の発達②	新生児期・乳児期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 4 回	幼児期の発達①	幼児期の発達特性について学ぶ。
第 5 回	幼児期の発達②	幼児期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 6 回	児童期の発達①	児童期の発達特性について学ぶ。
第 7 回	児童期の発達②	児童期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 8 回	思春期の発達①	思春期の発達特性について学ぶ。
第 9 回	思春期の発達②	思春期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 10 回	発達障害①	発達障害の概念について学ぶ。
第 11 回	発達障害②	合理的配慮を含めて生活の中での対応を考える。
第 12 回	幼児期・児童期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、幼児期・児童期の事例について、背景や対応を考える。
第 13 回	思春期・青年期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、思春期・青年期の事例について、背景や対応を考える。
第 14 回	まとめ・試験	授業内試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容、配付された資料、紹介された資料と、自分自身の興味関心とを繋げながら、理解を深めてください。授業の内容を理解するための準備・復習の時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のテキスト（教科書）はありません。

【参考書】

必要な資料、参考になる資料などは、授業の中で配布したり、紹介したりします。可能な限り学習支援システムを通して配付可能なもの、ウェブ上で閲覧可能なものを選択します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）・試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、動画、音声などの視聴覚教材を用います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料の配布、課題の提出には、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

- ・授業を受けるにあたり、情報保障をはじめ、何らかの支援が必要な場合には、適宜申し出てください。事前に記録してある動画には字幕あるいは書き起こしを添える予定です。
- ・授業者は発達支援の臨床が専門のフリーランスです。私設の支援室を設け、0 歳から 15 歳の子どもたちに携わっています。また、都内の小中学校を訪問し、支援者への助言をしたり保護者向の方向への講演会などで家庭内での具体的な関わり方について提案したりしています。
- ・授業がどのような形態で実施されても、この授業の到達目標に変更はありません。理解を深め、知識の活用の幅を広げてください。

【Outline (in English)】

Course outline : In this class, we will learn about the developmental characteristics of infancy, early childhood, childhood, and adolescence, based on the fact that people develop throughout their lives from birth to death.

Learning Objectives : We will also consider through case studies how we can apply the knowledge we have gained so far in our daily lives, including child rearing and education.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class, you will be expected to spend four hours to understand the content.

Grading Criteria /Policy : Final grade will be calculated according to the following process Short report (50%), term-end report (50%).

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。

秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】

学生がその青年期から死に至るまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。

授業は基本的にはリアルに教室で対面で行うがコロナの状況次第ではオンライン（ZOOM）を取り入れる可能性がある。毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第 2 回	アイデンティティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモラトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第 3 回	思春期青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、プロセスの分離個体化などを学ぶ
第 4 回	ひきこもりについて	ひきこもりの実態をデータから把握し、事例からその要因についてさまざまな観点から検討する
第 5 回	精神分析と心理テスト	心理テスト エゴグラムを自らやって自己理解を深める
第 6 回	男性の発達、父性の観点	「鬼滅の刃」から父性について考える
第 7 回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第 8 回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの2つの軸、個としての達成/関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ
第 9 回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第 10 回	成人期の発達とキャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第 11 回	初期～中期キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアについて考える
第 12 回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第 13 回	人間の死とその心理学的特性 死の意味	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 14 回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレスを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連図書の予習、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】

- ・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編 東京大学出版会
- ・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編 東京大学出版会
- ・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
- ・父滅の刃～消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析～（樺沢紫苑）みらいパブリッシング
- ・エヴァンゲリオン心理学（樺沢紫苑）
- ・〈ほんとうの自分〉のつくり方（榎本博明）講談社現代新書
- ・私とは何か 個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想レポート（60 %）

期末レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン利用の場合は、ZOOM 形式の授業を受講できる環境、端末

【その他の重要事項】

青年期から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive, social and emotional aspects of growth .

We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), late adulthood(65-) in the fall semester.

We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved. Students will be able to reflect on their own relationships with themselves, their families, and others from a developmental perspective. By doing so, Students themselves can do growth and development.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

PSY200MA

臨床教育相談論 I

展開科目

土屋 弥生

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談をおこなう上で必要となる基本的な知識、児童生徒理解の手法を学ぶ。また、教育現場における問題、課題について理解を深め、現場での教育相談のあり方について考える。

【到達目標】

- (1) 教育相談をおこなう上で必要な基本的知識を習得する。
- (2) 教育相談をおこなう上で基盤となる児童生徒理解の手法を習得する。
- (3) 教育現場における問題・課題について理解し、主体的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	人間の発達と課題①：乳幼児期から児童期	乳幼児期・児童期の発達と課題について学ぶ。
3	人間の発達と課題②：青年期から成人期以降	青年期から成人期以降の発達と課題について学ぶ。
4	教育相談とは何か	教育相談の対象、位置づけ、目的について学ぶ。
5	教育相談における児童生徒理解の手法①：心理学的理解と現象学的理解	教育相談の現場で用いられる心理学的手法・現象学的手法について学ぶ。
6	教育相談における児童生徒理解の手法②：人間学的理解	教育相談の現場で用いられる人間学的理解の方法について学ぶ。
7	教育相談における児童生徒とのコミュニケーション	教育相談の現場でのコミュニケーションについて、心理学的立場・現象学的立場について学ぶ。
8	教育現場の諸問題と教育相談①：発達障害の理解	教育相談の臨床で必要となる発達障害についての基礎的知識を身に付ける。
9	教育現場の諸問題と教育相談②：発達障害の児童生徒の現状	教育現場における発達障害の児童生徒の現状を理解する。
10	教育現場の諸問題と教育相談③：不登校の児童生徒の現状	教育現場における不登校の児童生徒の現状を理解する。
11	教育現場の諸問題と教育相談④：メンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状	教育現場におけるメンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状を理解する。
12	教育現場の諸問題と教育相談⑤：いじめ問題	教育現場におけるいじめ問題について理解する。
13	教育相談における連携の重要性：児童虐待、家庭の諸問題、保護者との連携	家庭の諸問題、児童虐待などについて学び、教育相談において重要となる保護者との連携について考える。

- 14 まとめ・振り返り：教育相談のあり方について 13 回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習（2 時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2 時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023 年、八千代出版

【参考書】

文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>
 厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
 内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40 %）、期末レポート（50 %）、平常点（10 %）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定です。各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the basic knowledge and methods of understanding students that are necessary for educational consultation.

The aim of this course is understanding of problems and issues in the field of education and to think about practical educational consultation.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to the followings:

-A, To acquire the basic knowledge necessary for providing educational consultation.

-B, To acquire the methods of understanding students which are the basis of educational consultation.

-C, Understand and think independently about problems and issues in the educational field.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際に現場で教育相談をおこなうことを想定して、実践的な内容を学ぶ。児童生徒、保護者との教育相談において留意すべきことを習得し、教育相談のケーススタディを通して具体的な実践について理解する。

【到達目標】

- (1) 児童生徒理解に基づく教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (2) 保護者との教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (3) ケーススタディを通して教育相談の実践について具体的にイメージし、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	教育相談におけるアセスメントと倫理	教育相談におけるアセスメント、プライバシーの保護、守秘義務について学ぶ。
3	児童生徒理解に基づく教育相談①：児童生徒を「見る」（観察）	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒を「見る」ことについて学ぶ。
4	児童生徒理解に基づく教育相談②：児童生徒との対話	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒との対話について学ぶ。
5	保護者の理解：保護者とはどのような存在か	教育相談の基盤をなす保護者理解について学ぶ。
6	保護者との教育相談：児童生徒の成長のための協働を目指す	教育相談において重要な保護者との協働について学ぶ。
7	学校教育現場における諸問題・課題と教育相談	学校教育現場における教育相談の重要性について学ぶ。
8	特別支援教育の現状：通級指導と教育相談	特別支援教育の現状について、おもに通級指導学級と教育相談の関係について学ぶ。
9	現象学的児童生徒理解と教育相談	教育相談の実践において重要な現象学的児童生徒理解について学ぶ。
10	教育相談のケーススタディ①：不登校の児童生徒の理解と対応	不登校の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
11	教育相談のケーススタディ②：発達障害の児童生徒の理解と対応	発達障害の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
12	教育相談のケーススタディ③：緘黙傾向の児童生徒の理解と対応	緘黙傾向の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。

- 13 教育相談のケーススタディ④：いじめについての教育相談
- 14 まとめ・振り返り：教育相談の実践について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習（2時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023年、八千代出版

【参考書】

文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）、期末レポート（50%）、平常点（10%）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定です。各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with practical contents assuming that they actually conduct educational consultation in the field. The aim of this course is to learn what to keep in mind in educational consultation with students and parents, and to understand specific practices through case studies of educational consultation.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A, To think independently about educational consultation based on understanding children and to acquire an attitude that is useful in practice.
- B, To think independently about educational consultation with parents and acquire an attitude that is useful in practice.
- C, Through case studies, to deepen understanding of the practice of educational consultation by imagining it concretely.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅠ 展開科目

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

【到達目標】

学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には教室でリアル対面で行いますが、コロナの状況次第ではオンライン（ZOOM）を利用する可能性もあります。HOPPII をチェックしてください。

毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コロナ禍という変化とキャリア転機	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第2回	キャリア理論では変化への適応をどう捉えるか	変化対応力からみたクランボルツ、ジェラット、シュロスバーク等の理論の紹介
第3回	なぜ今キャリアカウンセリングなのか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第4回	あらためてキャリアカウンセリングとは何か	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア形成支援等の違いについて検討する
第5回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第6回	ゲスト講師	企業の人事部で採用責任者を担当していた経験と事例の紹介
第7回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第8回	ゲスト講師	ヤングハローワークでの経験からの事例紹介
第9回	自律型キャリア、嫌われる勇氣、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第10回	キャリア自律を阻むもの	キャリア自律の阻害要因について考える
第11回	ゲスト講師	大学のキャリア相談員から大学生に多く見受けられる事例の検討課題を提示しレポートを課す
第12回	ゲスト講師	前回の事例検討課題に対する解説を行う
第13回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する

第14回 まとめ

期末レポートの課題のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書
木村周著「キャリアカウンセリング」1997、雇用問題研究会
平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート（60%）

期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン利用の場合は ZOOM が利用できる環境と端末

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:

- interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
- career counseling processes, techniques, and resources
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
- Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.
- Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅡ 展開科目

高橋 浩

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、カウンセリングの理論とその支援原理、そしてキャリアカウンセリングの現場での事例紹介を行いキャリア支援への応用について学習する。仕事は人生において大きな割合を占めるため、そこでの困難や障害を克服するための理論と技法はキャリア形成上不可欠といえる。

【到達目標】

- ・カウンセリングの理論とその技法について論理的に説明できる
- ・キャリア上の問題に対するカウンセリング理論の適用方法を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業です。

事前に、提示した資料でカウンセリング理論を学習してもらいます。

授業当日はキャリアカウンセリングの事例を題材にして、カウンセリング理論に基づいたアプローチについて学びます。この時、グループディスカッションや発表などを行う場合があります。

授業後はミニレポートを提出してもらいます。また授業の冒頭では、前回の授業で提出されたミニレポートをいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較からキャリアカウンセリングの概念を理解する
第2回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリング6ステップ、および対面でのプロセスについて、複数の理論から学ぶ
第3回	カウンセリング理論① 来談者中心療法	来談者中心療法について学ぶ。特に、傾聴、受容、共感、自己一致について学ぶ
第4回	カウンセリング理論② 認知行動療法	認知行動療法の、認知の変容、学習理論に基づいた行動変容について学ぶ
第5回	カウンセリング理論③ 精神分析	精神分析について学ぶ。特に、無意識の意識化について学ぶ。
第6回	カウンセリング理論④ アドラー心理学	アドラー心理学について学ぶ。特に、共同体感覚、責任の分離、目的論について学ぶ
第7回	カウンセリング理論⑤ ブリーフセラピー	ブリーフセラピーの歴史と解決志向アプローチについて学ぶ。特に、解決像を明確化し行動促進する方法について学ぶ
第8回	カウンセリング理論⑥ マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括的・折衷的カウンセリングについて学ぶ
第9回	カウンセリング理論⑦ ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチにおける外在化、ストーリーの変容、働く意味の形成について学ぶ
第10回	カウンセリング理論⑧ グループ・アプローチ	グループワークの考え方、原則、効果、ファシリテーションについて学ぶ
第11回	キャリアカウンセリングの活用分野①—学校領域	学校におけるキャリアカウンセリングの実情について実践者から事例を紹介してもらい、支援のあり方を学ぶ。
第12回	キャリアカウンセリングの活用分野②—企業領域	企業におけるキャリアカウンセリングの実情について実践者から事例を紹介してもらい、支援のあり方を学ぶ。
第13回	キャリアカウンセリングの活用分野③—ダイバーシティ	病気、障害者、性的マイノリティなど、ダイバーシティ支援の実践者から事例を紹介してもらい、支援のあり方を学ぶ。
第14回	試験・まとめと解説	キャリア支援に用いられるカウンセリング理論とその活用方法についてまとめ、その理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示した各種カウンセリング理論の資料を学習してもらいます。授業後は学習したことについてのミニレポートを提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて事前に資料をダウンロードして取得できるようにする。

【参考書】

- ・「キャリアカウンセリング」宮城まり子 駿河台出版社
- ・「キャリア・コンサルティング 理論と実際 カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周 社団法人 雇用問題研究会
- ・「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人 労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】

各授業でのミニレポート 40 % 期末テスト 60 %
(オンライン授業ではミニレポートの提出をもって出席とする)

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムでの質疑についてもリアルタイムで取り上げ補足を行った。事前学習を応用して深く検討できるような双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with the counseling theory and its application to career support.

(Learning Objectives) By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Be able to explain the theory and technique of counseling logically.
- B. Be able to explain how to apply counseling theory to career problems. (Learning activities outside of classroom) Students are expected to understand counseling theories in text before each class meeting, and also to submit a short report on their lessons and questions after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%, Short reports : 60%

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ 展開科目
(ケーススタディ)

宮脇 優子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアカウンセリングの様々な事例(ケース)を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。

まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項-その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景・ニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力(技能)や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】

- ・キャリアカウンセリングの基礎的事項について理解できる
- ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して

- ①現代の産業組織の様相や働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できる
- ②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義を中心として適宜グループワークをおりまぜて進め、ケーススタディ(事例検討)ではケースの見立てのワーク、グループでの意見交換、グループ発表を行います。

・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の初めに前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ全体共有します。また、質問に対するフィードバックも行います。

・第 10 回の講義内容(心理アセスメント)に関連して、希望者はアセスメントツール(キャリア・インサイト)をキャリア情報ルームにて体験していただきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特質を理解する。
第 3 回	働く人を取り巻く環境変化とキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化の経緯を知り、なぜキャリア支援が必要とされているのか、支援者であるキャリアカウンセラーの果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力(技能)・要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的な展開	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な進め方(プロセス)、実践方法を学ぶ。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ①	キャリアカウンセリングのケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R. ロジャーズの理論を学び、若者への就職支援のケースを検討する。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第 9 回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状とキャリア支援のあり方について学ぶ。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義・心理検査の効果的な活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、それらへの理解を深める。
第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。

第 12 回 キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦

ストレス、ストレス・コーピングを学び、職場不適応のケース(管理職編)を検討する。

第 13 回 キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧

職場におけるメンタルヘルス問題への対応、組織開発とキャリアカウンセリングについてケースを通して学ぶ。

第 14 回 まとめと振り返り

これまでの授業の振り返り及び総括のフィードバックを行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の講義に該当するテキスト部分の予習・講義の復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計 4 時間以上を標準とします。

【テキスト(教科書)】

「働く人へのキャリア支援-働く人の悩みに応える 27 のヒント」

宮脇優子編著 金剛出版 2015

【参考書】

「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス-基礎知識と実践」宮脇優子・廣 尚典著 金子書房 2021

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業での学習状況及び参加度) 50%

期末レポート課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

リアルの双方向コミュニケーション等、対面授業の利点を活かし、授業内容へのより深い理解を目指した授業を展開します。

【その他の重要事項】

担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての 20 年の経験で支援してきた人は 5,000 人を超える。

これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実際について、授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling.

The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases. By the end of the course, students should be able to do followings:

- Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.

- Through case studies of career counseling,

① Understand aspects of modern industrial organizations, especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.

② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.

Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

PSY200MA

教育相談

展開科目

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

- ・幼児・児童・生徒の心理的特性や教育的課題を適切に理解する
- ・幼児・児童・生徒の発達の状況を把握しながら教育相談を進めるための基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とリアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第 3 回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第 4 回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第 5 回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第 6 回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第 7 回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第 8 回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 9 回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第 10 回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 11 回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 13 回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第 14 回	外部機関との連携	組織的な取り組みや連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」～」川島書店

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %にて評価。

[※試験は論述試験を含む（持ち込み不可）]

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して調整する

【Outline (in English)】

This course aims to impart fundamental knowledge of educational counseling and organizational strategies to students. Upon completion, students should be able to:

- Comprehend the psychological traits and educational challenges of infants, toddlers, children, and students.
- Acquire essential skills for conducting educational consultations while taking into account the developmental stages of infants, toddlers, children, and students.

Attendance and completion of assigned tasks after each class session are mandatory. Expect to dedicate more than four hours per class to studying. Grades for the course will be determined based on an examination (70%) and in-class participation (30%).

PSY200MA

教育相談

展開科目

児玉 茉奈美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、子どもの理解とかかわりの基本的な視点、子どもが現実にかかえる不適応の問題、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを目指す。

【到達目標】

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
- ・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（リアルタイム配信）。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で、子どもの対人関係の発達について説明する。
第 3 回	不適応の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適応とつまずきを理解し、子どもとのかかわりを考える。
第 4 回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー（対処方略）について説明する。
第 5 回	精神障害	不安障害やうつ病、統合失調症、摂食障害について説明する。
第 6 回	発達障がい	自閉症スペクトラムや ADHD、LD について説明する。
第 7 回	不登校	不登校の子どもの理解するため、その背景や支援について説明する。
第 8 回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 9 回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第 10 回	子ども虐待	子ども虐待を受ける子どもやしてしまう親を理解するため、その背景や支援について説明する。
第 11 回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという3つのアセスメント方法について説明する。
第 12 回	カウンセリングの理論	精神分析療法や行動療法、クライエント中心療法といった、カウンセリングの基本的な理論について説明する。
第 13 回	カウンセリングの実践	教育機関におけるカウンセリングの方法について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	教員同士だけではなく、保護者や関係機関との連携の重要性とその方法について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、テキスト該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒田祐二（2018） 実践につながる教育相談 北樹出版 （2100 円）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %，出席およびリアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、復習のため資料の掲示期間を長くしてほしいという要望に応え、配布資料の掲示は授業期間終了までとする予定である。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

【到達目標（Learning Objectives）】 The goal of this course is to understand the development of children to learn how to deal with their problems.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】 Grading will be decided based on term-end report (50%), short reports in every class (50%).

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋 弥生

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・第 1 回「ガイダンス」

事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。

事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。

・第 2 回「幼児期、児童期の発達」

事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 3 回「青年期の発達」

事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 4 回「成人期の発達」

事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 5 回「カウンセリングの基礎」

事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。

・第 6 回「カウンセリングの技法」

事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。

・第 7 回「教育相談の進め方」

事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。

・第 8 回「非行に関する相談」

事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 9 回「いじめに関する相談」

事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 10 回「不登校に関する相談」

事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 11 回「発達障害に関する相談」

事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 12 回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 13 回「虐待に関する相談」

事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 14 回「外部機関との連携」

事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

土屋弥生『教師と保護者のための子ども理解の現象学』（八千代出版）
文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）、期末レポート（50%）、平常点（10%）とする。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定です。各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

教育相談

展開科目

山上 真貴子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。レポート課題については、授業または「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 3 回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第 4 回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？一人はある日突然大人になるわけではない
第 5 回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第 6 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第 7 回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第 9 回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第 10 回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第 11 回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をする人？
第 12 回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。
第 13 回	外部機関との連携	どんな機関と、どう連携すれば良いか、事例を用いて考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験とその解説、および、後期を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。ただし、希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

【参考書】

春日井敏之ら(編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

授業に対する理解をもとに関連する文献を読み、考察を行う中間レポート(30%)、期末レポート(30%)、および、各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点(40%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。

何かあった時には、早目の報連相を心がけましょう（学期末に相談されても対応できない場合があります！）。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思しますので、このシステムの使い方慣れておくようにして下さい。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

LEARNING OBJECTIVES:

1. Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling.
2. Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
3. Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.

GRADING CRITERIA/POLICY: Grading will be decided based on mid-term paper(30%), term paper(30%), and usual performance score(40%).

PSY200MA

教育相談

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切に授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができますようにします。オンデマンド教材（動画、資料）の提供を行います。

・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

・第1回はオンライン（zoom・リアルタイム）で行います。「講義通信 No.1」で確認してください。

1. 【教育相談の意義及び理論】（第1回～第4回）

・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念

2. 【教育相談の方法】（第5回～第6回）

・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識

3. 【教育相談の展開】（第7回～第14回）

・幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味

・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。

第13回 発達障害に関する相談

自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。

第14回 外部機関との連携

地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文献を読む、また授業中に取り組みだワークシートを用いて復習する必要がある場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】

「教育相談の理論と方法」 会沢信彦編著 北樹出版
文部科学省 「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーへの記載内容、まとめのレポートを採点したものを総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling

Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.

Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋 弥生

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・第 1 回「ガイダンス」

事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。

事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。

・第 2 回「幼児期、児童期の発達」

事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 3 回「青年期の発達」

事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 4 回「成人期の発達」

事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第 5 回「カウンセリングの基礎」

事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。

・第 6 回「カウンセリングの技法」

事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。

・第 7 回「教育相談の進め方」

事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。

・第 8 回「非行に関する相談」

事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 9 回「いじめに関する相談」

事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 10 回「不登校に関する相談」

事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 11 回「発達障害に関する相談」

事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 12 回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 13 回「虐待に関する相談」

事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第 14 回「外部機関との連携」

事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

土屋弥生『教師と保護者のための子ども理解の現象学』（八千代出版）
文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）、期末レポート（50%）、平常点（10%）とする。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

教育心理学

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 4/Fri.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ 対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切に授業を行います。
- 講義の他、文献講読、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学ぶことができますようにします。オンデマンド教材の提供を行います。
- ・ 授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・ 第1回はオンライン（zoom・リアルタイム）で行います。詳細は「講義通信 No.1」を確認してください。
- 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第 9 回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第 10 回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第 11 回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第 12 回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介し、さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。

- 第 13 回 発達障害の理解 発達障害について正しく学び、理解を深めます。
- 第 14 回 発達障害の支援・指導 発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣 2100 円＋税
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや課題（70%）、まとめのレポート（30%）を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Before each class meeting, students will be expected to have read books or documents. After each class meeting, students will be expected to have review worksheet. It takes 4 hours.

Grading will be decided on short reports that students will submit each class meeting(70%), and term-end report(30%).

PSY200MA

教育心理学

展開科目

軽部 雄輝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、子どもの健全な成長と発達、および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には、下記に関するトピックについて扱う。

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、適宜グループディスカッションを取り入れる。各回授業内で出席確認を行うとともに、授業の最後に簡単な課題を提示する。当該課題は google form 等を用いて、基本的に教場で回答することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育場面における発達を理解することの意義を取り上げ、理解する。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児期から青年期における対人関係の発達と課題について理解する。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を中心として、乳幼児期から青年期における認知発達を理解する。
第 5 回	アイデンティティ	乳幼児期から青年期の各時期における発達課題と、アイデンティティとの関連について紹介する。
第 6 回	学習の理論	幼児、児童及び生徒の学習の過程を扱う。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第 7 回	学習の指導	学習指導・生徒指導のあり方を理解する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第 9 回	学習の評価	学習評価・教育評価のあり方を理解する。
第 10 回	記憶の種類	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第 11 回	性格の理解	パーソナリティ研究の観点から、幼児、児童及び生徒の特徴を理解する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	性格テストを体験する。心理学的な測定として、質問紙法、作業検査法、投影法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてその特徴を紹介する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著） 2012 『実践につながる教育心理学』北樹出版

櫻井茂男（編） 2017 『改訂版たのしく学べる最新教育学—教職に関わるすべての人に—心理学』 図書文化

吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著） 2010 『はじめて学ぶ教育心理学』ミネルヴァ書房

子安増生ら 2015 『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60%）、授業への積極的参加（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを利用する。

講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。

授業の最後に提示する課題については、web 媒体を通じての回答を求めため、PC 等の電子端末を持参してください。

【その他の重要事項】

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PSY200MA

教育心理学

展開科目

児玉 茉奈美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎
- ・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
- ・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（リアルタイム配信）。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第 2 回	発達や学習を学ぶということ	本授業の導入を行い、本授業で学ぶ目的を明確にする
第 3 回	運動・言語の発達	子どもの身体や、言語の発達過程について説明する
第 4 回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第 5 回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第 6 回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する
第 7 回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第 8 回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第 9 回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第 10 回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて、どのような学習指導を行うことが適切か説明し、考える
第 11 回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すために、教師がどのような介入をすればよいか考える
第 12 回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師、子どもたちがどのような関係性を形成し、それが子どもにどのような影響を与えるのか説明する
第 13 回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期、評価者をどう検討するかを説明する
第 14 回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、教科書・参考書該当箇所を一読し、事前配布資料の穴埋め箇所に取り組む。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

児玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社（2300 円+税）

【参考書】

鎌原雅彦・竹鋼誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第 5 版〕 有斐閣（2090 円）

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）（2018）実践につながる教育心理学 北樹出版（2200 円）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、出席およびリアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、資料の掲示は授業終了時まで継続し、いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

Learning Objectives

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Grading will be decided based on term-end report (50%), short reports in every class (50%).

PSY200MA

教育心理学

展開科目

山上 真貴子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。レポート課題については、授業または「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第 2 回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第 3 回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第 4 回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第 5 回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第 6 回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第 7 回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第 8 回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第 9 回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第 10 回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第 11 回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第 12 回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第 13 回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。
第 14 回	試験・まとめと解説	後期を振り返りまとめを行う。試験も同日に実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに課題されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。ただし、希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

【参考書】

- 鎌原雅彦ら 2019 『やさしい教育心理学 第 5 版』有斐閣アルマ
- 子安増生ら 2015 『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣
- 文部科学省 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点（40 %）、授業に対する理解をもとに関連する文献を読み、考察を行う期末レポート（30 %）、および、小テストの問題から出題する期末テスト（30 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。何かあった時には、早めの報連相を心がけましょう（学期末に相談されても対応できない場合があります!）。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思しますので、このシステムの使い方慣れておくようにして下さい。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

LEARNING OBJECTIVES: The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.

GRADING CRITERIA/POLICY: Grading will be decided based on term paper(30%), term-end examination(30%), and usual performance score(40%).

PSY200MA

教育心理学

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切に授業を行います。
- 講義の他、文献講読、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学ぶことができますようにします。オンデマンド教材の提供を行います。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・第1回はオンライン（zoom・リアルタイム）で行います。詳細は「講義通信 No.1」を確認してください。
- 大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第 9 回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第 10 回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第 11 回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第 12 回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介し、さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。

- 第 13 回 発達障害の理解 発達障害について正しく学び、理解を深めます。
- 第 14 回 発達障害の支援・指導 発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣 2100 円＋税
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや課題（70%）、まとめのレポート（30%）を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Before each class meeting, students will be expected to have read books or documents. After each class meeting, students will be expected to have review worksheet. It takes 4hours.

Grading will be decided on short reports that students will submit each class meeting(70%), and term-end report(30%).

PSY200MA

教育心理学

展開科目

兄玉 茉奈美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎
- ・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

【到達目標】

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
- ・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は学習支援システムを用いたオンラインでの開講となる（リアルタイム配信）。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とする。次回授業冒頭にて、リアクションペーパーにおける質問への回答やそれに関連した議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第 2 回	発達や学習を学ぶということ	本授業の導入を行い、本授業で学ぶ目的を明確にする
第 3 回	運動・言語の発達	子どもの身体や、言語の発達過程について説明する
第 4 回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第 5 回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第 6 回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する
第 7 回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第 8 回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第 9 回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第 10 回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて、どのような学習指導を行うことが適切か説明し、考える
第 11 回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すために、教師がどのような介入をすればよいか考える
第 12 回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師、子どもたちがどのような関係性を形成し、それが子どもにどのような影響を与えるのか説明する
第 13 回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期、評価者をどう検討するかを説明する
第 14 回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準備学習] 次回の授業内容について、教科書・参考書該当箇所を一読し、事前配布資料の穴埋め箇所に取り組む。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

兄玉佳一（編著）（2019）やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社（2300 円+税）

【参考書】

鎌原雅彦・竹銅誠一郎（2019）やさしい教育心理学〔第 5 版〕 有斐閣（2090 円）

櫻井茂男（監修）黒田祐二（編）（2018）実践につながる教育心理学 北樹出版（2200 円）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、出席およびリアクションペーパー 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、資料の掲示は授業終了時まで継続し、いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

Learning Objectives

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Grading will be decided based on term-end report (50%), short reports in every class (50%).

EDU200MA

学校論 I (キャリア形成) 展開科目

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の場としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

【到達目標】

キャリアを形成する場、仕事の場としての学校についての基礎的な知識を得るとともに、自分自身の学校体験を振り返るとともに、理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学校というものをキャリア形成の場及び仕事の場という 2 つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や動画などをもとに、グループで意見交換するとともに、テーマの内容について講義を行う。また、学校と私についての発表レジュメ、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。授業のなかで課題についての記述をいくつか取り上げフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの場としての学校
3	ライフコースと学校(1)就学前	就学前の学校・施設での学びとは
4	ライフコースと学校(2)小学校	小学校での学びとは
5	ライフコースと学校(3)中学校	中学校での学びとは
6	ライフコースと学校(4)高等学校	高等学校での学びとは
7	学校と私	学びの履歴
8	理想の学校を構想する	枠組みと構想
9	特別なニーズと学校(1)多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
10	特別なニーズと学校(2)グローバル化	グローバル化と学校
11	特別なニーズと学校(3)不登校	不登校とフリースクール
12	特別なニーズと学校(4)問題行動	問題行動と学校
13	理想の学校を提案する	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、担当のテーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したりする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】

文部科学省「学習指導要領」。
 荻谷恒彦『学校って何だろうー教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加の姿勢 (30%)、課題 (50%)、テスト (20%) をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

話し合いの問いや発表の進め方について工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

1 回 オリエンテーション、7 回 「学校と私」発表、13 回 「理想の学校」発表はオンラインで行うので留意すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Students are able to acquire basic knowledge of a school as a place for career formation and as occupation, reflect their own school experiences, and write a proposal of an ideal school effectively.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA

学校論Ⅱ（キャリア形成） 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようにすることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義科目であるが、毎回グループワークがある。またグループワークのために事前に講読課題を課すことがある。
毎回、授業後に課題（リアクションペーパー）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明 「学校の機能」に関する検討
2	〈学校に入ることをめぐって〉①オランダ「自由な教育」のしくみ	子どもの幸福度が世界1の国はオランダという調査結果があります。この事例をとおして、外国との比較から日本の教育を考える力を身につけ、と同時に、学校を社会の中に位置づけて考える必要性を考えます。
3	〈学校に入ることをめぐって〉②中学受験の功罪	現在日本では地域によっては4人に1人が中学受験をします。中学受験がもつ機能や、人のキャリアに与える影響から、その功罪を考えます。
4	〈学校に入ることをめぐって〉③「地元化」の時代の地方と都市の違い	地元化の時代といわれ、若者の移動が減っている社会の中で、地方と都市部では、学校の選択肢の数に大きな違いがあります。地方と都市部でのキャリア形成の違いを考えます。
5	〈学校に入ることをめぐって〉④修学支援制度は十分か？	近年、子育て・教育費用の公費増大の目玉として現在大学でも「修学支援制度」が実施されています。こうした支援は経済格差がキャリア形成にもたらす悪影響を本当に小さくできているのかを考えます。
6	〈学校に入ることをめぐって〉⑤ヤングケアラーからはく奪されるもの	幼いころから家族のケアに時間を割き学校に十分に通えない子どもたち。彼らのキャリア形成の困難のもとを考えます。
7	学校の中で身につけるもの①ステレオタイプ・偏見	学校の中ではヒドゥンカリキュラムとして様々なものが機能しています。学校に通っているうちに無意識のうちに身につけるステレオタイプや偏見を再検討します。
8	〈学校の中で身につけるもの〉②日本の障害児教育に対する世界的批判	日本の障害児教育は世界のトレンドとはかなり異なるものになっています。その実態やプロセス、世界からの見方を学び、共生社会の中でのキャリア形成について考えます。

9	〈学校の中で身につけるもの〉③道徳心は学校で涵養されるか？	日本の学校教育は「道徳」という科目設定があり、世界的に見てこれは珍しいことです。道徳の授業は本当に人々の道徳心を涵養するのか、具体的なケースに沿って考えます。
10	〈学校の中で身につけるもの〉④能力主義は平等か？	学校教育では「能力」を育むスタンスと「能力以外」とを重視するスタンスとが混ざっています。能力で人を評価することは本当に妥当なのか、具体的に検討していきます。
11	〈学校から出ていくときの課題〉①「学歴」「労働市場にのること」	「日本は学歴社会」という一般通年は正しいでしょうか。学歴は人のキャリアにどのような影響をしているでしょうか。日本の学歴社会の特徴を捉え、学歴がキャリアに及ぼす影響を検討します。
12	〈学校から出ていくときの課題〉②卒業時の能力保証と文系学部批判	国立大学文系学部廃止論争をきっかけに、文系学部の役割について議論されるようになりました。文系学部で学ぶことの意味とは？ キャリアデザイン学部の授業を通して身につける学びをもとに考えます。
13	〈学校から出ていくときの課題〉③「良い子」的な価値観からの脱却の困難	社会に出ると学校とは異なる価値観に沿って生きていくことが求められます。学校的な「良い子」価値観の功罪を考え、そこから脱却していくために必要な教育を考えます。
14	総括・ふりかえり	本講義で考えたことを整理し、理解度を確認します。初回の授業で検討した「学校の機能」は、12回のケーススタディを通してどう変わったのか考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

大塚類・遠藤野ゆり共編著（2014）『エピソード教育臨床 生きづらさを描く』創元社
その他は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業時の貢献度 50 %、期末試験 50 % （受講生と相談のうえ変更する可能性あり）

【学生の意見等からの気づき】

事後課題は Hoppii を利用してほしいという要望がありましたので、Hoppii を用いることにします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて授業の内容等は若干の調整をおこないます。

【Outline (in English)】

Course outline : As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

Learning Objectives : Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.

earning activities outside of classroom :

You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : 50% contribution during class, 50% final exam (This policy might be changed after consultation with students)

EDU200MA

学校論Ⅲ（キャリア教育） 展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】

- ① キャリア教育とはなにか、その教育方法はどこにあるべきか、なぜキャリア教育が必要なのか等について、基本的な概念や考え方を理解する。
- ② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について、基本的な事実、データ、社会的背景等を知るとともに、現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

※ 2021 年度の本授業は、学習支援システムを活用した資料配信を軸にしながら、Zoom によるリアルタイム・オンライン授業を補助的に組み合わせて実施する。

講義形式の授業であるが、可能な範囲で、受講者からの質疑や意見を求めたり、小課題の提出を求めたりする。

諸外国におけるキャリア教育の展開について、比較研究的な視点を持つことは重要であるが、本授業の対象は、主に日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については、日本との対比において参考になる点を示唆するとともに、

本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。

提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確かめる。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し、職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかわかって、権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し、それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして、1990 年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして、政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し、その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について、現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について、現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて、学校の事例等も示しつつ、考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について、現状と課題を考察する。

- 13 外部との連携 キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について、いくつかの事例を踏まえて、考察する。
- 14 これからのキャリア教育 諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ、日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し、今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容については、前回授業時に予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたうえで、授業にのぞむこと。それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター
 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
 児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
 授業時にも、随時、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）
 レポート提出（60%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】

This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

The goal of this course is to understand the theory and practice of career education.

Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and term-end report (60%).

EDU200MA

学校論Ⅳ（キャリア教育） 展開科目

池田 佳代

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会的事業（社会課題を積極的に解決しようとする取り組み）の担い手は、行政・企業そして市民という3つのセクターに分類でき、各セクターは単独で事業を行うだけでなく、協働・助成・委託といった枠組みによってつながり合うことで、より丁寧に社会のニーズに応えようとする実態がある。それは、市民的権利に基づく相互扶助の実践であり、共生社会の実現を目指す営みでもある。そこで、本授業では、地域福祉、環境、平和などの分野で活動する市民セクターを対象に、その成果や課題について座学や体験を通して学び、それら活動の意義や可能性について検討する。

関連するキーワード：コミュニティ論、社会運動論、学習論

【到達目標】

- 1, 市民セクターにかかわる用語の意味、活動内容や形態及びメンバーシップ、社会問題への取り組みについて理解を増やす。それにより、多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。
- 2, 与えられた情報をもとに、より深く調べ、話し合い、発表し合うことで、より深い理解に到達する力（アカデミック・スキル）を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメや映像資料等を示しながら講義を行うほか、フィールドワークやグループワーク及び、そのための準備活動といった主体的な学びの方法（アクティブラーニング）を取り入れる。学生はそれらの成果物としてレポートなどの提出が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～NPO・NGO・市民活動？	1, 市民セクターの種類・制度・多様性・意義及び行政や企業との協働・助成・委託 2, フィールドワークについて
第2回	地域福祉の市民セクター（1）	住む家がない、借りられない～市民セクターによる居住支援活動
第3回	地域福祉の市民セクター（2）	地域社会で生きる～精神障害の当事者による活動
第4回	地域福祉の市民セクター（3）	地域力で貧困の連鎖を断ち切る～多様なニーズに寄り添う学習支援活動
第5回	グループワーク	地域福祉分野の市民セクターの可能性（自主・助成・委託・連携・協業）～報告、討論、発表
第6回	環境分野の市民セクター（1）	地球温暖化防止京都会議が起爆剤？：未来へのアジェンダ
第7回	環境分野の市民セクター（2）	こんな事業に投資？：大学生の疑問から始まった脱炭素運動
第8回	環境分野の市民セクター（3）	開発の闇を照らす：グローバルな天然資源保護運動
第9回	環境分野の市民セクター（4）	民間が担う政府の仕事：地域NPOによる環境活動支援事業
第10回	グループワーク	気候正義に向けて私たちにできること～報告、討論、発表

第11回	平和分野の市民セクター（1）	市民グループがなければどうなった？：米軍基地と住民そして日本政府
第12回	平和分野の市民セクター（2）	核兵器と地域安全保障：国際的なNGOの連携による成果
第13回	平和分野の市民セクター（3）	生活者の視点が果たす重要な役割：生活協同組合の平和活動
第14回	グループワーク（最終）	平和な未来社会をどう創る？市民セクターの課題と可能性：報告、討論、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。文献を読む・レポートを書く、フィールドワークに出かけるなどの個人活動及びグループ単位での学習活動を想定しています。

【テキスト（教科書）】

授業用レジュメ冊子を使用する可能性があります。グループワークの進め方については参考書に示した『環境メディア・リテラシー—持続可能な社会に向かって』p.48-70までの記述を参照してください。

【参考書】

ハード・ガブリエレ著、2016、『環境メディア・リテラシー—持続可能な社会に向かって』, 関西学院大学出版会、ほか、必要な文献については授業の中で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70%
最終レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

新任なのでまだありません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、情報機器（貸与パソコン等）、施設（マルチメディア室等）や資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

状況の変化に応じて、上記の授業計画に変更が生じる場合があります。授業期間中の変更や連絡事項は学習支援システムの「お知らせ」で随時連絡します。

【Outline (in English)】

(Course outline) This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.

(Goal)

1, Increase understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.

2. Based on the given information, deepen the ability to reach a deeper understanding (academic skills) by investigating more deeply, discussing, and making presentations.

(Learning activities outside of classroom) Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write and go to field.

(Grading Criteria /Policy)

Active participation and contribution, submission of reports: 70%

Final Report: 30%

EDU200MA

生涯学習論 I (生涯学習支援論 I) 展開科目

久井 英輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(授業の概要)

社会教育の場における様々な学習者の特性や、それらの学習活動を支援する手法の基本的な考え方について解説する。

(授業の目的・意義)

多様な学習者の特性に関する議論や学習者への支援手法について、これらを単に手段的な知識として理解するだけでなく、その社会的・歴史的背景をふまえることにより、社会教育における学習支援のあり方を深く理解する。

【到達目標】

社会教育における学習者の特性に関する基本的な理論、学習支援の手法に関する基本的な手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。必要に応じて、コメントシート提出に代え、重要な論点に関するグループ・ディスカッションと全体での議論の共有などを行う場合もある。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生涯学習・社会教育における多様な学習者	学校教育と比較したときの生涯学習・社会教育における学習者の多様性について概観する。
第 2 回	自己教育、相互教育の思想と方法①	学習者の自発性と相互性を重視した戦前期日本の先駆的な理念・実践について解説する。
第 3 回	自己教育、相互教育の思想と方法②	初期公民館構想 (寺中構想) や共同学習論など、学習者の自発性と相互性を重視した戦後日本の主要な理念・実践について解説した上で、そこに見られる学習支援の考え方について理解を深める。
第 4 回	成人学習論の展開①	M. ノールズの提唱したアンドラゴジー、自己主導的学習など、成人学習論の基礎的な知見とそれらの社会的・歴史的背景について解説する。
第 5 回	成人学習論の展開②	J. メジローの変容的学習理論など、ノールズ以後の成人学習論の展開とその意義について解説した上で、成人学習論の実践的意義について理解を深める。
第 6 回	高齢者への学習支援①	学習者としての高齢者の特性や、高齢者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。

第 7 回	高齢者への学習支援②	高齢者を対象とした学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第 8 回	子ども・若者への学習支援①	社会教育における学習者としての子ども・若者の特性や、子ども・若者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。
第 9 回	子ども・若者への学習支援②	高齢者を対象とした社会教育の学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第 10 回	生涯発達論の展開	R. ハヴィガースト、E. エリクソン、D. レヴィンソンら、生涯にわたる発達を視野に入れた代表的な議論について解説する。
第 11 回	特別な支援を要する学習者への視点①	学習活動への参加に対して、障害など様々な理由から困難を抱える学習者の状況や、社会教育における「合理的配慮」のあり方について解説する。
第 12 回	特別な支援を要する学習者への視点②	社会教育施設や学習プログラムにおける「合理的配慮」の事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第 13 回	オンラインによる学習支援の現在	COVID-19 対策として現在各地の社会教育現場で取り組まれている、オンラインの学習支援の取り組みの意義と課題について解説する。
第 14 回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基にグループ・ディスカッション等の形を用いて、授業内容全体についての理解を深める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・各回の授業後、コメントを提出するとともに、授業内で提示した参考文献の関連箇所、コメントシートに対する教員のリプライの内容を確認すること。
- ・最終レポートの課題を意識しつつ、これらの予復習を行うこと。
- ・本授業の復習時間は 4 時間以上を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019 年
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター (清國祐二編集代表)『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020 年

【成績評価の方法と基準】

コメントシート 30 %
グループワーク、ディスカッションへの貢献度 40 %
最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義内容とグループワークの課題との適切な関連付けが難しかったが、2022 年度の受講生の反応を踏まえながら、講義内容を自然かつ有効にリフレクションできるグループワークになるよう、今年度も工夫を積み重ねたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士 (養成課程) の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
(Course Outline)

The aim of this course is to provide students with knowledge and viewpoints on characteristics of various learners and methods for supporting learners in social education.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students deepen their understanding of various types of learners and basic methods for supporting learning activities, and to widen their perspective with the view to social and historical context.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (30%), contribution to discussion (40%), term-end report (30%).

EDU200MA

生涯学習論 I (生涯学習支援論 I) 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会教育・生涯学習における学習支援は、公的社会教育に代表される専門職資格制度と社会教育施設の枠組みに依拠するとともに、社会に広く存在する学習機会においても重要な役割を果たしている。この授業では、社会教育関連法等に規定された代表的な社会教育専門職制度と社会教育施設の役割を学ぶとともに、地域づくりや社会問題解決の枠組みの中で実践されている学習支援のあり方について検討する。

主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の本質と意義を理解し、社会教育・生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。必要に応じてグループワークを求めることがある。期末テスト及び期末レポートは課さない。

毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学習支援とは何か	社会教育・生涯学習における学習支援は、学校等の定型教育とどのような違いがあるのかについて考える。
第 2 回	社会教育・生涯学習の関連法令における学習支援の仕組み	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令における専門職制度や社会教育施設の役割について理解する。
第 3 回	社会教育主事制度	社会教育法に規定された社会教育主事資格について学ぶ。
第 4 回	公民館と主事	公民館の特徴と公民館主事等の専門職の役割について学ぶ。
第 5 回	図書館と司書	図書館の特徴と専門職としての司書の役割について学ぶ。
第 6 回	博物館と学芸員	博物館の定義と役割の変化について学ぶ。
第 7 回	学校一斉休校は正しかったのか?	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) での教育政策のあり方を通して学習支援について考える。
第 8 回	学校と教育委員会	COVID-19 での学校と教育委員会の対応を通して学習支援について考える。
第 9 回	公民館・社会教育施設	COVID-19 での公民館・社会教育施設の対応を通して学習支援について考える。
第 10 回	図書館	COVID-19 での図書館の対応を通して学習支援について考える。
第 11 回	博物館・美術館・動物園・水族館	COVID-19 での博物館・美術館・動物園・水族館の対応を通して学習支援について考える。
第 12 回	屋外教育施設・自然学校	COVID-19 での屋外教育施設・自然学校の対応を通して学習支援について考える。
第 13 回	生涯学習社会を生み出す力	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に職員はどう向き合ったのか、どのように対応すべきなのかについて考える。
第 14 回	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時ごとの簡単なレポート (ワークシートを含む) を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

水谷哲也・朝岡幸彦編著『学校一斉休校は正しかったのか?』筑波書房 2021 年

【参考書】

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』人言洞、2023 年 (ISBN978-4-910917-03-0)

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第 9 版』エイデル研究所 2017 年

【成績評価の方法と基準】

テキストを中心に課題レポート (ワークシートを含む) 80 %

平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の資料を Web 上に添付します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

【その他の重要事項】

社会教育主事養成課程等法定科目。

【その他】

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

【Outline (in English)】

Learning support in social education/lifelong education plays significant role in the context of providing various learning opportunities. It relies on the system of professional qualification ran by the public social education and relies on the framework of social education institution. In this class, participants will learn the representative system of professional qualification prescribed to social education-related laws and will learn the role of social education institution. Participants will also discuss the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

EDU200MA

生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ） 展開科目

久井 英輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育における実践的な学習支援技法、学習プログラムの作成手法について解説し、学んだ知識を活用した学習プログラム案作成のグループワークを行う。

（授業の目的・意義）

グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは支援者にもとめられる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】

社会教育における様々な学習支援技法（ワークショップ、ファシリテーションの技法など）や、それらの技法を利用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、基本的な学習支援技法、学習プログラム作成の基本的な手法に関する講義を行う。その上で、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークによって学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成していく。作成した学習プログラム案については、教員からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの課題に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して、及び、メールを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な学習支援技法①	社会教育の学習プログラムにおけるグループワークで用いられる諸技法について解説する。
第 2 回	多様な学習支援技法②	社会教育の学習プログラムにおいて用いられるファシリテーションの基本的な考え方について解説する。
第 3 回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第 4 回	学習プログラム作成の基本的な手法②	学習プログラム案作成にあたって必要な、地域社会の特性・課題把握の方法について解説する。
第 5 回	学習プログラム作成の基本的な手法③	学習プログラムの広報、および、受講者アンケート実施に必要な基本的事項について解説する。
第 6 回	社会教育の現場における学習プログラム①	公民館または生涯学習センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。

第 7 回	社会教育の現場における学習プログラム②	青少年教育施設または男女共同参画センターを訪問し、実際の学習プログラム実施状況を見学した上で（可能であれば一般受講者とともにプログラムに参加）、学習プログラムの企画・準備について、施設職員とディスカッションを行う。
第 8 回	地域課題の把握①	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について把握する。
第 9 回	地域課題の把握②	前回の個人ワークの成果を基に、グループワークによって学習プログラムを作成する際に前提とする地域を選定し、地域課題に関する考察を深める。
第 10 回	学習プログラム案の作成①	学習プログラムの目的・概要、事業評価の方法をグループワークで作成する。
第 11 回	学習プログラム案の作成②	学習プログラムの各回実施内容の詳細を、グループワークで作成する。
第 12 回	学習プログラム案の作成③	学習プログラムにおいて実施する受講者アンケート案を、グループワークで作成する。
第 13 回	学習プログラム案の作成④	学習プログラムの内容に対応した広報案を、グループワークで作成する。
第 14 回	学習プログラム案の発表と検討	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表し、ディスカッションをとおして、改善すべき点を把握する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回 4 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019 年
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020 年

【成績評価の方法と基準】

地域課題把握に関する個人レポート	25 %
学習プログラム案の発表	25 %
グループワーク、ディスカッションへの貢献度	25 %
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート）	25 %

【学生の意見等からの気づき】

特にこの授業においては、受講者数に応じてグループワークの適切な進め方・スケジュールが大きく変わってくることを実感している。今年度は、実際の受講者数の見通しがある程度ついた時点でスケジュールの再調整を行うことがあるので、その点を了承されたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aims of this course are to provide students with knowledge on practical methods for supporting learners and for planning learning programs in social education, and to support group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students to acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term

report (25%), Presentation (25%), Contribution to discussion and groupwork (25%), term-end report (25%).

EDU200MA

生涯学習論Ⅱ（生涯学習支援論Ⅱ） 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に理解するために、「厄災の教育学—コロナと自治体を中心に」というテーマを設定し、そこにおける「厄災」への向き合い方から学習支援の方法や課題を学ぶ。学習支援が持つ広がりや専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習における学習支援の具体像を、課題の特性や地域・市民との関わりの中で理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に考えるために、それぞれの課題に即して調査し、実際の学習支援のあり方について理解を深める。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「厄災の教育学」と社会教育・生涯学習	社会教育・生涯学習における「厄災」を語り継ぐことの意味を考える。
2	「コロナと自治体」という課題の意味	「コロナと自治体」という課題が社会教育・生涯学習においてどのような意味をもつのかを考える。
3	コロナ禍の下での教育・学習権について	教育・学習権という概念について、憲法との関係から考える。
4	パンデミック下における医療資源の「配分と論理」問題	医療資源の配分問題から学習の意味を考える。
5	学校一斉休校と学校における防疫指針	学校における防疫指針を通して、学習の意味と支援について考える。
6	「学ぶ」権利を制限することは許されるのか	パンデミック下において「学び」ととめない学習支援の方法について考える。
7	コロナ禍における公民館の模索	東京都の公民館を事例に、コロナ禍における模索について考える。
8	コロナ禍における図書館の模索	saveMLAKの活動を通して、コロナ禍における図書館の学習支援について考える。
9	コロナ禍における自然学校の模索	長野県泰阜村におけるグリーン・ウッドの活動を通して、コロナ禍における自然学校の学習支援について考える。
10	アメリカにおけるコロナ禍の学校再開	アメリカにおける学校再開のあり方から学習支援について考える。
11	「厄災」に向き合う教育への学習支援①	「厄災」としての戦争体験から学習支援について考える。
12	「厄災」に向き合う教育への学習支援②	「厄災」としての震災体験から学習支援について考える。
13	「厄災」に向き合う教育への学習支援③	「厄災」としてのパンデミック体験から学習支援について考える。
14	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。
授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

朝岡幸彦・山本由美編著『「学び」ととめない自治体の教育行政』自治体研究社 2021 年

【参考書】

随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

テキスト等からの課題レポート（ワークシート） 80 %
平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートをもとに改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他】

授業中に出题される課題を提出すること。

【Outline (in English)】

To make concrete and profound understanding of learning support, we will place “wetland” as a field to learn the method and problems of learning support. The course’s aim is to understand the expertness and extension of learning support.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertness and extension of learning support.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

FRI200MA

図書館情報学概論 I

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

【到達目標】

図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。

市ヶ谷図書館の現場（事務室）で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。

授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程 e-Learning システム (HULiC) を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループディスカッション、図書館見学の省レモートなども課す。

毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

メディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領（専門職とは何か、図書館員の対応）等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館（制度・機能）	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス（予定）	図書館ツアーの小レポートを課す。
9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	日本の図書館の歴史	古代～現代
11	世界の図書館の歴史①	古代～中世
12	世界の図書館の歴史②	近世～現代
13	外国の図書館	アメリカ、イギリス、北欧、中国等
13	図書館の類縁機関・関係団体	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等
13	図書館の課題と展望	図書館の挑戦と課題（ケース・スタディ）
14	総まとめ	筆記試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

塩見昇 編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版

(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

【参考書】

高山正也、岸田和明 編集、『図書館概論』樹村房、2017（現代図書館情報学シリーズ）ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

【成績評価の方法と基準】

毎回の確認アンケートクイズ（40%）、図書館ガイダンスのレポート（20%）、筆記試験（40%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗が早いという指摘がいくつかあったので、話す内容を精査したい。

【その他の重要事項】

本授業では、50人収容の情報実習室で行われる。50人以上の場合は、最初の授業で、(1) 上級生 (2) 図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2回目以降の受講は認めない。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) : As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

(Learning Objectives) : Students will learn the basic concepts of library and information science and gain comprehensive knowledge of basic knowledge and concepts about libraries.

(Learning activities outside of classroom) : Students should read the relevant pages of the textbook in advance. In addition, students should download the class learning materials in advance and fill in the blanks. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be made based on each confirmation questionnaire quiz (40%), library guidance report (20%), and written exam (40%).

FRI200MA

図書館情報学概論 I

展開科目

原田 隆史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用、およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

【到達目標】

1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して、基本的な考え方・知識・技法、社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が、図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか、その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

図書館・情報学とは何かについて、さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し、続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は、単に図書を集め、保存し、提供するという役割だけではなく、様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思えます。また、ネットワーク時代の図書館サービスも含め、実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

授業に対するフィードバックとしては、授業後に受講者からのコメント・質問などを集め、次の授業時に提出されたコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディアの歴史	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史について述べます
3	図書館の種類	図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
4	図書館の諸機能 (1)	間接サービス、テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
5	図書館の諸機能 (2)	直接サービス、レファレンスサービスについて説明していきます
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規（図書館法、著作権法など）について簡単に解説します
7	図書館行政・図書館政策・図書館の管理と経営	図書館行政や図書館政策などについて説明します。また図書館経営について考えるとともに、図書館業務の評価についても述べます
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに、図書館と出版流通の関係についても解説します
10	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに、図書館での資料の保存についても解説します
11	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス、ヤングアダルトサービスについて解説します
12	情報検索 (1)	情報検索の基本的な考え方について説明します
13	情報検索 (2)	情報検索の手法などについて例示を含めて説明するとともに、情報検索システムについても述べます
14	図書館の将来展望と課題	図書館の将来展望と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を実際に使用したり、情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

逸村裕（ほか）編、図書館情報学を学ぶ人のために、世界思想社、2017。ISBN：978-4790716952

【参考書】

日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第 3 版（丸善）など（必須ではありませんが、専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが、授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のコメントをしているなどの場合は大幅に減点します。また、毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。なお、もしリアルタイムオンライン授業（Zoom）での授業を併用する場合には原則としてビデオをオンにさせていただきます。

レポート 40%

期末試験 40%

現時点では期末試験と 2 回のレポートを課す予定ですが、COVID-19 などの影響により期末試験を行わない場合は、全てレポートとします。その場合には 5～6 回のレポートとし、レポートの配点を 80%とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができようように努力いたします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

対面での授業を原則としますが、COVID-19 の状況などによってリアルタイムオンライン授業（Zoom）を使用）や動画を公開して視聴する授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかは Hoppii および下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。

<http://www.slis.doshisha.ac.jp/~ushi/LIS/>

授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは、上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システムと併用しますので両方見る必要があることに注意してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces "Basic knowledge on Library and Information Science" to students taking this course.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to understand library activities, information media, information retrieval and so on.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

[Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (40%), Term-end examination (40%), and in-class contribution.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内 明子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人々がインターネットを通じて利用できるようなデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知してはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】

この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- 1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
- 2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
- 3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」(レファ協)の解説と事例のまとめ
第 2 回	検索検定	情報科学技術協会 (INFOSTA) 検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第 3 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第 4 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (2)	電子展示会ほか
第 5 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第 6 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (2)	歴史的音源、WARP ほか
第 7 回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第 8 回	海外のデジタルアーカイブ	Europeana ほか
第 9 回	OPAC の比較	大学図書館と公共図書館
第 10 回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第 11 回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第 12 回	情報ユニバーサルデザイン (1)	Web アクセシビリティ
第 13 回	情報ユニバーサルデザイン (2)	カラーユニバーサルデザイン
第 14 回	情報ユニバーサルデザイン (3)	マルチメディア DAISY 図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：毎回のまとめ課題 70 % (1 回 5 点 × 14 回)、学期末レポート 30%

評価の基準：

- 1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
- 2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
- 3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身につけているか

【学生の意見等からの気づき】

調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

PC 教室で実施します。オンライン授業の回は PC を使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.

At the end of the course, students are expected to acquire the information literacy as a librarian.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to spend

at least two hours for each class meeting. Every week on the Hoppi, students are required to complete weekly assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1) Weekly short reports: 70 %

2) Term-end report: 30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.

3) Evaluation criteria

・ Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.

・ Ability to explain information technology assuming users with special needs.

・ Ability to operate information devices in order to create reports.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

原田 隆史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術（図書館システム、Web ページを用いた情報発信など）
3. データの管理を中心とした技術（データベース管理システム、デジタルアーカイブなど）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し、取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に、どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

図書館をとりまく多様な情報環境、各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず、コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後、図書館システムやデータベース管理システム、WebAPI などについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

授業に対するフィードバックとしては、授業後に受講者からのコメント・質問などを集め、次の授業時に提出されたコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OS やアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットや LAN などの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML, CSS, XML などといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムや OPAC の仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します
10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他の Web サービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
12	電子文書と電子出版、電子書籍	電子書籍について学ぶとともに、さまざまな電子書籍フォーマットについて理解します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに、セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本重雄編著, 図書館情報技術論 (現代図書館情報学シリーズ 3), 2014, 224p, ISBN: 978-4883672035

【参考書】

特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントを Web 上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが、授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。また、毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。なお、リアルタイムオンライン授業 (Zoom での授業) の場合は原則としてビデオをオンにさせていただきます。

レポート 40%

期末試験 40%

現時点では期末試験と 2 回のレポートを課す予定ですが、COVID-19 などの影響により期末試験を行わない場合は、全てレポートとします。その場合には 5～6 回のレポートとし、レポートの配点を 80%とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができようように努力いたします。

【その他の重要事項】

対面での授業を原則としますが、COVID-19 の状況などによってリアルタイムオンライン授業 (Zoom を使用) や動画を公開して視聴する授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかは Hoppii および下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。

<http://www.slis.doshisha.ac.jp/~ushi/IT/>

授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは、上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システムと併用します。両方見る必要があることに注意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the basic knowledge of computers, information technology in libraries.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Term-end examination: 40%

Short reports : 40%

In class contribution: 20%

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

菅原 真悟

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 3/Sat.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の 5 つの項目を扱う。

1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術（システム・情報発信・検索エンジン）
3. データ管理に関する技術（電子資料・データベース）
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について講義を行い、必要に応じて演習を行う。毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。

・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。

・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第 2 回	コンピュータの基礎知識 (1)	デジタルとアナログ。2 進数と 10 進数。ビットとバイト。
第 3 回	コンピュータの基礎知識 (2)	コンピュータの歴史。
第 4 回	ウェブ OPAC	ウェブ OPAC を用いた演習。
第 5 回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第 6 回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第 7 回	AI 時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第 8 回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第 9 回	電子図書館 (1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第 10 回	電子図書館 (2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第 11 回	図書館業務システム (1)	図書館業務システムの仕組み。
第 12 回	図書館業務システム (2)	図書館業務システムを用いた演習。
第 13 回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第 14 回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布する。

【参考書】

講義の中で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の演習への積極的な参加（出席状況を含む） 30%

課題（授業中に課題を数回出す予定） 40%

期末レポート 30%

課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】

演習やグループ学習の時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (<https://hoppii.hosei.ac.jp/>) のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(<http://lc.i.hosei.ac.jp/>) も使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with (1)Computer and network, (2)Technology related to libraries, (3)Database, (4)Network security, and (5)Information Technology and Society.

【Learning Objectives】

Students acquire basic knowledge of ICT related to libraries, and also acquire basic ICT skills through computer-based exercises.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 30%、Short reports : 40%、in class contribution: 30%

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内 明子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人々がインターネットを通じて利用できるようなデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知してはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】

この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- 1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
- 2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
- 3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」(レファ協)の解説と事例のまとめ
第 2 回	検索検定	情報科学技術協会 (INFOSTA) 検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第 3 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第 4 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (2)	電子展示会ほか
第 5 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第 6 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (2)	歴史的音源、WARP ほか
第 7 回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第 8 回	海外のデジタルアーカイブ	Europeana ほか
第 9 回	OPAC の比較	大学図書館と公共図書館
第 10 回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第 11 回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第 12 回	情報ユニバーサルデザイン (1)	Web アクセシビリティ
第 13 回	情報ユニバーサルデザイン (2)	カラーユニバーサルデザイン
第 14 回	情報ユニバーサルデザイン (3)	マルチメディア DAISY 図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：毎回のまとめ課題 70 % (1 回 5 点 × 14 回)、学期末レポート 30%

評価の基準：

- 1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
- 2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
- 3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身につけているか

【学生の意見等からの気づき】

調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

PC 教室で実施します。オンライン授業の回は PC を使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.

At the end of the course, students are expected to acquire the information literacy as a librarian.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to spend

at least two hours for each class meeting. Every week on the Hoppi, students are required to complete weekly assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1) Weekly short reports: 70 %

2) Term-end report: 30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.

3) Evaluation criteria

- ・ Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.

- ・ Ability to explain information technology assuming users with special needs.

- ・ Ability to operate information devices in order to create reports.

EDU200MA

メディア教育論 I

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】

多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における 4 つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。

グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

シチズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILE とシチズンシップ①	メディアの機能と多様性（メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他）
4	MILE とシチズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会（言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制）
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値（なにがニュースになるのか）
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力（ビジュアルの力）
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②	グループごとに多様性、シチズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
11	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
12	研究発表① 多様性	多様性に関するテーマのメディア分析 グループ発表 (1)、全体討論、振り返り
13	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシチズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (2)、全体討論、振り返り

14	研究発表③ ダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表 (3)、全体討論、振り返り
----	------------	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業のレジュメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人の課題（分析）提出物（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（20%）、個人レポート（50%）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppii のグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINE の活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業を受講する際は、「メディア教育論 II（メディアと教育 II）」をセットで履修することが望ましい。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline) : Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that are based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debates in a group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.

(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).

EDU200MA

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや映像制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際に学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3 回目の授業でアンケート調査を行う。アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情動的テキストのなかのコードとときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告②	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA）とはなにか（分析と企画）
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動（絵コンテ、ストーリー展開）
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスタ等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスタ等の最終確認）
11	課題発表①	課題のグループ発表（1）、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）
12	課題発表②	課題のグループ発表（2）、全体討論
13	課題発表③	課題のグループ発表（3）、全体討論
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし、適時参考資料・レジュメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物（個人のデジスタ・動画作品、他授業での課題）（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業への参加・出席（30%）、個人レポート（40%）によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30%）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（Hoppii）上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline): Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.

(Learning Objectives): Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom): Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy): Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU200MA

教育マネジメント I

展開科目

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、政府・自治体・学校・民間団体などが取り組む「教育改革」についての講義と議論を行う。

授業の目的は、次の3つである。

- (1) 教育改革の俯瞰的・構造的な理解を得ることで、教育時事を知るとともに、教育学を学び進めるための知的な土台を獲得すること。
- (2) 教育問題を、「教室」「学校」「家庭」の中だけでなく、システムやマネジメントといった要素とつなげて捉える発想を持てるようになること。
- (3) 教育改革を研究するための様々な問題設定に触れ、教育研究の幅広さを知るとともに、教育改革を研究するための資料やデータの在り処を探すスキルと、それらを分析する視点を手にすることで、卒業論文等につながる知的スキルを獲得すること。

【到達目標】

受講者に到達してほしい目標は次の4つである。

- (1) どのような問題が、どのように教育改革の【イシュー】となっている（いない）のかを説明できるようになる。
- (2) 教育改革に関わる多様な【アクター】が、どのように改革に参加しているかを説明できるようになる。
- (3) 教育改革が、課題解決のために行われる【仕組み】の創造・変革であることを前提に、どのような【イシュー】の背後に、どのような【仕組み】の論点があるのかを説明できるようになる。
- (4) 【仕組み】の改革が、利害や思惑の交錯する政治的議論の対象であることを前提に、どのような【アリーナ】で、どのような議論がなされている（いない）のかを調査するスキルと、分析する視点を持てるようになる。

===== 以下はキーワードの例 =====

【イシュー】

キャリア教育、不登校・いじめ、教職の高度化と魅力化、グローバル化、教育 DX、子どもの貧困や格差など、解決されるべき課題のこと

【アクター】

学校、教育委員会、文科省はもとより、政府（内閣府、経産省等々）、政治（与野党の動き）、超国家機関（UNESCO、OECD、条約の影響）、民間セクター（NPO、株式会社等）を含む

【仕組み】

制度、組織、予算など

【アリーナ】

審議会、国会、地方議会、等々

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、次の7点を把握されたい。

- (1) 基本的には講義であり、教育改革の【イシュー】【アクター】【仕組み】【アリーナ】について扱う。グループディスカッションを取り入れることがある。
- (2) 第2回から第12回までは、【アクター】を軸とした3部構成で進める。
 - ・第1部（全3回相当）は学校
 - ・第2部（全3回相当）は中央政府（政府や国会）
 - ・第3部（全5回相当）はその他の多様なアクター（株式会社、NPO、地域社会、教育委員会、超国家機関等）
- (3) 教育改革にとって最も重要な「学校」の現状について理解を深めるとともに、個々の受講者が自らの学びのキャリアを辿る意味で、全員が「母校研究」を行い、共同吟味をする（5月頃に実施し、受講生相互の交流の場ともしたい）。

- (4) 教育改革を分析するための資料やデータについて、特に、政府審議会、国会などの資料分析をデモンストレーションし、実習してもらう回を設ける。
- (5) 特徴的な教育改革を進めている事例（企業、NPO、学校、教育委員会）について、学生有志のプレゼンテーションを行う回を設ける（都合が合えばゲストスピーカー等の招聘もしたい）。7月頃を予定。
- (6) 最終レポートは、7月頃に授業内で受講者による相互吟味の回を設け、クラスメイト並びに教員から受けたフィードバックを反映させたものを最終提出する。
- (7) 毎時、アテンダンスチェックという形で、コメント提出を求める。主な質問や、紹介に値するコメントは、次回に全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第2回	■第1部・学校①：教育を受ける権利の保障	憲法、子どもの権利条約
第3回	■第1部・学校②：学校制度の意義と課題	カリキュラム、教育費、教育格差、教師の多忙化
第4回	■第1部・学校③：母校研究の交流	各自の「母校」について、その教育や運営の特徴をまとめ、内容を共有する。
第5回	●第2部・中央政府①：文科省における教育改革の力学	文科省による教育改革の作られ方
第6回	●第2部・中央政府②：国会における教育論議	立法や、質疑を通じた国会の教育改革への関与の在り方（こども基本法を例に）
第7回	●第2部・中央政府③：省庁間の連携と競合	複数象徴にまたがる教育政策の動向について（キャリア教育、教育 DX、子どもの貧困等を例に）
第8回	▲第3部・その他のアクター①：超国家機関	OECD や UNESCO の影響、条約の役割（PISA、Learning Compass、子どもの権利条約を例に）
第9回	▲第3部・その他のアクター②：株式会社	株式会社の参入、教育産業の動向（GIGA スクール、教育 DX、キャリア教育等を例に）
第10回	▲第3部・その他のアクター③：NPO	地域における行政と非営利団体の連携（子どもの貧困問題、不登校、ダイバーシティに関する教育課題を例に）
第11回	▲第3部・その他のアクター④：地域社会	学校と地域の連携（探究学習、キャリア教育等を例に）
第12回	▲第3部・その他のアクター⑤：教育委員会	自治体独自の教育改革の動き（地域カリキュラム、独自教育予算等を例に）
第13回	最終レポート草案のシェアリング	最終レポート草案を持ち寄り、シェアリングを行う。
第14回	総括ディスカッション	授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定のあった課題を授業前後の所定の時までには実施する。

- ・レジメの再読、まとめ
- ・ワークシートの準備
- ・アテンダンスチェック課題の提出
- ・母校研究の実施
- ・最終レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

毎回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）を 40%、母校研究の成果を 20%、最終レポートを 40%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

母校研究は思いのほか盛り上がったので、今年度も実施予定とした。

【その他の重要事項】

教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class aims to develop students' broad understandings on educational change, through dealing with the education system (especially schooling system), and through co-analysing distinctive initiatives, in addition to through conducting a case study on the school students graduated from.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of this class, students are expected to be able to

- 1) gain basic and broad knowledge of what issues are (or are not) on the education reform agenda.
- 2) acquire the understandings on how the various actors involved in the policy process of education reform.
- 3) explain how various reform agendas are being systemised.
- 4) develop the skills to research what arguments are (and are not) being made in different political arenas and to have a perspective to analyse them.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
- Conducting case study

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Attendance Check: 40%, Case study report: 20%, End of semester report: 40%

EDU200MA

教育マネジメントⅡ

展開科目

櫻井 直輝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地方自治体において学校教育を取り巻く様々な教育課題に対し、どのような改革・政策が実施されているのか、具体的な政策やその形成過程を取り上げながら学習する。履修者は、教育政策・行政の形成・実施過程について学習した上（講義）で、具体的な事例を取り上げて調査・報告を行う（ミニ事例研究とディスカッション）。

【到達目標】

講義を通して、次の力を身につけることを目標とする。

- 1 地方自治体における教育政策・行政の仕組みを理解する
- 2 法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる
- 3 各種公的統計データを検索・利用することができる
- 4 教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

事前に指定された資料・文献等を読んだ上で講義に参加する。講義（あるいはオンデマンド学習用の動画配信）では地方教育政策・行政の仕組みと政策リサーチの方法について解説する。

講義の後半ではグループによる政策リサーチ（事例調査）の実施、共同分析の結果報告と報告内容に関するディスカッションを行う。なお、政策リサーチについては講義内で一定の時間を設けるが、原則として講義時間外での調査・分析が必要となる。履修者は予め作業時間を確保しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第 2 回	国レベルの教育行政システム	国の教育行政機関と政策形成の仕組み
第 3 回	地方レベルの教育行政システム	都道府県・市町村の教育行政機関と政策形成の仕組み
第 4 回	政策リサーチの進め方：公文書・データベースの活用	論文、政策文書、法令・会議録データベースの検索と利用 ※ PC 持参
第 5 回	政策リサーチの進め方：公的統計データの活用	公的統計データの検索と利用 ※ PC 持参
第 6 回	ミニ事例研究についての説明	方法、まとめ方、提出方法、グループ分けと協議
第 7 回	事例解説：学校再編	人口減少地域で行われる学校再編政策について解説する
第 8 回	事例解説：働き方改革	学校の働き方改革・労働安全衛生について解説する
第 9 回	事例解説：自治体発カリキュラム改革	自治体独自の教科導入に関わる改革について解説する
第 10 回	事例解説：小中一貫教育	小中一貫教育の導入に関わる改革について解説する
第 11 回	政策リサーチ：グループワーク	グループワーク（発表予定の内容）について教員に報告・意見交換

第 12 回 政策リサーチ：グループディスカッション グループ内でのディスカッション
グループディスカッション

第 13 回 政策リサーチ報告：成果報告（前半） スカッション 各グループの調査結果報告とディスカッション

第 14 回 政策リサーチ報告：成果報告（後半） スカッション 各グループの調査結果報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を web 配信するので各自準備して講義に望むこと。必ずしも印刷する必要はないが、PC やタブレット等を持参して閲覧や作業に支障がないようにすること（スマートフォンでの閲覧は非推奨）。

後半の政策リサーチについては、講義時間外の学習や作業が必須となる。グループの運営によって異なるが、資料収集やレジュメ作成等で 4 時間程度は確保することが望ましい。他の講義や学内・学外活動によって支障がでないよう予め注意してほしい。また、グループ活動になるので他のメンバーに迷惑をかけないよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

青木栄一・川上泰彦『教育の行政・政治・経営 [改訂版]』放送大学学術振興会、2023 年。

村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020 年。

伊藤藤一郎『政策リサーチ入門（増補版）』東京大学出版会、2022 年。

【成績評価の方法と基準】

評価は以下の点について、グループ活動及び成果報告の結果を通じて評価します。

観点 1：地方自治体における教育政策・行政の仕組みを理解する

観点 2：法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる

観点 3：各種公的統計データを検索・利用することができる

観点 4：教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる

すべての観点について、発表資料の記載内容と発表（配点：50 点）と個人で作成する最終レポート（発表内容や質疑応答への回答をふまえたものとする。配点：40 点）で評価します。なお、最終レポートと併せて、自身がグループワークにどのような貢献をしたか（どのようなアイデアを提示したのか、どのような作業を担当したか等）を記載してペーパー（配点：10 点）を提出していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

「※ PC 持参」の回はパソコンを持参してください。それ以外も必要に応じて PC やタブレットを活用することを推奨します。

【その他の重要事項】

講義回を欠席をする際は、教員に予め連絡のこと。連絡先は初回講義資料で提示する。またグループ活動回を欠席する場合は教員及びグループのメンバーに予め連絡すること

【Outline (in English)】

Course outline
In this lecture, students will learn what kind of reforms and policies are being implemented in local governments to address various educational issues surrounding school education, taking up specific policies and their formation process. Students will learn about the formation and implementation process of educational policy and administration, and then research and report on specific cases.

【Outline (in English)】

Course outline
In this lecture, students will learn what kind of reforms and policies are being implemented in local governments to address various educational issues surrounding school education, taking up specific policies and their formation process. Students will learn about the formation and implementation process of educational policy and administration, and then research and report on specific cases.

Learning Objectives
Through the lectures, the course aims to develop the following skills.

students should...

1 Understand the structure of education policy and administration in local governments

2 be able to search and analyze laws, policy documents, and meeting minutes

3 be able to search and use various official statistical data

4 be able to persuasively develop one's own views on education policy and administration based on concrete data and researched facts

Learning activities outside of classroom

Lecture materials and other materials will be distributed via the web, so please prepare for the lecture by yourself. Although it is not necessary to print the lecture materials, students are encouraged to bring their own PCs, tablets, etc. so that there are no obstacles to viewing or working with them (viewing with smartphones is not recommended).

For the policy research in the second half of the course, study and work outside of lecture time will be required. It is desirable to secure about 4 hours for collecting materials and creating a resume, so please adjust your schedule in advance so that you will not be unable to work due to other lectures or on-campus/off-campus activities.

This will be a group activity, so please be mindful not to inconvenience other members.

Grading Criteria /Policy

Grading will be based on the perspectives indicated in the achievement objectives through the results of group activities and reports.

Content and presentation of presentation materials: 50%

Final report to be prepared by each individual: 40%

In addition to the final report, students will be required to submit a document with their own contribution to the group work (10%).

EDU200MA

教育政策

展開科目

村上 純一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】

以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。

- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
- 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
- 3) 個々人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に対面での講義形式で実施します。講義形式中心ではありますが、授業時間中の質疑応答も随時取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通じた理解の深化も図っていきます。各回、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。いただいたリアクションペーパーは翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第 2 回	国と地方の教育行政のしくみ	教育政策の実施主体としての教育行政について、国レベルおよび地方自治体レベルそれぞれの構造および政府間関係を、近年の改革動向も含めて理解する。
第 3 回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第 4 回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第 5 回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第 7 回	今日のカリキュラム改革	最新の学習指導要領改訂や道徳教科化、外国語教育の拡充など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を理解する。
第 8 回	学力テスト政策	国や自治体の学力調査や国際学力調査の結果や、その教育課程への反映状況などを理解する。
第 9 回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第 10 回	いじめ問題に関する政策	「いじめ防止対策推進法」など、いじめ問題をめぐる政策の動向を理解する。
第 11 回	不登校・「子どもの貧困」をめぐる政策	不登校や「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を理解する。
第 12 回	学校の「働き方改革」	教員の過酷な勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第 13 回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第 14 回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。各回、資料を配布します。

【参考書】

資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業各回のリアクションペーパーと学期末レポートを総合して行います。比率は中間レポート 40 %、期末レポート 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度～2022 年度はオンデマンドでのオンライン形式で授業を実施していましたが、資料の内容には概ねご好評をいただけておりましたので、対面授業でも変わらぬ質量のものを提供できるように工夫していきます。2019 年度に対面授業を実施した際には、教員からの一方通行の講義もしくは教員－学生間でのやり取りが多く、受講生同士での討論・意見交換の時間がもっと欲しかったというご意見をいただけておりました。受講者数に拠る部分もありますが、今年度は受講生間でのコミュニケーションの機会も増やせるよう意識して授業を行ってまいりたいと考えております。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education. Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

【Learning Objectives】

Understanding three points below.

- i) Issues of today's education policy
- ii) Ideals of education policy
- iii) The importance and roles of each school stages

【Learning Activities outside of Classroom】

It takes two hours to make a preparation of one lesson, and it also takes two hours to review one lesson.

【Grading Criteria / Policy】

Comments of each lessons (40%) & Terminal Report (60%)

EDU200MA

現代教育思想

展開科目

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なもの（見方・考え方）ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに ー 本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	序論 ー 教育的なもの（見方と考え方）について	教育的なもの（見方と考え方）とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第 3 回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第 4 回	現代社会における教育的諸問題 (1) ー 「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第 5 回	現代社会における教育的諸問題 (2) ー 公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第 6 回	現代社会における教育的諸問題 (3) ー 「特別の教科 道徳」の問題	上記5を踏まえ、「特別の教科 道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第 7 回	現代社会における教育的諸問題 (4) ー 教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題ー日本における教員養成政策の変質について論じる。
第 8 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (1) ー 近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第 9 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第 10 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第 11 回	教育における体罰の問題 (1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論ー体罰は教育的情熱の発露であるーの本質的問題点について論じる。
第 12 回	教育における体罰の問題 (2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第 13 回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第 14 回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】

Outline:

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

Goal:

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

Learning activities outside of classroom:

After the lecture, try to understand the contents.

Grading Criteria /Policy:

Grade only in the final exam.

Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

EDU200MA

生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ） 展開科目

森本 扶

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代において、人々の学びの場や機会は大きく広がっている。生涯学習という概念も注目され、子ども、青年、親、女性、高齢者、障害をもつ人など、各ライフステージや置かれている立場によって、様々な学習課題が生じている。こうした中で社会教育・生涯学習のもつ可能性について考えられるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会教育・生涯学習にまつわる問題群の理解と解釈
- ・社会教育・生涯学習行政の理解と解釈
- ・現行のさまざまな社会教育・生涯学習実践の理解と解釈

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するレジュメデータをもとに講義形式で進めていく。適宜メモが必要であればとること。時折映像学習を取り入れる。終盤にはワークショップも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	地域社会における子ども の生活と居場所づくり	青少年団体と子ども、子どもの居場所づくり、放課後対策、子どもの社会参画など
第 3 回	青年の自立と社会参画	青年教育の歴史、現代青年の自立・社会参画の課題、自立を育む社会参画論など
第 4 回	子ども・若者に関わる生涯学習の実践（映像学習）	「居場所づくり」や「社会参画」の実際
第 5 回	子育て不安と子育ての共同化	子育ての共同運動の歴史、子育て不安の構造、子育てグループ・ネットワークの形成など
第 6 回	成人女性の教育と男女共同参画社会	婦人解放と学習、国際的なジェンダー問題学習、女性関連施策など
第 7 回	子育て・ジェンダーに関わる生涯学習の実践（映像学習）	子育て支援、共同保育所、LGBT 問題学習など
第 8 回	高齢者の学習活動と生きがいづくり	高齢期学習、高齢期準備教育、高齢化理解教育、生活支援学習など
第 9 回	障害者の学習文化活動と社会的排除に挑む学び	障害者の権利保障と学習文化活動、社会的排除の構造と学習課題など
第 10 回	高齢者・障害者に関わる生涯学習の実践（映像学習）	高齢者学級・大学、共生ケアと地域づくり、障害者の自立と学習の取り組みなど
第 11 回	地域における社会教育・生涯学習施設の役割	多様化する学習施設の現状
第 12 回	学校の再生と地域の教育力	公民館・図書館・博物館の歴史・役割 学校と地域の関係、開かれた学校づくりの流れ、学校支援の今日的展開と課題など
第 13 回	生涯学習に関わるワークショップ：意見表明スケール	対話型授業：これまでの授業内容をふまえて論点を抽出し、より深く議論する
第 14 回	授業内テストと全体のまとめ	授業内テストの実施後、全体のまとめ、テスト内容のふりかえりを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・下記参考書や新聞等において扱われる社会教育・生涯学習の関連記事に関心をもち、記事等を収集し感想や意見をまとめておくこと。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
- ・社会教育・生涯学習の用語についての理解を深めるよう、復習に努めること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
- ・講義の内容を参照しながら、自分自身の自己実現のために自らの生き方を考えること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、どれだけ取り組みんでも構わない。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会

川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木真理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育 1～7』学文社
佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木真理・梨本雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典（2017）『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

映像学習時の感想文（10 点 × 3 = 30 点）、期末テスト（70 点）およびアクションペーパーの内容（+ a）による総合評価を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

紙プリントは基本的に配布しないので、学習支援システムでレジュメや資料を確認するために PC・タブレットなどの端末が必要。準備できない場合は教官に相談する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The number of places and opportunities for people to learn is currently expanding. The concept of lifelong learning is gathering attention, and children, adolescents, parents, women, elderly people, and people with disabilities have various learning issues according to their life stage and position. This course aims to examine possibilities for social education and lifelong learning in the above situations.

[Learning Objectives]

- To understand and interpret issues associated with social education and lifelong learning
- To understand and interpret the public administration of social education and lifelong learning
- To understand and interpret various existing systems for impl

[Learning activities outside of classroom]

- ・ Be interested in articles related to adult education and lifelong learning that are dealt with in reference books and newspapers, collect articles, and summarize your impressions and opinions. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ Try to review so that you can deepen your understanding of the terms of adult education and lifelong learning. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ While referring to the contents of the lecture, think about your own way of life for your own self-actualization. The guideline for the time to work is basically different for each person, but it doesn't matter how much you work on it.

[Grading Criteria /Policy]

Impressions during video learning (10 points x 3 = 30 points), term-end exam (70 points) and statements in the workshop (+ a)

EDU200MA

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ） 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システムの理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会教育・生涯学習の講座	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
3	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
4	水辺に向き合う社会教育・生涯学習①	「水辺を活かす」とはどのようなことなのかを考える
5	水辺に向き合う社会教育・生涯学習②	「湿地を活用した地域経済の振興」についてか k んがえることで、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
6	水辺に向き合う社会教育・生涯学習③	「湿地とビジネスの関係性」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
7	水辺に向き合う社会教育・生涯学習④	「湿地・水と地域文化/現代文化」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
8	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑤	「湿地を活用した健康増進・社会福祉の充実」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
9	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑥	「湿地の保全・利用を支える CEPA」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
10	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑦	「すべての人の水辺のために」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
11	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑧	湿地の保全・活用と教育との関係性という視点から、これまでのレポートクリニックを行う。
12	講座のつくりかた③	幅広く伝える広報・宣伝の方法について考える。
13	講座のつくりかた④	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
14	教室内期末レポート作成	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。

授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。

授業後半に地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

シリーズ 水辺に暮らす〈SDGs〉第 2 巻 高田・朝岡他編著「水辺を活かす」朝倉書店 2023 年

【参考書】

朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社 2013 年
社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』2005 年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社 2009 年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

課題のうち①及び④は授業実施日より 5 日以内に提出し、②及び③は課題発題日から提出指定日までに提出してください。

①テキストから課題レポート（ワークシート） 60 %

②学習プログラム作成 20 %

③学習プログラムのポスター作成 10 %

④期末レポート 10 %

【学生の意見等からの気づき】

実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】

授業中に出题される課題を提出すること。

【Outline (in English)】

Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematic way.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertise of learning support in a historical, practical and systematic way.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and plan a learning program. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 60%, learning program : 20%, poster : 10%, final report : 10%.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代にも存在しますが、子どもへのまなざしや社会における位置づけは、時代や地域により異なります。同様に、子どもが何を学ぶべきか、その学びがどのように行われるかも一様ではありません。たとえば、私たちの社会では、すべての子どもが学校に通って一定の内容を学ぶことが制度化されていますが、こうした学校中心の教育が始まったのは近代になってからのことです。

この授業では、西洋教育史をベースに、子どもにどのようなまなざしが向けられ学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。そして、私たちの社会で当たり前になっている子ども観や教育、およびそれが抱える問題と、それらの歴史がどのように関わっているのか、深く掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることで、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における子ども観や学びの変遷を、背景にある歴史事象と共に説明できるようにします。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式の授業を予定しています。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・必要に応じて、オンラインの授業を併用します。
- ・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。
- ・授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけと教育の変容
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立

第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもと学びと諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第 14 回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・提示資料を用いて授業を復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 60 %、リアクションペーパー 30 %、授業への貢献・平常点 10 % を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の 2/3 以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクを ON にできる環境で受講してください。
- ・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システム等を利用します。

【Outline (in English)】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role in education.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

原 葉子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

It is desirable for students to have studied Japanese modern and contemporary history at the high school level and to read newspapers on a regular basis. Students are expected to spend approximately one hour before and after each class to understand the class content. Grading will be based on the final exam (50%) and submission of assignments (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における教育や学習のあり方は、近代化以降どのような経路をたどって形作られてきたのだろうか。この授業では、日本近現代において展開されてきた教育や学習に焦点を当て、ライフコース、家族、ジェンダー等の変容と関連させて理解するとともに、現代の問題につなげて考察することを目的とする。

【到達目標】

- ・教育や学習の社会史に関わる基礎的な知識を獲得する。
- ・歴史を学ぶことを通じて、現在の社会的事象を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインの両方で授業を行う。講義中心だが、対面授業においては、受講人数によってグループワークを採り入れることがある。また、授業のテーマについての考察を深めるため、原則として毎回の授業後にリアクションペーパー等の提出を求める。場合によっては事前課題や小テストを課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか、社会史とは何か
第 2 回	社会の近代化と教育	おもに西洋における近代化の諸相と、それに伴う教育や家族の変容
第 3 回	学校の近代	日本社会の近代化と学校制度
第 4 回	「教育する家族」の誕生	「教育する家族」としての近代家族の生成とその特徴
第 5 回	子ども観の変容	近代における「子ども中心主義」の展開とその影響
第 6 回	「教育する家族」の社会史	戦後の結婚観と配偶者選択方法の変化
	①配偶者選択の変容	
第 7 回	「教育する家族」の社会史	性別役割分業に基づいたジェンダー別
	②ライフコースの変容	ライフコースの形成とその影響
第 8 回	「教育する家族」の社会史	長期にわたる三歳児神話の影響と、母
	③母親役割の変容	親観の変容
第 9 回	「教育する家族」の社会史	家族規範の変容にともなう祖父母役割
	④祖父母役割の変化	の変化
第 10 回	「教育する家族」の社会史	「権威者」から「ケアする男性性」へ
	⑤父親役割の変容	
第 11 回	女子教育の展開	近代の女子高等教育から、戦後の家庭科必修まで
第 12 回	スポーツと身体の社会史	近代スポーツとジェンダーの関係
第 13 回	教育とセクシュアリティの社会史	性的身体の管理と性教育の歴史
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を理解するにあたり歴史についての知識を必要とするため、高校レベルの日本近現代史の概要を学習しておくこと。授業後は、参考文献等にあたり知識を深めるとともに、新聞等を読み現代社会の問題に関心を開いておくことを推奨する。予習時間・復習時間ともに各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出など）50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】

In what ways have modern education and learning been shaped since modernization? This course will help students understand issues related to education and learning in modern and contemporary Japan in the context of changes in the life course, family, gender, etc., and relate them to current issues.

EDU200MA

教育社会学 I

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

How does (school) education function in our society and influence our way of thinking and our values? How should we evaluate such thoughts and values? In this class the students are to learn the sociological way of thinking with its basic concepts. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and final exam 70%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(学校) 教育は社会においてどのような機能を果たしており、私たちの考え方や価値観にどのような影響を与えているだろうか。そうした機能や影響はどのように評価したらよいただろうか。このクラスでは、教育社会学の思考方法を基礎概念とともに学びます。

【到達目標】

・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的/量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
 ・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」とは天下国家とは限らない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI 化・・・社会学的な知識と理解を徐々に習得し、教育と結びつけて考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を行ないます。ただし新型コロナの感染拡大状況によっては、zoom によるリアルタイム型授業に変更する回もありえます。

この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメの Question を毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではなく、それを発展させ深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第 2 回	中学校長「二人以上産む最も大切」-どう思う？	社会科学の表現作法（テキスト第 1 章）、学校の諸機能
第 3 回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	社会化、自己愛、ゆるし（テキスト第 3 章）
第 4 回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？	社会化と AI のインパクト（テキスト第 6 章）
第 5 回	どうしても働かなきゃダメ？	社会統制と「労働の道德化」（テキスト第 5 章）
第 6 回	大学と大学生、どのように増えてきた？	グラフの作成・記述・考察
第 7 回	大学と大学生、なぜこんなに増えてきた？	機能主義、アクター理論
第 8 回	男女別学高校、なぜ・どのように減ってきた？	第 6、7 回で得たスキルと知識の応用エクササイズ
第 9 回	経済と労働と教育、どう変わってきた？	近過去に関する基礎知識習得（テキスト第 1,4 章）
第 10 回	大学生の進路、なぜ・どのように変わってきた？	「能力」の構築主義的理解
第 11 回	やっぱり男性のほうが女性より仕事ができる？	統計的差別、ジェンダー化された能力、葛藤理論
第 12 回	給料 2 割減、週 20 時間労働を選ぶ？	ライフコース展望の男女差とその変化（テキスト第 4 章）
第 13 回	扶けてくれる人はどこにいる？	社会関係資本の脆弱化・偏在と包括支援政策（テキスト第 7 章）
第 14 回	まとめ	基礎概念の再確認、期末試験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。予習レジュメの Question をこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】

中間レポートが 30 %、期末試験が 70 %

【学生の意見等からの気づき】

みなさん、授業を一緒に楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレットを持ってきてください。ない人はスマホでも構いませんが、画面が小さくて見にくいです。

EDU200MA

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、労働・福祉・生活・教育などさまざまな領域で歪み・軋みが続いています（リスク社会）。では、どのように再創造していけばよいのでしょうか。自治体や地域が現在、生活・就労困難者に対してどのような包括支援や教育訓練を展開しているのかを、社会的な視点から具体的に学ぶなかで、より善い社会をデザインしてゆきます。

【到達目標】

生活・就労困難者への包括支援や教育訓練という、「どう接したら／教えたらいいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に理解すべきなのは、人・モノ・カネ・情報といった諸資源のネットワーク化のありよう、教育の意義や機能や形態の変化、実現されるべき諸価値、といった点です。このクラスでは、ミクロな次元から、ビジネスや NPO や地域社会、組織や制度へと社会的な視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則対面で実施します。ただし、コロナ感染状況によっては、zoom によるリアルタイム授業に切り替える回もありえます。

毎回、最初の 1/5 が前回リアベへのリプライ・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 がミニ発表と筒井の発展的解説、というスタイルです。毎回、ざっくりとした予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「リスク社会」がもたらしたものと社会の反応・対応
2	自治体による就労・生活支援とは何か	自治体の新たな役割と求められる支援の包括性（テキスト序章）
3	国の福祉政策・労働政策はなぜ・どう変わってきたか	労働市場と福祉供給の劣化とそれへの対応（テキスト第2章）
4	シングルマザーを支援する飲食店	ビジネスは福祉を代替するか？（テキスト第9章）
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	行政セクターにおける就労支援の展開と課題（テキスト3章第3節）
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるか（レポート作成のコツ）
7	就労・生活支援の営利組織への委託	行政と民間の「パートナーシップ」が孕む課題（テキスト第4章）
8	豊中市の就労・生活困者への支援	スモールステップを踏んだ支援と教育訓練、自治体の福祉・労政部門の連携の難しさ（テキスト第8章）
9	就労・生活支援の「出口」をどう創るか	中小企業支援の福祉的性質（テキスト第7章）
10	支援／教育と銘打たない支援／教育	「支援／教育」という「強制」へのアンチテーゼとしての「共生」（テキスト第11章）
11	高齢者と生きづらいつ若者をつなぐ	協同労働の可能性と課題（テキスト第5章）
12	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	より善い社会（とくに労働と福祉と教育の領域）に向けた諸価値（テキスト序章）
13	誰もが働き、生きていける社会とは	より善い社会をデザインする（テキスト終章）
14	期末レポートに向けて	データ提示に基づく考察展開の書き方を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み——』勁草書房。

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 30 %、期末レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

毎年この授業の履修者は、将来、教育や支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人——などが多いです。

【Outline (in English)】

The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life(risk society). Then, how should we recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for comprehensive support of the people with difficulties in work and life. The goal is to widen your sociological perspective and to design a better society. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and term paper 70%.

EDU200MA

教育経済学

展開科目

荒木 宏子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とする。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？なぜ政府は学校や教育政策の運営、皆さんの学費の補助に税金を用いるのでしょうか？皆さん自身や、さらに次の世代の学び方に係るこれらの問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

【到達目標】

本講義の主な到達目標は2つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方、分析の仕方を身につけ、教育のみでなく広く社会問題を論理的に考察し、選択する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

座学（インプット）に限らず、皆さんからのコメント発表などを、受講人数に応じて取り入れます。座学形式の講義の回も、演習問題やリアクションペーパーなどの課題があります。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を決定してください。また、講義期間における、新型コロナウイルス感染症にかかる様々な状況と講師の健康問題等を踏まえ、原則オンラインでの講義実施（講義時間リアルタイムでの zoom 配信の予定）となります。講義形式については、都度、学習支援システムや講義内にてご説明します。課題等に対するフィードバック方法：受講人数にもよりますが、基本的に、レポート等の課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。受講人数が多くなった場合などには、授業時間内やオフィス・アワーを別途設けるなどして、適宜、課題等に関する講評や解説をまとめて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「経済学」を用いて教育を捉えるとは。本講義全般のテーマや問題意識の紹介。受講希望理由書の提出。
第2回	教育投資の基礎理論（1）	なぜ人は教育を受けるのか？なぜあなたは大学へ進学したのか？教育の効果、需要の目的を経済学的に考える（「消費」と「投資」）。人的資本理論の紹介。
第3回	教育投資の基礎理論（2）	人的資本理論をベースに教育があなたや社会にもたらす効果を考える。教育投資の収益率の計測方法を学ぶ。
第4回	教育投資の基礎理論（3）	学歴による賃金格差を説明するその他の理論・考え方の紹介。
第5回	教育投資の基礎理論（4）	教育投資の基礎理論のまとめ。講義内レポートについての説明。
第6回	教育の効果に係る経済学的実証分析	世界・国内における教育経済学実証研究の系譜と紹介。
第7回	中間レポート発表、討論	講義前半の論点、トピックに係るレポートの提出、発表など。
第8回	教育政策の経済学的評価（1）	二つの評価基準：効率性と公平性。教育効果を定量的に「測る」という考え方。教育生産関数。
第9回	教育政策の経済学的評価（2）	教育生産関数。政策評価手法の基礎、相関分析の紹介。
第10回	教育政策の経済学的評価（3）	教育の効果、学力の伸びをどのように測るのか？実験的手法等の紹介。
第11回	教育政策の経済学的評価（4）	日本、世界における教育経済学実証研究における政策評価手法。費用対効果分析の基本的な考え方。
第12回	教育政策の選択（1）	一つの教育政策を選ぶことの、総合的な経済学的効果を考える。金融教育などを例に。
第13回	補足及び復習、質疑応答など	12回までの講義内容の復習、時間内に説明できなかった論点の補足、質問の多かった論点の解説など。

第14回 教育のもたらすもの。 講義全体を振り返り、教育への公費支出の意義、教育が社会の効率・公平にもたらす影響などを整理する。期末レポートの提出に係る質問時間を設ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。
・講義で取り上げた内容に関わる論文、調査、学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに用いませぬ。

【参考書】

授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%程度（中間レポートや講義内での演習問題・リアクションペーパーへの回答。講義での意見などの積極的な参加。）

期末レポート：50%程度

【学生の意見等からの気づき】

中間レポートや期末レポートの出題時期、分量、質問への対応の仕方については、前年度以前の学生の皆さんからの感想や意見を取り入れつつ、講義内での学習成果をより公平に評価できるよう、変更を加えさせて頂いています。また、リアルタイムのオンライン講義のため、接続トラブルなどによって講義参加に問題が生じたといったことについても、複数の報告が寄せられました。ネットワーク環境については、基本的には受講生の皆さんが、授業日時に講義に参加できる環境をご自身で整えて頂くことが、受講の前提となります。しかし、ご自身の責任ではない問題が生じる場合もありますので、皆さんからの状況を伺いつつ、適切な対処と公正な評価への配慮をすべく、その都度、意見を交換させて頂きます。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に、講義時間リアルタイムにオンライン（zoom）での講義を行います。講義中は、質問にチャットまたは音声での回答を求めることがあるため、講義参加が可能なネットワーク環境を整えてください。不明なこと、心配なことがある場合には、受講前に荒木までメールで（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）問い合わせいただくか、あるいは初回の講義で質問をしてください。

【その他の重要事項】

この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。よって、予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、必ず第1回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200~400字）を学習支援システムより提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第1回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメール（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）にて連絡をください。

【Outline (in English)】

In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of school and educational programs with tax? And why does the government subsidize your school fees?

Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

Learning Objectives:

There are two main goals of this lecture. The first is to deepen the capability to consider various issues related to school education and university education, and to gain an opportunity to reconsider one's own university life. The other is to acquire an economic way of looking at and analyzing things, and to acquire the ability to logically consider not only education but also a wide range of social issues.

Learning activities outside of classroom:

The following preparation and review may be required.

・ Find articles and other materials related to the issues discussed in the lecture, summarize the author's arguments, and write a report in which you express your own thoughts.

・ Submit reports summarizing your own opinions and answers to the exercises related to the lecture content.

・ There is a possibility that you will make a presentation of the above in the lecture.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria:

Usual performance points: about 45% (mid-term report, answers to exercises and reaction papers in the lecture. Active participation such as opinions in lectures.)

Final report: about 55%.

MAN200MA

キャリア研究調査実習 C(デー 展開科目
タで語るキャリア)

久保田 貴文

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業を通じて、就業を中心とする働くことに関する調査の実施方法について理解すると同時に、自分自身で調査を計画実施する際に必要なスキルを修得する。この授業では、既存の調査票を参照しながら、調査票の設計方法、対象者の選定や回答依頼方法、分析方法、考察、まとめ、そして報告・プレゼンするまでの一連の作業についてレクチャーし、その一部を体験することを通じて、量的調査のノウハウを身につける事を目標とする。

【到達目標】

- (1) 先行研究の調べ方、仮説・リサーチクエッションの立案ができるようになる
- (2) 調査票を作成出来るようになる
- (3) 統計データをグラフで視覚化することが出来るようになる
- (4) 簡単なデータ分析が出来るようになる
- (5) 得られた結果を報告出来るようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めるパートと、個人またはグループでの実習形式で進めるパートで構成される。講義では調査を実際に行う際に必要となるスキルをレクチャーし、その一部について実習を行う。実習では、マイクロソフト・エクセルおよびマイクロソフト・パワーポイントを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方ならびに調査の概要を紹介する。また、論文の書き方について学修する（第 1 章：論文とは何か）。
第 2 回	統計グラフの基礎・作成（1）	統計グラフとは何かについて学修し、実際の調査結果の表・グラフから統計データの視覚化について学修する。また、論文の書き方について学修する（第 2 章：科学と論文）。
第 3 回	統計グラフの基礎・作成（2）	1 変数の質的データの視覚化、1 変数の量的データの視覚化を行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する（第 3 章：主題と対象）。
第 4 回	就労に関するデータの分析（1）	2 変数のデータの視覚化について行う。クロス集計、母比率の差の検定を行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する（第 4 章：はじめての調べ方）。
第 5 回	就労に関するデータの分析（2）	代表値・散らばり、母平均の差の検定を行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する（第 5 章：方法論（調査設計））。
第 6 回	就労に関するデータの分析（3）	統計的検定について総まとめを行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、
第 7 回	就労に関するデータの分析（4）	就労に関するデータの分析についてまとめを行う。論文の書き方について学修する（第 6 章：先行研究と学問体系）。
第 8 回	回帰分析	問いを設定し、答えを見つけるためのリサーチの計画を概観する。また、自身の考えた計画で回帰分析することを想定する。
第 9 回	量的調査	よくある量的調査について学修する。また、論文の書き方について学修する（第 7 章：方法（メソッド））。
第 10 回	調査計画の立案	調査計画の立案の方法を学修する。
第 11 回	調査票の作成	調査票を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション（1）	効果的なプレゼンテーションとは
第 13 回	プレゼンテーション（2）	発表スライドの作成

第 14 回 プレゼンテーション（3） プレゼン大会を開催する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で情報機器を使った実習を行うため、授業後に実施内容について復習等が必要である（約 4 時間）。また、毎回の授業において次回の実施内容を説明するので、必要に応じて準備学習を実施すること（約 2 時間）。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要に応じて授業内で指示する。

【参考書】

・基礎からわかる 論文の書き方（講談社現代新書）/ 小熊 英二
・実例でよくわかるアンケート調査と統計解析 / 菅民郎

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：50%（5%の課題を 10 回程度、主にレポート・論文の書き方についての課題、データ分析についての課題。各回の到達度をチェックする。）

レポートや課題の提出：50%（10%のレポートを 5 回程度。データ分析、アンケート調査計画、アンケート調査票、プレゼン資料、プレゼンの 5 回分。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を利用した授業であるが、持参の必要性については初回の授業にて指示する。オンライン授業になった場合には、マイクロソフト・エクセルを用いてデータ分析を実施し、マイクロソフト・パワーポイントを用いてプレゼンテーションの資料作成・実施するので、その準備が必要な場合がある。

【その他の重要事項】

実習を伴う科目のため、初回の授業に必ず出席のこと。

ただし、コロナの状況に応じて、やむを得ず 2 回目からの参加になる場合には、教員の指示に従うこと。

【Outline (in English)】

Through lecture, learn how to conduct surveys related to carrier mainly in employment, and at the same time, acquire the skills necessary to plan and conduct research yourself. In this class, lectures will be given on a series of tasks from the design of the questionnaire, the method of selecting subjects and requesting answers, analysis methods, consideration, and summarization, while referring to the existing questionnaire, and experiencing some of them. Through this, the goal is to acquire the know-how of quantitative research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 50%、in class contribution: 50%

MAN200MA

キャリア研究調査実習 D (仕事とビジネスの質的研究) 展開科目

園田 薫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

働く人々のキャリアを研究するためには、事前に調査対象やアプローチの仕方に対する十分な知識を身につけたいと、適切に調査対象・手法を設定し、洗練された調査のやりとりを通してデータを獲得し、その結果を丁寧に解釈することが望ましいとされます。本授業では、人々の仕事とビジネスの現場を質的に調査することを通して、質的調査のプロセス・有用性・奥深さを学びながら、ビジネス領域で何が起きているかを体感してもらいます。

【到達目標】

- ①実際に現場での質的調査を通して、質的調査のすすめ方を習得する。
- ②産業・労働研究での質的調査の活かし方を学ぶ。
- ③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための、より実践的な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実習を中心に、講義を交えながら授業を進めます。講義では、質的調査の基礎を学んだうえで、産業・労働分野での優れた研究から質的調査の活かし方を検討します。実習では、調査に向けた準備を整え、実際に調査を行って結果をまとめ、はじめに設定した調査テーマや明らかにしたいことと照合しておおまかな結論を導くまでの、一連の質的調査のプロセスを積み重ねます。調査テーマや実施する質的調査のアプローチなどは、受講者の問題関心を参考に設定します。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標等の説明、調査テーマの確定とスケジュールの確認
第 2 回	質的調査の概説 (1)	社会調査と質的調査について (講義)
第 3 回	質的調査の概説 (2)	質的調査における方法論的アプローチ (講義)
第 4 回	質的調査の準備 (1)	関連する先行研究の紹介と検討 (講義)
第 5 回	質的調査の準備 (2)	関連する制度の確認、既存の統計資料の整理 (実習)
第 6 回	質的調査の準備 (3)	調査対象と方法の選定、調査趣旨書の作成 (実習)
第 7 回	質的調査の活かし方 (1)	質的調査を用いた古典的な産業・労働研究の紹介 (講義)
第 8 回	質的調査の活かし方 (2)	質的調査を用いた現在の産業・労働研究の紹介 (講義)
第 9 回	質的調査の実践 (1)	対象産業の実状を把握するための予備調査 (実習)
第 10 回	質的調査の実践 (2)	仕事の現場を学ぶための調査 (実習)
第 11 回	質的調査の記録 (1)	調査から得た情報をもとに、記録文書を作成 (講義+実習)
第 12 回	質的調査の記録 (2)	作成した記録文書を報告し、共有 (実習)
第 13 回	質的調査のまとめ (1)	準備段階で得た情報と記録文書の照合、検討 (実習)
第 14 回	質的調査のまとめ (2)	調査のプロセス全体から得た知見のまとめ (実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

調査の準備 (対象地域や企業に関する下調べ) と調査の記録文書の作成、調査のとりまとめを行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

梅崎修・池田心豪・藤本真編、2020、『労働・職場調査ガイドブック』中央経済社。
 松永伸太郎・園田薫・中川宗人、2022、『21 世紀の産業・労働社会学』ナカニシヤ出版。
 その他については授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 (「授業時間外の学習」の成果) 50 %、平常点 (調査現場での適切な態度や授業内の発言など) 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to study the careers of working people in general, it is desirable to acquire sufficient knowledge of the research targets and approaches in advance, choose appropriate research methods, get our own data through sophisticated interactions, and carefully analyze and interpret the results. In this class, students will experience what is happening in the business field through the process of qualitative research on actual people's work and business practices.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- conduct qualitative research through actual research in the business field.
- utilize qualitative research as labor research in sociology.
- acquire more practical skills to do qualitative research for graduation thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 50%、in class contribution: 50%

MAN200MA

外書講読A (ビジネス)

展開科目

相澤 鈴之助

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、当初、平易な英字新聞記事を取り上げた後、経営学に関する古典的な研究論文に挑戦していきます。経営学の代表的な英語論文に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

英語で書かれた専門的な文献 (ジャーナルの文献) を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。科目の性格上、履修可能者数を 30 名に制限します。当該制限数を超過した場合には選抜を行うので、履修を希望する人は必ず第 1 回目の授業に必ず出席してください。なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の全体像と目標、講義内容の紹介を行います。
2	英字新聞記事 (1)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
3	英字新聞記事 (2)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
4	英字新聞記事 (3)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
5	英字新聞記事 (4)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
6	研究論文を読む (1)	英語文献 Abell(1980)Defining the Business の導入を読みます。
7	研究論文を読む (2)	英語文献 Abell(1980)Defining the Business の導入の続きを読みます。
8	研究論文を読む (3)	英語文献 Abell(1980)Defining the Business の導入の続きを読みます。
9	研究論文を読む (4)	英語文献 Barney(2001) の抜粋を読みます。
10	研究論文を読む (5)	Barney(2001) の抜粋の続きを読みます。
11	研究論文を読む (6)	英語文献 Porter(2003) Competitive Strategy の導入を読みます。
12	研究論文を読む (7)	Porter(2003) Competitive Strategy の導入の続きを読みます。
13	研究論文を読む (8)	Porter(2003) Competitive Strategy の導入の続きを読みます。
14	本講義のレビュー	これまでの講義内容のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、次のとおりです。

- ①授業における発言、提出物 70%
- ②平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

英語を深く読むことができたという意見が多かったため、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】

- ・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
- ・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。
- ・受講希望者が 30 名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, initially, we will focus on plain English newspaper articles, before moving on to classic research papers on business administration. We would like students to experience the significance and enjoyment of learning by actually touching representative English papers on business administration.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.Understand the concepts and backgrounds necessary for business in English.
- B.Able to read academic literature written in English.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%、in class contribution: 30%

MAN200MA

外書講読 B (ビジネス)

展開科目

杉原 弘恭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスに必要な知識の基礎を学びつつ、世界標準化してきている英米のビジネス様式の背景を探ります。

Steve Jobs が「アップルは Technology と Liberal Arts の交差点にしようとする」と述べたとき、どれだけの人々が理解できたのでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました。また英文契約書が似た意味の動詞を 2 つ並べて使う意味は？ 原文で理解する意味がそこにあります。また、アメリカでは民間企業でありながら、環境や社会分野での公益提供する Bene fit Corporation という新しい会社制度が成立しています。この制度による会社では、そのような企業の役割を社員の内発的動機づけ Drive や Caring 概念と同期させようとしている傾向が見受けられます。企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく、原典を参照しながら進んでいきます。

【到達目標】

ビジネスに必要な概念と背景を英語と共にマスターします。ビジネスに必要な概念をその背景と共にマスターし、キャリアデザインの基本に位置するモチベーション 3.0 などの考え方を理解することを目標とします。これらが capable communication, ひいてはのちの経営 (生涯学習とキャリア形成) の参考になれば幸いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

出典や詳細な解説を行った資料を毎回支援システムの「教材」で配布します。講義ではそれを用いてポイントを説明していきます。

毎回、講義後に資料をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paper (下記、以下 RP という) を提出してください (学習支援システムの「テスト/アンケート」を使用)。なぜ音読しながら目を読むことが大事かは第 1 回目と 2 回目の講義でわかります。

講義に出席できない回は、オンデマンドで資料を読んで RP を提出してください。それに対する feedback は主に次の回の冒頭で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (オンデマンド)	講義のパースペクティブとネットワークの理解
第 2 回	国際ビジネスの背景にある違いは何かから？	国際ビジネスでの日本との違いを知る。Common law と大陸法の理解が必要
第 3 回	英語と日本語の communication 構造	3 層構造を意識する。英文契約書の世界観を知る
第 4 回	日米欧の経営目的の違いと責任	Liberal Arts と Servile Arts の反映を知る
第 5 回	責任を表す言葉とその源流	ビジネス、アダム・スミスと聖書にみる Accountability
第 6 回	日米雇用システム比較	雇用慣行の違いと変化、経済情勢、国際法との関係
第 7 回	AI,DX と雇用	情報、AI の基礎知識と DX と雇用を知る
第 8 回	Druker の Management	MBO-S, SWOT, PDCA など理解する
第 9 回	Management by commitment	commitment の重要性、経営の語源、Innovation, Value chain, Co-creation など理解する
第 10 回	組織のアーキテクチャ	アメリカと日本の違い、ほか
第 11 回	組織と 4 つの失敗	市場・政府・ボランティアの失敗、統計の歴史を知る
第 12 回	21 世紀の会社	アメリカと日本の会社の基礎知識と Bene fit Corporation を知る
第 13 回	21 世紀の会計	財務諸表の基礎知識と現在行われている未来志向の会計を知る
第 14 回	Work Motivation 3.0 と Transformation	内発的動機づけと内発的発展

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義後に資料をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paper を提出してください。

日本語では専門用語らしい翻訳語が、原語では日常用語であったりすることがあります。日頃から他に意味はないのか？ Why? What if? (もし〜としたらどうなるだろうか) などと考えるクセをつけるようにしてください。授業の準備学習・復習時間は本来 4 時間が標準です。

【テキスト (教科書)】

支援システムの「教材」で、毎回講義録を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。関連の国家試験「IT パスポート」には、(本講義を含めて) 辞書代わりに使える『よくわかるマスター IT パスポート試験対策テキスト』(FOM 出版) がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

Reaction Paper 80%、最終回の Test 20% を予定。

ただし、Test は講義内容の確認の意味がありますので、Reaction Paper と Test の片方の場合は、E (未受験・採点不能) となります。

Reaction Paper は白紙提出は未提出扱いで、下記片方に記載がないものは 1/2 評価。積極的な考察や情報提供には加点があります。最終回の Test は 2~4 肢択一式と論述を予定。

Reaction Paper の項目:

- 1) 今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？ (箇条書き)
- 2) 1) に関する考察・質問・感想・要望など (引用して意見を述べたり質問されるときは、出典を示してください。)

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布の講義資料は、出典や詳細な解説を行っていますので講義に出られない回も読むことで Reaction Paper の提出は可能です。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連資格：IT パスポート (一番取得しやすい国家試験で、毎月 PC 受験可能) IT 化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを、国が認定するもので、エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています。本授業で得た知識が活かれます！

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the basics of business knowledge and explore the background of English business styles, which are becoming the international standard.

How many people understood when Steve Jobs said, "Apple tries to be at the intersection of technology and the liberal arts"? The Japanese translation has been mistranslated. And what is the point of using two similar meaning verbs in an English contract? This is the point of understanding in the original English text.

In the U.S., there is a new corporate system called Bene fit Corporation, which is a private company that creates public benefit in the environmental and social fields. These companies tend to try to synchronize such external roles with employees' intrinsic motivational, Drive and Caring concepts.

This course is designed to provide a three-dimensional understanding of the international macroeconomic situation surrounding corporations as well as the human condition, with reference to the original English sources.

(Learning Objectives)

Students are expected to master the concepts and background necessary for business with English, and to understand concepts such as Motivation 3.0, which is the basis of career design. We hope that this will be helpful for you to understand the concept of "Capable Communication" and "Management of Lifelong Learning and Career Development".

(Method and Learning activities outside of classroom)

The materials with sources and detailed explanations will be distributed in the "Resources" section of the Learning Support System each time. The lecture will use these materials to explain the main points of the course.

After the classroom lecture, please read through the materials again while reading aloud and submit a Reaction Paper (hereinafter referred to as "RP") (using the "Test/Questionnaire" in the Learning Support System).

You will see in the first and second lectures why it is important to read aloud while reading with your eyes.

If you cannot attend the lecture, please read the materials on demand and submit the RP. Feedback will be given mainly at the beginning of the next class.

Translated words that seem to be technical terms in Japanese often turn out to be everyday terms in the original language. You should always ask yourself, "Is there any other meaning? Why? What if?" The standard preparation and review time for the class is 4 hours.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process:

Reaction Papers on each lecture (80%), term-end examination (20%), Reaction Paper:

- 1) What did you think was important in this lecture? (Bullet points)
- 2) Discussions, questions, opinions, requests, et cetera about 1).

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていきけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。〈まともな働き方〉を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では若年労働市場や働き方の現状と問題点、課題の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。中間レポートと期末レポートの執筆を求めます。初回の授業はオンラインで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	男女雇用機会均等法とコース別雇用管理	男女雇用機会均等法の歴史とコース別雇用管理の実態
3	企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化
4	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
5	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ／多企業と労働者の双方から見る非正規雇用
6	非正規雇用の処遇改善	無期転換と同一労働・同一賃金
7	雇用によらない働き方	雇用によらない働き方の特徴と課題
8	中間レポート振り返り	中間レポートの解説
9	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
10	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
11	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
12	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マウス
13	転職を考える	転職をめぐる課題と企業の対応
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
- ・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
- ・石田真・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

随時、計 6 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～1 回の学生や、いずれかのレポートに代筆や剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、キャリア形成について考えさせられた、身近な問題を考えさせられた、といった感想が見られる。働き方をめぐる現在の変化と皆さんの働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。オンラインの授業は zoom で行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。zoom の URL は学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 40%

MAN200MA

人材育成論 I

展開科目

佐藤 厚

単位数: 2 単位 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

曜日・時限: 水 3/Wed.3 | 配当年次: 2~4 年

その他属性: 〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人材育成論 I では、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法と特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成論 I の概要と方法は、人材育成=①<狭義: 職業能力の訓練= OJT + OFF-JT + 自己啓発> + ②<広義: 組織内でヒトが育つ環境= 人的資源管理+組織> + ③<最広義: ヒトが育つ社会環境: 家庭+学校+地域全体社会+労働市場> という枠組みの中で、①と②を中心にその基礎を学びつつ、③への視野の拡大をはかってもらうことにあります。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにもなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示します。初回授業実施日は、4 月 22 日 (水曜) 3 時限としますが、時間非限定形式の開講とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第 2 回	日本の人材育成システムの特徴——国際比較の視点から	1 日本の人材育成システムの特徴: 職業教育訓練への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与が高い 2 学校教育システムの特徴: 入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3 教育システムと雇用システムの補完性
第 3 回	能力開発とキャリア——これからのキャリア形成	1 これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターン: 新卒採用、異動・昇進というキャリア形成: 2 能力開発の方法: OJT、Off-JT、自己啓発 3 企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第 4 回	技術革新と技能の変化	1 学説: 高度化説と単純化説: 技術決定論と社会決定論 2 戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化: オートメーション化、ME 化段階、IT 化段階、AI 段階 3 情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4 情報技術の進展と新しい働き方——テレワーク
第 5 回	女性の職域とキャリア形成	1 性別職域分離とその理論: 統計的差別理論 2 国際比較でみた性別分離: 水平分離と垂直分離 3 職域統合へ向けて: M 字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジティブアクション

第 6 回	失業・転職とキャリア形成	1 失業について: 失業者の定義 2 失業とセーフティネットのしくみ: 失業のダメージ緩和のための雇用保険 3 転職について: 入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要性
第 7 回	若者のキャリア形成——学校から職場へ	1 「就社」社会とその得失 2 初期キャリア問題の諸レベル: 早期離職問題; 正社員への移行困難問題; 就業形態間の賃金格差問題; 学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3 若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第 8 回	非典型労働者のキャリア形成	1 非典型雇用の様々な働き方 2 企業の視点からみた非典型雇用: 賃金節約; 仕事の繁閑への対応 3 働く側からみた非典型雇用: 家計の補助; 都合のよい時間に働ける 4 問題への対応の方向性: 非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第 9 回	高齢化とキャリア形成	1 高齢化と仕事からの引退過程: 日本の特徴 2 定年制とライフスタイルの変化: 就労・非就労の規定要因 3 安定した高齢期生活を支える政策課題: 高齢者雇用安定法の改正
第 10 回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1 「ホワイトカラー」とは: 職業大分類の 4 つの職種の総称 2 企業内キャリアをみる視点: キャリアのタテ (昇進) とヨコ (異動) 3 国際比較からみた日本の特質: 「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4 人材育成からみたポイントと課題
第 11 回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1 専門的・技術的職業従事者の増加 2 技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3 研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較: 日本の特徴 4 日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第 12 回	中小企業労働者のキャリア形成	1 中小企業の労働市場の特徴 2 中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3 中小企業従業員の仕事意識: 組織との関係認識、職場の雰囲気 4 事業主からみた望ましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第 13 回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1 いまなぜワーク・ライフ・バランス (WLB) か 2 仕事と生活が両立しにくい現実 3 WLB を支える制度及び現状と目標 4 WLB 施策実現にむけての課題——仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第 14 回	講義のまとめと試験について	1 講義全体の振り返りとまとめを行う 2 定期試験の傾向と対策 3 受講生との質疑応答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義内容のかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 (改訂版)』有斐閣 (2014 年) に準拠しているため、各自購入の上、受講と合わせて読むことが望ましい。

【参考書】

佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 (2011 年)、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣 (2016 年) を購入し、併読することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・現時点での成績評価の方法と基準は以下のようである。
出席点 30 点。中間レポート 20 点。期末レポート (もしくは試験) 50 点。
なお、大きな変更がある場合は、学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

人材育成論 I と人材育成論 II をあわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society in modern society, human resource development may be indispensable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that employ them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

[Learning Objectives]

(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.

(2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.

(3) Understand the impact of vocational education and training on skill formation and career development, and deepen awareness of the current situation and policy issues in which the labor market and career development are diversifying.

[Learning activities outside classroom]

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance points 30 points. 20 interim reports. Final report (or exam) 50 points.

If there are major changes, we will contact you via the learning support system.

MAN200MA

人材育成論Ⅱ

展開科目

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅱでは、人々が企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の方法と課題についての基礎を学びます。また講義の後半では、国際比較を通じて、日本の人材育成とキャリア形成の特徴を学びます。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解する。
- (4) あわせて人材が育成されていくプロセスであるキャリア形成過程と労働市場が多様化している現状について、国際比較を通じて日本の特徴についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅱでは、日本の人材育成とキャリア形成について概論及び特徴を学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の概論について学びます。

講義の後半では、日本の人材育成とキャリア形成の特徴について国際比較を通じて理解することに努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション——人材育成論Ⅱの進め方	講義の進め方、概要、成績評価の仕方などを説明します。 なお、この講義の前半とは、第 1 回から第 6 回までを、また後半とは第 7 回から第 13 回までを指します。
2	組織のなかで人を育てること	第 2 回では、以下のことを学びます。 1 組織内人材育成の要点。人材育成に関連する用語 2 人材育成を考えるための枠組み 3 人材開発の実践モデル 4 人材開発の二つの視点 5 企業の実践事例にみる実践モデルと二つの視点 6 日本の人材育成研究の蓄積にみる二つの視点の意義と課題
3	日本企業の人材育成の特徴とは——OJT、Off-JTと人事制度の関係	第 3 回では以下のことを学びます。 1 職業能力開発システムの国際比較と日本の特徴 2 日本の企業内能力開発のしくみ：OJT、Off-JTの意義と課題 3 企業主導型キャリア管理と個人主導型キャリア開発 4 マネージャーやリーダーの育成（ブレインゲーマネージャー）
4	大企業の人材育成の事例	第 4 回では以下のことを学びます。 1 人事制度と教育訓練体系の事例 2 教育訓練体系の概要：フォーマルな OJT とインフォーマルな OJT 3 インフォーマルな OJT としての職場学習：仕事管理の PDCA サイクル 4 インフォーマルな OJT としてのキャリア：大企業部長のキャリア事例
5	大企業マネージャーのキャリア形成	第 5 回では以下のことを学びます。 1 インフォーマルな OJT としてのキャリアを見る意義及び成長・発達・学習する側の視点 3 インタビュー調査の対象と調査項目 4 マネージャーの育成に必要なもの

6	タレントマネジメントとリーダー人材育成—これまでの人材育成の課題	第 6 回では、これまでの人材育成の課題としてのタレントマネジメントとリーダー人材育成について学びます。
7	雇用制度と職業教育訓練制度の国際比較——日本の位置と特徴	第 7 回から第 13 回までが後半となります。国際比較による日本の人材育成とキャリア形成の特徴を様々な角度から学びます。 第 7 回は以下のことを学びます。 1 スキル形成、雇用制度の国際比較研究 2 職業教育訓練（VET）の国際比較研究 3 日本の位置と特徴
8	企業コミュニティの変化とキャリア形成・キャリア自律	第 8 回では以下のことを学びます。 1 企業コミュニティと個人のキャリア 2 内部労働市場の生成と衰退 3 キャリア形成と人材育成を考える三つの視点 4 企業コミュニティの変化と初期キャリア 5 企業コミュニティの変化と中期キャリア 6 企業コミュニティの変化と後期キャリア 7 「新しい」コミュニティとキャリア形成
9	企業コミュニティと人事方針及び人材育成——実証データによる英独日比較	第 9 回では以下のことを学びます。 1 労働者の意識についての国際比較研究（一覧） 2 人事管理の方針・個人と組織の関係認識・職場の雰囲気についての英独日比較 3 「人事管理による勤労意欲引き出し」仮説はイギリスやドイツでもあてはまるか？ 4 人事管理方針や人材育成の取組は勤労意欲（会社の発展のために自身の最善を尽くしたい）に影響を及ぼすか？ —英独日比較 5 考察とまとめ——日本と英独との差異の背景にあるものは何か？
10	ホワイトカラーのキャリア形成とキャリア自律に関する英独日比較——大企業管理職を中心に	第 10 回では以下のことを学びます。 1 ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究 2 ホワイトカラー及び大企業管理職の組織内キャリア 3 リーダーシップの特定と開発 —イギリス、ドイツ、日本のホワイトカラーのキャリア観 5 望ましいキャリアコース
11	職業資格の日本の特質——英独との比較を中心に	第 11 回では以下のことを学びます。 1 日本の職業資格制度の理念と概要 2 職業資格制度と教育制度及び労働市場との関連 —ドイツの特徴と日本の特徴 3 職業資格制度と労働市場との関係についての研究 4 教育制度と職業資格との関連 —日独比較、日英比較の視点から 5 まとめ——教育システムと雇用システムの補完性の意義。雇用システムと職業資格の共振可能性
12	職業教育訓練と労働市場との関係の最近の変化——ドイツとの比較を中心に	第 12 回では以下のことを学びます。 1 今回のプレナムワークロードドイツと日本の職業教育訓練システムと労働市場システム 2 ドイツにおける職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 3 日本における職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 4 まとめ
13	日本の特徴と歴史的背景。生涯学習（リカレント教育）に対する含意	第 13 回では以下のことを学びます。 1 後半の講義（日本の特徴）の主な事実発見 2 日本の特徴の意味するもの —生涯学習（リカレント教育）に対する含意 3 日本の特徴の歴史的背景 —徒弟制の歴史にみる英独日の差異 4 最後に——日本の課題
14	人材育成論Ⅱのまとめ	講義全体の振り返りとまとめを行います。 定期試験（もしくは最終レポートの課題）について説明します。 学生との質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義前半のテキストとして佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を使用する。また講義後半のテキストとして佐藤厚『日本の人材育成とキャリア形成：英独日比較』中央経済社、2022年を使用する。なお、毎回、講義の骨子および統計データや調査結果を要約したpptレジメを配布（配信）する。また人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011年を併読をお勧めする。

【参考書】

人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011年を併読をお勧めする。

【成績評価の方法と基準】

- 1 毎回の授業への参加が 30 点です。
- 2 授業の前半が終わるころに中間レポートを課します。授業前半の振り返りが目的です。基準は 20 点です。
- 3 期末に定期試験を実施する。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。基準は 50 点です。

【学生の意見等からの気づき】

各論について出来る限り調査データや海外の事例等を織り交ぜて解説します。

【授業中に求められる学習活動】

C,D

【Outline (in English)】

【Course outline】

In Human Resources Development Theory II, you will learn the significance, methods, and challenges of people forming vocational abilities in corporate society. In the first half of the lecture, you will learn the basics of human resource development and career development methods and issues for Japanese companies. In the latter half of the lecture, we will learn the characteristics of human resource development and career development in Japan through international comparison.

【Learning Objectives】

The learning goals of this class are as follows.

- (1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages. (2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.
- (3) Understand the effects of vocational education and training on skill development and career development.
- (4) To deepen awareness of the characteristics of Japan through international comparisons regarding the career development process, which is the process of developing human resources, and the current situation of the diversified labor market.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- 1 Participation in each class is 30 points.
- 2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.

We plan to conduct a regular test at the end of the term, but it may be a term-end report depending on the infection status of the new corona. The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

MAN200MA

産業・組織心理学 I

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履上上の注意事項について説明します。
第 2 回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第 3 回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第 4 回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第 5 回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的な関係性の重視
第 6 回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第 7 回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第 8 回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第 9 回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第 10 回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第 11 回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第 12 回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人間の暗黙の関係
第 13 回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第 14 回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・金井篤子編
『よくわかる産業・組織心理学』2007 年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90 %
授業内で実施するリアクションペーパー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業を担当していないため特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。1-2 回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性がります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%、Short reports :10%

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第 2 回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第 3 回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第 4 回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第 5 回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第 6 回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第 7 回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第 8 回	能力を高める②	仕事もたらす一皮むけた経験
第 9 回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第 10 回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第 11 回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第 12 回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第 13 回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第 14 回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002 年 PHP 新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004 年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90 %

授業内で実施するリアクションペーパー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

zoom での授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports :10%

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。今、社会は大きく変化しています。「人生 100 年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、職業キャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必然性が高まっているといえます。本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病氣治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして出席してください。そうしないと授業のスライドについてこれません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（改訂版）』（中央経済社、2023 年 4 月出版予定）です。テキストに沿って授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容（ミニレポート形式、内容も重視する）を加味して評価します。期末試験 60 %、平常点 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA

リーダーシップ論

展開科目

佐野 達

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャンクルとよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。

本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

【到達目標】

- ・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
- ・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
- ・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式を基本とする。
- ・一部の講義では、可能な範囲で演習（グループディスカッションやグループワーク）を行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
- ・課題のフィードバックとして、全体的な概要について講義で解説する。
- ・受講者数等によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第 2 回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？リーダーシップの定義を紹介する
第 3 回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第 4 回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第 5 回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第 6 回	新たなリーダーシップ研究④	対流的アプローチによる研究を紹介する
第 7 回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 8 回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第 9 回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバント・リーダーシップ研究を紹介する
第 10 回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する
第 11 回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について紹介する。
第 12 回	リーダーシップ演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 13 回	リーダーシップ演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第 14 回	講義のまとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること。授業時間内課題のふりかえり、授業時間外の課題に取り組み提出すること。（本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

【新版】グロービス MBA リーダーシップ, グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社 ;2014)

【参考書】

最強のリーダーシップ理論集中講義, 小野善生, (日本実業出版社)
 リーダーシップ入門, 金井壽宏, (日本経済新聞社)
 M.M. チェーマーズ, リーダーシップの統合理論 (北大路書房)

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 (50 %)
- ・授業内課題ワークシート・レポート等 および 授業活動への貢献度 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・情報機器（パソコンもしくは大型のタブレットを推奨）
- ・資料の事前配布および課題提出のために学習支援システムを使用することがある。

ただし、授業中は情報機器の使用を前提としない。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。
- ・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

【Outline (in English)】

Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal. This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also group dynamics.

In this class students will be aware of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding the foundation of leadership theories.
- B. Understanding the foundation of group dynamics.
- C. Deepening the understanding of and developing one's Leadership Styles.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting and to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports(Worksheets) and in-class contribution: 50%

MAN200MA

経営統計論 A (心理データ) 展開科目

片岡 亜紀子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。これは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差の把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握等で活用されるスキルです。実際には、調査対象者の行動データや質問紙等の回答データを集約し、得られたデータに対する統計処理を通じて、仮説の検証や傾向の把握を行っています。このプロセスや、得られた結果の解釈方法等を、講義や実習 (excel 等のソフトを使用する) を通じて習得します。

【到達目標】

統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。
質問紙の作成・データ収集・統計処理など、調査に必要な手続きができるようになる。

代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。
目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようになる。
分析結果を正確に記述 (解釈) できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

(学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.)

この授業では、質問紙調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、質問紙調査のプロセスを統計処理のスキルを含め獲得していきます。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学び、次に、得られたデータの集計方法 (例：サンプル数、平均値、標準偏差) のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈を学習します。その後、目的に応じたデータ分析手法を紹介し、質問紙調査でよく用いられる分析手法として、集団間の比較のための分散分析、変数間の因果関係を把握するための回帰分析、回答者を分類するためのクラスター分析、質問項目を集約するための因子分析等が用いられており、これら分析手法を学びます。また分析結果の解釈スキルの獲得を通じ、信頼性と妥当性の考え方について学習します。毎回、授業の理解度を確認するためのミニテストを課します。ミニテストの解説や回答に対するフィードバックは、次回の授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目的、授業の進め方等についての説明
第 2 回	質問紙調査	質問紙調査の目的や方法・プロセス・データ整理について、事例を用いた説明
第 3 回	相関と因果	二つのデータの関係性についての解説と実習
第 4 回	回帰分析	データの関連性をモデル化する回帰分析を学習
第 5 回	重回帰分析	複数変数を用いた重回帰分析についての実習
第 6 回	平均の比較 (1)	回答者集団の差を見出す分散分析を実習
第 7 回	平均の比較 (2)	複数の集団間の差を見出す多重比較の方法を実習
第 8 回	因子分析 (1)	心理尺度などで用いられる因子分析の解説
第 9 回	因子分析 (2)	データを用いた因子分析の具体的な手続きの実習
第 10 回	因子分析 (3)	分析のコツや信頼性・妥当性の検証方法の解説
第 11 回	信頼性と妥当性	調査手法や分析結果の質の解説
第 12 回	クラスター分析	回答者の分類方法であるクラスター分析の解説と実習
第 13 回	データの解釈	得られたデータの解釈に関する解説
第 14 回	まとめと今後の展望	本授業で学習した内容の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習が時間内に終了しなかった場合、次回の授業までに取り組みおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

田尾雅夫・若林直樹「組織調査ガイドブック」
L.G. グリム & P.R. ヤーノルド編 小杉孝司監訳「研究論文を読み解くための多変量解析入門 基礎編：重回帰分析からメタ分析まで」
L.G. グリム & P.R. ヤーノルド編 小杉孝司監訳「研究論文を読み解くための多変量解析入門 応用編：SEM から生存分析まで」
小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析 [第 3 版]」

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な貢献度とミニテスト：60 %
・学期末のレポート課題：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】

クラス (教室) の収容人数を超える履修希望がみこまれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to deepen students' knowledge of statistical surveys while acquainting them with survey procedures, analytical methods, and methods for interpreting results.

< Learning Objectives >

Acquire knowledge of statistical data and statistical surveys.

To be able to perform the procedures necessary for surveys, such as questionnaire design, data collection, and statistical processing.

Understand the aims and mechanisms of typical statistical analysis methods.

To be able to select appropriate statistical methods according to the purpose and data.

To be able to accurately describe (interpret) the results of analysis.

< Learning activities outside of classroom >

If the practical training is not completed in time, it must be worked on before the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Positive contribution to class and mini-test: 60%.

End of semester report assignment: 40%.

MAN200MA

企業会計論

展開科目

松本 徹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「黒字決算」「売上」「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】

この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

最新の事例を盛り込みながら、主に講義形式で行っていきます。まずは各章のウォーミングアップで講義内容の概略を示し、本文およびパワーポイント資料で基本的な会計用語・時事問題などを学びます。その際は各自で事前に会計用語や日本経済新聞などのデータを調べることも必要となります。次に各章のグループワークで総括を行い、各講義の最後に行う授業内ミニテストを解いて講義内容の確認と応用力を養ってもらいます。その際に出題される内容は、就職の際にも威力を発揮する現実的な役立ちを意識した問題も含まれます。なおこの講義は、対面で実施します。また授業内ミニテストの総評等については、適宜授業内で紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (オンデマンド授業)	本講義の主題と到達目標を説明します。資料をポータルサイトの教材に添付しておきますので確認してください。
第 2 回	会計の守備範囲 会計を支える技法	企業会計の対象と簿記一巡について学びます。
第 3 回	損益計算書 (1)	損益計算書の表示方法について学びます。
第 4 回	損益計算書 (2)	収益、費用の測定方法について学びます。
第 5 回	貸借対照表 (1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
第 6 回	貸借対照表 (2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
第 7 回	会計を取り巻くルール	金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
第 8 回	会計の開国	会計基準について学びます。
第 9 回	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
第 10 回	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。
第 11 回	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
第 12 回	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
第 13 回	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
第 14 回	期末試験・解説および本講義のまとめ	期末試験を実施し、解説します。また本講義の学習内容について要約・整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として各章のウォーミングアップを読んでください。わからない用語は各自で調べてください。復習・宿題等として授業内ミニテストの見直し等を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とします。また、日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展しますので、授業の進行に合わせて各自が興味のある企業について調べてください。

【テキスト（教科書）】

鈴木一道『会計学はじめの一步』第2版 中央経済社 2,000円
その他、必要に応じて講義プリントなどを配付します。

【参考書】

黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する期末試験 70 %、ミニテスト（またはレポート）30 %により評価します。授業をしっかりと聞くとともに、積極的に授業参加することが必要です。なお各自に論じてもらうような設問の場合、他の人とほぼ同じ答案とみなされる場合やテキスト・ネットなどの丸写しは不正行為などとみなし得点を与えませんので、自分で調べたものを自分の言葉で書きましょう。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting.

It'll be also useful in case of job hunting.

The aim of this course is to help students acquire knowledge of corporate accounting.

This goals of this course is to understanding of various accounting.

Before/after each class meeting, students will be to spend two hours to understand to the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (in-class):70% Small tests(reports):30%

MAN200MA

経営統計論 B (企業データ) 展開科目

長瀬 毅

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、大量の経営・企業データを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excel の基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、実践の場で使いこなすことができるようになることが到達目標です。具体的な到達目標は、学生が様々なレポートや卒業論文を執筆するにあたり、統計分析を用いた専門的な学術論文を精読する際に、論文中の統計分析を追跡・解釈し論文の妥当性を検証し論文の成果と課題を認識できるようになることです。また、学生が講義で取り扱う売上高等の企業財務データや、物価等のマクロ経済データの取り扱いに習熟し、自身のレポート・論文作成、職業の場でのデータ分析に活かすことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを体験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めています。受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフト R の基本操作について学びます。
3	記述統計 (1)	中心的尺度 (平均、中位数、最頻値) について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計 (2)	ちらばりの尺度 (レンジ、分散、標準偏差) について企業データを用いて学びます。
5	記述統計 (3)	標準化 (Z 値) について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計 (4)	2 変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析 (1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析 (2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変量により理解できるようになります。
9	回帰分析 (3)	タミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
10	回帰分析 (4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析 (5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定 (1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定 (2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。

14 各種検定 (3)

回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業における発言、取り組み: 30%
- ②授業内および期末レポート: 70%

【学生の意見等からの気づき】

今年度は初めての担当ですが、前任の講師の先生からは、「統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。」と聞いています。今年度の講義についても、実際のデータを用いた実践的な内容を講義することに努めるとともに、基礎的な科目である「キャリア研究調査法 (量的調査)」との関連を意識した内容の講義を実施してきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】

- ・本講義は、「キャリア研究調査法 (量的調査)」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
- ・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法 (量的調査)」を履修していない人でも大丈夫です。
- ・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.

*Learning Objectives

The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.

*Learning activities outside of classroom

If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following. in class contribution: 30%, short and long reports: 70%.

MAN200MA

経営組織論 I

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人及び小集団に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブ P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストの global version です)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で 100% 評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかで行います（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で若干の加点を行います。成績評価基準は以下の通りです。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から基本的に対面で授業を行います。久しぶりで慣れないことも多いですが、授業支援システムを併用しながら講義を実施していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline (in English)】

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In spring term, we focuses on individuals within the organization.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory. As a member of a corporate organization, acquire the knowledge necessary to increase the productivity of working people.

Outside of classroom, deepen your understanding if you take the course while imagining the group to which you belong and the organization that you will find employment in the future. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Lecture will proceed according to the textbook, so read the instructed part in advance.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストの global version です)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で 100% 評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかでいきます（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で若干の加点を行います。成績評価基準は以下の通りです。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から基本的に対面で授業を行います。久しぶりで慣れないことも多いでしょうが、授業支援システムを併用しながら講義を実施していきます。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory.

The lecture will proceed according to the text, so read the instructed part in advance. Please attend the lecture while always thinking about how to think and act if you are yourself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA

戦略経営論 I

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

戦略経営論の基礎として経営戦略に関する主な理論を学ぶ。また、デジタル・トランスフォーメーションが戦略形成に与える影響に関する最近のトピックおよび研究結果を学ぶ。

到達目標

- ・経営戦略に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
- ・デジタル・トランスフォーメーションに関する基礎用語を説明できる。
- ・企業のビジネスモデルを分析できる

【到達目標】

以下の能力を習得することにより、戦略経営に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。

- ・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
- ・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
- ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
- ・企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションと人工知能技術に関する基礎的な用語を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパーによる個人ワーク、グループディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第 2 回	戦略的経営とは	戦略的経営の全体的フレームワーク
第 3 回	外部環境分析	P E S T L E 分析、ファイブフォース分析
第 4 回	内部環境分析	資源ベース視点。V R I O フレームワークによる分析法
第 5 回	SWOT 分析	SWOT 分析の方法と実践
第 6 回	事業戦略（1）	差別化戦略
第 7 回	事業戦略（2）	コスト・リーダーシップ戦略
第 8 回	企業戦略	多角化戦略。アンゾフマトリクスを用いた分析法
第 9 回	ビジネスモデル（1）	ビジネスモデルの定義と主なタイプ
第 10 回	ビジネスモデル（2）	ビジネスモデル・キャンパスを用いた分析法
第 11 回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）	DX の定義・特徴とビジネスへの応用例
第 12 回	ダイナミック・ケイパビリティ	ダイナミック・ケイパビリティの定義、DX への応用
第 13 回	戦略形成の現代的課題	DX がもたらす戦略形成上の課題
第 14 回	まとめ	総括と理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。
- ・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。
- ・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義スライド（学習支援システム上にて配付）

【参考書】

講義スライドの参考文献一覧にて提示する

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点 20 %）

期末試験（配点 80 %）

実施形式：選択式。参照不可

評価基準：

- ・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
- ・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
- ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
- ・企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションに関する基礎的な用語を説明できる。

【学生の意見等からの気づき】

最初の課題を忘れる学生が多いため、課題で一定の点数に達しなかった者への再チャレンジ課題を廃止。試験を参照不可に変更。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】

期末試験の回答内容において他の学生と著しい類似性が見られたときは、該当する学生に対して別途、口述試験により理解度の確認をする場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers basic constructs and theories of corporate strategy and business strategy, focusing on strategy formation. It also covers the impact of digital transformation on strategy formation.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can explain basis terms of digital transformation.

Can analyze a firm's business model.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures

Grading Criteria

In-class Assignment: 20%

Final exam: 80%

Assess whether learners can

1. Explain the basic constructs and theories of strategy formation

2. Explain the basic terms of digital transformation

3. Interpret business cases using the framework learned in this course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic analytical methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

戦略経営論Ⅱ

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

戦略経営論の基礎として意思決定、戦略実行に関する主な理論を学ぶ。

到達目標

- ・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

【到達目標】

以下の能力を習得することにより、戦略実行に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。

- ・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパーによる個人ワーク、グループディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第 2 回	意思決定（1）	意思決定のプロセス、意思決定のモデル
第 3 回	意思決定（2）	意思決定におけるバイアス
第 4 回	意思決定（3）	意思決定における倫理
第 5 回	組織内パワー（1）	パワーの定義、5つのパワー
第 6 回	組織内パワー（2）	パワーの社会学理論、心理学理論
第 7 回	組織内パワー（3）	リーダーとの関係性と組織内パワー
第 8 回	組織内政治（1）	組織の政治的性質、政治行動のタイプ
第 9 回	組織内政治（2）	組織内政治知覚モデル
第 10 回	組織内政治（3）	政治スキルとその効果
第 11 回	イシュー・セリング（1）	注目ベースの組織理論、イシューセリングモデル
第 12 回	イシュー・セリング（2）	組織内での提案の方法
第 13 回	戦略実行の現代的課題	意思決定、パワー、組織内政治の要点
第 14 回	まとめ	総括、理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。

・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。

・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義スライド（学習支援システム上にて配信）

【参考書】

講義スライドの参考文献一覧にて提示する

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点 20 %）

期末試験（配点 100 %）

実施形式：選択式、参照不可

評価基準：

- ・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

【学生の意見等からの気づき】

・戦略経営論Ⅰと同様に、課題の再チャレンジ制度を廃止。試験を参照不可に変更。

【Outline (in English)】

Couse outline

This course covers basic constructs and theories of strategic decision making and strategy implementation. It also covers power and politics within an organization.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of strategic decision making, power and politics within organizations.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures

Grading Criteria

In-class Assignment: 20%

Final exam: 80%

Assess whether learners can explain the basic constructs and theories of decision making, power and politics within organizations.

MAN200MA

経営分析論Ⅰ

展開科目

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第 1 章 財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法 ・財務諸表分析と実証会計研究
第 3 回	第 2 章 財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第 4 回	第 3 章 貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第 5 回	第 4 章 損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第 6 回	第 5 章 相互関係比分析による収益性分析	・相互関係比と収益性分析について
第 7 回	第 5 章 相互関係比分析による収益性分析	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ROA と ROE の関係
第 8 回	第 6 章 効率性分析	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析 ・増加運転資本
第 9 回	第 6 章 効率性分析	・中間テストの実施および解説
第 10 回	中間テスト	・キャッシュ・フローと会計利益
第 11 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・活動区分別キャッシュ・フロー
第 12 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第 13 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析（第版）』同文館出版、2019

【参考書】

- 青木茂男『要説 経営分析（三訂版）』森山書店、2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版）』中央経済社、2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版）』日本経済新聞出版社、2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版）』日本経済新聞出版社、2009

バレブ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版）』東京大学出版会、2001

平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版、2009

ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60％）・中間テスト（30％）・平常点（10％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンデマンド授業でした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】

受講に際して、簿記の基礎的な知識（日商簿記 3 級程度）はあることが望ましい。

授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis. The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 30%, in class contribution: 10%.

MAN200MA

経営分析論Ⅱ

展開科目

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第 8 章 損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・利益図表
第 3 回	第 8 章 損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第 4 回	第 9 章 成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第 5 回	第 10 章 付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第 6 回	第 13 章 利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法
第 7 回	第 13 章 利益マネジメントと財務諸表分析	・利益マネジメントの行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第 8 回	中間テスト	中間テストの実施および解説
第 9 回	補章 貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第 10 回	第 11 章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の間便法
第 11 回	第 11 章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第 12 回	第 12 章 会計利益に基づく価値評価	・会計利益と株式価値評価 ・残余利益と株式価値評価モデル
第 13 回	第 12 章 会計利益に基づく価値評価	・価値関連性分析 ・株価説明力に影響を及ぼす要因
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析（第版）』同文館出版、2019

【参考書】

青木茂男『要説 経営分析（三訂版）』森山書店、2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版）』中央経済社、2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版）』日本経済新聞出版社、2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版）』日本経済新聞出版社、2009

バレブ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版）』東京大学出版会、2001

平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版、2009

ベンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60％）・中間テスト（30％）・平常点（10％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンデマンド授業でした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】

受講に際して、簿記の基礎的な知識（日商簿記 3 級程度）はあることが望ましい。

授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis. The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports : 30%, in class contribution: 10%.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

松本 真尚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 Smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 Stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

■ 2022 年度（前期/後期）

・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】

- ①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2 回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 5 回	グループワーク 1- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする

第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2
第 8 回	グループワーク 2- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 11 回	講義（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 3
第 12 回	グループワーク 3- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション） アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。
※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60 %
- ②ミニレポート 20 %
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.

*This class will be run completely online using ZOOM, etc.
*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.

[Participating companies that have attended classes in the past]

■ FY2019 (1st/ 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.

■ FY2020 (1st/ 2nd semester)

KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.

■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuodo Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPENS Inc. , Hakuodo/Hakuodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

(i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.

(ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.

(iii) Be able to think and express their own views during group work.

(iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

(i) Attendance and participation in discussions 60%

(ii) Mini-report 20%

(iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目

松本 真尚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

■ 2022 年度（前期/後期）

・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】

- ①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2 回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	グループワーク 1- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする

第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2
第 8 回	グループワーク 2- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 11 回	講義（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 3
第 12 回	グループワーク 3- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション） アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60 %
- ②ミニレポート 20 %
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.

*This class will be run completely online using ZOOM, etc.

*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.

[Participating companies that have attended classes in the past]

■ FY2019 (1st/ 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.

■ FY2020 (1st/ 2nd semester)

KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.

■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuodo Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPENS Inc. , Hakuodo/Hakuodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

(i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.

(ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.

(iii) Be able to think and express their own views during group work.

(iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

(i) Attendance and participation in discussions 60%

(ii) Mini-report 20%

(iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

職業キャリア論

展開科目

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①初回とゲスト招聘の回（全体のなかで2～5回程度）は対面もしくはオンラインの同時双方向型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
- ②毎回学習支援システムに授業の資料（PDF ファイル）を、授業の週の月曜日にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出していたりか、当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
- ③オンラインの同時双方向型の回については、Zoom の URL を学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の5分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
- ④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは3回程度の提出を予定しています。
- ⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
- ⑥受講の状況やゲストのスケジュールなどによって、授業計画を一部変更することがあります（特に実施方式が対面からオンラインに変更になる可能性があります）。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくご申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (同時双方向型)	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第 2 回	社会環境変化と職業	①社会環境変化が職業キャリアに与える影響 ②社会環境変化と職業キャリアについて考える ③課題レポート1の説明
第 3 回	デジタル革新と職業	①デジタル革新の動向 ②デジタル革新が職業に与える影響について考える
第 4 回	職業と人材のマッチング	①職業と人材のミスマッチの現状 ②職業と人材のマッチングのための仕組み
第 5 回	職業と組織・倫理	①組織の意義や役割 ②組織の中で働くことと職業倫理について考える
第 6 回	職業キャリアに関する理論	①職業キャリアに関する主な理論の概説 ②課題レポート2の説明
第 7 回	日本的雇用システムと職業	①日本の雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業
第 8 回	職業教育と職業能力評価	①職業教育、職業資格と職業能力評価の概説 ②企業における人材育成の現状と課題
第 9 回	職業人の講話	ゲストスピーカー（職業人）の講話と意見交換
第 10 回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える ③課題レポート3の説明
第 11 回	販売や営業の仕事	①販売と営業 ②営業職の仕事とキャリア

第 12 回 人事の仕事

- ①人事の職業観
- ②人事の仕事とキャリア

第 13 回 公共的な仕事～公務員を事例として

- ①公務員の職業観
- ②公務員の仕事とキャリア

第 14 回 授業の振り返り

- ①課題レポートに関するフィードバック
- ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポート（3回提出を想定、各1000～1500字程度）を求めます。課題レポートについては、授業時間外で作成いただくことになります。本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は授業の週の月曜日に学習支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（60%）、確認テスト・リアクションペーパー及びゲスト招聘時等の質問・意見交換（40%）で評価します。

課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティ、を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうかは評価対象とします）。

課題レポートは必ず期限までにご提出頂きますようよろしくお願い申し上げます（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。

また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及びゲスト招聘時等の質疑・意見交換に積極的にご参加いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.

< Learning Objectives >

The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

ECN200MA

労働経済学

展開科目

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

ビジネスキャリアに関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、(1) テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。(2) その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。(1) はオンライン、(2) はオンデマンドでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思っております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第 2 回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第 3 回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第 4 回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第 5 回	現場主義の改善活動の理論と実証	第 4 回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第 6 回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説する。
第 7 回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第 6 回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第 8 回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。
第 9 回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第 10 回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わかっちゃいるけどやめられねえ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第 11 回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第 12 回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第 13 回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第 14 回	様々なキャリア	これまでの授業を振り返り、今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梅崎修・松繁寿和・脇坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内作業 (40%) と学期末のレポート (60%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学の理論を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline (in English)】

It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAF A などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的・意義

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本学の指針に従い、対面による講義・討論中心の授業を行います。ただし、新型コロナウイルスの影響によって指針に変更があった場合はそれに従います。

・なお第1回のみ、本学の指示によりオンライン授業となっておりますのでご注意ください。具体的にはオンデマンド型で、教材をダウンロードして学習していただきます。

・多人数の受講が予想されるため、出席確認は学習支援システムの課題レポート提出機能を使って行います。そのため授業で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うこととなりますのでご注意ください。具体的には授業内で提示した課題についてコメントを記入してもらおう（授業終了後 30 分まで）かたちを考えています。

・また、学習支援システムについては、教材の提供や課題レポートの提出など補助的なツールとして使っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）

第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新 (IT) の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：地域課題を発見するツール (RESAS)	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第 13 回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第 14 回	新しい動き： AI/IoT や Society5.0、スマートシティ、web3・メタバースなど	AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の学習時間は準備・復習を含め、各回 2 時間を標準とします。

・なお、第 3 回から第 6 回は『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキストを提供する予定ですので、これを使って予習してください。

【テキスト（教科書）】

※できれば下記を入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない可能性があるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。

・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン、K. ウォレシユ、J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005 年 1 月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014 年 8 月

【参考書】

・『サステイナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995 年
・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996 年
・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007 年
・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006 年
・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002 年
・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS プリタニカ 1986 年
そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。

※平常点（授業での学習状況）は出席点で評価します。出席をカウントするため、授業内で課題レポート提出機能を使ってコメントを記入してもらいますので、PC 等の準備をお願いします。

※最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、配分が 60 点なのでこれを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。（最終レポートの提出は、同じく課題レポート提出機能を使って行います）

【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの提出は、学習支援システムから課題レポート提出機能を使って行います。レポートの形式はインライン（「テキスト入力」のみです。形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえ、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題レポート提出機能を使って授業の出席をカウントするため、授業内で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことに留意してください。また、資料等のダウンロード、最終レポートの提出等で PC を使用します。

【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。特に後半の部分では、講師が実務において理論を実践していった経験を交えてお話しします。皆さん方が社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.

- ・ To understand the citizenship
- ・ To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

【Learning activities outside of classroom】 This course requires 2-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.

【Grading Criteria /Policy】 The evaluation consists of 40 % learning attitude and 60 % term-end report. The criteria is more than 60%. ※ Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

MAN200MA

生産システム論

展開科目

北原 成憲

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本はものづくり大国と呼ばれ、世界が驚くイノベティブな製品を数多く生んできました。しかし、現在の日本は主要先進国と比べて労働生産性が低く、かつての面影は失われつつあります。そこで本講義では、さまざまな企業と共に多くの斬新な新製品・新サービスの誕生に携わってきた **Makuake** の R&D プロデューサーが講師となり、一般的な商品開発のプロセスやそこに潜む課題を解説した上で、ヒット商品の共通項やヒット商品を企画する際のコツ、また前例のない商品案であってもその必要性を証明しビジネス化への足掛かりを作る手法を体験形式で学びます。

【到達目標】

本講義は、「イノベティブな商品をいかにスピーディーに生み出しビジネスに育てるか」そのプロセスやポイントについて理解することを目的とします。①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解すること、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解すること、③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てることができること、の 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、大きく 3 つのパートに分かれます。①商品が生まれるプロセスとイノベーションを阻む課題を理解する「課題理解パート」、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出手法を学ぶ「課題解決手法パート」、③自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てる「アイデア発想・テスト販売パート」です。講義には、実際にメーカーで新商品開発に携わるゲストもお呼びし、ものづくりの現場で生まれている課題や課題を乗り越えたエピソード、ヒット商品事例の裏側についてお話いただくことで、より深い学びが得られる機会も用意します。受講者には商品開発の知識がないことを前提としていますので、商品が生まれる生産プロセスの基礎から学び、イノベティブな商品を創出するためのポイントや方法が理解できるように進めます。また、講義は体験形式とし、楽しみながらより実践につなげやすい学びが得られるように工夫していきたいと思ひます。わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていくことを心がけ、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、日本で生まれたイノベティブな商品事例を元に、日本のものづくりが辿ってきた変遷や現在の状況について解説します。
第 2 回	イノベーションを阻む商品開発プロセス	日本における一般的な商品開発プロセスを解説します。また、その商品開発プロセスに潜む「イノベーションを阻む課題」について触れ、どうやったらその課題が解決できるかを考えます。
第 3 回	イノベーションを促す商品開発プロセス	イノベーションを阻む課題やその課題を解決する突破口をおさらいした上で、具体的な課題解決手法について解説します。また、その手法によって生まれたイノベティブな商品事例について、その商品を実際に企画したゲストをお呼びし対談形式で解説します。
第 4 回	商品アイデアの創出	ヒット商品の共通項を解説した上で、自分の好きなことから学生の皆さんにも商品アイデアを企画してもらいます。また、自分の好きなことからヒット商品を生んだゲストをお呼びし、その開発背景やヒットを生むポイントを事例から学びます。

第 5 回	商品アイデアのブラッシュアップ①	課題の途中経過をみながらいくつものアイデアを取り上げてアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 6 回	商品アイデアのブラッシュアップ②	いくつものアイデアについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら再度自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 7 回	N1 インタビューについて理解する	考えたアイデアを「売れる」アイデアにブラッシュアップするために、「買いたい」と言ってくれる人を見つけるための N1 インタビュー手法を解説します。
第 8 回	N1 インタビューを行う①	N1 インタビューのやり方についておさらいした後、学生同士でペアを組んでもらいお互いに N1 インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第 9 回	N1 インタビューを行う②	ブラッシュアップしたアイデアを発表してもらいます。また、再度学生同士でペアを組んでもらいお互いに N1 インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第 10 回	テストマーケティングについて理解する	考えたアイデアが世の中に受け入れられるものなのか検証するためのテストマーケティング手法について解説します。また、自分のアイデアをテストマーケティングするための Makuake ページの作成方法について解説します。
第 11 回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ①	自分のアイデアをテストマーケティングするために、 Makuake ページを作成し学生がお互いに協力しながら自分の Makuake ページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 12 回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ②	作成してもらったいくつかの Makuake ページについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分の Makuake ページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 13 回	商品アイデア・テストマーケティングプランの講評	ここまでブラッシュアップしてきた商品アイデアとそのアイデアをテストマーケティングするために作成した Makuake ページに対して講評を行います。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
第 14 回	Web 試験・まとめと解説	ここまでの総括として Web 試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞や雑誌、インターネットに目を通して、どんな商品がどんな人に人気なのか？ その商品ほどの企業がどのような意図やプロセスで生んだものなのか？ なぜその商品はヒットしているのか？ など、商品が生まれるプロセスやヒットの裏側について深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

坊垣佳奈「Makuake 式『売れる』の新法則」
クレイトン・クリステンセン「イノベーションのジレンマ」
エリック・リース「リーンスタートアップ」
その他、授業の参考資料として示すものを参照してください。

【成績評価の方法と基準】

①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解できたか
②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解できたか
③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売（テストマーケティング）のイメージを立てることができたか
以上 3 点を Web 試験、商品アイデア課題、商品テスト販売課題によって評価します。
Web 定期試験 60%、商品アイデア課題 20%、商品テスト販売課題 20%の割合で評価します。
成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppii を使用します。

Web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

これまで 28,000 件（2022 年 9 月末時点）以上の新製品・新サービスの誕生をサポートしてきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&D プロデューサーによる授業です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, a research and development producer of Makuake, who has been involved in the birth of many innovative new products and services together with various companies, will be the lecturer. He will explain the general product development process and challenges that may arise. The course will mainly cover the common elements of successful products, tips for marketing such products, and methods showing the demand for unprecedented product ideas and how to gain a foothold in the business world through hands-on experience.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to understand the process and key points of how to produce innovative products and efficiently develop them into a business.

【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to read newspapers, magazines, and use the Internet on a regular basis. This will help make connections about the process of creating successful products, and understanding what happens behind-the-scenes. Also, please spend two hours before every lecture preparing and reviewing ahead.

【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on the following percentage: Web-based periodic exam (60%), Product idea assignment (20%), Product test sales assignment (20%).

The total score for the grading is 100 points, and a score of 60 points or higher is considered passing.

MAN200MA

国際経営論

展開科目

森 直子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の受講生は、ダイナミックにグローバル展開されている国際経営とは何かを理解するための背景と基礎知識を得ることができます。

また、代表的な経営分析モデル・手法を学びます。

こうした基本的な知識の理解度は、短い授業のまとめの提出を通して評価されます。

さらに授業で学んだ知識をもとに、国際的な企業経営が持つ意味を理解するための視角、考え方を学ぶことができます。

最終的には、グローバル時代の現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】

企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様な要素、背景を知ること、国際人としての視野・視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に対面授業形式で進めまる予定です。ただし、第 1 回はオンラインで実施します（Zoom によるリアルタイム型オンライン授業の予定）。全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち 1 回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、簡単なグループディスカッションをしたいと思います。また、月に 1～2 回は課題（テスト）の代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。学期末レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営論を学ぶということ	授業の概要説明 — グローバル社会に生きるために—
第 2 回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第 3 回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT 化社会以降のグローバルな企業活動
第 4 回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第 5 回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第 6 回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第 7 回	国際 M&A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第 8 回	研究開発と国際経営	R&D と立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第 9 回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第 10 回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第 11 回	国際協力と国際ビジネス	ODA 事業と国際ビジネスの関係、BOP ビジネス、ソーシャルビジネス
第 12 回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第 13 回	【特別講義】「国際人」とは何か	“使える”人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になるために
第 14 回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

月 1～2 回提出が要求される授業のまとめの準備をするため、復習は必須です。また、企業活動のグローバル化に関する知識を高めるため、参考文献について図書館等を活用して読んだり、新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通してください。可能であれば、関連の学術論文にも目を通すことが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にもちかず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】

吉原英樹（2021）『国際経営〔第 5 版〕』有斐閣アルマ
大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学 2、ミネルバ書房
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

（1）授業への積極的な貢献 60 %

（2）学期末レポート 40 %

※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。

※（1）の内訳：

各回の授業後にクイズへの回答提出 19 %

計 4 回提出する「授業のまとめ」 32 %

授業への積極的なフィードバックなど貢献点 9 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students in this class will gain background and basic knowledge to understand what international management is all about in a dynamic global setting.

Students will also learn about typical business analysis models and methods.

Comprehension of such basic knowledge will be assessed through short class summaries required to submit 4 times in the course.

Furthermore, based on the knowledge studies in class, students will gain perspectives and viewpoint to understand the implications of international business management.

Ultimately, students will be trained to take a broad view of contemporary society in the global era.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected (A) to acquire abilities to grasp the current state of the international market, business and society from a broad perspective, and (B) to obtain important viewpoint as the internationally minded person by learning basic business management theories and methods as well as history and present conditions of the globalization and complicated factors forming an international business. (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to prepare for short essays which should be submitted total 4 times in the course. Your study time will be about one hour for each class meeting.

(Grading Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, Short essays: 32%, in class contribution: 28%

ECN200MA

日本経済論

展開科目

長谷部 弘道

単位数: 2 単位 | 開講セメスター: 秋学期授業/Fall

曜日・時限: 月 5/Mon.5 | 配当年次: 2~4 年

その他属性: 〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業概要: 1990 年代末以降、日本経済はその凋落が頻繁に叫ばれ、「失われた 20 年」といった言葉がメディアを賑わせた。こうした議論は、あたかもそれまでの日本経済が一貫して順調な経済発展を遂げてきたかのような歴史理解を前提としているようにもとれる。しかしながら、戦後日本経済の歴史を辿ると、高度経済成長以降、常に日本経済の危機という問題意識は繰り返し登場してきた。では実際のところ、そうした歴史的な経路をたどり、この国の経済の動向をみたときに直面する、この国の課題は何なのだろうか。本授業では、これらの日本経済の歴史を戦後復興期、高度成長期、石油危機後の安定成長期、バブル成長期とその崩壊の時期、長期不況期、現代の 6 つの時期区分に分けて解説する。

授業の目的・意義: 本講義では、戦後日本経済の変化の文脈を理解することで、地に足を付けて今日の日本経済を観察しつづけることができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・私たちが生きる日本社会における経済のありようを、歴史的な文脈の延長上に位置付けて理解することができるようになる。
- ・戦後日本経済の時代ごとの特徴を明確に説明できるようになる。
- ・現代日本経済をめぐる様々な論評や通説に対して、自分なりの考えを論理的にまとめることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半 20 分を前回講義のフィードバックとし、後半 70 分は教員による講義、最後の 10 分間は学生間でのディスカッション、質疑応答に充てる。2 日前を目処に、翌週の講義スライドを所定の web スペースにアップロードしておくので、受講者は指定された教科書の該当箇所とあわせて、授業準備に活用してほしい。授業終了後、毎回コメントペーパーを提出してもらう。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなったうえで、戦後日本経済を歴史的に振り返る意義について講義する。
第 2 回	戦後改革と復興	戦時の変化と戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、経済復興の流れについて解説する。
第 3 回	高度成長のメカニズム 1	高度成長の概要と、産業政策の効果について解説する。
第 4 回	高度成長のメカニズム 2	メインバンクシステム、および大企業のガバナンス構造の確立 (安定株主化) について解説する。
第 5 回	高度成長のメカニズム 3	同時期に輸出世界一となった鉄鋼業について解説する。あわせて、同時期に日本社会に現出した大量消費社会の到来、およびエネルギー革命について解説する。
第 6 回	石油危機と安定成長への転換 1	石油危機が日本経済にもたらしたインパクトについて概説し、赤字国債の問題と、同時期にこれと並行して生産台数世界一となった自動車産業について解説する。
第 7 回	石油危機と安定成長への転換 2	製造業、そして日本経済を下支えた下請制のしくみについてふれ、当時の日本企業の国際競争力について解説する。 ※中間課題の出題あり
第 8 回	振り返り # 1	1970 年代までの日本経済の論点について振り返りながら、重要概念・用語について解説する。また、中間課題の講評もおこなう。

第 9 回	バブルの形成と崩壊 1	バブル経済と同時期に進展した産業構造の転換について触れ、債券大国化していく日本を概観し、特に金融自由化・金融ビッグバンを中心にとりあげる。
第 10 回	バブルの形成と崩壊 2	トヨタ生産システム、流通革命について解説する。
第 11 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 1	1990 年代以降の日本経済の長期停滞と、日本型企業システムの転換についてその概要を解説し、そうしたなかにあっても新たなビジネスモデルを探索する日本の企業経営者や、流通再編と情報化のインパクト、そして企業制度改革と企業組織の変化などについて解説する。
第 12 回	長期停滞と日本型企業システムの転換 2	日本企業の対外進出、日本型企業システムの転換、そしてアベノミクスの制作的評価について検討を行う。
第 13 回	振り返り # 2	1990 年代以降の日本経済の論点について振り返りながら、重要概念・用語について解説する。
第 14 回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、あわせて期末課題について解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回で予定している講義内容は下記のテキストに沿って行われる。受講生は、以下のような予習・復習を行ってほしい。

【授業前】事前に該当ページに目を通し、分からない用語についてもインターネットや使用書 (テキスト) 内で示される参考文献などを用いて調べておく (時間配分目安: 約 3 時間)。

【授業後】もう一度使用書 (テキスト) を読み直し、各自が興味をもった内容に関して授業中に紹介した文献等から理解を深める。その際、大学図書館を活用することが望ましい。なお、授業では視聴覚教材を使用することもある (時間配分目安: 約 1 時間)。

【各回の教科書該当ページ】

- 第 1 回: 「イントロダクション」(序章+第 1 章、P1~32)
- 第 2 回: 「戦後改革と復興」(第 2 章、P33~50)
- 第 3 回: 「高度成長のメカニズム 1」(第 3 章~第 4 章、P51~85)
- 第 4 回: 「高度成長のメカニズム 2」(第 5 章~第 6 章、P86~109)
- 第 5 回: 「高度成長のメカニズム 3」(第 7 章~第 9 章、P110~135)
- 第 6 回: 「石油危機と安定成長への転換 1」(第 10 章~第 11 章、P142~184)
- 第 7 回: 「石油危機と安定成長への転換 2」(第 12 章~第 14 章、P185~221)
- 第 8 回: 第 7 回までのすべての範囲
- 第 9 回: 「バブルの形成と崩壊 1」(第 15 章~第 17 章、P226~273)
- 第 10 回: 「バブルの形成と崩壊 2」(第 19 章、P274~296)
- 第 11 回: 「長期停滞と日本型企業システムの転換 1」(第 20 章~第 25 章、P302~413)
- 第 12 回: 「長期停滞と日本型企業システムの転換 2」(第 26 章~終章、P414~488)
- 第 13 回: 第 9 回から第 12 回までのすべての範囲
- 第 14 回: 上記すべての範囲

【テキスト (教科書)】

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済 [第 4 版]』(有斐閣アルマ、2019 年、2,800 円+税)

【参考書】

- 沢井実・谷本雅之『日本経済史 近世から現代まで』(有斐閣、2016 年、3,700 円+税)
- 宮本又郎・阿部武司・宇多川勝・沢井実・橋川武郎著『日本経営史 江戸時代から 21 世紀へ』(有斐閣、2007 年)

【成績評価の方法と基準】

期末レポート: 戦後日本経済の歴史的な変遷について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかを筆記試験を通じて評価する (50%)。

中間レポート: 講義内容前半の理解度をチェックする。(20%)

平常点: 授業における発言、コメントペーパーの提出を評価する (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーへのレスポンスを授業冒頭に行い、フィードバックとする。

【学生が準備すべき機器他】

各自、大学で付与される Google アカウントおよび関連アプリを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

特になし。

[Outline (in English)]

Course outline: Since the end of the 1990s, the decline of the Japanese economy has been a frequent topic of discussion in the media, with terms such as "the lost 20 years" being bandied about. Such discussions seem to be based on an understanding of history as if the Japanese economy had consistently achieved steady economic development up to that point. However, tracing the history of the postwar Japanese economy, the issue of a crisis in the Japanese economy has always appeared repeatedly since the high economic growth. So, what are the actual issues that Japan faces when it traces this historical path and looks at the economic trends of the country? In this class, the history of the Japanese economy will be divided into six periods: the postwar reconstruction period, the high growth period, the stable growth period after the oil crisis, the bubble growth period and its collapse, the long-term recession period, and the present day.

Learning Objectives: This lecture aims to help students understand the context of changes in the postwar Japanese economy, so that they can continue to observe the Japanese economy today with their feet on the ground.

Learning activities outside of classroom

The lecture content scheduled for each session will follow the textbook. Students are expected to prepare for and review the following.

[Before class] Read through the relevant pages in advance, and look up unfamiliar terms on the Internet or in the references provided in the textbook (approximate time allocation: 3 hours).

[After class] Re-read the textbook and deepen your understanding of the contents of interest to you, using the references introduced in class. It is advisable to use the university library for this purpose. Audiovisual materials may be used in class (approx. 1 hour).

[Textbook pages for each session]

Session 1: "Introduction" (Introduction + Chapter 1, p. 1-32)

Session 2: "Postwar Reform and Reconstruction" (Chapter 2, p. 33-50)

Part 3: "Mechanisms of High Growth 1" (Chapters 3-4, p. 51-85)

Session 4: "Mechanisms of High Growth 2" (Chapters 5-6, P86-109)

Part 5: "Mechanisms of Rapid Growth 3" (Chapters 7-9, P110-135)

Part 6: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 1" (Chapters 10-11, P142-184)

Session 7: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 2" (Chapters 12-14, P185-221)

Session 8: "The Formation and Collapse of Bubble 1" (Chapters 15-16, p. 226-263)

Part 9: "Bubble Formation and Collapse 2" (Chapters 17-18, p. 264-283)

Part 10: "Bubble Formation and Collapse 3" (Chapter 19, P284-296)

Part 11: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 1" (Chapters 20-23, P302-381)

Part 12: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 2" (Chapters 24-26, P359-427)

Session 13: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 3" (Chapters 27 to the end, P428-486)

Session 14: "Summary" (last chapter, p. 461-486)

Grading Criteria / Policy:

Final exam: Students will be evaluated on whether they can logically describe the historical transition of the postwar Japanese economy based on historical facts, and whether they can consider the issues of the Japanese economy based on these circumstances through a written exam (50%).

Mid-term exam: To check the level of understanding of the first half of the lecture content. (20%)

Commitment to the class: Students will be evaluated on their comments in class and submission of comment papers (30%).

ECN200MA

産業論

展開科目

青木 成樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働力が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働力が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】

本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。

- ①我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる
- ②我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる
- ③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる
- ④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる
- ⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 3 回（第 1 回～第 3 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 3 回（第 4 回～第 6 回）では、世界的な分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 4 回（第 7 回～第 10 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 3 回（第 11 回～第 13 回）は、イノベーションについて学ぶ。そして最後の 14 回は全体のまとめとする。

なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後に時間を設け Q&A に充てる（対面型の場合）、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形（オンラインの場合）とし、学生との対話に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観する。 なお、第 1 回の授業はオンラインで実施する。
2	少子高齢化、情報化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）と情報化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。

3	グローバル化	我が国の産業に影響を与えるもう一つの大きな要素であるグローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables）について学ぶ。
5	産業連関表から地域の特徴ある産業の抽出	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」の概要を学ぶとともに、都道府県表を活用し、地域の比較優位産業の抽出方法について学ぶ。
6	経済波及効果の分析	産業連関表の応用として最も代表的な「経済波及効果」について、理論と実践、及び具体例を学ぶ。
7	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
8	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
9	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
11	イノベーションの概要	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型について学ぶ。
12	イノベーションの担い手	イノベーションの担い手として、特徴ある中小企業群やベンチャー企業を取り上げ、具体的な事例を学ぶ。
13	身近にあるイノベーション	我々の身の回りにおけるイノベーションの代表的な事例として、AED を取り上げ、多様な観点からその特徴を学ぶ。
14	まとめ	第 1 回から 13 回の各回における皆さんからの意見等も踏まえ、各テーマのポイントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くと理解が早いと思います。また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメ（PPT）を配布致します。

【参考書】

以下、順不同（五十音順）

- ① 入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社（2019 年）
- ② 岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
- ③ 大竹文雄『行動経済学の使い方』岩波新書（2019 年）
- ④ 経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑤ 経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑥ 小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社（2010 年）
- ⑦ 小室直樹『危機の構造』ダイヤモンド社（1982 年）
- ⑧ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
- ⑨ 富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書（2014 年）

- ⑩中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書 (2016年)
- ⑪中村良平 『まちづくり構造改革』日本加除出版 (2014年)
- ⑫中室・津川『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社 (2017年)
- ⑬西山圭太『DXの思考法』文芸春秋 (2021年)
- ⑭日本経済新聞社編『日経業界地図』(毎年8月発刊)
- ⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書 (2017年)
- ⑯牧兼充 『イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学』東洋経済新報社 (2022年)
- ⑰宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問なおす』ちくま新書 (2018年)
- ⑱三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社 (2012年)
- ⑲宮沢健一、編『産業連関分析入門』日本経済新聞社 (1979年)
- ⑳吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社 (2009年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、定期試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は12年目である。昨年度の授業改善アンケート(有効回答18人)において「この授業を履修してよかったと思いますか」に対する評価(5段階)の平均は4.22であり、学部の全科目の平均(4.29)を若干下回っている。授業の工夫についての評価は4.39で学部平均(4.21)を上回る一方、授業内容の理解(3.94)は学部平均(4.29)を下回る。

また、授業の最終回に実施した「自分にとって最も役に立った授業テーマ」については(有効回答42人)、意見はかなり分散した。このようなことから、1回1回の授業(テーマ)をより分かりやすく説明し、授業の最後には質疑応答の機会を設けるとともに、第14回の授業テーマを「まとめ」とし、全体の内容を俯瞰できる工夫をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

私は1985年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約35年に渡り国や地方の産業政策の調査に係ってきております。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えています。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて(議論して)下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
- ④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力=デザイン力だと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

I think there are two main meanings for you to graduate from university and work. One is to supply one's own labor force, get wages and salaries as compensation, and use it as a means of living. The other is that one's labor creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful to individuals, businesses, and society.

In this class, you will learn about Japanese industry, which is the foundation where your labor force creates new value, from various perspectives such as (1) the overall picture and changes in the industrial structure, (2) the characteristics and changes of major industries, and (3) the characteristics of major companies.

< Learning Objectives >

Through this class, we aim to improve understanding of the following five points.

① Quantitative understanding of changes in Japan's industrial structure

② Understand the factors that have a great impact on Japan's industrial structure

③ Understand "major industries" from macro and micro perspectives, such as trends in the entire industry and trends in major companies.

④ Understand the interdependence between manufacturing (manufacturing) and services in Japanese industry.

⑤ Understand the meaning and significance of innovation

< Learning activities outside of classroom >

In order to study this lecture effectively, I think it will be quick to understand if you are interested in the mechanism of the economy. In addition, the standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Normal point 50%, Term-end examination 50%

MAN200MA

広告ビジネス論

展開科目

石原 篤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告は自己紹介だと言われます。上から目線の自己紹介は嫌われるかもしれないし、一目置かれるかもしれませんが。下から目線の自己紹介は舐められるかもしれないし、意外と共感されるかもしれません。商品やサービスを広告する際、自己紹介の仕方が受け取り手の印象を左右します。いつ、どこで、誰に向かって、どんな内容を、どのように話すか。その結果として、どう自分のことを知ってもらえるか、さらに好感をもってもらえるか、また会いたいと思ってもらえるか。こういったことを考えるのが広告ビジネスなのです。その広告ビジネスを劇的に変化させたのは、メディア環境です。端的に言えばテレビなどのマスメディアの影響力の変化と、様々なネットメディアの台頭です。2022年のサッカーW杯をテレビ局の一方通行の放送で観戦した人もいれば、ABEMAで本田さんの解説と共に自分の好きなカメラアングルでゲームを楽しんだ人もいます。広告による自己紹介の手法も内容も、大きく変わりました。本授業では、多くの人を相手にする商品やサービスの広告、地域に根ざした行政やローカルブランドの広告、さらに海外ブランドの広告などを通して、最前線の広告ビジネスを学んでいきます。また受講生の皆さん自身が、社会に対して自己紹介する際に役立つスキルを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- (1) マーケティングにおける広告の役割を理解し、説明できる。
- (2) 広告ビジネスにおける戦略・戦術が何を意味するかを理解し、説明できる。
- (3) 広告ビジネスにおける実践的なコミュニケーションを理解し、設計できる。
- (4) 社会に対して自己紹介するための、自分自身のコミュニケーションの方法論が構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
- ・前半の授業は、論理と事例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。
- ・中盤から後半の授業は、多様化する広告ビジネスの理解を深めるために、事業会社、コンサルティング会社、メディア会社、広告会社等からのゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）
- ・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
- ・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立てます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、授業計画の説明、受講動機等に関するアンケート
第2回	広告の役割	ブランディングやマーケティングにおける広告の役割
第3回	広告の歴史	メディアビジネスと共に成長した日本の広告史

第4回	広告の最前線	広告から広告へ、最新事例から読み取る広告の変化
第5回	マスメディアの広告	映像からマス広告の現在地を捉える(ゲスト) 博報堂キャビンクリエイティブディレクター・CMプランナー吉兼啓介氏
第6回	ソーシャルメディアの広告	SNSを中心にしたデジタルメディアの台頭によって広告はどう変化したか(ゲスト) 株式会社チョコレイトクリエイティブディレクター大澤創太氏
第7回	地域の広告	地域に根づくブランドや行政のコミュニケーションの形(ゲスト) 博報堂ケトルチーフプロデューサー日野昌暢氏
第8回	統合的な広告	多様化した時代に機能する統合的なコミュニケーションの形(ゲスト) OAAAストラテジックプランナー矢野真理子氏
第9回	体験型の広告	リアルとデジタルの境界を超えた体験型コミュニケーションの形(ゲスト) TOWプロデューサー甲斐智大氏+橋本彩月氏（キャリアデザイン学部卒業生）
第10回	アイデアの発想法	演習課題を発表し、課題の内容に合わせたアイデアの出し方・発想法を学ぶ
第11回	広告ビジネス座談会① メディアからみる広告	テレビ局・ラジオ局などでメディアビジネスに従事する法政大学卒業生による座談会(ゲスト) TBSラジオ 津波古啓介氏+テレビ朝日 富田潤一郎氏+TBSテレビ 後藤隆二氏
第12回	広告ビジネス座談会② 事業からみる広告	事業会社、広告会社で広告ビジネスに従事する方々による座談会 ※ゲスト講師登壇予定
第13回	演習課題講評	テーマ（仮）：法政大学を広告する。
第14回	あなたをどう広告するか？	授業の振り返りと共に、これからの時代に自分をどう広告していくかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
- (2) また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- (3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
- (4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・これからの「売れるしくみ」のつくり方 石原篤
- ・広告の仕事 広告と社会、希望について 杉山恒太郎
- ・クリエイティブ合気道 箭内道彦
- ・佐藤可士和のクリエイティブシンキング 佐藤可士和
- ・嶋浩一郎のアイデアのつくり方 嶋浩一郎
- ・世界のマーケターは、いま何を考えているのか？ 廣田周作
- ・カイトイ新書 博報堂ヒット習慣メーカーズ+中川悠

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%
実習課題の提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

■ Course outline

It is said that advertising is self-introduction. A pompous self-introduction may be disliked or respected. A humble self-introduction may be belittled or unexpectedly resonated with.

When you advertise a product or service, think about it by replacing it with a self-introduction. Consider when, where, to whom, what kind of content and how to talk about it. Also, pay attention to how this results in people getting to know you, liking you even more, and wanting to see you again. This is what advertising business is all about.

The advertising business has changed dramatically with the media environment. The changes, simply put, are the changing influence of mass media such as television and the rise of various online media. Just as some people watched the 2022 Soccer World Cup on one-way broadcasts from TV stations, others enjoyed the game at ABEMA with Honda's commentary from their favorite camera angle.

In this course, students will learn about the front-line advertising business through advertisements for products and services that reach a large number of people, advertisements for government agencies and local brands that are rooted in the community, and advertisements for foreign brands. It also aims to help students learn skills that will help them introduce themselves to society.

■ Learning Objectives

- (1) To be able to understand and explain the role of advertising in marketing.
- (2) To be able to understand and explain what strategies and tactics mean in the advertising business.
- (3) To be able to understand and design practical communication in the advertising business.
- (4) To be able to build your own communication methodology to introduce yourself to society.

■ Learning activities outside of classroom

- (1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
- (2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
- (3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
- (4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."

■ Grading Criteria /Policy

Regular marks: 50%

Submissions for practical training assignments: 50%

MAN200MA

マーケティング論

展開科目

小川 浩孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティング」という概念は 1900 年代初頭にアメリカで生まれ、1950 年代から順次体系化・学習され実務に利用されてきた。日本でも 60 年代ごろから徐々に浸透を始め、今では企業や組織で働く人々にとって必須の知識・ツールと理解されるようになってきた。しかしながら、「マーケティングとは何か?」「どんな要素が含まれているのか?」と聞かれても明確に答えられる人は意外と少ない。販売や広告活動、あるいは経営陣が決定する（一社員である自分とは無関係な）企業戦略だと混同している人々もまだまだ多い。また、マーケティングは営利企業が「儲ける」ための概念・ツールであって、非営利組織や政府機関には関係ないと思っている人々も多い。大学卒業後に皆さんが進む道は様々だろうが、この授業が、誰にとっても必須の知識・ツールとしての「マーケティング」への入口となり、変化の激しい社会にあっても活かせる原理として習得されることを目指す。さらに、秋学期に実施される「流通・マーケティング戦略論」と有機的に接続することで、SDGs 活動や IT と深く関わる現代マーケティングの先端領域までカバーすることを目指す。

【到達目標】

1. マーケティングに関する基本的な用語を理解し説明できるようになる
2. マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する
3. 社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する
4. 最先端のマーケティング分野（SDGs、ソーシャルマーケティング、IT を用いたマーケティング、DIY マーケティングなど）の一旦に触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、課題提出を併用する。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。事例には、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞などを予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 回：マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解する。マーケティングをとりまく価値交換、顧客価値について理解する。
第 2 回	第 2 回：セグメンテーションとターゲティング	マーケティングにおける基本的概念である STP のうち、セグメンテーション（市場細分化）とターゲティングの重要性について考察する。セグメンテーションという考え方、有効なセグメンテーションとは何かを理解する。

第 3 回	第 3 回：ポジショニング	STP のうち、競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスであるポジショニングを理解する。マーケティング戦略の基本となる差別化を決定づけるポジショニングの重要性を理解する。
第 4 回	第 4 回：マーケティング・ミックス	マッカーシーの 4 P といわれる近代マーケティングを支える概念を理解する。マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていくことが求められる現代の経営について理解する。
第 5 回	第 5 回：プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて理解する。またアイデア発想のグループワークを行います。ブレインライティング、デザイン思考、オズボーンのチェックリストなどのアイデア発想のメソッドも取り入れながらグループに分かれて取り組む。
第 6 回	第 6 回：コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーション、広告について理解する。営業などのセールスも含め幅広くプロモーションについて理解する。
第 7 回	第 7 回：プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを理解する。消費者視点、企業視点、競争視点などから価格決定プロセスを理解する。
第 8 回	第 8 回：チャネル（プレイス）	チャネルの種類、どのような製品であればどのような店舗で売った方がいいのか、どのようなチャネルが有効なのか等の概要を理解する。チャネルの構成など詳細は秋学期の流通・マーケティング戦略論にて深く理解する。
第 9 回	第 9 回：消費者心理と消費者行動	消費者行動理論とマーケティングとの関わりについて理解する。多属性態度モデル、刺激反応モデルなどの代表的な消費者モデルを取り上げて消費者がどのように購買行動をおこなうかの理論を理解する。
第 10 回	第 10 回：顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを理解する。
第 11 回	第 11 回：マーケティング・リサーチの実際	マーケティングリサーチの種類や特徴について理解する。
第 12 回	第 12 回：ブランドマネジメント	ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを事例をもとに理解する。
第 13 回	第 13 回：今日のマーケティング	ソーシャルマーケティング、SDGs に関わるマーケティング、SNS や IT 技術を用いたマーケティング、DIY マーケティングなど、マーケティングの先端領域について理解する。
第 14 回	第 14 回：試験・まとめと解説	web でテストを実施。ここまでの話を総括し、これからのマーケティングを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。2 回に 1 回、A4 で 1 ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。

【テキスト（教科書）】

恩蔵直人『マーケティング 第 2 版』日本経済新聞出版、2019/2/1 990 円

【参考書】

和田充夫他『マーケティング戦略 第6版(有斐閣アルマ)』2022、有斐閣。

Kotler, P., Armstrong, G., Opresnik, M.O., Principles of MARKETING 18e GLOBAL EDITION, Pearson Education, 2020

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、

1. マーケティングに関する一般的知識を習得したか
2. マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか
3. 社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか
4. 最先端のマーケティング分野を理解したか

の4点を試験によって評価する方法で行います。

成績評価は、平常点 60%、最終試験 40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度 (Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。

成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

グループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム Hoppii、googleclassroom を使用します。web でテストを実施しますので、スマートフォン、タブレット、PCなどで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【Outline (in English)】

Marketing was born in the U.S. around 1900 and developed and used gradually from 1950. In Japan, it started to penetrate into the business arena from 1960's and is now conceived as a necessity among business and public organizations.

However, many people don't fully understand "what the marketing is" or its various aspects. It can be perceived as sales or advertising activities, or something only related to top business executives, not for ordinary employees. Also, Marketing is a concept/tool to earn profit, not relating to NGO or public sectors.

This lecture aims to give students an opportunity to overview and understand basic marketing concept that can help guide them to work and live effectively in their various career paths in the future. Also, it is designed to synergize with "Distribution and Marketing Strategies" class in Fall Semester to overview latest marketing trends relating to social marketing, SDGs activities, and marketing with IT.

Goals of this Class are:

- 1) Understand/be able to explain basic terminologies of marketing
- 2) Acquire/understand general knowledge and concepts of marketing
- 3) Connect empirical/practical marketing activities with concepts
- 4) Broadly understand latest marketing elements such as SDGs, Social Marketing, Marketing with IT, and DIY Marketing

Before attending the class, please read the textbook and prepare for questions. Read newspaper etc. and pay attention to daily social/economic happenings. 2 hours each for preparation/review for the class are necessary. A4 one page homework will be assigned roughly once in 2 classes. Also, group discussion/work/report will be provided.

Evaluation will be given based on combination of examination (60%) and class contribution and participation (40%). When group work is assigned, team members' contribution evaluation is used. 60 points out of 100 evaluation points will be needed to pass for credit.

MAN200MA

流通・マーケティング戦略論 展開科目

小川 浩孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、グローバル化、IT 革命、働き方改革、多様性、社会持続性への注目などが、流通・販売・マーケティングのあり方に大きな変化をもたらしてきた。さらに今回のパンデミック、ウクライナ侵攻、地政学的リスク、近年の自然災害多発などは、全ての個人・企業・組織にそれまでとは全く異なる次元の変化をもたらした。存在や活動のあり方を根本的に見直すべき状況を作り出している。そして、それらの変化のうねりはさらに加速しているように見える。そのような状況の中、どのような業種・業態・職業・地位であっても必須となる IT ネイティブな考え方を軸とし、新しい流通・販売・マーケティングを共に考えることによって、変化を先取りし変化とともに前に進める視点や考え方を身につける。さらに、将来実務で成果を出すのに役立つ流通やチャネルマネジメントに関連した基本概念と知識・経験を習得する。

特に 2023 年度は春学期に開講する「マーケティング論」での学習知識をさらに深め、ソーシャルマーケティングや IT を用いたマーケティング、DIY マーケティング、スタートアップ/SME 組織でのマーケティングなど新分野への視野を広げることも目的とする。

【到達目標】

- 1 国内外の流通・販売業の成り立ち、付随する流通戦略、B2B/B2C マーケティングの基本概念・進化の歴史を理解する。
- 2 流通業・販売業（あるいは企業経営）に起きている劇的な変化を、消費者としてのこれまでの経験や社会人として目指す方向と照らし理解し、将来を見通す視点と考え方を獲得する。
- 3 起業家、流通サービスやそれに付随するマーケティングの経験豊富な実務者を登壇者として招いたり、ビデオを鑑賞することで、実務の世界で役立つ知識や事例に触れ、将来の実務家・起業家として理解しておくべき基礎的な知識と経験を身につける。また、理論と関連付けた理解が十分にできるよう、都度質問に答える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストや資料を用いた講義と、実務家・起業家の講演・質疑応答、ビデオを鑑賞し、グループに分かれて討議・発表するなどの授業を交互に行なう。

またグループごとに店舗を訪問し、観察を行うなどのプロジェクトも計画する。

なお、実務家の招聘予定等は変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・販売チャンネルとは	国内外における流通・販売チャンネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第 2 回	流通戦略とマーケティング（1）	流通戦略と流通におけるマーケティング活動を理解する。
第 3 回	流通戦略とマーケティング（2）	B2B と B2C マーケティングの共通点と相違点を理解する。
第 4 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（1）	同じ業界にあっても、成長している業態・企業と、衰退している業態・企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。

第 5 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（2）	成長企業と衰退企業の流通戦略やマーケティング戦略における共通点と相違点を見出す。
第 6 回	店舗訪問の準備	店舗を訪問し観察するためのグループ分け、観察ポイントなどを共有する。
第 7 回	立地戦略と店舗設計	実店舗の立地と店舗の設計について理解をする。
第 8 回	流通とマーケティングの新潮流（1）	SDGs、IT・SNS を使用したマーケティング、DIY マーケティングなど、流通・マーケティングで起こっている新潮流を確認し、社会に対してどのようなインプリケーションがあるかを理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第 9 回	流通とマーケティングの新潮流（2）	SDGs、IT・SNS を使用したマーケティング、DIY マーケティングなど、流通・マーケティングで起こっている新潮流を確認し、社会に対してどのようなインプリケーションがあるかを理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第 10 回	流通とマーケティングの新潮流（3）	SDGs、IT・SNS を使用したマーケティング、DIY マーケティングなど、流通・マーケティングで起こっている新潮流を確認し、社会に対してどのようなインプリケーションがあるかを理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第 11 回	店舗運営の実務家による講演と質疑応答（店舗づくり）（1）	グループに分かれて店舗を訪問し、観察したことをまとめ、提言を作る。提言を発表し、実務家からのフィードバックをもらう。第 11 回と第 12 回は 2 コマ連続した授業とする（予定）。
第 12 回	店舗運営の実務家による講演と質疑応答（店舗づくり）（2）とまとめ	グループに分かれて店舗を訪問し、観察したことをまとめ、提言を作る。提言を発表し、実務家からのフィードバックをもらう。第 11 回と第 12 回は 2 コマ連続した授業とする（予定）。
第 13 回	流通運営における人事評価やチームづくり	テキストを基に、効果的で生産性の高いチームづくりについて理解する。
第 14 回	まとめと質疑応答	全授業のまとめを行い知識・理解が深まり定着したかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習と課題提出に重点を置いた学習になります。A4 で 1 ページくらいの短い提出物が 2 回に 1 回ほどあります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。

前回の授業の資料を確認し、次回の授業に備えます。時間外に店舗見学を行う外出があります。数名のグループに分かれ指定された店舗の見学に出かけることを予定しています。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Levy, M., Weitz, B.A., Grewal, D., Retailing Management 9th Ed., McGraw-Hill Higher Education, 2014
『流通チャンネルの転換戦略』V. カストゥーリ・ランガン著、小川孔輔監訳、小川浩孝訳、ダイヤモンド社、2011
『1 からのリテール・マネジメント』清水信年、坂田隆文、碩学舎、2012

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、課題 30%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度 (Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム Hoppii、googleclassroom を使用します。web でテストを実施しますので、スマートフォン、タブレット、PC などで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】

東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題があります。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。

【Outline (in English)】

Until now, things like Globalization, IT revolution, Work Style reform, Diversity, Sustainability have brought significant changes in Distribution/Sales and Marketing.

Pandemic, Ukraine War, Geopolitical Issues and Natural disasters resulting in significant inflation and instabilities across globe have brought even more substantial changes to each person/corporation/organization and forced us to change ourselves and the way we act. These changes also seem further accelerating right now.

Under such environment, no matter where to work at any position, all students are invited to think together about new way of Distribution/Sales/Marketing and acquire broader perspective to cope with the current changes and lead the changes. Furthermore, they will need to acquire skills and knowledges that would be useful for them in the future.

In particular in 2023, we will synergize with and deepen the learnings from Marketing Class in spring semester by highlighting new areas of Social Marketing, Marketing with IT, DIY Marketing and Marketing at startups and SMEs.

< Goals for this class >

- 1) Understand development of retail industry in Japan/global and relating basic B2B/B2C marketing concepts
- 2) Understand significant changes and those implications in retail industry
- 3) Listen experiences/examples from industry practitioners and develop basic understanding of real business

< Activities outside of the classroom >

Pre and post studies (2 hours each) are required. A4 one page short assignment will be given once in 2 classes. Visit real retail shops around Tokyo area by assigned team and project paper will need to turn in as a team. Transportation costs will be paid by the student.

< Grading Criteria >

Class participation 70%, Assignment submission and contents 30%. If team assignment, team members evaluate other members' contribution and cooperations each other.

MAN200MA

流通・サービスビジネス論 展開科目

村田 茂

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX 化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、減りゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けた産業の中で、メディア産業と流通産業を取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】

本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予測する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。

- ①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
- ②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
- ③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができていますか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットの普及について、その発展とそれにとまなう社会（ビジネス）への影響を学びます。なぜ、GAFAM が巨大企業に成長し得たのか？ あらゆるビジネスに影響を与えている構造的な変化を理解し、メディアと流通の 2 つの産業の事例をもとに学んでいきます。出版業界、新聞業界、放送業界、e コマース業界、インターネット広告業界を解説します。具体的なビジネスモデルや重要な用語解説などを理解し、ビジネスマインド、リテラシーの向上を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力 ②本質を見抜く力 ③問題意識を持つ力 ④未来を予想する力
第 2 回	流通・サービスビジネス業界研究①	第 1 回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第 3 回	流通・サービスビジネス業界研究②	第 2 回目は、新聞業界。
第 4 回	流通・サービスビジネス業界研究③	第 3 回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）
第 5 回	web1.0、web2.0、web3.0 の理解	流通・サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりから NFT、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。SNS の普及による個人発信の時代が到来。UGC サイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第 6 回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？ ゲストスピーカーとともに、流通・サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第 7 回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	第 4 回目は、e コマース業界。
第 8 回	流通・サービスビジネス業界研究④	第 5 回目は、インターネット広告業界。
第 9 回	流通・サービスビジネス業界研究⑤	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第 10 回	デジタルマーケティング	ワークショップの前に、これまでの学習について総括します。
第 11 回	流通・サービスビジネス研究のまとめ（ワークショップの前に）	

第 12 回	ワークショップ（小課題）	それぞれの課題をシェアしながら相互にアドバイスをブラッシュアップするミーティングを開催します。
第 13 回	研究成果のプレゼンテーションと講評	研究の成果を全体で共有し、講評します。
第 14 回	試験・課題レポートとまとめ	試験と課題レポートを実施します。授業全体のまとめを行いません。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。流通・サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分は何で、このアプリを活用しているのか？ このビジネスはどのようなに成り立っているのか？ を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。
毎回、参考資料を用意します。

【参考書】

毎回、参考資料を用意します。
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の 3 点を評価します。
①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができていますか
授業でおこなう小課題 10%
試験 40%
課題 50%
成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

<実務経験のある教員による授業>

出版・放送メディアや各種コンテンツ制作などのエンタテインメントビジネスと、e コマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
- ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

【Learning activities outside of classroom】

Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.

【Grading Criteria / Policy】

Grading will be based on the following three points.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
 - ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
 - ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?
- Small assignments in class 10%
Test 40%
Issue 50%

The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

MAN200MA

就業機会発見実務

展開科目

今井 道子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作る人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会をつくります。

【到達目標】

労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会をつくります。また、キャリアデザイン学部出身者として何より強みとなる「人のエキスパート」とは何か、について思索する時間を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

エンプロイアビリティやアントレプレナーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解します②演習を通じてキャリア理論で学んだ自己理解手法を確認し、自らのキャリア形成につながる体験をします③演習を通じて多様なジョブ、これから注目される業界について理解します。④演習を通じて実社会で生きていくためのさまざまなスキルトレーニングを行います。グループ演習が多いので出席をお願いします。試験（オープンブック方式:電子機器を除いて持ち込み可）を実施します。試験問題のテーマは、授業の中で案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、第 2 回目以降の授業内容、成績評価方法についてお話しします。また、本授業で取り上げるテーマについて、概要を紹介します。
第 2 回	総論	エンプロイアビリティとは何か、キャリア開発の重要性について理解します。演習を通じて興味がある企業のエンプロイアビリティについて考えます。
第 3 回	自己理解 1 (特性因子理論より)	演習を通じて RIASEC の理論 (ホランド) を体感し、自己理解・自己開示への啓発的体験を得ます。
第 4 回	自己理解 2 (発達理論より)	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが重要かを理解し、演習を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験を得ます。
第 5 回	自己理解 3 (トランジションへの対応として)	4S 理論 (シュロスバーク) を背景に、具体的事例を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解と自己肯定感を高める啓発的体験を得ます。

第 6 回 職業理解 1 (採用) 採用に際して重要視されていることを理解します。また、「仕事とキャリア」に関する多様な経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通してインターン先企業の決め方について考えます。

第 7 回 職業理解 2 (職務) ジョブ (職務) の概念を会得し、ジョブ (職務) を中心として人事制度ができあがっていることを把握します。また、企業で導入が進むジョブ型人事制度での働き方について考えます。

第 8 回 職業理解 3 (職場コミュニケーション) 職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解します。また、多様なジョブについて学び、演習を通じてジョブごとの課題解決手法について考えます。

第 9 回 職業理解 4 (起業) 起業を志す人の特性について思索します。また、「起業とキャリア」に関する経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通して、興味がある起業分野のビジネスモデルについて考えます。

第 10 回 成長できる仕事選び 1 (やりたいジョブ) 自分のやりたいジョブについて思索し、演習を通じてジョブごとの課題解決手法について考えます。

第 11 回 成長できる仕事選び 2 (業界理解) 業界の構造を知り、各業界の特徴、これから注目される業界について考えます。演習を通して、興味がある業界について理解を深めます。

第 12 回 成長できる仕事選び 3 (就活のプロセス) 就活のプロセスについて理解し、相手に伝わる ES (エントリーシート) の文章の書き方、直前対策について学びます。

第 13 回 成長できる仕事選び 4 (面接の意義) 自己理解を踏まえた「自分らしさ」を伝え、相互理解を図るという面接の意義、そこでの対応について理解します。

第 14 回 振り返り 13 回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティが高まったか、興味をもつ業界、ジョブについて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ときどき簡単なレポートを出します。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『キャリア開発論（改訂版）』（武石恵美子著:中央経済社、2023 年 4 月発行予定）

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 (25)、レポート (25)、リアクションペーパーのコメント (50) を基準とします。質問・発表などによる積極的な授業参加を重視します。期末試験はオープンブック方式 (電子機器以外は持ち込み可) で、到達目標に達しているかを見る設問を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

「就活で、グループディスカッションの経験が少ないことが不安です」というフィードバックを多数いただきましたので、グループ全体で議論をまとめる力、それを元に時間内でプレゼンを行う力が自然に身に付くように授業内で訓練します。ディスカッション力は、就活のみならず、就職後、日々の仕事の中で生きてきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料等を配布します。

【その他の重要事項】

ビジネス雑誌を編集する仕事を通して、長年にわたってビジネス社会を取材し見つけてきました。その実務経験を生かして、多様なキャリアと多様な仕事に携わる経験者の言葉や実感をお伝えします。それを踏まえてエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める方法について考察し、今後のキャリアについて思索する機会をつくれます。その上で、いま起きている変化に対応し、今後実社会で生きていくためのさまざまな力を身に付けます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to create opportunities to enhance your own employability and entrepreneurship by considering "what makes the difference between those who increase employment opportunities and those who do not" and "who can create business opportunities."

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Creating an opportunity to understand methods to deepen your understanding of the labour market and the times.
2. Promoting and checking your self-understanding, and increasing your awareness of social role and employability.
3. Providing time for contemplation on what it means to be a 'people expert', which is one of the greatest strengths of being a career design graduate.

Occasionally a brief report will be given. Your study time will be more than 4 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination(25%), Reports(25%), Comments on reaction papers(50%),and in-class contribution. The final examination will be open-book (students may bring in all but electronic equipment) and will include questions to see whether the achievement objectives have been met.

SOC200MA

キャリア研究調査実習 E (幸福論) 展開科目

小塩 靖崇

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア調査実習の中で、幸福 (ウェルビーイング) を題材として量的調査を学びます。

キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域ですが、いずれの分野でも、幸福 (ウェルビーイング) をどのように捉えるかは、中心概念として共通しています。本講義を通して、キャリアデザイン研究において、量的調査を具体的に実践するためのスキルを磨いてください。

【到達目標】

本授業の学習により、学生は下記を身につけることを目標とする。

- ・先行研究の調べ方、仮説・リサーチクエスチョンの立案に関するスキル
- ・質問紙の作成、及び簡単なデータ収集と分析のスキル
- ・得られた結果の解釈に関するスキル

The aim of this course is to help students acquire the followings:

- (1) To acquire skills about exploring previous research and planning hypotheses/research questions.
- (2) To create a questionnaire and acquire simple data collection and analysis skills
- (3) To acquire skills in interpreting the obtained results
- (4) To conduct practical learning of (1)-(3) above

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

個人またはグループでの実習となります。前半は、教員の説明により基本的な理論などの理解を目指します。その後、学生が教科書の1章や論文1本を担当して話題提供としてプレゼンをするなどしてもらいます。授業内のディスカッションでは、具体例を示し、丁寧に説明します。リアクションペーパー提出や課題等は、その翌週以降の授業で触れるようにします。

Students will be expected to be interested in various statistics in newspapers and news such as polls, rankings, economic statistics, etc. In particular, they are focused on the mental health of athletes and the theme of mental health in school education.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	幸福 (ウェルビーイング) の定義 なぜ研究方法を学ぶのか
第 2 回	健康行動：基礎	健康行動の理論、研究、実践の概要
第 3 回	個人レベルの健康行動理論、モデル (1)	個人に焦点を当てた健康行動理論 (KAP モデル; ヘルスビリーフモデル)
第 4 回	個人レベルの健康行動理論、モデル (2)	個人に焦点を当てた健康行動理論 (計画的行動理論; トランスセオリアルモデル)
第 5 回	個人レベルの健康行動理論、モデル (3)	個人に焦点を当てた健康行動理論 (個人レベルの理論・モデルに関する基本的概念)
第 6 回	個人間における健康行動理論 (1)	健康行動の個人間影響に関するモデル
第 7 回	個人間における健康行動理論 (2)	ソーシャルネットワークと健康
第 8 回	個人間における健康行動理論 (3)	ストレス、コーピング、健康行動
第 9 回	健康行動変容のコミュニティモデル (1)	グループ、組織、コミュニティレベルのモデル
第 10 回	健康行動変容のコミュニティモデル (2)	公衆衛生的介入の実施、普及及び拡散について
第 11 回	健康行動変容のコミュニティモデル (3)	メディア環境におけるコミュニケーションと健康行動
第 12 回	研究と実践における理論の活用 (1)	研究と実践における理論の応用・イントロ
第 13 回	研究と実践における理論の活用 (2)	プランニングモデル
第 14 回	研究と実践における理論の活用 (3)	ソーシャルマーケティング

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。特に、アスリートのメンタルヘルスや学校教育におけるメンタルヘルスのテーマを中心に扱います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

下記ウェブサイトを参照する

<https://yowatsuyo.com/>
<https://sanita-mentale.jp/material/>

【テキスト (教科書)】

一般社団法人日本健康教育学会『健康行動理論による研究と実践』

下記ウェブサイトを参照する

<https://yowatsuyo.com/>
<https://sanita-mentale.jp/material/>

【参考書】

下記ウェブサイトを参照する

<https://yowatsuyo.com/>
<https://sanita-mentale.jp/material/>

【成績評価の方法と基準】

「授業への積極的な貢献度 (平常点を含む)」: 50%

「レポートや課題の提出」: 50%

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 50%, in class contribution: 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to understand quantitative research methods. The educational material will cover topics about well-being and mental health. Well-being is a common and important concept in various research/practice fields.

Course outline:

The purpose of this class is to understand quantitative research methods. The educational material will cover topics about well-being and mental health. Well-being is a common and important concept in various research/practice fields.

Learning Objectives:

The aim of this course is to help students acquire the followings:

- (1) To acquire skills about exploring previous research and planning hypotheses/research questions.
- (2) To create a questionnaire and acquire simple data collection and analysis skills
- (3) To acquire skills in interpreting the obtained results
- (4) To conduct practical learning of (1)-(3) above

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to be interested in various statistics in newspapers and news such as polls, rankings, economic statistics, etc. In particular, they are focused on the mental health of athletes and the theme of mental health in school education.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 50%, in class contribution: 50%

Practice methods in this class:

In this class, the students will learn through individual or group training. In the first half of each class, the class aim to understand fundamental theories. After that, the student will be in charge of one chapter of the textbook and one research paper. The student also gives a presentation as a topic. In the discussions, we will give concrete examples and explain them carefully. Submission of reaction papers and assignments will be shown in the next week and subsequent classes.

SOC200MA

キャリア研究調査実習 F (まちづくり論) 展開科目

大西 未希

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、「まちづくり」の在り方が注目されている。地域に根ざしたまちづくりを考えるためには、まずはつぶさな視点で街を調査すること、そのデータ検討し、地域にある資産と課題を浮かび上がらせることが重要である。そこで本授業では「まちづくり」をテーマとした社会調査 (質的調査) のプロセスを学び、実践的な能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- (1) 質的調査の調査デザイン、調査手続きに関するスキルを獲得する。
- (2) 考現学、参与観察の手法について説明でき、実践するスキルを獲得する。
- (3) 対象地域において適切な調査デザインを採用し、調査を進めることができる。
- (4) 対象地域への調査結果からまちづくりの提案を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と、個人またはグループでの実習を取り合わせて行う。演習講義なので出来る限り遅刻欠席しないこと。グループディスカッションなどで参加を促す。参画度も授業評価対象。
▼演習：提示された演習課題 (主に観察調査) を期限までに行い、学習支援システムやメールなどの方法で提出。提出された課題は講義内で扱ったり、講師からフィードバックする。
▼フィードバック：学習支援システムなどを利用して講師からのお知らせ、補足資料提示などを行う。それを元に予習・復習をする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (オンライン)	授業の到達目標、テーマ、概要、方法 ※履修希望アンケート実施 ※希望人数により履修選抜
第 2 回	質的調査の概要	質的調査と量的調査の調査法の違い、質的調査を元にした研究の事例、情報機器を用いたデータのとり方演習
第 3 回	質的調査の方法 モバイル端末を使ったデータ取得	前回の演習のフィードバック、フィールドノートのとり方、考現学の手法
第 4 回	質的調査の方法 フィールドノート	前回の演習のフィードバック、考現学に基づいたデータ収集演習
第 5 回	質的調査の方法 スケッチ・メモ	路上観察におけるスケッチやメモのデータを用いた研究成果、定点観測の手法、定点観測の調査設計演習
第 6 回	質的調査の実践 データ検討	データセッションの手法、データ分類の手法、データセッションの実践、質的調査における問のたて方、作業仮説
第 7 回	質的調査の実践 調査の手法	調査対象地域の選定方法、アポイントメントの取り方、依頼書の書き方
第 8 回	質的調査の実践 参与観察	参与観察の手法、ラポール、現場へのアクセス権について、定性的コーディング
第 9 回	質的調査の実践 事前調査	まちづくりの現在、地域資産、地域研究の事例、文献や既存の資料の調査、地域の歴史等事実関係の整理、作業仮説の立て方
第 10 回	質的調査の実践 調査デザイン	講義で学んだ手法のうち一つを用いた質的調査の調査デザイン、調査実習 1 週目
第 11 回	質的調査の実践 実査	調査実習 2 週目、データセッション
第 12 回	質的調査の実践 実査	調査実習 3 週目、データセッション
第 13 回	質的調査の実践 実査	データ整理の手法、まちづくりのアイデアの考え方
第 14 回	調査結果の発表	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」をテーマにした構想を発表する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・ 授業の中で実習課題が課されることがある。
- ・ 授業外に調査実習を行うことがある。
- ・ 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする

【テキスト (教科書)】

指定なし。

【参考書】

佐藤郁哉 (2006) 『フィールドワーク- 書を持って街へ出よう (増訂版)』 新曜社
前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆編 (2016) 『最強の社会調査入門——これからの質的調査をはじめの人のために』 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30% 授業内課題：20% 最終課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・ パソコンを利用する回がある。事前に告知するので、貸し出し用でよいのでノートパソコンを持参の上講義に出席すること。
- ・ スマホを利用する回がある。

【その他の重要事項】

- ・ 演習授業のため、基本的に遅刻欠席は原則 NG。
- ・ 欠席した場合は、授業支援システムから講義資料を確認し、演習を各自で行っておくこと。
- ・ 授業外で行う課題もあります。締め切り厳禁。
- ・ 提出された課題を授業内で扱うことがあります。
- ・ 不明点は大きまで質問してください。オフィスアワーを設定いたしますので、ご希望の方は事前にメールをいただけますと助かります。

連絡先：大西 未希 miki.onishi.35@hosei.ac.jp

私たちの生活は、地続きに「まち」とつながっています。例えば、家の近所にはどんな張り紙があるでしょうか。屋外に何が置いてあるのでしょうか。ゴミ捨てのルールをどんな方法でアナウンスしあっているのでしょうか。これはほんの一例ですが、落ち着いて家の周りをめぐらなくても、豊かなフィールドワークはできます。直接人と向き合いにくい期間が続きましたが、会話なしにも共同生活がしやすいようどのように創意工夫をし、人々が動かされているかよりクリアに見えるようにもなっているようにも思えます。それはまちにある特性を考える上で非常に興味深いテーマとなります。皆さんには実際にまちを歩いたり、日常過ごす中でデータを取得してきてもらいます。演習の内容は、この講義の受講生のみでシェアします。人びとの個別具体的な暮らし、営みを丁寧に観察しましょう。ミクロな視点でまちを見ると、なぜか人が集まって談笑している場所、待ちあわせがよくされている場所などがあることなどが見えてきます。人びとの暮らしと「まち」との関係にもフォーカスし、まちと人びとのどのような関係性があり得るのか、考える時間にしたしたいと思います。

まちづくりの施策に関心がある方はもちろん、散歩や、ものを観察することが好きという関心の方も歓迎します。講師はこれまで東京都立川市や三宅島をはじめとした地域で官民と共同しながら地域での取り組みを行ってききましたので、実践の中でのお話もシェアできればと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Qualitative research involves the collection and rigorous analysis of observations, interviews, and other records of human activity so that we can come to a richer understanding of structures, processes, and perspectives that drive or shape human behavior. We will also practice some of the activities associated with executing a qualitative research study relevant to community development.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Skills related to survey design and survey procedures for qualitative research
- ・ Skills to explain and practice the methods of study, participant observation, and interviews
- ・ Skills to conduct appropriate surveys in the target area
- ・ Skills to make proposals for community development based on the results of surveys in the target area

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required fieldwork assignments after each class. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Final grade will be calculated according to homework (20%), term-end report (50%), and in-class contribution (30%)

SOC200MA

外書講読A (ライフ)

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界の情報をいかに読み解き、研究やビジネスに活用するか。それにはまず、外国語の資料を正確かつ効率的に読みこなすスキルが必要となる。この講義では、海外ニュース、インターネットサイト、報告書、映像、広告、ルポルターージュなどの英文を毎回1本ずつ取り上げ、その訳読を通して、外国語による情報分析や調査の基礎的ノウハウを習得する。また、音声教材の使用によってリスニング能力も高め、耳から得られる海外情報の活用にも慣れる。なお、この授業は後期科目「外書講読B」のテーマと一部重複するが、取り上げる情報(課題文)は同一でなく、バリエーションを加える。

【到達目標】

外国語のパッケージを理解し、地球規模の情報を手際よく収集できる能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パワーポイント資料によるレジュメを使って授業を行う。オンライン授業の期間は、レジュメの各ページ下のノート欄に、通常の授業で話すことを要約して記載しておく。それをよく読み、各頁の要点や図表も理解しながら読み進め、練習問題も解いてみる。また、A4版1枚程度の平易な英文資料を次回授業までの課題文とする。翌週の授業でその資料の訳読を示し、英語による情報の収集と理解についての解説も加える。以上2種類の教材は、学習支援ツールの「教材」のボックスに毎回アップしておく。また、情報を耳から吸収することにも重点を置き、インターネットで入手できる音声テキストも随時紹介する。さらに外国語学習法も併せて指導するので、文法や語彙の復習・再強化を目的とする学生も受講可能。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また海外の情報ソースを利用して情報検索する際の手順をアローダイアグラムつきで解説。
2	世界の最新情報を英語で入手	現在、世界的に注目されている GAFAM 関連の書『Post Corona』の読み解きを通じて、英語による国際情勢へのアプローチを実践。
3	海外の情報ソース	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計に基づく一次情報のソースを知り、活用する方法を身につける。
4	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチについて考察した文章を読み解く。
5	ルポルターージュの英語	National Geographic 誌のルポルターージュを参考に、科学的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
6	字幕の英語	映画やニュースの字幕を活用し、音声と文字を同時に活用しながら情報収集をするコツをつかむ。
7	ラジオの英語	VOA Special English や CNN Student News をテキストに、音声情報の活用方法を身につける。
8	語彙・読解力・リスニング力の相乗効果	音声の導入で語彙を増やし、同時に速読力も高めるためのトレーニング方法を解説。
9	ガイドブック&マニュアルの英語	旅行ガイドブックや製品取扱説明書など、実用的な英語に触れ、こうした情報を効率的に使いこなす方法を学ぶ。
10	広告媒体の英語	商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。

11	TOEIC/TOEFL の活用方法	ETS (Educational Testing Service) が行なう英語試験 TOEFL iBT や TOEIC L&R を参考に、英語による情報伝達の基本を学ぶ。
12	海外に紹介された日本	日本の伝統文化が英語でどのように紹介されているかを見ることにより、海外における異文化理解の現状と課題を展望する。
13	個人発表①	これまでの授業で最も参考になった知識を發展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
14	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を發展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。授業支援システムに課題文を掲載することもあるが、毎回ではないので、授業には必ず出席すること。

【テキスト(教科書)】

各回の授業で資料を配布。

【参考書】

『エコカルチャーから見た世界—思考・伝統・アートで読み解く』(門脇仁著、ミネルヴァ書房)
Tree Thieves — Crime and Survival in North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、平常点 50%。特にリアクションペーパーの内容を重視。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの方法についての分析的な解説が参考になるという学生が多いので、今年度も取り入れる。また、映像のナレーションやラジオ番組といった英語音声も併せて活用して行く。

【学生が準備すべき機器他】

PC (教室への持参は不要)

【その他の重要事項】

背景知識や参考事例をなるべく多く用いて、分かりやすい説明に努めるので、受講者も積極的に授業に参加すること。

【Outline (in English)】

How can we understand information around the world and make use of it for our study or business? The most important process for that is to acquire ability to read foreign documents correctly and efficiently. In this lecture, we will pick up an English passage to read each week, and learn how to research or analyze information in foreign language. In addition, we will introduce audio materials in order to improve our listening skill and be used to thinking, understanding or learning through spoken English.

By the end of this course, students are expected to do followings:

-Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.

-Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.

-Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA

外書講読B (ライフ)

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する(なお、この授業は前期科目「外書講読A」のテーマと一部重複するが、取り上げる情報(課題文)は同一でなく、バリエーションを加える)。

【到達目標】

英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標(速読スピード、TOEIC スコアなど)を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回A4版1～2枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また、海外の情報ソースから情報検索する際の手順をアロウダイアグラムつきで解説。
第2回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー(自伝)の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第3回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第4回	インタビューの聴解・読解	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第5回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第6回	グローバルイシューの読解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第7回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第8回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第9回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。

第10回 プレゼンテーションの聴き方とシャドーイング

TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、シャドーイングによる英語イントネーションの実践方法などを学ぶ。

第11回 TOEIC の活用法

TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。

第12回 メッセージを読み解く

2016年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーティストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達メカニズムを探る。海外の商品広告、求人広告、テレビCMなどの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。

第13回 広告の英語

これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト(教科書)】

授業で配布するレジュメと課題文がテキストとなる。

【参考書】

Tree Thieves — Crime and Survival In North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)
『エコカルチャーから見た世界』(門脇仁著、ミネルヴァ書房刊)

【成績評価の方法と基準】

筆記試験(50%)、平常点(50%)
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるため、これまでもより一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

教室設置のPC、プロジェクター、DVDプレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】

全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】

課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline (in English)】

How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

By the end of this course, students are expected to do followings:

-Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.

-Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.

-Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通じ、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。

オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなごしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワークワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなごし方の変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目(1)	コミュニティの健全性に関するデュルケムの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う

- 第12回 歴史と社会を見る目(2) 伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
- 第13回 歴史と社会を見る目(3) ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
- 第14回 まとめ・総括 歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに活用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。

オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点 (1)	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点 (2)	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点 (3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第 12 回	社会史的視点 (4)	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

第 13 回 歴史と社会の再生産

第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する

第 14 回 まとめ・総括

比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison. (Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities. (Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70%, in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

家族論

展開科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society. Learning objectives of this course are to understand variation of contemporary family issues and to get ideas about career design of students themselves. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 40%, reports 10% and final exam 50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】

本講義の目標は、2つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。初回から学習支援システムを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生”から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生”から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（齋藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】

・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009 年、ミネルヴァ書房）
 ・『論点ハンドブック 家族社会学』（野々山久也編、2009 年、世界思想社）
 ・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（40%）・小レポート（10%）・期末試験（50%）と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】

受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

SOC200MA

若者文化論

展開科目

玉川 博章

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会において、エンタテインメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の 1960 年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンタテインメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】

日本の 1960 年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業のため（初回など一部授業回を除く）、基本的に講義形式となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。なお、オンラインの場合は、動画視聴と配付資料によるオンデマンド方式を前提とします。なお、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、いくつか代表的な内容を次回・次々に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション メディアと若者文化（サブカルチャー）	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第 2 回	文化と消費 消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第 3 回	物語消費論	大塚英志による 1980 年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第 4 回	80 年代のバブル・消費文化	1970~80 年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第 5 回	80 年代における「オタク」と消費文化	1980 年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と島宇宙化・若者文化の細分化について
第 6 回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第 7 回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第 8 回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960 年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第 9 回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80 年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第 10 回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980 年代~2000 年代のアニメ・マンガについて
第 11 回	アイドルとメディア	アイドル文化が戦後~現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第 12 回	アイドルと「消費者」（オタク）	アイドル文化が趣味集団、そして消費とどう関係しているのかを分析
第 13 回	コミュニケーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	モノから体験、コミュニケーションへと変化する消費と若者文化について

第 14 回 まとめ サブカルチャーと これまでの授業内容の整理と発展的議論 後期近代 論ならびに授業の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし。原則的に資料を配布する予定。

【参考書】

大塚英志『物語消費論』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は（メディアミックスする国）なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50% + 試験（または期末レポート）50%

試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年、昨年とオンデマンドで実施のため、今年度の対面授業はある程度試行錯誤することもあるかもしれませんが。大人数講義が予想されるが、オンライン授業よりは一方通行とならないように、課題のフィードバックや授業時のアンケートなどでインタラクションを取るようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用

【Outline (in English)】

Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption.

In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

Students will be expected to search and watch websites and audiovisual materials introduced in class, after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Exams(or reports) assess your ability to analyze youth culture with an understanding of the theory of sociology and cultural studies.

Grading will be decided based on Term-end exams(or term-end reports)50% and in class contribution(Quizzes or comment tasks) 50%

SOC200MA

世代間交流論

展開科目

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世代間交流の考え方や役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。

【到達目標】

- ①地域や社会の課題と連動した世代間交流の意義が分かる。
- ②世代間交流プログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方をまず学び、それがどのような肯定的な効果をもたらすことが可能なのかについて検討する。そして、新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について世代間交流プログラムという視点から考える。演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。この授業はオンライン（リアルタイム型）での実施を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第 2 回	理論的背景①	学際的視点から世代間交流を学ぶ①（事例：駄菓子屋）。
第 3 回	理論的背景②	学際的視点から世代間交流を学ぶ②（文献：コミュニティ心理学の応用）。
第 4 回	理論的背景③	世代間交流におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第 5 回	理論的背景④	多様な交流のあり方とアイデンティティ（事例：シェアハウス）。
第 6 回	理論的背景⑤	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から捉えた世代間交流についてを学ぶ。
第 7 回	実践的課題	世代間交流の視点から社会課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第 8 回	世代間交流プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第 9 回	世代間交流プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みから世代間交流プログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第 10 回	世代間交流プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第 11 回	世代間交流プログラムの評価①	世代間交流のプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第 12 回	世代間交流プログラムの評価②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定）。
第 13 回	プログラム評価計画の発表	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之、2011、新曜社）

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（50 %）、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）（30 %）、授業への積極的な貢献（20 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline (in English)】

This class focuses attention on understanding intergenerational theory and methods of developing programs related to intergenerational issues in the communities that we live.

Learning Objectives:

- ・ Understand social and cultural issues relating to intergenerational programs
- ・ Develop skills to design and evaluation intergenerational programs

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

- 50 points (%) for final report
- 30 points (%) for group assignments
- 20 points (%) for active participation in classroom activities

SOC200MA

身体表現論

展開科目

叶 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演劇的手法のエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。また様々な表現方法を体験することで、コミュニケーションについて考える。

【到達目標】

感性と感覚を磨き、自己発見・他者理解・想像・コミュニケーションの力を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。フィードバック方法として、毎回の授業後に、フィードバックペーパーを作成し提出する。また、最終日にまとめのレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と全体の概要を説明。
第 2 回	ウォーミングアップ	表現をするための身体と心を整えるためのエクササイズを体験・考察。
第 3 回	身体・感覚 1	身体を使ったエクササイズを体験・考察。
第 4 回	身体・感覚 2	感覚の一つを遮断する事で、他の感覚に集中するエクササイズを体験・考察。
第 5 回	身体・感覚 3	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験し、グループでの創作を行う。
第 6 回	表現力を高める為には	感覚・感性を磨き表現力を高めるエクササイズの概要と考え方の講義。
第 7 回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験・考察。
第 8 回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自分の特性を知るエクササイズを体験・考察。
第 9 回	インプロヴィゼーション 1 基礎	創作創造活動の基本をインプロヴィゼーションのエクササイズを通して体験・考察。
第 10 回	インプロヴィゼーション 2 言語	言語表現と劇作法の基礎のエクササイズと講義
第 11 回	インプロヴィゼーション 3 非言語	言語を使わない表現を体験し、グループでの創作創造活動を行う。

第 12 回	グループ創作	グループで創作テーマを話し合い、短いパフォーマンスを創作する
第 13 回	グループ創作と発表	創作したパフォーマンスを見せ合い、話し合う。
第 14 回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題 (30 分程で課題に対して自由筆記のレポート)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内にミニレポートを提出。ミニレポートの返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。本授業の復習・予習時間は、各 2 時間を標準とする。授業の記録を元に、復習として 2 時間、授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。また、予習として 2 時間、次の授業のテーマについて、現時点での自身の考えや自身の表現方法の傾向を考えて、まとめておく事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布。

【参考書】

特になし。必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、原則として 1/5 以上欠席すると単位取得は不可とする。平常点として授業への参加姿勢 70% レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内で好評だった身体を動かすエクササイズは今年も同様に行う。また、感染症対策も昨年と同様に行う。今年度は、体験を重視はするが、理論についてのガイダンスも適宜入れながら、授業後の復習時間の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具。水分補給用の飲み物など

【その他の重要事項】

動きやすい服装で参加のこと（体操着・レオタード等の着用は必要はない）。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。頭で考えるよりも体験を通して気がついた事、感じた事を元に自分自身の表現方法を発見していきましょう。なお、教室のサイズにより、受講者数を制限（選抜）することがあります。履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Drama In Education :beginner's class.Classes will be held in a workshop style. 【Learning Objectives】 Improving communication skills from consideration of self and others' expressions 【Learning activities outside of classroom】 Find out what you did in the 2-hour class in real life. Use 2 hours to summarize your thoughts on the subject of the lesson 【Grading Criteria /Policy】 Class attitude and attendance 70%.In-class report and Last day free writing report 30%

SOC200MA

地域文化論

展開科目

古屋 星斗

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近い将来極めて厳しい状況が推定される地域社会の人口動態や労働需給見通しなどをもとに、2040 年の地域での生活を実際の・具体的に想像し、いま打つことができる手を探していきます。特に「その地域でのひとづくり」の観点で、行政・地域企業としてできることを考えていきます。授業に参加される方には、それぞれ深める対象にする都道府県や市区町村を選んで頂き、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち 3 回となります。

【到達目標】

選んだ地域における人材政策を起点に、その地域ならではの人材育成・キャリア形成の可能性を整理し、地方の現場で提言・実践できるような構想力の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生は、自身が選んだ地域について講義におけるインプットをもとに、ワークショップを通じて最終的にレポートをまとめ授業に参加いただきます。インプットを中心とする回でも双方向で行うため、小規模なグループワークを行うことがあります。すべての分析や検討について、一般論に留まらない今後の地域社会・地域文化のリアルを反映させた意見が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義は地域のひとづくり政策の当事者になって参加をすることが前提であることを中心にガイダンスを行います。
第 2 回	地域文化におけるひとづくりの歴史	近代以前からの日本各地における多様なひとづくりの歴史を確認し、その多様性がどう変化してきたか整理します。
第 3 回	地域の近未来のリアル	地域別の労働需給シミュレーションを用いて、各地域に生きる人々の生活がどう変化していくのか具体的に推計・シーン別でイメージし、グループに分かれて話し合います。
第 4 回	地域課題の現実（地域の人づくり）	地方における若者・女性活躍支援や人材育成等に取り組む当事者（行政官・非営利団体等）の話を聞いたうえで、課題のポイントを確認・共有します。
第 5 回	地域課題の現実②（地方創生・地域の魅力）	地方自治体の地方創生、地域文化発信等を担当する行政官の話を聞いたうえで、課題のポイントを確認・共有します。
第 6 回	地域課題の現実③（産業・企業）	地域ごとの産業構造の差異や、地域の中小企業が抱える問題や課題感を知り、課題のポイントを確認・共有します。
第 7 回	地域文化を担う人づくりの課題を整理する	地域における人づくりの課題を、ルールメイカー・雇用者・個人の 3 つの視点から整理するとともに、その課題を放置した場合に何が起こるか、1 枚の絵にして表現します。

第 8 回	地域とキャリア教育	キャリア教育の基礎をインプットしたうえで、地域の人づくりの分野でどのように活用されているか学びます。
第 9 回	人づくりのボトルネックを知る	財源、法制度など、地域での人づくりの前提・ボトルネックになっている諸要素を学びます。
第 10 回	地域の未来の芽①	地域文化の振興を行うために人材育成を行っている企業事例をケーススタディとして聞き、地域課題の解決策について話し合います。
第 11 回	地域の未来の芽②	地域文化に根差した新たな若者づくりを実践している事例をケーススタディとして聞き、地域課題の解決策について話し合います。
第 12 回	解決策の視点を広げる	フィッシュボウル形式の意見交換を行うことで、各自が地域文化の担い手づくりの解決策として構想する施策を共有し、相互に聞くことで自身の解決に向けたアイデアの視点を拡張します。
第 13 回	解決策を表現する	解決策として想定する施策が実現した場合に、どのような地域文化が形成されるのか、グループで 1 枚の絵に表現します。
第 14 回	期末・まとめ	対象とした地域のひとづくりについて提言をレポートにして提出します。レポートは、対象となる地域の分析精度・課題設定の妥当性・解決策の構想力・解決策の実現可能性の 4 点について評価を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が選んだ都道府県・市区町村の施策やデータを事前に調べて参加します。

そのため、ワークショップの回は毎回宿題が課されます。期末のタイミングは特に分量が増えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加および期末試験とワークショップ提出物の内容で評価します。

レポートは、対象となる地域の分析精度・課題設定の妥当性・解決策の構想力・解決策の実現可能性の 4 点について評価を行います。

・出席点：30%

・ワークショップ：30%

・期末試験：40%（期末試験はなく、プレゼンテーション形式のレポート提出となります）

【学生の意見等からの気づき】

講師は、リクルートワークス研究所で地域ごとの労働需給シミュレーションや人材政策のアドバイザーに携わってきました。過去には経済産業省において産業人材政策、福島復興支援、政府成長戦略立案などを行っており、本講義でも検索して出てくる情報だけでなく現場で奮闘する当事者の声を聞きながら、新しい地域文化創出に貢献できる人材を生み出す提案を考えていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン）の使用を前提とし、パワーポイントや Keynote といったプレゼンテーションソフトが必須となります。

【その他の重要事項】

考える力を養いますので、毎度の宿題と講義への出席が必須となります。

【Outline (in English)】

Course outline:

Rethinking community-initiated people development.

Based on demographic trends and labor supply and demand forecasts, it is estimated that local communities will face extremely difficult conditions in the near future. In this lecture, we will imagine life in the region in 2040 and explore solutions. In particular, we will consider what the government and local businesses can do from the perspective of human resource development in the region.

Learning Objectives:

Each student will choose a prefecture or city to research, and will make comments and do group work. Group work will be three times out of the whole course.

Learning activities outside of classroom:

Preparation takes about 2 hours per session. Students are required to research the policies and data of their chosen prefecture or municipality. Therefore, homework will be assigned for each workshop session.

Grading Criteria /Policy:

The evaluation is based on participation in lectures and the content of the final report and workshop submissions.

The report is evaluated on the following four points: accuracy of analysis of the target area, appropriateness of the problem setting, conceptual ability of the solution, and feasibility of the solution.

Points are allocated as follows

Attendance: 30%.

Workshop: 30%.

Final exam: 40% (There will be no final exam, but a report in the form of a presentation)

SOC200MA

アイデンティティ論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的である。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。

【到達目標】

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題は Hoppii を利用してを提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション及び基礎知識の解説	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明する。
第 2 回	自己とはなにか：心理学から見たアイデンティティ	自己に関する諸理論からアイデンティティについて議論する。
第 3 回	自己とはなにか：社会心理学的アプローチ	社会心理学の観点から自己とアイデンティティの研究を解説する。
第 4 回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューする。
第 5 回	社会的アイデンティティ（集団間関係）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程に関する研究成果を解説する。
第 6 回	社会的アイデンティティ（集団間葛藤）	集団成員となることで生じる集団間葛藤について、特に解決の観点から解説する。
第 7 回	社会的アイデンティティ（集団内過程）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程について、主に集団内に対する影響について解説する。
第 8 回	グループダイナミクス	社会的促進と社会的手抜き心理、及びその解決方法について解説する。
第 9 回	アイデンティティと意思決定	集団の一員としてのアイデンティティが、集団内での意思決定に与える影響について、共有バイアスや集団極性化などを取り上げて解説する。
第 10 回	社会的公正とアイデンティティ	アイデンティティの獲得が不正感に与える影響について解説する。
第 11 回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢（例えば世代論）等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説する。
第 12 回	差別の正当化とアイデンティティ	自我脅威と差別の正当化の関係について、先行研究を元に解説する。
第 13 回	過激化とアイデンティティ	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第 14 回	まとめと総括	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題+質問で 40 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）60 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は windows PC を利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、google classroom を利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内や Hoppii 等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

Goals of this course are when students try to design their own career, they are able to think about the effects of identity and use it for better designing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60% Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

SOC200MA

余暇集団論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活、そして人生において「余暇」とはどのような意味や機能があるのかについて、単なる個人的経験としてだけではなく、社会的活動としての側面も交えて解説する。更には余暇に対する心理学的研究法を紹介し、心理的メカニズムからの理解を深め、特に観光旅行に焦点をあて、余暇研究の具体的な応用方法について解説する。

【到達目標】

人生における「余暇」について、日本における活動の現状、考え方の変遷について学ぶ。更には日常生活における余暇活動の理論と方法について解説し、将来における余暇活動の発展に利用可能な知識の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題は Hoppii を利用してを提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第 2 回	余暇とはなにか	余暇の種類と現状について解説する。
第 3 回	余暇と社会	人々の社会生活における余暇の意義について解説する。
第 4 回	産業としての余暇	余暇が与える経済的影響について、統計データを用いて解説する。
第 5 回	日常生活における余暇の心理：動機について	余暇に関する心理のうち、動機に関する知見を解説する。
第 6 回	日常生活における余暇の心理：心理的報酬について	余暇活動が持つ心理的報酬としての側面と、その逆機能について解説する。
第 7 回	日常生活における余暇の心理：欲求と満足	余暇活動に対する満足度の測定方法について解説する。
第 8 回	日常生活における余暇の心理：発達と社会化	発達過程における余暇活動の影響について解説する。
第 9 回	日常生活における余暇の心理：損と得	余暇活動に伴う、損失と利得の計算の心理を解説する。
第 10 回	余暇活動としての観光旅行	余暇活動のうち、観光旅行に焦点をあて、どのように研究可能であるかを解説する。
第 11 回	観光旅行の動機	観光旅行を行う人は、どのような動機を持っているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 12 回	観光旅行の意思決定	観光旅行の計画・実施の際にはどのような意思決定が行われているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 13 回	観光旅行での活動と経験	観光旅行ではどのような活動が行われ、それが人々に同様な経験して記憶されるのか、研究結果に基づいて解説する。
第 14 回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

瀬沼克彰・園田碩哉（編）日本余暇学会（監修）「余暇学を学ぶ人のために」世界思想社、2004

【成績評価の方法と基準】

学期末試験結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題+質問で 40 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）60 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は PC が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、google classroom を利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内や Hoppii 等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "leisure" from social psychology and sociology perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods of the leisure study.

Goals of this course are that students understand leisure activity in Japan theoretically, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution

(e.g. asking questions): 60%

SOC200MA

NPO論

展開科目

山口 佳子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに課題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】

NPO／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、NPOの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に一部変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークも予定しています。今期より対面での講義に戻りますが、引き続き授業支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第 3 回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるNPOの社会的役割について理解する。
第 4 回	NPOの具体的事例①	NPOの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第 5 回	NPOの具体的事例②	実際にNPOで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第 6 回	NPOの組織と運営について	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第 7 回	NPOと行政との協働	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 8 回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例を紹介する。
第 9 回	NPOと雇用	NPOの雇用・就労の場としての可能性と課題について、データを基にその問題点と可能性を考える。
第 10 回	中間振り返り	前半の知識の整理、質疑応答、ディスカッションなど。
第 11 回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第 12 回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第 13 回	グループワーク③	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。
第 14 回	まとめ	全体のまとめ、レポート課題についてなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（50%）と、小レポート（10%）、授業への積極的貢献（20%）、グループワークとプレゼンテーション等への参加度・貢献度（20%）によって成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この3年間オンデマンド型での講義となってしまうため、リアルタイムでゲストを呼ぶ機会が持ちにくかったのですが、久しぶりの対面での実施になりますので、ゲストを招いての講義も行いたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

2009年に特定非営利活動法人アルファルファを設立し、以降代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのNPOの在り方について考えていきたいと思ひます。

【Outline (in English)】

・Course outline : In this course, we will examine how and how to improve management to develop NPO activities through concrete examples. ・ Learning Objectives : The goal is to an in-depth understanding of the current status and social significance of nonprofit organizations, in addition to acquiring basic knowledge about them. ・ Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to be interested in newspaper articles and literature related to the class and try to reconsider various things in their daily lives in relation to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. ・ Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 10 %、 in-class contribution: 20%、 Group work and presentations contribution : 20 %

SOC200MA

公共サービス論

展開科目

前浦 穂高

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, I would like to think about the future of public service with the students. The goals of this course are to deepen your understanding of public service and enable students to have clear ideas of what public service should be in the future. Preparations for class and the review are necessary for two hours each. Grading will be decided based on term-end report (100%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共サービスとは何か？と問いかげられたら、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様であり、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、私たちは公共サービスについて知らないことが多いのではないだろうか。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】

公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式の授業（講義形式）を行う。授業は、教員が作成する資料を基に進めていく。授業で使用する資料は、前日までに教育支援システム上にアップする。授業では、資料を配布しないため、受講者は資料を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明、公共サービスの定義
第 2 回	公共サービスの提供と評価 (1)	公共サービスと公共政策の手段、公共サービスを提供する仕組み
第 3 回	公共サービスの提供と評価 (2)	公共サービスを評価する仕組み
第 4 回	政府と市場の役割分担 (1)	民間委託の歴史・現状・課題
第 5 回	政府と市場の役割分担 (2)	指定管理者制度の背景・現状・課題
第 6 回	政府と市場の役割分担 (3)	独立行政法人制度の現状と課題
第 7 回	政府と市場の役割分担 (4)	民営化の歴史と現状 (3 公社の民営化、郵民営化等)
第 8 回	働く環境の変化と人事行政 (1)	地方公務員を取り囲む環境の変化、人事管理制度とその実態
第 9 回	働く環境の変化と人事行政 (2)	給与構造改革、能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第 10 回	働く環境の変化と人事行政 (3)	非常勤職員の活用と課題、正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第 11 回	公共サービスの現状 (1)	資金交付行政
第 12 回	公共サービスの現状 (2)	子育て行政
第 13 回	公共サービスの現状 (3)	水道行政
第 14 回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておく和良好的。授業後は講義内容を復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では、テキストは指定しない。

【参考書】

- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2017）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣ブックス。
- ・井上雅雄+立教大学キャリアセンター編（2008）『講義 仕事と人生』新曜社。
- ・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版。
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2014）『ホーンブック 地方自治 [第 3 版]』北樹出版。
- ・岩崎馨・田口和雄編著（2012）『賃金・人事制度改革の軌跡—再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房。
- ・大谷基道・河合晃一編著（2019）『現代日本の公務員人事—政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末レポートで決定する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方や内容に関する質問等は、授業後に受け付けるほか、メールでも受け付ける。教員のメールアドレスは、最初の授業で知らせる。

SOC200MA

アート・マネジメント論 展開科目

山口 佳子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっかって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートの持つ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。久しぶりの対面での講義となりますので、個別の質問等にもできるだけ対応しながら進めたいと思います。

他、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第 2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第 2 回	コロナ禍におけるアートの現状と変化	コロナ禍における文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第 3 回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第 4 回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第 5 回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 6 回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第 8 回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 9 回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。場合により、オンラインでのフィールドワークも可とする。
第 10 回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実践について学ぶ。
第 11 回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第 12 回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこの課題や問題点を学ぶ。
第 13 回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。

第 14 回 授業のまとめ・最終課題 これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（50%）と最終課題（50%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

この3年間オンデマンド型での講義となってしまったため、リアルタイムでゲストを呼ぶ機会が持ちにくかったのですが、久しぶりの対面での実施になりますので、ゲストを招いての参加型の授業なども実施したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

対面に講義は戻りますが、課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

SOC200MA

文化経営論

展開科目

武田 知也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年 2 月 26 日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。

本授業では、この状況で起きたいいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体（創り手・企業・行政・NPO等）の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面での講義とオンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー（小レポート）の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進みます。また、毎回の授業の際に、その前の回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

初回は授業概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行います。前期期間中のフィールドワーク課題も出します。具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第 3 回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第 4 回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた 2020 年までの最新の文化政策の動向を探る。
第 5 回	芸術文化と行政（地方自治体）	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第 6 回	フィールドワーク	ここまでの学びを通じた、フィールドワーク課題を出します。（フィールドワークの具体的内容については授業内で指示）
第 7 回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第 8 回	芸術文化と NPO、ソーシャルアクション	芸術文化を通じた NPO の多彩な活動を学ぶ
第 9 回	アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か？ なにをする人たちなのか？ アーティストという存在を考える
第 10 回	アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第 11 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	マネジメント、プロデュースの実践を知る（主に舞台芸術）
第 12 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	アートマネージャーの役割、アートマネジメントに関するまとめを行う
第 13 回	芸術文化とキャリア形成	芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第 14 回	授業内試験	授業内試験を実施し、ここまでの学びを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業（劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等）の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験（70%）と授業内の小レポート（リアクションペーパー）、課題レポートなどの平常点（30%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用する資料から更に調査・研究に繋がる資料をなるべく数多く提示したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアート NPO に就職し、その後フェスティバル/トーキョー（国際舞台芸術祭）、ロームシアター京都（公立劇場）、さいたま国際芸術祭 2020（国際芸術祭）などで企画・制作、キュレーターなどを担い、2021 年に自身が代表を務める法人を設立し現在に至っています。そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline (in English)】

On 26 February 2020, in order to prevent the spread of the new coronavirus, the Japanese government requested that arts and cultural activities, along with sporting events, be refrained from being held as "unnecessary". On the other hand, many people who are interested in art and culture have also voiced their opinions, and it can be said that this occasion has made the position of art and culture in Japanese society visible again.

In this class, we will begin by unravelling the current state of arts and culture in Japan by referring to some of the cases that occurred in this situation, and examine the relationship between art and society.

(Learning Objectives)

Students will study from the perspective of management and production that links the arts and society, based on an overview of the current status of the various actors (creators, companies, government, NPOs, etc.) responsible for arts and culture, examples of their initiatives, and their background and history. Students will gain new insights into the diverse relationships between arts and culture and their own lives, including the arts themselves, creative industries, community development, welfare, and education.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be asked to research the actual development of the case studies introduced in the class, visit the sites of arts and culture projects (theaters, museums, live performances, festivals, etc.), conduct field research, and summarize their findings in a report.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy)

Comprehensive evaluation will be made based on the final examination (70%) and regular marks (30%) such as in-class small reports (reaction papers) and assignment reports.

SOC200MA

メディア文化論

展開科目

堤 信子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】

各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。また、オンラインを通してのプロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定しています。表現力を磨くための演習をも取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第 2 回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第 3 回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第 4 回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関する DVD 視聴などを通し、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第 5 回	テレビメディアの文化論①	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ることで、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第 6 回	テレビメディアの文化論②	人気バラエティー番組を取り上げ、その内容や裏側を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く。

第 7 回	メディアを作る：ビジネス本やエッセイ本の事例	『ありがとう上手の習慣』や「旅靴いっぱいシリーズ」の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。
第 8 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 1	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 9 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 2	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 10 回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。編集長をゲストに迎えることも。
第 11 回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。
第 12 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 3	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 13 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 4	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 14 回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時々、レポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、使用しない予定です。パワーポイント中心です。

【参考書】

堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」デイスカヴァー 21
堤信子著「旅靴いっぱいのパリ・ミラノ」本の泉社
「旅靴いっぱいの京都・奈良」エイ出版社
「旅靴いっぱいのパリふたたび」実業之日本社
「旅靴いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社
「東京文具雑貨散歩～旅靴いっぱいの東京」辰巳出版
「14歳からの情報学」晶文社（2023年出版予定）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業のコメントカードや授業態度）50%と 課題レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生とのやりとりを重視した授業にしていきたいと思っています。メディア各方面から多彩なゲストをお迎えする対談を通し、キャリア形成に役立つ知識や考え方を学ぶ内容が、毎年好評ですので、2023年度も引き続きそのような内容についても充実させていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや DVD 映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

・ By understanding the contents of various media, you can learn how to interact with various media, which will become more diverse in the future.

In addition, we aim to improve each person's expressiveness and communication skills through the guidance of professional announcers .

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

・ Grading will be decided based on term-end report (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab & lab reports (50%).

SOC200MA

文化マーケティング論

展開科目

横石 崇

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。文化化する産業と、産業化する文化。社会の変化にともない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。今後さらに複雑化するマーケティング領域においては、事業性検討、戦略策定や製品開発などの具体的アプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが世の中に必要とされるのかを考える力と実行できる力が身につく授業としたい。

【到達目標】

キャリアデザイン、コミュニケーションデザインの視点から、文化マーケティングを考察し、近い将来にこの分野で生き、働く上で有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義およびディスカッションを授業にて行なう。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、良いコメントや内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の説明（第 1 回のみオンライン授業）
第 2 回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第 3 回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第 4 回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第 5 回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第 6 回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第 7 回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
第 8 回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 9 回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第 10 回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第 11 回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 12 回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第 13 回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第 14 回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、授業内レポートの実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加 70%、授業内レポートの提出 30%）

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義形式に限らず、実際に記述作業を行いながら双方向性を重視し、文化マーケティング論の習得を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【Outline (in English)】

① 【Course outline】

In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted. In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.

In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

② 【Learning Objectives】

The goals of this course are Learning about culture-oriented marketing thinking and methods.

③ 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

④ 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 30%、in class contribution: 70%

SOC200MA

ブランド創造論

展開科目

石原 篤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や情報が溢れる時代に、人は何を基準に買い物をしたり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。

かつてブランド創造は、対象となるブランドに対する良質なイメージをつくること、表面を装うことだと誤解されていました。例えば、ブランドロゴやビジュアルづくりだけがブランド創造だとされていたのもその現れです。一方で、いま皆さんがブランドに触れる時にどこに目を向けるか。おそらくブランドの態度や行動ではないでしょうか。ブランドの表面だけではなく内面に目が向けられているわけです。このようにブランド創造の形はここ数十年で大きく変化し、現在も進化を続けています。この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。

また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が一人の人間として自分自身のブランドをどのように作り上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- (1) ブランドとは何かを理解し、説明できる。
- (2) ブランド創造のアプローチを理解し、実践する。
- (3) ブランド創造に必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
- (4) 正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。

・前半の授業は、論理と事例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。

・中盤から後半の授業は、リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・エンタメ業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、クリエイター・アーティストとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）

・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第 2 回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性
第 3 回	ブランド創造史	1980 年から 2020 年まで 40 年間にわたる日本のブランディングの変遷

第 4 回	ブランド創造とアートディレクション	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論 （ゲスト）株式会社アンドディ アートディレクター小栗卓巳氏
第 5 回	ブランド創造とコピーライティング	言葉を起点にブランドをつくり出す方法論 （ゲスト）Tang コピーライター／クリエイティブディレクター尾形真理子氏
第 6 回	ブランド創造の新しい潮流①	地球環境・社会環境の変化に伴うサステナブルなブランド創造
第 7 回	ブランド創造の新しい潮流②	WEB3.0 時代におけるリアルとデジタルの境界線のないブランド創造
第 8 回	社会と接続するブランド創造	ブランドづくりにおける PR（パブリックリレーションズ）という方法論 （ゲスト）株式会社 H A S H I クリエイティブディレクター橋田和明
第 9 回	ブランド戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方 「ブランド創造実習」課題発表
第 10 回	商品とブランド創造	わたしが欲しい！を、みんなが欲しい！に昇華させるブランドづくり （ゲスト）株式会社 ISHI プランナー板谷晴子氏
第 11 回	地域とブランド創造	本社移転に伴う地域と共創するブランドづくり （ゲスト）株式会社アミューズ 鈴木智華氏
第 12 回	人とブランド創造	アーティストと出会い、共にどうブランドを創造したか？ （ゲスト）and tokyo inc. 代表 谷崎豊樹氏
第 13 回	ブランド創造実習講評	実習課題で提出された企画書を紹介しながら講評
第 14 回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論 （ゲスト）株式会社電通 ビジネスプロデュース局所属 桑原卓也氏（法政大学経済学部卒業生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。

(2) また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

(3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。

(4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

・これからの「売れるしくみ」のつくり方 石原篤
・手書きの戦略論 「人を動かす」7つのコミュニケーション戦略 磯部光毅

・私とは何か 「個人」から「分人」へ 平野啓一郎

・なめらかなお金がめぐる社会。あるいは、なぜあなたは小さな経済圏で生きるべきなのか、ということ。 家入一真

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実習課題の提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

演習課題にかけられる時間がもう少し欲しかったという意見をいただきましたので、22 年度よりも課題発表を前倒しした授業スケジュールに変更しています。

【Outline (in English)】

■ Course outline

In this age of overflowing goods and information, what do people base their shopping and information choices on? Brands play a big role in moving people's minds and creating behavior.

There used to be a misconception that brand creation was about creating a good image of the target brand, that is, creating a surface. For example, the fact that only brand logos and visuals were considered brand creation is a manifestation of this. On the other hand, where do you pay attention when you look at brands today? Perhaps it is the attitude and behavior of the brand to which you direct your attention? In other words, you are looking inside the brand, not just on the surface. Thus, the nature of brand creation has changed dramatically in recent decades and continues to evolve.

In this course, students will learn what a brand is and how to create a brand, not only from a logical point of view, but also by taking into account the actual situation and realities in the field of brand creation.

In addition to understanding how brands work in corporate marketing and how to create them, this course also aims to help students learn how to build their own brand as a person.

■ Learning Objectives

- (1) To be able to understand and explain what a brand is.
- (2) Understand and practice the brand creation approach.
- (3) Learn how to create a "project proposal," a consensus-building tool needed to create a brand.
- (4) In an age of diversity without a right answer, understand the importance of self-branding and practice it.

■ Learning activities outside of classroom

- (1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
- (2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
- (3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
- (4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."

■ Grading Criteria /Policy

Regular marks: 50%

Submissions for practical training assignments: 50%

SOC200MA

産業文化論

展開科目

上原 義子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関りから生まれてきた観知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。

そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思ってしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見ていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義を興味関心のきっかけとして、より発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】

- 1、文化を通して産業を考える
- 2、産業を通して文化を考える
- 3、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はスライドを示しながら、そのスライドについて解説をしていく形で進めます。適宜リアクションペーパー等を活用し、良いコメントは授業内で紹介するなどします。コロナ対応として変則的な授業が必要な場合が起り合えます。学習支援システムや授業内の連絡を聞くようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第 2 回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第 3 回	日本の産業文化（1）	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第 4 回	日本の産業文化（2）	雇用者と従業員を取り巻く組織文化ーサービス・マーケティングの視点から
第 5 回	日本の産業文化（3）	日本のモノ作り文化と産業
第 6 回	日本の産業文化（4）	日本の伝統産業の成り立ちと現在一藩の殖産から産業集積へ
第 7 回	日本の産業文化（5）	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本的経営
第 8 回	日本の産業文化（6）	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第 9 回	日本の近代産業（1）	日本の経済成長を支えた風土ー流通チャネルの視点から
第 10 回	日本の近代産業（2）	環境問題と文化、産業
第 11 回	日本の近代産業（3）	観光産業と文化
第 12 回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化ー観光立国としての日本を事例に
第 13 回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学ー流通チャネル構造と機会主義ーネットワーク
第 14 回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜紹介する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100 %

Grading will be decided based on reports (100%),

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントが見られる機器

【その他の重要事項】

対面とオンラインのタイミングに関しては、その時の内容や状況で適宜調整します。授業内での告示を聞くようにしてください。

【Outline (in English)】

This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.

Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term 'multi-culture', the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.

① This course introduces culture and industry to students taking this course.

② The goals of this course are to acquire knowledge about culture.

③ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

④ Your overall grade in the class will be decided based on the reports.

CUM200MA

ミュージアム概論

展開科目

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土 5/Sat.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

This course aims to understand “What is a museum?” as a cultural facility and learn its social role and significance.

(Learning Objectives)

The goals of this course is for students to become museum literate.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be do preliminary research on the museums discussed in each class.

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following. Ordinary points (homework submission) (40%), Assignment report (60%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義（種類、目的、機能など）を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	博物館とは何か？ 博物館の定義などについて概説する。
第 2 回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第 3 回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第 4 回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第 5 回	博物館の制度（博物館法と関連法令）	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第 6 回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第 7 回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第 8 回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第 9 回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第 10 回	博物館と地域社会 I	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第 11 回	博物館と地域社会 II	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第 12 回	博物館と災害	博物館学芸員による特別講義 現代の災害のリスク管理について解説する
第 13 回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第 14 回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山 喜昭『博物館学入門』（慶友社、2003）

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』（慶友社、2001）

金山 喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・自治体・地域の連』（同成社、2012）

金山 喜昭『博物館と地方再生ー市民・自治体・企業・地域との連携ー』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題提出）（40 %）

課題レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline (in English)】

Outline)

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

杉長 敬治

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

博物館の根拠法である博物館法が制定された 1951 年、博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。経営環境の変化に伴い、博物館に求められている役割や期待は、大きく変わってきました。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博物館経営に関する基本事項について講義し、受講生には、博物館を視察した成果を踏まえてレポートを提出してもらいます。受講生のリアクションペーパー等でのコメントは、講義内容の理解を深めるために活用します。また、受講生の質問には、授業内又は学習支援システムを活用して回答します。

新型コロナウイルス感染症により授業をオンラインで行うことになった場合には、学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスー博物館経営の基本コンセプトと博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本コンセプト、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の目的・使命がどのように設定されているかについて学習する。また、目的・使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	国立博物館の経営ー現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。

6	公立博物館の経営ー現状と課題	指定管理者制度、地方独立行政法人制度を中心に、公立博物館の現状と課題について学習する。
7	私立博物館の経営ー現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
8	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本コンセプトとマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
9	博物館の広報活動ー現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
10	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力ー現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
11	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理についてー授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめとして、授業と課題を通して受講生が考えたことを共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。受講生は、学習支援システムに掲載した資料や教科書の関連部分、参考書に目を通して講義を受講してください。参考書は、他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでください。受講生は、授業期間中博物館をできるだけ視察し、博物館を見る眼を鍛えてください。

【テキスト（教科書）】

教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭編、同成社、2020年4月22日発行、価格2,700円+税）を使用します。教科書で扱っていない内容は、学習支援システムに資料を掲載します。

【参考書】

①ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、②マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一、稲葉郁子、日本経済新聞社、④文部科学省の社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑤博物館学・美術館学・文化遺産学基礎概念事典、フランソワ・メレス他、東京堂出版、⑥ザ・ミュージアム：世界の知と美の殿堂、O・ホプキンス、河出書房新社、⑦その他（授業内で適宜紹介します。）

【成績評価の方法と基準】

博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。配点は、①授業期間中に提出す課題レポート（授業時に示す課題から受講生が5題を選択して提出）が50%、②学期末（第14回授業時）に提出するレポートが50%です。②のレポートは、i 受講生が博物館を調査（実地調査を含む）し、経営分析を行うもの、ii 教科書と講義内容を踏まえて日本の博物館について考察するものから選択してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関する質問には、授業時又は学習支援システムを使って回答します。受講生が、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する諸連絡は、学習支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず学習支援システムにアクセスしてください。

【その他の重要事項】

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目のひとつです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館の経営に関心のある方の受講も念頭に置きながら、授業を進行していきます。①質問やご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業より興味深いものにする上で重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館現場や生涯学習・文化行政での実務経験を踏まえて、博物館や国の博物館政策・文化政策の状況を伝えていきたいと思えます。

【Outline (in English)】

(Course outline) Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums. The goal of this subject is to acquire the basic management knowledge that museums need to meet the expectations of society.

(Learning Objectives) The aim of this course is to acquire the basic knowledge necessary for museum management.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on term-end report (50%)、short reports(50%).

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土 3/Sat.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の経営の現状とその課題や解決策を学ぶ。

【到達目標】

博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館経営とは何か？	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第 2 回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第 3 回	博物館経営の現状Ⅰ（公立博物館）	公立博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 4 回	博物館経営の現状Ⅱ（民間博物館）	民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第 5 回	指定管理者制度と博物館経営①	NPO 指定管理館の経営・企業指定管理館の経営・財団法人指定管理館の経営をみる。
第 6 回	指定管理者制度と博物館経営②	博物館の経営調査を NPO 指定管理館の経営・企業指定管理館の経営・財団法人指定管理館の経営をみる。
第 7 回	独立行政法人博物館、地方独立行政法人博物館の経営と課題	東京国立博物館・国立科学博物館、地方独立行政法人の経営状態と課題や展望について解説する。
第 8 回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。
第 9 回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第 10 回	博物館と地域コミュニティの連携①	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 11 回	博物館と地域コミュニティの連携②	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第 12 回	博物館評価と博物館経営	博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第 13 回	博物館経営の展望	博物館法改正と今後の博物館の在り方を展望する。
第 14 回	本授業の総括（授業内試験）	本授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金山喜昭 編『転換期の博物館経営』（同成社、2020）

【参考書】

金山喜昭『博物館と地方再生』（同成社、2017）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、レポート課題（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

(Learning Objectives)

The goals of this course is for students to understand the management and administration of museums, and to develop basic and applied skills in museum management.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be do preliminary research on the museums discussed in each class.

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (homework submission) (40%), Assignment report (60%)

SOC200MA

多文化社会論 I

展開科目

小田 昌教

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010 年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

今学期は Zoom を使った「双方向型リアルタイムのオンライン授業」を行います。URL とパスワードは以下のとおりです。

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>

556628

この授業の目的は、次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチュラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

この授業の内容は4つのパートに分かれています。

【A：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇】

最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。

【B：さまざまな視点からみた日本の文化】

このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。

【C：レイシズムの過去と現在】

異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。

【D：「文化相対主義」と「多文化共生」～多文化社会のいまと未来】

多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています（第一学習社「高等学校 倫理」）。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きたること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

授業で使用する教材は「学習支援システム」で配布します。授業では毎回、リアクションペーパーを使用します。授業内での質問は Padlet で行います。

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcup0vhc8jn>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb 事件 (2017 年) ・全日空「羽田国際線大増便CM」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・ユナイテッド航空事件 (2017 年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017 年」
2	A-1：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇1 映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「007は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年)
3	A-2：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇2	海外のTVCMやMVに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ
4	A-3：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇3	プロパガンダアニメとSF映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ボパイ～ばかなジャップ」(1942 年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ～トキオ、ジョキオ」(1943 年) ・NHK「憎しみはこうして激化した～戦争とプロパガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート3」(2008 年) ・ジェームズ・マンゴールド「ウルヴァリン SAMURAI」(2013 年)
5	B-1：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・マシオカ「HEROES」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン ストレンジャーな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニャ文学賞受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「GAMAN」(2011 年)

6	B-2：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003年) ・日本オリンピック委員会「IOC総会プレゼンテーション」(2013年) ・きゃりーぱみゅぱみゅ「にんじやりばんばん」(2013年) ・日清食品「SAMURAI」(2014年) ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017年) 	13	D-2：「HAFU」の視点から見た日本の多文化状況とその未来	<ul style="list-style-type: none"> ・映画「HAFU」(2013年) ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」
7	B-3：インバウンドの視点から見た日本の文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地味「外国人が日本に来て撮ったwktk 動画集」(2008年) ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012年) ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014年) ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013年) 	14	D-3：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒリス&ブル研究所「生命の樹」(2005年) ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年) モ・モンド社「The DNA Journey」(2016年) ・アシユラ・K・ルグイン「ゲド戦記を観て」 ・マックルモア&ライアン・ルイス「セイルラヴ」(2013年) アド・カウシル「Love Has No Labels」(2015年-2017年) アップル社「プライド」(2014年) ・ハイネケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017年)
8	B-4：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010年) ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015年) 	<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業内で指定した PDF や動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ2時間程度です。</p> <p>【テキスト（教科書）】 教科書は使いません。授業ごとに、PDF を配布します。</p> <p>【参考書】 参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。</p> <p>【成績評価の方法と基準】 成績は、学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します(100%)。リアクションペーパーへのフィードバックは、授業内におこないます。テストの方法については授業内で詳しく説明します。 評価の基準は次の5つです。 ①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチュラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング</p> <p>【学生の意見等からの気づき】 授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。</p> <p>【学生が準備すべき機器他】 パソコン、スマートフォン、WIFI ルーター、ネット回線（WEB カメラとマイクは不要です）</p> <p>【その他の重要事項】 この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館や Amazon、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。</p> <p>【授業中に求められる学習活動について】 A、C、D、E、F</p> <p>【Outline (in English)】 The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality". 1.Course outline This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226 556628 2.Learning Objectives The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society. 3.Learning activities outside of classroom</p>		
9	C-1：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム	<ul style="list-style-type: none"> ・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007年) ・マイケル・ブラウン射殺事件(2014年) ・フレディ・グレイ死亡事件(2015年) ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件(2015年) ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言(2015年) 	<p>【その他の重要事項】 この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館や Amazon、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。</p> <p>【授業中に求められる学習活動について】 A、C、D、E、F</p> <p>【Outline (in English)】 The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality". 1.Course outline This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226 556628 2.Learning Objectives The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society. 3.Learning activities outside of classroom</p>		
10	C-2：人種差別の起源とその歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951年) ・山口敏「『人種』は虚構か」 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013年) ・世界人権宣言ポルトガル事務局「世界人権宣言 50 周年記念CM」 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008年) ・映画「アミスタッド」(1997年) ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004年) ・映画「リンカーン」(2012年) ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012年) ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013年) ・映画「グローリー 明日への行進」(2014年) 	<p>【その他の重要事項】 この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館や Amazon、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。</p> <p>【授業中に求められる学習活動について】 A、C、D、E、F</p> <p>【Outline (in English)】 The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality". 1.Course outline This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226 556628 2.Learning Objectives The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society. 3.Learning activities outside of classroom</p>		
11	C-3：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう	<ul style="list-style-type: none"> ・日本テレビ「21世紀への伝言 キング牧師」(2000年) ・PBS制作「分断されたクラス」(1985年) ・ABC制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003年-) ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年) 	<p>【その他の重要事項】 この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館や Amazon、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。</p> <p>【授業中に求められる学習活動について】 A、C、D、E、F</p> <p>【Outline (in English)】 The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality". 1.Course outline This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226 556628 2.Learning Objectives The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society. 3.Learning activities outside of classroom</p>		
12	D-1：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況	<ul style="list-style-type: none"> ・映画「スワロウテイル」(1996年) ・映画「サウダーヂ」(2011年) ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーブじゃないんだ」(2012年) ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013年) ・リンダ三世「愛犬アンソニー」(2013年) ・ボンジュノ「シェイキング東京」(2008年) 	<p>【その他の重要事項】 この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館や Amazon、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。</p> <p>【授業中に求められる学習活動について】 A、C、D、E、F</p> <p>【Outline (in English)】 The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality". 1.Course outline This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226 556628 2.Learning Objectives The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society. 3.Learning activities outside of classroom</p>		

Use the PDF files uploaded to Hoppi as learning materials according to your own interests and concerns.

4.Grading Criteria /Policy

Evaluated by a final exam using an active learning method.The following five points are to be evaluated.

- a.Authentic Learning
- b.Cross-Cultural Learning
- c.Anti-Bias Learning
- d.Media Competency Learning
- e.Evidence-Based Learning

In-class questions will be answered via Padlet.

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcupo0vhc8jn>

*This class will cover current issues, so the content of the class may be subject to change.

SOC200MA

多文化社会論Ⅱ

展開科目

金 泰植

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の日本社会は新たな労働力としての外国籍住人の増加により、多文化社会としての側面をより一層強めている。しかし日本の多文化状況がどのように作られたかに対する省察は少なく、多文化社会に対する排外主義的な動きも起きている。本講義は、戦後日本の最大の「外国人」集団であった在日コリアンを中心としながらもその他のルーツを持つ人たちも射程としながら、日本の多文化社会がどのように作られ、どのような課題を抱えているかについて考える。

【到達目標】

日本の多文化状況がどのように作られたかについて日本と東アジアの近現代史の中で捉え、日本社会の中にある多様なルーツを持つマイノリティたちが直面している問題を知り、日本社会の問題として考え、受講生が全ての人々が尊重される社会の形成のためのアイデアを持つようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンスおよび「帝国の拡張と多文化状況の出現」について
第 2 回	日本の朝鮮植民地統治と在日コリアンの誕生	日本の「外国人」問題の起源とも言える在日コリアンについて
第 3 回	戦後日本の外国人政策について	サンフランシスコ講和条約。包摂と追放の対象としての外国人
第 4 回	日韓条約	在日コリアンの法的地位問題及び、今日のヘイトスピーチの燃料となっている日韓の歴史問題について
第 5 回	在日コリアンの教育	民族学校の誕生と学校閉鎖令、民族学級と朝鮮学校、韓国学校への整備
第 6 回	多文化共生と市民社会	川崎を中心とした市民社会における多文化共生のための取り組みについて
第 7 回	日本の入管制度について	成り立ちと、現在入国管理施設に収容されている外国人たちの人権問題について
第 8 回	日系ブラジル人	渡航、日本での生活、教育について
第 9 回	ホームレスと排除アート	社会的排除について
第 10 回	LGTBQ	日本におけるセクシャルマイノリティをめぐる状況について
第 11 回	韓流と嫌韓流の狭間で	韓国ブームと排外主義が在日コリアンに与えている影響について
第 12 回	ヘイト・スピーチ	外国人に対するヘイト・スピーチと、これを規制するための運動と条例について

第 13 回 技能実習生制度について 外国人技能実習生制度の問題点について

第 14 回 マイクロアグレッションについて マイクロアグレッションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に次の授業の内容について告知するので、事前にそのトピックについて調べて、授業後にリアクションペーパーに授業での気づきや持つに至った質問などを書けるように準備すること。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはない。毎回資料を配布する。

【参考書】

田中宏『在日外国人第三版』（岩波新書）、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』、月刊『イオ』編集部『日本の中の外国人学校』

【成績評価の方法と基準】

期末試験はレポートの作成とし 70%、授業のリアクションペーパー（メールなどで提出）を特に重視した平常点 30% の配分とする。レポートは論理の整合性を重視する。不適切なデータの引用などは厳しく採点する。また独創的な意見や着眼点は高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業においてマイクロアグレッションの概念や排除アートについて関心の高い学生が多かった。在日コリアンの問題とこれら問題をうまく接続させて講義を行えるようにする。

【その他の重要事項】

初回の授業時にアンケートを行い、その結果を元に講義の計画の一部を柔軟に変更することがある。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In today's Japanese society, the aspect of a multicultural society has been further strengthened by the increase in foreign residents as a new workforce. On the other hand, there are also extrinsic movements against foreigners. This lecture will examine how Japanese multicultural situations were created, focusing on Korean residents in Japan. The purpose of this lecture is to consider the issues facing Japanese society.

【到達目標（Learning Objectives）】 Learn how the multicultural situation in Japan was created. And have ideas for forming a society where everyone is respected.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Prepare to write on the reaction paper after the lesson what you noticed in the lesson and the questions that led to you. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】 Year-end report 70%

Class assignments (reaction paper, etc.) 30%

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

拠地 康彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」(multiculturalism) について批判的に検討し、その後に提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をめぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて論議する。

【到達目標】

多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は同時双方向型のオンライン授業（Zoom）となり、授業資料をデータ（PDF）で配信しながら進める。

Zoom の URL とパスワードは、以下のとおりです。

https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/81573922985?pwd=VmpkemtZWVVzNXFvL1lhJVmV0ZlprUT09

ミーティング ID: 815 7392 2985

パスワード: 004025

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業方針の確認と問題提起
第 2 回	欧州移民政策の変遷①	20 世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第 3 回	欧州移民政策の変遷②	20 世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第 4 回	エスニック・リバイバル①	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第 5 回	エスニック・リバイバル②	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第 6 回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第 7 回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第 8 回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第 9 回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第 10 回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。

第 11 回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。
第 12 回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90 年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第 13 回	ポスト多文化主義	多文化主義を批判的に乗り越えるための契機として、間文化主義、ノマディズム、コスモポリタニズム、多自然主義などの思潮を検討する。
第 14 回	まとめ	「要塞化」するホスト社会と「破局」に直面する難民との間にある諸問題について示唆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に 2 時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に 2 時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】

参考：参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（30%）と、学期末に提出する課題レポートの内容で評価する（70%）。

学期末レポートの課題は、提出期限の約 1 カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の 3 つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解に不安を感じる学生がいることから、今年度の授業では学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコン（カメラ付き）
- ・インターネット接続が可能な環境
- ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンに zoom のアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・本授業は Zoom を用いたオンライン形式で行う。
- ・初回の授業は、4 月 11 日（火）3 限（13:10～14:50）となる。
- ・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.

Learning Objectives :

Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies :

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(30%) and term-end report(70%).

The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARSx200MA

アジア社会論 I

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深めることを通じて、文化の根底にある価値観の多様性を学びます。

南アジアは、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカの 8 つの国家群によって構成される地域を指します。南アジアの人口は 15 億人を超過しており、世界人口の 5 分の 1 以上がこの地域で暮らしています。

講義では、南アジア地域がかかえる貧困や紛争などの社会的課題とともに、今後日本との関係が深まっていくことが予想される同地域に住む人びとが置かれている社会的状況について学びます。

講義は、講義形式の授業を通じて南アジア社会経済への理解を深めると同時に、南アジア社会と我々の社会の関連性を自ら考える力を養うことを目的としています。

【到達目標】

1. 南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深める
2. 南アジアにおける貧困や紛争などの社会的課題を構造的に理解する
3. 南アジア社会と日本社会の関わりを自らの言葉で具体的に論じられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 月 10 日：南アジア社会の学び方	異文化理解とは何か：異なる社会の学び方
第 2 回	4 月 17 日：世界の中の南アジア	日本と世界と南アジア
第 3 回	4 月 24 日：南アジアの社会構造	宗教・民族の視点から
第 4 回	5 月 8 日：南アジアの経済事情	インド・バングラデシュの経済状況
第 5 回	5 月 15 日：南アジアの政治構造	インド・バングラデシュの選挙制度
第 6 回	5 月 22 日：映像から考える南アジア①宗教	映像にみる南アジアの宗教
第 7 回	5 月 29 日：映像から考える南アジア②貧困・紛争	映像にみる南アジアの貧困・紛争
第 8 回	6 月 5 日：南アジアの紛争課題	バングラデシュの民族紛争から考える平和構築
第 9 回	6 月 12 日：グローバリゼーションのなかの南アジア	船舶解体産業を事例に
第 10 回	6 月 19 日：南アジア社会各論①歴史と文化	バングラデシュの歴史と文化
第 11 回	6 月 26 日：南アジア社会各論②経済発展	バングラデシュの経済発展
第 12 回	7 月 3 日：南アジア社会各論③貧困	南アジアの農村事例から考える貧困
第 13 回	7 月 10 日：南アジアと開発援助	南アジア社会とわたしたちのつながり
第 14 回	7 月 17 日：まとめとレポート解説	まとめとレポート解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
 2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
 3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
 4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

①大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための 66 章』（明石書店、2017 年）

【参考書】

①石坂晋哉・宇根義巳・舟橋健太編『ようこそ南アジア世界へ（シリーズ地域研究のすすめ）』（昭和堂、2020 年）

②白田雅之・佐藤宏・谷口晋吉（編）『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂、1993 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／ Reaction paper/in-class assignments (56 %)
 レポート課題／ Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The course aims to deepen students' comprehensive understanding of the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia. On this basis, students will learn about social situations faced by people in South Asia, mainly social challenges such as poverty, conflicts, and environmental issues.

Learning Objectives

1. To be able to understand basic words relating to the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.
2. To understand the modern history of South Asia.
3. To be able to discuss social issues in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56 %)
 Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

ARSx200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アジアの国々の事例を通じて、日本も含めたアジアの貧困問題や災害被害、紛争問題に関する理解を深めます。同時に、それぞれの問題に対して、どのような対策がとられているのかについても学びます。本年度は特に災害としての新型コロナウイルスがアジアの国々の社会問題にあたえた影響についても議論を深めます。

【到達目標】

1. 南アジアの国々における社会的課題を具体的に論じられるようになる
2. アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかかわるべきかを考えられるようになる
3. 南アジアの社会、文化に対する理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	南アジア地域の特徴と学び方
9/25		
第 2 回	南アジアの地域概要	政治と経済（インド・バングラデシュを中心に）
10/2		
第 3 回	南アジアと新型コロナウイルス：インドを中心に	インドの新型コロナウイルス対応
10/9		
第 4 回	南アジアと新型コロナウイルス：バングラデシュを中心に	バングラデシュの新型コロナウイルス対応
10/16		
第 5 回	南アジアの貧困とその背景	貧困課題と児童労働
10/23		
第 6 回	南アジアの貧困とその対策	女子児童労働の課題
10/30		
第 7 回	南アジアの貧困と世界の貧困	南アジアと世界の児童労働
11/6		
第 8 回	南アジアの災害とその背景	サイクロン災害を事例に
11/13		
第 9 回	南アジアの災害とその対策	バングラデシュにおけるサイクロン対策を事例に
11/20		
第 10 回	南アジアの紛争とその背景	チッタゴン丘陵問題を事例に
11/27		
第 11 回	南アジアの難民問題とその背景	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民問題がおきる背景を学びます。
12/4		
第 12 回	南アジアの難民問題への対応	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民対応の現状と課題を学びます。
12/11		
第 13 回	南アジアの難民問題のこれから	ロヒンギャ難民問題を事例に、今後われわれがアジアの難民問題とどう向き合っていくべきか、議論を深めます。
12/18		
第 14 回	南アジアの社会問題のまとめとレポート解説	アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかかわるべきかを考える。
1/15		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
 2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
 3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
 4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

- ①日下部尚徳『わたし 8 歳、職業、家事使用人。－世界の児童労働者 1 億 5200 万人の 1 人』（合同出版、2018 年）
- ②日下部尚徳・石川和雅『ロヒンギャ問題とは何か－難民になれない難民』（明石書店、2019 年）

【参考書】

- ①粟屋利江・井上貴子編『インドジェンダー研究ハンドブック』（東京外国語大学出版会、2018）

②大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための 66 章』（明石書店、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／Reaction paper/in-class assignments (56 %)
 レポート／Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of issues affecting the world, including Japan, such as poverty, disaster damage, and conflict through the cases of those in South Asia. It also looks at what kinds of countermeasures are taken to tackle each problem.

Learning Objectives

1 To be able to concretely discuss social issues of so-called developing countries in South Asia.

2 To be able to consider how to get involved with social issues of so-called developing countries in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.

2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.

3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56 %)

Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

ARSx200MA

国際関係論 I

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際関係を理解する為に必要となる理論的枠組みについて概説し、どのような問題が現在進行中なのかに関して、データを交えて解説する。合わせて国際関係が私達に与える影響について、心理学の観点から解説する。

【到達目標】

現代の国際情勢を学術的に考えるための視点、知識、スキルの獲得を目指す。更にはそれらを用いる事で現代社会での国際問題に対して学生自身で考え、心理学的視点を応用してそれらに対する問題解決について議論出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題は Hoppii を利用してを提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	授業全体の概略を説明し、国際関係論の基本的な考え方について解説する。
第 2 回	20 世紀の国際関係と今日の国際関係	20 世紀から現在に至る歴史に焦点を当て、国際関係の変化について解説する。
第 3 回	グローバリゼーション	グローバリゼーションについての理論的分析を解説する。
第 4 回	安全保障	国際社会における安全保障とは何か、地域、伝統的問題と関連づけて解説する。
第 5 回	国際関係の理論	国際関係に関する代表的な理論について解説する。
第 6 回	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論	国際レジーム論とは何か、グローバル・ガバナンスの問題点は何かについて、平和実現の問題と関連づけて解説する。
第 7 回	リージョナリズムと EU	リージョナリズム、特に EU の特徴について解説する。
第 8 回	非国家アクターの台頭	国際関係における非国家アクターの影響について解説する。
第 9 回	紛争解決	現代の国際紛争解決について、理論と実践の点から解説する。
第 10 回	国際関係と集団間関係の心理	国際関係の内、特に集団間関係に対する人々の反応について心理学の観点から解説する。
第 11 回	国際関係と集団内関係の心理	国際関係が人々の所属する集団内部に対して与える影響について、心理学の観点から解説する。
第 12 回	国際関係における第三者の影響	国際関係における第三者の影響について、心理学の観点から解説する。
第 13 回	国際関係と個人の心理	国際関係に対する人々の反応について、個人内での心理的反応に焦点を当てて解説する。
第 14 回	まとめと総括	授業全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問、期末の試験の成績に基づき成績評価を行う。具体的には課題+質問で 40 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）60 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生からのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は PC が必要となるので、利用可能環境を整えておくように。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、google classroom を利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内や Hoppii 等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning international relationship, from political and social psychological perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods by using the statistical data.

Goals of this course are understanding and acquiring perspective knowledge and skills concerning international relationship, and thinking how to use those knowledge for problem solution.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60%

ARSx200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

塩田 潤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー/フェミニズムの視座から国際関係・国際政治を学ぶ。授業前半では、国際関係論におけるジェンダー分析について説明し、それをふまえて安全保障、戦争と性暴力、グローバリゼーション、移民、環境問題などの具体的なイシューについて検討する。

【到達目標】

・国際関係論におけるフェミニスト・アプローチの基礎を理解する。
・国際政治および国際社会の動向をフェミニズムの視座から捉える。
・ジェンダーの視点をふまえて、より公正なグローバル社会を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・受講者には毎回の授業後、hoppii を通してコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにおいて出された質問等へのフィードバックは次回授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明
第 2 回	ジェンダー/フェミニズム	ジェンダー概念およびフェミニズムとはなにか
第 3 回	フェミニズム理論と国際関係論	ジェンダーから見た国際関係論
第 4 回	「安全保障」とは何か	「国家安全保障」から「人間の安全保障」へ
第 5 回	「安全保障」を問い直す	批判的安全保障論とケアの倫理
第 6 回	戦争システムと家長長制	軍事主義、軍事化とジェンダー
第 7 回	軍隊と女性	女性の軍事化、軍隊内の女性
第 8 回	戦争と性暴力	戦時性暴力、「暴力連続体」
第 9 回	難民問題	ジェンダーから見る難民・強制移動
第 10 回	グローバリゼーションとジェンダー	グローバリゼーション、新国際分業
第 11 回	ケア労働の越境化	ケア労働と女性移民
第 12 回	環境問題とフェミニズム	気候危機に抗するエコフェミニズム
第 13 回	「ジェンダー平等」の国々の実像	北欧諸国におけるジェンダー平等の歴史と実態
第 14 回	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
準備学習：日頃から新聞の国際面などを通して、国際政治や国際社会の動きに関心を払っておいてください。海外メディアのチェックなども役立ちます。
復習：授業内でわからなかった用語を自身で調べたり、授業中に紹介する文献に目を通したりするとより理解が深まります。
宿題など：適宜、指示を出します。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

【参考書】

・大澤真理編『公正なグローバル・コミュニティを』岩波書店、2011 年。
・岡野八代『戦争に抗する—ケアの倫理と平和の構想』岩波書店、2015 年。
・J. アン・ティックナー『国際関係論とジェンダー』進藤久美子・進藤榮一訳、岩波書店、2005 年。
・シンシア・エンロー『策略』上野千鶴子監訳、岩波書店、2006 年。
・土佐弘之『グローバル/ジェンダー・ポリティクス—国際関係論とフェミニズム』世界思想社、2000 年。
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

30 %・・・毎回のコメント・ペーパー
70 %・・・学期末試験

※学期末試験について、新型コロナウイルスの感染状況によってはレポートやオンライン形式の試験に変更する可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

・スライドの見やすさ、レジュメの情報など、情報保障をより向上させる。
・本年度は完全対面の予定なので、それに対応したアクティブラーニングの手法を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布やコメント・ペーパーの提出は基本的に hoppii 通して行う予定です。したがって、受講者には授業にノート PC、ipad、スマホなどの電子機器を持ち込むことを推奨します。

【その他の重要事項】

・質問などに関しては、授業の前後、コメントペーパーまたはメールで対応します。初回の授業時に連絡先を伝えます。
・シラバスで記載している授業計画は時間の都合などで若干変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces feminist works in International Relations (IR) and explores global issues with gender perspective. After a review of integration of gender analysis into IR theory, this course examines specific current global topics including (national) security, war and sexual violence, globalization, migration, and environmental issues etc.

【Learning Objectives】

・ Understand the basics of feminist approach to IR
・ Acquire feminist perspective on international politics and social trends
・ Develop ability to think about more just global society with gender perspective

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation - Students are encouraged to keep abreast of international politics and society through the international pages of domestic newspaper. It is also useful to check the international media.

Review - Students are encouraged to look up terms they didn't understand in class and to refer to the literature introduced in class to deepen their understanding.

Others - Instructions will be given as appropriate.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

30% - Short reports for each session

70% - Final examination

※ In this class, the examination may be changed to an online format depending on the situation of the Covid-19 pandemic.

ARSx200MA

国際地域研究 I

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちがつながりがある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】

授業を通じて「地域」「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえて理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回があります。受講者数が未定のため、第 2 回まではオンラインで授業を行います。

第 3 回以降は、基本的には対面で授業を行います。ただし、授業 2 回分をあてている地域・国（第 4 回・第 5 回のイングランド社会・文化、第 7 回・第 8 回スコットランド社会・文化、第 10 回・第 11 回のアイルランド社会・文化）については、②はオンライン（オンデマンド）での授業となります。授業が 1 回分のみの地域（ウェールズと北アイルランド）は対面になります。

また、まとめの回についても対面です。具体的には、以下の授業計画の各回の授業形態を参照してください。

対面授業の際には、映像などを用いて、より具体的にイメージできるように進めます。

毎回授業後にはリアクションペーパー等の提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや重要な質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、学習支援システムで連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第 2 回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第 3 回	イギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにイギリス（UK）の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第 4 回	イングランド社会・文化①	イギリス（UK）内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第 5 回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第 6 回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景に言及しつつ考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。

第 7 回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第 8 回	スコットランド社会・文化②	近年の独立機運の高まりや EU との関係性について考える。
第 9 回	イギリスのまとめ	地域という観点から、イギリス社会が抱える課題について考える。
第 10 回	アイルランド社会・文化①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。イギリスとの関係、文化とナショナリズムの関係について解説する。
第 11 回	アイルランド社会・文化②	アイルランドとアメリカとの関係について、歴史的なつながり、現在の関係について考える。
第 12 回	アイルランドの二つの国	北アイルランドの成立期である 1920 年代のアイルランドの独立と南北分断から、第二次世界大戦までの歴史・社会状況を説明する。なぜ、現在アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第 13 回	アイルランドのまとめ	イギリス、EU との関係から、考える。
第 14 回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、2 回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。

課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017 年 岩波新書。

井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010 年、昭和堂。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ミニレポート・リアクションペーパーの内容、期限を守った提出等）：50%

期末試験（論述式）：50%

* 欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

* 受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

* 初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修を検討している人は必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to reconsider the concepts of “region”(or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. The course will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). At the end of the course, students are expected to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

Grading criteria: 1) Term-end examination 50%, 2) Short reports and in class contribution 50%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ARSx200MA

国際地域研究 II

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげる。〈異文化と異なる〉国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する（北アイルランドの事例以外の地域の例も言及する予定である）。

【到達目標】

現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回があります（以下の授業計画の各回の授業形態を参照してください）。

受講者数が未定のため、第 2 回まではオンラインで授業を行います。第 3 回目からは対面で授業実施予定です（第 7 回はオンラインの予定）。

授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。ただし、授業内でグループワークをすることがあります。また、毎回リアクションペーパーの提出をしてもらう予定です。リアクションペーパーにおける良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、学習支援システムで連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。
第 2 回	北アイルランドの成り立ちと歴史	エスニック集団関係について考える（アイルランド島にある二つの国の歴史背景を理解する）。
第 3 回	〈異なる〉住民集団間関係と紛争	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第 4 回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第 5 回	和平合意と集会的アイデンティティ	どのような仕組みで和平が可能になったのか。国籍と帰属意識について考える。
第 6 回	レビュー	前半のまとめを行う。
第 7 回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係について、具体的な例をもとに考える。
第 8 回	階級・文化・紛争経験の関係	どんな人が紛争の影響をより強く受けるのか考える。
第 9 回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	「当事者」は何を考えているのだろうか。「壁画」というコミュニティメディアから考える。
第 10 回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第 11 回	学校教育と〈歴史〉	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題について学ぶ。
第 12 回	観光と紛争後社会	和平合意後に急速に進んだ観光から、観光地のイメージの形成を考える。また「戦争や災害などの悲劇の記憶を辿る旅」の意味についても検討する。

第 13 回 北アイルランドと EU、イギリスの EU 離脱において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後には毎回リアクションペーパーの提出をする。また、ミニレポートの提出がある場合は、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

・尹 慧瑛 『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』 2007 年 法政大学出版局。

・福井令恵、『紛争の記憶と生きる：北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015 年、青弓社。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、リアクションペーパーの内容）およびミニレポート等課題：40%

期末試験（論述式）：60%

*なお、原則として欠席数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日確認すること。

*本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、春学期の授業内容と関連する点があるため、国際地域研究 I を受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years of conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), the momentous peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. At the end of the course, students will be able to explain their thoughts on what is important for understanding others and building better relationships. Grading criteria: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in class contribution 40%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA

職業能力ベーシックスキル I 展開科目
【2021 年度以前入学者用】

島村 泰子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022 年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）
 2021 年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくよき基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
 基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
 学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

【到達目標】

本授業の目標です。
 ①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
 ②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
 ③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
 初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
 フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。
 全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
 実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、授業概要と受講上の注意、受講動機の確認
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築ききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回～第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。

第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作と T P O に合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
 ②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
 授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
 注）資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を準備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022 年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021 年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】

Basic career skills I

【Course outline】

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

【Learning Objectives】

The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice (one-credit)

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ 展開科目
【2022年度以降入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

【到達目標】

本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第2回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第3回	意思を伝える話し方	話す目的は？相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第4回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築ききかたを学ぶ。
第5回	スピーチ実習	第2回～第4回の成果として1分間スピーチの実施。
第6回	情報伝達	報・連・相とは？指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第7回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。

第8回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とTPOに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第9回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第10回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第11回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第12回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第11回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第13回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第12回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第14回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を準備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

【Outline (in English)】

Basic career skills I

【Course outline】

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

【Learning Objectives】

The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice (one-credit)

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅡ 展開科目
【2021年度以前入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）

2021年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。

【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。2年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を広げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第13回の模擬面接を臨場感をもって体験できます。

学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。

実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておく とよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの 流れを理解する。
第2回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報 収集方法 各業界の内容と求められる 職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ 方を理解する。文系・理系に関わらず の活躍する職場や、多様な採用経路と その後のキャリア形成についても理解 する。
第3回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」 の検討	第2回の講義から、希望する業界を決 めてグループに分かれる。研究する業 界・企業の絞込みと計画を立てる。業 界の企業間競争、人員構成や雇用区分 について検討する。

第4回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を広げて考えてみる。
第5回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第3回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第6回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第7回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話を通して業界を理解する。
第8回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を広げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	【自己理解】 キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第10回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第11回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第9回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面接の準備を行う。完成と履歴書作成
第12回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第13回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第14回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化、模擬面接の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度とレポート40%、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接40%、最後の確認試験20%を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自PCの持参、またはキャリアセンターを利用してください。

グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom等を活用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

2021年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意してください（秋学期になってからの申込みはできません）。

【Outline (in English)】

Basic career skills II

【Course outline】

The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

[Learning Objectives]

The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

Experiment/Practice (one-credit)

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40%、Term-end examination: 20%

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅡ 展開科目
【2022年度以降入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）
2021年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。

【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。2年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙います。

【到達目標】

本授業の目標です。

- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
- ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
- ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
- ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
- ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。

【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。

【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。

上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第13回の模擬面接を臨場感をもって体験できます。

学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。

フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。

実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくべきスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第2回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらず活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第3回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第2回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。

第4回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第5回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第3回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第6回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第7回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話を通して業界を理解する。
第8回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	【自己理解】 キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第10回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第11回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第9回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面接の準備を行う。
第12回	志望動機作成 エントリーシート作成	「履歴書・自己紹介書」を作成する。志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。
第13回	模擬面接	業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第14回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化、模擬面接の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度とレポート40%、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接40%、最後の確認試験20%を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自PCの持参、またはキャリアセンターを利用してください。

グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom等を活用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

2021年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

【Outline (in English)】

Basic career skills II

【Course outline】

The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

[Learning Objectives]

The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

Experiment/Practice (one-credit)

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40%、Term-end examination: 20%

EDU200MA

演習（発達・教育）

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマについてデータや先行研究を調べる力を身につけます。レジュメの切り方、プレゼンの仕方を身につけます。ディスカッションの基本、司会進行の仕方を身につけます。自分の身近な出来事やその分析を文章で表現する力を身につけます。

【到達目標】

興味関心のあるテーマについて自分なりに調べ、適切なレジュメの作成、プレゼン、文章化ができる。授業内で質の高いディスカッションができる。教育課題に主体的に取り組み積極的に社会に参画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業です。毎週の事前課題レポートをメールで提出してもらい、それに対してはコメントを入れて返却します。授業内でのディスカッションに対して、最後に教員からのフィードバックを行います。全 14 回授業の後、最終レポートを提出してもらい、これに対してフィードバックをコメントにて入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミとは何か 本ゼミの進め方 担当者決め。
2	ゼミにおけるレジュメ作成の力	レジュメを作成するとはどういうことかを考えます。
3	レジュメの作成（実践編）	課題図書について自分なりのレジュメを作成します。それについての講評を行い、よりよいレジュメ作りの方法を学びます。
4	プレゼンの仕方	プレゼンの大事なポイント、問題提起で欠かせないポイントを考えます。
5	発表①	担当学生によるテーマ発表とディスカッション①。
6	発表②	担当学生によるテーマ発表とディスカッション②。
7	発表③	担当学生によるテーマ発表とディスカッション③。
8	発表④	担当学生によるテーマ発表とディスカッション④。
9	発表⑤	担当学生によるテーマ発表とディスカッション⑤。
10	事例の記述	事例を記述するとはどういうことかを学びます。
11	事例の記述（実践）①	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
12	事例の修正（実践）②	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。指摘を踏まえて修正します。
13	事例のまとめ（実践）③	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。最終的な事例を書きあげます。
14	ゼミの総括・先輩の卒業論文講読	自分たちの発表や事例の書き方を確認し、先輩の書いた卒業論文を講読し最終的な目標を見定めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読、事例の記述、プレゼンの準備など本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業でのプレゼンテーション 30 点 ディスカッション 30 点 その他授業活動への貢献 40 点

【学生の意見等からの気づき】

特に指摘はありませんでした。受講生が主体的に参加できる演習を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際して投影機器を使う場合には事前に準備しておくこと。パソコンを用意してください。

【Outline (in English)】

Course outline : In this class you are required to know the academic approach way to educational problems through reading academic books; to learn about qualitative research methods and to describe the educational site; to train to write an episode as a case.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A; to understand academic education and research.

B; to acquire a sense of responsibility for social participation and the ability to carry out projects.

C: Set and explore your own research theme.

Learning activities outside of classroom:

You need to read literature, writing resumes, writing papers, etc.

You need to implement projects to solve problems in educational settings.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on in class contribution: 100%

EDU200MA

演習（発達・教育）

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術図書の講読をとおして教育問題への学術的なアプローチに触れます。質的研究の方法について学び、教育現場についての記述ができるように目指します。教育現場における課題発見と解決に主体的に取り組みその経験を整理します。

【到達目標】

学術的な教育研究を理解できる。
社会参画の責任感と企画の遂行能力を身に着ける。
自身の研究テーマを設定し探求する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業です。
プロジェクトの時間と文献講読の時間とを設けます。
文献講読では小グループでのディスカッションの実施の後全体での議論をします。
プロジェクトに関しては授業時間外も含め活動します。校外学習を多く実施します。
毎週の事前課題レポートをメールで提出してもらい、それに対してはコメントを入れて返却します。授業内でのディスカッションに対して、最後に教員からのフィードバックを行います。全 14 回授業の後、最終レポートを提出してもらい、これに対してフィードバックをコメントにて入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 読書報告	ゼミの予定、方針を決めます。 春休みに各自がした読書についての報告をしてもらいます。
2	プロジェクト策定	これから実施していくプロジェクトを決めます。
3	文献講読① 1 冊目第 1 章	共通の文献の 1 冊目第 1 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
4	文献講読② 1 冊目第 2 章	共通の文献の 1 冊目第 2 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
5	文献講読③ 1 冊目第 3 章	共通の文献の 1 冊目第 3 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
6	文献講読④ 1 冊目第 4 章	共通の文献 1 冊目第 4 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
7	文献講読⑤	共通の文献の 1 冊目第 5 章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
8	プロジェクトの報告	プロジェクトの状況を確認し後半の計画を立てます
9	論文執筆の方法	質的研究の方法を学びます。
10	論文の書き方	事例に基づく論文を執筆します。
11	文献講読⑥ 2 冊目第 1 章	共通の文献の 2 冊目第一章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
12	文献講読⑦ 2 冊目第 3 章	共通の文献 2 冊目第二章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
13	文献講読⑧ 2 冊目第 4 章	共通の文献 2 冊目第三章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
14	文献講読⑨ 2 冊目第 5 章	共通の文献 2 冊目第四章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の講読 レジュメの作成 論文執筆等をおこないます。
教育現場の課題解決に向けてプロジェクトを実施します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で決定します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（毎回のレポート、授業での貢献度）

【学生の意見等からの気づき】

引き続き同じ形式を踏襲しますが状況を見て適宜判断します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

無断欠席は認められません。

【Outline (in English)】

Course outline : In this class you are required to know the academic approach way to educational problems through reading academic books; to learn about qualitative research methods and to describe the educational site; to train to write an episode as a case.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A; to understand academic education and research.

B; to acquire a sense of responsibility for social participation and the ability to carry out projects.

C: Set and explore your own research theme.

Learning activities outside of classroom:

You need to read literature, writing resumes, writing papers, etc.

You need to implement projects to solve problems in educational settings.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on in class contribution: 100%

EDU200MA

演習（発達・教育）

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロジェクトに関してゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたて、調査を進めます。

【到達目標】

ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。
興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。
学術論文を読む力を身につけます。
卒論の構想をたてます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ディスカッション形式で行います。
先行研究と学術論文の講読は輪番制です。
事前に提出されたレポートはコメントを入れてメールにてそれぞれにゼミの前に返却いたします。また slack 等を通じて全体で共有できるようにいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の計画をたてます。
2	調査結果の分析	調査で得られたデータをデータ化する作業、すなわち事例を記述する力を身につけます。
3	結果の報告	事例について記述の仕方、考察等を検討します。
4	事例と考察の修正	検討内容に基づいて事例や考察を修正します。報告集を作ります。
5	図書館の使い方（確認）	図書館の利用について指導を受けます。
6	学術論文の講読①	第一担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
7	学術論文の講読②	第二担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
8	学術論文の講読③	第三担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
9	学術論文の講読④	第四担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
10	学術論文の講読⑤	第五担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
11	卒業論文執筆に向けて① テーマの設定	卒業論文の執筆に向けてテーマを絞ります。
12	卒業論文執筆に向けて② 事例の確認	卒業論文の執筆に向けて事例を読み合い確認します。
13	卒業論文執筆に向けて③ 章の組み方	論文の基本構成を学びます。
14	懸賞論文構想発表	来年度の懸賞論文の構想を発表し検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事例の記述や論文講読、レジュメ作成などをおこないます。毎週レポートとして事前に提出してもらいます。
講読論文の読解など本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回のレポート、授業への貢献度）100 %

【学生の意見等からの気づき】

特に改善点は指摘されていません。計画を引き継ぎますが受講生の要望を取り入れて臨機応変に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを用意してください。

【Outline (in English)】

TCourse outline : This course aims to help students gain the ability to describe, analyze and discuss the results of the survey at the seminar; to identify the prior research on the subjects of interest; to acquire the ability to read academic paper; to make the plan of the graduation thesis and proceed with the investigation.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

A: you will, analyze, consider and write the results of their research in seminars.

B: you will identify previous research on a topic that interests you.

C: You will get the ability to read academic papers.

D: You will make the plan of your thesis.

Learning activities outside of classroom:

You need to read literature, writing resumes, writing papers, etc.

You need to implement projects to solve problems in educational settings.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on in class contribution: 100%

EDU200MA

演習（発達・教育）

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

Students are able to conduct research on themes of multicultural issues and make the presentation effectively.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare presentations.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関わる基本的な概念や事象を検討することを通して、多文化共生のあり方を追究したい。

【到達目標】

・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などの基本的な知識を得ることができる。
・担当する課題や興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的な発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。課題についてはいくつかの記述を取り上げ、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の進め方、自己紹介
2 回	多文化マップ(1)調査	散策とマップ作成
3 回	多文化マップ(2)発表	マップ作成と発表
4 回	多文化共生のバースペクティブ	発表と討議
5 回	文化とは	発表と討議
6 回	外国人と日本人	発表と討議
7 回	研究レポートに向けた中間報告	発表と討議
8 回	図書館の使い方	説明 図書館の検索
9 回	現実をつくられる	発表と討議
10 回	つながる世界	発表と討議
11 回	環境問題を考える	発表と討議
12 回	南北問題を考える	発表と討議
13 回	研究レポートの発表(1)多文化	プレゼンと質疑
14 回	研究レポートの発表(2)共生	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書や関連文献などを読んでくる。担当テーマについてのプレゼンをする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松尾知明『多文化共生をデザインする』明石書店、2013 年。

【参考書】

松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』明石書店、2020 年。その他、授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（30%）、研究レポートとプレゼン（40%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

討論のやり方を工夫する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on various issues related to a multicultural society, basic concepts and phenomena related to multicultural education are examined to explore ways of multicultural symbiosis.

【到達目標 / Goal】

Students are able to acquire basic knowledge of concepts, trends and issues related to multicultural symbiosis and education.

EDU200MA

演習（発達・教育）

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探究の対象としつつ、その実践のおよび専門的理解を深める。
- ② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探究・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②個人またはグループによる研究発表と討論、等である。

学生の発表等に対するフィードバックはその場で、提出された課題等へのフィードバックは、次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し、各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	ゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し、共有化をはかる。ゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
14	まとめ	学習全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

個人研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

- 児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
 児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
 児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
 その他、授業時に、随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline (in English)】

This course is a seminar on youth and career development.

The goal of this course is to complete and present personal research.

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting.

Final grade will be calculated according to in-class contribution.

EDU200MA

演習（発達・教育）

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探究の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
- ② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探究・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②ワークショップ形式等でのテーマ討論、③個人またはグループによる研究発表と討論、④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施、等である。

授業時以外での課外活動として、夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究会等への参加、若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。

秋学期授業と併せて履修することを原則とする。年度末には、「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。

学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは、授業時および次回の授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し、各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	春学期のゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し、共有化をはかる。春学期のゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。

14 春学期のまとめ

春学期の学習全体について振り返りを行い、ディスカッションを通じて、夏合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

個人研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

- 児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
- 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
- 児美川孝一郎『「親活」の非ススム』（徳間書店）
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
- 児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
- その他、授業時に、随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点で行う。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline (in English)】

This course is a seminar on youth and career development.

The goal of this course is to complete and present personal research.

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting.

Final grade will be calculated according to in-class contribution.

EDU200MA

演習（発達・教育）

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者のキャリア形成とその支援

【到達目標】

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探究の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
- ② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探究・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②ワークショップ形式等でのテーマ討論、③個人またはグループによる研究発表と討論、④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施、等である。

授業時以外での課外活動として、夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究会等への参加、若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。

春学期授業から引き続き履修することを原則とする。年度末には、「ゼミ紀要（学生による研究論文集）」を発行する。

学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは、授業時および次回授業の最初に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	共同研究のテーマ設定	春学期における個人研究発表の内容も踏まえ、秋学期の共同研究のテーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	秋学期のゼミ運営計画の策定	共同研究を進めるためのグループ分けを行い、秋学期のゼミの運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	グループ研究発表①	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	グループ研究発表②	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	グループ研究発表③	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	グループ研究発表④	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	グループ研究発表⑤	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	グループ研究発表⑥	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	グループ研究発表⑦	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	グループ研究発表⑧	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。

14 秋学期のまとめ

秋学期の学習全体について振り返りを行い、ディスカッションを通じて、冬合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読しておく。発表の担当グループは、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

グループ研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分の属するグループ以外のグループ発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

- 児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』（明石書店）
- 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』（日本図書センター）
- 児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』（徳間書店）
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書）
- 児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書）
- その他、授業時に、随時紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点で行う。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

【Outline (in English)】

This course is a seminar on youth and career development. The goal of this course is to complete and present joint research. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Final grade will be calculated according to in-class contribution.

EDU200MA

演習（発達・教育）

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル市民とメディアリテラシーの実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESD や SDGs の理論を学び、学校や地域での ESD および実践的なメディアリテラシー能力を身につける。

【到達目標】

- 多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
- メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
- 文化探究・協働を実行するための基礎能力を身につける。
- ESD や SDGs の実践知を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 課題等の提出・フィードバックは「Classroom」を通じて行う。
- 授業の初めに、前回の授業で提出された Classroom のコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
- 最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定 (Zoom によるオンライン授業)
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	新たな教育の潮流	SDGs のための教育
4	ビデオレターの理論	メディアリテラシーとしての国際交流の方法
5	ビデオレターの実践	福島県内の小学校におけるビデオレター教育実践
6	映画教育の理論	シネリテラシーの考え方を学ぶ
7	映画教育の実践	福島県内の中学校における映像教育実践
8	リテラシー概念と SDGs	リテラシー概念の歴史的展開
9	映像制作支援活動の概要	小中高校等の授業支援と映像制作の実践学習の概要
10	映像制作支援活動の実際	小中高校等の授業支援と映像制作の実際の実際
11	映像制作支援活動の展開	小中高校等の授業支援と映像制作の実際の実際
12	被災地取材の概要	被災地取材に関する基礎知識の解説
13	被災地取材の計画	被災地取材の計画立案
14	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。夏合宿は福島で取材活動を行う。なお、秋学期（演習）に予定されている海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』（2022 年）

寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %

授業評価基準（ルーブリック）

●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

●受講態度（4 段階）

- 1 8割以上ゼミに出席している。
- 2 ゼミでの討論に参加し、発言する。

3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。

4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。

●映像制作態度（4 段階）

1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。

2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。

3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。

4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

●映像制作技術（4 段階）

1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。

2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。

3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて 5 分程度の映像編集ができる。

4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

●ファシリテーション（4 段階）

1 小中高校の授業支援に参加する。

2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。

3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。

4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

●異文化対話（4 段階）

1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。

2 異文化に対するステレオタイプなものの方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。

3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。

4 異文化を越えた協働（コラボレーション）を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】

自主夜間中学校や福島宮城の被災地、ユネスコアジア文化センターとの ESD 研修動画の共同制作など、多様な活動を行うことができた。

【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ（DavinciResolve）をインストールしておくこと。 <https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。（絶対条件ではない。）

「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期）、「卒業論文」（4 年）「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline (in English)】

Students will learn practical digital citizenship and media literacy concepts.

Students will develop skills in producing short documentaries, learn Education for Sustainable Development (ESD) and SDGs theory, and develop ESD and practical media literacy skills in their schools and communities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works(50%) and reflection reports(50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル市民とメディアリテラシーの実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESD や SDGs の理論を学び、学校や地域での ESD および実践的なメディアリテラシー支援能力を身につける。

【到達目標】

・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
・メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。
・ESD や SDGs の実践知を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・課題等の提出・フィードバックは「Classroom」を通じて行う。
・授業の初めに、前回の授業で提出された Classroom のコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	新たな教育の潮流	SDGs の教育学の基礎理論の学習（地域）
4	ビデオレターの理論	SDGs の教育学の基礎理論の学習（異文化交流の基礎理論）
5	ビデオレターの実践	SDGs の教育学の基礎理論の学習（異文化交流の実践）
6	映画教育の理論	SDGs の教育学の基礎理論の学習（シネリテラシーの理論）
7	映画教育の実践	SDGs の教育学の基礎理論の学習（シネリテラシーの実践）
8	リテラシー概念と SDGs	SDGs の教育学の基礎理論の学習（リテラシー概念の歴史的展開）
9	外国語教育と SDGs	SDGs の教育学の基礎理論の学習（外国語教育の理論）
10	ユネスコの活動と SDGs	SDGs の教育学の基礎理論の学習（ユネスコの教育理論）
11	映像制作支援活動の基本	小中高校等の授業支援と映像制作の基本的理論
12	被災地取材の概要	被災地取材に関する基礎知識の解説
13	被災地取材の計画	被災地取材の計画立案
14	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。夏合宿は福島で取材活動を行う。なお、秋学期（演習）に予定されている海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』（2022 年）

寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %

授業評価基準（ルーブリック）

●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

●受講態度（4 段階）

1 8 割以上ゼミに出席している。

2 ゼミでの討論に参加し、発言する。

3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。

4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。

●映像制作態度（4 段階）

1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。

2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。

3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。

4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

●映像制作技術（4 段階）

1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。

2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。

3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて 5 分程度の映像編集ができる。

4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

●ファシリテーション（4 段階）

1 小中高校の授業支援に参加する。

2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。

3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。

4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

●異文化対話（4 段階）

1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。

2 異文化に対するステレオタイプなものの見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。

3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。

4 異文化を越えた協働（コラボレーション）を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を用いて基礎理論を学ぶことは地域でのフィールドワークに大いに役立つ。

【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ（DavinciResolve）をインストールしておくこと。<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。（絶対条件ではない。）

「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期）、「卒業論文」（4 年）「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline (in English)】

Students will learn the concepts of digital citizenship and media literacy in a practical way. Students will learn basic theories of media literacy and cross-cultural exchange and Education for Sustainable Development (ESD) and the SDGs, and plan fieldwork in schools and communities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works and reflection reports.

EDU200MA

演習（発達・教育）

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル市民とメディアリテラシーの実践的研究
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESD や SDGs の理論を学び、学校や地域での ESD および実践的なメディアリテラシー能力を身につける。

【到達目標】

- 多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
- メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
- 文化探究・協働を実行するための基礎能力を身につける。
- ESD や SDGs の実践知を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 課題等の提出・フィードバックは「Classroom」を通じて行う。
- 授業の初めに、前回の授業で提出された Classroom のコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- オフィス・アワーで、課題（作品やレポート等）に対して講評する。
- 最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定 (Zoom によるオンライン授業)
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	新たな教育の潮流	SDGs のための教育
4	ビデオレターの理論	メディアリテラシーとしての国際交流の方法
5	ビデオレターの実践	福島県内の小学校におけるビデオレター教育実践
6	映画教育の理論	シネリテラシーの考え方を学ぶ
7	映画教育の実践	福島県内の中学校における映像教育実践
8	リテラシー概念と SDGs	リテラシー概念の歴史的展開
9	映像制作支援活動の概要	小中高校等の授業支援と映像制作の実践学習の概要
10	映像制作支援活動の実際	小中高校等の授業支援と映像制作の実際の実際
11	映像制作支援活動の展開	小中高校等の授業支援と映像制作の実際の実際
12	被災地取材の概要	被災地取材に関する基礎知識の解説
13	被災地取材の計画	被災地取材の計画立案
14	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。夏合宿は福島で取材活動を行う。なお、秋学期（演習）に予定されている海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』（2022 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート等の提出物 50 %

授業評価基準（ルーブリック）

●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的（グローバル）な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

●受講態度（4 段階）

- 1 8割以上ゼミに出席している。
- 2 ゼミでの討論に参加し、発言する。

- 3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
- 4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。

●映像制作態度（4 段階）

- 1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
- 2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
- 3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
- 4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

●映像制作技術（4 段階）

- 1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
- 2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。
- 3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて 5 分程度の映像編集ができる。
- 4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

●ファシリテーション（4 段階）

- 1 小中高校の授業支援に参加する。
- 2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
- 3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
- 4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

●異文化対話（4 段階）

- 1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
- 2 異文化に対するステレオタイプなものの方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
- 3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
- 4 異文化を越えた協働（コラボレーション）を主体的に企画し、実践することができる。

【学生の意見等からの気づき】

自主夜間中学校や福島宮城の被災地、ユネスコアジア文化センターとの ESD 研修動画の共同制作など、多様な活動を行うことができた。

【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室（精密）と CALS（キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ）を併用する。映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ（DavinciResolve）をインストールしておくこと。 <https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。（絶対条件ではない。）

「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」（秋期）、「卒業論文」（4 年）「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」（坂本担当）、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」（コミュニティ・メディア）

【Outline (in English)】

Students will learn practical digital citizenship and media literacy concepts. Students will develop skills in producing short documentaries, learn Education for Sustainable Development (ESD) and SDGs theory, and develop ESD and practical media literacy skills in their schools and communities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works(50%) and reflection reports(50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

久井 英輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）

(授業の概要)

発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習研究を中心とした文献講読をすすめるとともに、実践現場での調査をふまえたレポートを受講者が共同で作成する。

(授業の目的・意義)

発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習に関わるテーマを中心に、実践的な関心を踏まえつつも客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、文献講読と実地調査、共同レポート作成を通じて獲得することを目的とする。

【到達目標】

発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習研究における主要な知識・視点を文献講読を通して理解し、それを基にして社会教育実践現場での課題を、実施調査を通じて明確に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、発達・教育領域の全体的な性格について、社会教育・生涯学習研究を中心に、入門的な研究論文を講読していく。受講者には、文献講読に関して最低 1 回の報告を求める。また、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等取り組みを見学あるいは事業運営に参加し、その知見を生かして共同でレポートを作成する。受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題関心の共有	授業の進め方について説明するとともに、問題関心を教員・受講者間で共有する。
第 2 回	文献講読①	社会教育史研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 3 回	文献講読②	社会教育の国際比較研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 4 回	文献講読③	社会教育・生涯学習の理念に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 5 回	文献講読④	社会教育行政・制度研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 6 回	文献講読⑤	学校・地域の連携・協働に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。

第 7 回	文献講読⑥	社会教育施設研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 8 回	社会教育施設での調査企画①	実際に訪問する社会教育施設の情報を学生自身が調査し、把握する。
第 9 回	社会教育施設での調査企画②	社会教育施設の情報について把握した上で、職員、利用者を対象とした調査の方法と内容を確定させる。
第 10 回	社会教育施設での実地調査①	実際に社会教育施設に赴き、活動の概要について職員から情報収集する。
第 11 回	社会教育施設での実地調査②	事前に作成した調査企画に基づき、社会教育施設職員、利用者に対しアンケート、インタビュー調査を実施する。
第 12 回	社会教育施設での調査を踏まえた分析・考察①	アンケート、インタビュー調査で得られたデータを学生主体で整理する。
第 13 回	社会教育施設での調査を踏まえた分析・考察②	調査データをもとに、分析・考察を学生主体で進める。
第 14 回	社会教育施設での調査を踏まえた発表	分析・考察結果を発表し、発表内容の課題点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回の授業の前に講読文献を予め読んでおくこと。
- ・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスタコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】

津田英二、久井英輔、鈴木真理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

文献講読の発表 30 %
 ディスカッションへの貢献度 40 %
 共同レポート作成への貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度まで履修者がいなかったため、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aims of this course are to provide students with basic knowledge on education, especially lifelong learning and social education, by text reading and presentations, and to support students to compile a report based on a survey on social education activities.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students to understand topics of education, especially lifelong learning and social education, and to present academic questions on these topics, by text reading, survey research, and compiling a report.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Presentation on reading assignments (30%), contribution to discussion (40%), contribution to compiling a report (30%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

久井 英輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）

発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習研究の文献講読を中心にすすめるとともに、受講生各自の卒業研究テーマに関わる文献講読・発表をすすめる。

（授業の目的・意義）

発達・教育領域に関わる事象について、特に社会教育・生涯学習に関わるテーマを中心に把握するとともに、受講者が自身の関心に即した実践的な発達・教育に関わる研究テーマを設定できるようにする。

【到達目標】

発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習研究における主要な知識・視点を深く理解し、それを基にして自身の関心に応じた先行研究の把握、オリジナリティのあるテーマの設定ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、発達・教育領域の全体的な性格について、社会教育・生涯学習研究を中心に、発展的な研究論文を講読していく。また、学生が各自の関心に応じて文献を探索し、その文献を元に卒業研究のテーマ設定を見据えた発表を行う。

以上に関連して、社会教育施設での実践の見学も、受講者の関心に合わせつつ実施する。

受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題関心の共有	授業の進め方について説明するとともに、社会教育・生涯学習研究に関する問題関心を教員・受講者間で共有する。
第 2 回	文献講読①	社会教育史研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 3 回	文献講読②	社会教育・生涯学習の国際比較に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 4 回	文献講読③	社会教育・生涯学習の理念に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 5 回	文献講読④	社会教育行政・制度研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 6 回	文献講読⑤	学校・地域の連携・協働に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。

第 7 回	文献講読⑥	社会教育施設研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第 8 回	社会教育の実地見学	社会教育施設あるいはその他の実践現場を視察し、学習支援者に求められる力量について理解する。
第 9 回	研究テーマ構想①	社会教育の歴史等に関心を持つ学生により、卒業研究テーマの構想に関する発表を、先行研究となる具体的な文献を紹介する形で行う。
第 10 回	研究テーマ構想②	社会教育の国際比較等に関心を持つ学生により、卒業研究テーマの構想に関する発表を、先行研究となる具体的な文献を紹介する形で行う。
第 11 回	研究テーマ構想③	社会教育・生涯学習の理念等に関心を持つ学生により、卒業研究テーマの構想に関する発表を、先行研究となる具体的な文献を紹介する形で行う。
第 12 回	研究テーマ構想④	社会教育に関わる行政・制度等に関心を持つ学生により、卒業研究テーマの構想に関する発表を、先行研究となる具体的な文献を紹介する形で行う。
第 13 回	研究テーマ構想⑤	学校・地域の連携・協働と社会教育等に関心を持つ学生により、卒業研究テーマの構想に関する発表を、先行研究となる具体的な文献を紹介する形で行う。
第 14 回	研究テーマ構想⑥	社会教育施設等に関心を持つ学生により、卒業研究テーマの構想に関する発表を、先行研究となる具体的な文献を紹介する形で行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回の授業の前に講読文献を予め読んでおくこと。
- ・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多岐にわたるので、授業内で提示する。講読文献（教員が選定する文献）のマスターコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】

津田英二、久井英輔、鈴木真理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

文献講読の発表 50 %
ディスカッションへの貢献度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度まで履修者がいなかったため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aims of this course are to provide students with basic knowledge on education, especially lifelong learning and social education, and to support students to decide on their theme for graduation thesis by text reading and presentations.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students to understand topics of education, especially lifelong learning and social education, by text reading, survey research, and to design research questions in their own themes.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Presentation(50%), contribution to discussion(50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

久井 英輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）

発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習研究にかかわる研究構想を受講者各自で発表していくとともに、社会教育の実践現場での調査をふまえたレポートを受講者が共同で作成する。

（授業の目的・意義）

発達・教育領域に関わる事象について、特に社会教育・生涯学習に関わるテーマを中心に、実践的な関心を踏まえつつも客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、個々人の研究構想発表、および共同レポート作成を通じて獲得することを目的とする。

【到達目標】

発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習研究における主要な知識・視点（歴史、国際比較、理念、行政・制度、学校との連携・協働、施設経営など）を理解し、それを基にして社会教育実践現場での課題を、個々人の文献・実地調査、および共同での調査実施を通じて深く把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、発達・教育領域、特に社会教育・生涯学習研究を中心的なテーマとして、学生各自の構想発表をすすめていく。また、入門的な研究論文を講読していく。また、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等取り組みを見学し、その知見を生かして共同でレポートを作成する。

受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育・生涯学習研究の概観①	授業の進め方について説明するとともに、社会教育・生涯学習研究に関する問題関心を教員・受講者間で共有する。
第 2 回	研究構想発表①	社会教育史等をテーマとする学生が、各自で研究構想を作成し、発表する。
第 3 回	研究構想発表②	社会教育の国際比較等をテーマとする学生が、各自で研究構想を作成し、発表する。
第 4 回	研究構想発表③	社会教育・生涯学習の理念等をテーマとする学生が、各自で研究構想を作成し、発表する。
第 5 回	研究構想発表④	社会教育行政・制度等をテーマとする学生が、各自で研究構想を作成し、発表する。
第 6 回	研究構想発表⑤	学校・地域の連携・協働等をテーマとする学生が、各自で研究構想を作成し、発表する。
第 7 回	研究構想発表⑥	社会教育施設等をテーマとする学生が、各自で研究構想を作成し、発表する。

第 8 回	社会教育施設での調査企画①	実際に訪問する社会教育施設の情報に学生自身が調査し、把握する。
第 9 回	社会教育施設での調査企画②	社会教育施設の情報について把握した上で、職員、利用者を対象とした調査の方法と内容を確定させる。
第 10 回	社会教育施設での実地調査①	実際に社会教育施設に赴き、活動の概要について職員から情報収集する。
第 11 回	社会教育施設での実地調査②	事前に作成した調査企画に基づき、社会教育施設職員、利用者に対しアンケート、インタビュー調査を実施する。
第 12 回	社会教育施設での調査を踏まえた分析・考察②	アンケート、インタビュー調査で得られたデータを学生主体で整理する。
第 13 回	社会教育施設での調査を踏まえた分析・考察②	調査データを元に、分析・考察を学生主体で進める。
第 14 回	社会教育施設での調査を踏まえた発表	分析・考察結果を発表し、発表内容の課題点を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多岐にわたるので、授業内で提示する。

【参考書】

津田英二、久井英輔、鈴木真理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

研究構想の発表 30 %
 ディスカッションへの貢献度 40 %
 共同レポート作成への貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度まで履修者のいない科目であったため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】
 (Course Outline)

The aims of this course are to support students to make presentation for the research on topics of education, especially lifelong learning and social education, and to support students to compile a report based on a survey on social education activities.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students to understand topics of education, especially lifelong learning and social education in light of both practice and academic research, and to present academic questions on these topics, by text reading, survey research, and compiling a report.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Presentation for research design (30%), contribution to discussion (40%), contribution to compiling a report (30%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、日本と世界のムスリムに焦点をあて、イスラムをめぐる多文化共生の課題について検討する。

【到達目標】

- ・ムスリムの人々や文化、多文化共生をめぐる課題などの基本的な知識を得ることができる。
- ・ムスリムに関するテーマについてグループワークを進め、効果的に討論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。担当したテーマについてスライドを作成し発表を行う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の進め方
2 回	イスラムの基礎知識	グループワークと討論
3 回	世界のムスリム	グループワークと討論
4 回	イスラムの歴史	グループワークと討論
5 回	日本を訪れるムスリム	グループワークと討論
6 回	日本の中のムスリム	グループワークと討論
7 回	多文化共生の街づくり	グループワークと討論
8 回	ムスリム留学生と話そう	グループワークと討論
9 回	大学の抱える課題	グループワークと討論
10 回	大学生活ハンドブックの計画	グループワークと討論
11 回	大学生活ハンドブックの作成	グループワークと討論
12 回	大学生活ハンドブックの仕上げ	グループワークと討論
13 回	研究レポートの発表(1)問いを見つける	プレゼンと討論
14 回	研究レポートの発表(2)研究のデザイン	プレゼンと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書や関連する文献や資料を読んでくる。興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ベン編集部編『イスラムとは何か』CCC メディアハウス、2013 年。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、レジュメと発表（20%）、研究レポートとプレゼン（50%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進め方について指導に留意する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on Muslim in Japan and world, issues related to multicultural symbiosis and education are explored.

【到達目標 / Goal】

Students are able to acquire basic knowledge about Muslim people, culture, and issues related to multicultural coexistence.

Students are able to conduct group work and effectively discuss topics related to Muslims.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

Students are able to conduct research on themes of multicultural issues and write an effective report.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに事例研究を遂行することを通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追究して、研究レポートにまとめる。

【到達目標】

- ・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
- ・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。調査研究の進め方や研究レポートの書き方について、具体的な事例を検討しながら学ぶ。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	テーマの設定	調査研究の構想
3	先行研究の収集	発表と質疑
4	先行研究の検討	発表と質疑
5	リサーチクエッションと研究計画	研究の計画
6	テーマ設定の理由	先行研究への位置づけ
7	調査研究のデザイン	発表と質疑
8	中間発表	進捗状況の報告と質疑
9	調査研究の実施(1)研究方法	進捗状況の報告と質疑
10	調査研究の実施(2)データの収集	進捗状況の報告と質疑
11	調査研究の実施(3)データの分析	進捗状況の報告と質疑
12	研究レポートの発表(1) 4年	プレゼンと質疑
13	研究レポートの発表(2) 3年	プレゼンと質疑
14	授業のまとめ	成果と課題の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献などを読み、課題をやってくる。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業において適宜紹介する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、研究レポートとプレゼン（70%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

進捗状況を把握する。学び合いの機会を入れる。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural symbiosis are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.

【到達目標 / Goal】

Students are able to deepen knowledge of concepts, trends and issues related to multicultural symbiosis and education.

EDU200MA

演習（発達・教育）

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に基づいて検証するための基礎的な考え方や見方を学ぶ演習とする。

具体的には、3 年・4 年次の演習に向け、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などに関わる課題について、専門的な理解を深める。また、プレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、社会科学的方法の見方や、アカデミックスキルを養う。

【到達目標】

身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視点と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。

自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①共通の文献をもとに、担当者が作成したレポートに基づくプレゼンを行い、全員でディスカッションする。また、②自身の設定したテーマについてのミニ研究発表を行う。受講生は、①②について 1 回ずつは発表担当を担うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介や、各々の問題関心を交流する。授業の大まかな方針を共有する。
第 2 回	運営計画の策定	役割分担や、具体的な計画を、共同で策定する。
第 3 回	共通文献の検討①	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 4 回	共通文献の検討②	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 5 回	共通文献の検討③	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 6 回	共通文献の検討④	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 7 回	共通文献の検討⑤	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 8 回	後半運営計画の策定（見直し）	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第 9 回	ミニ研究報告①	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 10 回	ミニ研究報告②	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 11 回	ミニ研究報告③	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 12 回	ミニ研究報告④	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 13 回	ミニ研究報告⑤	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 14 回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

2 回の報告と、ディスカッションへの貢献を、それぞれ 50 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

フィールドワークを共同で行えればと考えている。

【その他の重要事項】

自分がこだわりたい問題と出会い、じっくり調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。

演習の具体的な運営方法（行事含む）については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Seminar on Educational policy, management, and administration

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study. Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.

Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.

Students' study time will be more than two hours for a class

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA

演習（発達・教育）

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に基づいて検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

具体的には、卒論に向け、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などに関わる課題について、専門的な理解を深める。また、プレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、社会科学的なものの見方や、アカデミックスキルを養う。

【到達目標】

身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視点と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。

自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①共通の文献をもとに、担当者が作成したレポートに基づくプレゼンを行い、全員でディスカッションする。また、②自身の設定したテーマについてのミニ研究発表を行う。受講生は、①②について1回ずつは発表担当を担うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介や、各々の問題関心を交流する。授業の大まかな方針を共有する。
第 2 回	運営計画の策定	役割分担や、具体的な計画を、共同で策定する。
第 3 回	共通文献の検討①	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 4 回	共通文献の検討②	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 5 回	共通文献の検討③	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 6 回	共通文献の検討④	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 7 回	共通文献の検討⑤	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 8 回	後半運営計画の策定（見直し）	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第 9 回	ミニ研究報告①	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 10 回	ミニ研究報告②	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 11 回	ミニ研究報告③	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 12 回	ミニ研究報告④	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 13 回	ミニ研究報告⑤	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 14 回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

2回の報告と、ディスカッションへの貢献を、それぞれ 50 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

フィールドワークを共同で行えればと考えている。

【その他の重要事項】

自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。

演習の具体的な運営方法（行事含む）については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Seminar on Educational policy, management, and administration

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study. Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.

Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.

Students' study time will be more than two hours for a class

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA

演習（発達・教育）

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に基づいて検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

具体的には、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などに関わる課題について、専門的な理解を深める。また、プレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、社会科学的なものの見方や、アカデミックスキルを養う。

【到達目標】

身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視点と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。

自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①共通の文献をもとに、担当者が作成したレポートに基づくプレゼンを行い、全員でディスカッションする。また、②自身の設定したテーマについてのミニ研究発表を行う。受講生は、①②について 1 回ずつは発表担当を担うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介や、各々の問題関心を交流する。授業の大まかな方針を共有する。
第 2 回	運営計画の策定	役割分担や、具体的な計画を、共同で策定する。
第 3 回	共通文献の検討①	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 4 回	共通文献の検討②	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 5 回	共通文献の検討③	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 6 回	共通文献の検討④	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 7 回	共通文献の検討⑤	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第 8 回	後半運営計画の策定（見直し）	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第 9 回	ミニ研究報告①	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 10 回	ミニ研究報告②	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 11 回	ミニ研究報告③	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 12 回	ミニ研究報告④	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 13 回	ミニ研究報告⑤	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第 14 回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

2 回の報告と、ディスカッションへの貢献を、それぞれ 50 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

フィールドワークを共同で行えればと考えている。

【その他の重要事項】

自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。

演習の具体的な運営方法（行事含む）については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Seminar on Educational policy, management, and administration

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study. Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.

Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.

Students' study time will be more than two hours for a class

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA

演習（発達・教育）

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインに関連した先行研究の基本的な原理を学ぶ。また、口頭発表および自己調整的な学習習慣のスキルの獲得も目指す。

【到達目標】

・自ら研究を深めたいと思うようなテーマを探るために、関心事に関連した社会現象や政策・施策等について基本的な知識を得るための方法を知っている。
・上記で得た知識を総合的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題等の提出・フィードバックは「hoppi」を通じて行う予定である。

【集団で話し合うためのスキル】

・実演を通してワークショップの進め方を理解する。

【自らの研究テーマ】

自分が関心のある新聞記事を発表する。図書館の端末やスマートフォンを活用しながら「いかにして関心のあるテーマの最新ニュースを集めるのか」という方法についても学ぶ。この発表を参考にしながら、教員がそのゼミ生の関心事についての発表資料を決める。ゼミ生はそれぞれ自分の関心事に近いテーマの資料で発表し、それについてゼミ生間でディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業の流れを説明する。
第 2 回	集団で話し合うためのスキル（1）	ワークショップの進め方について理解する。
第 3 回	集団で話し合うためのスキル（2）	ワークショップを実演する。
第 4 回	写真を用いた自己紹介（1）	自分らしいと思われる過去・現在・未来の写真を撮影して、まとめる。
第 5 回	写真を用いた自己紹介（2）	上記を基にしてプレゼンテーションをする。
第 6 回	情報収集のスキル（1）	新聞記事の情報の集め方を身につける。
第 7 回	情報収集のスキル（2）	集めた新聞記事を発表する。自らの関心事を探る。
第 8 回	文献講読（1）	自らの関心事にあわせて担当文献を決める。
第 9 回	文献講読（2）	文献の内容を発表する。
第 10 回	文献講読（3）	内容に基づいた疑問や論点を整理する。
第 11 回	文献講読（4）	論点を基にしてディスカッションする。
第 12 回	文献講読（5）	今までに発表した文献と文献のつながりについて考察する。
第 13 回	文献講読（6）	上記の論点を整理し、ディスカッションする。
第 14 回	まとめ	演習での学びを振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメによる報告を求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

田澤実 2016 「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

集団で話し合うためのスキルを学んだあとに、自らの研究テーマを探る流れは好評であった。今年度も継続することにする。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行う回がある。

【その他】

ホームページの参考のこと

【田澤実研究室】

<http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/lab/>

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of academic research for students enrolled in the study. Upon completion, students should have the ability:

・ To thoroughly understand social phenomena, policies, and measures relevant to their areas of interest.

・ To effectively communicate and articulate the knowledge acquired.

It is expected that students will complete assigned tasks following each class session. A minimum of four hours of study time per class is required. Grades will be determined based on reports (50%) and in-class performance (50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯発達心理学や教育心理学の観点から「問い」を探求する。アカデミックライティング、心理学に基づいた引用表記および研究方法の基礎について学ぶ。

【到達目標】

- ・アメリカ心理学会（American Psychological Association）引用スタイル、アカデミックライティング、学術研究の基礎を身につける。
- ・キーワード検索を用いて、先行研究を探ることができる。
- ・Excel を使って数値データから視覚的に理解しやすい図表を作成できる。
- ・それらの図表から読み取れることを解釈し、他者に説明できる。
- ・問題と目的、方法、結果、考察という一連の論文の書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題等の提出・フィードバックは「hoppii」を通じて行う予定である。

演習および授業内での発表。

■3 年次

- ・数グループに分かれて、調査を行う対象者を決定。
- ・その対象者には現在、どのような問題が起こっているのか先行研究を探る。
- ・グループごとに、その対象者にアンケートやインタビューを行い、分析。
- ・グループごとに最終レポートを作成。

■4 年次

- ・各自テーマを深めて卒論に取り組む。
- ・自分でデータを収集することが必須である。必要に応じて統計分析の仕方も教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	キックオフミーティング	到達目標を共有する。
第 2 回	卒論関心発表（1）	卒論の関心に関連するキーワードを探る。
第 3 回	卒論関心発表（2）	キーワード検索を用いて、先行研究を探した結果を報告する。
第 4 回	共同調査（1）	共同研究で扱うテーマについて議論する。
第 5 回	共同調査（2）	共同研究のテーマのキーワードを探る。
第 6 回	共同調査（3）	キーワード検索を用いて、先行研究を探して、まとめる。
第 7 回	共同調査（4）	共同研究で扱うデータを収集する。
第 8 回	共同調査（5）	収集したデータを分析する。
第 9 回	共同調査（6）	データを解釈して、どのような図表にまとめて表現するか考える。
第 10 回	共同調査（7）	グループ内で結果の解釈について議論する。
第 11 回	共同調査（8）	結果について本文で記述する。
第 12 回	共同調査（9）	得られた結果と先行研究の対比をする。考察を深める。
第 13 回	共同調査（10）	問題と目的、方法、結果、考察という一連の流れで書く。
第 14 回	卒論中間発表	予備調査の計画を含めて卒論の中間発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

年に数度の課題がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

文献の探し方@法政大学

<http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/ref/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題 50 %にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の評価をもとにして、4 月の最初の授業で改めて意見を聞く。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を利用する回がある。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the fundamental principles of academic research for students enrolled in the study. By the end of the period, students should be able to:

- ・ Learn the basics of the American Psychological Association citation style, academic writing, and academic research,
- ・ Conduct keyword searches to locate previous research,
- ・ Create visually appealing charts and graphs from numerical data using Excel

Interpret data from figures and tables and effectively communicate their findings to others,

- ・ Comprehend the structure of writing a series of academic papers, including problem, purpose, method, results, and discussion.

Students must complete assignments after each class meeting and should expect to spend more than four hours per class on coursework. Grading will be based on reports (50%) and class participation (50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

田澤 実

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ論および卒業論文を完成させる。

【到達目標】

授業終了時に以下の能力を身につけていることを目標とする。

- ・重要な理論と方法論を説明できる
- ・重要な研究成果について、その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題等の提出・フィードバックは「hoppii」等を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール、課題、発表順などを確認する。
第 2 回	3 年生関心発表（1）	個人の関心事を発表する。
第 3 回	3 年生関心発表（2）	先行研究を探すためのキーワードを探る。
第 4 回	文献の探し方	キーワードから先行研究を探す技法を紹介する。
第 5 回	4 年生中間発表（1）	卒業論文の中間発表を行う。
第 6 回	4 年生中間発表（2）	予備調査の結果について考察を加える。
第 7 回	4 年生中間発表（3）	本調査を視野に入れて全体の構成を検討する。
第 8 回	3 年生中間発表（1）	なぜそのテーマを扱う意義があるのか。イントロダクションに該当する文言を考える。
第 9 回	3 年生中間発表（2）	そのテーマはどこまでのことが明らかになっているのか概観する。
第 10 回	3 年生中間発表（3）	先行研究の問題点およびまだ明らかになっていない点を探る。
第 11 回	3 年生中間発表（4）	上記の問題点に対して代案を示す。文献レビューのオリジナリティーを探る。
第 12 回	3 年生中間発表（5）	上記までの流れを精緻化する。およその章立てを確定する。
第 13 回	図表のまとめ方	視覚的に理解しやすい図表の作成方法を紹介する。
第 14 回	4 年生卒論発表	卒論の要旨を報告する。 質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み込む作業や調査の実施。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

田澤実 2016 「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

【成績評価の方法と基準】

課題（5 割）、平常点（5 割）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

計画上は現状維持とした。ゼミの進行については必要に応じて話し合いの時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を利用する。

【Outline (in English)】

Students will develop the skill of writing academic reports in this course, as exemplified by the senior thesis. By the end of the period, students should have the following competencies:

- ・ Explain and describe primary methods and theories.
 - ・ Assess critical studies in their ways, results, conclusions, and impact.
- Students are required to submit assignments after each class session. Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Grades will be determined based on reports (50%) and class participation (50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文完成をゴールに、＜学術論文7つの構成要素＞という基本中の基本である作法をマスターしたうえで、現時点での卒論構想（プロポーザル）を書いてみる。

【到達目標】

世の中にはさまざまなタイプ・レベルの論文がある。その良しあしを見抜く眼力を磨くこと。論文の名に値する論文には、この7つが入っている——それが＜学術論文7つの構成要素＞だ。そのうえで、自分でも卒論構想を書いてみて、自分は何にパッションがあるのか、本当に研究したいことは何か、これからどんな本を読み、何を対象にしたらよいか——などなど悩みぬくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生の問題関心（入ゼミ時の志望理由書に書かれたこと）に基づき、筒井が書籍や論文をピックアップし、毎回みんなで検討する。報告者は毎回1～2名だが、全員が要約とコメントを書いてくること。議論はゼミ生に「お任せ」、筒井は最後に20分程度解説するのみ。授業終了時に、全員に添削済みを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方、ミニ・レクチャー＜学術論文7つの構成要素＞
2	聴き取り・観察調査の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
3	聴き取り・観察調査の論文を検討する②	議論を中心とする
4	聴き取り・観察調査の論文を検討する③	社会的諸概念を理解する
5	聴き取り・観察調査の論文を検討する④	調査方法と知見の関係を理解する
6	既存統計データの加工と分析（ミニレクチャー）	政府統計の活用法を習得する
7	既存統計データの加工と分析（発表）	各自のテーマに沿って分析した結果を報告する
8	ブレイディみかこ（2022）その①	ボランティア活動、企業の社会的責任、NPO
9	ブレイディみかこ（2022）その②	緊縮財政
10	ブレイディみかこ（2022）その③	フェミニズム、ジェンダー
11	ブレイディみかこ（2022）その④	社会運動、住民運動、労働運動
12	ブレイディみかこ（2022）その⑤	教育、学校
13	卒論構想発表①	複数報告（班に分かれて）
14	卒論構想発表②	複数人報告（班に分かれて）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回議論する文献について、要約とコメントを書いてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒川祥子 2018『県立！再チャレンジ高校』講談社。ほか、入ゼミ生の関心に合わせて選択します。

【参考書】

適時指示。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出の宿題：50% ゼミでの議論：50%

【学生の意見等からの気づき】

毎回レジュメの前日までの掲示板提出が好評なので続けます。

【その他の重要事項】

5・6限全体が「筒井ゼミ」なので、2年生は両方出席のこと

【Outline (in English)】

In order to write a sociological graduation thesis, the students are to master the < the seven components of academic paper >, the basic skill, and then to write a provisional proposal for it. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and write some comments. Study time will be averagely two hours for a class. Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」

なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？ 「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？ 「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？ — などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？ をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（＝大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記5領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】

筒井ゼミでは2年間かけて卒業論文を完成してゆく。3年生春学期では、その土台部分を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則対面とするが、コロナ感染状況などを総合的に考慮して zoom による授業に切り替える回もありうる。

前年度秋学期・春休みの進捗を踏まえて、卒論研究の進捗を報告する。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。学生同士の議論ののち、最後に教員からフィードバックを行なう。発表レジュメはコメントを入れ学習支援システム上にて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春休みの進捗報告①	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
2	春休みの進捗報告②	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
3	春休みの進捗報告③	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
4	春休みの進捗報告④	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
5	卒論構想発表①	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿ったレジュメにて報告し議論する
6	卒論構想発表②	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿ったレジュメにて報告し議論する
7	卒論構想発表③	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿ったレジュメにて報告し議論する
8	卒論構想発表④	<学術論文7つの構成要素>の（1）～（5）に沿ったレジュメにて報告し議論する
9	卒論進捗報告①	順番に、進んだところまでを報告し議論する
10	卒論進捗報告②	順番に、進んだところまでを報告し議論する
11	卒論進捗報告③	順番に、進んだところまでを報告し議論する
12	卒論進捗報告④	順番に、進んだところまでを報告し議論する
13	卒論進捗報告⑤	順番に、進んだところまでを報告し議論する
14	卒論進捗報告⑥	順番に、進んだところまでを報告し議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論研究に必要なすべてのことを行なう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼”を養う！）。

【参考書】

適宜助言

【成績評価の方法と基準】

発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献）50 %

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムへの、発表レジュメへのコメントの掲載、続けます。

【Outline (in English)】

Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy

Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? — In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work! Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents and/or read those of others. Study time will be averagely two hours for a class. Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」

なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？——などなど、いつい私たちは自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法（＝大学の学び）を身体にしみ込ませ、上記5領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと（それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く）が、この演習のゴールである。

【到達目標】

筒井ゼミでは2年間かけて卒業論文を完成してゆく。3年生秋学期では、各自がより一層具体的に研究を進めてゆく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則対面とするが、コロナ感染状況などを総合的に考慮して zoom による授業に切り替える回もありうる。

夏休みの進捗を踏まえて、引き続きどんどん進める。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。学生同士で議論したあと、教員が最後にフィードバックする。発表レジュメはコメントを入れて学習支援システムにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夏休みの進捗報告①	順番に、行なった作業について報告し議論する
2	夏休みの進捗報告②	順番に、行なった作業について報告し議論する
3	夏休みの進捗報告③	順番に、行なった作業について報告し議論する
4	夏休みの進捗報告④	順番に、行なった作業について報告し議論する
5	卒論進捗報告①	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
6	卒論進捗報告②	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
7	卒論進捗報告③	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
8	卒論進捗報告④	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
9	卒論進捗報告⑤	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
10	卒論進捗報告⑥	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
11	卒論進捗報告⑦	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
12	卒論進捗報告⑧	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
13	卒論進捗報告⑨	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
14	卒論進捗報告⑩	前回報告時以降の進捗について報告す議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論研究に必要なすべてのことを行なう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の卒論研究に応じて、各自が決定する（“選球眼”を養う！）。

【参考書】

適宜助言

【成績評価の方法と基準】

発表（レジュメ）の出来具合 50 %、ディスカッション（仲間に対する知的貢献） 50 %

【学生の意見等からの気づき】

卒論執筆者には、11月中旬ごろから卒論草稿へのフィードバック（コメント）を行ないます。

【Outline (in English)】

Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy

Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? — In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work! Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents and/or read those of others. Study time will be averagely two hours for a class. Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

樋田 有一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマを見つけるために、社会認識をつくるための力を身につけます。スキルとしては、文献の探し方、データの読み方、情報のまとめ方、プレゼンの仕方といったことを身につけます。勉強ができる、成績が良い、頭がいい、いい人、地頭がよい、先生からの評価が高いなど、学校や社会でよいパフォーマンスを示す人を指すことばはたくさんあります。自分はいったいどういうふうになりたいのか、興味関心のあるテーマを探しながら、かつアカデミック・スキルを身につけながら、自分自身の社会への位置づけ方を考えていきましょう。

【到達目標】

世の中の出来事が自分とどのようにつながっているのかが実感できるようになること、自分の身の回りの出来事や、ある学説や理論に則って、専門用語を使いながら説明しようと試みるようになることを目標とします。人に説得的に自分の意見を説明できる、人の発表に対して建設的な意見を言える、質の良いディスカッションができるようにファシリテイトするといった技術についても学びます。人の能力の発揮の仕方にはいろいろなタイプがありますので、いろいろな活動を経験して、自分がどんなことが得意なのか、自分のつよみを理解してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

論文講読、ワークショップをもとに、ディスカッション形式で行います。あらかじめ与えられたテーマや課題について取り組む力よりも、自分自身でテーマを設定し、課題を発見して取り組む力を重視します。そのためのサポートをします。課題に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アイスブレイキング。 ゼミの進め方。 ゼミでのルールの確認。
第 2 回	プレゼンテーションの種類と方法	レジュメをつくる、パワポをつくる、ポスターをつくる、論文を書くといった方法について、それぞれの特性と作法を学ぶ。
第 3 回	文献を読む-学力論①	学歴をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 4 回	文献を読む-学力論②	学力や階層格差をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 5 回	ディスカッション	学力論の 2 本の論文を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 6 回	文献を読む-ジェンダー①	ジェンダーとはなにかについて、最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 7 回	文献を読む-ジェンダー②	差別とジェンダーについて扱った文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 8 回	ディスカッション	ジェンダーに関する 2 つの文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 9 回	文献を読む-家族①	家族と子供の教育をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 10 回	文献を読む-家族②	近代家族をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第 11 回	ディスカッション	文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第 12 回	自らの問題関心を明確にする	これから考えたいことを人に説明する。
第 13 回	文献リストをつくる	情報を収集して、自らのテーマに基づく文献リストをつくる。その方法を学ぶ。
第 14 回	まとめ	情報を収集し、知識や語彙を増やしていく方法について、具体的に学ぶ。課題レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の講読、プレゼンの準備を必ず行うこと。自らのテーマについて考えるためにも、ニュースを見る、映画を見る、本や漫画を読む、旅行に行く、コンサートに行く、筋トレするなど、積極的な活動を行って、経験の幅をひろげること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの出来 30 %、提出物 50 %、授業への貢献 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムをチェックできる機器を自分で用意すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course Outline: It is a small seminar that learns about education, social strata, and gender issues.

Learning Objectives: To be able to explain your opinions persuasively to others, to give constructive opinions on others' presentations, and to facilitate good quality discussions

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: 30% for presentation, 50% for work submitted, and 20% for contribution to the class.

EDU200MA

演習（発達・教育）

樋田 有一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマに基づき、質的、量的いずれかの調査を実施し、関連文献を講読し、卒業論文執筆を進めます。

【到達目標】

自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果を学習支援システムの課題提出機能を用いて提出します。授業内で提出物に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。
第 2 回	方法論を学ぶ①	問いをたてるということについて学ぶ。
第 3 回	方法論を学ぶ②	仮説をたて、調査計画を練る方法について学ぶ。
第 4 回	方法論を学ぶ③	フィールドワークについて学ぶ。
第 5 回	テーマの検討①	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 6 回	文献を読む①	学校観察をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 7 回	文献を読む②	インタビューをもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 8 回	文献を読む③	雑誌分析をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第 9 回	テーマの検討②	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 12 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 13 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第 14 回	まとめ	ディスカッションを行い、最終レポート執筆作業をすすめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

大谷信介ほか 2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
石川淳志ほか 1998『見えないものを見る力』八千代出版
佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社

【成績評価の方法と基準】

授業内の発言 30 %、読書ノート 10 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【Outline (in English)】

Course Outline: It is a small seminar dealing with issues of education, social class, gender. We may conduct qualitative surveys or quantitative surveys.

Learning Objectives: Students will acquire the ability to summarize their own ideas theoretically and persuasively, develop a view of society, and connect their ideas to learning and action.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: In-class remarks: 30%, reading notes: 10%, report: 60%.

EDU200MA

演習（発達・教育）

樋田 有一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【Outline (in English)】

Course Outline: It is a seminar that discusses social issues such as education, social stratum, gender, etc.

Learning Objectives: Develop the ability to summarize one's own ideas theoretically and persuasively, develop a social perspective, and connect it to learning and action.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: In-class remarks, presentations, resume work 30%, reading notes 10%, report 60%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

興味関心のあるテーマに基づき、文献講読および卒業論文執筆を進めます。また、それとは別に、社会の出来事と大学の学びとを結びつける活動として、合宿や学外のセミナー、シンポジウムなどの機会を積極的に利用します。

【到達目標】

自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。その場で内容について議論を行います。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 夏休み中の課題の回収、講評。合宿の振り返り。
第 2 回	合宿報告	合宿の活動成果について報告し、レポートの執筆分担などを決める。
第 3 回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 4 回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 5 回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 6 回	文献を読む①教育領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 7 回	文献を読む②心理領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 8 回	文献を読む③その他の領域	最新の学会誌から論文を 1 つ選び、精読する。
第 9 回	個人研究発表④	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第 10 回	個人研究発表⑤	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 11 回	個人研究発表⑥	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第 12 回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第 13 回	レポート執筆準備	最終レポート提出にむけ、ディスカッションを行い、執筆作業をすすめる。
第 14 回	まとめ	卒論構想発表に向けて、プレゼンの練習をする。 最終レポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

授業中の発言、発表、レジュメの出来 30 %、読書ノート 10 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】

参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

EDU200MA

演習（発達・教育）

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生向けのゼミ

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】

学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。

個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討議を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討議を行う
第 3 回	グループ研究発表 1	グループで与えられた課題について発表し討議を行う
第 4 回	グループ研究発表 2	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討議を行う
第 5 回	個人研究発表 1	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生①
第 6 回	個人研究発表 2	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生②
第 7 回	個人研究発表 3	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生③
第 8 回	個人研究発表 4	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生④
第 9 回	個人研究発表 5	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑤
第 10 回	個人研究発表 6	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑥
第 11 回	個人研究発表 7	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑦
第 12 回	個人研究発表 8	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑧
第 13 回	個人研究発表 9	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑨
第 14 回	個人研究発表 10	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で紹介する

【参考書】

私とは何か 「個人」から「分人」へ （平野啓一郎） 講談社現代新書
 <ほんとうの自分>のつくり方 自己物語の心理学 （榎本博明） 講談社現代新書
 アニメに学ぶ心理学 『千と千尋の神隠し』を読む （愛甲修子） 言視舎
 生きる意味 （上田紀行） 岩波新書
 認められたいの正体 （山竹伸二） 講談社現代新書
 愛着障害 子ども時代を引きずる人びと （岡田尊司） 光文社新書

母という病 （岡田尊司） ポプラ新書

発想法 川喜田二郎 中公新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参画度 50%）

発表 30%

期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

SNS や YOUTUBE など取り入れた活動にしている

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】

主体性、自主性を重視する

【Outline (in English)】

You can select the theme that you want to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.

In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

・ Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

・ Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】

学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討論を行う
第 3 回	グループ研究発表 1	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 4 回	グループ研究発表 2	前回の討論を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第 5 回	個人研究発表 1	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生①
第 6 回	個人研究発表 2	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生②
第 7 回	個人研究発表 3	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生③
第 8 回	個人研究発表 4	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生④
第 9 回	個人研究発表 5	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑤
第 10 回	個人研究発表 6	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑥
第 11 回	個人研究発表 7	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑦
第 12 回	個人研究発表 8	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑧
第 13 回	個人研究発表 9	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑨
第 14 回	個人研究発表 10	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で紹介する

【参考書】

私とは何か 「個人」から「分人」へ (平野啓一郎) 講談社現代新書
 <ほんとうの自分>のつくり方 自己物語の心理学 (榎本博明) 講談社現代新書
 アニメに学ぶ心理学 『千と千尋の神隠し』を読む (愛甲修子) 言視舎
 生きる意味 (上田紀行) 岩波新書
 認められたいの正体 (山竹伸二) 講談社現代新書
 愛着障害 子ども時代を引きずる人びと (岡田尊司) 光文社新書
 母という病 (岡田尊司) ポプラ新書

発想法 川喜田二郎 中公新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参加度 50%）

発表 30%

期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

SNS や YOUTUBE などでも取り入れた活動にしてい

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】

主体性、自主性を重視する

【Outline (in English)】

You can select the theme that you want to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.

In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

・ Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

・ Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

EDU200MA

演習（発達・教育）

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

【到達目標】

学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討議を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第 2 回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める討議を行う
第 3 回	グループ研究発表 1	グループで与えられた課題について発表し討議を行う
第 4 回	グループ研究発表 2	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討議を行う
第 5 回	個人研究発表 1	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生①
第 6 回	個人研究発表 2	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生②
第 7 回	個人研究発表 3	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生③
第 8 回	個人研究発表 4	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生④
第 9 回	個人研究発表 5	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑤
第 10 回	個人研究発表 6	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑥
第 11 回	個人研究発表 7	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑦
第 12 回	個人研究発表 8	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑧
第 13 回	個人研究発表 9	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑨
第 14 回	個人研究発表 10	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で紹介する

【参考書】

私とは何か 「個人」から「分人」へ (平野啓一郎) 講談社現代新書
 <ほんとうの自分>のつくり方 自己物語の心理学 (榎本博明) 講談社現代新書
 アニメに学ぶ心理学 『千と千尋の神隠し』を読む (愛甲修子) 言視舎
 生きる意味 (上田紀行) 岩波新書
 認められたいの正体 (山竹伸二) 講談社現代新書
 愛着障害 子ども時代を引きずる人びと (岡田尊司) 光文社新書
 母という病 (岡田尊司) ポプラ新書

発想法 川喜田二郎 中公新書

【成績評価の方法と基準】

平常点（個人研究発表、ゼミへの積極的参加度 50%）

発表 30%

期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

SNS や YOUTUBE などでも取り入れた活動にしていく

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで行う際に可能な環境と端末

【その他の重要事項】

主体性、自主性を重視する

【Outline (in English)】

You can select the theme that you want to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research.

In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

・ Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

・ Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、人材育成というキーワードをベースにしながら、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】

人材育成とキャリア形成に関する基本的な文献を読み込み、以下の獲得を到達目標とします。

- ①テーマに関わる基礎知識を習得する。
- ②文献の批判的読解力を獲得する。
- ③①と②を通じて、課題設定 → 情報収集 → 情報分析 + まとめ、といった3～4年演習での学習に必要な基礎的能力の形成をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この演習では、グループを編成し、文献についてグループごとに担当者を決めて、①上記テーマに関わる文献のレビュー、②読解 → レジメ作成 → 報告+討論、③まとめ（自分なりの要約とコメント）の作成と発表という形で展開されます。

・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

なお、授業形式について、対面授業を想定しています。大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方について
2	テーマに関する文献の収集と読み込み（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
3	テーマに関する文献の収集と読み込み（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
4	テーマに関する文献の収集と読み込み（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
5	テーマに関する文献の収集と読み込み（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
6	テーマに関する文献の収集と読み込み（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
7	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
8	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
9	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
10	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
11	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
12	クリティカル・リーディング・レポートの報告に向けた論点整理	これまでのテーマにそった主要論点を整理しプレゼンの準備を行う
13	クリティカル・リーディング・レポートの報告（1）	報告に基づくプレゼンと討論（1）
14	クリティカル・リーディング・レポートの報告（2）	報告に基づくプレゼンと討論（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献収集、報告準備、クリティカル・リーディング・レポートの作成などは授業外で積極的に行うようにして下さい。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣

佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

『日本労働研究雑誌』のバックナンバー

『労政時報』などの実務雑誌のバックナンバー

【成績評価の方法と基準】

演習への参加と報告、およびクリティカル・リーディング・レポートの作成を評価します。

演習への出席と取り組み姿勢 50%。演習の課題レポート 50%です。

通常の対面授業を想定して行います。大学の方針によりオンラインに変更の場合の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】

毎回担当者は担当箇所につきレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop their skill and knowledge.

This theme can be divided into some subtheme, such as work way of younger workers, women worker, white collar worker.

You can get knowledge and skill about these theme through this class.

【Learning Objectives】

We will read the basic literature on human resource development and career development, and aim to acquire the following.

- ① Acquire basic knowledge related to the theme.
- (2) Acquire critical reading comprehension of documents.
- (3) Through (1) and (2), aim to form the basic abilities necessary for learning in 3-4 year exercises such as task setting → information gathering → information analysis + summary.

【Learning activities outside of classroom】

・ Please be proactive in collecting literature, preparing reports, and creating critical reading reports outside of class.

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluate your participation and reporting in the exercises and the creation of critical reading reports.

Attendance at the exercise and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

It will be conducted assuming a normal face-to-face class. Specific methods and criteria for changing online due to university policy will be presented in the learning support system on the day of class start.

MAN200MA

演習（ビジネス）

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】

春学期をベースにグループテーマを設定し、仮説 → 調査 → 検証の PDCA サイクルを主体的に回す力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期で編成したグループをベースに、サブテーマを設定し、論点の整理、資料の収集及びフィールドワークを行います。

・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

なお、授業形式について、対面授業を想定しています。大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各班ごとに合宿までの総括と秋学期の進め方の確認を行う
2	文献研究（和文）	グループ研究（各班）：主に和文の文献レビューと問題意識の整理を行う
3	文献研究（欧米）	グループ研究（各班）：主に欧米の文献レビューと問題意識の整理を行う
4	ゲストスピーカーヒアリング（ゼミの OB）	ゼミの OB をゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
5	ヒアリング調査の質問表の企画	グループ研究（各班）のうち、訪問ヒアリングの質問紙の検討を行う
6	ヒアリング調査の仮説の検討	グループ研究（各班）のうち、訪問ヒアリングの質問紙及び仮説の検討を行う
7	ゲストスピーカーヒアリング（ゼミの OG）	ゼミの OG をゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
8	グループ研究の骨子のまとめ	グループ研究（各班）のうち、グループ研究のまとめ方の骨子の検討とレポートの作成を行う
9	グループ研究の内容のまとめ	グループ研究（各班）のうち、グループ研究のまとめ方の内容の検討とレポートの作成を行う
10	ゲストスピーカーヒアリング（大学院の OB）	大学院の OB をゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
11	グループ研究の個人ごとのまとめの報告	グループ研究：レポートのまとめの報告 個人ごとのまとめを行う
12	グループ研究全体のまとめの報告と討論	グループ研究：レポートのまとめの報告 班ごとのまとめを行う

13	ゲストスピーカーヒアリング（大学院の OG）	ゼミの OG をゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
14	グループ研究まとめの報告と討論及び振り返り	グループ研究：レポートのまとめの報告 ゼミ全体のまとめを行う 振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・通常の演習とは別にサブゼミを班ごとに行い、文献レビューやヒアリング調査の準備をする必要があります。

・また企業への訪問とヒアリングの実施も通常の演習とは別に行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣

佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉堂

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

佐藤 厚『組織のなかで人を育てるー企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

演習への出席と取り組み姿勢 50%。演習の課題レポート 50%です。

通常の対面授業を想定して行います。なお、大学の方針によりオンライン授業になった場合は具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】

担当者はレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop their skill and knowledge.

This theme can be divided into some subtheme, such as work way of younger workers, women's worker, white collar worker.

You can get knowledge and skill about these theme through this class.

【Learning Objectives】

Group themes will be set based on the spring semester, and the ability to independently run the PDCA cycle of hypothesis → research → verification will be cultivated.

【Learning activities outside of classroom】

・ In addition to regular exercises, it is necessary to hold sub-seminars for each group to prepare for literature reviews and hearing surveys.

・ It is also necessary to visit the company and conduct hearings separately from the usual exercises.

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance at exercises and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

It is supposed to be a regular face-to-face class. In addition, if the online class is conducted according to the university policy, the specific method and criteria will be presented on the learning support system on the day the class starts.

MAN200MA

演習（ビジネス）

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、文献やデータに基づく多角的な理解を目指します。
働く者の側の事情、働かせる側の事情、さらにその両者のあり方に影響を与える労働市場や法制度のあり方を視野に入れながらテーマの考察を深めていきます。

【到達目標】

テーマに関わる基礎知識を習得する。
文献を読み、情報収集を行う中で、論点を把握することができる。
論点をめぐって考察を深め、その結果を適切に発表・論述できる。
論点をめぐって受講生同士で考察を深め合うことができる。
みずからが探求したい「問い」を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2 年次秋学期は、文献を読み込み、論点を明らかにしていくこと、その論点についてディスカッションを行う中でみずからの「問い」を形成していくこと、書式に従った論文を書くこと、データや文献を収集することなど、3 年次にゼミ論を書くための準備をする期間と位置付けます。
課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。
取り上げるテーマは参加者の関心に応じて変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	参加者の問題意識の共有、ゼミの進め方の検討
第 2 回	テーマをめぐるディスカッション	テーマをめぐるディスカッションに慣れる
第 3 回	労働時間と生活時間をめぐる共通文献 A の検討	レジメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第 4 回	労働時間と生活時間をめぐる共通文献 B の検討	レジメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第 5 回	労働時間と生活時間をめぐる論点の整理	労働時間と生活時間をめぐる論点の整理と発表
第 6 回	労働時間と生活時間をめぐる論点の考察	労働時間と生活時間をめぐる論点の考察とディスカッション
第 7 回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる共通文献 C の検討	レジメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第 8 回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる共通文献 D の検討	レジメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第 9 回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の整理	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の整理と発表
第 10 回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の考察	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の考察とディスカッション
第 11 回	データの読解	データの読解と検討
第 12 回	関連文献・データの収集方法	文献・データの所在と収集方法
第 13 回	関連文献・データの収集	文献・データの収集と発表
第 14 回	「問い」の明確化	各自の「問い」の発表と明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通文献の読解、レジメ作成、レポートの執筆、プレゼンの準備、文献の収集など、入念な準備を求める。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
共通文献については、授業内で随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加（レジメの作成と発表、ディスカッションへの参加等）：60 %

レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の力量形成に、力を入れていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course will focus on various issues related to work, according to each student's interest. Students are expected to have a multifaceted understanding based on literature and data.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge on the subject and improve important skills for independent research.

【Learning activities outside of classroom】

Careful preparation is required, including reading the assigned literature, writing resumes and reports, preparing presentations, and collecting literature.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and reports (40%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【Outline (in English)】

The main objects of this course are to get method of social research and conduct research about local economy or community by yourself. To achieve this goal, this course is to study how to use official statistics, conduct literature searching, interview somebody and carry out an observation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を対象として、社会調査の実践的な学習を進めていきます。まず、地域データ分析やインタビューの理論や方法を学びます。その後、実際に地域調査を実施する中で、調査のスキルを身に付けることを目指します。また、同時に地域経済や地域活性化政策について文献を読みながら議論をし、現代における地域経済について学びます。

【到達目標】

2 年生秋学期の授業なので、3 年次以降の演習に繋がるように調査スキルの学習を第一に考えます。一人で地域経済の官庁統計を理解し、分析できること。さらに、人物にアポイントメントをとり、インタビュー調査を実施できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方ー地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）や岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊ー市民のための地域調査入門」（自治体研究社）の教章を基礎に調査法を学び、実際に地域調査を行います。調査対象地域に関しては、学生と一緒に相談しながら決めたいと思いますが、繰り返し調査地域を訪れるので、大学から近い地域になります。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの運営方針の説明。班分けなど。	ゼミの運営方針を説明し、お互いの自己紹介を行います。
第 2 回	地域の官庁統計の説明。	地域統計を解説。
第 3 回	統計情報の分析（1）	実際の官庁統計を分析してみる。
第 4 回	統計情報の分析（2）	前回講義に引き続き、官庁統計を分析してみる。
第 5 回	統計分析の実習	ある地域を決めて、統計分析を実際に行う。
第 6 回	報告会	統計分析のレポート報告会
第 7 回	地域資料の利用方法（地図、行政資料、歴史資料）	地域の文献資料の探し方を解説。
第 8 回	地域図書館・資料館の訪問。	実際に地域の図書館・資料館を訪問する。
第 9 回	インタビュー調査方法の説明	インタビュー調査方法について、解説。
第 10 回	インタビュー調査の企画会議	インタビュー調査の計画を練る。
第 11 回	地域まちあるき	外に出て、調査対象を探す。
第 12 回	インタビュー調査実習①	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 13 回	インタビュー調査実習②	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第 14 回	報告会	インタビュー調査のレポート報告会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域調査を軸とした演習運営なので、授業時間外に調査の時間を確保してもらいます。実際は、班分けをして調査を行いますので、学生の自主性が重んじられます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方ー地域づくりのための調査法入門」（朝倉書店）

【参考書】

岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊ー市民のための地域調査入門」（自治体研究社）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50%）＋報告内容（50%）

【学生の意見等からの気づき】

地理的情報など、基礎的な地域情報を適宜抗議していく。授業の中で皆さんの意見を取り入れてより良いものにしていければと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや ic レコーダーを使用します。

MAN200MA

演習（ビジネス）

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】

身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生はプロジェクトの完成と卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方を話し合う。班分けなどを決める。
2	調査法解説	これまでの調査経験を振り返り、新たに身に付けるべき調査法について検討。
3	論文・レポートの書き方	論文・レポートの書き方を解説。
4	論文・レポートの発表の仕方	論文・レポートの発表の仕方を解説。
5	地域経済学（文献）を読む。	地域経済学に関する文献を読み、議論する。
6	オーラルヒストリー（文献）を読む	オーラルヒストリーに関する文献を読み、議論する。
7	まちづくり（文献）を読む。	まちづくりに関する文献を読み、議論する。
8	調査企画報告①	約5名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
9	調査企画報告②	約5名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
10	調査企画報告③	約5名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
11	調査経過報告①	約5名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
12	調査経過報告②	約5名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
13	調査経過報告③	約5名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
14	夏休み合宿準備	合宿先での調査を全員で議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行っていただきます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文に関しては、長文を書くのに苦労をするので、春学期の段階から論文の書き方を講義していく。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

【到達目標】

春学期に引き続き、身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。秋学期は、レポートや論文の完成を目指す。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4 年生は卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夏休み合宿の振り返り	夏休み合宿の振り返り、議論をする。
2	文章力向上のための講義	長文を論理的に書くためのノウハウを講義する。
3	プレゼンテーション向上のための講義	プレゼンテーションを時間内にわかりやすく行うためのノウハウを講義する。
4	文献購読（アクションリサーチ）	地域連携プロジェクトを最終的な課題提案につなげるために、アクションリサーチの文献を読む。
5	文献購読（地域政策）	地域政策の論文を輪読し、議論する。
6	レポート・論文の中間報告①	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
7	レポート・論文の中間報告②	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
8	レポート・論文の中間報告③	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
9	レポート・論文の中間報告④	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
10	ゲスト講師の講義	地域活性化に携わるゲスト講師の講義
11	地域連携プロジェクトのワークショップ①	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
12	地域連携プロジェクトのワークショップ②	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
13	レポート・論文の最終報告①	10名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間も使う。
14	レポート・論文の最終報告②	10名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間を使う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

【参考書】

河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 50%、レポート・論文の報告内容 50%

【学生の意見等からの気づき】

レポート・卒業論文作成は、長文を書くことに苦勞するので、細かいチェックポイントを設けて指導していく。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

Prepare presentation.

Grading Criteria

In-class Assignment: 30%

Final exam: 70%

Assess whether learners can

1. Explain how to design and plan an empirical research project.
2. Explain the basic constructs in academic research
3. Explain why literature review is important
4. Explain the essentials of popular research methods

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証研究論文を執筆するための基礎的な知識・スキルとして、調査研究のプロセスの全体像および方法論の基礎を習得する。

【到達目標】

実証研究を社会科学的手法によりデザインすることができ、先行研究の学術的レビューに基づいて研究課題を発見し、研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義、学生による講義、およびグループワークを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要、演習の目的、演習の到達目標、授業実施の方法、成績評価の方法
第 2 回	学術研究の考え方	科学的調査とは何か、科学的研究の方法、一般の調査研究との違い
第 3 回	学術研究の基礎用語	学術研究の基礎用語（概念、変数、理論、命題、仮説など）
第 4 回	調査研究のプロセス	調査研究の実施プロセスと調査上よくあるミス
第 5 回	科学的研究における理論	科学的研究における理論とは何か、理論の構成要素、理論の要件。
第 6 回	実証研究のデザイン	一般的な実証研究の方法、研究方法の選び方
第 7 回	概念の測定法	変数の操作化、変数のタイプ
第 8 回	先行研究の調査	先行研究調査の意義、先行研究の探し方、研究レビューの方法
第 9 回	フィールド調査の基礎	アンケート調査およびインタビュー調査の方法論
第 10 回	実験研究の基礎	実験研究のタイプと方法論
第 11 回	事例研究の基礎	事例研究のタイプと方法論
第 12 回	実証研究論文の書き方（1）	研究計画の立て方、リサーチ・プロポーザルの作成法
第 13 回	実証研究論文の書き方（2）	研究論文の構成、項目ごとの執筆上の要点
第 14 回	まとめ	総括、理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料の予復習、プレゼンテーションを作成。各回 4 時間を基準。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業内で適宜指定

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 点）：各回のプレゼンテーション、討議、研究計画

期末試験（70 点）：授業全体の理解度を問う筆記試験

※基準：実証研究のデザイン、学術研究の基本概念、先行研究レビューの意義、研究方法に関する基礎知識の理解度を評価

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の実施に向けた基礎学習へと内容を変更

【学生が準備すべき機器他】

P C

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the whole picture of research process and basics of research methodology to acquire basic knowledge and skill for implementing empirical studies.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can explain basis terms of digital transformation.

Can analyze a firm's business model.

Learning activities outside of classroom

Review materials.

MAN200MA

演習（ビジネス）

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織行動論の基本を学習し、企業を組織マネジメントの視点から理解できるようにすることを旨とする。授業内で行うプレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、組織のマネジメントに関する分析的視点を養う。

【到達目標】

1. 知識、理解
組織行動論の主なテーマ（モチベーション、リーダーシップなど）の理論・先行研究に関して大学の教科書レベルの知識を身につける。
2. 体系化、表現、説明
上記の理論・先行研究を体系的に整理をし、他の人に論理的な説明と事例を交えて教えることができる。
3. 論理的思考、哲学的思考、批判的思考
概念の定義に関する厳密な思考（哲学的思考）、理論の論理的・実証的考察（論理的思考）に基づいて既存の理論や実証研究を批判的に考察（批判的思考）し、新たな研究課題を発見することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題文献に基づく、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心として進める。プレゼンテーションは、内容の要約的説明と分析、論点提示を中心とする。プレゼンテーションに基づいて学生同士で質疑、ディスカッションを行う。取り扱うテーマの内容は履修者の関心に応じて変更することがある。各回の提出課題へのフィードバックは授業内で口頭説明により行う。期末試験の結果は授業支援システム上で個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と学習方法・成績評価方法について
第 2 回	ストレスと感情	ストレスの規定要因、予防・対処策、感情のマネジメント
第 3 回	コミュニケーション	コミュニケーションの機能、機能、諸問題
第 4 回	チームとグループのマネジメント	チームのタイプ、集団形成の効果、集団に固有の力学
第 5 回	コンフリクトと交渉	組織における集団間・個人間の対立と交渉
第 6 回	意思決定	意思決定のプロセス、意思決定におけるバイアス
第 7 回	リーダーシップ	リーダーシップの類型、リーダーシップ開発
第 8 回	権力と政治	組織における個人・集団の権力と組織内政治
第 9 回	組織構造と組織変革	組織変革の推進方法、変革への抵抗の発生要因、組織文化の機能
第 10 回	論文講読（1）	キャリア志向性に関する論文の講読
第 11 回	論文講読（2）	キャリア・コンピテンシーに関する論文の講読
第 12 回	論文講読（3）	キャリア・ショックに関する論文の講読
第 13 回	論文講読（4）	キャリア行動に関するお論文の講読
第 14 回	総括	前回までの内容の総括。理解度確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回のレポートの準備（予習）、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Robbins, S. P., & Judge, T. A. (2013). *Organizational Behavior* 15th Edition (England).

【参考書】

Robbins, S. P. 著, 高木晴夫訳 (2006). *組織行動のマネジメント 入門から実践へ*.ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% :

評価基準：テキストの内容を正しく理解し、批判的・建設的な考察を加えることができること。毎回のレポートによる評価。所定の文字数に達しないものは不可（各回につき0点）

期末試験 70%

評価基準：テキストで学習した理論・学説を正しく理解し、その問題点や主な実証結果を理解していること。参照不可。

【学生の意見等からの気づき】

指示した分量よりも著しく文字数の少ないレポートが多いため、分量も評価基準として明記した。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付は授業支援システム上で行う。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：火曜3限（研究室）

【Outline (in English)】

This course focuses on some of the essential topics in organizational behavior. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic approaches that can work as guides to implement human resource management.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can explain basis terms of digital transformation.

Can analyze a firm's business model.

Learning activities outside of classroom

Review materials.

Prepare presentation.

Grading Criteria

In-class Assignment: 30%

Final exam: 70%

Assess whether learners can

1. Explain how to design and plan an empirical research project.
2. Explain the basic constructs in academic research
3. Explain why literature review is important
4. Explain the essentials of popular research methods

MAN200MA

演習（ビジネス）

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

ビジネスキャリアに関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。

目的

自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得する。

【到達目標】

リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告では、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。報告内容に基づき授業内で個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	参考論文の輪読 (1)	仮説検証型の論文を読み、仮説検証型研究の方法を理解する
第 2 回	参考論文の輪読 (2)	仮説探索型の論文を読み、仮説探索型研究の方法を理解する
第 3 回	研究計画の作成方法	研究を計画的に進めるための計画の立て方を理解する
第 4 回	リサーチ・クエスチョンの設定方法	論文のテーマ設定、テーマの改訂を行うための考え方を理解する
第 5 回	先行研究の調査方法	先行研究となる論文・調査の参照の方法、まとめ方・分析方法について理解する
第 6 回	仮説設定の方法	仮説検証型研究における仮説の設定方法を理解する
第 7 回	質的調査法 (1)	インタビュー調査の実施方法の説明
第 8 回	質的調査法 (2)	参与観察・観察調査の実施方法の説明
第 9 回	量的調査法 (1)	アンケート調査の実施方法の説明
第 10 回	量的調査法 (2)	公開データの分析方法の説明
第 11 回	先行研究の調査結果発表 (1)	第 1 グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 12 回	先行研究の調査結果発表 (2)	第 2 グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 13 回	先行研究の調査結果発表 (3)	第 3 グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第 14 回	調査計画の決定 (1)	調査の計画を発表し、計画を確定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間が使えるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【参考書】

渡辺知明 (2015)『文章添削の教科書』芸術新聞社
井下千以子 (2014)『思考を鍛えるレポート・論文作成法 (第 2 版)』慶應義塾大学出版会

そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・研究計画の水準 (70%)、口述試験 (30%)

・研究計画の評価基準：

テーマの重要性 (20 点)、論理性 (20 点)、調査方法・分析の妥当性 (20 点)、独創性 (10 点) の 4 要素の合計点で評価する。

・口述試験の評価基準

論文の正確かつ明瞭な説明 (10 点)、的確な質疑応答 (20 点)

※研究計画の評価要素 4 つのうち独創性以外の 3 要素すべてにおいて 10 点以上であること、および口述試験が 15 点以上であることを単位認定の最低要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない（参考図書を読んで各自行うこと）。指導は研究内容に関することに集中して行う。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course is designed to complete a research project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

Learning Objectives

1. Can design and implement research project.
2. Can develop hypotheses or research questions based on prior studies
3. Can implement empirical analysis or theoretical analysis in proper ways.

Learning activities outside of classroom

1. Research planning
2. Literature Review
3. Data collection and analysis
4. Writing mid-term report and final thesis.

Summarize the key issues in the lectures

Analyze literature and quantitative or qualitative data to write an academic paper.

Grading Criteria

1. Final thesis (70%): Topic (20), Theory and Logic (20), Research and Analysis (20), Uniqueness (10)
2. Oral presentation (30%): Explanation (10), Discussion (20)

MAN200MA

演習（ビジネス）

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベースラーニングを通して、企画力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】

秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。プロジェクトを実施します。また3年と合同でビジネスプランコンテストに参加します。毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	ゼミ計画とチームビルディング	秋学期の2年生プロジェクトの計画を立てるとともに、チームを形成してプロジェクトに臨む準備をします
3	マーケティングコンテストプラン作成 1	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
4	マーケティングコンテストプラン作成 2	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
5	マーケティングコンテストプラン中間発表	コンテストに提出するプランの途中経過を発表します。
6	マーケティングコンテストプラン作成 3	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
7	マーケティングコンテスト提出プランの発表	ブラッシュアップした最終提案を発表します
8	マーケティングコンテストの振り返り	PDCA のチェックを行います。実践をゼミ全体で振り返ります。
9	プロジェクトの準備	プロジェクトのテーマを決定して、計画を立てます
10	プロジェクトパートナーとの打合せ	ともにプロジェクトを進める外部機関との調整を行います
11	プロジェクトの実施 1	提案に基づいて実践を行います。
12	プロジェクトの実施 2	実践しながら計画や運用を修正して実践内容を改善します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクト実施までのプロセスを振り返ります。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始後に決定します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度40%、プロジェクトへの取り組み姿勢40%、プロジェクトの成果20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.

【Learning Objectives】

The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the fall semester. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.

【Method】

The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. Projects will be implemented. We also participate in business plan contests. Feedback on weekly activities and assignments will be provided in each class.

【Learning activities outside of classroom】

To ensure the success of projects, be sure to gain a variety of experiences on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation will be based on 40% contribution to the seminar, 40% attitude toward the project, and 20% results of the project.

MAN200MA

演習（ビジネス）

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベースラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

【到達目標】

春学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。春学期では文献資料を集める経験を経ることで情報収集の技術を獲得することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは PBL（プロジェクトベースラーニング）によって進めます。ある課題に対してそれを解決するためのプロセスを通してさまざまなことを学んでいこうとする方法です。実際の行動をとまないますので、「協調性」「責任感」「リーダーシップ」「実行力」がすべてのゼミ生に求められます。ゼミの取り組みは大きく2つあります。①プロジェクトの企画と運営、②新たなビジネスプランの考案です。プロジェクトは現実には何かを動かす経験をするようになります。ビジネスプランの考案は、ビジネスプランコンテストに参加して外部の評価を受けます。毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について意見を交換します。学生主体で運営していけるような形を話し合いで決めていきます。
2	プロジェクトビルディング（コンセプトの構築）	プロジェクトを作り上げるためにアイデア発想、プロジェクトコンセプトの構築をグループワークをしながら進めます。
3	プロジェクトビルディング（計画策定）	プロジェクト実践を想定した計画を策定するためのグループワークをおこないます。
4	ビジネスプラン（アイデア発想ワーク）	ビジネスプランコンテストに向けてアイデア出しを行います。グループワークでアイデアを洗練させます。
5	ビジネスプラン（プランの作成）	ビジネスプランコンテストのテーマに合わせた内容をかためます。
6	ビジネスプラン（プレゼンテーション）	ゼミ内でプレゼンテーションを行ってプランのブラッシュアップを行います。
7	プロジェクト実施に向けたリサーチ準備	プロジェクトを実際にローンチする前に、事前のマーケティングリサーチを計画します。
8	リサーチの実行	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを実施します。
9	リサーチデータの収集と分析	マーケティングリサーチを行って集めたデータを分析します。
10	プロジェクトビルディング（実装準備）	プロジェクトを実際にローンチするための最終的な調整を行います。
11	プロジェクトのローンチ	プロジェクト実際に立ち上げて実行していきます。
12	プロジェクトのモニタリング	プロジェクトの実行し、その経過をモニタリングして、分析します。
13	プロジェクトの修正	プロジェクトの問題点を抽出して分析します。
14	春学期まとめ	夏期休暇中のゼミの活動計画と秋学期の準備をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の出来事はすべて現場で起きています。とにかく何ごととも実践です。現場で体験する、実際にアクションを起こして経験していくことが大事です。机に向かって勉強するよりは、外に出かけてさまざまな事象に向き合うようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示しません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度 50%、プロジェクトへの取り組み姿勢 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションを活発にする工夫をしていきます。

【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.

【Learning Objectives】

The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the spring and fall semesters. Students will further deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills. In the spring semester, students will also acquire information-gathering skills through experience in gathering literature.

【Learning activities outside of classroom】

All social events are happening on the ground. Anyway, everything is a practice. Experience in the field, take action, and experience.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on 50% contribution to the seminar and 50% commitment to the project.

MAN200MA

演習（ビジネス）

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは『マーケティング実践』です。世の中に役立つ、人々にとって価値のあるものを創造して相手に提供していくことがマーケティングの役割ですから、それに関することであればよしとして、研究課題は幅広く受け入れたと思います。

【到達目標】

秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。秋学期は、春学期と同様にプロジェクトを実施します。また、半期に1度のビジネスプランコンテストに参加します。3年生は卒業論文のベースとなるようにプロジェクトの内容を深く掘り下げてまとめる作業を行います。毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	マーケティング研究論文のレビュー1（サービスマーケティング）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービス・マーケティング。
3	マーケティング研究論文のレビュー2（サービスイゼーション）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービスイゼーション。
4	マーケティング研究論文のレビュー3（AI とIoT）	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはAI とIoT。
5	ゲスト講師とのディスカッション（マーケティング）	マーケターをゲストに、実際に行われているマーケティングを題材にディスカッションを行います。
6	ゲスト講師とのディスカッション（スタートアップ）	起業のノウハウ、マインドセットなどをテーマにディスカッションを行います。
7	バーチャルビジネスゲームの実施	インターネット広告企業の人事部を招いてビジネスゲームを行います。ビジネスセンス修得のヒントを得ます。
8	プロジェクトのロジック構築	研究的視点からプロジェクトのロジックを組み立てます。
9	プロジェクトのコンセプト再考	研究の視点からプロジェクトを捉え直してコンセプトを再考する作業を行います。
10	プロジェクト計画のリファイン	プロジェクトを走らせながら新たなロジックとコンセプトで計画をリファインします。
11	プロジェクトの実施	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
12	検証データの収集と分析	プロジェクトを通して、仮説の検証を行います。得られたデータを分析して結論を導き出します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクトをクロージングして、ここまでのプロセスの振り返りを行います。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始後に決定します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度 50%、取り組み姿勢 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミで配布する資料はすべてデジタルドキュメントです。PC、タブレット、スマートフォンなどコミュニケーションサービスの"Slack"にアクセスできる環境が必要です。

【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The theme of the class is practical marketing. The role of marketing is to create something that is useful to the world and valuable to people and provide it to others. The seminar accepts a wide range of research projects.

【Learning Objectives】

The goal is to acquire specialized knowledge of marketing through the spring and fall semesters. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.

【Method】

The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. In the fall semester, projects are conducted in the same manner as in the spring semester. Third-year students will work in-depth to summarize the contents of their projects as the basis for their graduation thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Be sure to gain a variety of experiences to ensure the success of your project. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on 50% contribution to the seminar and 50% attitude toward the seminar.

MAN200MA

演習（ビジネス）

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて広くとらえた上で、考えていきます。具体的には個人の well-being を追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

【到達目標】

到達目標は大きく分けて2つあります。

- (1) 産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
 (2) 3 年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

導入時期は、グループディスカッションになれることを目的に、ディベートならびにグループワークを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、企業から提示されたテーマに対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。

ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第 2 回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第 3 回	第 1 回ディベート (1)	指定されたテーマについて調べる
第 4 回	第 1 回ディベート (2)	ディベートの実施
第 5 回	第 2 回ディベート (1)	指定されたテーマについて調べる
第 6 回	第 2 回ディベート (2)	ディベートの実施
第 7 回	企業に向けた提案 (1)	グループに分かれて、現状分析を行う
第 8 回	企業に向けた提案 (2)	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 9 回	企業に向けた提案 (3)	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 10 回	企業に向けた提案 (4)	プレゼンテーション練習を行う。
第 11 回	企業に向けた提案 (5)	プレゼンテーション
第 12 回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第 13 回	卒論発表会 (1)	卒論に対してコメントを行う
第 14 回	次年度に向けた準備	次年度のゼミ活動にむけた提案をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

□ディベートならびに企業からの課題に向けた提案について

指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6 割
 調査報告（報告書とプレゼンテーション）：4 割

【学生の意見等からの気づき】

各回で1つのテーマを取り上げていたが、進行状況に応じて 2 回に分ける取り上げる等により、より理解を深める。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

In this course, we will consider the state of working people and human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past few years, in the first few sessions of the course, each student prepared materials on a pre-designated theme (e.g., one-day internship) and had a group discussion to deepen their understanding of the theme. In the latter half of the course, students made proposals on themes presented by companies.

There were two objectives of this course.

(1) To understand the basic concepts of industrial/organizational psychology, and to be able to propose solutions to the issues presented by companies.

(2) To be able to collect necessary information and data to solve problems, and to be able to logically derive solutions.

(3) To acquire the communication skills necessary for group work

Students are expected to collect and organize information on the assigned topic by themselves as necessary. During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%. Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA

演習（ビジネス）

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

(2)Acquisition of a wide range of skills from conducting research to reporting and presentation, including hypothesizing, collecting data, performing statistical analysis, and reporting on analysis results
Students are required to collect and organize information on their research topics before the start of the class. Activities during class hours will focus on discussions based on data collected in advance. The standard time for preparatory study and review in this class is 2 hours each.

The criteria for grading in this class are as follows. Active involvement in resumes, presentation discussions and surveys: 60%
Research reports (prepared reports and presentations): 40%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、産業組織心理学の観点から、働く人々（これから働く人々を含む）に関わる課題についての調査を行いレポートを作成します。この活動を通じて、学生は働く人々の現状や課題について理解を深め、それらを解決するために有益な視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

到達目標は2つです。

(1) 産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること

(2) 仮説を立ててデータを収集し、統計的な分析を行い、結果についてのレポートを作成するといった調査実施からレポート作成、プレゼンテーションに関わる幅広いスキルの獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生をグループに分けて、グループごとに調査テーマを設定し、調査を進め、最終手 k にレポートを作成する。教員は、毎回その日の進捗に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第 2 回	調査に向けて	調査アイデアの検討とグループ分け
第 3 回	調査テーマの設定	各グループで調査テーマを決定する
第 4 回	先行研究の整理①	関連分野の先行研究を集める
第 5 回	先行研究の整理②	関連分野の先行研究を整理する
第 6 回	調査案の確定	調査案を決定する
第 7 回	調査の実施①	実際に調査を実施する
第 8 回	調査の実施②	実際に調査を実施する
第 9 回	分析①	収集されたデータの分析を行う
第 10 回	分析②	データ分析に基づいた考察を行う
第 11 回	レポート作成①	調査をレポートとして完成させる
第 12 回	レポート作成②	教員からの指摘に基づいてレポートをブラッシュアップする
第 13 回	プレゼンテーション練習	翌週の報告会に向けて発表練習を行う
第 14 回	報告会	各グループの結果を共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査テーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。授業の時間内はメンバーとのディスカッションを中心に行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6 割
調査報告（報告書とプレゼンテーション）：4 割

【学生の意見等からの気づき】

収集されたデータ分析にかかる時間をやや増やす

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

In this class, students learn how to conduct research on issues involving working people (including those who will be working) and how to write a report describing the findings. Through these studies, students aim to gain a better understanding of the current situation and problems of working people and gain useful perspectives to solve them.

There are two goals for this class.

(1)To understand the basic concepts of industrial and organizational psychology and to be able to explain the problems of working people using these concepts

MAN200MA

演習（ビジネス）

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて広くとらえた上で、考えていきます。具体的には個人の well-being を追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

【到達目標】

到達目標は大きく分けて2つあります。

- (1) 産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
 (2) 3 年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

導入時期は、グループディスカッションになれることを目的に、ディベートならびにグループワークを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、企業から提示されたテーマに対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。

ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第 2 回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第 3 回	第 1 回ディベート (1)	指定されたテーマについて調べる
第 4 回	第 1 回ディベート (2)	ディベートの実施
第 5 回	第 2 回ディベート (1)	指定されたテーマについて調べる
第 6 回	第 2 回ディベート (2)	ディベートの実施
第 7 回	企業に向けた提案 (1)	グループに分かれて、現状分析を行う
第 8 回	企業に向けた提案 (2)	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 9 回	企業に向けた提案 (3)	グループに分かれて、提案内容を検討する
第 10 回	企業に向けた提案 (4)	プレゼンテーション練習を行う。
第 11 回	企業に向けた提案 (5)	プレゼンテーション
第 12 回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第 13 回	卒論発表会 (1)	卒論に対してコメントを行う
第 14 回	次年度に向けた準備	次年度のゼミ活動にむけた提案をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

□ディベートならびに企業からの課題に向けた提案について

指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与）：6 割
 調査報告（報告書とプレゼンテーション）：4 割

【学生の意見等からの気づき】

各回で1つのテーマを取り上げていたが、進行状況に応じて 2 回に分ける取り上げる等により、より理解を深める。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

In this course, we will consider the state of working people and human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past few years, in the first few sessions of the course, each student prepared materials on a pre-designated theme (e.g., one-day internship) and had a group discussion to deepen their understanding of the theme. In the latter half of the course, students made proposals on themes presented by companies.

There were two objectives of this course.

(1) To understand the basic concepts of industrial/organizational psychology, and to be able to propose solutions to the issues presented by companies.

(2) To be able to collect necessary information and data to solve problems, and to be able to logically derive solutions.

(3) To acquire the communication skills necessary for group work

Students are expected to collect and organize information on the assigned topic by themselves as necessary. During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%. Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA

演習（ビジネス）

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「これからの働き方を考える」をテーマに授業を進めます。働く人の多様化（ダイバーシティ）、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、問題意識の明確化など、研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成をとらえる問題意識をもち、その解明のために研究を進めることができる基礎力を身に付けることを目標とします。具体的には、文献サーベイ、データの収集・分析、レポート・論文の書き方など、研究を進める上での基礎を身に付けることに加え、世の中で起きている事象について問題意識をもち、その課題を掘り下げるといった課題設定・課題解決能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習は、少人数で、特定のテーマを集中的に議論、研究する場です。大学での学びは、自分が知りたいことを主体的に追求すること、が基本なので、与えられたものではなく、自分で探究心をもって学習することが重要となります。ゼミはそのための貴重な機会であり、ゼミでは積極的に発言し、他の人の考えにも耳を傾けることに努めてください。特に、キャリアデザインに関して正解はないことが多いので、他者の意見をききながら自分の意見をまとめて発言する、ということが重要です。本を読むときも「自分の意見との違い、批判」を忘れないようにしてください。授業は、講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施します。3 年次以降の演習が効果的に進むことを視野に入れた授業展開となります。課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	レジュメの作り方、文献の読み方	ゼミを進める上での基本的なスキルとしてのレジュメ作成、文献講読の基礎を習得する。
3	共通文献（1 章）の講読	共通文献の 1 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
4	共通文献（2 章）の講読	共通文献の 2 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
5	共通文献（3 章）の講読	共通文献の 3 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議をする。
7	共通文献（4 章）の講読	共通文献の 4 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
8	共通文献（5 章）の講読	共通文献の 5 章について、内容理解とテーマ討議を行う。
9	文献の集め方、論文の読み方	文献サーベイのための、文献の集め方、論文の読み方について理解する。
10	レポートの書き方	課題で提出したレポートをフィードバックしながら、レポートの書き方について習得する。
11	論文の書き方	学術論文を読んで論文の基礎、書き方を習得する。
12	次年度のグループ研究のテーマ設定	次年度実施するグループ研究のテーマ、メンバーを決定する。
13	まとめ	授業の振り返り、総括を行う。
14	卒業論文発表会	4 年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要です。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むことを重視します。本授業の各回における準備学習・復習時間は 3 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講読テキストは適宜授業内で指定します。

【参考書】

授業の中で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究課題への取組姿勢、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

【その他の重要事項】

2 年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましいと考えます。

【Outline (in English)】

Course outline : In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.

Learning Objectives : The goal of this course is to develop awareness of issues related to business career development and to acquire basic skills in conducting empirical research and analysis to clarify these issues.

Learning activities outside of classroom : In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 3 hours.

Grading Criteria/Policy : Final grade will be calculated according to the following process ; Mid-term/Term-end report (50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進めます。働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにすることを目標とします。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆します。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施することになります。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視します。課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	研究テーマの設定	研究テーマの設定、その内容の具体化を行う
3	研究テーマの深め方	研究テーマについてテーマの絞り込みや深化を行う
4	文献収集の方法、文献の読み方	文献収集の方法、その読み方について
5	研究の企画	研究の企画を行う
6	研究方法の検討	研究の方法を検討する
7	調査内容の検討	調査対象や内容の検討を行う
8	中間報告	研究の中間報告を行う
9	調査の実施	フィールド調査を実施する
10	調査の実施の継続	フィールド調査を継続する
11	調査の実施とデータの集約	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を行う
12	調査の実施とデータの集約の継続	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を継続する
13	データの収集、分析方法	データの整理方法についての講義
14	総括	半期の進捗の振り返り、まとめ、夏休みの課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外には、研究のための文献サーベイや調査の実施等を行うことになります。本授業の各回における準備学習・復習時間は 3 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜授業内で指定します。

【参考書】

授業の中で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

レポート等課題対応 50 %、授業の参加姿勢 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

【その他の重要事項】

2 年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましいと考えます。

【Outline (in English)】

Course outline : In this seminar, the theme is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.

Learning Objectives : The goal of this course is to enable students to have awareness of problems related to business career development and to conduct empirical research and analysis to elucidate them.

Learning activities outside of classroom : In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 3 hours. Grading Criteria /Policy : Final grade will be calculated according to the following process ; Term-end report (50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進めます。働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができることを目標とします。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、前半は、グループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆します。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施することになります。特に、実証的な調査（インタビューやアンケートなど）を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視します。後半は、卒業論文執筆のためのテーマ研究を進めます。課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業のオリエンテーション	秋学期の授業計画についてのオリエンテーション
2	とりまとめ方向の報告	今後のとりまとめの方向についての報告を行う
3	調査の実施	フィールド調査を実施
4	データの収集	データを収集し、その取りまとめを行う
5	データの分析	収集したデータの分析・整理の仕方についての講義
6	ゲストスピーカーとの討議	ゲストスピーカーとテーマについて討議する
7	結果のまとめ	調査結果をまとめる
8	結果の分析	結果を分析する
9	論文の書き方	実際の論文を読んで講評し、論文の書き方を習得
10	研究論文のアウトライン	研究論文のアウトラインを決める
11	研究論文の執筆	研究論文を執筆する
12	報告準備、研究論文の集約	報告資料の作成、報告の準備、各自研究論文集約
13	研究報告会と講評	研究の報告会、研究報告の講評
14	卒業論文発表会	4年生の卒業論文の発表をきく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要です。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むことを重視します。本授業の各回における準備学習・復習時間は3時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜授業内で指定します。

【参考書】

授業の中で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

レポート等課題対応 50%、授業の参加姿勢 50%。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

【Outline (in English)】

Course outline : In this seminar, the theme of the course is “how the coming work-style changes”. In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

Learning Objectives : The goal of this course is to enable students to have awareness of problems related to business career development and to conduct empirical research and analysis to elucidate them.

Learning activities outside of classroom : In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 3 hours.

Grading Criteria /Policy : Final grade will be calculated according to the following process ; Term-end report (50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、企業の経営活動等について、様々な計量的な統計手法を用いて分析を実施できる能力を身につけることを目的とする。そのために、実践的な統計手法について学ぶとともに、実証的な研究論文の読み方を学んでいく。

【到達目標】

データのタイプ別に種々の計量分析が一通りできるようになることを目標とする。

定量的データでは、回帰分析や主成分分析など一般的に用いられる手法であり、定性的データに対しては、テキストマイニング手法をできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習双方を行う。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	パソコン操作の基本	パソコン操作の基本を学ぶ。
3	データ処理の基礎	データ処理の基礎について学ぶ。
4	データの種類	研究で用いるデータの種類について学ぶ。
5	データセットの構築 (1)	統計パッケージにおいて、データセットを構築する方法を概説する。
6	データセットの構築 (2)	グループワークを通じて、データセットの構築をより深く学ぶ。
7	データセットの構築 (3)	データセットの構築を効率的に行えるように、簡単なプログラミングを学ぶ。
8	変数の相関 (1)	変数の相関の基本を学ぶ。
9	変数の相関 (2)	変数の相関の解釈方法やより高度な相関係数について学ぶ。
10	単変量分析	単変量分析の方法を学ぶ。
11	多変量分析	多変量分析の方法を学ぶ。
12	計量分析の演習 (1)	財務データを用いた演習を行う。
13	計量分析の演習 (2)	アンケート・データを用いた演習を行う。
14	計量分析の演習 (3)	作表について演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への取り組み姿勢（70%）
- ②他大学とのインゼミ大会への参加、報告（20%）
- ③レポート（10%）

【学生の意見等からの気づき】

前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to master the basics of quantitative analysis.

*Learning Objectives

The goal of this class is to be able to perform various types of quantitative analysis.

*Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
in class contribution: 70%, Participation in the inner seminar: 20%, reports: 10%.

MAN200MA

演習（ビジネス）

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

in class contribution: 70%, Participation in the inner seminar: 20%, reports: 10%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、企業行動等について、計量的な分析を実施できる能力を身につけることを目的とする。そのために、基本的な統計手法について学ぶとともに、実証的な研究論文の読み方を学んでいく。

【到達目標】

計量的な分析を実施できる能力と、実証的な研究論文の読み方を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表双方を行う。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	統計分析の基礎 (1)	データセットの構築を行う。
3	統計分析の基礎 (2)	アンケートデータの分析方法について学ぶ。
4	統計分析の基礎 (3)	前回到続いて、アンケートデータの分析方法について学ぶ。
5	統計分析の基礎 (4)	会計のアーカイバルデータの分析方法について学ぶ。
6	統計分析の基礎 (5)	会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
7	統計分析の基礎 (6)	前回到続いて、会計の代表的な論文の分析の複製を試みる。
8	研究論文のサーベイ (1)	生活経済に関する論文を輪読する。
9	研究論文のサーベイ (2)	前回到続いて、生活経済に関する論文を輪読する。
10	研究論文のサーベイ (3)	労働経済に関する論文を輪読する。
11	研究論文のサーベイ (4)	前回到続いて、労働経済に関する論文を輪読する。
12	研究論文のサーベイ (5)	会計学に関する論文を輪読する。
13	研究論文のサーベイ (6)	前回到続いて、会計学に関する論文を輪読する。
14	研究論文のサーベイ (7)	ファイナンスに関する論文を輪読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への取り組み姿勢（70%）
- ②他大学とのインゼミ大会への参加、報告への取り組み（20%）
- ③レポートの提出状況、内容（10%）

【学生の意見等からの気づき】

本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to acquire the ability to conduct quantitative analysis of corporate behavior. For this purpose, we will learn basic statistical methods and how to read empirical research papers.

*Learning Objectives

The goal of this class is to acquire the ability to conduct quantitative analysis and to read empirical research papers.

*Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

MAN200MA

演習（ビジネス）

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、人材育成というキーワードをベースにしながら、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ（＝キャリア選択と形成）の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

【到達目標】

人材育成とキャリア形成に関する基本的な文献を読み込み、以下の獲得を到達目標とします。

- ①テーマに関わる基礎知識を習得する。
- ②文献の批判的読解力を獲得する。
- ③①と②を通じて、課題設定 → 情報収集 → 情報分析 + まとめ、といった3～4年演習での学習に必要な基礎的能力の形成をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この演習では、グループを編成し、文献についてグループごとに担当者を決めて、①上記テーマに関わる文献のレビュー、②読解 → レジメ作成 → 報告+討論、③まとめ（自分なりの要約とコメント）の作成と発表という形で展開されます。

・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

なお、授業形式について、対面授業を想定しています。大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方について
2	テーマに関する文献の収集と読み込み（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
3	テーマに関する文献の収集と読み込み（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
4	テーマに関する文献の収集と読み込み（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
5	テーマに関する文献の収集と読み込み（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
6	テーマに関する文献の収集と読み込み（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
7	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（1）	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
8	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（2）	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
9	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（3）	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
10	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（4）	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
11	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成（5）	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
12	クリティカル・リーディング・レポートの報告に向けた論点整理	これまでのテーマにそった主要論点を整理しプレゼンの準備を行う
13	クリティカル・リーディング・レポートの報告（1）	報告に基づくプレゼンと討論（1）
14	クリティカル・リーディング・レポートの報告（2）	報告に基づくプレゼンと討論（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献収集、報告準備、クリティカル・リーディング・レポートの作成などは授業外で積極的に行うようにして下さい。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣

佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

『日本労働研究雑誌』のバックナンバー

『労政時報』などの実務雑誌のバックナンバー

【成績評価の方法と基準】

演習への参加と報告、およびクリティカル・リーディング・レポートの作成を評価します。

演習への出席と取り組み姿勢 50%。演習の課題レポート 50%です。

通常の対面授業を想定して行います。大学の方針によりオンラインに変更の場合の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

【学生が準備すべき機器他】

毎回担当者は担当箇所につきレジメを作成し、報告すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Outline】

The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop their skill and knowledge.

This theme can be divided into some subtheme, such as work way of younger workers, women's worker, white collar worker.

You can get knowledge and skill about these theme through this class.

【Learning Objectives】

We will read the basic literature on human resource development and career development, and aim to acquire the following.

① Acquire basic knowledge related to the theme.

② Acquire critical reading comprehension of documents.

③ Through (1) and (2), aim to form the basic abilities necessary for learning in 3-4 year exercises such as task setting → information gathering → information analysis + summary.

【Learning activities outside of classroom】

・ Please be proactive in collecting literature, preparing reports, and creating critical reading reports outside of class.

・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluate your participation and reporting in the exercises and the creation of critical reading reports.

Attendance at the exercise and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

It will be conducted assuming a normal face-to-face class. Specific methods and criteria for changing online due to university policy will be presented in the learning support system on the day of class start.

MAN200MA

演習（ビジネス）

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、ゼミ論の執筆に向けた準備を進めます。

【到達目標】

関連文献を読み込み、みずからの「問い」を深めることができる。
ゼミ論の執筆に向けて、独自調査の計画を立てて実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒論の執筆に向け、3年次にはゼミ論の完成を目指します。春学期は、各自が設定したゼミ論の「問い」に関連した文献・データを適切に収集して検討した上で、「問い」を改めて文章化し、その「問い」を深めるための独自調査の計画を立てて発表し、実行していきます。

課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。

4年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の「問い」の発表と検討	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
2	ゼミ論の「問い」の再検討	前回の発表とコメントを受けて、改めて各自がゼミ論テーマの「問い」を再検討し、ディスカッションする
3	論文の構成の理解	論文の基本的な構成を理解する
4	先行研究の収集	文献収集状況の発表
5	先行研究の検討	収集した文献の重要度の検討
6	先行研究の論点整理	収集した文献の論点整理
7	独自調査の計画の策定	先行研究を踏まえた独自調査の内容と方法を検討する
8	独自調査の計画の発表	各自が独自調査の計画を発表する
9	独自調査の計画の再検討	各自が独自調査の計画を再検討し、ディスカッションする
10	独自調査の実施の中間報告	各自が独自調査に着手し、その状況を中間報告する
11	中間報告をめぐるディスカッション	各自の中間報告について、ディスカッションする
12	研究計画の再検討	独自調査の実施を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
13	今後の研究計画の検討	今後の研究計画を検討する
14	振り返りとまとめ	各自の進捗状況を振り返り、ゼミ論の中間発表に向けた各自の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献・データを収集し、論点を整理し、発表の準備を行う。

独自調査を企画し、実施する。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

その他については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加：30%

先行研究の収集と理解：30%

独自調査の企画と実施：40%

【学生の意見等からの気づき】

一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

2年次の演習からの継続受講を原則とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will take up themes from various issues related to work, according to their own interests, and prepare to write their seminar papers.

【Learning Objectives】

Students are expected to deepen their "questions" by reading related literature and begin research for writing their seminar papers.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to plan and conduct their own research.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution : 30%

Collecting and understanding related literature : 30%

Planning and conducting original research : 40%

MAN200MA

演習（ビジネス）

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare a presentation and write a seminar paper.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution : 30 %

Presentation : 20 %

Seminar paper : 50 %

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、ゼミ論の執筆に取り組みます。

【到達目標】

適切な論文構成により、ゼミ論を完成させることができる。
ゼミ論執筆のプロセスを通じて、みずからの卒論の研究課題と研究方法を固めていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期はゼミ論の執筆に取り組みます。論文の構成の方法、先行研究への適切な言及方法、研究結果の整理の方法などを実践的に学びながら、ゼミ論を完成させます。

課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。

4年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文（ビジネス）」を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の文章化	研究課題を文章化し、検討する
2	ゼミ論中間発表	各自のゼミ論の構想を中間発表する
3	ゼミ論中間発表の検討	各自のゼミ論の構想を相互に検討する
4	論文の構成	論文の構成を検討する
5	既存の文献から学ぶ	すぐれた論文の構成を既存の文献を通じて検討する
6	論文構成の検討	みずからの論文構成を再検討する
7	ゼミ論の執筆状況の確認	ゼミ論の執筆状況を確認する
8	ゼミ論の執筆指導	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
9	ゼミ論の執筆内容の再検討	ゼミ論の執筆内容を再検討し、個別指導を行う
10	ゼミ論の発表	ゼミ論を発表する
11	ゼミ論へのコメント	各自のゼミ論に相互にコメントを行う
12	ゼミ論に対するコメントの検討	ゼミ論の発表に対し、寄せられたコメントを検討する
13	振り返り	ゼミ論執筆を振り返る
14	今後に向けた課題設定	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

独自調査結果を整理し、中間発表の準備を行う。
ゼミ論の執筆を進める。
ゼミ論発表に向けた準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
その他については、授業内で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加：30 %

発表：20 %

ゼミ論：50 %

【学生の意見等からの気づき】

一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

2年次の演習からの継続受講を原則とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will take up themes from various issues related to work, according to their own interests, and work on writing seminar papers.

【Learning Objectives】

Students are expected to complete a seminar paper with an appropriate structure.

MAN200MA

演習（ビジネス）

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3・4年次の演習に向けて、2年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①働き方に関する基礎的な知識を身につける
- ②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
- ③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。

まずは基礎知識をつけることを目的として、課題図書を使って議論を行っていただきます（アクティブブックダイアログ：Active Book Dialogue を参考に）。

3年生の共同研究、4年生の卒論発表会などについては2年生にもご参加いただけます。5限のみならず6限も使って3年生や4年生と合同でゼミ活動を実施することもございますので、水曜5・6限は他の予定を入れないようにしてください。学期全体のスケジュール（予定）は最初の授業で配布します。ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。

また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ＜2・3・4年生合同＞	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②3年生共同研究、4年生卒論の進捗共有
第2回	課題図書とアクティブブックダイアログの説明とグループ分け	①課題図書とアクティブブックダイアログの説明 ②グループ分け
第3回	校外学習（予定）	校外学習（予定）
第4回	校外学習の振り返り	校外学習の振り返りと議論
第5回	課題図書（1）	課題図書（1）に関するアクティブブックダイアログ
第6回	課題図書（2）	課題図書（2）に関するアクティブブックダイアログ
第7回	課題図書（3）	課題図書（3）に関するアクティブブックダイアログ
第8回	3年共同研究＜中間＞発表 ＜2・3・4年生合同＞	①3年共同研究＜中間＞発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第9回	問いの設定に関する概説	①問いの設定に関する概説とグループワーク ②3年共同研究＜最終＞発表の進め方相談
第10回	調査方法に関する概説	①調査方法に関する概説 ②3年共同研究＜最終＞発表の当日運営の確認
第11回	3年共同研究＜最終＞発表 ＜2・3年生・社会人合同＞	①3年共同研究＜最終＞発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第12回	発表の振り返りと今後の進め方	①共同研究発表の振り返り（ロジと内容） ②共同研究の準備に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
第13回	4年生卒論発表（1） ＜2・3・4年生・社会人合同＞	①卒論の発表（前半） ②質疑と社会人・教員コメント
第14回	4年生卒論発表（2） ＜2・3・4年生・社会人合同＞	①卒論の発表（後半） ②質疑と社会人・教員コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書のアクティブブックダイアログの準備、研究テーマ案の作成とそのための先行研究サーベイ等が必要になります。ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、準備はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題図書については授業で候補を提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70%）、ゼミの運営・活動への貢献（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブ・ブック・ダイアログと校外学習を継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

2017年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願ひします。

不定期で3・4年生との合同ゼミがあり、その場合原則として5・6限または7限で実施することになりますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed for students to obtain basic knowledge about work styles and also the fundamental skills of collection and presentation of information.

< Learning Objectives >

1. Obtain basic knowledge on work styles
2. Compile a broad range of information about a given topic and deliver it with clarity
3. Consider a variety of perspectives without believing accepted opinions

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN200MA

演習 (ビジネス)

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を持てるように、共同研究の実践を通じて、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実施を通じて、調査の基礎的なスキルを醸成します。

【到達目標】

- ① 研究対象とするテーマについて、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
- ② 研究対象とするテーマについて、十分な理解のもとで独創性のある問いを設定し、説得的な論旨を展開できるようになること
- ③ 調査を企画・実施することを通じて、調査の基礎的なスキルを身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。3年生は共同研究、4年生は卒論に関する構想発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人(研究者・実務家)からもコメントを頂きます。ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと卒業研究計画書の発表 (3・4年生合同)	①オリエンテーション ②4年生による卒業研究の研究計画書の発表 ③質疑と教員コメント
第 2 回	3年生の研究テーマ案の発表	①3年生による研究テーマ案の発表 ②質疑と3・4年生による議論
第 3 回	3年生共同研究のテーマ案に関する先行研究サーベイと議論	①3年生の共同研究テーマに関する先行研究 ②共同研究テーマ案に関する議論
第 4 回	3年生共同研究のテーマ案の仮決定	①3年生による研究テーマ改訂案の発表 ②質疑と教員コメント ③テーマ案の決定とグループ分け
第 5 回	3年生共同研究の構想の検討	①先行研究サーベイの共有 ②先行研究サーベイを踏まえた共同研究の問いや切り口の検討
第 6 回	3年生共同研究の構想の再検討	①問いや切り口の再検討 ②調査方法の検討 ③中間発表資料の作成
第 7 回	3年生共同研究構想 中間発表	①共同研究の構想に関する中間発表 ②質疑と教員コメント
第 8 回	構想発表会の準備	①中間発表のコメントを踏まえた共同研究の練り直し ②構想発表会の資料の作成と発表準備
第 9 回	構想発表会 1 回目 <3・4年生・社会人合同>	①構想発表会 1 回目 (3年生共同研究等) ②質疑と社会人・教員コメント
第 10 回	構想発表会 2 回目 <3・4年生・社会人合同>	①3年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会 2 回目 (4年生卒論・前半) ③質疑と社会人・教員コメント
第 11 回	構想発表会 3 回目 <3・4年生・社会人合同>	①3年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会 2 回目 (4年生卒論・後半) ③質疑と社会人・教員コメント
第 12 回	3年生共同研究 調査設計	①調査方法の確定 ②依頼状や調査票の案の作成
第 13 回	3年生共同研究 調査実施	①依頼状や調査票の確定 ②調査の実施

- 第 14 回 ゼミ活動の振り返り・諸連絡と今後に関する意見交換
①ゼミ活動の振り返り
②諸連絡
③今後に関する意見交換
<3・4年生合同>

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミの時間の大部分は発表の場となりますので、発表準備 (研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等) はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容 (70%)、ゼミの運営・活動への貢献 (30%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

構想発表会・発表会などにおける、社会人との交流を継続・発展させていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願ひします。5・6時にわたって、ゼミを実施したり共同研究の作業が必要になりますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。「思いを実現できる実務家」を社会に送り出せるように、ゼミ活動を展開したいと考えております。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.

< Learning Objectives >

- 1.To be able to survey academic literature and articles on the subject of research
- 2.Ability to set original questions and develop persuasive arguments with a full understanding of the subject under study
- 3.Developing basic research skills through the planning and implementation of surveys

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN200MA

演習（ビジネス）

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年生は、共同研究のなかで、調査結果の分析・解釈の訓練を行い、結論や示唆について考察を深めます。また、卒業論文の執筆に向けた準備に入ります。4 年生は卒業論文を完成させます。

【到達目標】

- ①調査結果の分析・解釈ができるようになること
- ②論理的・説得的な資料や論文を執筆できるようになること
- ③わかりやすく発表し、質問やコメントに対して論理的に回答ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。共同研究の分析や発表を行います。3 年生は共同研究、4 年生は卒論に関する成果発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人（研究者・実務家）からもコメントを頂きます。ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション < 2・3・4 年生合同 >	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ② 3 年生共同研究、4 年生卒論の進捗共有
2	3 年生共同研究進捗確認・共有	① 3 年生共同研究の進捗の確認と共有 ② 質疑と教員コメント
3	3 年生共同研究 分析方法の検討	共同研究の分析方法の検討・役割分担の確認等
4	データ分析の解説	データ分析の解説と HAD による実践
5	3 年生共同研究・中間発表資料の作成（1）	①発表資料の作成 ②意見交換と教員コメント
6	3 年生共同研究・中間発表資料の作成（2）	①教員コメントを踏まえた発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント
7	3 年生共同研究・中間発表資料の作成（3）	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の再改訂 ②意見交換と教員コメント
8	3 年生共同研究中間発表 < 2・3・4 年生合同 >	①中間発表 ②意見交換と教員コメント
9	3 年生共同研究・最終発表資料の作成（1）	①中間発表を踏まえた共同研究の発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント
10	3 年生共同研究・最終発表資料の作成（2）	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の改訂と発表準備 ②意見交換と教員コメント
11	3 年生共同研究・最終発表 < 2・3 年生・社会人合同 >	① 3 年生共同研究・最終発表 ②発表に関する質疑・意見交換
12	発表の振り返りと今後の進め方	① 3 年生共同研究発表の振り返り ②卒業論文の研究計画案作成に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
13	4 年生卒論発表（1） < 2・3・4 年生・社会人合同 >	①卒論の発表（前半） ②質疑と社会人・教員コメント
14	4 年生卒論発表（2） < 2・3・4 年生・社会人合同 >	①卒論の発表（後半） ②質疑と社会人・教員コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、発表準備（研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等）はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

研究のより効率的な進め方を、ゼミ生と相談しながら模索していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】

各自が必要なアイデアをどんどん出して、主体的に改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。5・6 時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は 5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。思いを実現できる実務家を、社会に送り出したいと思っています。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.

< Learning Objectives >

- 1.To be able to analyze and interpret survey results
- 2.To be able to write logical and persuasive materials and papers
- 3.Ability to present clearly and respond logically to questions and comments

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

SOC200MA

演習（ライフ）

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。

授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の途中経過を報告し、ディスカッションを行う（チーム1）。
8	プレゼンテーション②	研究の途中経過を報告し、ディスカッションを行う（チーム2）。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム3）。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム4）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50%

期末レポート：50%

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務つけます。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。

ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline (in English)】

In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions.

Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA

演習（ライフ）

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。

授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム1）。
8	プレゼンテーション②	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム2）。
9	研究の実践①	ゼミ論/卒論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム3）。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム4）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50%

期末レポート：50%

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務つけます。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。

ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline (in English)】

In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions.

Students are expected to develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students should be able to acquire management skills through a variety of field activities outside the university.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA

演習（ライフ）

荒川 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習（調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々）を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域（美術、音楽、文芸、映画、ダンス、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等）についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します（そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します）。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。

授業のフィードバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	研究の途中経過を報告し、ディスカッションを行う（チーム1）。
8	プレゼンテーション②	研究の途中経過を報告し、ディスカッションを行う（チーム2）。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。
11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム3）。
14	プレゼンテーション④	研究の成果を報告し、ディスカッションを行う（チーム4）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環としてさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など）：50%

期末レポート：50%

※単位取得の要件として、2 年次の終わりにはレポート執筆、3 年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また 4 年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務つけます。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。

ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline (in English)】

In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions.

Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA

演習（ライフ）

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。今後の日本社会、また国際社会において、私たちはこれまで以上に多様な社会・文化的背景をもつ人々とともに生きていくことになります。その際、困難が伴う場合もあるでしょう。アイルランドやイギリスの経験は、その際の参考になると考えられます。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。スキルとしては、文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、情報のまとめ方といったことを身につけます。

【到達目標】

以下の 4 点を到達目標とする。

1. テーマに関する基本的な知識の習得。
2. 文献を読むスキルの向上（それぞれの文献の論点・エッセンスをきちんとつかむこと）。
3. 必要文献の探し方の習得。
4. 問題関心を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

文献購読・発表、グループディスカッション、グループワークを中心に進めます。文献を読み、各自が毎回レジュメを作成し演習に参加します。レジュメのフィードバックを行うとともに、良い内容については、授業内で共有し、さらなる考察につなげていきます。

【注】下記の授業計画は、状況によって一部変更の場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、ゼミでのルールを確認する。
第 2 回	レジュメの作り方、文献の読み方	ゼミにおいて必要な、基本的なスキル——読書ノートの作り方、報告の仕方、文献購読の基礎——を習得する。
第 3 回	基本文献講読①	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。（基礎編 文献 1）
第 4 回	基本文献講読②	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。（基礎編 文献 2）
第 5 回	基本文献講読③	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。（基礎編 文献 3）
第 6 回	基本文献講読④	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。（基礎編 文献 4）
第 7 回	基本文献講読⑤	文献を読み、内容の理解を深めたいうえでディスカッションをする。（基礎編 文献 5）
第 8 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①	文献サーベイのための、文献の集め方について理解する。
第 9 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方②	論文の読み方について理解する（論文の基本構成にもついても確認する）。
第 10 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方③	レポートの書き方を習得する（基礎ゼミの内容を踏まえたうえで、より良いレポートを書くにはどうしたらよいか、検討する）。
第 11 回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方④	自分の関心にもとづいたテーマを発表をする（文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①～③をふまえる）。
第 12 回	研究発表①	研究発表とディスカッション（前半）。
第 13 回	研究発表②	研究発表とディスカッション（後半）。
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献購読に当たっては、毎回必ず念りに文献を読み、指定されたやり方にしたがって予習をした上で討論に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。

具体的には、
授業への参加姿勢・ゼミへの貢献度 50 %
レポートやレジュメ等課題対応・内容 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックを重視しつつ授業運営をすすめます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。
コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。3 年生終了時までに、国際地域研究 I・II を履修すること。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is British/Irish studies mainly from the perspectives of sociology and culture studies. Students consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.

This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citation styles, and critical reading and writing skills).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading criteria: 1) Seminar report・handouts 50%, 2) In class contribution, seminar discussions 50%

SOC200MA

演習（ライフ）

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】

ゼミのグループ研究を進めるとともに、自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかかわりの中で考えることができるようになります。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容について、全体および個別のフィードバックを行います。

【注】 下記の授業計画は、状況によって一部変更場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 春休みの進捗発表	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	イギリス・アイルランド社会の現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	発表と討論を行う（前半）。
4	文献研究③	発表と討論を行う（中間）。
5	文献研究④	発表と討論を行う（後半）。
6	ここまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
7	調査について学ぶ	情報を収集し、分析する方法について考える。
8	調査について考える	各自の関心、調査の計画を発表する。
9	調査について学ぶ	研究テーマに関する先行研究を調べる。
10	研究発表①	研究構想の発表と議論（前半）。
11	研究発表②	研究構想の発表と議論（後半）。
12	研究テーマの進め方について計画を立てる①	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する（前半）。
13	研究テーマの進め方について計画を立てる②	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する（後半）。
14	総括	まとめ、夏の課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜紹介する。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示・助言する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。
具体的には、レポート・レジュメ等課題 50%、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度 50%。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期から論文の書き方を紹介・指導する。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

不定期で 5・6 限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6 限とも他の予定を入れられないようにしてください。3 年生終了時まで、国際地域研究 I・II を履修すること。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is British/Irish studies mainly from the perspectives of sociology and culture studies. Students consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.

This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citation styles, and critical reading and writing skills).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading criteria: 1) Seminar report, handouts 50%, 2) In class contribution, seminar discussions 50%.

SOC200MA

演習（ライフ）

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

【到達目標】

ゼミのグループ研究を進めるとともに、自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的な関わりの中で考えることができるようになります。またアカデミックスキル（適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力）を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容について、全体および個別のフィードバックを行います。

【注】下記の授業計画は、状況によって一部変更場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夏休みまでの振り返りと今後の進め方についての意見交換	演習の目的と進め方について説明する。
2	テーマの設定	調査研究の構想。
3	文献研究①	発表と討議を行う（前半）。
4	文献研究②	発表と討議を行う（後半）。
5	研究計画	研究計画を練る。
6	調査研究のデザイン	発表と討議を行う。
7	これまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
8	研究の実践①	進捗状況の報告と質疑（前半）。
9	研究の実践②	進捗状況の報告と質疑（中間）。
10	研究の実践③	進捗状況の報告と質疑（後半）。
11	研究の実践④	テーマに関連した資料やデータを収集し、議論を組み立てる。
12	研究発表① <2年生との合同>	研究発表とディスカッション（前半）。
13	研究発表② <2年生との合同>	研究発表とディスカッション（後半）。
14	まとめ・総括 <2年生と合同>	ゼミ全体のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜紹介します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示・助言します。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。具体的には、レポート・レジュメ等の課題 50%、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度 50%。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期の段階から論文の書き方を紹介・指導します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。
コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。3年生終了時まで、国際地域研究Ⅰ・Ⅱを履修すること。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is British/Irish studies mainly from the perspectives of sociology and culture studies. Students consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.

This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citation styles, and critical reading and writing skills).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading criteria: 1) Seminar report・handouts 50%, 2) In class contribution, seminar discussions 50%.

SOC200MA

演習（ライフ）

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。

人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

- ①「地域コミュニティ」に関する考え方を理解する。
- ②各地の事例をみる。
- ③参加者のそれぞれのテーマを実現することができるスキルや方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方については、参加者と相談したうえで行う。基本的な授業の流れは、①共通するテーマに関する文献の購読、②現地見学、③プレゼンテーションと討論、④レポート作成。

最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の作成	具体的にゼミの進行計画を作成する
3	基本文献の講読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
4	基本文献の講読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
5	基本文献の講読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
6	基本文献の購読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
7	基本文献の講読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
8	基本文献の講読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
9	基本文献の講読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
10	基本文献の講読	基本文献のテキスト批評と意見交換。 (参考図書：河野著)を元にする
11	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
12	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
13	個人レポート発表	参加者の関心のあるテーマをレポートにまとめて発表し、意見交換する
14	現地見学会	授業のテーマに合わせて現地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①基本文献は事前に知らせる。発表に先立ち、(参考文献：河野、P14-29)の形式に則して、発表用のレジュメを用意する。
- ②日頃から、地域に関する関心のあるテーマについて情報収集する(新聞、文献、雑誌など)。
- ③見学会は日帰りとし、行先は参加者と検討する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】

金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・地域・自治体の連携ー』同成社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)
討論を含む授業への積極的参加 (30%)
個人またはグループ発表 (20%)
レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

【学生が準備すべき機器他】

随時使用。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (20%),Active participation in class, including discussion (30%),Individual or group presentation (20%)

SOC200MA

演習（ライフ）

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。

人の生き方は、地域との関係を抜きには考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

● 3 年生

①地域コミュニティに関する共同調査によりフィールドワークの技法を学び、コミュニケーション能力をつける。

②「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。

③参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じて自己形成をはかる。

● 4 年生

卒業論文の準備と中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、文献購読など。共同調査の準備作業。

4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。

資料や課題を学習支援システムにアップするので、次週の授業時間までに課題を提出する。宿題は、毎回の授業時までに提出。それ以降の課題の提出は認められない。課題レポート（1 回）のテーマは、授業の進捗状況を見ながら公表する。

最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の計画づくり	ゼミの計画書を作成する
3	文献の講読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
4	文献の講読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
5	文献の講読	ゼミ調査に関する基本文献を購読する
6	現地調査の打ち合わせ準備	現地調査の調査項目と論点を確認する
7	現地調査の打ち合わせ準備	現地調査の調査項目と論点を確認する
8	現地調査	現地調査
9	現地調査	現地調査
10	現地調査	現地調査
11	現地調査	現地調査
12	現地調査の検討	調査後の成果や反省点を確認する
13	報告書作成 (1) ～ (2)	作成・編集作業
14	報告書作成 (1) ～ (2)	作成・編集作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際にグループで調査するので授業時間だけでは足りません。曜日を決めて集まるなど、手間を惜しまずに進歩させることが肝心です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』

ゼミ調査の内容に合わせて、文献をしている。

随時コピーなどを配布する。

【参考書】

金山喜昭『公立博物館を NPO に任せたらー市民・自治体・地域の連携ー』。

随時コピーなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20 %)

討論を含む授業への積極的参加 (30 %)

個人またはグループ発表 (20 %)

レポート (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

【その他の重要事項】

受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。

3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。

夏季休暇には合宿を行う（2 泊 3 日程度）

全員、卒業論文を提出する。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (20%), Active participation in class, including discussion (30%), Individual or group presentation (20%)

SOC200MA

演習（ライフ）

金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。

人の生き方は、地域との関係を抜きには考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設の効果的なあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

● 3 年生

- ①「まちづくり」活動が市民のキャリア形成におよぼす現状を理解する。
- ②参加者が各自で設定したテーマについて調査や分析方法を獲得しレポートを作成する。その発表や討論を通じて自己形成をはかる。

● 4 年生

卒業論文の準備と中間報告、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年生は、説明、実地見学、文献講読など。共同調査と報告書の作成。

4 年生は、卒業論文作成のための調査研究と報告・発表。

最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの設定	各自が研究テーマを検討する。
2	研究テーマの妥当性を再検討する	各自が研究テーマを再検討する。
3	テーマに関する調査・発表・討議①	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。3 回以降、順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
4	テーマに関する調査・発表・討議②	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
5	テーマに関する調査・発表・討議③	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
6	テーマに関する調査・発表・討議④	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
7	テーマに関する調査・発表・討議⑤	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
8	テーマに関する調査・発表・討議⑥	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
9	テーマに関する調査・発表・討議⑦	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
10	テーマに関する調査・発表・討議⑧	各自のテーマに基づいて調査したものをまとめて発表する。順次繰り返して考え方や研究方法の確認とデータを蓄積する。
11	小論文作成のガイダンス	これまでの作業を踏まえて、小論文作成の準備をする。
12	学生研究発表会に向けた準備①	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。
13	学生研究発表会に向けた準備②	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。
14	学生研究発表会に向けた準備③	発表準備の作業と、発表の予行練習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献調査や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

3 年生は卒業論文を踏まえて小論文の作成（学年末）。

4 年生は卒業論文の提出。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、随時指定する。

【参考書】

随時指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）

討論を含む授業への積極的参加（30 %）

個人またはグループ発表（20 %）

レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

【その他の重要事項】

受講に際しては「ミュージアム概論」「ミュージアム経営論」を受講することが望ましい。

3 年生と 4 年生の授業は別に実地する予定。

全員、卒業論文を提出する。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to be will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (20%), Active participation in class, including discussion (30%), Individual or group presentation (20%)

SOC200MA

演習（ライフ）

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
 ・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
 ・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
 ・家族生活を通じた将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
 ・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己理解・他者理解にむけたワーク 1	自己や他者を理解するため、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を始める。
2	自己理解・他者理解にむけたワーク 2	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を進める。
3	自己理解・他者理解にむけたワーク 3	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を深める。
4	自己理解・他者理解にむけたワーク 4	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解だけでなく、他者理解も行う。
5	自己理解・他者理解にむけたワーク 5	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を進める。
6	自己理解・他者理解にむけたワーク 6	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を深める。
7	自己理解・他者理解にむけたワーク 7	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を洗練させ、整理する。
8	文献購読 1	家族に関する文献を読み始め、ディスカッションを行う。
9	文献購読 2	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。
10	文献購読 3	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
11	文献購読 4	家族に関する文献を読み、ディスカッションをさらに洗練させる。
12	文献購読 5	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、さらに理解を深める。
13	総合的整理 1	既読の文献を整理し、各自で見解をまとめる。
14	総合的整理 2	既読の文献をまとめ、その総括的な議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline (in English)】

This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA

演習（ライフ）

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
・家族生活を通じた将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献購読ガイダンス	家族に関する文献を検索し、ディスカッションを行う。
2	文献購読1	家族に関する文献を実際に読み、ディスカッションを行う。
3	文献購読2	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
4	文献購読3	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、各自スピーチをする。
5	文献購読4	家族に関する文献を読み、ディスカッションしてきたことを整理する。
6	社会調査1	ゼミ生共同で1つの調査（アンケート）を行うための調査デザインを始める。
7	社会調査2	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める（仮説作成）。
8	社会調査3	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める（標本設定）。
9	社会調査4	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙作成）。
10	社会調査5	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める（質問紙洗練）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
11	社会調査6	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
12	社会調査7	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める（予備調査結果の解釈）。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
13	社会調査8	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める。また、各自で質的調査（インタビュー）を進める。
14	総合的整理	調査デザインの進展や不備を振り返り、さらに洗練させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline (in English)】

This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways

(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA

演習（ライフ）

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦（パートナー）」というものをテーマとする。

【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。
 ・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する）。
 ・他者理解（現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる）。
 ・家族生活を通じた将来のデザイン（自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活（恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等）や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える）。
 ・調査スキルの獲得（実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的なスキルを修得する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査（アンケート調査）を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会調査 1	ゼミ生共同で1つの調査（アンケート）を行うための調査を進める。本調査に向けた手続きをする。
2	社会調査 2	質問紙の整理をする。標本デザインを洗練させる。
3	社会調査 3	質問紙を配布（回収）するとともに、整理・管理の仕方を学ぶ。
4	社会調査 4	質問士紙の回収を終え、有効票・無効票などのチェックを行う。
5	社会調査 5	データ入力の方法を学ぶ。欠損値等の扱いについて学ぶ。
6	社会調査 6	データ入力を完了させる。
7	社会調査 7	データクリーニングを行う。
8	統計的分析 1	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。記述統計を学ぶ。
9	統計的分析 2	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を学ぶ。
10	統計的分析 3	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を深める。
11	統計的分析 4	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を学ぶ。
12	統計的分析 5	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を深める。
13	各自報告	各自で進めた統計分析の結果を報告する。
14	総合的整理	調査結果や分析結果を整理し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

【Outline (in English)】

This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways

(e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA

演習（ライフ）

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習テーマは「自分で考える力を身につけよう！」です。ニュース記事等をもとにしたディスカッションを通して、ゼミ生同様の意見に触れ、ものの見方の幅を広げつつ、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。

さらに、年度末の学生研究発表会に向けたグループワークにおいて、関心のある社会的テーマを選択し、データ・資料を収集しながら、中間報告・ディスカッションを行い、自分たちの考えをまとめあげていきます。

【到達目標】

ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッションを通して、自分で考え説明できる力を身につけるとともに、グループワークにおいて自分たちでテーマを選択し、データ・資料を収集しながら、学生研究発表会に向けて考えをまとめあげることの到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッション、②学生研究発表会に向けたグループワーク（中間報告・ディスカッション）です。

進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきます。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
2	テキスト購読（1）	社会的存在としての人間
3	テキスト購読（2）	社会学の考え方
4	テキスト購読（3）	社会生活の諸相
5	学生研究発表会準備（1）	研究における問いという観点から
6	学生研究発表会準備（2）	仮説構成という観点から
7	学生研究発表会準備（3）	先行研究のサーベイという観点から
8	ニュース記事ディスカッション（1）	行為の分析
9	ニュース記事ディスカッション（2）	秩序の解説
10	ニュース記事ディスカッション（3）	社会の構想
11	学生研究発表会中間報告（1）	データの整理・分析を中心に
12	学生研究発表会中間報告（2）	論理整合性・ストーリーラインを中心に
13	学生研究発表会中間報告（3）	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に
14	総括	ゼミ内容の総合的なまとめ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講後にお伝えします。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。提出課題については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。

また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The practice theme is “Develop Your Thinking Skill!”

Through discussions based on news articles, etc., students mutually share diverse opinions with other classmates, widen their scopes, and cultivate skills to form their own opinions and explain them.

Furthermore, in the groupwork for the year-end presentation, students select social and cultural themes they are interested in, collect data and materials, and form their collective opinions through interim reports and discussions.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

– A. Acquiring the abilities for thinking and explaining by yourselves through the discussions about various news articles.

– B. Assembling considerations for the workshop by selecting the topics and gleaning literature and data by yourselves.

(Learning activities outside of classroom)

Before the workshop, you will be expected to make the concept gleaning literature and data by yourselves.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Assignments : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA

演習（ライフ）

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え!』」です。

社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。

当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会的に研究し、ゼミ論（3年次）、卒論（4年次）を作成できるようになることをめざします。社会的な視点・発想に基づいていけば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
- (3) ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表・全体ディスカッション、②テキスト講読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。

進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、休日出校（2日程度【土日】）を予定しています。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション：春学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト講読（1）	社会の中の人間、集団と個人
3	テキスト講読（2）	文化と価値
4	テキスト講読（3）	システムと生活世界
5	テキスト講読（4）	場面と対面
6	テキスト講読（5）	変容する家族
7	テキスト講読（6）	都市の人間関係
8	テキスト講読（7）	階層移動と学歴
9	テキスト講読（8）	逸脱と社会変動
10	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（1）	研究における問いという観点から
11	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（2）	仮説構成という観点から
12	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（3）	調査の方法という観点から
13	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表（4）	データの整理・分析という観点から
14	春学期総括	春学期ゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、構想発表に備えてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講後にお伝えします。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論・卒論（50%）、平常点（50%）。

ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。

平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。

また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The practice theme is "Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!"

Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.

As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to A, B, and C.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.

- C. Completing seminar essays and graduation theses with the certain standards in quantity and quality.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the presentation by deep consideration with gleaning literature and data.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Seminar essay Graduation thesis : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA

演習（ライフ）

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え!』」です。

社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。

当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会的に研究し、ゼミ論（3年次）、卒論（4年次）を作成できるようになることをめざします。社会的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
- (3) ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表・全体ディスカッション、②テキスト講読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。

進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、休日出校（2日程度【土日】）を予定しています。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論完成に向けたオリエンテーション：秋学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト講読（1）	意味と相互主観性
3	テキスト講読（2）	社会的アイデンティティ
4	テキスト講読（3）	ラベリング・ステイグマ、正常／異常
5	テキスト講読（4）	社会構築主義
6	テキスト講読（5）	ジェンダー
7	テキスト講読（6）	社会の中の権力
8	テキスト講読（7）	共同体、国家、市民社会
9	テキスト講読（8）	移民、国民国家、グローバル化
10	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（1）	問題意識の明確化を中心に
11	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（2）	論理整合性・ストーリーラインを中心に
12	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（3）	学術的意義・独自性を中心に
13	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表（4）	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に
14	年間総括	1年間のゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表に備えてください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講後にお伝えします。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論・卒論（50%）、平常点（50%）。

ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。

平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。

また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The practice theme is "Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!"

Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.

As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to A, B, and C.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.

- C. Completing seminar essays and graduation theses with the certain standards in quantity and quality.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the presentation by deepen consideration with gleaning literature and data.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Seminar essay Graduation thesis : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA

演習 (ライフ)

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
- ②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
- ③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深掘していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。

尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Century Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(70%)、期末レポートや講義内課題(30%)による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】

*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力もばせるようサポートしていきます。

【Outline (in English)】

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills, as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA

演習 (ライフ)

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
- ②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
- ③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深掘していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。

尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Century Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(70%)、期末レポートや講義内課題(30%)による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】

*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力もばせるようサポートしていきます。

【Outline (in English)】

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills, as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA

演習 (ライフ)

田中 研之輔

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 6/Thu.6 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
- ②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
- ③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深掘していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。

尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。

フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク
6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロティアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロティアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク

9	プロティアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Century Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロティアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(70%)、期末レポートや講義内課題(30%)による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

【その他の重要事項】

*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力もばせるようサポートしていきます。

【Outline (in English)】

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills, as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA

演習（ライフ）

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習（ゼミ）の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この 2 つの柱をもとに、どのような人間の行動や心理が「社会のなかでより良く生きる（live a good life）、よい人生を送る」とことと関連するのか、つまり「ライフキャリアの質」を高めることにつながるのかについて検討します。そして、どのような取り組み（プログラム）がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。

【到達目標】

- ① 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
- ② 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因（問題）の分析が行えるようになる。
- ③ 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び、研究していく形で全く問題ありません。ただ、そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく、より広く社会の関心事（例：社会課題）であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように、つまり“そんなことが分かかってどうするのか（so what?）”あるいは“そんなことを研究して何になるのか（for what?）”とならないように、できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み、個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また 3 年生と共同で調査データの収集・分析を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	ウェルビーイング①	ライフキャリア支援の考え方について、ウェルビーイングの視点から学ぶ。
第 3 回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングについての論点整理および仮説生成。
第 4 回	学年別ゼミ①	ゼミ論構想発表（2 年）、ゼミ論データ分析演習（3 年）
第 5 回	コミュニティ感覚①	コミュニティ感覚についての論点整理と仮説生成。
第 6 回	コミュニティ感覚②	前回の仮説生成に基づく研究アイデアの検討。
第 7 回	学年別ゼミ②	データ分析演習（2 年）、ゼミ論進捗報告（3 年）。
第 8 回	エンパワメント①	エンパワメント概念の論点整理。
第 9 回	エンパワメント②	グループワークによる仮説生成。
第 10 回	予防科学	コミュニティ心理学に基づく予防科学の論点整理と仮説生成。
第 11 回	ゼミ論構想発表会	3 年のゼミ論構想発表会およびディスカッション。
第 12 回	卒業論文発表会	4 年の卒業発表会およびディスカッション
第 13 回	今後の研究課題の検討	コミュニティ心理学に基づく研究課題の設定。
第 14 回	まとめ	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を活用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。また課題図書（テキスト）は授業時に検討・決定する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之，2011，新曜社）

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good live in the future.

Goal

- ・ Know programs that are relevant to individual and community well-being
- ・ Understand ways of analyzing social issues and solving those problems.
- ・ Understand your own quality of life from psychological points of view.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for class presentations

SOC200MA

演習（ライフ）

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの分析を行う。またキャリアデザインに関する量的調査研究の計画・実施・分析方法を学ぶ。

【到達目標】

- ① 各自が関心をもつプログラムの分析・評価スキルを習得する。
- ② 量的調査研究の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業（演習）では、各自の研究テーマに沿ったプログラムの分析を行う。2年次に行った社会課題の分析を通して、課題解決に向けたプログラムのゴールの明確化を行う。そして、各自のプログラムのロジックモデルを完成させる。またキャリアデザインの調査研究の演習として、グループで量的調査を計画・実施する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	個人研究テーマの検討と共有①	2年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する。
第 3 回	個人研究テーマの検討と共有②	2年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する。
第 4 回	個人研究テーマの検討と共有③	2年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する。
第 5 回	ライフキャリア調査研究の検討①	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 6 回	ライフキャリア調査研究の検討②	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 7 回	ライフキャリア調査研究の検討③	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第 8 回	ライフキャリア調査研究の実施①	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 9 回	ライフキャリア調査研究の実施②	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 10 回	ライフキャリア調査研究の実施③	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 11 回	ライフキャリア調査研究の実施④	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 12 回	ライフキャリア調査研究の実施⑤	調査を実施し、データの分析および結果の考察を行う。
第 13 回	個人研究の進捗状況の確認	各自の研究についてゼミで共有し進捗状況を確認する。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人の研究テーマ（プログラム評価の準備）に関しては、ゼミ以外の時間（個人学習やサブゼミ活用）で継続的に進め、しっかりとプレゼンテーションできるようにしてください。また 4 年生は、秋学期での卒業論文完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之，2011，新曜社）

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Students will acquire knowledge and skills to develop and evaluation life-designing programs in this seminar. Particular attention will be placed on helping students to develop quantitative-analytic techniques to conduct related research studies.

Learning Objectives:

- ・ Build analytic skills to evaluation programs that you are interested in
- 2. Gain skills to conduct quantitative research

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for class presentations

SOC200MA

演習（ライフ）

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの評価を実施し、卒業論文の執筆準備（3 年生）および執筆（4 年生）を行う。

【到達目標】

- ① 継続的に分析を行ってきたライフキャリア支援のプログラムの評価の計画・実施スキルを習得する。
- ② 評価データの収集と結果の分析・考察方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が関心をもつ社会課題とその解決を目的として実施されるプログラムの評価研究を行う。そのために、評価実施のスケジュールを作成し、ゼミでのディスカッションを通して評価内容や評価方法を検討する。評価のスケジュールに沿って質的・量的データを収集し、分析を行う。そして卒業論文の執筆の準備を開始する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第 2 回	個人研究の検討と共有①	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 3 回	個人研究の検討と共有②	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 4 回	個人研究の検討と共有③	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 5 回	個人研究の検討と共有④	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 6 回	個人研究テーマの検討と共有⑤	各自の研究についてプログラム評価等に関する先行研究のレビューを行いゼミで共有する。
第 7 回	調査実施に向けた準備①	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う（個人発表）。
第 8 回	調査実施に向けた準備②	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う（個人発表）。
第 9 回	調査実施に向けた準備③	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う（個人発表）。
第 10 回	調査実施に向けた準備④	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う（個人発表）。
第 11 回	調査実施に向けた準備⑤	研究やプログラム評価実施のスケジュールに沿って、量的・質的データを収集する。評価の進捗状況についてプレゼンテーションを行う（個人発表）。
第 12 回	調査結果の分析と考察の執筆①	各自で収集した調査データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う。
第 13 回	調査結果の分析と考察の執筆②	各自で収集した調査データの結果を分析し、卒業論文の執筆準備を行う。
第 14 回	総括	半期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマをゼミの時間以外でも継続的に進めてください。また 4 年生は卒業論文の完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之、2011、新曜社）

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表（50%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでのグループ作業と個人の研究指導とのバランスをとる。

【Outline (in English)】

Students are to prepare individual research studies (junior) and complete their thesis (senior) throughout this seminar.

Goal

- ・ Develop skills to evaluate life-designing programs
- ・ Know the ways to collect data and analyze results

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities
50 points (%) for class presentations

SOC200MA

演習（ライフ）

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。z

【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 3 回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表①	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表②	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表③	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表④	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表⑤	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表⑨	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表⑪	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline (in English)】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.

SOC200MA

演習（ライフ）

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。z

【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第 3 回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表①	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表②	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表③	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表④	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表⑤	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表⑨	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表⑪	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表内容の出来（50 %）とディスカッションの内容（50 %）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline (in English)】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.

SOC200MA

演習（ライフ）

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 6/Wed.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。

【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

3 年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第 2 回	社会心理学研究の実施・発表①	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 3 回	社会心理学研究の実施・発表②	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 4 回	社会心理学研究の実施・発表③	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 5 回	社会心理学研究の実施・発表④	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 6 回	社会心理学研究の実施・発表⑤	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 7 回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 8 回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 9 回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 10 回	社会心理学研究の実施・発表⑨	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 11 回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 12 回	社会心理学研究の実施・発表⑪	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 13 回	社会心理学研究の実施・発表⑫	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。
第 14 回	社会心理学研究の実施・発表⑬	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集・分析を行い、結果を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表内容の出来（50%）とディスカッションの内容（50%）から評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

【Outline (in English)】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

遠藤 野ゆり

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質の高い卒業論文を書きます。データを収集する方法、根拠を示しながら論理的に読者を説得する力を習得します。考えを文章でまとめ、わかりやすく表現する能力を習得します。

【到達目標】

明確な問いを立ててそれに対する適切なデータ・資料を収集し価値ある考察をする。それを文章で適切に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

4 年生は卒業論文の報告とディスカッションの繰り返しです。1 カ月に 1 度、進捗状況を確認する面談もしくはメールでの相談を行います。卒業論文の執筆状況を鑑みながら適宜個別面談にてフィードバックを行います。11 月中旬に時間外授業にて卒業論文の全員報告会を行います。これに対するフィードバックはメールにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	卒業論文構想発表	卒業論文の構想を発表します。授業全体の計画を立てます。
2	卒業論文進捗状況発表①	卒業論文執筆者 1 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
3	卒業論文進捗状況発表②	卒業論文執筆者 2 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
4	卒業論文進捗状況発表③	卒業論文執筆者 3 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
5	卒業論文進捗状況発表④	卒業論文執筆者 4 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
6	卒業論文進捗状況発表⑤	卒業論文執筆者 5 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
7	卒業論文進捗状況発表⑥	卒業論文執筆者 6 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
8	卒業論文進捗状況発表⑦	卒業論文執筆者により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
9	卒業論文進捗状況発表⑧	卒業論文執筆者 7 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
10	卒業論文進捗状況発表⑨	卒業論文執筆者 8 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
11	卒業論文進捗状況発表⑩	卒業論文執筆者 9 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
12	卒業論文進捗状況発表⑪	卒業論文執筆者 10 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
13	卒業論文進捗状況発表⑫	卒業論文執筆者 11 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
14	卒業論文進捗状況発表⑬	卒業論文執筆者 12 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
15	卒業論文進捗状況発表⑭	卒業論文執筆者 1・2 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
16	卒業論文進捗状況発表⑮	卒業論文執筆者 3・4 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。

17	卒業論文進捗状況発表⑯	卒業論文執筆者 5・6 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
18	卒業論文進捗状況発表⑰	卒業論文執筆者 7・8 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
19	卒業論文進捗状況発表⑱	卒業論文執筆者 9・10 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
20	卒業論文進捗状況発表⑲	卒業論文執筆者 11・12 人目により卒論の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
21	卒業論文最終報告会前半	卒業論文の最後の報告会を行います（前半）
22	卒業論文最終報告会後半	卒業論文の西郷の報告会を行います（後半）
23	卒業論文口述試験前半	卒業論文の口述試験を行います（前半）
24	卒業論文口述試験後半	卒業論文の口述試験を行います（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データを取り卒業論文を執筆する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 100 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートからは特に要望はありませんが、受講生の要望を応じて柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業時間外でも必要に応じて適宜質問、相談にくること。就職活動等のスケジュールによって授業に参加できない場合は、1 カ月に 1 回程度は進捗状況の報告をすること。

【Outline (in English)】

This class aims to write a high quality thesis.

The aims are to learn how to collect data, to gain the ability to persuade the reader logically with evidences. We will compile sentences with ideas and master the ability to express them clearly.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

児美川 孝一郎

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】

卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の執筆に向けて、「授業の概要と目的」に書いたように指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックは、そのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
3	研究方法の概説②	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
4	研究方法の概説③	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
6	テーマの設定②	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
9	先行研究の調査②	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
10	先行研究の調査③	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	先行研究の調査④	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
12	先行研究の調査⑤	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
14	研究計画の確定②	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
15	調査データの整備①	調査データの収集、データベース化を行う。
16	調査データの整備②	調査データの収集、データベース化を行う。
17	調査データの整備③	調査データの収集、データベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	検証仮説等について再検討を行う。
19	検証仮説の検討②	検証仮説等について再検討を行う。
20	検証仮説の検討③	検証仮説等について再検討を行う。
21	分析の実施①	仮説およびデータを用いて分析を行う。

22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。
23	論文執筆①	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
27	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
28	リファインの作業③	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文以前に、3年生からのゼミ活動に熱心に取り組みることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、研究への取り組み（50%）および論文の内容（50%）に基づいて行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを生かして、卒業論文指導を行う。

【Outline (in English)】

This course gives guidance for writing graduation thesis.

The goal of this course is to write graduation thesis.

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting.

Final grade will be calculated according to the evaluation of graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

坂本 旬

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年間の学習成果を論文執筆または映像作品の制作
 受講生は卒業論文の執筆または卒業制作として映像作品を制作する。

【到達目標】

3年間の学習成果をふまえ、自己の問題意識をよりいっそう高めて、学問的社会的に価値のある論文の執筆または映像作品を制作することができる。（要件等については「履修の手引き」参照。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒論指導は原則として月曜5限または6限目を中心に行う。（3年ゼミに重ならないように調整）。卒論は論文またはドキュメンタリー映像作品（ドキュメンタリードラマも含む）のいずれかとする。どちらを選ぶか、あらかじめ選択しておくこと。

「演習（発達・教育）」を履修すること。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは HOPS を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、27 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学習方法を解説する（Zoom によるオンライン授業）
2	卒論の書き方・作品の作り方 (1)	メディアを活用した基本的な論文の書き方と映像作品の作り方
3	卒論の書き方・作品の作り方 (2)	テーマの決め方と論文・映像の構成
4	卒論の書き方・作品の作り方 (3)	仮のテーマを決める
5	卒論の書き方・作品の作り方 (4)	さまざまな情報収集の方法（Evernote の活用法）
6	卒論の書き方・作品の作り方 (5)	OPAC による書誌情報の収集の仕方
7	卒論の書き方・作品の作り方 (6)	各種のオンラインデータベースの使い方
8	卒論の書き方・作品の作り方 (7)	RefWorks 等を活用した情報を管理方法
9	卒論の書き方・作品の作り方 (8)	アウトラインプロセッサを活用した論文や作品の構成の作り方
10	卒論の書き方・作品の作り方 (9)	情報共有のための GoogleDocs の使い方
11	テーマの設定と構成 (1)	論文や作品のテーマの設定
12	テーマの設定と構成 (2)	テーマに関する事前情報の収集と構成
13	テーマの設定と構成 (3)	問題意識を整理して文章とリストにまとめる
14	春期授業の振り返り	春期の授業で学んだことを振り返り秋期学習の準備をする
15	テーマの発表	テーマを発表し、いろいろな人の意見を聞く（夏合宿）
16	情報の収集と構成 (1)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
17	情報の収集と構成 (2)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
18	情報の収集と構成 (3)	情報の収集と構成を考える（映像の場合は絵コンテの制作）
19	情報の整理と執筆・撮影の準備	収集した情報をパソコンに取り込んで整理し、執筆や撮影に備える
20	執筆（撮影・編集）～完成	完成に向けた論文の執筆（映像の場合は撮影・編集）と個別指導
21	卒論・卒業制作企画書の制作	企画書のフォーマットに沿って企画書・絵コンテを作る

22	卒論・卒業制作企画書の検討	作成した企画書・絵コンテを全員で検討する
23	卒論・卒業制作の分担の決定	執筆または撮影、編集など個々人の分担を決める
24	卒論・卒業制作の制作・撮影の下準備	データの収集および映像撮影のロケハンを行う
25	執筆・撮影の実施	企画書や絵コンテにもとづいて執筆や撮影を行う
26	執筆・撮影の中間報告	執筆・撮影内容を検討し、不足がある場合は執筆や撮影を追加する
27	編集と完成	編集作業を行い、完成させる
28	学習の振り返り	これまでの制作活動を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論・卒業作品は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

坂本旬『メテアアリテラシーを学ぶ』大月書店（2022 年）
 坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局（2014 年）
 寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

構成、引用・参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。卒業論文の場合は、論文としての形式 50%、内容 50%、合計 100%。卒業制作の場合は、提出文書（絵コンテを含む）50%、コンテンツ 50%、合計 100%。

【学生の意見等からの気づき】

論文・卒業作品のテーマはできるだけ早めに決定し、必要なスケジュールをたてる必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

論文作成にはパソコンを用いる。ドキュメンタリー作品の制作については、DV カメラとパソコンを用いる。

【その他の重要事項】

ドキュメンタリービデオを卒論として選択する場合、ビデオ制作は一人一作品とするが、制作過程にゼミ生同士が協力し合うことは可とする。一作品の長さは一人で制作する場合 15～20 分程度。複数人で制作する場合はこの数字に人数をかけたものとなる。

また、ビデオ作品は、映像制作の意図を含む企画書、シナリオ（絵コンテ）、ナレーション原稿、参考文献一覧表、制作記録、等を含め、1万 2000 字以上の文字原稿を付けて一つの作品とみなす。ビデオだけでは作品と見なさないで、注意すること。

その他の詳細については、卒論指導時に紹介する。

【Outline (in English)】

Students will choose either a paper or a video work as the outcome of their three-year study. In the case of a paper, the student will write an academic paper on the theme of the seminar. In the case of a video work, students will produce a documentary film. Writing of the paper and video work will be done mainly outside of class, and students will receive guidance as necessary. The paper and video work will be reviewed after completion. Grading will be decided based on paper or video work content(80%) and formality(20%),

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

田澤 実

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、インプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】

・重要な理論と方法論を説明できる
 ・重要な研究成果について、その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の執筆に向けて指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	実証研究および文献サーベイ等について説明する。
3	研究方法の概説②	各方法に依拠した文献を検討する。
4	研究方法の決定	自らの関心事に基づいて研究方法を決定する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明する。
6	テーマの設定②	自らの問題意識を探り、候補となるテーマのキーワードを洗い出す。
7	テーマの設定③	候補となるテーマを決定する。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を収集する。
9	先行研究の調査②	収集した先行研究から要点を抜き出す。
10	先行研究の調査③	先行研究で明らかになっていることをまとめる。
11	先行研究の調査④	先行研究の知見と残された課題を識別する。
12	先行研究の調査⑤	先行研究を通じて、自らが扱う研究の位置づけを明らかにする。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法に要する時間を見積もる。
14	研究計画の確定②	実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
15	調査データの整備①	調査データを収集する。
16	調査データの整備②	収集した調査データの概要を把握する。
17	調査データの整備③	調査データについてデータベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	問題背景について再検討を行う。
19	検証仮説の検討②	目的について再検討を行う。
20	検証仮説の検討③	仮説検証等々について再検討を行う。
21	分析の実施①	仮説を決定する。
22	分析の実施②	データを用いて分析を行う。
23	論文執筆①	研究デザイン等との各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	検証結果、発見事項等の各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	インプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	ゼミにおいて論文を発表する。
27	リファインの作業②	寄せられた意見を踏まえて論文をリファインする。
28	リファインの作業③	リファインの作業を経て、論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文以前に、3年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

卒業論文に書かれた内容（100%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを取り入れながら卒業論文指導を行う。

【Outline (in English)】

Students will develop the skill of writing academic reports. By the end of the period, students should have the following competencies:

- ・ Explain and describe primary methods and theories.
 - ・ Assess critical studies in their ways, results, conclusions, and impact.
- Students are required to submit assignments after each class session. Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Grades will be determined based on reports (100%).

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

筒井 美紀

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育・生活・文化・労働・政策の、少なくともいずれか1つをテーマとして、社会学の卒業論文を完成させる。

【到達目標】

「嗚呼、その答えが知りたい！」と読者に思わせ、社会的意義のある、かつ、学術論文の型・作法をマスターした「美しい」、内容の濃い、社会学の卒業論文を書き上げること、それがこの演習のゴールである。そのプロセスであなたは、より高次の精神性をもって生きてゆくことの意味を実感するだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

発表担当者が自身の研究の報告をし、それをもとに自由闊達に議論をする。

【授業の進め方】

学術論文を書き上げるには、実にたくさんの作業をこなし、そのなかで習熟していくことが不可欠である。それゆえ筒井ゼミでは、「仕上がった学術論文・本ってのはこういうものなのだ」という、「美しい完成品」の「審美眼（どうやって組み立てられ、何が部材として使われているから素晴らしいのかの理解）」を養う。卒論執筆は、「じゃあ自分も一丁やってみるか」とそれを実践に移すものだ。怒涛のような作業のなかで、自分の初発の問題関心とセンスを信じて失わずに続けられるか。我流では難しい。だから適宜フィードバックする。その大前提は自力でどんどん進めることだ。課題である発表レジュメはコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画の発表①	「学術論文 7 つの構成要素」の①～⑤を盛り込んで書き、それを発表する。
2	研究計画の発表②	前回続き（順番に発表）。リファインする。ゴーサインが出次第、実査に入る。
3	研究計画の発表③	前回続き（順番に発表）。リファインする。
4	研究計画の発表④	前回続き（順番に発表）。リファインする。
5	分析結果の発表と検討①	データ分析・知見・考察の検討（順番に発表）。
6	分析結果の発表と検討②	データ分析・知見・考察の検討（順番に発表）。
7	分析結果の発表と検討③	データ分析・知見の検討（順番に発表）。
8	分析結果の発表と検討④	データ分析・知見の検討（順番に発表）。
9	分析結果の発表と検討⑤	考察と解釈の検討（順番に発表）。
10	分析結果の発表と検討⑥	考察と解釈の検討（順番に発表）。
11	分析結果の発表と検討⑦	考察と解釈の検討（順番に発表）。
12	分析結果の発表と検討⑧	考察と解釈の検討（順番に発表）。
13	章立ての検討①	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する（順番に発表）。
14	章立ての検討②	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する（順番に発表）。
15	章立ての検討③	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する（順番に発表）。
16	章立ての検討④	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する（順番に発表）。
17	草稿の一部をもとにアドバイス①	1 章分を目安に指導する。
18	草稿の一部をもとにアドバイス②	分析の諸章に関して指導する。
19	草稿の一部をもとにアドバイス③	分析の諸章に関して指導する。
20	草稿の一部をもとにアドバイス④	分析の諸章に関して指導する。
21	草稿の一部をもとにアドバイス⑤	分析の諸章に関して指導する。
22	草稿の一部をもとにアドバイス⑥	序章と終章に関して指導する。

23	草稿の一部をもとにアドバイス⑦	序章と終章に関して指導する。
24	草稿の一部をもとにアドバイス⑧	序章と終章に関して指導する。
25	第一稿の朱入れ①	リライトのポイントを助言。
26	第一稿の朱入れ②	リライトのポイントを助言。
27	第一稿の朱入れ③	リライトのポイントを助言。
28	第一稿の朱入れ④	リライトのポイントを助言。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論執筆に必要なこと全てを行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示。

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の出来具合 100%。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムの掲示板にアップされたレジュメに対して、同じく掲示板を用いたコメントのフィードバックが好評なので続けます。

【Outline (in English)】

The students are to write a sociological graduation thesis, choosing the theme from education, life, culture, labour, and/or policy. Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents on your thesis. Study time will a few hours for a class. Grading will be based on the quality of the graduation thesis.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

樋田 有一郎

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における学修の集大成として卒業論文に取り組みます。卒業論文としてふさわしい課題設定、論文構成、議論、考察を行います。

【到達目標】

論文としてふさわしい形にすること、他者に自分の考察を伝えられることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

個人の作業と全体での検討を並行して行います。随時、メールや対面で指導をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒業論文の位置づけ、意義について説明します。卒業論文に取り組むという意識を高めます。
第 2 回	テーマの設定（1）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
第 3 回	テーマの設定（2）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
第 4 回	テーマの設定（3）	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。
第 5 回	調査方法の設定（1）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
第 6 回	調査方法の設定（2）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
第 7 回	調査方法の設定（3）	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。
第 8 回	先行研究の調査（1）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
第 9 回	先行研究の調査（2）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
第 10 回	先行研究の調査（3）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
第 11 回	先行研究の調査（4）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
第 12 回	先行研究の調査（5）	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。
第 13 回	中間報告（1）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
第 14 回	中間報告（2）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
第 15 回	中間報告（3）	テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
第 16 回	分析の実施と経過発表（1）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
第 17 回	分析の実施と経過発表（2）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。

第 18 回	分析の実施と経過発表（3）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
第 19 回	分析の実施と経過発表（4）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
第 20 回	分析の実施と経過発表（5）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
第 21 回	分析の実施と経過発表（6）	各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。
第 22 回	論文完成にむけた個別指導（1）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
第 23 回	論文完成にむけた個別指導（2）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
第 24 回	論文完成にむけた個別指導（3）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
第 25 回	論文完成にむけた個別指導（4）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
第 26 回	論文完成にむけた個別指導（5）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
第 27 回	論文完成にむけた個別指導（6）	それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。
第 28 回	最終仕上げ	論文としてふさわしい構成になっているかどうかを確認しながら、最終的な仕上げを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関する文献を空き時間に探し、計画的に読んでいくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

特に定めない

【成績評価の方法と基準】

論文の内容 100%

【学生の意見等からの気づき】

互いの学修を助けあうような雰囲気を醸成していきたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, the students are going to write on graduation thesis as a compilation of their studies at the university.
 Learning Objectives: The goal is to make it suitable for a paper and to be able to communicate your thoughts to others.
 Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
 Grading Criteria: 100% determined by the content of the paper.

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

廣川 進

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成の方法と手順を理解し、獲得し、実際に論文を完成させる。

【到達目標】

各自が卒業論文として研究するテーマを選び、そのテーマについて調査、文献調査、文章の推敲、討論、等々をとおして、自らの主張としての論文を完成させ、大学卒業にふさわしい知的探求者へと成長することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、スキルを蓄積していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文作成に取り組む意義と準備すべき点について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究という二つの研究方法の特徴と性格について概説する。
3	研究方法の概説②	理論研究、実証研究それぞれの手順の概要を説明する。
4	研究方法の概説③	前回の続きに加えて文献の探し方を紹介する。
5	テーマの設定①	執筆者の問題意識を整理する。
6	テーマの設定②	問題意識から、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③	テーマを報告し、他者の批判に応え説明する。
8	先行研究の調査	洗い出したテーマに関する先行研究を広く調査し、そこに示されている知見と残された課題を識別する。その上で、先行研究に何が足りないか、いかなる課題や問題が残されているかを把握する。
9	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、先行研究のレビューと批判、検証仮説の作成、データ収集方法および分析方法など、計画する。
10	小論文の執筆	課題、論点など明確にし、いくつかの点について、実際に論文を書き、書くことの意味を実感する。
11	個人研究発表①	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
12	個人研究発表②	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
13	個人研究発表③	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
14	個人研究発表④	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
15	個人研究発表⑤	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
16	研究計画の再検討	研究テーマ・課題、検証すべき仮説、用いる研究方法を再検討し、研究計画を再検討する。
17	調査データの収集と整理①	それぞれの研究計画に従いつつ、量的データ、質的データを収集し、データベース化を行う。
18	調査データの収集と整理②	調査を一定読み込み、自分の研究テーマに照らしてその意味を検討する。
19	調査データによる検証仮説の検討①	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。
20	調査データによる検証仮説の検討②	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。

21	分析の実施①～②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。
23	論文執筆	実際の論文執筆体制に入る。
24	論文のリファイン	ゼミで論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
25	論文の完成①	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
26	論文の完成②	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
27	論文の完成③	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
28	論文の完成④	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3年生からのゼミ活動に熱心に取り組み、卒業論文作成のイメージと課題意識を培っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

論文完成に至るまでの研究への取り組み（50%）、および論文の内容（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の探究したいテーマを重視して、研究計画を作っていく指導を行う。

【Outline (in English)】

This course will help you to write your graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

EDU400MA

卒業論文（発達・教育）

松尾 知明

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独自のテーマを追究して、多文化共生と教育に関する卒業論文を完成させる。多文化社会と教育に関連する調査研究を進めることを通して、多文化共生の実現に向けた方策やあり方の一端を検討して、そのための示唆を得る。

【到達目標】

・自分の興味・関心に基づき、多文化共生と教育に関するテーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。
 ・調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、演習内で指導を行う。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文にまとめる。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の考え方・進め方について
2	テーマの検討	調査研究の構想
3	テーマの設定	テーマと調査研究の立案
4	先行研究の収集	先行研究の進め方
5	先行研究の検討	文献リストの発表と質疑
6	先行研究の整理	文献リストの発表と質疑
7	リサーチクエッションと研究計画の検討	リサーチクエッションの設定
8	リサーチクエッションと研究計画の構想	リサーチクエッションに応える研究計画の構想
9	データの収集の考え方	データの収集と整理の考え方・進め方
10	データの収集	進捗状況の報告と質疑
11	データの収集と検討	進捗状況の報告と質疑
12	データの整理	進捗状況の報告と質疑
13	中間発表①前半	発表と質疑
14	中間発表②後半	発表と質疑
15	進捗状況の報告と計画の見直し	研究活動の振り返り
16	データ分析の考え方	データ分析の考え方・進め方
17	データ分析の方法	進捗状況の報告と質疑
18	データ分析の実際	進捗状況の報告と質疑
19	データ分析の見直し	進捗状況の報告と質疑
20	データ分析の完了	進捗状況の報告と質疑
21	卒業論文の執筆①論文とは	卒業論文の執筆の考え方・進め方
22	卒業論文の執筆②アウトライン	進捗状況の報告と質疑
23	卒業論文の執筆③論文の表現	進捗状況の報告と質疑
24	卒業論文の執筆④論文の展開	進捗状況の報告と質疑
25	卒業論文の執筆⑤校正	卒業論文の推敲の考え方・進め方
26	卒業論文の執筆⑥仕上げ	進捗状況の報告と質疑
27	卒論発表①前半	プレゼンと質疑
28	卒論発表②後半	プレゼンと質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業において適宜紹介する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

主体的な参加の姿勢、課題やプレゼン（30%）、論文の形式や内容（70%）などをもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進められるように留意する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Graduate theses on multicultural symbiosis and education are completed by setting up and exploring individually selected themes. Through conducting research projects related to multicultural society and education, how to actualize multicultural coexistence is discussed and implicated.

【到達目標 / Goal】

Students are able to set up a theme, plan the research design, and conduct a research on issues related to multicultural symbiosis and education.

Students are able to complete graduate thesis on the multicultural issue according to the notes of thesis preparation.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on assignments and presentations (30%) and graduate thesis (70%).

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

上西 充子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の完成に向けて、自らの問題意識に即した研究テーマの設定、論文の構成、先行研究の調査、データの収集と分析、調査結果の整理と記述の方法などを段階的に学び、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

自らが明らかにすべき問いを立てることができる。
研究課題を絞り込み、先行研究への適切な言及と適切な研究方法によって、その研究課題を明らかにすることができる。
読み手に説得的な論述を行った卒論を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

下記の授業計画に従って、演習内で指導を行います。秋学期には適宜個別指導を並行して行います。フィードバックはその都度、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	卒論ガイダンス	卒論執筆の意義について説明する
2	卒論執筆スケジュールの検討	卒論執筆スケジュールを検討する
3	卒論構想の発表	各自の問題意識を発表する
4	卒論構想の検討	各自の問題意識を深める
5	研究方法の概説	研究方法について概説する
6	量的調査法の検討	量的調査法に基づく文献を検討する
7	質的調査法の検討	質的調査法に基づく文献を検討する
8	研究課題の設定	各自の問題意識を深め研究課題を絞り込む
9	研究課題の文章化	研究課題を文章化する
10	先行研究の調査	先行研究の探し方を学ぶ
11	先行研究の検討	収集した先行研究を検討する
12	先行研究の整理	先行研究から得られる知見を理解し、分析の視点から学ぶとともに、残された課題を認識する
13	研究計画の検討	研究課題に即した研究計画を検討する
14	研究計画の策定	調査方法を具体的に検討し、調査・執筆スケジュールを検討する
15	調査結果の発表	調査結果を整理して発表する
16	分析方法の検討	調査結果の分析方法を改めて検討する
17	分析結果の発表	分析結果を発表する
18	知見の検討	調査結果から得られた知見を検討する
19	知見の文章化	得られた知見を文章化する
20	章立ての検討	論文全体の構成案を検討する
21	執筆内容の検討：課題設定	課題設定の執筆内容を検討する
22	執筆内容の検討：先行研究	先行研究の検討の執筆内容を検討する
23	執筆内容の検討：調査結果	調査結果の執筆内容を検討する
24	執筆内容の検討：まとめ	まとめの執筆内容を検討する
25	執筆内容の検討：文献リスト	文献リストの内容を検討する
26	論文の発表	論文を発表し、寄せられたコメントを検討する
27	論文のリファイン	コメントを踏まえて論文を修正する
28	卒論発表	提出した卒論の要旨を発表し、その内容と意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献を読み込む。
データの収集と分析を行う。
卒論の完成に向けて、執筆を進める。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

その他の参考書については、必要に応じて、随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

先行研究の論旨の的確な把握、引用や記述のルールの順守、分析方法の的確さ（40%）、文章の明確さ、論理構成の的確さ（40%）、課題設定の独創性、知見の独創性（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題の絞り込みが難しいと感じる学生が多いように見受けられます。先行研究の収集・分析と並行しての研究課題の絞り込みを早期からサポートしていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn step-by-step how to set up a research theme in line with their interests, structure a thesis, research previous studies, collect and analyze data, and organize and describe the results of their research.

【Learning Objectives】

Students are expected to complete their thesis using appropriate research methods.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to survey previous research, collect and analyze data, and work towards the completion of the thesis.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Accurate understanding of previous research and appropriate analysis methods: 40%,

Logical description: 40%

Originality 20%

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

梅崎 修

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年生を対象に、キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。
 学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】

学術論文のための論文作成方法を学ぶ。具体的には、調査から意味解釈や因果関係の推測、さらには検証ができる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は論文の書き方を指導し、秋学期は論文に具体的コメントを行う。個別指導が中心であるが、春学期に 1 回、秋学期 1 回、発表会を行う。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のスケジュール確認	卒業論文の年間スケジュールを確認する。
2	卒論テーマ報告（1）	1 人 30 分 × 3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
3	卒論テーマ報告（2）	1 人 30 分 × 3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
4	卒論テーマ報告（3）	1 人 30 分 × 3 名で卒論テーマを発表し、議論する。
5	卒論テーマ報告（4）	1 人 30 分 × 2 名で卒論テーマを発表し、議論する。
6	調査方法講義（ヒアリング調査）	卒業論文で使える方法論について講義する。
7	調査方法講義（観察法）	卒業論文で使える方法論について講義する。
8	調査計画発表（5）	1 人 30 分 × 3 名で調査計画を発表し、議論する。
9	調査計画発表（6）	1 人 30 分 × 3 名で調査計画を発表し、議論する。
10	調査計画発表（7）	1 人 30 分 × 3 名で調査計画を発表し、議論する。
11	調査計画発表（8）	1 人 30 分 × 2 名で調査計画を発表し、議論する。
12	論文構成	論文構成の書き方を講義。
13	図書館と情報検索のやり方	情報検索の方法を講義。
14	先行研究のまとめ方	先行研究を整理する方法を講義。
15	相談	調査計画の個別相談を受ける。
16	調査結果の報告（9）	1 人 30 分 × 3 名で調査結果を発表し、議論する。
17	調査結果の報告（10）	1 人 30 分 × 3 名で調査結果を発表し、議論する。
18	調査結果の報告（11）	1 人 30 分 × 3 名で調査結果を発表し、議論する。
19	調査結果の報告（12）	1 人 30 分 × 2 名で調査結果を発表し、議論する。
20	調査結果の分析・解釈（1）	1 人 30 分 × 3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
21	調査結果の分析・解釈（2）	1 人 30 分 × 3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
22	調査結果の分析・解釈（3）	1 人 30 分 × 3 名で分析・解釈を発表し、議論する。
23	調査結果の分析・解釈（4）	1 人 30 分 × 2 名で分析・解釈を発表し、議論する。
24	発表方法	プレゼンテーションの方法を講義する。
25	議論の方法	質問、批判の方法を学ぶ。
26	卒論発表会（1）	1 人約 30 分 × 3 名で卒論発表。
27	卒論発表会（2）	1 人約 30 分 × 3 名で卒論発表。
28	卒論発表会（3）	1 人約 30 分 × 3 名で卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に調査、執筆を行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

作品の完成度を 80%、授業での発言など貢献度を 20 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成だけでなく、論文の発表方法も教授し、簡潔でわかりやすい発表ができるようにする。

【Outline (in English)】

I will provide support to fourth graders for writing their graduation thesis and producing academically valuable papers.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(80%) and in-class contribution(20%).

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

木村 琢磨

単位数：4 単位 | 開講semester：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

ビジネスキャリアに関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。目的
 自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得する。

【到達目標】

卒業論文の完成を到達目標とし、リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者各自が1本の論文を完成させるため、各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告のスケジューリングは、受講生を複数のグループに分けて設定し、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、論文作成はスケジュール通りに進むものではないので、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。報告内容に基づき授業内で個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	参考論文の輪読 (1)	仮説検証型の論文を読み、仮説検証型研究の方法を理解する
第2回	参考論文の輪読 (2)	仮説探索型の論文を読み、仮説探索型研究の方法を理解する
第3回	研究計画の作成方法	研究を計画的に進めるための計画の立て方を理解する
第4回	リサーチ・クエスチョンの設定方法	論文のテーマ設定、テーマの改訂を行うための考え方を理解する
第5回	先行研究の調査方法	先行研究となる論文・調査の参照の方法、まとめ方・分析方法について理解する
第6回	仮説設定の方法	仮説検証型研究における仮説の設定方法を理解する
第7回	質的調査法 (1)	インタビュー調査の実施方法の説明
第8回	質的調査法 (2)	参与観察・観察調査の実施方法の説明
第9回	量的調査法 (1)	アンケート調査の実施方法の説明
第10回	量的調査法 (2)	公開データの分析方法の説明
第11回	先行研究の調査結果発表 (1)	第1グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第12回	先行研究の調査結果発表 (2)	第2グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第13回	先行研究の調査結果発表 (3)	第3グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第14回	調査計画の決定 (1)	第1グループ、第2グループ。9月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第15回	調査計画の決定 (2)	第2グループ、第3グループ。9月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第16回	第1次調査結果の発表 (1)	第1グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第17回	第1次調査結果の発表 (2)	第2グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第18回	第1次調査結果の発表 (3)	第3グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第19回	論文の全体構成の検討 (1)	第1グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する

第20回	論文の全体構成の検討 (2)	第2グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第21回	論文の全体構成の検討 (3)	第3グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第22回	第2次調査結果報告 (1)	第1グループ、第2グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第23回	第2次調査結果報告 (2)	第2グループ、第3グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第24回	論文の草稿作成 (1)	第1グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第25回	論文の草稿作成 (2)	第2グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第26回	論文の草稿作成 (3)	第3グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第27回	最終プレゼンテーション (1)	第1グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる
第28回	最終プレゼンテーション (2)	第2グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間を使えるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【参考書】

渡辺知明 (2015) 『文章添削の教科書』 芸術新聞社
 井下千以子 (2014) 『思考を鍛えるレポート・論文作成法 (第2版)』 慶應義塾大学出版会
 そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・卒業論文の水準 (70%)、口述試験 (30%)
 ・卒業論文の評価基準：
 テーマの重要性 (20点)、論理性 (20点)、調査方法・分析の妥当性 (20点)、独創性 (10点) の4要素の合計点で評価する。
 ・口述試験の評価基準
 論文の正確かつ明瞭な説明 (10点)、的確な質疑応答 (20点)
 ※卒業論文の評価要素4つのうち独創性以外の3要素すべてにおいて10点以上であること、および口述試験が15点以上であることを単位認定の最低要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない（参考図書を読んで各自行うこと）。論文指導は研究内容に関することに集中して行う。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course is designed to complete the undergraduate thesis project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

Learning Objectives

1. Can design and implement research project.
2. Can develop hypotheses or research questions based on prior studies
3. Can implement empirical analysis or theoretical analysis in proper ways.

Learning activities outside of classroom

1. Research planning
2. Literature Review
3. Data collection and analysis
4. Writing mid-term report and final thesis.

Summarize the key issues in the lectures
 Analyze literature and quantitative or qualitative data to write an academic paper.

Grading Criteria

1. Final thesis (70%): Topic (20), Theory and Logic (20), Research and Analysis (20), Uniqueness (10)
2. Oral presentation (30%): Explanation (10), Discussion (20)

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

酒井 理

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、自分たちが手がけたマーケティングに関わるプロジェクトを論文にします。

現状を把握するための分析、実際の問題を解決するための実践のプロセスを通して、仮説設定と検証実験による学術的なアプローチを学びます。

【到達目標】

卒業論文の完成が最終目標です。アンケート調査、インタビュー調査などで集めたデータを使用した実証的な研究方法によって論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

必ず実証データを使用して研究を進めてもらいます。アンケートでデータを集めても結構ですし、消費者へのインタビューや街頭観察でデータを収集することも結構です。さらに企業訪問してインタビューを行うのも推奨します。とにかく、実際に現場に向いて自分でデータを集めて現象について考察することを求めます。自分の足で現場に向いてデータを直接集めます。学生の提出された課題のフィードバックは、毎回、授業時の指導としておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
2	テーマ・仮説の設定 1	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
3	テーマ・仮説の設定 2	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
4	テーマ・仮説の設定 3	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
5	文献サーベイ 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
6	文献サーベイ 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
7	文献サーベイ 3	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
8	リサーチデザイン 1	自分で考えたりサーチの進め方を報告します。
9	リサーチデザイン 2	自分で考えたりサーチの進め方を報告します。
10	リサーチデザイン 3	自分で考えたりサーチの進め方を報告します。
11	リサーチ結果報告 1	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
12	リサーチ結果報告 2	実際に現場に出てリサーチした結果（集めたデータの分析結果）を報告します。
13	リサーチ方法の改善 1	本格的なりサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
14	リサーチ方法の改善 2	本格的なりサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
15	オリエンテーション	秋学期の進め方について意見交換を行います。
16	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
17	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
18	個別指導 1	各自執筆と個別指導を行います。
19	個別指導 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
20	個別指導 3	各自執筆と個別指導を行います。
21	中間発表 1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
22	中間発表 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
23	個別指導 1	論文執筆の途中経過の報告を行います。

24	個別指導 2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
25	個別指導 3	論文執筆の途中経過の報告を行います。
26	研究成果の発表 1	最終的に完成した論文の内容を発表します。
27	研究成果の発表 2	最終的に完成した論文の内容を発表します。
28	研究成果の発表 3	最終的に完成した論文の内容を発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の出来事はすべて現場で起きています。フィールド（現場）に向いて研究を進めることを強く推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

各自の研究成果である卒業論文の評価が 100% です。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【その他の重要事項】

学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this lesson, we will make a paper on marketing projects which we have conducted.

We will learn academic approaches based on hypothesis setting and verification experiments on analysis to understand the current situation and practice process to solve problems in a "real" world.

[Learning Objectives]

The final goal is to complete a graduation thesis. The thesis will be completed through empirical research methods using data collected through questionnaires, interviews, and other surveys.

[Method]

Students are encouraged to use empirical data, whether quantitative or qualitative, to guide their research. Empirical data can be surveys, log data, consumer interviews, or street observations. Visits to companies to conduct interviews are also encouraged. Students are asked to actually go to the field and collect their own data to discuss the phenomenon. Please visit the field with your own feet and collect data directly. Feedback on student's submitted assignments will be given as guidance in each class.

[Learning activities outside of classroom]

All social events are happening on the ground. Students are strongly encouraged to go into the field to conduct research. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The evaluation of the graduation thesis is 100%.

Logic, contribution to society, and empirical research are the evaluation criteria.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

坂爪 洋美

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年間の学習の集大成として、自らの興味関心に基づき研究テーマを設定し、テーマに基づく調査の実施、調査結果の検討を通じて、卒業論文を完成させます。

【到達目標】

卒業論文作成上の到達目標は以下の通りです

- (1) 興味関心を研究テーマとして構築できるようになる
- (2) 研究テーマに関連する先行研究をレビューしまとめられるようになる
- (3) 調査を設計し実施できるようになる
- (4) 調査結果の分析ができるようになる
- (5) 分析結果をふまえ論文を執筆できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前期については論文執筆に進め方ならびに調査の実施に関するレクチャーが中心になる。後期は調査実施状況に応じた個別指導が中心となる。毎回提出されたレジュメに対して、個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマについての検討（1）	各自の興味に基づき研究テーマを抽出する
第 2 回	研究テーマについての検討（2）	各自の興味に基づき研究テーマを精査する
第 3 回	論文の書き方について理解する（1）	卒業論文の構成と書き方について講義と実習を行う
第 4 回	論文の書き方について理解する（2）	論文を読みつつ、論文の基本的な書き方について学習する
第 5 回	先行研究のレビューを理解する（1）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第 6 回	先行研究のレビューを理解する（2）	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第 7 回	先行研究のレビューを理解する（3）	先行研究のまとめ方をレクチャーし、集めた資料をまとめる
第 8 回	調査計画を立案する（1）	研究テーマを仮説として構築する
第 9 回	調査計画を立案する（2）	研究テーマを仮説として構築する
第 10 回	調査計画を立案する（3）	仮説のブラッシュアップを図る
第 11 回	調査票の作成（1）	仮説検証に必要な調査票を作成する（1）
第 12 回	調査票の作成（2）	仮説検証に必要な調査票を作成する（2）
第 13 回	中間報告（1）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 14 回	中間報告（2）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 15 回	中間報告（3）	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第 16 回	夏休みの報告	夏休み中の進捗について報告する
第 17 回	分析方法を学ぶ（1）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 18 回	分析方法を学ぶ（2）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 19 回	分析方法を学ぶ（3）	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第 20 回	結果をまとめる（1）	分析結果を論文としてまとめる方法について講義を行った上で、各自結果をまとめる
第 21 回	結果をまとめる（2）	結果を論文としてまとめる
第 22 回	考察の進め方を学ぶ（1）	考察の進め方をレクチャーした上で、各自考察の進め方を検討する
第 23 回	考察の進め方を学ぶ（2）	各自考察をまとめる

第 24 回	論文の書き方（1）	論文の書き方についてのレクチャーを行い、各自これまでの成果を論文としてまとめる
第 25 回	論文の書き方（2）	論文として書き上げたものについて検討する
第 26 回	論文の書き方（3）	論文として書き上げたものについて検討する
第 27 回	論文発表（1）	論文を発表しコメントをもらう
第 28 回	論文発表（2）	論文を発表しコメントをもらう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成は各自が主体的に行うものである。授業は進捗の確認と進捗のサポートが中心であることから、何よりも主体的・積極的な準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

各自のテーマに合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度に基づいて評価します。

具体的には、①問題設定の明確さ 20%、②先行研究の充実度 20%、③調査結果の適切な分析 20%、④仮説に基づいた考察 20%、⑤文章の明確さ 20%、です。

【学生の意見等からの気づき】

調査の実施時期を前倒しにし、余裕を持ったスケジュールとします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis. This course provide the student with knowledge of how to seek facts and how to plan, carry out and present work as well as theoretical and practical specialization within a industrial/organizational psychological subject area.

The objectives for writing the graduation thesis are as follows:

- (1) To be able to construct a research theme based on one's interests
- (2) To be able to review and summarize previous research related to the research theme
- (3) To be able to design and conduct a survey
- (4) To be able to analyze the results of a survey
- (5) To be able to analyze the research results

The preparation of the graduation thesis is a self-initiated process. Since the class focuses on checking progress and supporting progress, proactive and active preparation is required above all. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The criteria for grading are as follows. Specifically, they are as follows. (1) clarity of problem formulation 20%, (2) thoroughness of prior research 20%, (3) appropriate analysis of research results 20%, (4) hypothesis-based discussion 20%, and (5) clarity of writing 20%.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

佐藤 厚

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒論作成を演習及び学部での学びの総決算として位置づけて指導します。参加者各自の研究テーマを設定し、関連文献の収集とレビュー、実証的データの収集と分析に基づき、論理一貫性のある論旨を展開しながら、説得力ある結論を導く文章の作成および作成能力の獲得を目標とします。

【到達目標】

各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。各自の卒論テーマに関連した文献レビューを幅広く行い、内容を理解してもらおう。また先行研究の知見と自分の考えを区別して論述する力を養成する。以上の学習を通じて、①テーマ設定力、②テーマに基づく情報収集力、③収集した情報を分析する方法、④分析結果を論理的な文章にまとめる思考力と編集力、を形成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。合宿をはさんで、秋学期は、文章全体の章別構成の明確化と説得力ある文章の作成、および論文の完成を目標とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒論執筆の意義、執筆のプロセスなど
第 2 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（1）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 3 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（2）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 4 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（3）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 5 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（4）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 6 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（5）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 7 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（6）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 8 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（7）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 9 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（8）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 10 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（9）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 11 回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー（10）	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第 12 回	卒論骨子の発表とコメント（1）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第 13 回	卒論骨子の発表とコメント（2）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第 14 回	卒論骨子の発表とコメント（3）	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう

第 15 回	テーマ設定、章別構成、構造化された文章の書き方について	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる際の留意事項を理解する
第 16 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（1）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 17 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（2）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 18 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（3）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 19 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（4）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 20 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（5）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 21 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（6）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 22 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（7）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 23 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（8）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 24 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（9）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 25 回	論旨、章別構成の明確化と執筆（10）	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第 26 回	執筆と推敲（1）	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲（1）
第 27 回	執筆と推敲（2）	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲（2）
第 28 回	口頭試問	論旨を口頭で説明し、コメントについてリプライする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

系統的な文献の収集と読み込みが必要です。執筆にむけた一定の執筆時間の確保が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業時に指示します。

【参考書】

各自の関心に応じて適宜、文献を指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミでの報告への取り組みと論文の到達水準、完成度（70 %）
 口頭試問での論旨の口頭説明及びコメントへのリプライの的確さ（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

中間段階での到達点を明確化し、課題を意識してもらおう。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

In this class, students study each topics through writing paper for graduation.

Main purpose of this class is to complete paper for graduation, collecting useful information for each topics, then analysing the information based on some research method, and writing structured sentences.

【Goal】

We will provide individual writing guidance according to each person's awareness of the problem and the theme.

The spring semester will focus on problem awareness, clarification of themes, and collection and review of key literature.

Perform a wide range of literature reviews related to your bachelor thesis theme and have them understand the content.

In addition, develop the ability to distinguish and discuss the findings of previous research and one's own ideas.

Through the above learning, you will develop (1) theme setting ability, (2) theme-based information gathering ability, (3) method of analyzing collected information, and (4) thinking ability and editing ability to summarize the analysis results into logical sentences.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to collect and read systematic literature.

It is necessary to secure a certain amount of writing time for writing. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

We will evaluate each seminar's efforts to report, the achievement level of the dissertation, and the degree of completion.

Emphasis is placed on the accuracy of oral explanations and replies to comments in oral examinations.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

武石 恵美子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。キャリアデザイン学の視点から自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の学びの集大成とする。

【到達目標】

卒業論文執筆により、自らの問題意識をもとに課題を設定し、その課題解決のために実証的な方法によって論証を行い、課題に対する結論を導く能力の開発を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は、春学期は論文の書き方等の指導を講義形式で行い、秋学期は個別指導を中心に進め論文の完成を目指す。課題等の提出・フィードバックは各授業の中で個別に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	論文テーマの発表	論文の構想、テーマを報告し、研究にあたっての問題意識を明確にする。
2	論文の書き方の基礎	卒業研究とは、論文の書き方の基礎。
3	論文の書き方の事例	具体的な論文を読みながらポイントを解説する。
4	研究方法の解説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。
5	研究の背景の明確化	各自の研究テーマに関する現状や課題等の背景を明確にする。
6	研究の意義の明確化	各自の研究テーマについて、背景を踏まえた研究の意義を明確にする。
7	研究計画の策定	研究計画について説明する。
8	研究内容の決定	研究計画を策定して、具体的な内容を詰める。
9	先行研究のサーベイ	テーマに関連する先行研究を広く調査する方法を解説する。
10	先行研究の検討	先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	実証のやり方	実証のための方法について解説する。
12	実証方法の検討、具体化	実証のための方法を検討し、実証のための方法をより具体的に決定する（調査対象、内容等の決定）。
13	データ等の収集	データを収集する。
14	春学期のまとめと総括	各自の論文の経過報告を行い、総括する。
15	中間報告会	中間報告を行う。
16	中間報告会の講評	中間報告の講評を行う。
17	現状把握のデータ整理	現状についてのデータ収集とその整理を行う。
18	現状分析	現状についてのデータ収集とその分析を行う。
19	データの解釈	データの解釈を行う。
20	仮説の検証、論証	現状分析を踏まえた仮説検証の方法を知る。自分の研究に照らして仮説の検証、論証を行う。
21	論文執筆	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプ리케이션等の各パーツについて執筆を行う。
22	論文執筆とフィードバック	執筆部分についてのフィードバックを行う。
23	論文の修正	執筆部分についてのフィードバックを踏まえた修正を行う。
24	論文発表	論文を発表して意見を聴く
25	論文発表からの検討	発表に対する意見を踏まえて内容を検討する。
26	論文の修正	論文の修正を行う。
27	論文完成	論文提出に向け、論文を完成させる。

28 卒業論文発表会

2,3,4 年生合同ゼミにおいて、卒業論文の発表および質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆のための文献研究や調査・分析等を自主的に行う必要がある。卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが何より重要であり、当然であるが、授業に出席するだけでは論文は執筆できない。本授業の各回における準備学習・復習時間は 3 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

個人のテーマに応じて適宜指定する。

【参考書】

個人のテーマに応じて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

論文の内容を総合的に評価する。

具体的には、問題意識の設定、先行研究サーベイの的確さ、現状分析を踏まえた結論と考察が論理的に導かれているという点を重視し、論文の成果で評価する（論文の成果が 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

進行に関して互いの報告会を行い、情報を共有しつつ、互いの問題意識から触発を受けるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

研究の内容によってパソコンが必要になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this seminar, students will write the graduation thesis about carrier design studies. They will examine own article theme and complete learning of 4 years.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to develop the ability to set a problem based on students' own awareness of the problem, to solve it by an empirical method, and to draw conclusions.

【Learning activities outside of classroom】 In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis for their graduation thesis. Students required study time is at least 3 hours.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on the quality of the students' graduation thesis.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

中野 貴之

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】

一定水準以上の論文として、卒業論文を仕上げることに到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と発表とを組み合わせて行う。卒業論文の構想、草稿については、議論の上、「朱」を入れるなど随時フィードバックを行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第 2 回	研究方法の概説 (1)	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。3 回に分けて考察する。
第 3 回	研究方法の概説 (2)	実証研究の意義と限界について考察する。
第 4 回	研究方法の概説 (3)	文献サーベイの方法について検討する。
第 5 回	テーマの設定 (1)	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
第 6 回	テーマの設定 (2)	受講者が研究テーマについて発表する (第 1 回目)。
第 7 回	テーマの設定 (3)	受講者が研究テーマについて発表する (第 2 回目)。
第 8 回	先行研究の調査 (1)	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する方法について概説する。
第 9 回	先行研究の調査 (2)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第 1 回目)。
第 10 回	先行研究の調査 (3)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第 2 回目)。
第 11 回	先行研究の調査 (4)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第 3 回目)。
第 12 回	先行研究の調査 (5)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第 4 回目)。
第 13 回	研究計画の策定 (1)	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
第 14 回	研究計画の策定 (2)	受講者の研究計画について発表する。
第 15 回	調査データの整備 (1)	調査データの収集、データベース化の方法について指導する。
第 16 回	調査データの整備 (2)	受講者別にデータ、文献のデータベース化について指導する。
第 17 回	検証仮説の検討 (1)	検証仮説等について再検討を行う。
第 18 回	検証仮説の検討 (2)	受講者の検証仮説等について発表を行う。
第 19 回	分析の実施 (1)	仮説およびデータを用いて分析を行う。
第 20 回	分析の実施 (2)	分析結果の解釈および追加分析を行う。
第 21 回	論文執筆 (1)	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
第 22 回	論文執筆 (2)	原稿を具体的に遂行していく (第 1 回目)。
第 23 回	論文執筆 (3)	原稿を具体的に遂行していく (第 2 回目)。
第 24 回	リファインの作業 (1)	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。

第 25 回	リファインの作業 (2)	リファインした点を中心に発表を行う (第 1 回目)。
第 26 回	リファインの作業 (3)	リファインした点を中心に発表を行う (第 2 回目)。
第 27 回	最終調整 (1)	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第 28 回	最終調整 (2)	最終原稿の最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文以前に、ゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

- ①研究への取り組みおよび研究指導への対応 (40%)
- ②論文の形式的完成度 (20%)
- ③先行研究文献に対する研究の新規性、信頼性および独自性 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていきます。

【Outline (in English)】

*Course outline

The purpose of this course is to provide students with a comprehensive method of writing a graduation thesis. I will provide specific guidance on surveying previous research, data analysis and interpretation.

*Learning Objectives

The goal is to complete the graduation thesis as a paper of a certain level or higher.

*Learning activities outside of classroom

It is important to work diligently on the seminar activities. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Attitude toward research: 40%, Formality and completeness of the paper: 20%, Novelty, reliability, and originality of the research: 40%.

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

松浦 民恵

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

【到達目標】

- ①論文の問いが設定できるようになること
- ②調査を企画・設計し、実施できるようになること
- ③調査結果の分析・解釈ができるようになること
- ④分析結果を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は研究計画書や調査に関する相談、秋学期は分析や執筆に関する相談を行う。

授業計画はアンケート調査を実施する場合を想定して記述しているが、テーマや調査方法に応じて進め方は変更する。

受講生と相談のうえ、卒論指導の方法を一部オンラインに変更する可能性がある。

なお、フィードバックは卒論指導や発表の都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと卒業論文の研究計画書の発表	①オリエンテーション ②4年生による卒業論文の研究計画書の発表
第 2 回	論文執筆に向けた解説	③質疑と教員コメント 卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第 3 回	問いの検討（1）	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討（第1グループ）
第 4 回	問いの検討（2）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第2グループ）
第 5 回	問いの検討（3）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第3グループ）
第 6 回	問いの再検討	①先行研究の追加サーベイ ②コメントを踏まえた問いの再検討
第 7 回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第 8 回	資料作成	構想発表会資料の準備
第 9 回	構想発表会（1）	研究計画の提示と検討（第1グループ）
第 10 回	構想発表会（2）	研究計画の提示と検討（第2グループ）
第 11 回	構想発表会（3）	研究計画の提示と検討（第3グループ）
第 12 回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第 13 回	調査方法の策定	問いに答えられる、仮説を検証できる調査方法の検討・策定
第 14 回	調査項目・調査票の作成	調査方法に応じて調査項目や調査票を作成
第 15 回	オリエンテーション	①オリエンテーション ②研究の進捗共有と意見交換
第 16 回	分析の相談（1）	調査の分析方法に関する相談（第1グループ）
第 17 回	分析の相談（2）	調査の分析方法に関する相談（第2グループ）
第 18 回	データ分析の解説	データ分析の解説と HAD による実践
第 19 回	分析の相談（3）	調査の分析方法に関する相談（第3グループ）
第 20 回	分析	各自分析を進める

第 21 回	執筆の相談（1）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第1グループ）
第 22 回	執筆の相談（2）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第2グループ）
第 23 回	執筆の相談（3）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する（第3グループ）
第 24 回	論文の推敲（1）	論文をお互いに推敲する
第 25 回	論文の推敲（2）	論文をお互いに推敲する（続き）
第 26 回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第 27 回	論文発表（1）	論文の発表と質疑（第1グループ）
第 28 回	論文発表（2）	論文の発表と質疑（第2グループ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくことになります（授業は進捗確認と必要に応じたアドバイスを中心）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

取り組みの進め方（30%）、卒業論文の内容（40%）、口述試験等の発表・質疑（30%）によって評価します。

卒業論文の内容は、以下の観点から評価します。

- ①問いの立て方（自己の関心が絞られているか、独創性があるか等）
- ②先行研究レビュー（十分にサーベイがなされているか等）
- ③調査の企画・設計・実施・分析（適切な手順、方法か等）
- ④文章の展開（論理的な説得力があるか等）

【学生の意見等からの気づき】

スケジュールをできるだけ前倒しにしていきたいと考えております。また、完成してからでなく、研究フレームワークがある程度見えてきた段階で、ビジネスパーソン等との対話の機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

演習（ビジネス）3・4年生（春5限・秋6限）とは別に卒論指導を行うことがあります。演習（ビジネス）3・4年生（春・秋）にも出席してください。秋学期の2年生との合同ゼミは5限スタートになります。演習の時限が内容によって変則的になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.

< Learning Objectives >

- ・ Ability to set appropriate questions
- ・ To be able to plan, design and conduct surveys
- ・ To be able to analyze and interpret survey results
- ・ To be able to write persuasive and logical sentences based on the results of analysis

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on how to proceed with the graduation thesis (30%), the content of the graduation thesis (40%), and the presentation of graduation thesis (30%).

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

荒川 裕子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化やアート、趣味、生き甲斐、地域コミュニティといった観点からキャリアデザインにアプローチし、論文を作成します。問題提起（研究テーマの設定）、先行研究のサーベイ、論文の構成（章立て）、ヒアリングやアンケート、文献などによる調査のしかた等を段階的に学んでいき、最終的にアカデミックな論文を完成させることを目指します。

【到達目標】

大学における四年間の学びの集大成として、アカデミックな形式ののつとった論文を執筆します。自分自身の関心領域や問題意識を明確にし、仮説を組み立て、それを論証していくために必要な資料やデータを収集し、説得力のある文章にまとめていく力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が自らのテーマにそって個別に研究を進めると同時に、適宜、教室において論文作成の経過報告を行い、他の受講生たちとのディスカッションを通じて考察を深めていきます。必要に応じて、教員による個別指導も複数回実施します。学生へのフィードバックは適宜授業内に時間を設けて行うとともに、学習支援システムでも共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学術論文とは何か、について説明する。
第 2 回	研究方法の概要①	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する。
第 3 回	研究方法の概要②	前回に引き続き、理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方についてより詳しく説明するとともに、より広範な研究事例を紹介する。
第 4 回	研究テーマの設定①	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（チーム 1）。
第 5 回	研究テーマの設定②	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（チーム 2）。
第 6 回	研究テーマの設定③	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく（チーム 3）。
第 7 回	先行研究の調査①	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく（チーム 1）。
第 8 回	先行研究の調査②	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく（チーム 2）。
第 9 回	研究計画の策定①	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（チーム 1）。
第 10 回	研究計画の策定②	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（チーム 2）。
第 11 回	研究計画の策定③	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる（チーム 3）。
第 12 回	中間報告①	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する（チーム 1）。

第 13 回	中間報告②	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する（チーム 2）。
第 14 回	中間報告③	各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する（チーム 3）。
第 15 回	調査の実施とデータの集積①	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく（チーム 1）。
第 16 回	調査の実施とデータの集積②	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく（チーム 2）。
第 17 回	仮説の検討①	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（チーム 1）。
第 18 回	仮説の検討②	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（チーム 2）。
第 19 回	仮説の検討③	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる（チーム 3）。
第 20 回	論文の組み立て①	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（チーム 1）。
第 21 回	論文の組み立て②	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（チーム 2）。
第 22 回	論文の組み立て③	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う（チーム 3）。
第 23 回	論文の執筆①	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（チーム 1）。
第 24 回	論文の執筆②	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（チーム 2）。
第 25 回	論文の執筆③	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う（チーム 3）。
第 26 回	リファインの作業①	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う（チーム 1）。
第 27 回	リファインの作業②	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う（チーム 2）。
第 28 回	論文の完成	論文の提出に向けて書式等を整え、最終的な仕上げを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。また、ときどきの発表に向けて、スライドやレジュメの作成等の準備作業を行うことも求められます。こうした準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリント資料を配布します。また、一年次に履修した基礎ゼミのテキストやノートを適宜活用するのが望ましいです。

【参考書】

授業中に適宜提示します。各自のテーマにそった文献の紹介も適宜行います。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢：50 %
 論文の完成度：50 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students develop the ability to write an academic paper exploring a human way of life based on a theme using key words such as culture and art.

The goal of this course is to write a thesis in an academic format as the culmination of your four years of study at university.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Commitment to research (50%) and completeness of the thesis (50%).

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

金山 喜昭

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO 活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

卒業論文の作成を目標とする。4 年間の学業の集大成として位置づけ、卒業後のキャリア形成にとってのコア形成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の準備と中間報告・論文を完成させる。課題等に対するフィードバック方法としては、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前年研究成果発表①	小論文を発表する。
2	前年研究成果発表②	小論文を発表する。
3	前年研究成果発表③	小論文を発表する。
4	テーマの設定①	小論文のテーマを検討する。発表。
5	テーマの設定②	小論文のテーマを検討する。発表。
6	テーマの再検討	発表を基にして再度テーマの妥当性について再検討して発表する。
7	卒論作成のための準備作業①	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
8	卒論作成のための準備作業②	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
9	卒論作成のための準備作業③	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
10	卒論作成のための準備作業④	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
11	卒論作成のための準備作業⑤	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
12	卒論作成のための準備作業⑥	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
13	卒論作成のための準備作業⑦	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
14	夏休みの課題を確認する	卒論作成に必要な夏休みの作業を確認する。
15	卒論作成のための準備作業⑧	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
16	卒論作成のための準備作業⑨	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
17	卒論作成のための準備作業⑩	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
18	卒論作成のための準備作業⑪	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
19	卒論作成のための準備作業⑫	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
20	卒論作成のための準備作業⑬	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
21	卒論作成のための準備作業⑭	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
22	卒論作成のための準備作業⑮	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
23	卒論作成のための準備作業⑯	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
24	卒論作成のための準備作業⑰	文献調査、データ収集、現地調査の状況を発表する。
25	卒論提出	卒論提出前の最終確認。
26	卒論面接	卒論に対する質問やコメントをする。
27	卒論発表①	ゼミ生（3 年生を含む）に卒論を発表する。

28 卒論発表②

ゼミ生（3 年生を含む）に卒論を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、卒論に必要とされる調査をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】

随時、資料などを配布する。
個別に指導する中で、参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）
討論を含む授業への積極的参加（20 %）
卒業論文（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to be will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (10%), Active participation in class, including discussion (20%),graduation thesis(70 %)

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

齋藤 嘉孝

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の完成を最終目標とする。そのために必要な学問的知識や技術、視点などを学ぶ。各自がそれぞれのテーマで取り組むことになるが、共通するテーマとして「家族」に関するものを選ぶこととする。

【到達目標】

卒業論文の執筆を目標とする。論文を書き上げるのであって、レポートやエッセイではないことに注意したい。学術的な論理やエビデンス、文章法などが必要となるが、それらの習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文を作成するため、各段階ごとに指導する。先行研究の読み込み方や引用のしかた、データの収集や分析方法、および社会や政策への提言の書き方等について、具体的に取りあげる。履修者は各自で学習していき、その進展に応じて指導を行う。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の概要や意義等について
2	研究方法 1	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法について学ぶ
3	研究方法 2	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についてより深く学ぶ
4	研究方法 3	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についての学びを洗練させる
5	テーマ設定 1	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考え始める
6	テーマ設定 2	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考える
7	テーマ設定 3	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかをより深く吟味する
8	先行研究の探索 1	テーマに関連する先行研究を調査し始め、それらの知見と残された課題を識別する
9	先行研究の探索 2	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する
10	先行研究の探索 3	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題の識別を深める
11	先行研究の探索 4	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題を整理する
12	先行研究の探索 5	テーマに関連する先行研究をさらにより広く調査し、それらの知見と残された課題の整理を洗練させる
13	研究・調査計画の策定 1	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等を計画する
14	研究・調査計画の策定 2	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等の計画を洗練させる
15	データ収集 1	調査データの収集・入力・整理等の準備をおこなう
16	データ収集 2	調査データの収集・入力・整理等を始める
17	データ収集 3	調査データの収集・入力・整理等を実際におこなう
18	データ収集 4	調査データの収集・入力・整理等の作業をまとめる

19	データ分析 1	検証仮説を再検討し、データを分析し始める
20	データ分析 2	検証仮説を再検討し、データを分析する
21	データ分析 3	検証仮説を再検討し、データ分析を深める
22	データ分析 4	検証仮説を再検討し、データを分析結果を解釈する
23	論文執筆 1	論文における形式・書式・文章作成等を学び、実際に執筆する
24	論文執筆 2	論文における形式・書式・文章作成等を学び、執筆内容を深める
25	報告およびディスカッション 1	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を作成する
26	報告およびディスカッション 2	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を洗練させる
27	論文完成 1	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等をおこなう
28	論文完成 2	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等を洗練させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 年次からのゼミ活動やこれまでの各授業等において、熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】

The aim of this course is to complete an academic paper. Learn necessary academic knowledge, skills and perspectives along with each student's theme. The individual theme must be chosen among the topics concerning families. Learning objective of this course is to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

佐藤 恵

単位数：4 単位 | 開講semester：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。

この授業では、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、卒業論文を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていけば、各自の論文のテーマは自由です。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
- (3) 卒業論文を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ゼミ論（卒論のベース）における発見のシェア、②卒業論文作成に向けた中間発表・全体ディスカッション、③卒業論文執筆です。

進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週の卒論ゼミの時間以外に、休日出校（休日出校は春学期・秋学期とも各2日程度〔土休日〕）を予定しています。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション
2	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定
3	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討
4	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の検討結果を発表
5	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討:質的調査（インタビュー法、観察法、ライフストーリー法）や文献研究
6	研究方法の決定、調査内容等の検討	調査対象、調査時期、調査内容について発表と指導
7	研究の中間とりまとめ（1）	中間発表に向けた準備：研究における問いという観点から
8	研究の中間とりまとめ（2）	中間発表に向けた準備：仮説構成という観点から
9	研究の中間とりまとめ（3）	中間発表に向けた準備：調査の方法という観点から
10	調査研究データの分析（1）	収集したデータの整理
11	調査研究データの分析（2）	収集したデータの分析
12	論文の構成・考察に関する検討	論理整合性、独自性の検討
13	論文の結論に関する検討	問いに対応したかたちでの結論の提示
14	春学期総括	春学期授業内容を総合的にまとめ、振り返る
15	秋学期オリエンテーション	論文執筆・完成に向けたオリエンテーション
16	中間発表会（1）	問題意識の明確化を中心に

17	中間発表会（2）	データの読解を中心に
18	中間発表会（3）	論文のストーリーラインを中心に
19	中間発表会（4）	結論を中心に
20	調査の実施状況の確認（1）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ収集の側面）
21	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認（データ分析の側面）
22	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討
23	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション（2）	研究方法・研究テーマに即した分析と解釈になっているか検討
24	論文のブラッシュアップ（1）	論文の構成に留意して
25	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意して
26	論文のブラッシュアップ（3）	データ読解の掘り下げ方に留意して
27	論文の最終チェック	論文の構成の確認：各章のつながり、ストーリーラインの観点から
28	年間総括	1年間の授業内容を総合的にまとめ、振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究を進める上で必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表および論文執筆に備えてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

論文内容（70%）、平常点（30%）。

論文内容については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、卒業論文の達成度の状況を基準とします。

平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】

(Course outline)

Based on their respective seminar essays, the participants of the graduation thesis seminar sociologically analyze their own choice of themes and prepare graduation theses through several interim reports and discussions taking place during the course.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to A, B, and C.

– A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

– B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.

– C. Completing graduation theses with the certain standards in quantity and quality.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the presentation and writing theses by deepening consideration with gleaning literature and data.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Thesis : 70%, in class contribution: 30%

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

田中 研之輔

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、①ライフキャリアに関する理論整理、②方法論の選定と検討、③質的調査の実施と分析、④執筆を通じて、個人研究論文を仕上げていくことを目的としています。

【到達目標】

①ライフキャリアに関する理論レビュアができるようになります。
 ②質的調査に基づいたアカデミックライティングの基礎がみにつきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本ゼミの主要テーマは、「人生 100 年時代のライフキャリアを理論的、経験的に分析する」です。現代都市東京は、疑いもなく、文化・経済・政治の集積都市として世界的に注目されています。しかし、東京に身を置くわれわれですら、東京の全貌を捉えることは難しいことです。また逆に、東京で生活しているからこそ、東京がみえにくいのだともいえるかもしれません。本ゼミでは、ライフキャリア論の理論的視座、フィールドワークの認識論、インタビュー方法論を学びながら、それぞれの身体資本を最大限に活かす「現場」で参予観察（可能ならば、観察的参予）を実施していくための実践的サポートをしていきます。一筋縄ではいかない「現場」の選択、コミットメント、のプロセスそのものをゼミの中で議論し共有していきましょう。その意味で、本ゼミは、ゼミ生の個人プロジェクトではなく、ゼミ生の集合的協働プロジェクトとしてフィールドワークを位置づけています。また、大学から社会への移行とその後のライフキャリア戦略を実践的に学ぶ機会でもあります。フィードバックは、卒論への個別フィードバックを全員に対して、定期的に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ設定「ライフキャリア、労働・情報・現代社会論・都市社会論」から個人テーマを選定、検討	個人研究論文の関心テーマの絞り込みを行う
2	卒論テーマの候補選択	個人研究テーマの候補を3つに絞る
3	卒論テーマの選定	3つの候補から一つに絞る
4	卒論テーマに関する関連文献の検討	主要先行研究の検討を行う
5	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築①	卒論テーマに関する理論的視座を構築する
6	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築②	卒論テーマに関する理論的視座を構築し、精査する
7	先行研究に関する検討会①	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い検討する
8	先行研究に関する検討会②	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い、精査する
9	研究対象の選定	研究対象を具体的に選定する
10	研究方法の整理	研究方法を整理する
11	インタビュー法の検討	インタビュー法の検討を行う
12	ブレインインタビューの実施	模擬インタビューを実施する
13	フィールドワーク法の検討	フィールドワーク法の検討を行う
14	フィールドワーク法のブレワーク	フィールドワーク法を模擬的に実施する
15	調査の設計	調査スケジュールを具体的に検討する
16	調査の開始	研究対象への調査を行う
17	調査の中間報告	調査状況の報告と確認を行う
18	理論整理・方法論の記述	理論整理と方法論に関する記述を行う
19	理論・方法論の記述内容の検討	理論・方法論の記述内容の検討を行う
20	調査データの収集と分析	調査データを収集し、分析する
21	調査データの体系化と考察	調査データの体系化を行い、考察を加える
22	調査データの分析と記述	調査データの分析と記述をするめる
23	調査データの考察と結論	調査データの考察と結論を導き出す
24	調査データの考察と結論の記述	調査データの考察と結論を記述する

25	卒論全体の記述を検討する	卒論全体の記述の精度を高める
26	卒論研究発表会①	研究報告 15 分 質疑応答 15 分の研究発表会を実施する（前半組）
27	卒論研究発表会②	研究報告 15 分 質疑応答 15 分の研究発表会を実施する（後半組）
28	卒業論文集の制作	完成させた卒業論文集をまとめ、デジタル論集を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文課題&理論整理論文を毎週、読み続け、議論にそなえる。計画的に質的調査を実施し、論文を執筆していきます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎週、電子版英文資料を共有サイトにアップします。

【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、各段階での課題（25%）、卒業論文（50%）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

補足論文の検討と個人研究報告会をさらに充実化させる。

【Outline (in English)】

This course introduces research methods and academic writing as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of career studies research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the writing research paper and the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

安田 節之

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年次に執筆・提出したライフキャリア研究またはプログラム評価研究に関するゼミ論をもとに卒業論文を完成させることを目的とする。

【到達目標】

・ライフキャリアまたはプログラム評価に関する卒業研究を論文としてまとめあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ論執筆の段階では、先行研究のレビューやデータ収集・分析などに個人差があると予想されるため、ゼミ全体での報告（中間発表）やディスカッションでの学びを各自の卒論にする。またゼミおよびサブゼミでの個人の卒論指導を通して、研究報告としての論文の質を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	卒業研究および卒業論文の意義や卒論執筆・提出の流れについて確認する。
2	問題と目的および先行研究の確認①	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエストに反映させる。先行研究に関しては、適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
3	問題と目的および先行研究の確認②	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエストに反映させる。先行研究に関しては、適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
4	問題と目的および先行研究の確認③	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエストに反映させる。先行研究に関しては、適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
5	研究方法①	量的調査については、質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については、データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
6	研究方法②	量的調査については、質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については、データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
7	研究方法③	量的調査については、質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については、データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
8	研究方法④	量的調査については、質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については、データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
9	研究方法⑤	量的調査については、質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については、データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
10	研究方法⑥	量的調査については、質問紙データの設定に関する背景（理論・実践）を確認する。質的調査については、データ収集の方法（例：インタビューガイド）などの再確認を行う。
11	研究結果①	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。

12	研究結果②	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
13	研究結果③	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
14	研究結果④	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
15	研究結果⑤	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
16	研究結果⑥	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
17	追加データ収集の検討①	前段階の研究結果の状況を踏まえ、各自のリサーチクエストに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば、追加データの収集計画を立てる。
18	追加データ収集の検討②	前段階の研究結果の状況を踏まえ、各自のリサーチクエストに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば、追加データの収集計画を立てる。
19	追加データ収集の検討③	前段階の研究結果の状況を踏まえ、各自のリサーチクエストに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば、追加データの収集計画を立てる。
20	中間報告①	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う。
21	中間報告②	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告を行う。
22	考察（ディスカッション）①	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
23	考察（ディスカッション）②	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
24	考察（ディスカッション）③	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
25	論文完成①	問題・目的、先行研究レビュー、研究方法と結果の分析、考察の全体を確認し、卒論完成・提出にむけた作業を行う。
26	論文完成②	問題・目的、先行研究レビュー、研究方法と結果の分析、考察の全体を確認し、卒論完成・提出にむけた作業を行う。
27	成果報告①	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う
28	成果報告②	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆については各自のペースで進めてもらう形で結構ですが、個人の卒論指導やゼミ内でのディスカッション（中間報告）を通しての学びやアドバイスを十分に反映させた卒論にしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度（80%）、授業への積極的な貢献度（20%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでのディスカッションの時間と個人の卒業論文の指導のバランスをとる。

【Outline (in English)】

This seminar focuses attention on completing an individual thesis that is based on issues related to life-designing problems and/or program evaluation.

Goal

・Complete undergraduate thesis that are related to community psychology and/or program evaluation

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

80 points (%) for thesis paper

50 points (%) for class presentations

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

福井 令恵

単位数：4 単位 | 開講semester：年間授業/Yearly
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考え、独自のテーマを追究して、卒業論文を完成させる。自分の問題意識を掘り下げ、4 年間の集大成とする。

【到達目標】

自分の興味・関心に基づき、テーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。また、調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、演習時に指導を行う予定である。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに各自が研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文を完成させる。課題等のフィードバックは、春学期は授業のなかで講評や解説を行う時間を設ける。秋学期は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方について、説明する。
2	テーマの設定（1）	調査研究の構想（1）。
3	テーマの設定（2）	調査研究の構想（2）。
4	先行研究の検討（1）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（1）。
5	先行研究の検討（2）	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する（2）。
6	リサーチクエストと研究計画（1）	リサーチクエストと研究計画の策定（1）。
7	リサーチクエストと研究計画（2）	リサーチクエストと研究計画の策定（2）。
8	リサーチクエストと研究計画（3）	研究テーマ、リサーチクエストの発表をし、今後の計画を提出する。
9	データの収集と整理（1）	データの収集（1）。
10	データの収集と整理（2）	データの収集（2）。
11	データの収集と整理（3）	これまでに得られたデータの整理をする。
12	仮説の検討	データのもとに、仮説の検討を試みる。
13	中間発表（1）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（1）。
14	中間発表（2）	中間報告（章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定）（2）。
15	進捗状況の報告と見直し	研究活動の報告。
16	データの蓄積・整理・分析（1）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（1）。
17	データの蓄積・整理・分析（2）	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う（2）。
18	論文の組み立て	明確な章立ての確認。
19	卒業論文の執筆（1）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（1）。
20	卒業論文の執筆（2）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（2）。
21	卒業論文の執筆（3）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（3）。
22	卒業論文の執筆（4）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（4）。
23	卒業論文の執筆（5）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（5）。
24	卒業論文の執筆（6）	適宜指導を受けながら、論文を執筆する（6）。
25	卒業論文の見直し（1）	論文全体を書きあげ、見直しをする（1）。
26	卒業論文の見直し（2）	論文全体を書きあげ、見直しをする（2）。
27	卒業論文の完成	卒業論文の完成。
28	卒論発表	ゼミ生（3 年生）への卒論発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、先行研究の整理と、問いの設定をする。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業において適宜紹介する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文の内容を総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to write a high-quality thesis. Students learn the necessary process to complete their research paper such as how to collect data and gain the ability to write lucidly and present ideas rationally. In this course, students will report on the progress of their research and discuss with other students. Individual guidance will be carried out several times as necessary.

Students are expected to spend about 4 hours per week for required and optional readings and research activities.

Grading criteria: Thesis 100%.

SOC400MA

卒業論文（ライフ）

熊谷 智博

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

卒業論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち春学期は問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。秋学期は調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個別指導を中心に展開する。担当教員と学生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。卒業論文の執筆過程で、中間発表会において報告が求められる。本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、テーマによっては変更がありうる。授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討①	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討②	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討③	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討②	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	先行研究の検討③	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討①	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討②	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討③	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導①	調査の実施について適宜指導を行う。

第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導②	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導③	調査の実施について適宜指導を行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 15 回	オリエンテーション	中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 16 回	調査の実施状況の確認①	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 17 回	調査の実施状況の確認②	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 18 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導①	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 19 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導②	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 20 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導③	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 21 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導④	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 22 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導⑤	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 23 回	論文執筆の助言、指導①	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 24 回	論文執筆の助言、指導②	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 25 回	論文執筆の助言、指導③	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 26 回	論文の最終チェック①	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第 27 回	論文の最終チェック②	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第 28 回	論文の最終チェック③	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、卒業論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

論文の内容を総合的に評価する（100%）。

卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、授業内での研究に関する議論への参加が基本要件である。

卒業論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

学生の問題意識に合致した指導体制の推進およびそのための中間発表会での学生、教員からのコメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会心理学、グループダイナミクス、紛争解決。

<研究テーマ>

集団間紛争の心理過程について研究しています。最近では集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。

<主要研究業績>

熊谷智博 (2019). 第 3 章 集団間の紛争はどのように悪化するのかー キャンプ実験を例に 日本心理学会監修 大淵憲一編 紛争と和解を考える：集団の心理と行動 誠信書房 pp.46-72.

Tomohiro Kumagai (2017). Social Psychological Factors of Peace-Building, Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society (pp.101-108). GRM program, Doshisha University.

熊谷智博 (2016). 第 15 章：集団間紛争とその解決および和解 大淵憲一監修
紛争・暴力・公正の心理学 北大路書房 pp.192-203.

熊谷智博 (2014). 第 9 章：集団の中の個人、第 10 章：集団間関係. 脇本竜
太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著 基礎からまなぶ社会心理学
サイエンス社 pp.153-192.

熊谷智博 (2013). 集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討
社会心理学研究, 29, 2. 86-93.

熊谷智博・大淵憲一 監訳 (2012) 紛争と平和構築の社会心理学:集団間の葛藤と
その解決 北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social
Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology
Press.

[Outline (in English)]

In this course, I instruct how to use preceding studies, to make
hypothesis, and to plan survey for a graduation thesis.

Goals of this course are that students understand scientific way of
study, and become to write a graduation thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend
four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on your
graduation thesis.

OTR400MA

キャリアデザイン学総合演習

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学の学習成果の振り返りと発表

①社会人を含む多様な学習者に出会い、それぞれのキャリアの形成を支援もしくはライフストーリーとして描くことにより、キャリアデザイン学部で学んだ成果を振り返る。

②上記の目標を達成するために、キャリアデザイン学部での学びをテーマとした映像を制作する。

【到達目標】

①キャリアデザイン学部での多様な学びを振り返り、映画にまとめる力を身につける。

②実社会で通用する映像制作実践知を身につける。

③メディアリテラシーの「アクセス—分析—創造—振り返り—行動」の力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は次の方法で進める。

- ・ディスカッションを中心としたグループ学習
- ・ゲストを招いた特別講義
- ・自主夜間中学校における学習支援活動と映像制作
- ・土業コミュニティである「A コモンズ・ミーティング」に参加する
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・レポート等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、レポートに対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 1	授業の内容と方法の紹介
第 2 回	課外活動の解説	「A コモンズ・ミーティング」の紹介 (外部講師)
第 3 回	映画制作論 1	映画制作の基礎
第 4 回	映画制作論 2	映画制作の撮影方法
第 5 回	映画制作論 3	映画制作の編集技術
第 6 回	地域における学習支援 1	自主夜間中学校での学習支援活動ガイダンス
第 7 回	地域における学習支援 2	自主夜間中学校での学習支援活動 1
第 8 回	地域における学習支援 3	自主夜間中学校での学習支援活動 2
第 9 回	社会人特別授業	特別講師による社会人講座
第 10 回	映像撮影 (1)	自主夜間中学校での映像撮影 1
第 11 回	映像撮影 (2)	自主夜間中学校での映像撮影 2
第 12 回	映像編集 (1)	撮影した映像の編集と修正
第 13 回	映像編集 (2)	撮影した映像の編集と完成
第 14 回	発表会	これまでの授業を振り返り、上映会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作のため、授業時間外の取材や映像編集を行います。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。必要に応じて、議論に必要な資料を配布します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加、プレゼンテーションの内容、振り返りレポートを元に評価を行う。授業及び課外活動への参加は 30%、映像制作の内容 40%、振り返りレポート 30%の配分となる。

【学生の意見等からの気づき】

自主夜間中学校への継続的な関係づくりが重要であることが信頼性の醸成に欠かせない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、iPhone 等、映像を制作するための機器。

【その他の重要事項】

ディスカッションやワークショップへの継続して参加すること。

映像制作の経験がなくても、役者や脚本、監督などさまざまな役を担うことによって履修することができる。キャリアデザインの学びの集大成として、積極的な履修をお勧めする。

【Outline (in English)】

To review your learning at collage and make a presentation material or movie

To participate a outside meeting and make a movie about your career and learning

The goals are to synthesize the results of previous learning into a film, to acquire practical skills in filmmaking, and to develop the four skills of access, analysis, creation, reflection, and action.

Grading criteria are as follows. Class participation is 30%, filmmaking 40%, and reports 30%. For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語 I)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

During this SPRING Semester, we might need to use 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom.

Therefore, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this Spring course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 2 回	Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 3 回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第 4 回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.
第 5 回	"How was your Golden Week?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第 6 回	"How are you?" / "How are you doing?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第 8 回	"How often do you _____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第 9 回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.

第 10 回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 11 回	Video/ News activity, with questions about that video clip. "What are your hobbies?"	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. / Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第 12 回	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
第 13 回	Speaking examination about all of the topics we studied during the semester.	Speaking examination, re: all of the topics studied during the semester.
第 14 回	"What are your plans for the Summer Break?"	Pairwork, to ask & answer about students' plans, re: Summer Break.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

-

【学生が準備すべき機器他】

Students might need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.] Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet. Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.] Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度~2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です)。

【Outline (in English)】

This SPRING course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

'Just in case' Online Learning might be needed, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅱ)

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう (詳細は以下の英文の記事を読んでください)。

During this Fall Semester/Pandemic, we might have to do 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom. Please prepare your computer, FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes; and sometimes via e-mail. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
第 2 回	Introducing yourself, in spoken English. Pricing items in English; & answering questions about prices in English. PLUS: "Students will introduce themselves to each other in modern English, via Online video/audio 'chat'.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第 3 回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第 4 回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.

第 5 回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities. Students will learn how to verbally
第 6 回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/How...?)	ANSWER 3/ Why, to reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第 7 回	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第 8 回	"What time is it?"; & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
第 9 回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S./Canada.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第 10 回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第 11 回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第 12 回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
第 13 回	Exam, re: all topics that students learned and practiced during the Fall 2022 semester.	Speaking exam: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in Fall 2022.
第 14 回	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	Students will be asked to write down adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in [ONLINE] class ON TIME (not late); please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

-

【学生が準備すべき機器他】

"Just in case": students might need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk'.

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

This Fall course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

**国際コミュニケーション語学
(英語Ⅲ)**

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法をを基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script

Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%
*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on eye contact and speaking fluency.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語<英語>に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA

**国際コミュニケーション語学
(英語Ⅳ)**

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アカデミック・スキル (ディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方など) を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & assess vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 7: Media Studies Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Evidence & support Unit 7 lecture preview
Week 3	Unit 7: Media Studies Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: paraphrase, clarification, & confirmation
Week 4	Unit 7 Quiz Unit 8: GM food Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 7 quiz Unit 8 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Key terms
Week 5	Unit 8: GM food Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: agree, change topic, reach consensus Quiz on Unit 8
Week 6	Unit 8 Quiz Unit 9 Design thinking Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 9: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Process description
Week 7	Unit 9 Design thinking Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Agree, express opinion, interrupt
Week 8	Unit 9 quiz Unit 10: Shackleton Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 9 Unit 10: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Numbers, dates, periods of time

Week 9	Unit 10: Shackleton Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Asking opinions, giving opinions, staying on topic Quiz on Unit 10 Unit 11: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Real-world examples
Week 10	Unit 10 quiz Unit 11: Ethics Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 11: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Real-world examples
Week 11	Unit 11: Ethics Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering fact or example Quiz on Unit 11
Week 12	Unit 11 quiz Unit 12: Big Data Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 12: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Personal stories
Week 13	Unit 12: Big Data Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Keeping discussion going Unit 12 quiz
Week 14	Unit 12 quiz Vocabulary quiz U 7-12	Course Review & wrap-up

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【参考書】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-60%
Homework-20%
Participation 10%
Presentations/ Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】

Increased focus on development of vocabulary and discussion skills

【学生が準備すべき機器他】

【教室必要備品】 OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です)。

【Outline (in English)】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA

**国際コミュニケーション語学
(英語V)**

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます (詳細は以下の英文の記事を読んでください)。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Descriptive paragraphs	Components of effective concluding sentences
第 3 回	Concluding sentences	Using adjectives and conjunctions in sentences
第 3 回	Adjectives	
第 3 回	Conjunctions	
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft
第 5 回	Homework test 1	Preparation for peer review
第 5 回	Using "although"	Test on homework exercises
第 5 回	Submit 2nd draft of descriptive paragraph	How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test	In-class timed writing test
第 6 回	Feedback on 2nd draft	
第 7 回	Test feedback	Pre-writing for 3rd writing assignment
第 7 回	Paragraph development	How to develop paragraphs
第 7 回	Persuasive paragraphs	
第 8 回	Benefits and consequences	Including benefits, consequences, and results in paragraphs
第 8 回	Outlines	Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs
第 9 回		Prepare outline for 3rd writing assignment
第 10 回	Paraphrasing	Practice paraphrasing
第 10 回	Supporting sentences	Including outside sources in writing
第 10 回	outside sources	Citing sources correctly in paragraphs

第 11 回	3rd writing assignment	Submit 3rd writing assignment
第 11 回	Using conditional sentences	Practice using conditionals as support
第 11 回	Making comments	Commenting on ideas in writing
第 12 回	Homework test 2	Structure of thesis statements
第 12 回	Thesis statements	Structure of introductory paragraphs
第 12 回	Introductions	Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment
第 13 回		Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework exercises contained in the course handouts

Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】

<http://my.vocabularysize.com/>

<http://quizlet.com>

www.englishgrammar.org

Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on sentence unity within paragraphs and organizing information logically.

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

佐藤 厚、武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオンリーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうの困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第 1 回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいこととは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。2022 年度実績は教育文化協会。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。2022 年度実績は連合事務局。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合員員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取り組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。2022 年度実績は明治安田生命労組。

5	【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える。2022 年度実績は伊藤ハム労組。
6	【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く人が健康で安心して暮らすための課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は安川電機労組。
7	【ケーススタディ④】男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに生き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。2022 年度実績は通建連合。
8	【ケーススタディ⑤】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は自治労。
9	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。2022 年度実績は JAM。
10	【課題への対応①】 国際労働運動の役割 ～グローバル化への対応	進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み事例、労働分野の開発協力活動などの事例を聴き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。
11	【課題への対応②】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
12	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。
14	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席（コメント内容含む）が 50 %、レポートが 50 %。出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,F

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

I have a deep understanding of changes in the workplace and problems in working with peace of mind.

He has practical knowledge of companies and industries, labor law, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on your company, industry, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance (including comment content) is 50%, and report is 50%.

Focus on attendance.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
 - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
 - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
 - ⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
 - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
 - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
 - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
 - ⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
 - ⇒ モチベーション・マネジメント
 - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
 - ⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
 - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
 - ⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
 - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 各学部のアイデンティティ 就業力とは 学生と企業の認識差 社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	グループディスカッション データの見方 討議の手法 ブレインストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 作文と論文の違い ビジネス文書作成 エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	ビジネスマナー 報連相の重要点 トラブル対処力 顧客満足向上とは
5	商社事例研究-1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ベンチャー企業経営 株主重視経営 資金調達力
6	商社事例研究-2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 グローバル企業経営 提案力の構造 世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 大学と仕事の関係 企業と個人の関係 コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 百年企業 最先端技術力 ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 大企業との差別化 商品企画力 プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 企業からの課題提示	市場調査 新商品開発（マーケティング） チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 米国公認会計士講話 採用担当者の視点 求められる人材像 状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 課題討議	授業協力企業からの課題 ビジネスマナー ヒアリングスキル 課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 起業家行動の支援 全国ネットワークの活用 中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表	企業へのプレゼンテーション 課題解決力 プレゼンテーション力 ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

統計学や社会調査の素養があると有効です。
*事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクションペーパー） ⇒ 30点
- ・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
- ・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000~2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数により、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ 21世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解

7	課題レポート&プレゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究-3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 学生日線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワークショップ （一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）
*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのことです。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

SOC100MA

異文化適応論

浅川 希洋志

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 4/Fri.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きる時、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化理解ということを考えてとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであるとする傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD 等があれば適宜紹介する。

第 1 回の授業は、2023 年度国際文化学部授業方針により、リアルタイム・オンライン（Zoom）で実施する。Zoom URL は事前に学習支援システムで周知する。すでに大教室（400 人収容可）が確保できているので、受講者の選抜試験は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第 2 回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第 3 回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第 4 回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第 5 回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第 6 回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもの早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第 7 回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像はそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第 8 回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第 9 回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第 10 回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係の、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。

第 11 回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第 12 回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第 13 回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994 年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998 年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992 年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990 年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004 年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 % となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

SOC200MA

市民社会と政治

長島 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治に興味がない」「自分とのつながりが分からない」そんなコメント聞くことがあります。果たして本当にそうでしょうか？ 私たちの日常は「政治」と密接にかかわっています。それはちょっとした疑問や要望から始まり、あなたの暮らす地域の町内会、市町村、県、国、そして国際社会へとつながる、大きなつながりです。本講義（授業）では、市民社会における様々なテーマにおける「政治のあり方」について考えていきます。授業を通じてぜひ政治を自分ごととして考えてもらうことを目的とします。

【到達目標】

市民社会とは何かを理解し、市民社会を取り巻く状況と市民が政治に参画するための道すじを考え、理解する力を身につける。各回取り上げる話題を変えることで、最終的に様々な課題が自分自身に関係することを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では毎回テーマに沿って講師からの講義とその後受講生同士の映像やレジュメ、パワーポイントを使った論点の提示します。毎回終了後にリアクションペーパーの提出があります。毎回授業の初めにリアクションペーパーを見ながら、振り返りを行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アドボカシーとは何か	アドボカシーとはどのような活動を指すのでしょうか？ 市民社会と政治をつなぐ「アドボカシー」を考えます。
第 2 回	わたしたちの人生と政治	わたしたちの生活は政治と密接にかかわります。わたしたちの人生から政治とのかかわりを考えます。
第 3 回	SDGs と市民社会	持続可能な開発目標（SDGs）という言葉が良く聞かれるようになりました。授業でテーマで取り上げる前に、そもそも SDGs とは何か、SDGs における市民社会の役割を考えます。
第 4 回	SNS、インターネットが変える世界	SNS やインターネットはわたしたちの生活を一変させました。情報を得る手段はどう変化してきたか考えます。
第 5 回	貧困とはなにか	日本でも聞かれるようになった貧困・格差の問題。相対的貧困、コロナによる非正規労働者の失業とその対策について考えます。

第 6 回 ジェンダー平等

Me Too は私たちの問題でもあります。# Me Too や最近の SNS での炎上テーマを通じて私たちの生きやすさ、社会の包摂を考えます。

第 7 回 フードロスとは

最近よく聞かれるフードロス問題。フードロスの根本課題と市民社会の役割を考えます。

第 8 回 エシカル消費とは何か

「エシカル消費」という言葉が良く言われる一方、このエシカル消費は何を意味するのでしょうか？ 消費を通じて私たちは社会を変えられるのでしょうか？

第 9 回 デイセントワーク

「人間としての尊厳ある働き方」に注目が集まっています。同一労働同一賃金の一方で、コロナによる非正規雇用者の失業など、雇用環境は厳しいのが現状です。働くとはどういうことか、考えます。

第 10 回 差別はなぜおきるのか

問題に見られるように、コロナ禍での持たざる者への差別が起きました。差別はなぜ起きるのか、日本での問題は何か、考えます。

第 11 回 地球規模の感染症対策

コロナは医療崩壊や地域医療のあり方への疑問を投げかけました。望ましい医療体制とは何でしょうか？

第 12 回 「自粛警察」「買い占め騒動」から考える

コロナ禍で問題になった「自粛警察」。私たちが正しい判断を持ち、行動するにはメディアの情報を正しく判断する必要があります。自粛警察などを事例に問題を考えます。

第 13 回 民主主義を考えるポストトゥルースの時代

私たちは情報をいかに知り、判断すべきでしょうか？ メディアの役割は？ 改めて情報と市民社会の関係を考えます。

第 14 回 民主主義を考える

民主主義とは何か、そして今日本を含め世界各地で生じているポピュリズムは何でしょうか？ そしてこの流れは市民社会にどう影響するのか、考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

[準備学習] 事前に次回講義のテーマとディスカッションテーマ、および必要に応じて参考文献を提示。

[復習] 授業終了後に講義のコメントをオンライン提出。

【テキスト（教科書）】

特に教科書を使用しません。

【参考書】

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク編『基本解説 そうだったのか。SDGs 2020 —我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダから、日本の実施指針まで—』（2020 年、一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク）詳細は以下参照のこと。
<https://www.sdgs-japan.net/shop-1>

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、リアクションペーパーの提出（40 %）、最終レポート（50 %）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生コメントを反映しながら授業を設計します。関心のあるテーマに配慮しながら講義は設計します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、通信環境

【その他の重要事項】

授業は場合によってテーマが変更されたり、講義の順番が入れ替わることがあります。その場合は変更となる回の前までにお伝えします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

We hear comments like "I'm not interested in politics" and "I don't see the connection between politics and myself." Is this really the case? Our daily lives are closely connected to politics. It starts with a small question or request, but it is a big connection that leads to your local neighbourhood association, your municipality, your prefecture, your country and the international community.

In this class, we will consider 'politics' in various themes in civil society. The aim is to encourage students to think about politics as their own personal matter through the course of the lecture.

Learning activities outside of classroom;

The standard preparation and review time for this class is one hour each.

- Preparation: Themes and discussion topics for the next lecture will be presented in advance, and references will be provided as necessary.

-After the class, students will submit their comments on the lecture online.

Grading criteria

Comprehensive evaluation will be made on the basis of the following: regular marks (10%), submission of reaction paper (40%), and final report (50%).

CAR200MA

労働環境法

藤木 貴史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。将来を見据えた、持続可能な社会生活を送ることができるようになるためには、適切な就業環境の整備が必要となります。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う、法学の一分野です。

この授業では、法律学に触れたことのない学生が、①法律学の基礎知識を習得し、②その知識に基づいて、労働環境をめぐる最近の問題を説明できるようになることを目指します。

【到達目標】

- ①労働環境に関する基礎的な法的知識を身につけ、ワークルール検定初級に相当する問題に解答できるようになる。
- ②基礎知識に基づいて、労働環境をめぐる最近の問題を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・第 1 回はオンライン授業です。（人間環境学部共通）
- ・第 2 回以降対面での講義を実施します。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布し、スライド等で板書しながら進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに、小テストを課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	労働「法」の基礎知識と労働環境
2	労働契約と就業規則	・働くことと「契約」 ・就業規則とは何か
3	労働契約と損害賠償	・労働者の責任の制限 ・業務費用の負担
4	労働時間・休憩・休日	労働基準法上の規制を学ぶ
5	時間外労働とその是正	・36協定 ・残業代規制
6	過労死をめぐる法的対応	・固定残業代規制 ・過労死防止の政策
7	労災保険	・無過失責任主義を学ぶ ・労災の給付と条件
8	労働組合の保障	・労働組合法の検討 ・団体交渉の意義
9	配置転換とワークライフバランス	同じ場所で働き続けることができるか
10	ハラスメントの法的規制	日本のハラスメントの現状を学ぶ
11	解雇からの保護	どのような場合に解雇が許されるか
12	非正規労働者	正社員と何が違うのか

13 労働法は適用されるの 新しい働き方と法規制を学ぶか

14 紛争解決制度とまとめ 労働環境の改善のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

[予習] (1 時間程度)

- ・LMS 上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習] (3 時間程度)

- ・LMS 上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020 年）

【参考書】

佐々木亮・大久保修一著『ブラック企業とのたたかい方』旬報社（2018 年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7 割（説明問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

[関連科目]

本講義は、労働環境論 I・II と関係しています。

[授業を受ける姿勢]

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

[コロナ対応]

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。
- ・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people live by working and earning wages through employment. In order to be able to live a sustainable social life with an eye on the future, it is necessary to create an appropriate working environment.

However, since workers have less power than employers, they face a variety of difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a branch of jurisprudence that prevents such difficulties and imposes various regulations so that human beings can live like human beings.

In this class, students who have never been exposed to jurisprudence are expected to (1) acquire basic knowledge of jurisprudence and (2) be able to explain recent issues surrounding the working environment based on this knowledge.

Learning Objectives

(1) Acquire basic legal knowledge of the working environment and be able to answer questions equivalent to the beginner's level of the Work Rule Examination.

(2) To be able to explain recent issues surrounding the working environment based on the basic knowledge.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure the achievement goal (1), and a final exam will be given to measure the achievement goal (2).

Quiz: 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam: 70% (to assess whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions)

財務会計論 I

川島 健司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：3~4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門 I / II、会計学入門 I / II）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して、財務会計の実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方の視点を通じては、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する財務会計の議論などが含まれる。時間の制約上、各項目について詳細に解説することには限界があるが、各項目間の関係性を理解し、財務会計の体系全体を俯瞰することを目標にする。

財務諸表の読み方の視点を通じては、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で財務諸表を読む経験を通じて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的にオンラインによるオンデマンド方式で行う。

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計という技術的・制度的な印象を強くもたれがらだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルな会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえははずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率（ROE）、1株当たり当期純利益（EPS）、時価簿価比率（PBR）、経済的付加価値（EVA）

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。

第 2 回	起業ストーリー I：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。
第 3 回	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
第 4 回	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。
第 5 回	複式簿記の方法	複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
第 6 回	複式簿記の実践	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを実践する。
第 7 回	起業ストーリー II：会社の拡大	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
第 8 回	利益計算の会計	損益法と財産法の特徴を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
第 9 回	資産の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
第 10 回	負債と資本の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
第 11 回	会計学の実践	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
第 12 回	簿記・会計の発展史	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
第 13 回	CFO との対話実践	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
第 14 回	簿記・会計の学びの先へ	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021 年。
 ※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2022 年 4 月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2022 年 4 月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993 年。
- 4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論 I・基本論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。同『スタンダードテキスト財務会計論 II・応用論点編』第 9 版、中央経済社、2015 年。
- 5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版、白桃書房、2010 年。
- 6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008 年。
- 7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】

以下の 4 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- ①授業動画の視聴状況（10 %）
 - ②各回の確認テスト（40 %）
 - ③各回の課題作文（30 %）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
 - ④指定教科書の書き込み状況（20 %）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
- ※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】

・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
 ・「簿記入門 I / II」および「会計学入門 I / II」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくといよい。その場合、各種専門学校（TAC、大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】

This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
- (2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
- (3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
- (4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)

- (2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

財務会計論Ⅱ

川島 健司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：3~4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して財務会計の実務を理解することを目指すが、この財務会計論Ⅱでは特に後者の視点を通じて、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で伝統的な財務諸表分析の技法から企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用するまでの知見を踏まえて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける。②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期の全体を以下の 2 つのパートに分割する。「財務諸表分析」（秋学期・第 1 回～第 7 回）、「会社の価値分析」（秋学期・第 8 回～第 14 回）
 会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
第 2 回	起業ストーリーⅢ：会社の立場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
第 3 回	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第 4 回	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROS や損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用する ROA、回転率、ROE などの指標を学ぶ。
第 5 回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した取支データの見方のほか、CCC 分析により資金回収の速さを評価する。
第 6 回	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
第 7 回	起業ストーリーⅣ：ポスト IPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポスト IPO）に関するケースから理解を深める。
第 8 回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。

第 9 回 DCF モデル

割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。

第 10 回 残余利益モデル

残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。

第 11 回 価値分析の実践

実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。

第 12 回 財務分析・価値分析の歴史

財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。

第 13 回 経営者との対話実践

実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する

第 14 回 まとめ

本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021 年。

※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

- ・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2022 年 4 月現在の最新版。
- ・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2022 年 4 月現在の最新版。
- ・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005 年。
- ・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版、白桃書房、2014 年。
- ・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫、2016 年。
- ・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

以下の 4 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- ①授業動画の視聴状況（10 %）
- ②各回の確認テスト（40 %）
- ③各回の課題作文（30 %）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
- ④指定教科書の書き込み状況（20 %）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。

※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】

・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。

・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくことよい。その場合、各種専門学校（TAC、大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【Outline (in English)】

This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
- (2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
- (3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.

(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)

(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

監査論 I

坂上 学

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを目的としている。

【到達目標】

監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解し、監査報告書を読んだ時に、それが何を意味するのかを十分に理解できることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。各章ごとに対面授業を 2 回、オンライン授業でケーススタディを 1 回実施する。オンライン授業の回は、各自で Hoppii にログインし、資料のダウンロードと講義動画の視聴をおこなって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 2 回	監査のフレームワーク（1）	テキスト第 1 章の前半部分について学習します。
第 3 回	監査のフレームワーク（2）	テキスト第 1 章の後半部分について学習します。
第 4 回	ケーススタディ（1）	テキスト第 1 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 5 回	監査制度のフレームワーク（1）	テキスト第 2 章の前半部分について学習します。
第 6 回	監査制度のフレームワーク（2）	テキスト第 2 章のフレームワーク」後半部分について学習します。
第 7 回	ケーススタディ（2）	テキスト第 2 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 8 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（1）	テキスト第 3 章の前半部分について学習します。
第 9 回	監査規範の意義とわが国の監査基準（2）	テキスト第 3 章の後半部分について学習します。
第 10 回	ケーススタディ（3）	テキスト第 3 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 11 回	監査意見形成のプロセス（1）	テキスト第 4 章の前半部分について学習します。
第 12 回	監査意見形成のプロセス（2）	テキスト第 4 章の後半部分について学習します。
第 13 回	ケーススタディ（4）	テキスト第 4 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 14 回	まとめ	春学期講義のまとめと期末テストの傾向と対策をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・林隆敏・松本祥尚『ベーシック監査論（八訂版）』（同文館出版、2019、税込 4,180 円）

※旧版は、基準等が改正されていて内容が大きく異なるので、必ず八訂版を購入すること。

【参考書】

盛田良久・蟹江章・長吉真一『スタンダードテキスト監査論（第 5 版）』（中央経済社、2020、税込 5,060 円）

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

真面目に授業に臨んでいる学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられている。これまで以上に、私語を注意してくれて良かったという感想も多く寄せられるので、授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう、最大限の配慮を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の回では、講義動画の視聴と資料のダウンロードができるパソコン環境が必要。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門 I/II」と「会計学入門 I/II」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論 I/II」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

(Learning activities outside of classroom)

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

監査論Ⅱ

坂上 学

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを目的としている。

【到達目標】

監査の基本知識として、理論的な基礎と制度の概要を理解し、監査報告書を読んだ時に、それが何を意味するのかを十分に理解できることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。各章ごとに対面授業を 2 回、オンライン授業でケーススタディを 1 回実施する。オンライン授業の回は、各自で Hoppii にログインし、資料のダウンロードと講義動画の視聴をおこなって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期講義の概要と進め方、そして評価方法について説明します。
第 2 回	リスク・アプローチと監査戦略（1）	テキスト第 5 章の前半部分について学習します。
第 3 回	リスク・アプローチと監査戦略（2）	テキスト第 5 章の後半部分について学習します。
第 4 回	ケーススタディ（1）	テキスト第 5 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 5 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（1）	テキスト第 6 章の前半部分について学習します。
第 6 回	リスク評価、リスク対応および監査の完了（2）	テキスト第 6 章の後半部分について学習します。
第 7 回	ケーススタディ（2）	テキスト第 6 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 8 回	監査報告書と情報提供機能（1）	テキスト第 7 章の前半部分について学習します。
第 9 回	監査報告書と情報提供機能（2）	テキスト第 7 章の後半部分について学習します。
第 10 回	ケーススタディ（3）	テキスト第 7 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 11 回	開示情報の多様化と保証機能（1）	テキスト第 8 章の前半部分について学習します。
第 12 回	開示情報の多様化と保証機能（2）	テキスト第 8 章の後半部分について学習します。
第 13 回	ケーススタディ（4）	テキスト第 8 章に関連する事例研究をおこないます。ミニテストを実施する予定です。
第 14 回	まとめ	秋学期講義のまとめと期末テストの傾向と対策をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・林隆敏・松本祥尚『ベーシック監査論（八訂版）』（同文館出版、2019、税込 4,180 円）

※旧版は、基準等が改正されていて内容が大きく異なるので、必ず八訂版を購入すること。

【参考書】

盛田良久・蟹江章・長吉真一『スタンダードテキスト監査論（第 5 版）』（中央経済社、2020、税込 5,060 円）

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-ミニテスト：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

【学生の意見等からの気づき】

真面目に授業に臨んでいる学生をちゃんと評価して欲しいという要望が多く寄せられている。これまで以上に、私語を注意してくれて良かったという感想も多く寄せられるので、授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう、最大限の配慮を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の回では、講義動画の視聴と資料のダウンロードができるパソコン環境が必要。

【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

【関連科目】

None

【Outline (in English)】

(Learning Objectives)

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements. Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

(Learning activities outside of classroom)

The lectures will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

Final grades will be calculated as follows:

-Quiz: 20%

-Final Examination: 80%

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No final examination: E

税務会計論 I

大下 勇二

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的な考え方を学習します。例えば、法人税の性質、会計利益と課税所得、売買損益、受取配当、売上原価、有価証券譲渡原価、固定資産の減価償却、繰延資産の償却等、課税所得計算の基礎を取り上げます。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日の企業課税の諸問題を的確に議論できる基礎的能力の涵養を目的とします。

【到達目標】

受講生は、経営学部の学生として必要と思われる法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することができる。これにより、法人課税上の諸問題を理論的に考え整理できる基礎的能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本としています（初回のみ Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、毎回、講義スライドと小テスト（第 1 回～第 13 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	法人税の基礎 (1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
第 2 回	法人税の基礎 (2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
第 3 回	課税所得計算の基礎 (1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
第 4 回	課税所得計算の基礎 (2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税取得計算の特徴を理解する。
第 5 回	売買損益等の計算 (1)	売上収益の認識等を中心に、売買損益計算の基礎を学習する。
第 6 回	売買損益等の計算 (2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
第 7 回	その他の収益の計算 (1)	受贈益、受取配当等（前半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 8 回	その他の収益の計算 (2)	受取配当等（後半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 9 回	売上原価の計算 (1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
第 10 回	売上原価の計算 (2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
第 11 回	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を学習する。
第 12 回	固定資産の減価償却 (1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
第 13 回	固定資産の減価償却 (2) および繰延資産の償却	固定資産の減価償却 (2) では耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習します。さらに繰延資産の償却では、税法上の繰延資産を取り上げ、その考え方を学習します。
第 14 回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド（学習支援システムの「教材」にアップロード）。

【参考書】

・大下勇二著『税務会計 I・II』（2019 年）法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵）
・渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会

・成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 13 回）を受けてもらい、これを成績に反映します。
 - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
 - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト（全 13 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、最終テスト 50%です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して、授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらには初回のオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1 年次の簿記入門 I/II、2 年次の会計学入門 I/II を履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論 I/II、国際会計論 I/II を履修し、会計学の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with corporate income tax and the basic framework of tax accounting in Japan. You will learn the basics of taxable income of corporate income tax which is the core tax of the company (for example, nature of corporate income tax, accounting profit and taxable income, sales of products, securities and fixed assets, depreciation of fixed assets, amortization of deferred assets, revenues of dividends etc).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basic concepts and principles of corporate income tax and basic structure of taxable income compared to accounting profit. This course also enhances the development of students' skill in tax accounting practice.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

税務会計論Ⅱ

大下 勇二

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題（新しい事業体の問題、交際費・寄附金の課税問題、役員給与の課税問題、不良債権の課税問題、減価償却の諸問題、企業組織再編とグループ課税の問題、国際課税の問題など）を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方から理論的にこれら諸問題をいかに整理し考察するのかを学習します。

【到達目標】

受講生は、法人税課税の基礎的な考え方に基づいて、新しい事業体の課税問題、交際費・寄附金と企業の社会的責任、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日の法人課税上の重要な諸問題を個別具体的に考え、これを理論的に考察できる能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業を基本としています（初回、第 8 回および第 11 回は Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、講義スライドと小テスト（全 13 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
第 2 回	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 3 回	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 4 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
第 5 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
第 6 回	不良債権の償却の課税問題 (1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
第 7 回	不良債権の償却の課税問題 (2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
第 8 回	固定資産の減価償却-その 2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
第 9 回	固定資産の減価償却-その 2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
第 10 回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
第 11 回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人税制（グループ法人単体課税制度、旧連結納税制度およびグループ通算制度）の特徴とその考え方を学習する。
第 12 回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の基礎理論を学習する。
第 13 回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて理解し、移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。
第 14 回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド（学習支援システムの「教材」にアップロード）

【参考書】

・大下勇二『税務会計Ⅰ・Ⅱ』（2019 年）法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵）
 ・成松洋一著『法人税法 理論と計算』（最新版）税務経理協会
 ・渡辺淑夫著『法人税法』（最新版）中央経済社
 ・大河原健・マーク・キャンベル・水野正夫著『税務コストの減らし方』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 13 回）を受けてもらいますが、これを成績に反映します。
 - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
 - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト（全 13 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、最終テスト（50%）です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらにはオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。春学期の「税務会計論Ⅰ」を履修しておくことが望ましく、税務会計の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。会社の法人課税の今日的な問題をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the problems of the current corporate income taxation in Japan. In this course, after learning the basics of taxable income of corporate income tax in "Tax Accounting 1", we will take up various problems of current corporate income taxation (for example, new business entities, executive compensation, entertainment expense, donation, disposal of bad loans, corporate reorganization, group taxation and international taxation).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the relationship and differences between tax accounting and financial accounting.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

管理会計論 I

北田 皓嗣

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：3～4 年
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツを配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答するようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第 2 回	固定費と変動費 1	固定費と変動費、貢献利益
第 3 回	固定費と変動費 2	損益分岐点
第 4 回	固定費と変動費 3	固定費のマネジメント
第 5 回	固定費と変動費 4	固定費とビジネスモデル
第 6 回	固定費と変動費 5	セールズミックス
第 7 回	固定費と変動費 6	固定分解
第 8 回	マネジメントコントロールシステム 1	PDCA サイクル
第 9 回	マネジメントコントロールシステム 2	上司と部下の関係
第 10 回	マネジメントコントロールシステム 3	4つのコントロール
第 11 回	マネジメントコントロールシステム 4	コストセンター・プロフィットセンター
第 12 回	経営計画 1	計画の種類
第 13 回	経営計画 2	中期経営計画とその改定
第 14 回	経営計画 3	短期利益計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

谷武幸 (2013) 『エッセンシャル管理会計（第 3 版）』中央経済社
 浅田孝幸監訳 (2008) 『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

メディアコンテンツの視聴 (30%)

中間試験 (30%)

期末試験 (40%)

なお、状況を鑑みて、期末試験はオンラインではなく、大学で実施する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.

- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Media content viewing (30%), mid-term exam (30%), final exam (40%)

管理会計論Ⅱ

北田 皓嗣

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：3～4 年
 その他属性：

- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
 - Media content viewing (30%), mid-term exam (30%), final exam (40%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツを配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答するようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	管理会計の基本	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第 2 回	責任センター	コストセンター、プロフィットセンター
第 3 回	事業部制組織の管理会計 1	事業部の業績評価、内部振替価格、事業部の利益概念
第 4 回	事業部制組織の管理会計 2	ROCE, RI, 本社費・共通費の配賦
第 5 回	バランスド・スコアカード (BSC)	4つの視点
第 6 回	コストマネジメント 1	原価計算の考え方
第 7 回	コストマネジメント 2	ABC と ABM
第 8 回	コストマネジメント 3	原価企画
第 9 回	コストマネジメント 4	原価維持、原価低減
第 10 回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第 11 回	CSR 2	CSR マネジメントの基礎
第 12 回	ESG 投資	環境、社会、ガバナンスを考慮した投資活動
第 13 回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計
第 14 回	MFCA (マテリアルフローコスト会計)	資源生産性の管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

浅田孝幸監訳 (2008) 『管理会計のエッセンス』 同文館
 谷武幸 (2013) 『エッセンシャル管理会計 (第 3 版)』 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

メディアコンテンツの視聴 (30%)

中間試験 (30%)

期末試験 (40%)

なお、状況を鑑みて、期末試験はオンラインではなく、大学で実施する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.

原価計算論 I

福田 淳児

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品単位当たりの製造原価を計算するための一連の手続きです。この手続きは費目別原価計算、部門別原価計算そして製品別原価計算に分けられます。この授業では、原価計算論を学習する上で必要となる基本的な用語および諸概念を理解し、それらの用語を自分の言葉で説明することができることを目的とします。また、原価計算の一連の計算手続きを理解するとともに、それらの手続きの背後にある理論を説明できることを目的とします。

【到達目標】

原価計算論 I の到達目標は次の諸点です。第 1 に、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に自分の言葉で説明できること。第 2 に、原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解すること。第 3 に、その理解に基づいて、基本的な計算問題を解けるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原価計算論 I は対面授業を想定しています。ただし、第 1 回目の授業は受講者数が確定していないために、zoom で実施します。

授業では学習支援システムを通じて事前配布した資料に基づいて、原価計算の一連の手続き、およびその背後にある理論などを説明します。授業中に折り紙を利用した模擬生産を行い、原価計算の概念やその計算方法を確認します。また、計算問題を解いてみることで理解を深めます。確認および応用問題を課題として出すこともありますので、必ず自分の力で問題を解いて次の時間を持ってくるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要説明	本授業の目的、内容また授業の実施方法や評価方法などの概要を説明する。
第 2 回	原価計算の目的と諸概念	原価計算の意義・目的および原価の一般概念について説明する。また、これから原価計算を学習する上で特に必要となる重要ないくつかの原価分類について紹介する。
第 3 回	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算について、そのプロセスを追いながら説明する。問題演習も行なう。
第 4 回	労務費の計算	直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接労務費の計算方法を中心に説明する。
第 5 回	製造間接費の計算	製造間接費の意義およびその配賦の問題を説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
第 6 回	個別原価計算の特徴およびその計算プロセス 折り紙による模擬生産	製品別原価計算の一つである個別原価計算が適する生産形態および個別原価計算の一連の計算手続きについて説明する。折り紙による模擬生産を行い、自分たちで個別原価計算表を作成する。
第 7 回	個別原価計算における仕損の評価	個別原価計算における仕損じの評価方法及びその計算例を紹介する。
第 8 回	部門別原価計算の意義	部門別原価計算を伴う個別原価計算を前提に、部門別原価計算を行う意義について説明する。
第 9 回	部門別原価計算の計算手続	部門別原価計算の一連の計算手続きを説明する。さらに、その具体的な計算プロセスを例題を解きながら説明する。
第 10 回	総合原価計算の特徴	見込み生産形態に適した製品別原価計算の方法である総合原価計算の特徴を個別原価計算との対比で説明する。
第 11 回	総合原価計算における仕掛品評価の意味及びその具体的な計算方法について	総合原価計算における仕掛品の評価が持つ重要性及びその基本的な計算メカニズムについて説明する。
第 12 回	総合原価計算における仕掛品の評価方法の計算例	総合原価計算における仕掛品評価方法のうち、先入先出法と平均法について例題を解きながら説明する。

第 13 回 工程別総合原価計算の意義と累加法及び非累加法 工程別総合原価計算の意味また累加法による計算手続について説明する。非累加法という方法についても紹介する予定である。

第 14 回 講義のまとめ 原価計算論 I の内容のまとめ、および補足説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通してください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、次回の講義で特に誤りの多かった問題およびその解答を紹介しつつ、詳しい説明を行う予定です。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016 年 (2,640 円)

【参考書】

参考文献や自主学習において役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論 I の評価は期末試験および毎回の授業での課題の提出によって評価します。なお、成績評価の配分は期末テスト 75 %、授業中また授業後の課題の提出 25 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、比較的やさしいという学生と難しいという学生がいます。授業では、初学者を対象に基礎的なところから説明を始めます。その上で、発展的な内容についてはできるだけ課題およびその解説の形で補足を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布しますので、必ず資料をダウンロードしておいてください。

【その他の重要事項】

関連科目とし管理会計論 I/II および財務会計論 I/II などがありますので同時に履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

Cost accounting is a series of procedures for calculating the manufacturing cost per unit of product. This procedure is divided into costing by item, costing by department, and costing by product. The purpose of this module is to help students understand the basic terms and concepts necessary for learning costing theory, and to be able to explain these terms in their own words. The objective of this module is to understand a series of calculation procedures of cost accounting and to be able to explain the theories behind these procedures.

The objectives of this course are as follows. First, to be able to concisely explain basic terms and concepts related to cost accounting in one's own words. Second, to understand a series of cost accounting procedures: cost accounting by item, cost accounting by department, and cost accounting by product. Third, to be able to solve basic problems based on this understanding.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. Also, be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

原価計算論Ⅱ

福田 淳児

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が、企業における原価管理および短期利益計画といった経営管理に果たす役割を理解することを目的とします。また、1980年代に実務の観察に基づいて提唱された Activity-Based Costing の計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムによる経営管理目的に有用な情報の提供について理解することを目標とします。具体的には、以下の点を目標とします。第1に、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算および CVP 分析が提供する原価情報の役立ちを説明できること。第2に、1980年代に登場した Activity-Based Costing の基本的なメカニズムを伝統的な製造間接費の配賦方法と比較して説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは対面授業を想定しています。ただし、第1回目の授業は受講者数が確定していないために、zoom で実施します。原価計算論Ⅱでは、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期利益計画の策定に有用な直接原価計算ならびに CVP 分析、さらに伝統的な製造間接費の配賦方法との比較を行うことで Activity-Based Costing のメカニズムについて学習します。標準原価計算による原価標準の設定および原価差異分析を理解してもらうために、折り紙による模擬生産を行います。また、必要に応じて授業中または授業終了後に課題を提示します。特に間違いの多かった問題については誤りの多かった解答例を紹介するとともに、その理由を含め授業内において詳しく解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要紹介	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要および評価方法について説明する。
第2回	コスト・マネジメントのための諸技法および標準原価計算の意義及びその目的	コスト・マネジメントのための技法としての原価企画・原価改善について簡単に紹介するとともに、標準原価計算の意義とその目的について、原価管理目的への役立ちを中心に説明する。
第3回	標準原価計算における原価標準の設定	標準直接材料費、標準直接労務費および製造間接費標準の設定方法について説明する。
第4回	折り紙による模擬生産	製造直接費および製造間接費の差異分析について説明する。なお、製造間接費の差異分析については多様な方法があるが、本授業では四分法を中心に説明する。
第5回	標準原価計算の現代的な意義	現在の製造環境のもとでの標準原価による原価管理の有用性について、いくつかの文献を手掛かりに議論を紹介する。
第6回	CVP 分析の意義	CVP 分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味およびその役立ちを説明する。
第7回	CVP 分析の例題	CVP 分析にかかわる様々な計算問題を解いてみることで、その計算方法を確認する。
第8回	直接原価計算の意義とその目的	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および直接原価計算の短期利益計画目的での有用性について説明する。
第9回	直接原価計算および全部原価計算に基づく損益計算書の作成とその比較	直接原価計算に基づく損益計算書の作成を全部原価計算に基づく損益計算書との対比で、例題を交えながら説明する。
第10回	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況ならびに差異が生じる原因を明らかにする。
第11回	ABC の基礎的な概念	ABC がアメリカで生成した歴史的な背景および基本的な用語や概念について説明する。

第12回	ABC と伝統的な製造間接費の配賦との比較	ABC と伝統的な製造間接費の配賦方法との違いを両者の相違点に焦点を当てて説明する。
第13回	ABM および TBABC	ABC で得られた情報を原価管理目的で利用する具体的な方法及びその事例を考察する。さらに、時間主導型の ABC についても例題を交え説明を行う。
第14回	講義のまとめ	原価計算論Ⅱで学習した内容を振り返り、必要に応じて補足説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を受ける前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして講義に望んでください。必要に応じて、授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、次回の講義で特に誤りの多かった問題およびその解答を紹介しつつ、詳しい説明を行う予定です。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社 2016年(2400 円税別)

【参考書】

参考文献または自主学習に役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅱの成績評価は、期末試験および毎回の授業での課題の提出に基づきます。成績評価の配分は期末テスト 75 %、課題または宿題の提出 25 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

折り紙による模擬生産について楽しいという意見をもらっています。できるだけ身近なもので生産という活動を体験し、なお原価計算が理解できる方法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布します。

【Outline (in English)】

The objective of Cost Accounting II is to understand how cost information provided through cost accounting systems plays a role in cost control and short-term profit planning in companies. It also aims to understand the calculation mechanism of activity-based costing, which was proposed based on practical observations in the 1980s, and its impact on management decision making.

In this module, the objective is to understand that cost accounting systems can provide useful information for business management purposes. Specifically, the following points are targeted. First, to be able to explain the usefulness of accounting information provided by standard costing, direct costing, and CVP analysis as costing for business management purposes. Secondly, to be able to explain the basic mechanism of Activity-Based Costing, which was introduced in the 1980s, in comparison with the traditional method of allocating manufacturing overhead.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. In addition, please be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

経営分析 I

高橋 美穂子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、はじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記 2 の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は第 1 回はオンライン、第 2 回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「おしらせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第 2 回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第 3 回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第 4 回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第 5 回	事業の理解（3）	セグメント分析
第 6 回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第 7 回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第 8 回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第 9 回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第 10 回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROA と ROE の関係、ROE の基本分解
第 11 回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第 12 回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第 13 回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第 14 回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II、国際会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand financial statements in relation to corporate activities
 2. Understand major financial ratios and performance indicators
 3. Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis
- (Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

経営分析Ⅱ

高橋 美穂子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROE を事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級 ROE 分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響が ROE に与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は第1回はオンライン、第2回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「おしらせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROE の基本分解
第4回	収益性の分析（1）	ROE の上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第5回	収益性の分析（2）	ROE の上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROE の上級分解（3）：純金融資産の保有が ROE に与える影響を理解する
第7回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第8回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第9回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第10回	貸借対照表項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表を作成する
第11回	損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測損益計算書を作成する
第12回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第13回	株主価値評価の理論①	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第14回	株主価値評価の理論②	予測財務諸表と超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. パレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. To be able to prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

EDU100MA

教職入門

吉田 直子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、場合によっては動画配信を併用するなど、状況に応じた形態をとる。また学生同士の学び合いを促進するため、グループワークやグループディスカッション等の活動を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第 2 回	教師という職業の特徴	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第 3 回	教職の歴史	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成	身分保障・服務義務、教員研修
第 5 回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第 6 回	教育指導の全体像	教育の専門家としての教師、教師の指導文化、教員評価
第 7 回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク（同僚性）、年間指導計画
第 8 回	職務内容①：教科指導	学習指導要領改訂の概要と教科の変更点
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒指導の日本の特質、校則指導、いじめ指導
第 10 回	職務内容③：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業・進路指導、キャリア教育
第 11 回	職務内容④：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第 12 回	教師の課題①：多様化する子どもの課題	子どもたちの今日的課題（子どもの貧困、学力格差、不登校など）
第 13 回	教師の課題②：多様な関係者との連携	「チーム学校」への対応、保護者や地域との協働・連携、「共生」社会
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	変わる子どもの学び、学び続ける教師

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後のリアクションペーパーの作成、次回の準備課題への取り組み、学習指導要領の内容に関する小テストの準備、ショートプレゼンテーション、最終レポート作成の関して必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月公示、文部科学省）

生徒指導提要（令和 4 年 12 月、文部科学省）

※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、授業終了後 3 日以内にコメント、次回の授業開始までに準備課題を提出）に対する評価（40%）、小テスト（20%）、ショートプレゼンテーション（15%）、最終レポートに対する評価（25%）を総合的に見る。定期テストは行わない。

【学生の意見等からの気づき】

・教員に求められるコミュニケーションスキルについて、学生同士で体験・実践する場を丁寧につくる。

・講師自身の民間企業勤務経験および教員経験も共有しつつ、「教育」について、幅広い視点から捉える機会を提供する。

【学生が準備すべき機器他】

講義は PowerPoint やビデオ教材などを活用して進める。授業ごとのリアクションペーパーの作成と準備課題を確認するためにスマホや PC などの端末が必要。また、最終レポートは word などの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline (in English)】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

The standard amount of time for learning activities outside of classroom is four hours each, including writing a reaction paper after class and preparing to submit two scheduled assignments.

Evaluations will be based on a comprehensive assessment of the student's independent participation in the class (submitting comments before/after class) (40%) mini test(20%), short presentation(15%) and final report(25%).

EDU100MA

教職入門

天野 一哉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。

大行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Since "independent, interactive and deep learning (active learning)" is one of the pillars of the course of study, we will use group work, fieldwork, and presentations to proceed practically. Therefore, the [Class Plan] below is just a model case, and will be flexibly reconstructed according to the degree of understanding of the students and the progress of the dialogue.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	4年間の学びをイメージする
第 2 回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学・教職課程
第 3 回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第 4 回	職業としての教師としての成長	研修・免許更新、服務義務
第 5 回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第 6 回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第 7 回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第 8 回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち

第 11 回 教師の職務実態②

生徒指導・進路指導

第 12 回 教職の課題①

子供の貧困、学力格差、力のある学校

第 13 回 教職の課題②

「チーム学校」への対応、協働と連携、

「共生」社会

変わる子供の学び・学び続ける教師

第 14 回 教職の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水（2017）

『改訂版教職概論』協同出版

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）、高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月）、

生徒指導提要（平成 22 年 3 月） ※いずれも PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：40%、定期試験：60%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートフォン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（本講）・秋学期（教育原理）合わせての履修の推奨する。

授業形態は、基本的には対面を予定しているが、グループワーク等の対話を実施するので、感染状況によってはオンラインとすることも有る。

【Outline (in English)】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

Learning activities outside of classroom

When creating presentations and reports, it is essential to cite academic technical books (including educational history) related to the theme and fieldwork, so we will select them. The method etc. will be explained in the class. In addition, instruct preparatory learning in advance according to the theme of the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria / Policy

Comprehensively evaluate that you can understand basic knowledge and ideas, and that you are willing to take the initiative in learning the four-year teaching profession. Specifically, the evaluation will be based on the tasks presented during class: 40% and the regular exam: 60%.

EDU100MA

教職入門

渡邊 真之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、教職を将来の選択肢のひとつとして考えている学生に対し、教職の意義や教員の役割、資質能力・職務内容等について基本的な知識・考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにいかなることを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題をふまえつつ、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行うことを通じて、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心とするが、授業中に適宜ペアワークやディスカッションを導入するほか、映像資料等を積極的に活用することで、学生の教職への理解を深める。また、毎回の授業後にコメントペーパーを作成してもらい、必要に応じて次の授業でフィードバックする。
なお、原則は対面授業だが、コロナ感染症等の状況によっては変更になる可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	本講義の概要、方法、評価について説明する。教員養成制度の仕組みと教師になるために学ぶべき内容を概観する。
第 2 回	教師という職業の特徴	自身の被教育体験・教師像を相対化しながら、教師の職業世界について学ぶ。
第 3 回	教職の歴史	近代学校成立以降における教師の役割の変遷や、各時代における「よい教師像」の展開について理解する。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教師の専門性をめぐる歴史的・国際的な議論に加え、「反省的実践家」としての教師の役割と可能性について学ぶ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	近年の教育改革における教師像について理解する。なかでも、インクルーシブな学校改革における教師の役割と可能性について考察する。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利・身分保障と服務について理解する。教師の労働実態のほか、教師のメンタルヘルスをめぐる近年の諸問題について学ぶ。
第 7 回	職務の全体像	教師文化の諸類型について理解する。教員評価の展開や教師の学びを促す授業研究のあり方について考察する。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業にかかわる教師の仕事について学ぶ。教師によるカリキュラムのデザインについての基礎的事項を理解する。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	戦後日本の生活指導実践の展開について学ぶ。また、1980 年代以降の教育問題と教師の指導の変化について考察する。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	学校教育と労働世界・企業社会との接続について、歴史的観点から検討する。進路指導・キャリア教育の特徴とその展開について理解する。

第 11 回	職務内容④：学級経営	「学級」の歴史について理解する。学級通信記録などを題材として、学級内のコミュニケーション・教室談話の重要性とそのマネジメントについて学ぶ。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校における教師の同僚性や校務分掌のあり方について学ぶ。他領域の専門家との協働について理解する。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	コミュニティ・スクールをめぐる議論の展開について学ぶ。保護者・地域の学校参加による「開かれた学校」について考察する。
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	知識基盤社会において「学び続ける教師」の意義と可能性、教師の公共的使命について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講して考えたことや感じたこと、疑問に思ったことなどについて整理し、それらについて自分で考えを深めたり、友だちと共有して一緒に議論するなどしてほしい。また、疑問に思ったことや興味深かったことについて、自分で書籍や資料を読むことを通じて、さらに理解を深めてほしい。
なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にはレジュメを配布する。

【参考書】

・秋田喜代美・佐藤学編『改訂版 新しい時代の教職入門』（有斐閣アルマ、2015 年）
・佐久間亜紀・佐伯眸編『現代の教師論』（ミネルヴァ書房、2019 年）
・生徒指導提要【改訂版】（令和 4 年 12 月、文部科学省） ※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。

- ・毎授業ごとのリアクション・ペーパー：30%
- ・授業内で指示する課題：20%
- ・定期試験（授業内試験）：50%

【学生の意見等からの気づき】

・教師や学校のあり方について感じている（きた）「モヤモヤ」を、授業内でぜひ積極的に共有してください。
・リアクション・ペーパーのうち、重要な疑問や感想については、匿名化して次回授業冒頭にて紹介します。

【その他の重要事項】

・授業の進め方や評価方法などについては授業初回で説明しますので、必ず出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, students aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

【到達目標（Learning Objectives）】

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students may be required to reflect their learning through the class. Furthermore, it is expected that students will study and research the opinions about teaching professions.

Your required study time is at least four hours.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on the following process:

- Class attendance and attitude in class: 30%
- Short reports: 20%
- Final exam: 50%

EDU100MA

教職入門

渡邊 真之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、教職を将来の選択肢のひとつとして考えている学生に対し、教職の意義や教員の役割、資質能力・職務内容等について基本的な知識・考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにいかなることを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題をふまえつつ、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行うことを通じて、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心とするが、授業中に適宜ペアワークやディスカッションを導入するほか、映像資料等を積極的に活用することで、学生の教職への理解を深める。また、毎回の授業後にコメントペーパーを作成してもらい、必要に応じて次回の授業でフィードバックする。なお、原則は対面授業だが、コロナ感染症等の状況によっては変更になる可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と 4 年間の学びのイメージ	本講義の概要、方法、評価について説明する。教員養成制度の仕組みと教師になるために学ぶべき内容を概観する。
第 2 回	教師という職業の特徴	自身の被教育体験・教師像を相対化しながら、教師の職業世界について学ぶ。
第 3 回	教職の歴史	近代学校成立以降における教師の役割の変遷や、各時代における「よい教師像」の展開について理解する。
第 4 回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教師の専門性をめぐる歴史的・国際的な議論に加え、「反省的実践家」としての教師の役割と可能性について学ぶ。
第 5 回	現代の学校と教師の資質・役割	近年の教育改革における教師像について理解する。なかでも、インクルーシブな学校改革における教師の役割と可能性について考察する。
第 6 回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利・身分保障と服務について理解する。教師の労働実態のほか、教師のメンタルヘルスをめぐる近年の諸問題について学ぶ。
第 7 回	職務の全体像	教師文化の諸類型について理解する。教員評価の展開や教師の学びを促す授業研究のあり方について考察する。
第 8 回	職務内容①：教科指導	授業にかかわる教師の仕事について学ぶ。教師によるカリキュラムのデザインについての基礎的事項を理解する。
第 9 回	職務内容②：生徒・生活指導	戦後日本の生活指導実践の展開について学ぶ。また、1980 年代以降の教育問題と教師の指導の変化について考察する。
第 10 回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	学校教育と労働世界・企業社会との接続について、歴史的観点から検討する。進路指導・キャリア教育の特徴とその展開について理解する。

第 11 回	職務内容④：学級経営	「学級」の歴史について理解する。学級通信記録などを題材として、学級内のコミュニケーション・教室談話の重要性とそのマネジメントについて学ぶ。
第 12 回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	学校における教師の同僚性や校務分掌のあり方について学ぶ。他領域の専門家との協働について理解する。
第 13 回	地域・家庭・多様な専門家との連携	コミュニティ・スクールをめぐる議論の展開について学ぶ。保護者・地域の学校参加による「開かれた学校」について考察する。
第 14 回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	知識基盤社会において「学び続ける教師」の意義と可能性、教師の公共的使命について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講して考えたことや感じたこと、疑問に思ったことなどについて整理し、それらについて自分で考えを深めたり、友だちと共有して一緒に議論するなどしてほしい。また、疑問に思ったことや興味深かったことについて、自分で書籍や資料を読むことを通じて、さらに理解を深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にはレジュメを配布する。

【参考書】

・秋田喜代美・佐藤学編『改訂版 新しい時代の教職入門』（有斐閣アルマ、2015 年）
 ・佐久間亜紀・佐伯眸編『現代の教師論』（ミネルヴァ書房、2019 年）
 ・生徒指導提要【改訂版】（令和 4 年 12 月、文部科学省） ※ PDF でダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4 年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。

・毎授業ごとのリアクション・ペーパー：30%

・授業内で指示する課題：20%

・定期試験（授業内試験）：50%

【学生の意見等からの気づき】

・教師や学校のあり方について感じている（きた）「モヤモヤ」を、授業内でぜひ積極的に共有してください。

・リアクション・ペーパーのうち、重要な疑問や感想については、匿名化して次回授業冒頭にて紹介します。

【その他の重要事項】

・授業の進め方や評価方法などについては授業初回で説明しますので、必ず出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, students aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

【到達目標（Learning Objectives）】

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students may be required to reflect their learning through the class. Furthermore, it is expected that students will study and research the opinions about teaching professions.

Your required study time is at least four hours.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on the following process:

- Class attendance and attitude in class: 30%

- Short reports: 20%

- Final exam: 50%

EDU100MA

教育原理

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的变化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施します。ただし、コロナ感染状況を考慮し、zoom によるオンライン授業に切り替える回もあります。

授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、「予習のための Questions」に対する自分の解・考察をノートなどに書いたうえで授業に臨むこと。なお、授業終了時に毎回の課題が出されるので、学習支援システムに解・考察を書き込んで提出のこと。課題へのフィードバックは次回授業冒頭で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	テキスト序章を下敷きに説明する
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？（プラトン『国家論』）を下敷きに（テキスト第 1 章第 1・2 節）
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？（エミール・デュルケイム『フランス教育思想史』）を下敷きに（テキスト第 1 章第 3 節）
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？（フィリップ・アリエス『子供の誕生』）を下敷きに（テキスト第 5 章第 1 節）
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？（ルソーとコメニウスを取り上げる。テキスト第 1 章第 4 節）
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？（助教法・ベル＝ランカスターシステムを取り上げる。テキスト第 2 章第 3 節）
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか？（テキスト第 2 章第 2、第 5 節）
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？ ジョン・デューイ『子どもとカリキュラム』を下敷きに（テキスト第 2 章第 5 節）
第 9 回	子どもの発達と学習、子ども観の歴史の変遷	どのように「こども」から「おとな」に「なる」のか？ その捉え方の変遷（テキスト第 1,2 章）

第 10 回	日本教育史の概観	支配層の教育と民衆の教育、近代化によるその統合（テキスト第 3 章、第 4 章第 1,2 節）
第 11 回	日欧米の戦後と教育改革	知識伝達型授業か知識活用型授業か？ PISA 型学力と各国のコンテキスト（テキスト第 4 章第 3 節）——児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第 12 回	現代公教育の課題① 教育を受けられない世界の子どもたち	（義務）教育はなぜ重要か？ 誰がそこから排除されているか？（テキスト第 5 章第 1 節）
第 13 回	現代公教育の課題② 学校教育を受けにくい／に來られない子どもたち	インクルーシブ教育とは何か？（テキスト第 5 章第 2 節）
第 14 回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	教育の基礎的諸概念を中心に総まとめ。筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠藤野ゆり・筒井美紀（2023）『まなぶことの歩みと成り立ち——公教育の原理的探究』法政大学出版局

【参考書】

・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）

→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。毎回授業終了時提出の課題 24%（2×12 回）、期末論述試験 76%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはパソコンやタブレットを持ってきてください。無い人はスマートフォンでも構いませんが、画面小さくて見えにくかったりします。

【Outline (in English)】

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will be an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mini-work after every class 24% and term-end examination 76%.

EDU100MA

教育原理

天野 一哉

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点とは何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらおう。また「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

ZOOM 接続先、課題等は Hoppii 学習支援システムで告知するので定期的に確認すること。

【到達目標】

教育の基本的諸概念、教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の“教育原理”を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

実践力育成のため、対話による PBL(Project Based Learning) の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が 1 つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション（ZOOM 接続先等は Hoppii 学習支援システムで告知する）
第 2 回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 3 回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第 4 回	「教員」「学校」とは何か	教育制度の成立 解説とグループ・ディスカッション
第 5 回	教育史①	世界の教育史の概観
第 6 回	教育史②	日本の教育史の概観
第 7 回	教育思想①	世界の思想の概観
第 8 回	教育思想②	日本の思想の概観 家庭/家族
第 9 回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第 10 回	ゲスト①	現任教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第 11 回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価
第 12 回	プレゼンテーション①	第 1 1 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 13 回	プレゼンテーション②	第 1 1 回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第 14 回	総まとめ	全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書（教育史を含む）の引用とフィールドワークを必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する』法政大学出版局

【参考書】

天野一哉（2013）『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本分、解説、資料）、※いずれも文部科学省 HP より最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100 字以上省察」：40 %、レポート（またはプレゼンテーション）：60 % で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1 回、2 回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期（教職入門）・秋学期（本講義）合わせての履修を推奨する。

授業形態は、基本的には対面であるが、グループワーク等の対話を実施するので、感染状況によってはオンラインとする場合もある。

【Outline (in English)】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues.

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

When creating presentations and reports, it is essential to cite academic technical books (including educational history) and fieldwork related to the theme, so we will select them. The method etc. will be explained in the class. In addition, instruct preparatory learning in advance according to the theme of the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Evaluate whether you understand the basic concepts of pedagogy and use them to think about the problems of education.

Evaluate with 40% reflection sheet and 60% report (or presentation).

In order to develop practical skills, learn methods such as task setting, survey, analysis, consideration, and presentation using the method of PBL (Project Based Learning) through dialogue.

Since "independent, interactive and deep learning (active learning)" is one of the pillars of the course of study, we will use group work, fieldwork, and presentations to proceed practically. Therefore, the [Class Plan] below is just a model case, and will be flexibly reconstructed according to the degree of understanding of the students and the progress of the dialogue.

EDU100MA

教育原理

飯窪 真也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的变化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。フィードバックは次の授業時に行います。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第 9 回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総括的に考察します。

第 14 回 総まとめ：教育の理念・授業で扱った内容を振り返り、次の学歴史・思想についてのふりかえり（授業内試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・遠藤野ゆり・筒井美紀『まなぶことのみちと成り立ち 公教育の原理的探究』法政大学出版局、2023 年 4 月刊行予定 2300 円＋税

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）

→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の 3 つの方法で確認し評価します。

授業への参加姿勢 30%、リアクションペーパー 30%、授業内論述試験 40%等により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, you will learn the history of education, in the relationship of politics, economy, society family and some basic concepts of education, some educational thoughts.

【Learning Objectives】

Students will acquire the basic concepts of education accurately and understand the essence and philosophy of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, students will hone their ability to delve deeply into actual education and school activities, taking into account the changes that have taken place.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The following evaluations are conducted to check whether students understand the basic concepts of pedagogy, and whether they have the ability to describe the historical changes, current situation, and issues of schools and education using them, and to examine them in light of educational principles.

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU100MA

教育原理

澤里 翼

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 1 回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的变化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。

授業は原則として対面で行う予定ですが、感染状況等に応じて柔軟に対応できるようにしています。詳細は初回のオンデマンドによる授業の際に、学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	講師の紹介、今後の授業内容、評価の方針等についてもお話しします。
第 2 回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介いたします
第 3 回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第 4 回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「ことば」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第 5 回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介いたします
第 6 回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリットデメリットについて考えます
第 7 回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第 8 回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校を「監獄」とする見方について考えます
第 9 回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察します
第 10 回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第 11 回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第 12 回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第 13 回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます

第 14 回 総まとめ：教育の理念・小テスト実施予定です

歴史・思想についてのふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループの担当箇所について調べ、発表してもらう予定です。最低 1 回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版局・筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマシニスト社
 ・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）
 → 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（各回提出してもらうリアクションペーパー） 20 %
 授業への貢献度（ミニ・グループ・ディスカッション） 20 %
 期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppi 上に課題を提出してもらうことが多いので情報機器を適宜使用してください。

【その他の重要事項】

・授業に出席の際にはマスクの着用をお願いします。
 ・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

【Outline (in English)】

This course introduce basic concepts and theories of education by learning about the history of education and the current education system in relation to politics, economics, society and family.

This class includes active learning; group discussion about today's educational issues.

Goals

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

Work to be done outside of class

You will need to have at least one group meeting outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Criteria

attendance 20 %
 group work 40 %
 final exam 40 %

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹 丘

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、次回でリアクションを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣。
 勝野正章・村上祐介（2020）『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社。
 青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
 小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。

藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。

藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。

日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。

文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%（オフラインでの実施が叶わない場合、レポートとなることがある）

疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、次回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき、一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる。

【Outline (in English)】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

Grade evaluation is based on 70% of the final exam and 30% of questions.

Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

EDU100MA

教育の制度・経営

植竹 丘

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 1/Fri.1 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、次回でリアクションを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	講義の内容、進め方、評価方法、科学的に教育現象を見る
第 2 回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第 3 回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第 6 回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第 8 回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第 9 回	学校と教員の評価	「PDCA サイクル」下での学校評価及び教員評価
第 10 回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第 11 回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第 13 回	「チームとしての学校」	学校が教員だけで構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

村上祐介・橋野晶寛（2020）『教育政策・行政の考え方』有斐閣。
 勝野正章・村上祐介（2020）『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2019）『日本社会の変動と教育政策』左右社。
 青木栄一・川上泰彦（2019）『教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。
 小川正人（2010）『教育改革のゆくえ』筑摩書房。
 小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。

藤田英典・大桃敏行編著（2010）『学校改革』（リーディングス日本の教育と社会 11）日本図書センター。
 藤田英典（1997）『教育改革』岩波書店。
 日本教育経営学会編『日本教育経営学会紀要』各年版。
 文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%（オフラインでの実施が叶わない場合、レポートとなることがある）

疑問点の内容 30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、次回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学設置基準第 21 条第 2 項の規定に基づき、一単位時間あたり最低 4.5 時間の自主学習が求められる。

【Outline (in English)】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

Grade evaluation is based on 70% of the final exam and 30% of questions.

Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

EDU100MA

教育の制度・経営

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を行う。毎回講義終了時にオンラインでコメントを提出してもらい、疑問や発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、次回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代社会と学校改革
第 2 回	世界の教育改革	イギリス・アメリカなどの教育改革
第 3 回	憲法・教育基本法	教育を受ける権利・教育の目的等
第 4 回	教育行政のしくみ	教育政策と教育行政、教育委員会と学校
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領準拠の意味、教科書検定と教師の選択権
第 6 回	教育行財政制度と教育の無償化	国際比較、経済格差と教育格差
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校教育法の理解と学校組織の在り方
第 8 回	学級経営	生活指導などを踏まえ不登校・いじめ問題を考える
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価制度と教員評価制度に法律と学校の実態
第 10 回	教員の成長と同僚性	教員に求められる資質・能力と同僚性の構築
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約と体罰・校則等について考える
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	パンデミックと学校、自然災害と防災教育など
第 13 回	チームとしての学校	学校教育活動と教職員の協同
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学習指導要領と「社会に開かれた教育課程」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等に書いておく。

復習は、授業内容を振り返りノート等に整理しておく。

本授業の準備学習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
 文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）
 佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代の ICT 教育』
 岩波ブックレット No. 1045

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40%程度）、定期試験（60%程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はこの授業を担当しておらず、2年ぶりに担当します。新たな気持ちで臨みたいと思います。

【その他の重要事項】

教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

【到達目標（Learning Objectives）】

To understand the basic concepts and legal system of the Japanese school education system and its management. Be able to explain how various educational issues relate to the legal system.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading is determined by the students' understanding of basic knowledge as well as their competence to argue and support their own ideas with knowledge and data. Evaluation will be based on in-class presentations, comment papers, etc. (approx. 40%) and an in-class end-of-term examination (approx. 60%).

EDU100MA

教育の制度・経営

小池 由美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしきみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を行う。毎回講義終了後にレポート提出してもらい、疑問や発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	現代社会と学校改革
第 2 回	世界の教育改革	イギリス・アメリカなどの教育改革
第 3 回	憲法・教育基本法	教育を受ける権利・教育の目的等
第 4 回	教育行政のしくみ	教育政策と教育行政、教育委員会と学校
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領準拠の意味、教科書検定と教師の選択権
第 6 回	教育行財政制度と教育の無償化	国際比較、経済格差と教育格差
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校教育法の理解と学校組織の在り方
第 8 回	学級経営	生活指導などを踏まえ不登校・いじめ問題を考える
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価制度と教員評価制度に法律と学校の実態
第 10 回	教員の成長と同僚性	教員に求められる資質・能力と同僚性の構築
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約と体罰・校則等について考える
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	パンデミックと学校、自然災害と防災教育など
第 13 回	チームとしての学校	学校教育活動と教職員の協同
第 14 回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学習指導要領と「社会に開かれた教育課程」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等を書いておく。

復習は、授業内容を振り返りノート等に整理しておく。

本授業の準備学習・復習は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学（改訂新版）』学文社
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代の ICT 教育』

岩波ブックレット No. 1045

【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等（40%程度）、定期試験（60%程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出されるレポートの抜粋を続回で配布している。グループディスカッションなどでは他者の意見やレポート抜粋を踏まえ、思考を発展させていることに気づかされている。

【その他の重要事項】

公立高校教諭の経験があり、その視座から教育関連法規や学校経営等に関する知見を活かし、学校の実態を踏まえて講義を行う。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

Please be certain that your grading criteria measure your course goal(s). Indicate

percentages for participation and attitude (include attendance, you cannot evaluate this separately), quizzes, tasks, reports, exams, etc., making sure they total 100%. Passing scores are 60% and above.

Please state what preparation, review and assignments are required. For example, readings, reports and exercises, etc. Please include the required study time outside of class

EDU200MA

教育課程論

飯窪 真也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画ー通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画ー教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
ー 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、リアクションペーパー（30%）、授業内試験（40%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

【Learning Objectives】

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA

教育課程論

黄 郁倫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史の変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という 3 つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントとカリキュラムに基づいた ICT の活用の考え方・進み方について理解する。

【到達目標】

21 世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR などでも利用してできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂のポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第 9 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 10 回	教育課程と指導計画 (1)	指導計画のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画 (2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 12 回	教育課程と指導計画 (3)	教科・領域の横断および ICT 教育の活用
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめ	日本における特徴的なカリキュラム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 年

佐藤学『教育の方法』左右社、2010 年

秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010 年
文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %

ホームワーク 20 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】

Course outline:

This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum and the usage of ICT as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.

Learning objectives:

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum for competency building.

Learning activities outside of classroom:

Since the concepts and theories are diverse, students are required to carefully review resumes and references. In addition, depending on the content of each lecture, reading and investigating information on particular topics may be assigned as homework. The preparation and review time for this class is about 4 hours every week.

Grading criteria/ Policy:

Attendance and learning attitude 40%

Homework 20%

Report 40%

EDU200MA

教育課程論

飯窪 真也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画ー通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画ー教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、リアクションペーパー（30%）、授業内試験（40%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

【Learning Objectives】

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA

教育課程論

飯窪 真也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第 2 回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第 3 回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第 4 回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第 5 回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第 6 回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第 7 回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第 8 回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第 10 回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第 11 回	教育課程と指導計画ー通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第 12 回	教育課程と指導計画ー教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第 13 回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第 14 回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容の復習を行ってください。
指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、リアクションペーパー（30%）、授業内試験（40%）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

【Learning Objectives】

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA

教育課程論

川津 貴司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第 2 回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第 3 回	教育内容の選択	教育の目的
第 4 回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第 5 回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第 6 回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第 7 回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第 8 回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第 9 回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第 10 回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第 11 回	教育課程と指導計画－通時性と共時性	指導計画のデザイン
第 12 回	教育課程と指導計画－教科・領域の横断	学年・学期・単元をまたぐ視点
第 13 回	カリキュラム評価	P D C A サイクルとカリキュラムの改善
第 14 回	授業のまとめとテスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は指定なし。プリントを配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解したか、という観点から評価を行う。
毎回の小レポート（50%）、期末試験（50%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生さんどうしの意見交換を大切にし、「話しやすい」環境づくりを心がけています。
「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline (in English)】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation. Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

EDU200MA

教育方法論（ICT 活用を含む）

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらに情報通信技術の活用を教師の専門性とかかわらせて考察する。

課題等を課した場合には、課題締切後の授業冒等、適宜フィードバックの機会を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ねらいと概要
第 2 回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	教師の専門性について考える。その際、情報通信技術の活用についても留意する
第 3 回	教育方法の基礎的理論と実践	児童生徒の学びと学習理論について考える。
第 4 回	情報通信技術の活用の意義と理論	情報通信技術を用いた教育の在り方について考察する。
第 5 回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	新学習指導要領と状況通信技術を活かした資質・能力の育成について論じる
第 6 回	教育方法と情報活用能力	教育方法と情報活用能力について論じる。
第 7 回	教育目標と授業のデザイン	単元学習活動における目標及び設定について論じる
第 8 回	学力と評価の観点	評価の考え方・進め方について論じる
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個に応じた指導について考える
第 11 回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第 12 回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	発問や板書などの指導の基本的技術について論じる
第 13 回	学習評価	評価の考え方・進め方について論じる
第 14 回	授業のまとめ、テスト	ふりかえりと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）、松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 %で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building

【Learning objectives】

Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to review, such as summarizing the content after the lecture. Time for preparation and review is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluated only by the final exam(1 0 0 %).

EDU200MA

教育方法論（ICT 活用を含む）

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。本授業は、教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。教育の方法及び技術、情報通信技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
2	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法の基礎的理論と実践	学びと学習理論
4	情報通信技術の活用の意義と理論	情報通信技術による教育の革新
5	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	資質・能力の育成に向けて
6	教育方法と情報活用能力	学習活動の構想
7	教育目標と授業のデザイン	単元設定の理由、単元の目標単元と指導計画、学習活動の構想
8	教育の内容と学習活動学力と評価の観点	評価規準の設定
9	主体的・対話的で深い学び	思考力を育む
10	個に応じた指導の工夫	一斉指導から個に応じた指導へ
11	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	学びのツール
12	学習評価	評価の考え方・進め方
13	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	授業を実践する
14	授業まとめ	授業の振り返り、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30 %）、課題（40 %）、テスト（30 %）等をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークのやり方を工夫をする。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read the text and materials, prepare a presentation, research teaching materials and write lesson plans.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (40%) and term-end examination (30%).

EDU200MA

教育方法論（ICT 活用を含む）

黄 郁倫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR などでも利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「学び」を問い直す。
第 2 回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第 3 回	教育方法の基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第 4 回	情報通信技術の活用の意義と理論	ICT 教育の背景を紹介する。
第 5 回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	ICT 教育の理論を紹介する。
第 6 回	教育方法と情報活用能力	授業における ICT 教育の実践を紹介する。
第 7 回	教育目標と授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第 8 回	学力と評価の観点	学力と評価の関係について考える。
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	アクティブ・ラーニングについて考える。
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個別最適化について考える。
第 11 回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	教材研究と ICT 機材の活用についてを紹介する。
第 12 回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	教材研究と ICT 教育の活用の実践を紹介する。
第 13 回	学習評価	評価の仕方について考える。
第 14 回	授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学 『教育の方法』 左右社、2010 年
 秋田喜代美 『新しい時代の教職入門 改訂版』 有斐閣アルマ、2015 年
 文部科学省 「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
 松尾知明 『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』 学文社、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %

ホームワーク 20 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.

[Learning objects]

Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.

[Learning activities outside of classroom]

This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.

[Grading criteria/Policy]

Attendance and learning attitudes 40%

Assignments 20%

Final report 40%

EDU200MA

教育方法論（ICT 活用を含む）

黄 郁倫

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTR などでも利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「学び」を問い直す。
第 2 回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第 3 回	教育方法の基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第 4 回	情報通信技術の活用の意義と理論	ICT 教育の背景を紹介する。
第 5 回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	ICT 教育の理論を紹介する。
第 6 回	教育方法と情報活用能力	授業における ICT 教育の実践を紹介する。
第 7 回	教育目標と授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第 8 回	学力と評価の観点	学力と評価の関係について考える。
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	アクティブ・ラーニングについて考える。
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個別最適化について考える。
第 11 回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	教材研究と ICT 機材の活用についてを紹介する。
第 12 回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	教材研究と ICT 教育の活用の実践を紹介する。
第 13 回	学習評価	評価の仕方について考える。
第 14 回	授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤学 『教育の方法』 左右社、2010 年
 秋田喜代美 『新しい時代の教職入門 改訂版』 有斐閣アルマ、2015 年
 文部科学省 「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
 松尾知明 『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』 学文社、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %

ホームワーク 20 %

期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.

[Learning objects]

Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.

[Learning activities outside of classroom]

This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.

[Grading criteria/Policy]

Attendance and learning attitudes 40%

Assignments 20%

Final report 40%

EDU200MA

教育方法論（ICT 活用を含む）

川津 貴司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 6/Fri.6 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」（テキストの内容説明）と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学びのイノベーションの時代
第 2 回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	学びにおける教師の専門性
第 3 回	教育方法の基礎的理論と実践	児童生徒の学びと学習理論
第 4 回	情報通信技術の活用の意義と理論	環境づくりの視点
第 5 回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	学習指導要領と資質・能力の育成
第 6 回	教育方法と情報活用能力	活動的な学びの組織化
第 7 回	教育目標と授業のデザイン	単元設定の理由、単元の目標
第 8 回	学力と評価の観点	評価規準の設定
第 9 回	主体的・対話的で深い学び	対話の重要性
第 10 回	個に応じた指導の工夫	個性を生かす方法
第 11 回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	情報機器の効果的な使用法
第 12 回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	授業事例から学ぶ
第 13 回	学習評価	評価の際の留意点
第 14 回	授業のまとめ、テスト	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回テキスト（課題）を読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、単元指導計画を効果的に作成することができるか、という観点から評価を行う。

毎回の小レポート（50%）、期末試験（50%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生さんどうしの意見交換を大切に、「話しやすい」環境づくりを心がけています。

「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。

また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

【Outline (in English)】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

FRI200MA

図書館演習

坂本 旬

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】

- (1) ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
- (2) メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
- (3) ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説（Zoom によるオンライン授業）
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システム HULiC の使い方を解説する
3	メディア情報リテラシーの概念	メディア情報リテラシーの概念の枠組みについて学ぶ
4	メディア情報リテラシーの恩恵と必要性	メディア情報リテラシーがもたらす恩恵と必要とされる背景について学ぶ
5	カリキュラムの枠組み	メディア情報リテラシー・カリキュラムの構成を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見直しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・教師の能力	実践の核になる司書や教師の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学習	メディア情報リテラシー教育のための学習理論を学ぶ
12	メディア情報リテラシーの教材	メディア情報リテラシーについてユネスコが推奨する教材について学ぶ
13	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ
14	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ

23	情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程専用授業支援システム（HULiC）を用いた事前学習および宿題をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店（2022 年）

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版社（2014 年）
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30 %、提出課題 30 %、平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を適宜導入することで、多様な専門家をゲストとして授業に呼ぶことができた。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を用意すること。

【その他の重要事項】

実習として映像制作（デジタル・ブックトーク）を行う。

【授業中に求められる学習活動について】

A,B,C,D,E,F,G,H

【Outline (in English)】

Exploration of the new image of libraries in modern society and an understanding of media information literacy.

(1) To understand the basic concept of media information literacy of UNESCO.

(2) To be able to practice based on the media and information literacy curriculum.

(3) To be able to conceptualize the image of public libraries and school libraries based on UNESCO's media and information literacy principles and movements.

The goal is to understand UNESCO's Media and Information Literacy (MIL), to be able to implement practices based on the MIL curriculum, and to be able to envision a public or school library based on MIL.

Grading criteria are as follows. 30% for quiz, 30% for report, and 40% for attitude.

Students will be required to do prep work and homework prepared in advance.

For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

FRI200MA

図書館演習

村上 郷子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行い、公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】

春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。

秋学期は、東京 23 区中央図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。

秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実践についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。

春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア (HULiC) の利用ガイダンスについて
2	公立図書館の現状と課題 ①	指定管理者制度 (1)
3	公立図書館の現状と課題 ①	指定管理者制度 (2)
4	公立図書館の現状と課題 ②	市民との協働 (1)
5	公立図書館の現状と課題 ②	市民との協働 (2)
6	公立図書館の現状と課題 ③	図書館職員の役割と労働形態 (1)
7	公立図書館の現状と課題 ③	図書館職員の役割と労働形態 (2)
8	公立図書館の現状と課題 ④	知的自由と検閲 (1)
9	公立図書館の現状と課題 ④	知的自由と検閲 (2)
10	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
11	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
12	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③
13	学生による研究発表①	2 つのテーマについて、発表する。
14	学生による研究発表②	2 つのテーマについて、発表する。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京 23 区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京 23 区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①（グループ）	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②（グループ）	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意

22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル（予備）	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。

秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダーシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。

授業用グループウェア (HULiC) を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HULiC だけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとして LINE 等を含む SNS も積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション（配付資料、プレゼン資料等）（春学期 15 % + 秋学期 15 % = 合計 30 %）

(2) 個人の課題・アンケート + 個人の覆面調査など（20 %）

(3) 課題研究に関する報告書 + 春・秋学期末レポート（50 %）

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 10 回以下）のものは、「(1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives) : In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

(Learning activities outside of classroom) : In the spring semester, students should ensure that there is sufficient time for group discussions on research topics and preparation for research presentations.

In the fall semester, the main focus will be on group and individual field research and group activities. Thus, students are expected to actively participate in class and take a leadership role. Students should also be aware that group activities outside of classroom will be required. Classroom groupware (HULiC) shall be used as a communication tool for both faculty and students. In group activities, students should actively use not only HULiC but also SNS including LINE, etc. as communication tools for simple confirmation.

The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : (1) Group activities, class participation and contribution, and presentations (handouts, presentation materials, etc.) (Spring semester 15% + Fall semester 15% = 30% total)

(2) Individual assignments, questionnaires + individual field research, etc. (20%)

(3) Report on the research project + reports at the end of spring and fall semesters (50%)

FRI200MA

図書館演習

竹之内 禎

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、図書館員の倫理綱領「第5 図書館員は常に資料を知ることにつとめる」をモットーに、春期のテーマを「生きる意味の発見・実現に資する本と図書館の世界」、秋期のテーマを「図書の歴史と教養の形成」といたします。春期は、本と図書館の知識を「生きる意味」の発見・実現に生かす「実践知」の基盤を身に付けることをめざします。秋期は、西洋を中心に、文学史、思想史、学問史における重要著作をおさえつつ、古代ギリシャから近現代までの主要な書物を取り上げ、教養の基盤を形成することをめざします。年間を通じて、学生による選書と書籍紹介を毎回の課題とし、話題を共有していきます。大人の心に効く絵本を紹介する絵本セラピーの方法も学びます。総合的に、教養の読書を自分自身の生涯にわたる人格形成の力として高めていく基礎を培うことをめざします。なお、進路として司書をめざす方のサポートも行います。

【到達目標】

- (1) 司書課程で学んだ情報リテラシー（問題解決のための情報資源活用能力）を応用して、さまざまな問題を抱えながら生きる人々が創造価値、体験価値、態度価値の観点から「生きる意味」を見出し充実した生活が送れるための行動・実践のレベルでの支援に結び付けられること
- (2) 生涯を通じて自分自身の人格形成に資する学びを続けるために、本の世界への知識と関心を広めること。特に西洋を中心とした文学史、思想史、学問史における重要著作の概要を説明できるようになること。
- (3) 絵本セラピーなどのブックコミュニケーションの手法を学び、大人の読書を楽しみながら、教養の読書を習慣化する自分なりの方法を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト「生きる意味の情報学」から論点を抽出し、関連する話題と書籍・映像メディア等を紹介しあい、意見交換を行います。
- ・図書の歴史については、図書館やメディアの歴史とあわせて知識として教授するとともに、毎回、関連情報を調べる課題を課します。
- ・ブックコミュニケーションについては、古今東西の書物を題材に、本だけでなくメディアミックス作品（漫画、アニメ、映画等）も視野に入れ、作品の相互紹介と意見交換をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス 生きる意味の思想と実践 ：フランクル・ロゴセラピーの世界	テキスト第 1 章の論点をまとめ、ヴィクトール・E・フランクルの「生きる意味」の思想について、創造価値・体験価値・態度価値の観点から学ぶ。
第 2 回	自己実現から意味実現へ ：ロゴイストのすすめ LIFE の核は IF	テキスト第 3 章前半の論点をまとめ、「やりたいこと」と「意味あること」の違い、PTSD と PTG の違いについて学ぶ。コラム 3 を参考に、人生の IF について考察する。
第 3 回	人生の岐路に向き合う	テキスト第 3 章後半の論点をまとめ、仕事の選び方、仕事に取り組む姿勢について学ぶ。コラム 4 を参考に「自分にあるもの・できることシート」を作成する。
第 4 回	声に乗せて届ける	テキスト第 4 章とコラム 5 を参考に、「声に乗せて届ける」活動をしている YouTube 等の動画（朗読など）を探索する。著作権についても考慮する。参考動画：『この声をきみに』（NHK オンデマンドで有料配信）
第 5 回	ボランティアを通じた創造価値	テキスト第 5 章を参考に、録音図書及びバリアフリー情報資源について学び、ボランティアや寄付を通じた創造価値について考察する。
第 6 回	見えない世界を生きる原動力	テキストの第 6 章を参考に、視覚障害者にとっての生きる意味について考察する。参考文献：穴澤雄介『見えなくなったら希望が見えた』、ヨシタケシンスケ『みえるとかみえないとか』、伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』。

第 7 回	絵本セラピーとの出会い ：言葉の奥にある compassion	テキスト第 7 章の論点をまとめ、絵本セラピーの方法と考え方について学ぶ。絵本セラピーのプログラムを作成する。
第 8 回	読書の体験を伝える：読書感想文とビブリオバトル	テキスト第 8 章の論点をまとめ、身近な書籍でミニ読書感想文を作成し、動画を視聴してビブリオバトルの実際について学ぶ。
第 9 回	精神次元を体験する旅： 消費の観光を超えて 本で旅する／本が旅する	テキスト第 9 章の論点をまとめ、精神次元を体験する旅の論点について学ぶ。コラム 9, 10 を参考に旅に関する書籍・映画・ドラマを探索する。
第 10 回	ネット・ゲーム依存は子どもの SOS	テキスト第 10 章の論点をまとめ、ネット・ゲーム依存と読書の効用について検討する。
第 11 回	喪失体験と意味の回復	テキスト第 11 章の論点をまとめ、喪失体験と意味の回復について、悲哀と抑鬱の違いを中心に学ぶ。また、グリーフケアに関連する書籍を紹介しあう。
第 12 回	それでも人生にイエスと言う	テキスト第 12 章とコラム 12 を参考に、不可避の運命に対して意味を見出す姿勢、苦悩する人に寄り添う姿勢を学ぶ。
第 13 回	共創・共感・共苦のメディア	テキスト終章の論点をまとめ、共創・共感・共苦のメディアの考え方について、図書館を例として検討する。
第 14 回	意味発見シート 暮らしの風景を生きる	第 2 章を参考に、「意味発見シート」に取り組む。「暮らしの風景を生きる」をテーマにまちづくり（シティブロモーション）の論点について学ぶ。「暮らしの風景」を写真におさめる。観光資源としての図書館について考える。ギリシャ哲学、ギリシャ悲劇ほか
第 15 回	古代ギリシャの著述家と著作	古代の知識を集積したプトレマイオス朝エジプトの王立図書館の歴史
第 16 回	古代アレクサンドリア図書館①	古代アレクサンドリア図書館を舞台とした作品
第 17 回	古代アレクサンドリア図書館②	キケロ、カエサル、セネカ、プリニウスほか
第 18 回	古代ローマの著述家と著作	日本語版・英語版・ドイツ語版の比較
第 19 回	キリスト教と聖書	西欧の写本づくりとビザンツの書物、イスラムの科学と文学
第 20 回	中世前期の三つの世界： 西欧、東ローマ、イスラム世界	イスラム科学、アラビアン・ナイト
第 21 回	イスラム世界の著述家と著作	普遍論争、騎士道物語、ダンテ、ペトラルカ、シェイクスピア
第 22 回	中世後期からルネサンス期の著述家と著作	ドイツ史と作品：ファウスト、モモ、ドイツ観念論、実存思想
第 23 回	ドイツの著述家と著作	フランス史と作品：星の王子さま ほか
第 24 回	フランスの著述家と著作	英国史と作品：ガリバー旅行記、不思議の国のアリス ほか
第 25 回	イギリスの著述家と著作	米国史と作品：老人と海、アルジャーノンに花束を ほか
第 26 回	アメリカ合衆国の著述家と著作	アンデルセン童話、ムーミン ほか
第 27 回	北欧諸国の著述家と著作	教養の読書
第 28 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のテーマに関連した図書を探して、紹介する準備をしてください。本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書『生きる意味の情報学 共創・共感・共苦のメディア』竹之内禎編著 東海大学出版部 2022.3
※通常価格だと高価なため、書店経由ではなく著者割で直接販売いたします。最初の 3 回の授業に必要な内容は PDF でも配布します。

【参考書】

NHK オンデマンドで配信されている番組「100 分 de 名著 フランクル『夜と霧』」「この声をきみに」の視聴をお勧めしています（個別契約が必要です）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後の課題（50 %）
授業内での報告及びコメント（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

少人数制授業ですので、その利点を生かした授業を行います。夏休み中に、公共図書館が主催する読書感想文の書き方講座へのサポーターとしての参加等の機会（任意）を設けるほか、図書館や大型書店、絵本専門店等の見学（任意）も行えればと考えています。

【その他の重要事項】

本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。「図書館情報学概論 I 及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論 I、II」が履修済みであることが望ましいです（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

【Outline (in English)】

Course outline

Ethical Code of Librarians by Japan Library Association says: 5. Librarians always make effort to know library resources.

The theme of this class is "the world of books and libraries for life" (spring semester) and "history of books and building up knowledge" (autumn semester).

In this class, we quest the way to forming our identity by reading and library utilization.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) By applying the information literacy (the ability to use information resources for problem solving) learned in the librarian course, people living with various problems will find "meaning of life" from the perspective of creative value, experience value, and attitude value. to lead a fulfilling life, and to be linked to support at the level of action and practice

(2) To spread knowledge and interest in the world of books in order to continue learning that contributes to the formation of one's own personality throughout life. To be able to explain the outline of important works in the history of literature, the history of thought, and the history of scholarship, especially in the West.

(3) Learn book communication methods such as picture book therapy, and establish your own method of making reading habits while enjoying adult reading.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on the short reports (50%), in-class contribution including making presentations and comments (50%).

FRI200MA

図書館サービス概論

栗原 智久

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館サービスとは？ みなさんの思っているか？

この授業では、図書館サービスの意義・種類・目的・方法・目標・評価などについて学習します。

実例をもとに、また図書館の種類・属性によるところからもみてみます。

みなさんのアイデアもグループディスカッションなどを通じて掲げてもらい、考察します。

【到達目標】

①図書館サービスを理解する。

②学習したことをもとに、自ら図書館サービスをこなすことができる知識、また図書館サービスを考案できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業による講義が基本ですが、みなさんに能動的に考えてもらう時間、アイデアを出してもらう時間も設けます。（提出・発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館におけるサービス	イントロダクションとして、みなさんが思いつくサービスを掲げてもらいます。その上で、図書館サービスの意義・種類・目的・方法などについて考えます。
第2回	情報サービス	図書館における情報サービスについて、レファレンスサービス・レフェラルサービス・カレントウェアネスサービスをはじめとして、説明します。
第3回	閲覧サービス	資料提供サービスとしての閲覧サービスについて学習します。閲覧のための空間提供についてもふれます。
第4回	複写サービス	資料提供サービスとしての複写サービスについて学習します。複写に関連する著作権についてもふれます。
第5回	貸出サービス	資料提供サービスとしての貸出サービスについて学習します。自館と他館における館間貸借についてもふれます。
第6回	情報提供サービス	レファレンスサービスをコアに、情報を提供するとはどういうことか、学習し、考えます。
第7回	児童・生徒・学生サービス	調べ学習、総合的な学習の時間などに応えるサービスについて、実例をもとに、具体的にみていきます。
第8回	発信型サービス	受動的ではなく能動的なサービスとしての発信型サービスについて、アナログ型・デジタル型ともにみていきます。

第9回	アウトリーチサービス	通常サービスを利用するのがむずかしい人（ところ）へのサービスについて考えます。
第10回	講座・セミナー	実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第11回	連携・協力サービス	博物館など類縁機関との連携・協力、内部連携・協力について、実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第12回	図書館（情報）利用教育	図書館を、図書館の情報を、利用するに際しての情報リテラシーについて学習し、考えます。
第13回	図書館サービスのこれから	実例をもとに、ユニークなサービスをみてみます。評価します。これからの図書館サービスについて考えます。
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前後にプリントをよく読んで、準備・復習します。自分で気になる図書館を、訪問したり、ホームページで確認したりするなどして、授業で学習したことを照らし合わせて知識としての定着をはかってください。

実際に、宿題（課題レポート）で、図書館サービスを調査します。（提出）

毎回、準備学習に2時間、復習に2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回テキストプリントを配布します。

【参考書】

授業時に複数紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%) 提出物(30%) 期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】

みなさんが図書館に関心があり、そのサービスに興味があることはわかっています。自らそれを積極的に調べたいような学習内容を目指します。

【その他の重要事項】

図書館司書課程必修科目です。

博物館図書室、公共図書館協議会での実務経験を示せればと思っています。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students understand Library Service.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do Library Service and plan for Library Service.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policies : In-class performance(20%) Report(30%) Term-end examination(50%)

FRI200MA

情報サービス演習

田中 順子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

Students learn about how to respond user's need.

First, go to library and research various books,

Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。

学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ②論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索
14	情報検索基礎演習 (7) / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.

Then in the class, they present their research results and submit research reports.

Students will spend more than four hours to research various books for making report.

After class they need to study about the course content.

Research reports(80%)

Presentation about their research results in the class.(20%)

FRI200MA

情報サービス演習

田中 順子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者のニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

Students learn about how to respond user's need.

First, go to library and research various books,

Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。

学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC 検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ②論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索
14	情報検索基礎演習 (7) / 春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習（課題に対する回答の提出内容）によって成績を評価します。配分は発表 20 %、演習 80 %です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の準備（課題の回答）が大変だとの意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.

Then in the class, they present their research results and submit research reports.

Students will spend more than four hours to research various books for making report.

After class they need to study about the course content.

Research reports(80%)

Presentation about their research results in the class.(20%)

FR1200MA

情報サービス演習

菅原 真悟

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：月 6/Mon.6 | 配当年度：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の 2 点を主に扱う。

1. 情報源（データベース）を検索し回答する方法を学ぶ
2. 発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

【到達目標】

利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようにする。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要な ICT の基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習に用いる。
- ・データベースの使い方について、利用者教育を想定した発表を行う演習を取り入れる。
- ・発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。
- ・図書館の情報サービスについて調査し発表する課題を課す。
- ・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。
- ・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。
- ・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者に回答する際に注意すべき点。
第 2 回	図書検索 (1)	法政大学図書館 OPAC の使い方。
第 3 回	図書検索 (2)	検索演算子を使った検索演習。
第 4 回	図書検索 (3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第 5 回	情報サービス (1)	情報サービスの現状。
第 6 回	情報サービス (2)	レファレンス事例データベース。
第 7 回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第 8 回	論文検索 (1)	CiNii を使った論文検索（基礎）。
第 9 回	論文検索 (2)	CiNii を使った論文検索（応用）。
第 10 回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第 11 回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第 12 回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第 13 回	さまざまなデータベースを使う (1)	辞書・事典・歴史・地図検索。
第 14 回	さまざまなデータベースを使う (2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第 16 回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第 17 回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第 18 回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第 19 回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第 20 回	理系論文検索 (1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第 21 回	理系論文検索 (2)	医学系論文を探す。
第 22 回	SNS 演習	図書館とソーシャルメディア。
第 23 回	発表会 (1) 発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。
第 24 回	CMS 演習 (1)	CMS と図書館サイト構築の現状。

第 25 回	CMS 演習 (2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第 26 回	CMS 演習 (3)	CMS(NetCommons) を用いた図書館サイトの構築演習。
第 27 回	CMS 演習 (4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第 28 回	発表会 (2) 新しい発信型情報サービス	新しい発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】

講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

発信型情報サーブについて、グループまたは個人発表 30%
小レポートの提出、データベース演習での発表 40%
授業内演習への参加（授業への貢献） 30%
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

情報サービスについての理解を深めるために、演習やグループ学習の時間を増やします。利用者教育についての理解を深めるために、データベース講習会を想定した演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (<https://hoppii.hosei.ac.jp/>) のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(<http://lc.i.hosei.ac.jp/>) も使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with (1) Learn how to search information sources (databases) and (2) Learn how to build website and database for outgoing information service.

【Learning Objectives】

It will be possible to answer user's questions and make a database of answers. Students acquire the basic knowledge of ICT necessary for outgoing information services in libraries.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Two presentations: 30%, Short reports and presentations: 40%, in class contribution: 30%

FRI200MA

図書館情報資源概論

小黒 浩司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実践を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方についてのガイダンス	授業の進め方、成績評価などについて、オンライン形式で説明する。
第 2 回	図書館情報資源とは何か	図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第 3 回	図書館情報資源の種類	『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』の種類、並びに同規則 2018 年版の機器種別などによって、図書館情報資源の概略を説明する。
第 4 回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第 5 回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第 6 回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第 7 回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第 8 回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第 9 回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第 10 回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第 11 回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。
第 12 回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第 13 回	出版流通	日本の出版流通の現状を、メディア別ならびに流通過程から概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、準備学習・復習各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL などを掲載するので、活用してほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。

ただし新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性があるため、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the characteristics of various library information resources.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, contribution: 20%

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土 2/Sat.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイド ンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
7	紙の博物館見学 メディアの発展史②（印刷革命（1）木版・活版印刷）	小レポート 1 木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
11	印刷博物館見学 蔵書論、蔵書管理	小レポート 2 蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など

13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論（現代図書館情報学シリーズ）、2020、樹村房

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30%）、（2）2回的小レポート（30%）、（3）学期末試験（40%）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.

Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

FRI200MA

図書館情報資源概論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア（HULiC）利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明）	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等
7	紙の博物館見学 メディアの発展史②（印刷革命（1）木版・活版印刷）	小レポート 1 木版印刷・活版印刷の歴史
8	メディアの発展史③（印刷革命（2）印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴
11	印刷博物館見学 蔵書論、蔵書管理	小レポート 2 蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論（選書）	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など

13 図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理 受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など

14 総まとめ 筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

【参考書】

岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論（現代図書館情報学シリーズ）、2020、樹村房

【成績評価の方法と基準】

（1）毎回の確認クイズ（30%）、（2）2回的小レポート（30%）、（3）学期末試験（40%）によって総合的に評価する。
全ての提出物は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。
毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.

Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

FRI200MA

図書館情報資源特論

小黒 浩司

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習して、図書館の資料収集・提供機能を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	電子資料に関する動向	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、電子資料に関する近年の動向を概説する。
第 2 回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 3 回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 4 回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 5 回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 6 回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 7 回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 8 回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 9 回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第 10 回	読書の電子化	1990 年代にはじまり、2010 年代になり本格化した日本における「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第 11 回	歴史的音源	SP 盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第 12 回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第 13 回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第 14 回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、準備学習・復習各 2 時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトの URL などを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点（80 %）に、授業への参加・貢献度（20 %）を加えて評価する予定である。ただし新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインでの開講となる可能性があるため、PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること（kohji.oguro.58@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the characteristics of various library information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, contribution: 20%

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：土 2/Sat.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実態を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査研究および現地調査を行い、評価をする。授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。

プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

- （1）個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書（30 %）
- （2）グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など（30 %）
- （3）個人のレポート（40 %）

全ての提出物は授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80 % を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14 回中 4 回以上の欠席）のものは、「（2）グループ活動・授業への参加（出席）・（30 %）」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline (in English)】

(Course outline & learning objectives) : Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

(Learning activities outside of classroom) : In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.

The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)

(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)

(3) Individual reports (40%)

All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

FRI200MA

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実態を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査研究および現地調査を行い、評価をする。授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。

プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成（グループ活動）
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書（宿題）の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック
10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション① 利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る）
13	グループ・プレゼンテーション② 利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る	プレゼンの実践と評価（利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る）
14	グループ活動のまとめ・全体討議	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加（出席は 8 割以上）が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書 (30%)

(2) グループ活動・授業への参加（出席）と貢献度（出席重視）、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など (30%)

(3) 個人のレポート (40%)

全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は 80% を目安とする。欠席は 3 回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14 回中 4 回以上の欠席) のものは、「(2) グループ活動・授業への参加 (出席)・(30%)」の部分は 0 とする。正当な理由があるため 4 回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで 5 回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として 0 とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル (文書・パワポ・画像・他) 提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0 になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士の LINE の活用も奨励する。

【Outline (in English)】

(Course outline & learning objectives) : Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

(Learning activities outside of classroom) : In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.

The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)

(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)

(3) Individual reports (40%)

All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

FRI200MA

読書と豊かな人間性

田中 順子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読書と豊かな人間性の関係について学ぶ。読書は人間性にどのような影響を与えるのか、その方法はいかなるものか。読書教育を進めるために、図書館と司書教諭の役割について考える。具体的には、読書の意義と効用について知り、児童、生徒の発達段階に応じた適切な指導について学ぶ。本についての知識を深め、子どもと本をつなぐ具体的な方法を身に付けるための実践も行う。毎回、その日の学びを深めるためにグループ発表を行う。

【到達目標】

読書教育のこれまでの流れを知る。さらにそれを発展させ、課題を克服するために司書教諭は何ができるかを考える。本についての知識を蓄え、本と子供を結び付けるスキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業とする。授業の解説を受けて、自分の考えをまとめグループ発表を行う。数回、読み聞かせやブックトークなど、子供と本を結び付ける様々な実践を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	読書の意義と効用について	現代における読書の意義と効用について学ぶ。学生自身の読書体験を振り返る
第 2 回	これまでの読書環境と読書習慣について	子どもたちの読書状況について学ぶ。社会環境の変化と子供の読書習慣の関係を探る。
第 3 回	発達段階と読書指導	学習指導要領の変遷について学ぶ。子どもの発達段階に合わせた読書指導について学ぶ。
第 4 回	生涯学習と読書	幼少期、小学校期、中学校期、高等学校期の読書指導について。生涯を通じて読書を楽しみ、学習を続けていけるように、基本的な力を身に付ける指導について学ぶ。山形の図書館利用教育を徹底している小学校の取り組みを参考にする。
第 5 回	図書館の現状 様々な取り組みについて	子どもにとって快適な図書館、読書推進に貢献できる図書館について考える。具体的に様々な工夫をしている図書館を事例として学ぶ。
第 6 回	教科指導と読書指導 司書教諭の役割	学校図書館における司書教諭の役割として、読書能力を高める指導、調べ学習の力をつける指導について学ぶ。
第 7 回	読書と心の教育について	「心の教育」における、読書の役割について考える。読書療法についても取り上げる。
第 8 回	家庭や地域との連携	ブックスタートなど、家庭や保健所のような他機関と図書館が連携することで、本や読書と出会う環を整備する方法について学ぶ。
第 9 回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける 1	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークについて学んだあとと学生による実演を行う
第 10 回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける 2	読書郵便、読書感想文、読書感想画について学んだあとと学生による実演を行う
第 11 回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける 3	アニメーションについて学んだあとと学生による実演を行う
第 12 回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける 4	本の魅力を伝える力を身に付けるため、学生による読書会、ビブリオバトルを行う
第 13 回	子供の読書活動の推進について	「子どもの読書活動の推進に関する法律」「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき、各地方自治体、学校などの取り組みについて学ぶ。

第 14 回 まとめ これまでの学びを振り返り、読書と豊かな人間性についてまとめ、課題について考える。
様々な課題をどう克服するか考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に予習して授業に臨む。実演の準備、授業の予習に 2 時間、復習に 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

シリーズ 学校図書館学 第 4 巻 読書と豊かな人間性
「シリーズ 学校図書館学」編集委員会編 全国学校図書館協議会

【参考書】

『図書館をつくる 教育を変える』山形県鶴岡市立朝陽第一小学校 著
全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表における発言、授業時の小課題）：30 %
中間レポート：20 %
期末レポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

(Course outline)

I want to discuss the meaning of reading books for humans, using some statistics and research.

I also explain the way to attract children, for example, how to read children some books, how to let them read books deeply and how interesting books are.

(Learning Objectives)

- ・ Students can explain the importance of reading books.
- ・ Students can use technique such as reading children some books and organizing book reading environment.

(Learning activities outside of classroom)

Since the lecture will be given according to the chapter of the textbook, please read the relevant part of the textbook in advance before the lecture. The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Class assignments (30%), mid-term report(20%), term-end report (50%) .

FRI200MA

情報メディアの活用

坂本 旬

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

【到達目標】

- (1) 今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
- (2) 学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
- (3) 情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
- (4) 情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは HULiC を通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由などの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディアリテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ
11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

司書課程用授業支援システム（HULiC）を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。映像制作では、授業時間外の取材や編集を行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店（2022 年）

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』（法政大学出版局）2014 年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐ SDGs の教育学』（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

授業評価の方法と基準は以下の通り。授業への参加 30%、映像制作 20%、課題レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業の最後に映像を導入することで、映像制作を通じた学習の振り返りができた。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの映像制作可能な情報機器。新型コロナウイルス感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

【その他の重要事項】

授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

【Outline (in English)】

To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians

To produce digital storytelling video about books and reading life

The goal is to acquire the ability to examine people living in an information media society, the ability to use information media in school libraries, media ethics, and basic video production skills.

Grading criteria are as follows. Class participation is 30%, filmmaking is 20%, and reports are 50%. Students will be required to do prep work and homework prepared in advance. For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

FRI200MA

情報メディアの活用

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 1/Tue.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における情報メディア全般の特性と活用方法を理解し、司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することにより、メディア情報リテラシーの基礎を習得する。

【到達目標】

司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単な CM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙および CM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。アンケート調査やプレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイダンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史（課題①、エクセル）	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方（課題②、引用文献）	レポート・論文作成法 - 10 のステップ
4	検索の基礎理論（課題③、検索）	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館 検索実習	データベース検索の実際（有料データベース、洋書、他）
6	広報紙：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方（課題④、PR 用ホームページ）（グループを決める）	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎（課題⑤、パワーポイント）	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権（グループ活動によるブレインストーミング）	情報リテラシーと著作権、グループ活動
9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報紙制作（その1）、各班の広報紙タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報紙制作（その2）、広報紙の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報紙制作（その3）広報紙の校正
12	学校図書館からの情報発信④	プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報紙制作およびビデオ制作を行う。課題をしっかりとこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】

・山本 順一・気谷 陽子著『情報メディアの活用』、放送大学教育振興会、三訂版、2016
・五十嵐 絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語—図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション（30%）、個人のプロジェクト作品（30%）によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル（画像の挿入、罫線・図表の作成など）を身につけているため、今回は割愛した。

【その他の重要事項】

授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives) : Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.

(Learning activities outside of classroom) : In addition to classes, students will be required to submit assignments and work in groups to produce a PR magazine and video. Students are expected to complete assignments and actively participate in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy) : Comprehensive evaluation will be based on assignments (40%), active contribution to the class (including attendance), group projects and presentations (30%), and individual project works (30%).

CUM100MA

ミュージアム資料論

田中 裕二

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」され、「保存」され、「研究」に活用され、「展示」に供される過程を概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

【到達目標】

博物館を、「資料」という観点から理解することを旨とする。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期第1回目はオンラインで実施。配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらう。次回の講義の冒頭で質問や疑問について全員に対して回答し、情報の共有を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（オンラインで実施）	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第2回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第3回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第4回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第5回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第6回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第7回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第8回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第9回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第10回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第11回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第12回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第13回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第14回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。授業内で活発な議論となるよう発言を促します。また、学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です（その際、若干の入館料が発生する可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、ほぼ毎回、プリント資料を配布します。

【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加度（コメント・ペーパーの記入と課題の成果など）：50%
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義が終わった後に提出してもらっているリアクション・ペーパーを読むと、博物館資料に対して関心が高い学生が多いことがわかった。感想コメント、疑問質問は次回の講義で回答することを今年度も引き続き実施していきたい。

【Outline (in English)】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports and in the class contribution : 50%.

CUM100MA

ミュージアム教育論

渡邊 祐子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】

実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動に必要なとされる基礎的能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と演習によって構成されます。また、授業内での発表や調べ学習の他、場合によってはリアクションペーパーの提出があります。提出された課題等に対しては、授業内でフィードバックを行います。
※授業形態（対面 or オンライン）を予定から変更する場合は、各回の授業や学習支援システム（Hoppii）でアナウンスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第 2 回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育”（museum education）とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第 3 回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第 4 回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び（object-based learning）について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第 5 回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第 6 回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践事例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第 7 回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第 8 回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第 9 回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第 10 回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第 11 回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第 12 回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。（前半）
第 13 回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。（後半）
第 14 回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。
授業外の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】

J.H. フォーク・L.D. ディアキン『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % と、期末試験 50 %（グループ発表及び試験）を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な理解を深めるための講義の他、調べ学習、グループワーク、プレゼンテーション等、参加型授業の側面も重要視していきたいと思えます。

【その他の重要事項】

東京都美術館で子どものための博物館教育を行ってきました。現場の経験をもとに、国内外の先進的な事例を具体的に取り上げ、多様性を尊重した「博物館の教育」づくりの基本や方法を伝授します。
参考：東京都 東京都多文化共生ポータルサイト「やさしい日本語」活用事例 2021 年 3 月
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/files/0000001620/13_museum-start.pdf

【Outline (in English)】

This course surveys the principles and practices of museum education. It explores the kinds of learning that occur in museums and how educational programming can engage diverse audiences.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

CUM100MA

ミュージアム教育論

山下 治子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土 3/Sat.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しよう。

リアクションペーパーなどによる感想や質問などについては、授業のなかで紹介したり、答えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ 生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考として、『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（授業への積極的参加、リアクションペーパー）（50%）＋レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(participation) (50%) + Short reports (50%)

EDU200MA

社会教育演習

久井 英輔

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）

社会教育実践分析に必要な基本的視点、知識を学ぶための文献講読を行う。また、その視点、知識を活用して、実際の社会教育実践の現場（社会教育施設など）での実地調査を実施し、調査結果をもとに受講者各自でレポートを作成・発表する。

（授業の目的・意義）

文献講読、実地調査、レポート作成を通じて、社会教育士、社会教育主事に求められる実践的な研究能力（地域社会で行われている社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言をおこなう）を獲得する。

【到達目標】

社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関する基本的な視点と知識を得る。また、これらの視点・知識を生かして、実際の社会教育事業に対して客観的な把握と実践的提言を行える力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、社会教育実践の分析に必要な基本的な視点、知識について、文献講読（発表・討論）を通じて学ぶ。後半は、社会教育施設等での実地調査や、既存の社会教育実践分析の事例の検討を踏まえて受講者各自で実践分析のレポートを作成し、それを基に討論を行う。学生の文献講読発表、実践分析レポート発表などに対しては、発表後の授業内での討論や授業後のアドバイス（対面、メールなど）等の形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会教育に対する視点を学ぶ①	演習の実施方法について、問題関心を共有する
第 2 回	社会教育に対する視点を学ぶ②	学校教育とは異なる社会教育の特性について、概観する。
第 3 回	社会教育実践の場を知る①	社会教育施設の体系と各種施設の役割について、文献講読を通じて理解する。
第 4 回	社会教育実践の場を知る②	公民館およびそれに類似する施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 5 回	社会教育実践の場を知る③	青少年教育施設、女性教育施設の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 6 回	社会教育の制度を捉える①	多様な社会教育のとりくみとその中における社会教育行政の位置づけについて、文献講読を通じて理解する。
第 7 回	社会教育の制度を捉える②	社会教育行政の仕組みとその課題について、文献講読を通じて理解する。
第 8 回	社会教育の制度を捉える③	社会教育における行政・施設職員や支援者の役割と課題について、文献講読を通じて理解する。

第 9 回	社会教育における連携を探る①	社会教育行政と多様な主体の間で行われる連携の概要について、文献講読を通じて理解する。
第 10 回	社会教育における連携を探る②	社会教育行政と学校教育の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 11 回	社会教育における連携を探る③	社会教育行政と住民自治活動、地域振興活動の連携の意義と課題について、文献講読を通じて理解する。
第 12 回	実地調査の構想発表①	社会教育施設の実地調査に際して、各受講者が具体的な問題関心を発表する。
第 13 回	実地調査の構想発表②	社会教育施設の実地調査における具体的な調査対象の性格について、各受講者が自身の問題関心に基づいて発表する。
第 14 回	実地調査の構想発表③	社会教育施設の実地調査における対象の地域的背景について、各受講者が自身の問題関心に基づいて発表する。
第 15 回	実地調査の計画発表①	社会教育施設の実地調査について、各受講者が先行研究の検討結果を発表する。
第 16 回	実地調査の計画発表②	社会教育施設の実地調査について、各受講者が先行研究の検討に基づいた明確な問題関心を発表する。
第 17 回	実地調査の計画発表③	社会教育施設の実地調査について、各受講者が具体的な調査項目を発表する。
第 18 回	実地調査の計画発表④	社会教育施設の実地調査について、各受講者の調査デザインについて、相互に検討する。
第 19 回	社会教育施設見学①	社会教育施設経営に関して必要な知見・視点について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第 20 回	社会教育施設見学②	社会教育施設の講座事業を見学し、講座企画・実施・評価の実際について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第 21 回	実地調査に関連する研究論文の講読①	社会教育行政の仕組みとその課題に関する先行研究を学生の観点から選定し、批判的に検討する。
第 22 回	実地調査に関連する研究論文の講読②	社会教育施設での学習プログラム作成に関する先行研究を学生の観点から選定し、批判的に検討する。
第 23 回	実地調査に関連する研究論文の講読③	社会教育における行政・施設職員や支援者の役割や資質・能力に関する先行研究を学生の観点から選定し、批判的に検討する。
第 24 回	実地調査に関連する研究論文の講読④	社会教育行政事業と多様な主体との連携に関する先行研究を学生の観点から選定し、批判的に検討する。
第 25 回	実地調査に関する最終報告①	受講生がレポートで踏まえる調査の実施状況について報告を行う。
第 26 回	実地調査に関する最終報告②	受講生がレポートにおけるデータ分析・考察について報告を行う。
第 27 回	実地調査に関する最終報告③	受講生が各レポートに関するディスカッションを行い、それを基に重要な論点を抽出する。
第 28 回	実地調査に関する最終報告④	受講生がディスカッションを踏まえて、各自のレポートにおいて改善すべき点を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の授業の前に課題の講読文献を予め読んでおくこと。

- ・各回の文献発表担当者は、丁寧な要約と、ディスカッションの論点となるコメントを用意すること
- ・調査レポートの作成は基本的に授業時間外となるので、計画的な執筆を心がけること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】

鈴木真理、伊藤真木子、本庄陽子編『社会教育の連携論：社会教育の固有性と連携を考える』学文社、2015 年
 鈴木真理、井上伸良、大木真徳編『社会教育の施設論：社会教育の空間的展開を考える』学文社、2015 年
 鈴木真理、稲葉隆、藤原文雄編『社会教育の公共性論：社会教育の制度設計と評価を考える』学文社、2016 年

【成績評価の方法と基準】

社会教育実践に関する個人レポート 40 %
 文献講読発表 30 %
 討論への貢献度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生が自身で視点を確定させ、対象となる社会教育施設等と自身で交渉した上でインタビュー調査を行う本演習は、学生にとって負担が小さくない。しかし、これらの調査を企画・実施する過程でこそ、社会教育主事、社会教育士に必要なコーディネート能力、プレゼンテーション能力が飛躍的にのびると考えられる。調査設計に対する教員からのアドバイスをより充実させながら、今年度もこの形式を継続していきたい。

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「社会教育演習」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための科目である。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aims of this course are to provide students with basic knowledge and viewpoints indispensable to analyses on social education activities, to support for conducting surveys on social education activities, mainly in social education facilities, and to advise for writing reports utilizing data of the survey.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students acquire proper abilities of practical research for social education advisers and supervisors (ability to grasp the characteristic of each social education activity and its background, and to make realistic proposals for the activity) by reading texts, conducting surveys, and writing reports.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Presentation on individual report (40%), presentations on reading assignments (30%), contribution to discussion (30%).

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育 I

鈴木 悌遍

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域と企業と「職場における学び」の関係性について本授業では学ぶ。授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。

その後、日本各地の地域企業の具体的な事例を毎回の授業にて紹介し、学ぶ。授業では学生同士の討論の時間を設ける。

福島県会津若松市に工場を構える株式会社羅羅屋とランドセル業界の変遷については特に詳しく紹介し、学ぶ。会津若松市における事例は講師が所属する組織の実践である。

学期には学生各位が興味を持った地域企業の事例についてそれぞれ調べ、発表を行ってもらう。

希望者にはランドセル工場見学等のフィールドワークを行う。昨年度は神奈川県川崎市にある大師線と川崎大師にてフィールドワークをおこなった。フィールドワークは自由参加あり、対象は学生自身が選んだ。

【到達目標】

・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。

・ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。

・特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。

・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。

・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう（参加の有無によって評価は変わらない）。毎週提出してもらうアクションペーパーに対して毎回フィードバックし、また授業内でも積極的に取り上げる。

学期末の発表については授業内で議論し、また個々へもフィードバックもする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを授業スケジュールとともに紹介する。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育	業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域と企業と社会教育 1	地域企業の事例研究 1（地域企業の事例について学び、議論する）
第 4 回	地域と企業と社会教育 2	地域企業の事例研究 2（地域企業の事例について学び、議論する）
第 5 回	地域と企業と社会教育 3	地域企業の事例研究 3（地域企業の事例について学び、議論する）
第 6 回	期末発表・レポートに向けての指導 1	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第 7 回	地域と企業と社会教育 4	地域企業の事例研究 4（地域企業の事例について学び、議論する）
第 8 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 5（地域企業の事例について学び、議論する）
第 9 回	地域と企業と社会教育 6	地域企業の事例研究 6（地域企業の事例について学び、議論する）
第 10 回	期末発表・レポートに向けての指導 2	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第 11 回	地域と企業と社会教育 7	地域企業の事例研究 7（地域企業の事例について学び、議論する）

第 12 回 地域と企業と社会教育 8 地域企業の事例研究 8（地域企業の事例について学び、議論する）

第 13 回 地域と企業と社会教育 9 地域企業の事例研究 9（福島県会津若松市にある地域企業であるランドセル製造・販売会社である羅羅屋について学び、議論する）

第 14 回 期末発表会 学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間は各 2 時間である。予習とは、学期末のプレゼンテーションの準備のための時間である。復習とは、リアクションペーパーの作成のための時間である。

評価は、授業中のプレゼンテーション、コメントペーパー等（80%）、発表用レポート（20%）で行う。

実習は別途、希望者のみ参加でおこなう（参加の有無によって評価は変わらない）。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内の発表やリアクションペーパー等（80%）、発表用レポート（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

座学のあとにグループワークをおこない、講師の一方的な授業進行は行わない。リアクションペーパーは毎回各自へ返信する。

学部、学年の境を超えた交流の機会を多く設ける。

【その他の重要事項】

外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を経営。

実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について授業を進める。

授業を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努める。

授業で使用したスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

提出してもらったりアクションペーパーには毎回返信する。

【Outline (in English)】

This class will study the relationship between regions, companies, and "learning at work".

The class will first explain the relationship between the community, local resources, and corporate activities. Then, the role of "learning in the workplace" for the sustainable activities of companies will be studied.

Specific examples of regional companies from around Japan will then be introduced and studied in each class. Time for discussion among students will be provided in class.

Raraya Corporation, which has a factory in Aizuwakamatsu City, Fukushima Prefecture, and the evolution of the school bag industry will be introduced and studied in particular detail. The case study in Aizuwakamatsu is the practice of the organization to which the lecturer belongs.

In the second semester, each student will be asked to research and present a case study of a local company of interest to them.

Those who wish to do so will be given fieldwork, such as a visit to a school bag factory. Last year, fieldwork was conducted at the Daishi Line and Kawasaki Daishi in Kawasaki City, Kanagawa Prefecture. The fieldwork was free, and students chose their own fieldwork subjects.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Preparation time is for the presentation at the end of the semester. Review time is for the preparation of a reaction paper.

Evaluation will be based on class presentations, comment papers, etc. (80%) and presentation reports (20%).

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅱ

佐々木 美貴

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を活かした地域づくりを調べ報告することや、社会教育プログラムを作る作業も行う。また、私たちの暮らしと身近な自然に関係が深い生物多様性条約やラムサール条約の精神と社会教育との関係、日本各地で実践されている自然の恵みを活用した暮らしや地域づくりと、それを支える知恵や技の具体例、交流・力量形成・教育・参加・気づき (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA) の実践例等を取り上げる。

【到達目標】

①人々の暮らしは自然の恵みに依存して成り立っていること、②日本各地には身近な自然を保全しながら暮らしや地域づくりに役立てるための知恵や技 (文化と技術) が数多く蓄積され、現在も発展されていること、③それらをふまえて行われている社会教育実践の実際の姿、④社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力、以上 4 点を理解することが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を活かした地域づくりについて調べ報告することや、社会教育プログラムを作り、発表・ディスカッションする作業も行う。また、毎回の授業の最後に、授業の感想・質問などを記入して提出する。この内容については、次回の授業の最初に取り上げる。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス、身近な自然を活かした暮らし	授業の内容、進め方、成績評価基準など、この授業について説明する。身近な自然を活かした暮らしについて考える。
第 2 回	私たちの暮らしと自然の恵み	飲み水や海産物・農作物などの食料等、自然の恵みによって、私たちの暮らしが支えられていることを考える。
第 3 回	私たちの暮らしと自然を活かした地域づくり・まちづくり	身近な自然を活かした地域づくり・まちづくりについて、具体例を調べ・報告し、クラス内でディスカッションする。
第 4 回	私たちの暮らしと生物多様性条約・ラムサール条約	暮らしを支える、水田や干潟、湖沼などの「湿地」、多様な生物の保全や活用を支える二つの国際条約とその構造について考える。
第 5 回	二つの条約と「交流・力量形成・教育・参加・気づき」=CEPA	ラムサール条約を中心に、保全や活用を支える CEPA の役割や実際の活動を考える。
第 6 回	CEPA と「社会教育」	二つの条約の CEPA と「環境教育」「持続可能な開発のための教育 (ESD)」との関係、「社会教育」「生涯教育」との関係を考える。
第 7 回	社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力	社会教育主事や社会教育士に求められる、課題を解決するための学習支援の能力について考え、クラス内でディスカッションする。
第 8 回	自然の恵みの文化① (保全・再生)	新潟の「潟普請」などに即して、保全や再生にかかわる活動を考える。
第 9 回	自然の恵みの文化② (ワイズユース)	「ふゆみずたんぼ米」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる活動を考える。
第 10 回	自然の恵みの文化③ (CEPA)	ふるさと絵屏風やワークショップ等の事例に即して、CEPA にかかわる活動を考える。
第 11 回	これからの社会教育と身近な自然を活かした「地域の活性化」	自然を身近に感じ、地域の活性化につなげるための社会教育について考える。
第 12 回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る①	「生きもの調査」や世代間を結ぶワークショップ等の身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作るための手順を考える。

- 第 13 回 身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る②
- ①で考えた手順に即して、自分が行いたい社会教育プログラムを実際に行う。また、互いのプログラムに評価する手法を考える。
- 第 14 回 社会教育プログラムの発表会・まとめ
- 実際に作った社会教育プログラムを発表し、互いに評価し合う。また、授業全体を振り返り、この授業への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然の恵みと自分との関わりを観察しておくこと。自分にとっての身近な自然を1つ探し、そこを活かした地域づくりやまちづくりの事例がないか、調べる。自然にかかわる大人を対象とした社会教育プログラムを作成するため、関心のある事例を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『湿地の文化と技術 33 選～地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合 2012 年 授業内で配布

【参考書】

生物多様性条約とラムサール条約の本文及び決議、『干潟生物調査ガイドブック～東日本編』、環境省『日本のラムサール条約湿地』『ラムサール条約湿地とワイズユース』パンフレット等 必要に応じて授業内で配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 (50%) と作成した社会教育プログラムの発表 (50%) によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝えるようにしている。生物多様性について身近に感じられるよう、ビデオ等を使った授業を行っている。

【Outline (in English)】

Focusing on lectures and videos, we will also investigate and report on community development that makes the most of the nature around us, and create social education programs. Also, biodiversity that is closely related to our lives and the nature around us. The relationship between the spirit of the treaty and the Ramsar treaty and social education, living and community development utilizing the blessings of nature practiced in various parts of Japan, specific examples of wisdom and techniques that support them, and practical examples of CEPA (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness) will be taken up.

Observe the benefits of nature and how you relate to yourself. Find one of the nature that is familiar to you, and find out if there are any examples of community development or town development that make use of it. Investigate cases of interest to create a social education program for adults involved in nature. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Active participation in class: 50%、Announcement of the created social education program: 50%

LANe100MA

Foreign Language Exercise
(English III) 【GO 科目】

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script

Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%
*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on eye contact and speaking fluency.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA

Foreign Language Exercise
(English IV) 【GO科目】

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アカデミック・スキル (ディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方など) を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & assess vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 7: Media Studies Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Evidence & support Unit 7 lecture preview
Week 3	Unit 7: Media Studies Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: paraphrase, clarification, & confirmation
Week 4	Unit 7 Quiz Unit 8: GM food Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 7 quiz Unit 8 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Key terms
Week 5	Unit 8: GM food Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: agree, change topic, reach consensus Quiz on Unit 8
Week 6	Unit 8 Quiz Unit 9 Design thinking Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 9: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Process description
Week 7	Unit 9 Design thinking Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Agree, express opinion, interrupt
Week 8	Unit 9 quiz Unit 10: Shackleton Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 9 Unit 10: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Numbers, dates, periods of time

Week 9	Unit 10: Shackleton Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Asking opinions, giving opinions, staying on topic Quiz on Unit 10 Unit 11: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Real-world examples
Week 10	Unit 10 quiz Unit 11: Ethics Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 11: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Real-world examples
Week 11	Unit 11: Ethics Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering fact or example Quiz on Unit 11
Week 12	Unit 11 quiz Unit 12: Big Data Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 12: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Personal stories
Week 13	Unit 12: Big Data Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Keeping discussion going Unit 12 quiz
Week 14	Unit 12 quiz Vocabulary quiz U 7-12	Course Review & wrap-up

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【参考書】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-60%
Homework-20%
Participation 10%
Presentations/ Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】

Increased focus on development of vocabulary and discussion skills

【学生が準備すべき機器他】

【教室必要備品】 OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です)。

【Outline (in English)】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA

Foreign Language Exercise
(English V) 【GO 科目】

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記事を読んでください）。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Descriptive paragraphs Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft
第 5 回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Preparation for peer review Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第 7 回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第 8 回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第 10 回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs

第 11 回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第 12 回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework exercises contained in the course handouts

Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】

<http://my.vocabularysize.com/>

<http://quizlet.com>

www.englishgrammar.org

Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on sentence unity within paragraphs and organizing information logically.

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です）。

【Outline (in English)】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

道徳教育指導論【2016年度以前入学者用】

土屋 創

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
 ①道徳教育の現状と課題について把握する。
 ②道徳の本質を説明できる。
 ③道徳教育の歴史について理解する。
 ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。
 ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
 ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点をも身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心として授業を進める。適宜視聴覚資料等を用いるとともに、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。
 また、授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントシート等の内容を紹介し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	授業の進め方に関するガイダンスを行うとともに、道徳教育を学ぶ意義について考察する。
第2回	道徳教育の現状と課題—「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、「道徳の教科化」をめぐる議論、「評価」のあり方について検討する。
第3回	道徳教育の歴史	戦前および戦後の道徳教育について検討する。
第4回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	「心の教育」をめぐる議論について検討する。
第5回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「いのちの教育」、「死の教育」について検討する。

第6回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	「人権教育」の視点から道徳教育のあり方を検討する。
第7回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論について検討する。
第8回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験と自己の変容、教育の限界点について考察する。
第9回	情報モラル	情報モラルおよび情報モラルに関する実践について検討する。
第10回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第11回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の意義と、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第12回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案の書き方、発問の分類等、指導案作成に関する諸事項について検討する。
第13回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業までに前回の学習内容の復習をする。授業中に提示された資料や参考文献を読み理解を深める。（本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業内にて資料を配付し、参考文献を紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？—「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011年）このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（60%）と各自作成する学習指導案（40%）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートおよびコメントシートの内容に基づいて、資料提示の方法や考察課題の設定等に関して、履修者一人ひとりが講義を通じての学びや考察をより一層深められるよう工夫する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as "What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessons through getting to know excellent practices of moral education.

【Learning Objectives】

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.

【Learning activities outside of classroom】

Before or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reflection papers(60%) and the final paper(40%).

道徳教育指導論【2016年度以前入学者用】

田口 賢太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点をも身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第2回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。「学習評価方法の課題」を考える。
第3回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。道徳教育の戦後の推移を検討する。
第4回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。

第5回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第6回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第7回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第8回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第9回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第10回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第11回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第12回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第13回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。授業でのICT利活用について検討する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」
 文部科学省『中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編』2017年

【参考書】

「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版 文部科学省）
 井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
 松下良平『道徳教育はホントに道徳的か? —「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011年）
 このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における課題（60%）と14回目に行う達成度を確認するレポート（40%）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as "What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessons through getting to know excellent practices of moral education. (Learning Objectives)

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、 Short reports : 60%

道徳教育指導論【2016年度以前入学者用】

高原 史朗

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳教育活動全体を通じて行う道徳教育について理解し、道徳の本質について考える。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤「道徳」の授業の組み立てについて考え、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めるが、授業の中で適宜グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行う。また、授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶために	オリエンテーション この授業の進め方を体感し解説する
第2回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	具体的な教材を元に「道徳の教科化」の課題を検討する
第3回	道徳教育の歴史	具体的な教材を元に、「道徳教育の歴史」を理解する
第4回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえ、心の教育について検討する。道徳教育活動全体を通じて行う道徳教育 1
第5回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえ、いのちの教育について検討する。道徳教育活動全体を通じて行う道徳教育 2

第6回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえ、人権教育について検討する。道徳教育活動全体を通じて行う道徳教育 3
第7回	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論とそれへの批判を踏まえ、道徳性の発達について検討する。
第8回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の授業の意義を踏まえ、モラルジレンマ資料を用いた実践について検討する。
第9回	「道徳」における指導案と導かれる実践を検討	指導案の意図、発問の仕方など、指導案と授業の関係を検討する。
第10回	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
第11回	情報モラルについて	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育の事例について検討する。
第12回	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育としての道徳教育について検討する。
第13回	道徳授業の実践例の紹介とその検討	「道徳」の実践例を紹介し、実際に授業を行う前提で、それらについて検討する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ・筆記試験	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めてもらいます。中間レポートを提出して頂きます。進め方の詳細を講義中に説明します。各講義で1時間程度、それ以外にレポートにまとめる時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

「中学生を担任するということ（ゆめのたねをあなたに 生徒指導・特別活動・道徳教育の現場）」高文研 2017 高原史朗著 1900円

【参考書】

「15歳まで道の途中」岩波ジュニア新書
 「みんなで考える国語の授業」高文研
 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート・中間レポート（50%）と14回目に行う達成度テスト（50%）の点数を合わせて総合的に評価する。詳細は講義で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークの意味・今やっていることの意味を伝えることで、合意と納得をつくりながら講義を運営できること また、全体の前で挙手しての発言も進め方によっては可能なこと

【学生が準備すべき機器他】

テキストを早めにご準備ください

【その他の重要事項】

グループワークを行います。特にグループワークが得意である必要はありません。また講義には連続性がありますので、出席が重要です。

【Outline (in English)】

This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as "What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessons through getting to know excellent practices of moral education.

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.

Please be certain that your grading criteria measure your course goal(s). Indicate percentages for participation and attitude (include attendance, you cannot evaluate this separately), quizzes, tasks, reports, exams, etc., making sure they total 100%. Passing scores are 60% and above.

Please state what preparation, review and assignments are required. For example, readings, reports and exercises, etc. Please include the required study time outside of class

(ex: Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.)

However, general descriptions

are acceptable. For example, you could write that “Students are expected to complete weekly reading assignments”. University guidelines suggest preparation and review may take about 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

道徳教育指導論【2016年度以前入学者用】

田口 賢太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か?」「道徳教育は可能なのか?」「道徳教育はいかになされるべきか?」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

- ①道徳教育の現状と課題について把握する。
- ②道徳の本質を説明できる。
- ③道徳教育の歴史について理解する。
- ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- ⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
- ⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点をも身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を進める。授業の中で適宜グループワーク（ペアワーク）やディスカッション、プレゼンテーション等を課す。また、前回授業にて課されたリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	道徳教育を学ぶ意義について	道徳、倫理、マナー、ルールから「道徳教育の指導」を検討し、現代社会と学校の役割を考える。
第2回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	「資質・能力」から道徳教育を検討する。「道徳の時間」と「道徳科」を巡る議論を検討する。「学習評価方法の課題」を考える。
第3回	道徳教育の歴史	修身科と教育勅語を中心に戦前の道徳教育を検討する。道徳教育の戦後の推移を検討する。
第4回	心の教育について—学習指導要領における「心の教育」	教育の諸言説にみる「心」について検討する。

第5回	いのちの教育について—学習指導要領における「いのちの教育」	「生命の尊さ」「崇高なもの」を通じた道徳教育指導を検討する。
第6回	人権教育について—学習指導要領における「人権教育」	人権の基本を踏まえ、差別、いじめについて考える。
第7回	道徳性の発達理論	発達論から道徳の指導を検討する。
第8回	悪の体験と子どもの発達	道徳の指導における「道徳を超える体験」について検討する。
第9回	情報モラル	情報化社会の進展と情報モラルについて検討する。
第10回	シティズンシップ教育について	市民としての道徳教育について検討する。
第11回	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型授業の基本とモラルジレンマ型授業展開上の注意について検討する。
第12回	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	「道徳科」指導案の書き方を（本時の展開・発問の工夫を中心に）検討する。
第13回	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	指導案を踏まえた実践について（導入の工夫・展開の構想・終末の注意点を中心に）検討する。授業でのICT利活用について検討する。
第14回	全体のふりかえりとまとめ	まとめとして道徳教育と学校教育の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業各回にのぞんでは、前回までの学習内容の復習をし、指示された課題については必ず取り組む。授業後は、授業中に提示された資料や参考文献を熟読し、各回のテーマの理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文部科学省「中学校学習指導要領」
 文部科学省『中学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編』2017年

【参考書】

「小学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版 文部科学省）
 井藤元編著『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
 松下良平『道徳教育はホントに道徳的か? —「生きづらさ」の背景を探る』（日本図書センター、2011年）
 このほか、毎回の授業において、資料を配布し、また次回授業に関連する参考文献も提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における課題（60%）と14回目に行う達成度を確認するレポート（40%）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生から得た意見・要望をその都度伺いつつ、反映する。

【その他の重要事項】

授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class aims to rethink the essence of moral education and further to get a perspective on the future of moral education. With the change of turning to a "special subject," fundamental questions such as "What is moral education? Is moral education possible? How should moral education be done?" are examined. In this class, the history, current state and issues of moral education are explored in order to articulate the future of moral education. On top of that, this class aims to acquire knowledge regarding how to design moral education lessons through getting to know excellent practices of moral education. (Learning Objectives)

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、 Short reports : 60%

特別活動論【2016年度以前入学者用】

中村 岳夫

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点と実践力、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信として事前に配信し、次の授業ではいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方、教師のありかた
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第7回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②

第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第11回	部活動	民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。
 参考文献は随時紹介をするので学習を深めてもらいたい。
 本授業の準備学習・復習等の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。
 必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（60%）、課題プレゼン（20%）、授業内試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の資料配布やリアクションペーパー、課題等提出については学習支援システムを利用する。
 オンライン学習にも備え、パソコン、タブレット、スマホなどネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任等）として長年勤務していたことを活かして、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
 (Learning activities outside of classroom)

Incorporate preparatory learning and presentations on assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. References will be introduced from time to time, so I would like you to deepen your learning. The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
 (Grading Criteria / Policy)

Reaction paper・Normal score(60%),assignment presentation(20%),in-class exam(20%)

特別活動論【2016年度以前入学者用】

中村 岳夫

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点と実践力、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信として事前に配信し、次の授業ではいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方、教師のあり方
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第7回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②

第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第11回	部活動	民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。
 参考文献は随時紹介をするので学習を深めてもらいたい。
 本授業の準備学習・復習等の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。
 必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（60%）、課題プレゼン（20%）、授業内試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の資料配布やリアクションペーパー、課題等提出については学習支援システムを利用する。
 オンライン学習にも備え、パソコン、タブレット、スマホなどネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任等）として長年勤務していたことを活かして、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
 (Learning activities outside of classroom)

Incorporate preparatory learning and presentations on assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. References will be introduced from time to time, so I would like you to deepen your learning. The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
 (Grading Criteria / Policy)

Reaction paper・Normal score(60%),assignment presentation(20%),in-class exam(20%)

特別活動論【2016年度以前入学者用】

吉田 直子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、さらには、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、場合によっては動画配信を併用するなど、状況に応じた形態をとる。また学生同士の学び合いを促進するため、グループワークやグループディスカッション等の活動を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講座の授業計画の概要、授業のねらい、進め方、評価の仕方等について
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（一日／一年間）における特別活動の位置づけ
第3回	特別活動の歴史	日本の学校における教科外教育の歴史、及び各活動・学校行事の成立と役割
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領の変遷と特別活動の位置づけの変化
第5回	特別活動の目標と展開	特別活動の目標、基本的な性格と教育活動全体における意義
第6回	特別活動の評価と改善	生徒による自己評価や相互評価の方法と、それに基づく教員の指導改善
第7回	話し合い活動とその指導	合意形成・意思決定に向けた話し合い活動のあり方と方法
第8回	学級・ホームルーム活動	学級活動・ホームルーム活動とその指導
第9回	児童会・生徒会活動	生徒の自治活動と担任・担当教員・学校の指導のあり方
第10回	学校行事・部活動	学校行事の種類と、その意義及び特質、部活動の位置づけと部活動の今日的課題および展望

第11回	各教科・道徳科・総合的な学習の時間等との関連	「主体的・対話的で深い学び」に基づく各教育活動と特別活動とのかかわり
第12回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	参加型民主主義の理解と、市民性を育む特別活動の実際
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	地域の教育力や社会教育施設等を活用した勤労生産活動や奉仕的活動の実際
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性	「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる」ことの意義と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後のリアクションペーパーの作成、次回の準備課題への取り組み、学習指導要領の内容に関する小テストの準備、最終レポート作成の関して必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備し、また参考文献等を指示する。

【参考書】

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年7月告示 文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年7月告示 文部科学省）

※PDFでダウンロード可。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況（学習支援システムを活用し、授業終了後3日以内にコメント、次回の授業開始までに準備課題を提出）に対する評価（35%）、小テスト（20%）、グループプレゼンテーション（20%）、最終レポートに対する評価（25%）を総合的に見る。定期テストは行わない。

【学生の意見等からの気づき】

特別活動の指導を行ううえで基本となるコミュニケーションスキルについて、学生同士で体験・実践する場を丁寧につくる。

【学生が準備すべき機器他】

講義はPowerPointやビデオ教材などを活用して進める。授業ごとのリアクションペーパーの作成と準備課題を確認するためにスマホやPCなどの端末が必要。また、最終レポートはwordなどの電子データの形で作成し、学習支援システムを介して提出する。

【Outline (in English)】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

Extra-curricular activities are carried out in various groups, to discover and solve problems, and to build a better group and school life. The aim of this class is to understand the significance of extra-curricular activities in school education, and to acquire the knowledge and background necessary for guiding such activities. For that purpose students have to learn the perspectives of "human relations" "social participation" and "self-realization" in pupils' developmental process, and also the perspective of "school staff as a team" in teachers' systematic and collaborative guidance process.

The standard amount of time for learning activities outside of classroom is four hours each, including writing a reaction paper after class, preparing for quiz and the final report.

Evaluations will be based on comprehensive assessments of the student's independent participation in the class (submitting comments before/after class) (35%), mini test(20%), group presentation(20%) and final report(25%).

特別活動論【2016年度以前入学者用】

中村 岳夫

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点と実践力、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、よりよい集団や学校生活を目指す活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養、実践力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、プレゼンテーション及び毎回のリアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。授業で提出されたリアクションペーパーをまとめたものを次回までに講義通信として事前に配信し、次の授業ではいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。対面授業を基本とするが、状況によって ZOOM によるオンライン授業となる場合もある。その場合には、「学習支援システム」を通じて指示・連絡を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の方針・流れ、評価の仕方、教師のあり方
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法 ～指導案プレゼン前討議
第7回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開 ～指導案プレゼン①
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動 ～指導案プレゼン②

第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	協同的創造の実践 ～学校行事・学年行事
第11回	部活動	民主的運営の視点と実践
第12回	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	シティズンシップ教育・主権者教育の実践と課題
第13回	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くキャリア教育の実践と課題
第14回	まとめ：特別活動の課題と可能性 授業内試験	これからの特別活動を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマ・内容に応じた準備学習や課題へのプレゼン等を適宜組み入れる。
 参考文献は随時紹介をするので学習を深めてもらいたい。
 本授業の準備学習・復習等の時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。
 必要に応じ適宜指定、紹介する。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・平常点（60%）、課題プレゼン（20%）、授業内試験（20%）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら学校現場からの視点を意識して授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の資料配布やリアクションペーパー、課題等提出については学習支援システムを利用する。
 オンライン学習にも備え、パソコン、タブレット、スマホなどネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

・都内公立中学校教員（社会科、学級担任、学年主任等）として長年勤務していたことを活かして、できるだけ教育現場の実態を踏まえた授業を展開していきたい。
 ・講師との都合がつけば過労死防止対策啓発として弁護士・当事者遺族を招いての授業を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.
 (Learning activities outside of classroom)

Incorporate preparatory learning and presentations on assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. References will be introduced from time to time, so I would like you to deepen your learning. The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Reaction paper・Normal score(60%),assignment presentation(20%),in-class exam(20%)

特別活動論【2016年度以前入学者用】

森本 扶

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、講義・ディスカッション・グループワーク等を通して高める。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学生自身がこれまで特別活動において経験し、見聞きしたことも互いに交流し合いながら、またその時々の特別活動に関わる時事的な問題も意識しつつ、グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーなどを組み入れて授業を進めていく。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の流れ、評価の仕方
第2回	教育課程の中の特別活動	学校生活（1日、1年）の中の特別活動
第3回	特別活動の歴史	戦前から戦後の変遷を見すえて
第4回	学習指導要領と特別活動	学習指導要領における位置づけと方向性
第5回	特別活動の目標と展開	目標設定から展開・指導の方法
第6回	特別活動の評価と改善	評価と改善への視点と方法
第7回	話し合い活動とその指導	民主的集団形成における話し合い活動の視点と展開
第8回	学級・ホームルーム活動	発達課題に迫る学級・ホームルーム活動
第9回	児童会・生徒会活動	異年齢集団を意識した活動の視点と方法～参加・参画・自治
第10回	学校行事	学校行事の歴史を踏まえた協同的創造の実践
第11回	部活動	指導と体罰、民主的運営の視点と実践

第12回 家庭・地域・関連機関 シティズンシップ教育・主権者教育と連携した特別活動の理論と実践
 (シティズンシップ教育)

第13回 家庭・地域・関係機関 「学ぶ」「働く」「生きる」を貫くと連携した特別活動 キャリア教育の理論と実践
 (キャリア教育)

第14回 まとめ：特別活動の課題 これからの特別活動を考える
 題と可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマに関わって自らの意見を明確にしておき、グループワークに備え、最終的に期末レポートに反映させる。グループワークの際は、メンバーと共同して授業外でも適宜作業を進める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編（最新版 文部科学省）

関川悦雄（2010）『最新特別活動の研究』啓明出版

日本特別活動学会監修（2010）『新訂キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社

犬塚文雄編著（2013）『特別活動論』一藝社

山田浩之編（2014）『特別活動論』協同出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への感想文）（15%） グループ発表（40%） 期末レポート（45%）

【学生の意見等からの気づき】

今日の学校現場の状況への質問も多く、それを踏まえた新聞やビデオ等の教材なども使いながら授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

紙プリントは基本的に配布しないので、学習支援システムでレジュメや資料を確認するためにPC・タブレットなどの端末が必要。準備できない場合は教官に相談する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.

【Learning Objectives】

Extra-curricular activities are a collection of activities that are carried out in various groups, such as groups, to discover and solve problems, and to aim for a better group and school life. Understand the significance of extracurricular activities in school education as a whole, and have the perspectives of "human relations formation," "social participation," "self-realization," and "school as a team." Acquire the knowledge and background necessary for guidance based on the characteristics of special activities such as the reciprocal relationship with each subject and the systematic response in collaboration with local residents and faculty members of other schools.

【Learning activities outside of classroom】

Incorporate preparatory learning and report assignments according to the theme and content of the lesson as appropriate. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction paper / normal points (15%), discussions during video learning (15%), presentations at workshops (10%), term-end reports (60%)

**生徒・進路指導論【2016年度
以前入学者用】**

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえて、学校教育における生徒指導および進路指導（それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。課題等を課した場合にはその提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第 3 回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第 4 回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第 5 回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第 6 回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第 7 回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第 8 回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第 9 回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第 10 回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第 11 回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方

- 第 12 回 進路指導・キャリア教育・進路指導とガイダンスの役割と育におけるガイダンス 方法について論じるの役割と方法
- 第 13 回 進路指導・キャリア教育・進路指導・キャリア・カウンセリングにおけるキャリア・リングの役割と方法について論じカウンセリングの役割と方法
- 第 14 回 進路指導・キャリア教育・進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】
吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009 年
 藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014 年
 『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
期末に行われる試験 100 % で評価する。
平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】
指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】
Outline:
 This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students.
Goal:The purpose of this class is to understand the theory and method of student guidance and career guidance including basic matters of career education.
Learning activities outside of classroom:
 After the lecture, try to understand the contents.
Grading Criteria /Policy:
 Grade only in the final exam.
 Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

**生徒・進路指導論【2016年度
以前入学者用】**

渡部 忠治

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。次に、その日のテーマについての資料や実践例などを説明・紹介する。続いて、その話題について感想・意見の交換を行う。そして最後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	生徒・進路指導の意味や意義について アンケート（各自の学校体験を振り返る）
第2回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第3回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第4回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第5回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第6回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第7回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第8回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第9回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第10回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について

第11回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒を取り巻く社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第14回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・パスポートの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ13生活指導』学文社,2014年
 教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013年
 土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014年
 青柳健隆・岡部祐介『部活動の論点』旬報社,2019年
 『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパー等）40%、試験（小論文）60%で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

例年、学生のリアクションペーパーでは意見交換を望む声が多い。通常授業では、意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline (in English)】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students. The goal of this course is to understand the theory and practical method of student guidance and career guidance & education. Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and mid-term report (60%).

生徒・進路指導論【2016年度 以前入学者用】

渡部 忠治

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。次に、その日のテーマについての資料や実践例などを説明・紹介する。続いて、その話題について感想・意見の交換を行う。そして最後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	生徒・進路指導の意味や意義について アンケート（各自の学校体験を振り返る）
第2回	生徒指導の意義と役割	教育課程上の位置づけ、指導上の基本的な考え方について
第3回	生徒指導の方法	子どもの権利と校則、懲戒、体罰問題について
第4回	生徒指導における集団指導	学びの共同性の視点からの集団指導の意義について
第5回	集団指導の組織的な推進体制	家庭・地域と連携した生徒指導の重要性について
第6回	生徒指導における個別指導（いじめ問題への対処）	今必要な「いじめ」対策及び教育実践上の課題（個別的/集団的）について
第7回	生徒指導における個別指導（生徒の問題行動への対処）	暴力行為、少年事件を通して生徒理解の難しさと必要な対応について
第8回	生徒指導における個別指導（部活動をめぐる諸問題とその対処）	部活動を通じた生徒指導のあり方について
第9回	生徒指導における個別指導（ジェンダー、性的マイノリティの理解）	学校文化におけるジェンダー問題と性的マイノリティに関する指導上の課題について
第10回	進路指導の意義と役割	進路指導の歴史と方法を踏まえた、今日的な進路指導の意義と役割について

第11回	キャリア教育の意義と役割	生徒の日常生活の中から将来の人生観、職業観をどのように育むかについて
第12回	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	生徒を取り巻く社会や将来に対する不安への理解に基づいたガイダンスについて
第13回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	体験的な学びの事前・事後指導の大切さと留意点について
第14回	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・パスポートの活用	アンケートや学習活動の振り返り・記録を将来の生き方につなげる指導について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教員が適宜指定する。

【参考書】

折出健二編『教師教育テキストシリーズ13生活指導』学文社,2014年
 教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社,2013年
 土井隆義『つながりを煽られる子どもたち』岩波書店,2014年
 青柳健隆・岡部祐介『部活動の論点』旬報社,2019年
 『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の姿勢、リアクションペーパー等）40%、試験（小論文）60%で、総合的に判断し、成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

例年、学生のリアクションペーパーでは意見交換を望む声が多い。通常授業では、意見交換できる時間を可能な限り設けていきたい。

【Outline (in English)】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students. The goal of this course is to understand the theory and practical method of student guidance and career guidance & education. Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and mid-term report (60%).

**生徒・進路指導論【2016年度
以前入学者用】**

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。さらに、教育における理論と実践との関係から生徒指導に関する理解をさらに深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代日本の子どもの生活現実とそのよって来る背景をふまえて、学校教育における生徒指導および進路指導（それを包括するキャリア教育）のありかたについて多角的に考察する。
講義を軸にしつつも、参加者全員によるディスカッションやグループディスカッションを適宜交える。
提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、次の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要とガイダンス	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	生徒指導の意義と役割	・学校教育における生徒指導の位置づけ、基本的な考え方について論じる
第3回	生徒指導の方法	・生徒指導の方法について論じる。
第4回	生徒指導における集団指導	・生徒指導における集団指導についてさまざまな指導場面を通して考える。
第5回	集団指導の組織的な推進体制	・集団指導の組織的な推進体制について論じる
第6回	生徒指導における個別指導（暴力行為、いじめ等への対処）	・暴力行為、いじめにどう対応するか
第7回	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	・不登校にどう対応するかについて考える
第8回	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	・今日的な生徒指導の課題への対応について考える
第9回	進路指導の意義と役割	・教育課程上の位置づけ、基本的な考えかた
第10回	進路指導の歴史と方法	・ガイダンスの歴史とその理論及び方法について論じる
第11回	キャリア教育の意義と役割	・学校教育におけるキャリア教育の位置づけと基本的な考え方

- 第12回 進路指導・キャリア教 育におけるガイダンスの役割と方法について論じる
- 第13回 進路指導・キャリア教 育におけるガイダンスの役割と方法について論じる
- 第14回 進路指導・キャリア教 育におけるガイダンスの役割と方法について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に講義内容をまとめるなど、復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しないが、講義内容に応じて参考文献は適宜指示する。

【参考書】

吉田辰雄『最新生徒指導・進路指導論』図書文化社、2009年
藤田晃之『キャリア教育基礎論』実業之日本社、2014年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %
授業内レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

【Outline (in English)】

This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance & education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance & education for the whole student group, and career counseling for individual students. The goal of this course is to understand the theory and practical method of student guidance and career guidance & education. Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and mid-term report (60%).

社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】

宮嶋 祐一

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回授業の振り返りシートを提出してもらい、レポートや模擬授業、質問等については適宜授業で講評・解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科教育の目的を理解する。
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	中学・高校の学習指導要領の内容の重要なポイントを理解する。
第 3 回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	戦前の社会科教育の特徴について理解する。
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科教育の特徴について理解する。
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科教員に求められる資質や能力について理解する。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	授業で使えるソフトウェアなどの活用を理解する。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	地域調査の方法や発表の仕方、討論などを体験し、理解する。
第 8 回	社会・地歴科の評価	社会科・地歴科の評価方法について理解する。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学地理的分野の教科書を実際に利用して授業計画を立てる。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高校地理的分野の教科書を実際に利用して授業計画を立てる。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学歴史的分野の教科書を実際に利用して授業計画を立てる。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高校歴史的分野の教科書を実際に利用して授業計画を立てる。

第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	授業における「主体的・対話的で深い学び」について考える。
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	前期の授業のまとめと確認テストを行う。
第 15 回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	学習指導案、年間計画の書き方について理解する。
第 16 回	授業の設計 (1)：授業の構成	具体的な授業の構成と授業の進め方について理解する。
第 17 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	実際の教科書を利用し、問いを考えたり、ICT 教材を利用した授業を考える。
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	アジアと世界に関する模擬授業を実施する。
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	世界における民族・宗教について模擬授業を実施する。
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界の資源・エネルギーと人口について模擬授業を実施する。
第 21 回	授業実践研究：環境問題	環境問題の現状と課題について模擬授業を実施する。
第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	世界の近代化と日本について模擬授業を実施する。
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	帝国主義とファシズムについて模擬授業を実施する。
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	第二次世界大戦とその後の世界・日本について模擬授業を実施する。
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	冷戦時代とその後の世界・日本について模擬授業を実施する。
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	持続可能な世界と日本について模擬授業を実施する。
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	地歴科の授業方法の課題を理解し、その課題解決について考える。
第 28 回	まとめ：授業内確認テストも含む	後期および年間の授業の振り返りと、確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらに NHK スペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。
 毎回提出の振り返りシートや課題レポートが不十分な場合は、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜授業プリントを使用する。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科（最新版）、文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科（最新版）
 中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
 高等学校 歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（出席状況 20%）、毎時間提出の振り返りシート（10%）、学習指導案と模擬授業、レポートと確認テスト（70%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただし、内容によりタブレットやノートパソコンを所有している場合には持参してもらい場合もある。

【その他の重要事項】

授業は受講生の数や受講生の問題意識等によって、逐次変更する場合もある。

【Outline (in English)】

Course outline and Learning Objectives/Learn the history of social studies and understand the goals and content of the Course of Study. Students will learn how to teach and evaluate geohistory classes, create learning guidance plans, and conduct mock classes. Based on the review, students will understand the points for proceeding with the class.

Learning activities outside of classroom/ Read middle school and high school textbooks and think about the structure of the class.

Grading Criteria /Policy/Judging by attendance status and reports, learning guidance plans and mock lessons.

Learning outside of class/The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each, totaling 4 hours.

Grading methods and standards/20% of attendance, 10% of reaction papers submitted every hour, 70% of lesson plans, mock classes, reports, and confirmation tests are comprehensively considered and evaluated.

社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】

本山 明

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2~4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。ITC 機器の活用を学ぶ。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面授業で行う。対面授業に出れない学生へのオンラインによる補講はしない。

対面授業に出ないと欠席となる。

授業内のグループワーク、発表あり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画と小・中・高の授業体験（授業の狙いや進め方）
第 2 回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認していく
第 3 回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の発端と戦時下の教育
第 4 回	社会科の戦後史と教科書	戦後教育の発端と社会科教育改革と社会科の成立
第 5 回	社会科における資質・能力	社会科における資質・能力と学習指導要領の変遷
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	社会・地歴科で視聴覚・ICT 教材の活用方法を現場での実態をもとに以下の内容のスキルを身に着ける。 地域で取材、博物館にアクセスし早く効果的に情報収集できること。社会事象について主体的に課題を設定し調べまとめる技能を高める。事実と事実を関連付けたり、「重ね合わせ機能」で多面的に考察することができる。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	調査、発表学習はどのようにしたらよいか。ICT を利用した発表学習
第 8 回	社会・地歴科の評価	学習評価について、評価の観点、評価方法について理解を深める
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について

第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高等学校の地理の優れた授業実践の紹介と省察 SDG s の授業について
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高等学校の歴史の優れた授業実践の紹介と省察
第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び） (11 回に統合)	主体的・対話的・深い学びの授業設計
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む） (12 回に統合)	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か
第 15 回	学習指導案とその作成方法	学習指導案とは何か 必要な項目 留意点
第 16 回	授業の設計 (1)：授業の構成	学習指導要領をもとにして授業構成を構想する
第 17 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	教材を探す方法と ICT 教材の活用方法を現場の実態をもとに構想していく
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	歴史、地理の視点からアジアと世界の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	歴史、地理の視点から現代と民族・宗教を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	歴史、地理の視点から資源・エネルギー・人口の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 21 回	授業実践研究：環境問題	歴史、地理の視点から環境問題の授業を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	歴史の視点から世界の近代化の研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	歴史の視点から帝国主義とファシズムを研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	歴史の視点から第二次世界大戦とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	歴史の視点から冷戦時代とその後の世界・日本を研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	SDG s について研究、授業を構想し学習指導案を作成する
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	主体的・対話的・深い学びの授業設計を構想し学習指導案を作成する。
第 28 回	まとめ：自分の教育実践を語る	「社会科教師と育つ」そのポイントとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習復習の方法は適宜指示する。特に授業に関わる学習指導要領は、該当部分を予習しておくこと。②夏季休業中における課題の作成。※必須③宿題※必須
 ※必須の提出ができないときは単位修得困難。
 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業に必要なテキストは毎回の授業で配布します。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領解説」社会科編、「高等学校学習指導要領解説」地歴科編
 中学地理歴史教科書・高校地理歴史教科書

【成績評価の方法と基準】

宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得できない。毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。

平常点・授業内レポート 50 %

最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学習指導案の作成方法を細かく、指導していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合は指示する。

【その他の重要事項】

質問、相談は授業支援システムで受け付ける。

実務経験としては中学校社会科の経験がある。現場の感覚に近い授業指導ができる。

時事問題については社会科教師としての必修事項として授業でも扱う。

【授業に求められる学習活動】

毎授業時の講義は教員と学生との双方の対話が大切であるので、積極的な授業参加を期待します。

【授業に求められる学習活動】

授業時の視聴覚学習やレポートには意欲的にとりくむ姿勢が求められます。

【Outline (in English)】

This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study and gain basic knowledge and skills necessary for the lesson designs and their teaching. Then, based on this knowledge and skills, the class further explores how to teach the subjects by designing, practicing and reviewing the lessons. Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography

and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons.

Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

社会・地歴科教育法【2016年度以前入学者用】

宮嶋 祐一

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解する。地歴分野の授業の方法や評価の仕方を学び、学習指導案を作成して模擬授業を実施する。その振り返りをもとに授業を進める上でのポイントを理解する。

【到達目標】

中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を理解するとともに、教育実習や実際の授業に役立つ教科指導と授業計画を立てるために必要な知識や技能を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会・地歴科教育について歴史と現状を理解し、さらに具体的な授業テーマ（歴史と地理）を取り上げ、実際の教科書を使って授業方法を具体的に学ぶ。授業は講義、模擬授業、課題と発表、質疑となり、毎回授業の振り返りシートを提出してもらい、レポートや模擬授業、質問等については適宜授業で講評・解説を行う。状況により授業形態・計画の変更もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のオリエンテーションと、学校教育における社会科学教育の目的を理解する。
第 2 回	社会科学教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	中学・高校の学習指導要領の内容の重要なポイントを理解する。
第 3 回	社会科学の前身（戦前の社会科学系科目）	戦前の社会科学教育の特徴について理解する。
第 4 回	社会科学の戦後史と教科書	戦後の社会科学教育の特徴について理解する。
第 5 回	社会科学における資質・能力	社会科学教員に求められる資質や能力について理解する。
第 6 回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT 教材の活用を含む）	授業で使えるソフトウェアなどの活用を理解する。
第 7 回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	地域調査の方法や発表の仕方、討論などを体験し、理解する。
第 8 回	社会・地歴科の評価	社会科学・地歴科の評価方法について理解する。
第 9 回	教育実践研究（中学地理）	中学地理的分野の教科書を実際を利用して授業計画を立てる。
第 10 回	教育実践研究（高校地理）	高校地理的分野の教科書を実際を利用して授業計画を立てる。
第 11 回	教育実践研究（中学歴史）	中学歴史的分野の教科書を実際を利用して授業計画を立てる。
第 12 回	教育実践研究（高校歴史）	高校歴史的分野の教科書を実際を利用して授業計画を立てる。

第 13 回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的で深い学び）	授業における「主体的・対話的で深い学び」について考える。
第 14 回	まとめ（授業内確認テストも含む）	前期の授業のまとめと確認テストを行う。
第 15 回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	学習指導案、年間計画の書き方について理解する。
第 16 回	授業の設計 (1)：授業の構成	具体的な授業の構成と授業の進め方について理解する。
第 17 回	授業の設計 (2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT 教材の活用	実際の教科書を利用し、問いを考えたり、ICT 教材を利用した授業を考える。
第 18 回	授業実践研究：アジアと世界	アジアと世界に関する模擬授業を実施する。
第 19 回	授業実践研究：現代と民族・宗教	世界における民族・宗教について模擬授業を実施する。
第 20 回	授業実践研究：資源・エネルギー・人口	世界の資源・エネルギーと人口について模擬授業を実施する。
第 21 回	授業実践研究：環境問題	環境問題の現状と課題について模擬授業を実施する。
第 22 回	授業実践研究：世界の近代化と日本	世界の近代化と日本について模擬授業を実施する。
第 23 回	授業実践研究：帝国主義とファシズム	帝国主義とファシズムについて模擬授業を実施する。
第 24 回	授業実践研究：第二次世界大戦とその後の世界・日本	第二次世界大戦とその後の世界・日本について模擬授業を実施する。
第 25 回	授業実践研究：冷戦時代とその後の世界・日本	冷戦時代とその後の世界・日本について模擬授業を実施する。
第 26 回	授業実践研究：持続可能な世界と日本	持続可能な世界と日本について模擬授業を実施する。
第 27 回	社会・地歴科の授業と方法の課題	地歴科の授業方法の課題を理解し、その課題解決について考える。
第 28 回	まとめ：授業内確認テストも含む	後期および年間の授業の振り返りと、確認テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会科学、地歴科の教員には社会に関する高い関心と豊富な知識が必要である。社会の出来事に関心を持ち、読書や新聞、テレビのニュースなどを積極的に見て欲しい。さらに NHK スペシャルなどのドキュメンタリー番組も見て欲しい。授業中に紹介した文献等も積極的に読んで欲しい。毎回提出の振り返りシートや課題レポートが不十分な場合は、再提出を求める場合もある。本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜授業プリントを使用する。

【参考書】

文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領・社会科学（最新版）、文部科学省 中学校、高等学校学習指導要領解説・社会科学（最新版）
 中学校歴史、地理、公民各分野教科書（出版社は指定しない）
 高等学校 歴史総合、地理総合教科書（出版社は指定しない）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（出席状況 20%）、毎時間提出の振り返りシート（10%）、学習指導案と模擬授業、レポートと確認テスト（70%）を総合的に勘案して評価する。授業形態によって変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習や実際に教員になった場合を考慮して、授業実践に役立つ授業を念頭に進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただし、内容によりタブレットやノートパソコンを所有している場合には持参してもらい場合もある。

【その他の重要事項】

授業は受講生の数や受講生の問題意識等によって、逐次変更する場合もある。

【Outline (in English)】

Course outline and Learning Objectives/Learn the history of social studies and understand the goals and content of the Course of Study. Students will learn how to teach and evaluate geohistory classes, create learning guidance plans, and conduct mock classes. Based on the review, students will understand the points for proceeding with the class. Learning activities outside of classroom/ Read middle school and high school textbooks and think about the structure of the class.

Grading Criteria /Policy/Judging by attendance status and reports, learning guidance plans and mock lessons.

Learning outside of class/The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each, totaling 4 hours.

Grading methods and standards/20% of attendance, 10% of reaction papers submitted every hour, 70% of lesson plans, mock classes, reports, and confirmation tests are comprehensively considered and evaluated.

社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】

吉田 俊弘

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教員として必要な指導上の知識や技能を習得する。中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、教材と学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力の基礎を身につける。

【到達目標】

中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の教員として要求される資質・能力の育成をめざし、教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し授業をすることができる。その際、ICTを活用した授業案をつくる力を身につけることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期には、公民教育に必要な基本的な知識の習得と学生の主体的な学習への取り組みによって授業を進め、教材づくりに取り組む。秋学期には、実践的指導力の習得をめざし、受講生各自が学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、その検討をおこなう。授業は発表、グループディスカッションやグループワークを取り入れ、ICT教育を配慮した視聴覚教材・情報機器等を介した能動的な学習となる。毎回、リフレクションシートを提出するほか、教材発表や模擬授業などでは適宜講評・解説を行う。状況により計画・授業形態の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	1年間の授業計画の提示・受講者の中高生時代の社会科・公民科体験のアンケート調査など。
2	公民教育の歴史 (1)	欧米の公民教育を取り上げ、その内容を検討する。
3	公民教育の歴史 (2)	戦前日本の公民教育と戦後の初期社会科を検討する。
4	公民教育と学習指導要領の変遷	中学校学習指導要領を中心にその内容を分析する。
5	社会科（公民的分野）の目標と授業	新学習指導要領の内容を踏まえ、授業の意義を考察する。
6	公民教育の論点① 人権教育	人権教育の実例をもとに教材の役割を考察する。
7	公民教育の論点② 法教育	法教育の実例をもとに教材作成法と評価について学ぶ。
8	公民教育の論点③ 経済教育	経済教育の実例をもとに教材作成のほか、情報機器・データの活用を学ぶ。
9	教材発表① 憲法	受講生による憲法教材の発表とその検討を行う。
10	教材発表② 政治	受講生による政治教材の発表とその検討を行う。

11	教材発表③ 国際・平和	受講生による国際・平和教材の発表とその検討を行う。
12	教材発表④ 労働・社会保障	受講生による労働・社会保障教材の発表とその検討を行う。
13	教材発表⑤ 環境	受講生による環境教材の発表とその検討を行う。
14	春学期の授業の振り返り	春学期の学修内容をふまえ、小論文を作成する。
15	オリエンテーション	秋学期の授業内容と進め方について解説する
16	中学校社会科公民的分野・高校公民科の改革 (1)	日本学術会議や学会、教育団体の提言などを取り上げ、検討する。
17	中学校社会科公民的分野・高校公民科の改革 (2)	中学校社会科公民的分野・高校公民科の最新の動向を理解し、課題を整理する。
18	高校公民科の目標と授業づくり	科目「公共」の学習指導要領を読み、その特徴を分析する。
19	学習指導案の書き方	学習指導案の役割を理解し、その書き方を検討する。
20	政治教育の実践と課題	中学や高校の実践例をもとに公民教育の意義と教師の役割を考察する。
21	18歳選挙権と主権者教育	18歳選挙権の成立と主権者教育の意義と課題を検討する。
22	18歳成人と消費者教育	消費生活と契約を主題に18歳成人の意義と教育上の課題を検討する。
23	模擬授業 (1) 「公共」①	政治と法を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
24	模擬授業 (2) 「公共」②	国際・平和を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
25	模擬授業 (3) 「倫理」	青年期・生命倫理・哲学を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
26	模擬授業 (4) 「政治・経済」	経済を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
27	模擬授業 (5) 「中学校社会科公民的分野」	時事問題を主題とする模擬授業の実践と検討を行う。
28	秋学期の授業のまとめ・レポート試験の実施	秋学期の授業について総括する。いくつかのテーマについての試験を授業時間内に作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 ・予習や復習の方法は授業時に適宜指示する。特に授業に関わる配布されたプリント、教科書、中学校・高等学校『学習指導要領』については、該当部分を必ず予習しておくこと。
 ・各自が選んだ授業テーマに即して学習指導案を作成し模擬授業を実践するため、授業時間外においてそのための準備に取り組むこと。
 ・本授業の準備・復習時間は1回につき各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
 特に指定せず、資料プリントの配布を行う。
 なお、テキストではないが、文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）は授業時に参照することが多い。

【参考書】
 教員がテーマごとに適宜紹介する。おもなものとして次の3点をあげる。
 二谷貞夫・小林汎・大野一夫・和井田清司・吉田俊弘編『中等社会科ハンドブック』学文社（2013年）
 杉浦真理・菅澤康雄・斎藤久編『未来の市民を育む「公共」の授業』大月書店（2020年）
 横大道聡・吉田俊弘著『憲法のリテラシー』有斐閣（2022年）

【成績評価の方法と基準】
 授業参加（平常点）-リフレクションシートの内容（40%）、課題（教材作成、学習指導案の作成、模擬授業）の内容（40%）、小論文の内容（20%）をもとに総合的に評価する。授業形態により変更もありうる。

【学生の意見等からの気づき】
 現代的な視点を持った実践的な役に立つ授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業計画は受講者の人数や問題意識などを勘案して適宜変更することがある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

(Learning Objectives)

Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.

(Learning activities outside of classroom)

The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.

According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

(Course outline)

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

(Learning Objectives)

Aiming to develop the qualities and abilities required as teachers of junior high school social studies (civilian field) and high school civilian studies, understand the goals and contents of education, and be able to create learning guidance plans based on learning guidance theory.

(Learning activities outside of classroom)

The method of preparation and review will be instructed at the time of class. In particular, be sure to prepare for the relevant parts of the distributed prints, textbooks, and junior high and high school "Course of Study" related to the lessons.

According to the lesson theme of your choice, make use of the summer vacation to create a lesson plan and submit it at the first class of the fall semester. * This is mandatory.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Comprehensive evaluation based on in-class contribution (40%), learning tasks (40%), reports (20%), etc. It may change depending on the class format.

社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】

松尾 知明

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・公民科教育では、「公民としての資質・能力」の育成をめざして、いかに授業を効果的にデザインしていけばよいかが問われている。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法、ICT の活用などについての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。さらに、これらの基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し（初回はオンライン）、授業支援システムを活用する。本授業では、中学社会科（公民分野）及び高校公民科を指導するにあたっての基礎的な事項について学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会・公民科と教師の力量形成
2	公民的資質とは何か	社会・公民科教育の意義と役割
3	社会・公民科教育の歴史	公民教育の歴史
4	学習指導要領と社会・公民科	学習指導要領の変遷
5	社会・公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討（中学校社会科公民的分野）	公民の授業とは
7	実践事例の検討（高校公民科）	公民の授業とは
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材の研究と開発	教材とは
10	ICT 及び教材の効果的な活用	学習指導の工夫
11	学習評価の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討（中学校社会科公民的分野）	授業のデザイン
13	学習指導案の検討（高校公民科）	授業のデザイン
14	春学期のまとめとテスト	授業の振り返り

15	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術・ICT の視点
16	実践研究（中学社会科 公民的分野）生徒研究	憲法
17	実践研究（中学社会科 公民的分野）目標	地方の政治と自治
18	実践研究（高校「公民共」）	対立と合意形成
19	実践研究（高校「政治・経済」）	主権者教育
20	実践研究（高校「倫理」）	正義とは
21	社会・公民科の授業実践の課題	実践研究 発表
22	ICT の活用とオンデマンド型授業	スライドの構成案と検討
23	学習指導案の検討	検討と準備
24	模擬授業（中学社会科 公民的分野）	基本的な授業態度（発声・表情、所作）
25	模擬授業（高校「公民共」）	教授・学習活動の展開
26	模擬授業（高校「倫理」）	代表者による模擬授業
27	模擬授業（高校「政治・経済」）	代表者による模擬授業
28	授業のまとめとテスト	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、文献や資料などを読み、課された課題を行う。教材研究や学習指導案の作成を行う。また、個人やグループでの学習指導案の作成や模擬授業の準備をする。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

和井田清司他編『中等社会科 100 テーマ』三恵社、2019 年。その他、授業において指示する。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（30%）、課題（50%）、テスト（20%）などを総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を行ったり観察したりする視点をより明確にする。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ITC, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution(30%), assignments and presentations(50%) and term-end examination(20%).

社会・公民科教育法【2016年度以前入学者用】

梶谷 陽子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2~4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導に関する基礎的な事項を理解し、様々な授業実践に学び、学習指導案の作成と模擬授業を通して指導力の基礎を身につける。

【到達目標】

中学社会科（公民的分野）及び高校公民科の意義と役割を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。
 現実の様々な課題について関心をもって学び討論し、分析できる能力を養うとともに、様々な視点から教材として開発し、多様な生徒に柔軟に対応できる実践的な指導力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、社会科・公民科のあゆみ、意義と役割を明らかにして、学習指導要領と教科書をもとにその内容をつかみます。具体的な実践事例を参考にしながら授業づくりの方法を学び、グループごとに学習指導案と教材を作成し、検討します。

秋学期は、社会科・公民科の学習テーマをグループで分担し、模擬授業を行います。全員で参観して検討し、課題を明らかにしていきます。

授業は、できるだけグループディスカッションやグループワークを取り入れ、視聴覚教材や情報機器等を活用して行います。グループワークの成果や授業ごとの課題の提出物などについては、適宜、授業の中で講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	1 年間の授業計画を提示し、受講者の中学・高校での体験を踏まえ、社会科・公民科で何を学び、子どもたちにどのような力をつけるのか考える
第 2 回	社会科・公民科のあゆみ①—戦前の教育における社会科・公民科	明治以降の日本の教育において、今日の社会科・公民科にあたる教育がどのように行われていたか
第 3 回	社会科・公民科のあゆみ②—日本国憲法のもとの社会科	敗戦後、日本国憲法と教育基本法制定のもとで、社会科はどのような教科として出発したのか
第 4 回	社会科・公民科のあゆみ③—学習指導要領の変遷と社会科・公民科	学習指導要領の改訂によって、社会科はどのように変えられ、どのような経緯で公民科が設置されたのか
第 5 回	社会科・公民科の意義と役割を考える①—中学校学習指導要領から	中学校学習指導要領をもとに、社会科（公民的分野）の意義とねらいを考える
第 6 回	社会科・公民科の意義と役割を考える②—高等学校学習指導要領から	高等学校学習指導要領をもとに、公民科の意義とねらいを考える

第 7 回	教科書を読んでみよう①—中学校社会科（公民的分野）	中学校社会科（公民的分野）の教科書を読み比べ、学習内容の概要をつかむ
第 8 回	教科書を読んでみよう②—高校「公共」	高校の「公共」教科書を読み比べ、学習内容の概要をつかむ
第 9 回	実践事例の検討①—中学校社会科（公民的分野）	中学校社会科の実践事例を取り上げ、授業づくりの方法をつかむ
第 10 回	実践事例の検討②—高校「公共」「現代社会」	高校「公共」「現代社会」の実践事例を取り上げ、授業づくりの方法をつかむ
第 11 回	指導計画・学習指導案の作成について	指導計画・学習指導案の作成のしかたを学び、グループごとにテーマを選び、作成する
第 12 回	教材の研究と開発、ICT の活用について	教材研究の方法、各種資料や統計などの扱い方、授業での ICT 機器の活用について学び、グループごとに第 11 回の指導案に関する教材を作成する
第 13 回	テスト問題の作成と学習評価について	学習評価の考え方と進め方について学び、グループごとに第 11 回の指導案に関するテスト問題、評価基準・規準を作成する
第 14 回	春学期の授業のまとめ	グループごとの指導案等を発表・検討しあい、秋学期に向けて課題をあきらかにする
第 15 回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために①—模擬授業のオリエンテーション	模擬授業の計画と方法、学習指導案と教材作成上の留意点や課題を確認し、担当グループを決定する
第 16 回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために②—学習指導案の検討	夏季課題として提出された学習指導案について、受講生とともに検討し、改善点を明らかにする
第 17 回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために③—実践事例の検討	具体的な実践事例をもとに、学習指導案と教材作成の留意点と課題をつかむ
第 18 回	生徒が主体的に学ぶ授業をすすめるために④—模擬授業の準備	グループごとに学習指導案と教材の作成等、模擬授業の準備を行う
第 19 回	模擬授業①—日本国憲法と立憲主義	担当グループが模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、課題を明らかにする
第 20 回	模擬授業②—基本的人権の尊重	担当グループが模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、課題を明らかにする
第 21 回	模擬授業③—現代の民主政治	担当グループが模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、課題を明らかにする
第 22 回	模擬授業④—消費生活と経済	担当グループが模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、課題を明らかにする
第 23 回	模擬授業⑤—資源・エネルギー、環境問題	担当グループが模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、課題を明らかにする
第 24 回	模擬授業⑥—戦争と平和、国際連帯	担当グループが模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、課題を明らかにする
第 25 回	模擬授業⑦—現代社会の諸課題	担当グループが模擬授業を行い、受講者全員で参観・検討し、課題を明らかにする
第 26 回	模擬授業のまとめ①—授業方法等の改善	各グループの模擬授業の授業方法について、総括的に講評して課題を明らかにし、実践事例を検討する
第 27 回	模擬授業のまとめ②—教材研究を深める	各グループの模擬授業での学習内容について総括的に講評して課題を明らかにし、必要なテーマについて内容を深めるための学習を行う

第 28 回 秋学期の授業のまとめ (レポート試験) 模擬授業のとりくみを総括し、社会科・公民科の意義と役割に沿った授業をすすめていくために、今後、どのような学びが必要か、各自レポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習や復習については、授業の際に指示をします。授業のテーマや課題にかかわる配付資料や提示した参考書、教科書や学習指導要領などは必ず読んでください。

夏季休業中、春学期で学んだことをもとに学習指導案を作成し、秋学期最初の授業時に提出してください。

日常的に新聞を読み、現実の社会や教育の課題について関心を持って考えるようにしてください。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学校社会科（公民的分野）教科書『新編新しい社会 公民』東京書籍

高等学校公民科教科書『公共』実教出版

その他、授業ごとに資料を配布します。

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）等の他、適宜、参考文献を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（10 %）、授業時の課題、学習指導案（60 %）、レポート（30 %）等をもとに、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students are able to acquire basic knowledge and skills in the use of educational methods and techniques, ICT, and teaching materials, and to be able to effectively design lesson plans with the aim of developing qualities and abilities.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read research teaching materials, prepare presentations, write a lesson plan and prepare simulated lessons. The preparation and review time for this class is based on 2 hours each, for total of 4 hours.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

The evaluation will be made based on the attitude of participation in the lesson(10%), learning tasks/learning guidance plan(60%), reports(30%).

商業科教育法【2016年度以前 入学者用】

木村 良成

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春・秋学期の授業を通して、商業教育、特に高等学校の商業科教育についての正しい認識と理解を得させるとともに、当該教科の教育についての学習指導能力の基礎を培うことが達成できれば良いと思っている。

まず最初に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか、そしてそれにはどのような効用なり、役割が期待されているのかを考えてみる。

春学期の授業では、当該教科の学習指導を中心とした授業展開を考えているが、その前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の科目群、すなわち、流通ビジネス（商業経済）、国際経済、簿記会計、経営情報（情報処理）および総合的（総合学習）の各科目群の中から幾つかの科目を選んで、それぞれの科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考え、演習を試みしてみる。秋学期は、そのような商業教育は、わが国の場合、何時ごろ、どのような社会的経済的背景の下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。

その後、最新版の高等学校学習指導要領を用いて現行の高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるから、ここで現行高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

【到達目標】

教員として学校における全ての教育活動において役に立つようになること。そして、商業科教員として最大限身につけておくような教材研究ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義一辺倒にならぬように、例えば、課題解決的な学習や模擬授業のようなものを取り入れたり、現職教員を招いての講演会を行うなど、多様な授業形態・方法を工夫してやっていきたいと思っている。単元や要所終了時にリアクションペーパーの提出や課題を求め、それにより教育方法や教育指導法が十分学習できたかどうか判断を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本における現在の商業教育全般について	「商業教育」とは何か
2	商学と商業学の違いについて	学問間の違い
3	教科商業の科目について	(1) 基礎科目（実際の科目についての説明）
4	教科商業の科目について	(2) 必修科目（実際の低学年での科目についての説明）

5	教科商業の科目について	(3) 必修科目（実際の高学年での科目についての説明）
6	教科商業の科目について	(4) 発展科目（実際の科目についての説明）
7	商業教育の特質	普通高校との相違
8	現代商業教育の役割	現代に求められている商業教育
9	学習指導の形態と進め方	商業教育におけるそれぞれの科目の学習指導方法
10	学習指導法と指導計画について	指導計画における「指導案」の役割
11	学習指導計画と教育評価	教育評価の様々な方法について
12	外国における商業教育の現状	諸外国での現状（近隣アジア諸国での現状）
13	生涯学習と商業教育の結びつき	生涯学習の意義と定義
14	高等学校・大学以外で行われている商業教育	商業教育が行われている現場
15	現代商業教育の実状と問題点について	課題と解決
16	今後の商業教育の動向について	将来の商業科教育を模索
17	近代商業教育制度の創設	室町時代から江戸時代
18	明治時代の商業教育	明治時代初期における学制を中心とした教育
19	学制の発布とその創成期	教育令や商業学校通則に従った商業教育
20	明治時代中期以降の商業教育	実業学校令における商業教育
21	大正時代から昭和時代初期（戦前から戦後にかけて）の商業教育	大正期における商業教育の絶頂期
22	第二次世界大戦中の商業教育	商業教育の危機
23	第二次世界大戦後まもなくの商業教育体系の変化	高度経済成長期までの商業教育の成長
24	商業教育の体系的変化	高度経済成長期以降の低成長およびバブル経済下における商業教育の質的变化（平成不況も含む）
25	実際に行われている商業教育の現場から	商業科高等学校教員を招聘しての講演
26	授業を行うにあたっての留意点	(1) 教材研究の方法にあたっての留意点
27	授業を行うにあたっての留意点	(2) 板書例と黒板の書き方
28	授業を行うにあたっての留意点	(3) 50分授業の展開方法とヤマ場の創出方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修学生の授業への主体的・積極的な参加を期待する。授業のために、教育・社会科学等に関する分野を毎日1時間以上新聞等（紙媒体）で探し、スクラップ及びメモしておくこと。（授業で発表できるようにしておくことが望ましい。）

【テキスト（教科書）】

木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）〈授業時必携〉

【参考書】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』〈最新版〉
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』〈最新版〉
他のテキスト・文献の使用については最初の授業時に指示する。また、授業内容に関係する参考文献・資料などについては、最初の授業時および必要と思われるときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績評価は、春・秋学期それぞれ一回の定期試験（またはレポート）〈40%〉、授業中の学習態度〈20%〉、出席率〈40%〉を基準に行う。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項無し

【学生が準備すべき機器他】

1 2 桁電卓

【その他の重要事項】

簿記・会計が理解できていること。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand Commercial Studies.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend over one hours everyday to understand the course of Education and Social Science etc.(By News Paper)

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination or report:40%, in class contribution: 60%.

【Notice】

日本国籍外で教員免許を取得した場合、教育活動に制限が多いため留意すること。

図書館制度・経営論【2016年度以前入学者用】

森 智彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館の法令と関連法規について解説して、主に公立図書館の基本設計から管理運営までの過程（プロセス）を、経営という観点から考察して解説する。

利用者への望ましいサービスを達成するには、図書館を開設する前の基本設計の時点から綿密に計画する必要がある。図書館統計から図書館サービスの指標を導き出して、サービス対象となる利用者の特性を考えて、地域や母体組織（学校、大学、企業など）に相応した図書館像を考えたい。

図書館の財務管理や、人事管理、などをめぐる諸問題についても触れ、PFI、指定管理者制度、民間活力導入の問題が、今後の図書館経営に与える影響についても考察する。

【到達目標】

- ・公立図書館の運営について説明ができる。
- ・PFI、指定管理者制度などの新たな公共機関の運営方法について説明できる。
- ・新聞や雑誌で公立図書館の運営に関する記事に興味を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、教科書と配布したレジュメに沿って授業を行う。授業内で課題の提出を求めることがある。課題の提出・回答の提示、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館法の成り立ち (1)	図書館法の位置づけ
第 2 回	図書館法の成り立ち (2)	図書館法逐条解説 条例等その他の法規
第 3 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (1)	組織の経営と経営原理 経営組織
第 4 回	図書館経営の意義と基本的な考え方 (2)	経営資源の構成要素 業務プロセスと経営資源 経営のサイクル
第 5 回	人的資源と組織編成	図書館の人的資源 知識専門職としての司書 図書館の組織
第 6 回	物品の調達・管理	図書館に必要なモノ 物品の調達 物品の管理
第 7 回	図書館財務	図書館にとっての財務 図書館財務の実際と限界 新しい図書館財務の考え方
第 8 回	公共空間としての図書館	施設を活かす管理・運用 サービス空間の設計 書庫管理
第 9 回	PRとマーケティング	PRとは何か マーケティングの必要性 図書館のマーケティング

第 10 回	経営戦略策定のための調査・分析と評価	戦略計画をつくる 戦略を支える調査と研究 経営評価
第 11 回	経営形態の選択と外部連携	図書館の経営環境の変化 公共図書館の経営形態 外部との連携
第 12 回	図書館情報政策の意義	図書館情報政策の位置づけ 地方自治体内の一組織としての図書館
第 13 回	各種図書館の役割と根拠法	国立国会図書館 大学図書館 学校図書館 専門図書館 関連する諸法律
第 14 回	まとめと確認	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の章に沿って授業を行うので、授業前に教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおいてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳与志夫著、『図書館制度・経営論』第 2 版（ライブラリー図書館情報学 4） 学文社、2019

【参考書】

糸賀雅児、葉袋秀樹編、『図書館・制度経営論』（現代図書館情報学シリーズ 2） 樹村房、2013
 その他授業内で適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の要点をわかりやすく説明する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Achieving the effective service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).

This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI (Private Finance Initiative), the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.

(Learning Objectives)

- ・ Students can explain the management of the public library.
- ・ Students can explain how to manage new public institutions such as PFI and designated manager system.
- ・ Students can be interested in articles about the operation of public libraries in newspapers and magazines.

(Learning activities outside of classroom)

Since the lecture will be given according to the chapter of the textbook, please read the relevant part of the textbook in advance before the lecture. The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Class assignments (50%), term-end reports (50%).

児童サービス論【2016年度以前入学者用】

田中 順子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。

【到達目標】

児童の発達状況と読書の役割を理解し、適切なサービスを実践する能力を習得する。絵本等の資料を使った読み聞かせを実践し、児童と本を結びつける手法も獲得する。また、学校との連携など、児童を取り巻く読書環境についても学ぶ。

Students learn about child's capability and importance of reading at their age.

They practice reading children's book and learn how to make children's environment comfortable for their reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスをを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	児童サービスとは	児童サービスの理念について
2	児童について	児童の発達と読書について
3	乳幼児の読書環境	乳幼児の読書環境とブックスタート
4	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史と法律について。児童の読書推進のための政府、自治体の取り組みについて
5	ブック・トーク	ブックトーク実践
6	読み聞かせ	読み聞かせ実践
7	ヤングアダルト	ヤングアダルトサービスについて
8	児童図書館	児童図書館の目的と役割
9	児童図書館リサーチ	児童図書館や児童図書コーナーの調査
10	他団体との連携	公立図書館と、学校図書館、他の施設との連携について
11	レファレンス・サービス	児童のためのレファレンスサービスについて
12	読書の児童への影響	幼少時の読書がどんな影響を与えるか学ぶ
13	学習支援	学習支援としての児童サービス
14	学校図書館	学校、学校図書館の活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストの読み込みを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

Read a text book.

Learn about important points and think about their own idea for two hours.

【テキスト（教科書）】

植松貞夫・鈴木佳苗編『児童サービス論』樹村房 2022

【参考書】

笠原良郎編『楽しい読み聞かせ 学校図書館入門シリーズ3』全国学校図書館協議会
 『図書館をつくる 教育をかえる』全国学校図書館協議会

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内の発表(20%)と中間レポートの提出(30%)、学期末のレポート(50%)。

Attend classes and present their ideas about current topics.(20%)

Research children's library and submit a report about it.(30%)
 Submit a final report.(50%)

【学生の意見等からの気づき】

現場のリサーチや、読み聞かせの実践を通して、実情が実感できたという感想が多いので、学生による体験を積極的に取り入れていく。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Achieving the effective service to users requires careful planning from the point of basic design before the library is opened. I want to derive an index of library services from library statistics, consider the characteristics of users to be serviced, and consider a library image that is appropriate for the region and organization (school, university, company, etc.).

This section will also discuss various issues related to library financial management and personnel management, and consider the effects of PFI (Private Finance Initiative), the designated manager system, and the issue of private vitality on library management in the future.

(Learning Objectives)

- ・ Students can explain the management of the public library.
 - ・ Students can explain how to manage new public institutions such as PFI and designated manager system.
 - ・ Students can be interested in articles about the operation of public libraries in newspapers and magazines.
- (Learning activities outside of classroom)

Since the lecture will be given according to the chapter of the textbook, please read the relevant part of the textbook in advance before the lecture. The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Class assignments (50%), term-end reports (50%) .

情報サービス論【2016年度以前入学者用】

田中 順子

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring
 曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービスを展開する能力を習得する。

【到達目標】

図書館での情報サービスについて把握し、利用者のニーズに応えられるレファレンスサービス、情報検索について理解を深め、多岐にわたる情報源の知識を習得し、情報サービスを積極的に展開する能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

毎回、学生によるその日のテーマに関する発表や意見の提出を行い、それについて授業中にコメント、アドバイスをを行う。良いコメントを紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報サービスとは	情報サービスの概念と歴史
2	レファレンス・サービス	レファレンスサービスとレフェラルサービスについて
3	図書館の利用	カレントアウェアネスサービスと読書相談、利用案内等について
4	レファレンス・サービスに求められるもの	レファレンスサービスの理論と実際
5	レファレンス・プロセス	レファレンスプロセスについて
6	レファレンス・インタビュー	利用者のニーズを引き出すレファレンスインタビュー
7	図書館の情報サービス	情報社会における図書館の情報サービスの役割
8	情報源について（1）	各種情報源の特質と利用法
9	情報源について（2）	各種情報源の解説と評価
10	情報源について（3）	各種情報源の組織化
11	情報検索サービス	情報検索サービスの理論と方法
12	図書館利用教育	図書館利用教育の現状
13	図書館の連携	学校図書館、地域の図書館の連携について
14	情報リテラシー	情報リテラシーの育成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した範囲のテキストを読んでくることを含め、本授業の準備・復習時間に、各2時間を充てること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使いません。

【参考書】

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業内発表（20%）と課題調査（30%）、学期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行うディスカッションによって、考える力、発信する力がついたという感想が多いので、受け身ではなく積極的に授業に参加する場を設けていく。

【Outline (in English)】

In this class, students learn about library service and think about various challenges in the future library. Students visit a library to research it. They also learn about reference work. Students learn about library service and think about how to answer user's need. Students visit a library to research it. They also learn about reference work.

Before and after classes, students are requested to read a text book and

learn about important points.

Then they need to think about their own idea.

They will take totally more than four hours to complete them.

Grading criteria

Attend classes and present their ideas about current topics.(20%)

Research a library and submit a report about it.(30%)

Submit a final report.(50%)

情報資源組織論【2016年度以前入学者用】

竹之内 明子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館の利用者が求める情報資源を的確に提供するには、情報資源の組織化（整理）が欠かせません。情報資源の組織化は、情報資源に関するデータを一定の方法に従って記述するための記述目録法（狭義の目録法）と、情報資源の内容（主題）を分析、表現するための主題目録法（分類法および件名法）に大別できます。この授業では、情報資源組織化の意義とその理論的背景に加え、目録法、分類法、件名法の基礎的事項、新しい目録法の動向までを学びます。

【到達目標】

この授業では、終了時に以下の能力を身につけていることを目標とします。

- 1) 情報資源組織化の意義と方法を理解する
- 2) 情報資源組織化のためのツール（種類と特徴）を理解する
- 3) 目録法、分類法、件名法の概略を理解する
- 4) 新しい目録法の動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報資源組織化に関する基礎知識として、『日本十進分類法』（NDC）を使用した分類法、『基本件名標目表』（BSH）を使用した件名法、『日本目録規則』（NCR）を使用した目録法の概略を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の目的	情報資源の組織化とは 情報資源組織化の意義
第2回	主題による組織化	主題とは何か、主題を明らかにする方法、知の分類と情報資源の分類
第3回	分類法	代表的な分類法 日本十進分類法（NDC）
第4回	件名法	シソーラスと件名標目表 基本件名標目表（BSH）
第5回	目録法	書誌記述 アクセスポイント 目録作業の実際
第6回	日本目録規則（NCR）	書誌階層 目録記入 目録作業の実際
第7回	新しい目録規則とその動向	FRBR NCR2018
第8回	書誌コントロール	国際的な書誌コントロールの展開、国立図書館と全国書誌
第9回	書誌情報の流通	集中目録作業 共同目録作業
第10回	装備と配架（排架）	登録、装備、配架
第11回	多様な情報資源の組織化	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化

第12回	Web OPAC	設計、リプレイス、バージョンアップ
第13回	ネットワーク情報資源の組織化	電子ジャーナル 機関リポジトリ メタデータ Webの組織化
第14回	まとめ	情報資源組織法の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
 本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

竹之内禎、山口洋、西田洋平編著『情報資源組織論』、東海大学出版部、2020

【参考書】

竹之内禎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』、ミネルヴァ書房、2016

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：毎回の授業への参加と提出課題（100%）
 評価の基準：

- 1) 課題に積極的に取り組み、理解を深めているか
- 2) 情報資源組織化の意義と方法を説明できるか
- 3) 情報資源組織化のために使用されるツールについて説明できるか
- 4) 目録法、分類法、件名法の概略を説明できるか
- 5) 新しい目録法の動向について説明できるか

【学生の意見等からの気づき】

新しい専門用語の意味を覚え、図書を中心とした図書館の情報資源を管理するツールについて、演習につながる理解が得られるように解説していきます。前の回の知識が後の回の前提となり、演習科目の土台ともなるので、毎回の内容をしっかり覚えてください。わからない点は遠慮なく問い合わせてください。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。
 中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、情報資源組織法の知見を教授します。
 本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】

Organization of information resources is essential to accurately provide the information resources requested by library users. The organization of information resources can be roughly divided into descriptive cataloging methods for describing data related to information resources according to a fixed method, and taxonomy and subject matter methods for analyzing and expressing the contents of information resources. In this class, students will learn the usefulness of information resource organization and its theoretical background, as well as the basics of cataloging, taxonomy, subject matter, and trends in new cataloging methods.

**情報資源組織演習【2016年度
以前入学者用】**

竹之内 明子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という3つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し、図書館の実際の資料を対象に、情報資源の主題分析と記号化、統制語彙の適用、目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】

- 1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して、基本的な分類記号を与えることができる
- 2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して、基本的な件名標目を与えることができる
- 3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して、図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容をシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第 2 回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC 相関索引の使用法	第 1 分冊：本表・補助表編 第 2 分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 3 回	本表の省略記号、NDC1 類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 4 回	地理区分（1）、NDC3 類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 5 回	地理区分（2）、NDC4 類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 6 回	形式区分、NDC5 類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認

第 7 回	海洋区分、NDC2 類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 8 回	地理区分（3）、NDC6 類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 9 回	言語区分、NDC7 類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 10 回	分類規程、NDC8 類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 11 回	図書記号、NDC9 類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 12 回	NDC0 類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 13 回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 14 回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 15 回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』（NCR）による目録作成の基礎 『基本件名標目表』（BSH）による件名付与の復習 『日本十進分類法』（NDC）による分類記号付与の復習
第 16 回	書誌記述（1）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第 17 回	書誌記述（2）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第 18 回	書誌記述（3）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第 19 回	書誌記述（4）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第 20 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0 類・1 類）	NDC0 類・1 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 21 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2 類・3 類）	NDC2 類・3 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 22 回	書誌記述（5）	ISBN 教科書演習問題の解説
第 23 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4 類・5 類）	NDC4 類・5 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 24 回	書誌記述（6）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第 25 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6 類・7 類）	NDC6 類・7 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 26 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8 類・9 類）	NDC8 類・9 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 27 回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（1）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第 28 回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（2）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】 各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し、書誌情報、著者・出版者情報、分類記号等を調べる。加えて、後期の授業では目録記入を作成すること。

【復習】 各回の授業内容を見直し、要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。

本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山本順一監修、竹之内禎ほか編著、『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2016

本体 3,500 円 + 税

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b239765.html>

【参考書】

竹之内禎ほか編著、『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020

本体価格 2800 円 + 税

https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=

ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：

毎回の授業への参加と口頭発表（50 %）、提出課題（50 %）

評価の基準：

授業への 2/3 以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。

- 1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
- 2) 分類法、件名法のスキルを習得したか
- 3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】

同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点があり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】

ポアソナードタワー 1 4 階の工作室で授業を行います。教室内の棚に NDC、BSH、NCR がありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、情報資源組織法の知見を教授します。

本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。

「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

**情報資源組織演習【2016年度
以前入学者用】**

村上 郷子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報資源組織論（資料組織論）で学んだ理論や知識をもとに、実際に書誌データの作成、主題分析、分類作業の作成を行う。

【到達目標】

書誌データの作成、主題分析、分類作業等の基本的スキルを修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

資料の組織化は、大きく記述目録法と主題目録法の 2 部から成り立っている。春学期は記述目録の演習を中心に目録規則の適用及び主題分析の基礎について学習する。秋学期は主に日本十進分類法による分類作業を中心に、主題目録法の実際についてのスキルを学ぶ。

授業の初めに、毎回の小クイズの答え合わせをすることにより、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・情報資源組織演習概要、情報資源組織化を行う環境	情報資源組織演習の概要について概説する。
2	目録法（目録と目録規則）、日本目録規則 2018 年版総説	目録と目録規則、日本目録規則 2018 年版総説（概念モデル FRBR、エレメントの記録他）
3	体现形の記録（図書）(1) タイトル・責任表示	タイトルと責任表示
4	体现形の記録（図書）(2) 版表示、出版表示等、シリーズ表示、キャリアに関する情報	版、資料の特性、出版・頒布等形態・シリーズ表示、キャリアに関する情報
5	体现形の記録（図書）(3) 体现形の識別子、入手条件、注記、個別資料の記録	体现形の識別子、入手条件、注記、個別資料の記録
6	体现形の記録（逐次刊行物）(4) 逐次刊行物の記録	逐次刊行物の記録
7	体现形の記録（各種資料）(5) 録音資料、映像資料、電子資料他	録音資料、映像資料、電子資料他
8	著作・表現形の記録、個人・団体・家族の記録	著作・表現形の記録、個人・団体・家族の記録
9	アクセス・ポイントの構築	アクセス・ポイントと典拠コントロール
10	関連記録、総合演習問題 (1)	図書のエレメントの記録例を中心に行う
11	総合演習問題 (2) + 解説	図書の総合演習問題と解説

12	記録フォーマットとデータ活用（MARC、MACSIS-CAT 他）メタデータ、	コピー・カタログング、オリジナル・カタログング、NACSIS-CAT、JAPAN-MARC、MARC21 などネットワーク情報資源の組織化とメタデータ、メタデータの記述規則、流通
14	春学期総まとめ	筆記試験・まとめ
15	主題組織法、日本十進法の構成	秋学期ガイダンス、主題組織法とは何か、日本十進分類法とは何か NDC の構成、形式区分
16	日本十進法による分（Unit31）	地理区分、海洋区分、言語区分
17	分類記号付与の実際	分類作業、分類規定、分類表の改訂
18	人文科学①	哲学・宗教（1 類）
19	人文科学②	歴史・地理・伝記（2 類）
20	社会科学	政治・法律・経済、社会・教育他（3 類）
21	自然科学・総記	自然科学・総記（4・0 類）
22	技術・産業	技術・産業（5・6 類）
23	人文科学④ 芸術	芸術（7 類）
24	言語・文学	言語・文学（8・9 類）
25	文学、所在記号	文学（9 類）、図書記号、別置記号
26	件名法（1）	基本権名標目表の概略、語の関係性、細目
27	件名法（2）	件名規定と演習
28	秋学期総まとめ	筆記試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を、確実にこなすこと。

【テキスト（教科書）】

和中幹雄・横谷弘美共著『情報資源組織演習』三訂版、日本図書館協会、2023、(JLA 図書館情報学シリーズ 3-10)

【参考書】

日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類』、最新版、日本図書館研究会
日本図書館研究会編著『情報資源組織法』、2020、日本図書館研究会

【成績評価の方法と基準】

通年授業のため、春学期は 50 %、秋学期は 50 % とする。50 % の内、出席・毎回の小クイズ・春・秋学期それぞれ（25 %）、春・秋学期筆記試験それぞれ（25 %）によって総合的に評価する。出席は 8 割以上を目安とする。毎回授業の初めに小テストを行うため、遅刻や欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なじみの少ない領域のため、できるだけ平易な説明を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学生は司書資格課程のポータルサイト（Hulic）から、事前に毎回のレジメをダウンロード・印刷をして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

この授業では、受講生を 20 人以下に制限する。20 人以上の場合は、司書課程の受講生及び上級生を優先し、司書課程以外の受講生及び下級生は最初の日に抽選を行う。途中からの受講は認めない。

【Outline (in English)】

(Course outline) : Based on the theory and the knowledge of organizing information resources, students will practice creating actual bibliographic catalog and decimal classification as well as analyzing subject headings.

(Learning Objectives) : Students are able to acquire basic skills in bibliographic data preparation, subject analysis, and classification work.

(Learning activities outside of classroom) : Students must ensure that they complete the homework assigned each time.

(Grading Criteria /Policy) : Since this class is offered throughout the year, 50% will be given in the spring semester and 50% in the fall semester; of the 50%, the overall evaluation will be based on attendance, each quiz, and each of the spring and fall semesters (25%), and each of the spring and fall semester written examinations (25%).

**情報資源組織演習【2016年度
以前入学者用】**

竹之内 明子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という3つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し、図書館の実際の資料を対象に、情報資源の主題分析と記号化、統制語彙の適用、目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】

- 1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して、基本的な分類記号を与えることができる
- 2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して、基本的な件名標目を与えることができる
- 3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して、図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容をシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第 2 回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC 相関索引の使用法	第 1 分冊：本表・補助表編 第 2 分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 3 回	本表の省略記号、NDC1 類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 4 回	地理区分（1）、NDC3 類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 5 回	地理区分（2）、NDC4 類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 6 回	形式区分、NDC5 類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認

第 7 回	海洋区分、NDC2 類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 8 回	地理区分（3）、NDC6 類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 9 回	言語区分、NDC7 類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 10 回	分類規程、NDC8 類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 11 回	図書記号、NDC9 類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 12 回	NDC0 類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 13 回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 14 回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 15 回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』（NCR）による目録作成の基礎 『基本件名標目表』（BSH）による件名付与の復習 『日本十進分類法』（NDC）による分類記号付与の復習
第 16 回	書誌記述（1）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第 17 回	書誌記述（2）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第 18 回	書誌記述（3）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第 19 回	書誌記述（4）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第 20 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0 類・1 類）	NDC0 類・1 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 21 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2 類・3 類）	NDC2 類・3 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 22 回	書誌記述（5）	ISBN 教科書演習問題の解説
第 23 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4 類・5 類）	NDC4 類・5 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 24 回	書誌記述（6）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第 25 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6 類・7 類）	NDC6 類・7 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 26 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8 類・9 類）	NDC8 類・9 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 27 回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（1）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第 28 回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（2）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】 各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し、書誌情報、著者・出版者情報、分類記号等を調べる。加えて、後期の授業では目録記入を作成すること。

【復習】各回の授業内容を見直し、要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。

本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山本順一監修、竹之内禎ほか編著、『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2016

本体 3,500 円 + 税

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b239765.html>

【参考書】

竹之内禎ほか編著、『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020

本体価格 2800 円 + 税

https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=

ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：

毎回の授業への参加と口頭発表（50 %）、提出課題（50 %）

評価の基準：

授業への 2/3 以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。

- 1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
- 2) 分類法、件名法のスキルを習得したか
- 3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】

同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点があり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】

ポアソナードタワー 1 4 階の工作室で授業を行います。教室内の棚に NDC、BSH、NCR がありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、情報資源組織法の知見を教授します。

本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。

「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

**情報資源組織演習【2016年度
以前入学者用】**

竹之内 明子

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館が扱う図書を中心とした膨大な情報資源の中から目的にかなうものを素早く見つけ出し入手する仕組みを作ることを「情報資源の組織化」と言います。本演習では、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）という3つのルールブックを使用した情報資源組織化の方法を習得することを目指し、図書館の実際の資料を対象に、情報資源の主題分析と記号化、統制語彙の適用、目録データベースを作成するための書誌情報の記録方法等の演習を行います。

【到達目標】

- 1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して、基本的な分類記号を与えることができる
- 2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して、基本的な件名標目を与えることができる
- 3)『日本目録規則』（NCR）の概要を理解して、図書館が扱う情報資源に関する適切な目録データを作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期は『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）という二つのルールブックを使用して、図書資料に分類記号と件名標目を与える演習を行います。後期はこれに加えて『日本目録規則』（NCR）に基づき、図書を中心とした図書館情報資源に関する目録データの作成演習を行います。毎回、図書館の蔵書を探す課題を出す予定です。演習科目ですので、授業への参加と課題の提出を重視します。授業では、受講生が選んだ本の著者や内容をシェアしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報資源組織化の全体像	分類法、件名法、目録法の概要 『日本十進分類法』（NDC）による分類法の基礎
第 2 回	『日本十進分類法』（NDC）の構成、NDC 相関索引の使用法	第 1 分冊：本表・補助表編 第 2 分冊：相関索引・使用法編 相関索引と分類記号の対応、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 3 回	本表の省略記号、NDC1 類（哲学・心理学・宗教）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 4 回	地理区分（1）、NDC3 類（社会科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 5 回	地理区分（2）、NDC4 類（自然科学・医学・薬学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 6 回	形式区分、NDC5 類（技術・工学・生活科学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認

第 7 回	海洋区分、NDC2 類（歴史・伝記・地理）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 8 回	地理区分（3）、NDC6 類（農林水産業・商業・交通・観光・通信）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 9 回	言語区分、NDC7 類（芸術・スポーツ）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 10 回	分類規程、NDC8 類（言語）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 11 回	図書記号、NDC9 類（文学）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 12 回	NDC0 類（知識・情報・図書館・出版・博物館・ジャーナリズム）の分類法	指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 13 回	『基本件名標目表』（BSH）の構成	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 14 回	『基本件名標目表』（BSH）の使用法	BSH による件名付与の方法、指定したテーマの資料紹介と分類の確認
第 15 回	目録法の概要 分類法、件名法の復習	『日本目録規則』（NCR）による目録作成の基礎 『基本件名標目表』（BSH）による件名付与の復習 『日本十進分類法』（NDC）による分類記号付与の復習
第 16 回	書誌記述（1）	目録記入の基本型 タイトルと責任表示の記述 教科書演習問題の解説
第 17 回	書誌記述（2）	版表示、出版地、出版者、出版年の記述 教科書演習問題の解説
第 18 回	書誌記述（3）	形態に関する事項の記述 教科書演習問題の解説
第 19 回	書誌記述（4）	さまざまなケースの記述 教科書演習問題の解説
第 20 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC0 類・1 類）	NDC0 類・1 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 21 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC2 類・3 類）	NDC2 類・3 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 22 回	書誌記述（5）	ISBN 教科書演習問題の解説
第 23 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC4 類・5 類）	NDC4 類・5 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 24 回	書誌記述（6）	注記の記述 教科書演習問題の解説
第 25 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC6 類・7 類）	NDC6 類・7 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 26 回	資料紹介と目録記入の作成（NDC8 類・9 類）	NDC8 類・9 類関連の資料紹介と目録記入の確認
第 27 回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（1）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認
第 28 回	資料紹介と目録記入の作成（指定テーマ）（2）	設定したテーマに関連する資料紹介と目録記入の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】 各回の授業内容に対応するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。宿題として指定されたテーマの図書を探し、書誌情報、著者・出版者情報、分類記号等を調べること。加えて、後期の授業では目録記入を作成すること。

【復習】各回の授業内容を見直し、要点をまとめること。授業でシェアした図書資料の情報を確認すること。

本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山本順一監修、竹之内禎ほか編著、『情報資源組織演習:情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』, 講座・図書館情報学, ミネルヴァ書房, 2016

本体 3,500 円 + 税

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b239765.html>

【参考書】

竹之内禎ほか編著、『情報資源組織論』, 東海大学出版部, 2020

本体価格 2800 円 + 税

https://www.press.tokai.ac.jp/bookdetail.jsp?isbn_code=

ISBN978-4-486-02188-9

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：

毎回の授業への参加と口頭発表（50 %）、提出課題（50 %）

評価の基準：

授業への 2/3 以上の出席を前提として、以下の観点から総合的に評価します。

- 1) 毎回の授業課題に積極的に取り組んだか
- 2) 分類法、件名法のスキルを習得したか
- 3) 図書館情報資源の目録データの作成スキルを修得したか

【学生の意見等からの気づき】

同じテーマで同じ図書館を探しても、受講生それぞれに選書の観点があり、新たな資料との出会いを楽しみながら学んでいます。

【学生が準備すべき機器他】

ポアソナードタワー 1 4 階の工作室で授業を行います。教室内の棚に NDC、BSH、NCR がありますので、毎回の授業の始めに各自で借り受けて、授業終了時に返却するようにしてください。場所等は初回に指示します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、情報資源組織法の知見を教授します。

本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。詳細な日程については、開講時にあらためて説明します。

「情報資源組織論」を履修済みであるか、同時履修していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

Based on the theory and knowledge learned in information resource organization theory (document organization theory), students will actually create bibliographic data, subject analysis, and classification work.

学校図書館メディアの構成 【2016年度以前入学者用】

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館における多様な情報メディア全般の種類と特性を理解し、必要な資料を選択、収集して組織化していくための基礎的な技術を学ぶとともに、学校図書館の運用に必要な基礎的な知識や技能を身につける。目録と分類作業では、課題が課される場合もある。

【到達目標】

本授業では、司書教諭に必要な情報メディアの特性や情報資源の組織化、資料の配架やレイアウトなどの学校図書館運用に必要な基本的な知識・技能を習得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、司書教諭に必要な情報メディアの特性や情報資源の組織化、資料の配架やレイアウトなどの学校図書館運用に必要な基本的な知識・技能を習得することを目的とするため、基本的には講義形式が主となるが、内容によっては、目録・分類等の基本的な演習も含まれる。授業では授業用グループウェア（HULiC）を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回前回の講義内容の確認クイズを行うため、きちんと予習しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報社会の現状と学校図書館メディアの種類と特性	学校図書館メディアの種類と特性（概説）、授業用グループウェア（HULiC）ガイダンス
第2回	学校図書館メディアの種類と特性①	印刷資料（図書・逐次刊行物）
第3回	学校図書館メディアの種類と特性②	視聴覚資料・電子資料・他
第4回	学校図書館メディアの出版と流通	メディアの出版・流通の現状（統計）
第5回	学校図書館メディアの収集方針と選書	情報資源の収集、保存、選書方針など
第6回	学校図書館メディアの組織化（1）	目録法① 日本目録規則 2018年度版（概念モデル FRBR、エレメントの記録、属性の記録総則）
第7回	学校図書館メディアの組織化（2）	目録法② 表現形の記録（図書）
第8回	学校図書館メディアの組織化（3）	目録法③ 著作・表現形他
第9回	学校図書館メディアの組織化（4）	分類① NDCの構成・一般補助表
第10回	学校図書館メディアの組織化（5）	分類② 人文科学
第11回	学校図書館メディアの組織化（6）	分類③ 社会科学
第12回	学校図書館メディアの組織化（7）	分類④ 自然科学

第13回 図書記号・別置記号の配架・試験対策（予備付与、

第14回 「学校図書館メディア 筆記試験（予定）の構成」のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業以外にも演習課題の提出がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【参考書】

学校図書館メディアの構成（探究 学校図書館学第2巻）、「探究 学校図書館学」編集委員会 著、全国学校図書館協議会、2020
学校図書館メディアの構成（放送大学教材）、米谷優子、呑海沙織著、放送大学教育振興会、2022

【成績評価の方法と基準】

出席・毎回の確認クイズ・課題（50%）、学期末試験（50%）によって総合的に評価する。毎回、授業の前に前回事業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。全ての授業用資料は、授業用グループウェア（HULiC）上にアップロードするため、個別に準備しておくこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Students will gain an understanding of the basic characteristics of various information and media in school libraries, learn basic techniques for selecting, collecting, and organizing the necessary materials, and acquire the basic knowledge and skills necessary for operating a school library. Assignments will be given in cataloging and classification work.

学校経営と学校図書館【2016年度以前入学者用】

松田 ユリ子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：2~4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】

講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
 翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で扱う内容と講義のすすめ方の確認
第 2 回	自分の学校図書館体験から考える学校図書館の意義	事前に課題を提出し、それに基づいて解説及び議論を行う。
第 3 回	新しい知から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 4 回	学校教育から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 5 回	学校の中の学校図書館	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 6 回	米国における学校図書館の歴史	事前に教科書の第 8 章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 7 回	日本における学校図書館の歴史	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 8 回	日本の学校図書館の現状	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 9 回	学校図書館の目的と機能	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 10 回	学校図書館のサービス	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 11 回	学校図書館の教育活動	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。

第 12 回	学校図書館のマネジメント	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 13 回	学校図書館の担当者	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第 14 回	学校図書館の設計/まとめ	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

中村百合子編著『学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・1）』学文社、2022

【参考書】

金沢みどり編著『学校司書の役割と活動:学校図書館の活性化の視点から』学文社、2017

全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版、悠光堂、2017

野口武悟、前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会、2017

堀川照代編著『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂、2018

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。

事前課題レポート 70 %、最終レポート 30 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

課題の指示をより明確にする

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.

To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to clearly grasp the ideal school library image and explain it to others.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end report (30 %), and in-class contribution.

学習指導と学校図書館【2016年度以前入学者用】

松田 ユリ子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：土 5/Sat.5 | 配当年次：2~4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えていくかを考える。

【到達目標】

授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
 翌週までにコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のすすめ方と最初の課題を支援システム上で各自確認する。
第 2 回	学習と学校図書館	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 3 回	「学習指導要領」と学校図書館	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 4 回	探究的な学習の理論と学校図書館の資源	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 5 回	学習指導における課題の設定	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 6 回	情報リテラシー	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 7 回	情報リテラシーと探究的な学習 1	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 8 回	情報リテラシーと探究的な学習 2	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。

第 9 回	レファレンスサービスと学習支援	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 10 回	小学校における学校図書館の活用	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 11 回	パスファインダーの作成	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 12 回	中学高校における学校図書館の活用	教科書の指定箇所を読み、事前課題を提出する。課題を踏まえて、質問、解説、ディスカッションを行う。
第 13 回	授業案の発表	発表
第 14 回	授業案の発表	発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に示すこと。

【テキスト（教科書）】

齋藤泰則編著『学習活動と学校図書館（司書教諭テキストシリーズ II・3）』樹村房, 2016

【参考書】

塩谷京子編著『すぐ実践できる情報スキル 50:学校図書館を活用して育む基礎力』ミネルヴァ書房, 2016
 塩谷京子著『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル 50:単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房, 2019
 全国学校図書館協議会「情報資源を活用する学びの指導体系表」<http://www.j-sla.or.jp/pdfs/20190101manabinosidoutaikihyou.pdf>
 日本図書館協会図書館利用教育委員会編著『問いをつくるスパイラル:考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011
 堀川照代, 塩谷京子著『学習指導と学校図書館』改訂新版、放送大学教育振興会, 2016

【成績評価の方法と基準】

各レポートの提出が必須である。事前課題レポート 70 %、最終レポート 30 %の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.

To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to create an original lesson plan as a librarian teacher.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end report (30%), and in-class contribution.

社会教育経営論【2016年度以前入学者用】

御園生 純

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当該授業は社会教育主事及び社会教育士を取得するため必修科目であり、現実の社会教育や生涯学習の仕組みを活用した地域住民の主体的な学び・主権者市民としての自治参加へのありよう・多様な住民との共同連携地域づくりの活動のあり様について考察します。また公務員にとどまらず、企業への就職や教職・公務員などをめざす学生や地域で社会教育に関する活動や NPO・市民活動を希望する学生にも有益な授業となることをめざします。

【到達目標】

- 社会教育計画立案にかかわる
- ・現状調査・分析能力プレゼン能力
- ・企画立案力
- ・プレゼンテーション能力
- ・イベントプロモーションのあり方
- ・広報宣伝/集客方法の理論と実践

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。

秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設への訪問などを通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画の説明と自己紹介
2	社会教育行政の仕組み①	社会教育と学校教育の相違
3	社会教育行政の仕組み②	主権者市民育成の理論
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	地域づくりと多様化社会への対応

10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画	学社融合の理論的土壌・学校教育との連携
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する 次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本固有の概念である社会教育設立の経緯とその目的等については他の社会教育関連講義や、資料分権を通じて理解しておく

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%
 提出課題 30%
 期末時の社会教育計画論の策定～プレゼンテーション 40%

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO 活動などの実際にも具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。担当者のサイト
 ツイッター:misoarba

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture is a compulsory subject for acquiring social education

supervisors and social educators, and how local residents can learn independently and participate in autonomy as sovereign citizens by utilizing the actual social education and lifelong learning system. · Consider the state of activities for community development in collaboration with diverse residents.

In addition, we aim to make this class useful not only for civil servants, but also for students who aim to find employment in companies, teachers, civil servants, etc., and for students who wish to participate in activities related to social education, NPO, and civic activities in the community.

【Learning Objectives】

Involved in social education planning

- Situation survey/analysis ability Presentation ability
- Planning ability
- Presentation ability
- The way of event promotion
- Theory and practice of PR/advertisement methods

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points 30%.

Submission of assignments 30%.

Development of a social education planning theory at the end of the term - presentation 40%.

社会教育経営論【2016年度以前入学者用】

御園生 純

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当該授業は社会教育主事及び社会教育士を取得するため必修科目であり、現実の社会教育や生涯学習の仕組みを活用した地域住民の主体的な学び・主権者市民としての自治参加へのありよう・多様な住民との共同連携地域づくりの活動のあり様について考察します。また公務員にとどまらず、企業への就職や教職・公務員などをめざす学生や地域で社会教育に関する活動やNPO・市民活動を希望する学生にも有益な授業となることをめざします。

【到達目標】

- 社会教育計画立案にかかわる
- ・現状調査・分析能力プレゼン能力
- ・企画立案力
- ・プレゼンテーション能力
- ・イベントプロモーションのあり方
- ・広報宣伝/集客方法の理論と実践

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期講義は社会教育の理論的・歴史的構造と学校教育との相違や、最近の社会教育において多く取り上げられているテーマなどを例にとり、講義形式で進行する予定である。また社会教育主事にとって必要となるプランニング・ファシリテーション・学習者の個別状況分析などの方法についてもケーススタディや受講者同士のディスカッションを加味しながら進めていく。

秋学期は実際の社会教育計画の立案にかかわり、その基礎理論・学習ニーズの調査方法などの実践的な知識の習得を通じて学んでいく。具体的には実際の社会教育施設への訪問などを通じて、社会教育計画を策定することを最終目標とする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画の説明と自己紹介
2	社会教育行政の仕組み①	社会教育と学校教育の相違
3	社会教育行政の仕組み②	主権者市民育成の理論
4	地域行政計画としての社会教育計画	教育計画策定の理論
5	発達と共生理論①	発達理論の特徴と陥穽
6	発達と共生理論②	あたらしい教育の在り方としての共生理論の理解
7	教育計画としての社会教育計画	現代的課題解決のための社会教育の必要性とは
8	学習計画としての社会教育計画	教育/学習の違い～おとなには教育の必要性はないのか？
9	「教育」計画としての社会教育計画	地域づくりと多様化社会への対応

10	社会教育における現代的課題	情報化/国際化の潮流の中で
11	非営利活動と社会教育	ボランティア/NPO 活動と社会教育
12	社会教育における人権①	国際化の潮流のなかで～外国人との共生
13	社会教育における人権②	職業観・労働観と人権
14	社会教育主事のしごと	学習「支援者」と「指導者」の違い
15	春学期まとめ	人間の欲求実現と教育のありよう
16	社会教育計画立案の理論	現状調査～把握～仮説立証～計画立案～評価のプロセス
17	社会教育指導者の役割	コーディネーター/プランナー/ファシリテーターとしての社会教育主事
18	社会教育課程編成の理論と実際	地域教育計画論とは
19	社会教育施設の連携と教育計画	学社融合の理論的土壌・学校教育との連携
20	現状調査の方法①	ヒアリングの理論と実践
21	現状調査の方法②	グループヒアリング/アンケート/インタビューの方法
22	現状調査の方法③～現状把握の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する
23	現状調査の方法④～現状分析の方法	インタビュー/ヒアリングを実践する 次週からの調査計画について
24	社会教育計画を創る～地域の課題はなにか？	社会教育施設での体験のための準備作業
25	社会教育計画を創る～社会的課題を発見するための視座とは？	ヒアリング/インタビュー結果報告
26	社会教育計画を創る～地域での体験を言語化する	ヒアリング/インタビュー結果報告
27	社会教育計画を創る～統括的な地域教育計画としての社会教育計画を創る	ヒアリング/インタビュー結果報告
28	社会教育計画を創る～住民自治と協働的学習の創造に向けて	各自の社会教育計画の発表～プレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本固有の概念である社会教育設立の経緯とその目的等については他の社会教育関連講義や、資料分権を通じて理解しておく

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%
 提出課題 30%
 期末時の社会教育計画論の策定～プレゼンテーション 40%

【学生の意見等からの気づき】

対話型の授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することよりも、参加することを期待しています。また国際的なボランティア・NPO活動などの実際にも具体的な事例をもとに紹介していきたいと思っています。受講者の皆さんには、講義に出席することよりも、参加することをぜひ心がけてほしいです。担当者のサイト
 ツイッター:misoarba

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture is a compulsory subject for acquiring social education

supervisors and social educators, and how local residents can learn independently and participate in autonomy as sovereign citizens by utilizing the actual social education and lifelong learning system. · Consider the state of activities for community development in collaboration with diverse residents.

In addition, we aim to make this class useful not only for civil servants, but also for students who aim to find employment in companies, teachers, civil servants, etc., and for students who wish to participate in activities related to social education, NPO, and civic activities in the community.

【Learning Objectives】

Involved in social education planning

- Situation survey/analysis ability Presentation ability
- Planning ability
- Presentation ability
- The way of event promotion
- Theory and practice of PR/advertisement methods

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points 30%.

Submission of assignments 30%.

Development of a social education planning theory at the end of the term - presentation 40%.

社会教育活動 I 【2016 年度以前入学者用】

桔川 純子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、持続可能な社会、互恵的な社会を創っていくために、下記事項についてグローバルな視点から深く考察していくことが目的です。

- ①ジェンダー、フェミニズムの歴史、概要について理解する
- ②エスニシティ、グローバリズムとは何かを理解する。
- ③日本における多文化共生、移民の問題について理解する。
- ④社会問題に取り組む NPO などの非営利組織について理解する。
- ⑤< 地域 > の社会資源、第三セクターの状況について理解する。

【到達目標】

本講義の全体を通して、以下の点について各自が調査し、分析できる力を身に付けます。

- ①本講義のテーマ、エスニシティ、ジェンダーについて
- ②国際社会における日本や海外の事例を通じて「多文化共生」「エスニシティ」「内なる国際化」「ジェンダー」「マイノリティ」といったテーマについて
- ③社会教育・生涯教育の意義について、日本社会の状況と海外を比較

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的な知識に関することについては、講義形式で進めていきますが、テーマを設定して、調べて発表してもらい時間もありますので、受講生の積極的な参加を期待します。

また、毎回リアクションペーパーを提出してもらいほか、提示した課題を提出してもらいます。そのフィードバックについては、翌週の授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、今後の授業の予定、授業の進め方、評価などについて。
2	ジェンダーとは何か	ジェンダーの定義。女性を取り巻く状況、「フェミニズム」「ジェンダー」について。
3	エスニシティとは何か	エスニシティの定義。日本における「多文化共生」の現状
4	住んでいる地域について把握する	自分が住んでいる地域の特徴、市民活動の状況について調べてみる
5	セクシャルマイノリティと社会教育	セクシュアリティ、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) とは何か、そしてそれに関するムーブメントについて紹介し、考察する。
6	< 人権 > と社会教育	憲法で保障されている< 人権 >、関連する法律などを確認し、日常のなかの< 人権意識 >について考察する。

7	< ことば > のもつ意味と識字教育	差別を助長する< ことば >、配慮のある< ことば >について考える。
8	しくみ（法律、制度）について考えてみる	意識変容を促す< 制度 > とは
9	地域における実践の考察①	日本の< 地域 > について調べてみる。
10	地域における実践の考察②	日本の< 地域 > について調べてみる。
11	世界の実践の考察①	世界の取り組みについて調べてみる
12	世界の実践の考察②	世界の取り組みについて調べてみる
13	制度と実践から学ぶ「学習」について	調べてきた日本と世界の制度、事例と「学習」について考察してみる
14	まとめ：意見交換	「ポストコロナ、ウィズコロナの社会」を見据えて、ジェンダー、エスニシティ、マイノリティが大切にされる社会をつくっていくためにはどうすればいいのかについてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時資料を配布したり紹介したりするので、授業の前に目を通してきて下さい。

【テキスト（教科書）】

講義に関連したプリントを配布するため、テキストは指定しません。

【参考書】

- 富坂キリスト教センター 在日朝鮮人の生活と住民自治研究会編『在日外国人の住民自治』（新幹社,2007）
- 移住労働者と連帯する全国ネットワーク・入管法対策会議／在留カードに異議あり！NGO 実行委員会編集・発行『改定入管法 中長期在留者のための Q&A』、『改定入管法 非正規滞在者・難民申請者のための Q&A』、『改定入管特例法 特別永住者のための Q&A』（2011）
- ソーシャルデザイン会議実行委員会（著、編集）『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』（宣伝会議、2013）

【成績評価の方法と基準】

授業での発言、毎回のリアクションペーパー、提示した課題の提出等 40%、発表 20%、期末レポート 40 %とします。

ただ、オンライン授業に変更になった場合など、基準を変更する場合もありますが、その場合は、改めてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言する機会を増やし、ディスカッションなどを通じて考察を深める機会を増やしていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to create a sustainable and mutually beneficial society, this course aims to examine the following from a global perspective:

- ① Understanding gender history and overview
- ② Understand what ethnicity and globalism is.
- ③ Understand the problems of multicultural coexistence and immigration in Japan.
- ④ Understand nonprofit organizations dealing with social issues such as NPOs.
- ⑤ Understand the social resources and the status of the third sector in < Local area > .

【Learning Objectives】

Throughout this lecture, each student will acquire the ability to research and analyze the following points.

- ① Understand the theme of this lecture, ethnicity, and what gender is.
- ② To be able to examine the themes of "Multicultural Conviviality," "Ethnicity," "Inner Internationalization," "Gender," and "Minorities" on their own through examples from Japan and other countries in the international community.

③ Understand and examine the significance of non-formal education and lifelong education, comparing the situation in Japanese society with that overseas.

【Learning activities outside of classroom】

Materials will be distributed and introduced as needed, so please come and look through them before class.

【Grading Criteria /Policy】

40% will be based on reaction papers and, etc., 20% on your presentation, and 40% on final report.

However, the criteria may be changed in some cases, such as when the class is changed to an online class, in which case you will be notified.

社会教育活動Ⅱ【2016年度以前入学者用】

佛木 完

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の社会教育活動の具体的な事例や歴史を説明し、活動の背景にある時代状況を知ると共に、青年自身の悩み、要求と、活動を通して仲間や社会にどう関わってきたのかを学びます。具体的な学習素材としては、地域の「青年団活動」を例にとり、その歴史、活動内容とその時代状況を知ると共に、若者たちが地域活動や仲間集団を通して、学び、人間関係を築き、社会に参画することの意義と、主体的な生き方を形成する事例を見ていきます。そして、現代の若者の課題と、社会教育や青年活動が果たす役割について考察します。

【到達目標】

学生の皆さんは、授業をとおして、青年団という若者を主体とした社会教育関係団体の歴史と活動概要と、その時代背景を学ぶことができます。

また、若者の組織が、地域や社会全体に働きかけた結果、時の政策に一定の影響を与えてきたという、社会教育活動の運動的側面も学ぶことができます。

さらに、社会教育活動をとおして若者自らも価値観を形成して成長していくことや、人生を送るうえで家族や仕事の枠を超えたゆるやかな仲間集団があることの大切さを学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに応じたレジメや資料、活動に携わった当事者の若者が書いたレポート、関連のビデオや映像などを用意し、それらを読み進めたり視聴しながら、地域青年団の活動の歴史や社会的な背景、若者が果たす役割などについて解説を加えていきます。あわせて、学生との意見交換も行います。

また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや授業内で行った小レポート等において、学生全体の理解を更に深めるための題材となるものは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域青年団の概要と授業概説	地域青年団の歴史、性格や目的、その活動内容について概説し、あわせて授業全体を通して目指したいことを説明します。
第2回	青年団と歴史背景の概観 その1	明治から大正期、そして戦争の時代へ。近代日本の大きな変化の中で、青年団という若者の集団がどのように形成され、社会に位置づけられ、どのような役割を果たしたのか。その動きをたどります。
第3回	青年団と歴史背景の概観 その2	戦後の荒廃の中から全国的に青年団が再結成されていく1950年代から、高度経済成長政策を経て変貌する地域や社会、現在に向かっての変化と青年団の位置を考えます。

第4回	映像に見る青年団	過疎の村で劇団公演に取り組み青年団を描いた山田洋次監督の映画「同胞」から、地域で活動する若者の姿、若者集団が果たす役割について考えます。
第5回	若者たちの課題と学び	青年団の共同学習運動と青年問題研究集会を例に、若者たちが時代の中で生活上の課題をどのように捉え、何をどんな方法で学び、実践したのかを解説します。
第6回	青年団の地域活動	青年が地域の各層や他世代とどのようにかかわり、地域社会や生活課題に対してどんな働きかけをしていったのか、地域活動の系譜や各地でさまざまに繰り返られる青年団の地域活動の具体的な事例について学びます。
第7回	若者とスポーツ・文化活動	地域で青年団が取り組むスポーツ・文化活動から「全国青年大会」に至る過程で、青年たちが活動を通して編む人間関係、共感の形成を考えます。
第8回	青年団と地域文化	地域で継承されてきた祭りや文化事業、郷土芸能などに青年団がどのようにかかわっているかを学び、そこで果たす若者の役割について考えます。
第9回	青年団の社会活動	青年団の平和運動や女性活動など、平和・環境・国際関係・男女共同参画・子どもなどの問題に取り組む「社会活動」を通して、若者が学んできたことや社会に果たした役割について考えます。
第10回	青年団の平和運動 その1	青年団は社会活動の一つとして長年にわたって原水爆禁止運動など平和運動に取り組んできました。その原点となる戦争、広島、長崎の被爆の実相を学ぶ具体的な活動を紹介しながら、青年団活動と市民運動の連携についても解説します。
第11回	青年団の平和運動 その2	青年団の平和運動を通じて若者が学ぶもの、広義の平和に関してこれからの自分ができることについて考えます。
第12回	若者と子どもや他世代とのかかわり	子どもが育っていく社会環境の変化をふり返り、子どもたちの課題と、若者が他世代にかかわりながら若者自身が成長することを考えます。
第13回	現代の生きづらさと青年運動	貧困の問題、自殺、児童虐待、DV、介護など各世代を通じた現代の生きづらさ、孤立や疎外を越えて、人間の相互扶助と青年運動の果たす役割を考えます。
第14回	まとめ	これまで学んだことをふり返り、これからの社会の中で自分の生き方、共に支える人間関係のあり方、青年運動、社会教育について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた活動事例に関連する時代状況や社会的背景をできるだけ自己学習して、青年の置かれた環境や状況と社会の関係への理解を深め、疑問点は授業の中で再度確認をしてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せずに、授業の中でその都度、レジメや資料、青年たちの活動レポートなどを配布し、適宜、ビデオも活用し、参考文献を紹介します。

【参考書】

特に指定しませんが、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の終了前に提示したテーマに沿って、レポートを提出していただきます。授業への積極的な姿勢と授業で学んだことの考察のされ方を参考に、レポートを採点します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

場面によっては、授業中に学生所有のスマホなどの情報機器でネット情報などを参照してもらうこともあります。

【その他の重要事項】

若者たちはいつの時代も、進路や仕事、人間関係での模索、どう生きていくかという葛藤を抱えています。それを同世代の青年たちで共有し、社会に向けて何らかの発信をしていきながら、若者は自分自身をも形成していくものです。若者は、社会の未来を創造する主体者でもあります。そんな若者の活動や生き方を共に考えてみたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about social education activities conducted by the youth of every era in our history ;the circumstances surrounding young people, their own anxieties, demands, and how they have been in contact with their colleagues and the society.

As for lecture materials, we will study about "Seinendan(Japanese traditional youth organization)" activities carried out by the youth throughout Japan. We will learn about how young people have been learning, making up relationships with others, communicating with the society and forming the way to live independently. Let's consider about modern youth's problems and the role played by social education and youth activities.

ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】

今野 農

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：土 4/Sat.4 | 配当年次：1～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における基本的な機能の1つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】

講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識が習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識が習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資源の保護」に関する知識が習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤が形成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出を課し、記載された重要な事項や質問については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第 2 回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第 3 回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第 4 回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第 5 回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第 6 回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第 7 回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第 8 回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化と保全対策について解説する。
第 9 回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、IPM（総合的有害生物管理）について解説する。

第 10 回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第 11 回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第 12 回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第 13 回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第 14 回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・石崎武志・編著（2012.3）『博物館資料保存論』講談社
 ・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
 ・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：70%（内、平常点 50%程度、各回コメント 20%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】

例年に比べて昨年は、理解度などの評価が低下したため、この点は水準の向上を図る。一方で、難解であったとの反応や授業時間外の学習活動については、より多くの学生が親しめるように努める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides students with basic knowledge of preservation of the museum collections. The aria of this course is preservation of the museum collections, environmental agents of museums, and preservation of historic and natural properties.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings;

- acquire knowledge of proper handling, storage, exhibit, restoration, and packing and shipping techniques of museum objects.

- acquire knowledge of controlling environmental agents (e.g., temperature, relative humidity, light, and air pollution) and Integrated Pest Management.

- acquire knowledge of preservation and conservation of historic monuments and heritages, and protection of the natural environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by reading references.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the followings;

Term-end examination: 30%, Short reports : 20%, in class contribution: 50%.

ミュージアム資料保存論【2016年度以前入学者用】

清水 玲子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1～4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】

博物館における資料の展示及び取蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
 到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に付けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・ ppt による資料を提示しながら、実施する。
- ・ 講義後に、リアクションペーパーを毎回提出。
- ・ ワークショップを実施予定。
- ・ 第 1 回目の講義 URL の案内は Hoppii のお知らせ機能から送付。
- ・ 第 1 回目の講義とワークショップ 2 回以外の講義は、オンデマンドの予定。
- ・ ワークショップの日程により、授業内容は前後することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
講義	オリエンテーション	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明
講義	博物館資料と学芸員	博物館資料と学芸員の役割を考える
講義	資料の梱包と輸送	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について
講義	資料の環境①	資料を保存する環境について、劣化要因として温度と湿度に関して
講義	資料の環境②	資料を展示する際の環境を中心に、劣化要因となる光、総合的病害虫管理（IPM：Integrated Pest Management）について
講義	文化財保護の歴史	近代以降の文化財保護の法制度の変遷について
講義	文化財と博物館	保護から活用へ文化財の位置づけが大きく変化する中で、博物館の役割とは何か。
講義	資料の修復と保全	資料の修復の現場について、事例を見ながら現状に触れる。

講義	ワークショップ①	SDGs とは何かを自分ごととして考える
講義	ワークショップ②	博物館と SDGs について考える
ワーク	資料の取扱い①	資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ①
シヨッ		
プ		
ワーク	資料の取扱い②	資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ②
シヨッ		
プ		
講義	資料の取扱い③	資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ③
講義	まとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
- ・本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】

- 『歴史を未来につなぐ：「3・11 からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019 年 5 月
- 金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017 年 3 月
- 奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識 1）』神戸大学出版会、2018 年 1 月
- 吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と溪谷社、2018 年 8 月
- *その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】

- ・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
- 小課題 50 % 期末課題 50 % にて評価する。
- *詳細は、第 1 回目の講義（オリエンテーション）で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】

PC で受講することが望ましい。講義資料の容量が重い為、スマホやタブレットだと負荷がかかりすぎる可能性があります。

【Outline (in English)】

Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

職業指導（仕事の場と学び）
【2016年度以前入学者用】

高橋 浩

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生から社会人における様々なキャリア上の転機に対応できるような職業指導（進路指導）のための諸理論および方法を学ぶ。職業指導の場面は単に学校から社会へ移行する際の職業選択の支援だけにとどまらない。社会人になってから遭遇する様々なライフイベントや転機を乗り越えるための支援や、より良い職業生活へと導く開発的支援を習得する。

【到達目標】

職業指導（進路指導）に求められるキャリア理論・カウンセリング理論について論理的に説明ができる。
 職業指導・進路指導に必要な基礎的なキャリア支援技法を習得し、他者に対する支援の基本的な態度と言動が取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

原則、対面授業で実施する（ただし、第1回・第2回はオンライン Zoom で実施する）。
 本科目では、講義の他に、グループワークやディスカッション、ロールプレイを行い、職業指導について実践的に習得していく。毎回、リアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業冒頭にてコメントや補足などのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	職業指導・進路指導の歴史①（米国編）	米国において職業指導・進路指導がどのような歴史をたどって発展してきたのかについて理解する。
2	職業指導・進路指導の歴史②（日本編）	日本における職業指導・進路指導の発展の歴史と今日的課題および意義（学習指導要領を含む）について理解する。
3	職業選択としての職業指導・進路指導の理論①（マッチング理論）	人の特性と職業のマッチングの理論であるパーソンズおよびホルランドの理論を理解し、その活用方法を学ぶ。
4	職業選択としての職業指導・進路指導の理論②（意思決定の理論）	ジェラットやヒルトンの理論をもとに、職業選択の合理性と不確実性について理解し、その活用方法を学ぶ。
5	職業選択としての職業指導・進路指導の理論③（学習と偶発性）	クルンボルツの理論をもとに、職業選択の学習による影響と偶発性について理解し、その活用方法を学ぶ。
6	職業選択としての職業指導・進路指導の理論④（転機への対処）	シュロスバーグの理論をもとに、転機への対処について理解し、その活用方法を学ぶ。

7	生涯発達としての職業指導・進路指導の理論①（発達段階とアイデンティティ）	エリクソンの心理-社会的発達理論をもとにライフステージ毎の発達課題やアイデンティティについて理解し、職業との関連について学ぶ。
8	生涯発達としての職業指導（進路指導）の理論②（キャリア・ステージ理論）	ギンズバーグやスーパー、レビンソンの理論をもとにキャリアの発達段階と発達課題について理解し、その活用方法を学ぶ。
9	意味形成としての職業指導・進路指導の理論①（働く意味の形成）	ハンセンやサビカスの理論をもとに、働く意味の形成とキャリア発達との関連について理解を深める。
10	意味形成としての職業指導・進路指導の理論②（関係性アプローチ）	ホルンの関係性アプローチについて理解し、キャリア形成と人間関係の関連について学ぶ。
11	組織における職業指導・進路指導の理論①（人事制度）	企業・組織における人事制度、特に年功賃金制と成果主義（目標管理制度など）について理解する。
12	組織における職業指導・進路指導の理論②（キャリア・アンカー）	企業・組織におけるキャリア形成理論やキャリア・アンカーについて、シャインの理論の有効性と限界を理解し、活用方法について学ぶ。
13	学びの場としての職業	経験学習理論や組織学習理論について理解し、「学びの場」としての職業について理解する。
14	試験・まとめ	試験として理論の有効性と限界、活用方法について各自のまとめを発表し、ディスカッションと解説を行う。
15	キャリア支援の種類と機能	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア教育のそれぞれの意味と機能について学ぶ。
16	キャリアカウンセリングの概要	キャリアカウンセリングとは何か、面談による支援・指導とは何かについて、ディスカッションを通じて学ぶ。
17	支援者としての自己理解と他者理解①（無意識と自己）	フロイト、ユング、バーンの理論にもとづいて無意識と抑圧など心の働きについて学ぶ。
18	支援者としての自己理解と他者理解②（認知理論）	ベックの認知療法やエリスの論理療法などの認知理論にもとづいて、認知変容・自己理解と問題解決について学ぶ。
19	支援者としての自己理解と他者理解③（学習理論）	3つの学習理論（古典的学習、オペラント学習、観察学習）にもとづいて、行動変容と問題解決の関係について学ぶ。
20	支援者としての自己理解と他者理解④（自己理論・来談者中心療法）	ロジャーズの自己理論（来談者中心療法）にもとづいて自己概念の働きと、自己一致/自己不一致について学ぶ。
21	アセスメントのしくみと解釈①（フォーマルアセスメント）	フォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
22	アセスメントのしくみと解釈②（インフォーマルアセスメント）	インフォーマルアセスメントの考え方と実施方法、支援への適用方法について、グループワークを通じて体験的に学ぶ。
23	職業指導の演習①（関係構築：態度と関わり技法）	面談初期の関係構築で必要となる基本的態度や関わり技法について、ロールプレイを通じて学ぶ。
24	職業指導の演習②（自己探索支援：質問技法）	面談中期の自己探索支援において用いられる質問技法の種類や効果、問いの立て方について、ロールプレイを通じて学ぶ。

- | | | |
|----|-------------------------------|--|
| 25 | 職業指導の演習③（行動化支援：目標設定と計画・実行の支援） | 面談後期の行動化支援で行われる目標設定とその計画・実行の支援について、解決志向アプローチに基づいた支援を学ぶ。 |
| 26 | 職業指導の演習④（支援の構造化：支援のプロセス） | 複数の汎用的なカウンセリング・プロセス・モデルを学び、面談の組み立て方（構成）について、ロールプレイを通じて学ぶ。 |
| 27 | 総合的演習 | これまで学んだ理論・技法を総合的に用いたロールプレイを行い、職業指導の導入部における望ましい支援方法を体験的に習得する。 |
| 28 | 試験とまとめ | 試験として、面談場面を想定したロールプレイを行い、結果についてのフィードバックを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、次回該当する理論・技法についてテキストおよび参考図書などで概要の把握と疑問点や意見をまとめて、授業当日のディスカッションに備えておくこと（2時間）。

授業後は、学習した内容が、就職活動や職業生活の中でどのように活用可能であるかを検討して整理する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

『新時代のキャリアコンサルティング—キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来』労働政策研究・研修機構編（労働政策研究・研修機構）

【参考書】

『進路指導・キャリア教育の理論と実践』吉田辰雄・篠翰著（日本文化科学社）

『新版 キャリアの心理学』渡辺三枝子編著（ナカニシヤ出版）

『カウンセリングの理論』國分康孝著（誠信書房）

『小学校学習指導要領』

『中学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】

・職業指導（進路指導、キャリア）の理論のその方法の理解について：春学期末のレポート課題（30%）

・カウンセリング理論とその支援技法について：秋学期末の実技試験（30%）

・ディスカッション等への参加姿勢（40%）

【学生の意見等からの気づき】

実際の指導場面を踏まえたディスカッションとロールプレイをより多く行い実践力を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) This Course deals with theories and skills for career guidance that can cope with life career. It includes not only vocational choices, but also career development and career transitions.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand the career theories and counseling theories and to learn attitudes and skills to support people based on these theories.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting, and also to summarize the application of their learning content after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process spring-term-end report (30%), fall-term-end practical examination (30%), and in-class contribution(40%).

ミュージアム展示論【2016年度以前入学者用】

大山 裕

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類がこれまで歩んできた歴史や、その営みのなかで育まれた文化を伝える技術としての展示について、その多様な手法と効果、これからの可能性について学びます。

【到達目標】

1. 博物館展示とは何かを理解し、他の展示との違いを知る。
2. 博物館展示における多様な表現を知り、その特徴を理解する。
3. 展示室を構成する展示ケースや展示台などの各種の展示仕器や展示手法の特性を理解し、展示の目的や展示資料に適した展示空間をつくれるようになる。
4. 展示表現の意義や効果、その可能性について考え、博物館の理解者、博物館の未来を支える人材となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。
 授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
 人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という教育施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	展示とは何か1	日本ディスプレイ略史について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ。
第2回	展示とは何か2	博物館展示の様々な諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ。
第3回	博物館における学び1	生涯学習、学校との連携、地域づくり、ダイバーシティなど、博物館の社会的役割について学ぶ。
第4回	博物館における学び2	子どもや高齢者、障がい者、外国人など多様な来館者に対応する展示手法、参加型展示、教材について学ぶ。
第5回	展示空間の構成1	展示設計と建築設計、博物館をつくる流れ、展示シナリオ、展示空間のつくり方を学ぶ。
第6回	展示空間の構成2	展示ケース・展示台・展示具のありかた、動線計画と視線計画について学ぶ。
第7回	展示の芸術性1	展示の芸術性について表現方法を学ぶ。
第8回	展示の芸術性2	物語性・共感や感動を与える展示表現を学ぶ。
第9回	展示の科学性1	資料の保存と展示方法、展示照明と保存科学、公開承認施設について学ぶ。

第10回	展示の科学性2	エアタイトケース、収蔵庫等、美術工芸品の保存と展示方法について学ぶ。
第11回	展示の解説と造型1	展示解説パネルの方法、映像解説等について学ぶ。
第12回	展示の解説と造型2	模型・パノラマ・ジオラマ・人物模型等について学ぶ。
第13回	展示照明	照明計画の要点と課題、正しく見せる、照明演出のアート性、照明テクニックについて学ぶ。
第14回	展示評価、博物館展示のまとめ	企画段階評価、形成的評価、総括的評価を学ぶ。最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布の教科書の各項目を事前に読み、授業の説明を受けてより深い理解が出来るようにする。

【テキスト（教科書）】

里見親幸 「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

授業後の感想文50%、複数回実施する課題レポート50%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバック（感想文、質問等）を大切に授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【その他の重要事項】

特に無し。

【Outline (in English)】

You will learn about the history of humankind, the various methods and effects of exhibition as a technique to convey the culture nurtured in the process, and the future possibilities.

ミュージアム展示論【2016年 度以前入学者用】

松丸 裕之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：土 1/Sat.1 | 配当年次：1~4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空間の情報メディアとしての展示、特に博物館における展示とはどのようなものか、ここでは展示の基本的な概要をはじめ博物館展示の特性・企画・デザイン・製作の進め方について実践例を通じて学ぶ。授業では、博物館の展示の現場に携わる多様な専門家からその実践について話しを聞くことも予定している。また講義の他、実際の展示施設での学びや、展示企画構成を実践するグループワークも予定している。

【到達目標】

- ①博物館展示の特性について理解を深める
 - ②情報メディアとしての展示を構成するストーリー・演出要素等について理解する
 - ③展示がどのように構成し出来上がっているかを理解する
 - ④小規模の展示を企画・構成することができるようになる
- *尚、事前に博物館概論・博物館資料論等を履修し博物館概要について理解しておくことを推奨します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

予め用意するパワーポイントをもとに講義を進める。各回終了後にリアクションペーパーを提出するとともに、施設の実地見学を予定している。またグループワークでは受講生を任意にグループ分けし、与えられたテーマをもとにグループで企画構成を行いプレゼンテーションし、最後に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要説明、進め方、グループ決め等。
第 2 回	博物館展示概論-博物館展示とは何か	博物館展示の特性・役割、諸類型等について展示の歴史を通じて学ぶ。
第 3 回	博物館展示の流れ	博物館展示を支える人々、展示の構成・プロセス等についてワークショップ・展示評価を含め実践例をもとに学ぶ。
第 4 回	様々な博物館展示	国内外の多様なテーマによる博物館展示のあり方について学ぶ。
第 5 回	博物館展示の技術 I 企画する	博物館展示の企画とはどのようなものか、どのように組み立てるのかを実践例をもとに学ぶ。
第 6 回	博物館展示の技術 II デザインする	博物館展示のデザイン・設計とはどのようなものか、どのように行いどこにこだわるのか等について実践例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第 7 回	博物館展示の技術 III 製作する	展示を実際に作り上げる上での留意点等について実践例をもとに学ぶ。

第 8 回	博物館展示のエLEMENT I 実物資料と展示ケース・照明	博物館展示における主要な要素である実物資料の取り扱いについて、その展示方法と合わせて学ぶ。
第 9 回	博物館展示のエLEMENT II 展示解説・グラフィック	展示の主要な解説手段であるグラフィック及び様々な解説手段について学ぶ。
第 10 回	博物館展示のエLEMENT III 模型・造型	博物館展示をわかりやすく表現する手段としての模型・造型・レプリカ（複製）等について、その実際例を通じて制作過程と留意点等について学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第 11 回	現地学習	都内の施設を実地見学・学習予定。 * 6/24 の補講を予定
第 12 回	博物館展示のエLEMENT IV 映像・音響	近年急速に発展する博物館展示における映像等のあり方・事例について、その実際例をもとに学ぶ。
第 13 回	グループワーク	事前に与えられたテーマをもとにグループ毎にディスカッションし、企画・構成を検討 まとめて作業を行う。 尚、事前の 4 回程度の講義の後半でグループ毎にミーティングを行うことを予定。
第 14 回	まとめ（プレゼンテーション・講評）・期末テスト	博物館展示をめぐる今後の課題・役割についてまとめを行う。 最終企画案をまとめ、グループ毎にプレゼンテーションし講評する。期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 館以上のミュージアム（博物館・資料館・科学館等）に行き、展示の構成・ストーリー・演出・空間の特徴について確認・まとめておくこと。
またそれ以外にも積極的に各種施設見学を行うこと。
（当大学はキャンパスメンバーズ会員のため東博等無料で見学が可能）

【テキスト（教科書）】

「博物館展示の理論と実践」里見親幸 2014 年 同成社
2800 円+税

【参考書】

「展示論～博物館の展示をつくる～」日本展示学会 2010 年 雄山閣

【成績評価の方法と基準】

出席（各回リアクションペーパーと小テストを予定）40%、グループワーク・プレゼンテーション 20%、レポート 20%、期末テスト（教科書・講義内容から出題）20%

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを大切に授業運営を進める。

【その他の重要事項】

・第 11 回「現地学習」は、6/24 の補講にて行います。（このため 5/6 は休講します）
詳細は講義の中で説明します。
・尚、担当講師は展示会社にて 30 年以上博物館展示計画の実務を行ってきており、これらの実践を通して博物館展示を様々な角度から見ていきます。

【Outline (in English)】

Through practical examples, students will learn about exhibitions as information media for space, especially museum exhibitions, including the basic outline of exhibitions, the characteristics of museum exhibitions, and how to plan, design, and produce them. In the class, we also plan to hear about the practices of various experts involved in museum exhibition sites. In addition to lectures, there are also plans for learning at actual exhibition facilities and group work to put exhibition plans into practice.

ミュージアム情報・メディア論
【2016年度以前入学者用】

柏女 弘道

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火1/Tue.1 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の活かし方を考える

【到達目標】

博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解し、博物館情報の管理と活用に関する基礎的能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明します。大規模館の例にとらわれず、市町村規模の博物館におけるメディア活用の現状と課題についても取り上げます。授業は講義形式で行います。

リアクションペーパー等に記載された質問や感想については、次回以降の講義の中で回答をおこなうとともに、その後の講義に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンスとともに、博物館におけるメディアと情報
第2回	メディアとしての博物館	博物館のメディアとしての役割について学ぶ。
第3回	ICT 社会における博物館	ICT化による博物館の情報の管理や公開の変化について学ぶ。
第4回	資料のデータベースの整備と公開	資料管理に用いられる資料データベースの概要と、一般公開されているデータベースについて学ぶ。
第5回	博物館の発信する情報の伝わり方	広告と広報、マスメディアとの関わりなどについて学ぶ。
第6回	インターネットを使った情報発信	インターネットを活用した情報発信について、ホームページなどの例を見ながら学ぶ。
第7回	博物館における映像理論・情報機器の活用	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第8回	スマートフォンの活用	博物館で行われているスマートフォンの活用について学ぶ。
第9回	博物館活動と著作権①	著作権法の概要と博物館活動との関りについて学ぶ。
第10回	博物館活動と著作権②	実際の博物館活動の中で遭遇する著作権に関する事柄を学ぶ。
第11回	近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き①	デジタル技術を用いた資料の復元やクラウドファンディングなど、近年の博物館における情報やメディアにかかわる事例を学ぶ。

第12回 近年の博物館情報やメディアを取り巻く動き②

第13回 ユニバーサルデザイン

第14回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛ける。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認する。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、さらには現地調査で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013年）
日本展示学会編『展示論—博物館の展示をつくる—』（雄山閣、2010年）
全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012年）
後藤真・橋本雄太編『歴史情報学の教科書—歴史のデータが世界をひらく—』（文学通信、2019年）
甲斐正道著、全国美術館会議編『現場で使える美術著作権ガイド2019』（美術出版社、2019年）
広瀬浩二郎編著『ひとが優しい博物館—ユニバーサル・ミュージアムの新展開—』（青弓社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 56 %、レポート 44 %。レポートの課題や文字数については授業内で通知する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

博物館について日ごろから興味関心を持ち、各自授業外の学習活動を積極的に行ってください。また、パソコンや情報端末等機器等、情報を発信・受信するためのツールの操作方法については授業では詳しく解説しませんが、各自出来る範囲で扱い方を覚えるようにしてください。

【Outline (in English)】

Think about how to make use of information in museums

**ミュージアム情報・メディア論
【2016年度以前入学者用】**

石川 貴敏

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金5/Fri.5 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：2016年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における情報の整備・提供・活用に関して、多様なテーマから説明するとともに、各テーマに基づく博物館の現状と課題についても取り上げます。特に、情報通信技術は進展が早いため、できるだけ新しい事例を盛り込むなどの工夫を図るとともに、今後の可能性や展開についても考察します。2023年4月に施行される改正博物館法や、文化庁から新たに示される博物館DXの推進に関する基本的な考え方を踏まえた授業を行います。新しい取り組みを知り、これからの博物館のあり方を考えるために学びます。

【到達目標】

将来、博物館に関する仕事を志す学生は、博物館における情報の意義と活用方法や情報発信の課題について理解するなど、博物館情報の提供と活用に関する基礎的能力を身に付けることができます。また、文化・教育関連の仕事をはじめ、博物館以外の仕事を志す学生は、博物館の賢い利用者、支援者となるために、博物館における情報の活用方法などを理解することで、ミュージアム・リテラシーを高めることができます。約70年ぶりとなる博物館法の単独改正が実現するなど、2022年以降、博物館制度は大きな転換期を迎えているため、新たな法制度を踏まえた内容を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業毎にリアクションペーパーを提出してもらい、できるだけ一方的な講義スタイルにならないよう、時に学生の意見を踏まえながら授業内容の工夫を図っていきたくと考えています。授業では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館における情報の意義	授業ガイダンスとともに、博物館における情報とは何かについて概説し、その意義と重要性を伝える。
第2回	メディアとしての博物館	新たな法制度や指針をもとに、博物館に求められている役割について伝えるとともに、博物館のメディアとしての役割について解説する。
第3回	ICT社会における博物館	情報資源の双方向活用とその役割、情報倫理、さらには学校や図書館、研究機関とのネットワークなどを、現在の博物館事情を踏まえながら解説する。
第4回	博物館活動の情報化<収集保存活動・調査研究活動>	博物館の収集保存活動や調査研究活動における情報の活用と展開について紹介する。
第5回	博物館活動の情報化<展示活動>	博物館の展示活動における情報の活用と展開について紹介する。

第6回	博物館活動の情報化<教育普及活動・学習活動・管理運営>	博物館の教育普及活動や学習活動、管理運営における情報の活用と展開について紹介する。
第7回	資料のドキュメンテーションとデータベース化	資料のドキュメンテーションとデータベース化の手順や、博物館における実施状況、活用・展開事例について説明する。
第8回	デジタルアーカイブの現状と課題	現在、各地の博物館で取り組まれているデジタルアーカイブ事業を概説するとともに、今後の可能性と課題について説明する。
第9回	博物館における情報機器の活用	新たな技術や機器の活用という観点から、現在の博物館や今後の可能性について解説する。
第10回	インターネットの活用	現在の博物館における様々なインターネットの活用状況を説明するとともに、今後の展開についても解説する。
第11回	博物館における映像理論	博物館における映像の必要性を説明するとともに、映像の活用事例に触れながら、その特徴や課題などを取り上げる。
第12回	博物館と知的財産	知的財産権（著作権等）や個人情報など、博物館情報の構築・発信に伴う権利や法令などについて伝えるとともに、情報の整備・管理・発信時における課題についても触れる。
第13回	アクセシビリティの高い博物館を目指して	現在の博物館は、あらゆる人々にとってアクセシビリティの高い博物館を目指している。利用者の観点から博物館情報のあり方について語る。
第14回	博物館における情報・メディア戦略（まとめ）	博物館のミッションや中長期計画などに基づいた展開や、博物館に対する社会的要請や今日の課題を通して、今、求められている博物館情報・メディア事業について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館を実際に訪れて、博物館における情報の活用状況をイメージできるように心掛けてください。また、博物館のホームページや博物館に関する情報サイトなども確認してください。授業ではできるだけ多くの事例を紹介することを心掛けます。授業各回で紹介した事例は、後日、講義資料とは別の資料（講義URLメモ）にまとめて学習支援システムに掲載します。講義URLメモには、授業で紹介しきれなかった情報も豊富に盛り込みますので、復習は必要です。授業で取り上げた事例について、文献やインターネット、場合によっては現地で確認するなど、個々に内容を理解するための学習活動を行ってください。博物館に関する講義ですので、博物館とはどのような施設であり、どのような活動を行っているのかについて知っていないと内容が理解できないかもしれません。各自、授業時間外の学習活動を積極的に行って、博物館の理解に努めてください。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使いません。必要に応じて資料を用意し、学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

『博物館学 III — 博物館情報・メディア論』（大堀哲・水嶋英治編著、学文社、2012年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（西岡貞一・篠田謙一編著、放送大学教育振興会、2013年）
『博物館情報・メディア論（放送大学教材）』（稲村哲也・近藤智嗣編著、放送大学教育振興会、2018年）
『博物館情報・メディア論』（日本教育メディア学会編、ぎょうせい、2013年）
『展示論—博物館の展示をつくる—』（日本展示学会編、雄山閣、2010年）
『博物館展示論（KS理工学専門書）』（黒沢浩編著、講談社、2014年）
※2023年4月施行の「博物館法の一部を改正する法律」を踏まえた書籍が発行されたら授業で紹介したいと思います。

【成績評価の方法と基準】

本科目では「平常点」と「レポート課題」で総合的に評価します。「平常点」は、各回の授業後に、授業内容をもとにリアクションペーパーを提出してもらい、授業での学習状況や参加度を評価します。レポート課題（到達目標に掲げた内容につながる課題を考えます）は期末に提示します。「レポート課題」は、与えられた課題に即した内容のレポートをまとめることができるかを評価します。「平常点 40 %（40 点）」「レポート課題 60 %（60 点）」の配分（合計 100 点）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの時間や振り返りの時間を設けることで、授業内容への理解が深まるようにします。本授業では、数多くの事例（情報）を紹介するので、授業後に学生が復習しやすいように、学習支援システムを活用します。本授業に関する事項は、近年、活発に新たな動きを見せています。国からも新たな法制度や施策・指針が示されていることから、できるだけ新しい情報を提供するとともに、そうした今後のあり方に関して、学生と意見を交わしていけたらと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、講義資料（パワーポイント等）・参考資料とともに、インターネットを介した個別の事例（取組）を紹介します。インターネットにアクセスできる情報機器（ノートPCやスマートフォン等）は準備できると望ましいです。また、各回の内容を復習できるように、講義資料・参考資料や、授業で紹介した事例（取組）のURLは学習支援システムに掲載します。リアクションペーパーやレポートの提出も学習支援システムを利用して行います。

【その他の重要事項】

ミュージアムに関する国内唯一の専門シンクタンクである丹青研究所において、30年以上の実務経験を有しています。そのうち20年以上にわたって、情報部門の責任者を務めています。その間、各種ミュージアムに関する官公庁や民間からの委託事業を担当し、これからのミュージアムのあり方に関する調査研究事業にも従事しました。日々多くの情報を集め発信する立場を生かして、豊富な情報をもとに、これからの方向性を思考する授業を行います。

【Outline (in English)】

I will explain from various themes about the development, provision and utilization of information in museums, and also explain about the current situation and issues of museums based on each theme. In particular, since information and communication technologies are progressing rapidly, I will try to introduce new cases as much as possible, and also consider future possibilities and developments. Learn to understand new initiatives and think about what the museum should be like in the future. Students who aspire to work related to museums in the future will be able to acquire basic abilities regarding the provision and utilization of museum information, such as understanding the significance and utilization of information in museums and the challenges of disseminating information. In addition, students who wish to work outside the museum, including those related to culture and education, can improve museum literacy by understanding how to utilize information in the museum in order to become wise users and supporters of the museum. Please visit museums and art galleries so that you can imagine how information is being used in museums. Also, check the museum's homepage and information sites about the museum. In class, I try to introduce as many examples as possible. The examples introduced in each lesson will be compiled into materials and posted on the learning support system at a later date. The material will include a wealth of information that could not be introduced in class, so a review is necessary. Please carry out learning activities to understand the contents individually, such as checking the literature, the Internet, and in some cases on-site about the cases taken up in the class. Since this is a lecture about museums, you may not understand the contents unless you know what kind of facility the museum is and what kind of activities it is doing. Please try to understand the museum by actively engaging in learning activities outside the class. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each. In this subject, a comprehensive evaluation will be made based on "normal points" and "report assignments". For "normal points", after each lesson, you will be asked to submit a request paper based on the content of the lesson, and the learning situation and degree of participation in the lesson will be evaluated. Report assignments (think issues that lead to the content set in the goals) will be presented at the end of the term. "Report assignment" evaluates whether it is possible to put together a report with contents that match a given assignment. Evaluation is based on the distribution of "normal score 40% (40 points)" and "report assignment 60% (60 points)" (total 100 points).

博物館実習Ⅰ【2016年度以前 入学者用】

田中 裕二

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：2~4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館学芸員として必要な実務に係る諸技能を実習で学ぶ。

【到達目標】

博物館に係る実践的な技能や知識に限らず、学芸員としての心得を身につけることができる。学芸員の職務は多岐にわたるが、その中でも特に、資料の取り扱い方や、資料の記録・整理・展示方法を中心に、博物館運営に関わる実践的な能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期第1回目はオンラインで実施。対面を原則とする。実習の場所が変更になることがあるので、常に Hoppii を確認しておくこと。課題、リアクションペーパー等は全て、学習支援システム Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	実習全体の事前指導を行うガイダンス。博物館学芸員の仕事・実務について概観する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具・凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料（凧）の整理・実測（1）
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料（凧）の整理・実測（2）
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料（凧）の整理・実測（3）
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料（凧）の整理・実測（4）
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	文書類等の調査・観察・記録（1）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	文書類等の調査・観察・記録（2）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	文書類等の調査・観察・記録（3）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	文書類等の調査・観察・記録（4）
第13回	博物館資料の取り扱いⅪ	文書類等の調査・観察・記録（5）

第14回	博物館見学会	実地調査。東京及び関東近郊の博物館で学芸員から解説を受け、実態を理解する。
第15回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料（民具）について解説
第16回	コレクション調査Ⅰ（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第17回	コレクション調査Ⅱ（調査報告）	夏季期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第18回	コレクション調査Ⅲ（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第19回	コレクション調査Ⅳ（調査報告）	夏季期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第20回	博物館資料の整理Ⅰ	収集した資料のクリーニング。
第21回	博物館資料の整理Ⅱ	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第22回	博物館資料の整理Ⅲ	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第23回	博物館資料の梱包	資料の梱包資材・梱包作業
第24回	博物館資料の展示実技Ⅰ	美術資料（掛軸・卷子・画帳）の取り扱いと展示作業
第25回	博物館資料の展示実技Ⅱ	美術資料（掛軸・卷子・画帖）の取り扱いと展示作業
第26回	展示企画Ⅰ	グループに分かれて民具を使った展示を企画する。
第27回	展示企画Ⅱ	キャプションの執筆、パネルの作成、民具の展示を実施する。
第28回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み期間中に資料（民具）の収集調査をしてもらいます。実地調査に必要な旅費交通費や入館料など各自の負担となります。収集調査した結果は授業内で発表してもらう予定です。詳細については授業内で周知します。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と課題の提出（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は24名を上限とする。なお、初回のガイダンスで希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は授業内で指示するが、資格課程実習準備室の掲示、学習支援システムなど常に確認すること。

【Outline (in English)】

This course aims to undertake a practicum for practical operations as a curator works for a museum. Learning objectives: Development and practical experience with handling, acquisition, documentation and display relating with museum activities. Learning activities outside of classroom: collect a folk craft in a summer session. Visit permanent and special exhibitions as many as possible. Grading criteria/policy: submitted works 50%, participation in practicum 50%.

博物館実習Ⅰ【2016年度以前 入学者用】

金山 喜昭

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館の実務に関わる業務を実習する。

【到達目標】

博物館にかかわる実務を中心に学習しながら、学芸員としての心構えや技能を培うことができる。そのために、実際に資料を取り扱い、資料の観察・記録・整理・展示のほか、博物館運営に関わる実践的能力を身につける。将来、博物館などの文化施設のみならず、文化・教育関連、地域や NPO 等の分野でも活用できるスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期には大学のコレクションを用いた実務実習と教材製作を行う。後期には各種の資料の取り扱いや資料の製作を学ぶ。この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第 2 回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（民芸玩具：凧）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 3 回	博物館資料の取り扱い I	資料（凧）の整理・実測（1）
第 4 回	博物館資料の取り扱い II	資料（凧）の整理・実測（2）
第 5 回	博物館資料の取り扱い III	資料（凧）の整理・実測（3）
第 6 回	博物館資料の取り扱い IV	資料（凧）の整理・実測（4）
第 7 回	博物館資料の取り扱い V	取り扱い資料（凧）の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表
第 8 回	博物館資料の取り扱い VI	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（石器）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第 9 回	博物館資料の取り扱い VII	アーカイブ実習（1）
第 10 回	博物館資料の取り扱い VIII	アーカイブ実習（2）
第 11 回	博物館資料の取り扱い IX	アーカイブ実習（3）
第 12 回	博物館資料の取り扱い X	アーカイブ実習（4）

第 13 回	博物館見学会	現地調査。東京及び近郊博物館での学芸員からの業務解説で実態理解。
第 14 回	事後指導	実習全体の総括・講評・指導
第 15 回	収集資料の説明とガイダンス	夏季休暇中に収集した資料を説明する。
第 16 回	コレクション調査 I（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 17 回	コレクション調査 II（調査報告）	夏休み期間中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（民芸玩具・凧等）に関して、その成果を報告する。
第 18 回	コレクション調査 III（資料化実習）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 19 回	コレクション調査 IV（資料化実習）	夏休み期間中に各自が収集したコレクションの資料カード作成。
第 20 回	博物館資料の整理 I	拓本（実習）
第 21 回	博物館資料の整理 II	写真撮影（解説：撮影機材・撮影手技）（実習：資料撮影）
第 22 回	博物館資料の整理 III	写真撮影（実習：資料撮影・資料カード貼付・デジタル保存等の実際）
第 23 回	博物館資料の整理 IV	博物館関連講座の取材・記録・資料化
第 24 回	博物館資料の梱包	資料の梱包・運搬
第 25 回	博物館資料の展示実技	美術資料（掛軸・画帖）の取り扱いと展示体験
第 26 回	教材製作実習・篆刻 I	篆刻・文字・落款の解説、製作
第 27 回	教材製作実習・篆刻 II	篆刻の製作
第 28 回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に資料収集をすることや、篆刻はホームワークとする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントなどを配布する。

【参考書】

随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と課題の提出によって評価する。
平常点 50 %、課題 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【その他の重要事項】

本授業は 25 名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline (in English)】 【Course outline】

This course aims to undertake a practicum for practical operations at museums.

【Learning Objectives】

The goals of this course are practical matters related to museums.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be collect materials during the summer vacation and to visit museums outside of class days.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on practical training report and submission of assignment.

**博物館実習Ⅱ【2016年度以前
入学者用】**

小西 雅徳

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年
備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博物館における特別展をふくむ企画展の実施は学芸員活動の花形の一つです。この授業では企画展実施過程の手法を学びつつ、日本の博物館での現状にも触れていきます。例えばコレクションの関係や館規模・組織等の問題から、集客性に重点をおいて企画展を重視する傾向が何故あるのかを考えていきます。企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、学生各人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びつつ、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。

【到達目標】

企画展を実施するには様々な専門性に加え、多様な価値観や社会観を基本とした企画展実施への工程がある。受講生にはその実際の手法をテキストや画像あるいは実資料を手に取りながら実体験的に学んでいきます。企画展実施までの手法を課題発表の繰り返しにより、受講生の豊かな発想や視点を加えつつ、博物館現場の実際とをシミュレーションしていきます。同時に博物館学という基礎能力の構築と豊かな企画展創造への個々人のスタイルを引き出していきます。後期授業では個々人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表して企画展実施計画までの到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、前期と後期を通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③学生個々人の企画展案発表、④グループ企画展発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライド等で紹介し、博物館資料の古代鏡等の実資料にも触れます。後期は各人の企画展発表やグループ発表準備にあてます。発想を重視した企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や七つ道具等の実情を紹介します。
第 2 回	博物館展示の時代的、地域的変遷推移や、日本と海外の企画展の違いについて考える	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証しつつ、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介します。
第 3 回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順－その 1－展示のための素材探し、種・ヒントの探し方を考える。
第 4 回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみる	企画展実施までの工程手順－その 2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。

第 5 回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第 6 回	展示構想と企画書 企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、企画書に盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成準備する。
第 7 回	展示設営（展示レイアウト－展示導線と照明計画）	展示レイアウト－展示導線と照明計画について説明する。パワポ資料提示。
第 8 回	レポート課題 企画展を構想する	前回までの展示の進め方を参考に自分を取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第 9 回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員が存在する理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第 10 回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第 11 回	展示図録・パンフレット等の作成手順及び情報端末導入について	展示図録・パンフレット等の作成手順。大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調書を作成する。
第 12 回	借用交渉と調書	各回 10 名程度に分け、パワポ 5 枚程度を作成し発表する。
第 13 回	企画展発表 I ①	パワポ 5 枚程度を作成し発表する。発表終了後、後期の発表課題について事前説明を行う。
第 14 回	企画展発表 I ②	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の 1 次候補から 2 次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始め、また、展示を実施する際の資料の修復等について説明する。
第 15 回	資料目録の作成手順と資料保存修復の仕方について	前期発表を肉付けした企画展の構想について説明する。
第 16 回	企画展を構想する②	各人の取り組みについて相談し、課題を克服する。
第 17 回	企画展発表前事前相談	各回 7 名程度に分け、パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 18 回	企画展発表 II ①	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 19 回	企画展発表 II ②	パワポ 15 枚程度を作成し発表する。
第 20 回	企画展発表 II ③	5 人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第 21 回	グループ企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第 22 回	グループ企画展実施② グループ企画展から発表題を絞り込む	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第 23 回	グループ企画展実施③ 展示企画の具体像の作文化	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第 24 回	グループ企画展実施④ 教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第 25 回	グループ企画展実施⑤ ミュージアムグッズについて	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。
第 26 回	グループ企画展実施⑥ 最終発表に向けた調整を行う	各グループが 15 分程度で発表する。パワーポイントを用いて発表する。1 年間の成果を問う。
第 27 回	発表 グループ数が多い場合には、発表順を決め 2 回に分けて実施する場合がある	

第 28 回 発表評価と企画展の将来的展望について（日本の企画展の将来像や展示評価とめ） 発表案について評価すると共に、
日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低 3 回程度課しパワポ等で発表を行います。最新の展示状況を俯瞰しながら自分の企画展発表のシーズ（種）を探していきましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】

特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】

出席 7 割以上確認の上、成績は課題発表等から評価していく。学生自身のオリジナリティを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価についても適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】

机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけください。

【学生が準備すべき機器他】

グループ討議では PC を用意していただきます。個人用に加え、必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有として図を活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

Learn how to organize exhibitions at the museum. In the first half the lesson, you will learn various steps based on the text. In the second half, we will organize a group and present a special exhibition. At the same time, learn about the differences between the world and Japan in their approach to museum activities.

**博物館実習Ⅱ【2016年度以前
入学者用】**

杉山 享司

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 曜日・時限：土 6/Sat.6 | 配当年次：2~4 年
 備考（履修条件等）：2016 年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2017 年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画から展覧会チラシ（フライヤー）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】

この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を立案して展覧会の企画書にまとめ、最終的にそれを展覧会チラシ（フライヤー）として完成させ、発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要な知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通して資料を配布し、それに基づきながら対面形式による実習授業を進めていきます。当該の授業回のねらいや目的を提示しますので、受講生は配布された資料や参考動画を視聴し、各自に与えられた課題（企画書や展覧会チラシ）に取り組んでください。なお、その際にはデザイン思考に基づく視点を取り入れ、教師や受講生同士による質疑応答を重視しながら授業を進めます。多様な意見を取り入れながら合意形成をはかることで、新たな視点や考え方のヒントが得られることでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明する
2	博物館と学芸員	博物館の使命や意義、学芸員の役割やその仕事について解説する
3	日本における博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、日本において博物館がどのように発展していったのかを解説する
4	公立博物館の活動紹介	東京国立博物館の概要と収蔵する資料について紹介する
5	私立博物館の活動紹介	日本民藝館の歴史とその概要について紹介する
6	海外における博物館の歴史と活動の紹介	海外における博物館の歴史を紐解きながら、大英博物館の概要について紹介する
7	企画展の開催とその意義について	企画展の歴史やその意義、そして開催方法などについて解説する
8	展覧会実施までのプロセス①	展覧会（企画展）の立案から企画書の作成までの過程を解説する
9	展覧会実施までのプロセス②	出品交渉などの準備から展覧会実施までの過程を解説する

10	展覧会企画書の作成とデザイン思考について	展覧会実施までのプロセスを理解した上で、企画書の作成方法や注意点について解説し、企画書を実際に作成してみる。併せて、展覧会企画とデザイン思考との関連について解説する
11	受講生による 1 回目の企画書案の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画書案」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
12	受講生による 2 回目の企画書案の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画書案」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
13	受講生による 3 回目の企画書案の発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画書案」の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
14	13 回目に統合	同上
15	受講生による 1 回目の企画展の企画書（修正案）の発表	受講生による 1 回目の「展覧会企画書」（修正案）の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
16	受講生による 2 回目の企画書（修正案）の発表	受講生による 2 回目の「展覧会企画書」（修正案）の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
17	受講生による 3 回目の企画書（修正案）発表	受講生による 3 回目の「展覧会企画書」（修正案）の発表と、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
18	「展覧会企画書」発表の総括	受講生各自の発表を基にして問題点や課題を整理し、企画内容の充実を図る。併せて授業内で実践してきたデザイン思考についての理解を深める
19	企画書を基にした展覧会チラシ（フライヤー）の作成とデザイン思考について	展覧会チラシ（フライヤー）の作成方法やその際の注意点について解説し、併せてデザイン思考に基づく作業について確認する
20	受講生による 1 回目の展覧会チラシ案の発表	完成した企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の 1 回目の発表。そして、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
21	受講生による 2 回目の展覧会チラシ案の発表	完成した企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の 2 回目の発表。そして、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
22	受講生による 3 回目の展覧会チラシ案の発表	完成した企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の 3 回目の発表。そして、それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
23	展覧会の実見（学外での実習）	学芸員の案内を受けながら、東京都内の博物館施設で開催されている展覧会を見学する
24	受講生による 1 回目の展覧会チラシ（修正版）の最終発表	展覧会チラシ（修正版）の 1 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
25	受講生による 2 回目の展覧会チラシ（修正版）の最終発表	展覧会チラシ（修正版）の 2 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う
26	受講生による 3 回目の展覧会チラシ（修正版）の最終発表	展覧会チラシ（修正版）の 3 回目の本発表。それに対する受講生同士の質疑応答と教師による講評を行う

- | | | |
|----|-----------|--|
| 27 | 授業のまとめと解説 | 展覧会企画のプロセスや学芸員の役割と仕事について改めて解説し、本授業を通して学んだことを受講生にリアクションペーパーとして提出してもらう |
| 28 | 27 回目に統合 | 同上 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】

レジュメを授業中に配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の課題「企画書の作成と発表」の評価 40 %、秋学期の課題「展覧会チラシ（フライヤー）の制作と発表」の評価 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

当授業は「実務経験のある教員による授業」に該当しており、教員は美術館の学芸員として長年にわたり現場に携わっています。そこで、この授業では出来るだけ現場で得た新しい情報や知識を伝えるとともに、学芸員や博物館の仕事に関する質問についても応えていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.

In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

